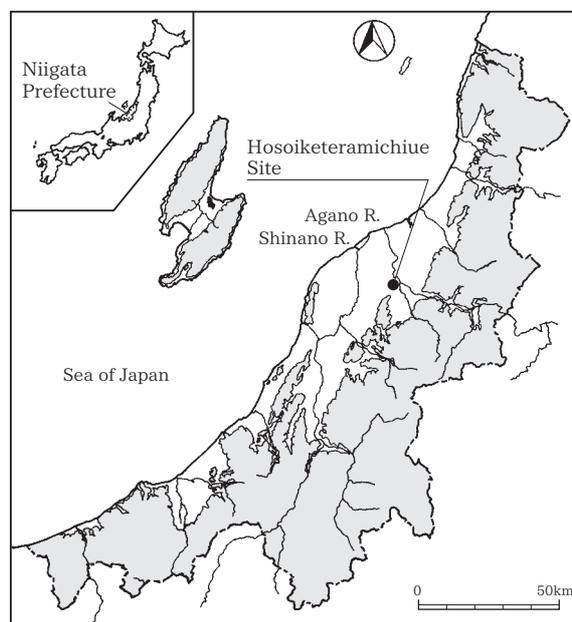


ほそ いけ てら みち うえ
細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査

— 県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第11次発掘調査報告書 —



2014

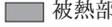
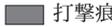
新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区大安寺 15 番地 1 号ほかに所在する細池寺道上遺跡の発掘調査記録である。
書名は既刊の発掘調査報告書〔北村・菊地 2004〕に続く 2 冊目の報告書であることから『細池寺道上遺跡Ⅱ』とした。
- 2 調査は県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区造成に伴い、新潟県から新潟市が受託し実施した。調査主体は新潟市教育委員会（以下、市教委という）であるが、平成 19～22 年度までは新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター（以下市埋文センターという）が、23 年度以降は新潟市文化財センター（以下市文化財センターという）が補助執行している。
- 3 発掘調査のうち現地作業を平成 19 年度に実施し、整理作業を平成 19～24 年度にかけて行った。発掘調査と整理作業の体制については、第Ⅲ章に記した。
- 4 出土遺物および現地調査、整理作業の記録類は、市文化財センターが一括して保管している。
- 5 本書の執筆・編集は潮田憲幸（市文化財センター主査）が行った。
- 6 本書で用いた写真は、遺構個別写真については諫山えりか・潮田・高野裕子・八藤後智人（市文化財センター）が撮影し、空中写真のみ株式会社オリスによる。遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に委託して撮影した。
- 7 遺構図のトレースおよび各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビマス（22 年度まで）、有限会社不二出版（23 年度以降）に委託してデジタル化およびデータ編集を行った。
- 8 本報告中で述べられる新潟市内の遺跡の情報は、全て平成 24（2012）年 12 月 31 日現在のものである。
- 9 当遺跡の調査成果は、以下の刊行物で内容の一部が公表されているが、本書の記載内容をもって正式な報告とする。内容に齟齬がある場合は、本書の記述に従うものとする。
新潟市埋蔵文化財センター（編）2008『新潟市遺跡発掘調査速報会資料』新潟市埋蔵文化財センター
新潟市教育委員会（編）2008『平成 19 年度 新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会
- 10 現地調査から本書の作成に至るまで、下記の方々・諸機関よりご指導・ご協力をいただいた。
伊藤秀和、滝沢規朗、春日真実、新津郷土地改良区、金屋地区自治会（順不同、所属・敬称略。）

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（遺構図版・遺物図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
- 3 掲載図・写真のうち、既存の地形図・写真等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 本文中の註は各章末尾に記した。引用・参考文献は編著者と発行年を西暦で示し、巻末に一括して掲載した。
- 5 遺構は区毎、遺物は器種別（土器・陶磁器、石器・石製品、土製品、金属製品）の通し番号とし、本文および観察表・図版の番号は一致する。
- 6 土壌・遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局発行の『新版 標準土色帖』（小山・竹原 1967）を用いた。
- 7 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。
- 8 遺物図版で用いるトーンは、以下のとおりとする。

土器	 スス	 被熱による赤化部分	 支脚痕
	 黒色処理		
石器・石製品	 スス・炭化	 赤化部分	 被熱部
	 砥痕	 敲打痕	 打撃痕（破碎時）

- 9 土器実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差を考慮し中軸線の両側に空白を設けた。
- 10 遺物の注記は「07 細池寺道上」とし、続けて出土地点・層位等を記した。
- 11 遺構・遺物観察表中における（ ）付きの数値は、推定値を意味する。
- 12 遺構平面図での切り合い関係のある遺構の上端・下端の表現について、切られている遺構の場合、上端の復元が可能ならば破線、下端は切っている遺構より深ければ実線、浅くても復元が可能であれば破線で示した。
- 13 遺構観察表において、切り合い・拡張等で重なり合っている遺構の新旧関係を表現する際に、「<」や「>」を用いた。
例えば、SK1 < SK2 となる場合は、SK1 が古く、SK2 が新しい。
- 14 遺物観察表には、別途凡例を付した。

目 次

第I章 序 説	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 調査に至る経緯	1
第II章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
A 越後平野の地形環境	3
B 両新地区の地形環境	3
第2節 歴史的環境	4
第III章 調査の概要	11
第1節 試掘・確認調査	11
第2節 本発掘調査	11
A 調査方法	11
B 調査経過	13
C 工事立会	13
D 調査体制	14
第3節 整理作業	14
A 整理方法	14
B 整理経過	15
C 整理体制	16
第IV章 基本層序と遺構	18
第1節 概 要	18
第2節 基本層序	18
第3節 遺 構	19
A 1 区	19
B 2 区	21
C 3 区	23
D 4 区	25
E 6 区	28
F 7 区	30
第V章 遺 物	42
第1節 概 要	42
第2節 土器・陶磁器	47
A 出土状況	47
B 古代の土器	47
C 中世の土器・陶磁器	52
D 遺物各説	53

第3節 土製品・石製品・金属製品・搬入礫・鉄滓	59
A 出土状況	59
B 石器・石製品・搬入礫	59
C 土製品	61
D 金属製品・銭貨・鉄滓	61
第VI章 8区 工事立会	62
A 基本層序	62
B 遺構	62
C 遺物	62
第VII章 総括	63
第1節 遺物	63
A 古代の土器	63
B 中世の土器	68
第2節 遺構	69
A 帰属時期の決定	69
第3節 まとめ	73
引用・参考文献	78
別表	81
報告書抄録・奥付	巻末

挿図目次

第1図 新潟市周辺地形分類図	5	第19図 8区遺構検出状況	62
第2図 古代・中世遺跡分布図	8	第20図 8区遺物分布状況(古代・中世)	62
第3図 調査区周辺の確認調査状況	12	第21図 細池寺道上遺構別器種構成比率(口残値)	63
第4図 基本層序模式図	18	第22図 細池寺道上遺跡主要土師器無台椀法量	64
第5図 遺構割合	18	第23図 周辺遺跡主要遺構別器種組成図	65
第6図 掘立柱建物の分類図	31	第24図 周辺遺跡の土師器無台椀法量比較(器高指数)	66
第7図 遺物出土割合	42	第25図 周辺遺跡の土師器無台椀法量比較(底径指数)	67
第8図 1・2区包含層出土遺物重量分布図 (古代・中世)	43	第26図 珠洲焼 片口鉢・播鉢 断面形体分類図	68
第9図 3・4・6区包含層出土遺物重量分布図 (古代・中世)	44	第27図 珠洲焼 片口鉢・播鉢 口縁型式変遷図	69
第10図 5・7区包含層出土遺物重量分布図(古代)	45	第28図 II期区画溝における古代・中世遺物の供伴状況	70
第11図 5・7区包含層出土遺物重量分布図(中世)	46	第29図 時期別の遺構 5・7区	71
第12図 須恵器のタタキメと当て具痕	47	第30図 時期別の遺構 1～4・6区	72
第13図 主要器種分類図 須恵器・施釉陶器	49	第31図 時期別の掘立柱建物と付帯施設	73
第14図 主要器種分類図 土師器	50	第32図 阿賀野川流路の変遷図 阿賀野市京ヶ島付近	75
第15図 土師器無台椀 分類別法量分布	50	第33図 正保絵図に見える遺跡周辺の地名及び流路	75
第16図 黒色土器無台椀 分類別法量分布	51	第34図 阿賀野川・早出川の流路の変遷(推定)	76
第17図 珠洲焼の調整痕	52		
第18図 中世土器・陶磁器 主要器種分類表	52		

表 目 次

第 1 表 調査履歴	2	第 6 表 整理作業工程	15
第 2 表 細池寺道上遺跡周辺の古代遺跡一覧表	9	第 7 表 遺構検出状況	18
第 3 表 細池寺道上遺跡周辺の中世遺跡一覧表	10	第 8 表 調査区別遺物出土状況(重量別)	42
第 4 表 両新地区ほ場整備年度別試掘・確認調査面積	11	第 9 表 器種構成・法量比較事例遺跡一覧	64
第 5 表 発掘作業工程	14	第 10 表 接合関係にある遺構一覧	69

別 表 目 次

別表 1 細池寺道上遺跡遺構計測表(柱穴列)	81	別表 7 細池寺道上遺跡 金属製品・銭貨・鉄滓観察表	93
別表 2 細池寺道上遺跡遺構計測表(掘立柱建物)	81	別表 8 細池寺道上遺跡 遺構出土古代土器器種構成率	94
別表 3 細池寺道上遺跡遺構計測表	81	別表 9 細池寺道上遺跡 遺構出土中世土器器種構成率	97
別表 4 細池寺道上遺跡 土器・陶磁器観察表	86		
別表 5 細池寺道上遺跡 土製品観察表	93		
別表 6 細池寺道上遺跡 石器・石製品・搬入礫観察表	93		

図 版 目 次

図版 1 周辺の旧地形図(1/25,000)	図版 26 5区・7区 遺構分割図(1)
図版 2 周辺の旧地割図(1/10,000)	図版 27 7区 遺構分割図(2)
図版 3 細池寺道上遺跡と周辺の遺跡(1/20,000)	図版 28 7区 遺構分割図(3)
図版 4 両新ほ場整備に伴う試掘・確認調査位置図(1/12,500)	図版 29 7区 遺構分割図(4)
図版 5 細池寺道上遺跡調査区とグリッド設定図(1)(1/20,000)	図版 30 7区 遺構分割図(5)
図版 6 細池寺道上遺跡調査区とグリッド設定図(2)(1/2,500)	図版 31 7区 遺構分割図(6)
図版 7 遺構全体図(1/1,000)	図版 32 7区 SD 主要断面早見表
図版 8 1区 遺構全体平面図及び基本層序	図版 33 7区 個別図1(SA, SB)
図版 9 1区 遺構個別図(SD, SE, SK, SX)	図版 34 7区 個別図2(SB)
図版 10 2区 遺構全体平面図及び基本層序	図版 35 7区 個別図3(SB)
図版 11 2区 遺構個別図1(SD)	図版 36 7区 遺構個別図4(SD)
図版 12 2区 遺構個別図2(SE, SK)	図版 37 7区 遺構個別図5(SD)
図版 13 3区 遺構全体平面図1	図版 38 7区 遺構個別図6(SD)
図版 14 3区 遺構全体平面図2及び基本層序	図版 39 7区 遺構個別図7(SD)
図版 15 3区 遺構個別図1(SD)	図版 40 7区 遺構個別図8(SE)
図版 16 3区 遺構個別図2(SK, SX)	図版 41 7区 遺構個別図9(SK)
図版 17 4区 遺構全体平面図及び基本層序	図版 42 7区 遺構個別図10(SK)
図版 18 4区 遺構個別図1(SD)	図版 43 7区 遺構個別図11(SK)
図版 19 4区 遺構個別図2(SD)	図版 44 7区 遺構個別図12(SK)
図版 20 4区 遺構個別図3(SE)	図版 45 7区 遺構個別図13(SX, P)
図版 21 4区 遺構個別図4(SK, SX)	図版 46 出土遺物1(2~7区 遺構出土土器 2区 SD9 3区 SD4・20・44・84 4区 SD5・11・22・ 36・74・83・88・91, SK7・68 7区 SD2・ 21・30・47)
図版 22 6区 遺構全体平面図及び基本層序	図版 47 出土遺物2(7区 遺構出土土器 SD30・47・ 93・108・133・363・775, SX17)
図版 23 6区 遺構個別図(SD, SK, SX)	図版 48 出土遺物3(7区 遺構出土土器 SD133, SE677・704, SK1・20・34・56)
図版 24 5区・7区 基本層序	
図版 25 5区・7区 遺構配置図	

- 図版 49 出土遺物 4 (7区 遺構出土土器 SK56・68・69・77・92・97・116・577)
- 図版 50 出土遺物 5 (7区 遺構出土土器 SD2、SK116・140・141・145・202・442・575)
- 図版 51 出土遺物 6 (7区 遺構出土土器 SK145)
- 図版 52 出土遺物 7 (7区 遺構出土土器 SK575・577、SX144、P70・581・584)
- 図版 53 出土遺物 8 (包含層出土土器 1～4区、7区)
- 図版 54 出土遺物 9 (包含層出土土器 7区)
- 図版 55 出土遺物 10 (包含層出土土器 7区)
- 図版 56 出土遺物 11 (包含層出土土器 7・8区)
- 図版 57 出土遺物 12 (2～7区 遺構出土石器・石製品・搬入礫 2区 SD17・24・34・63、SE25 3区 SD33 4区 SD72・83・106、SE59 7区 SD2、SE678)
- 図版 58 出土遺物 13 (7区 遺構出土石器・石製品・搬入礫 SD30・108・267・718・775、SK56・92)
- 図版 59 出土遺物 14 (7区 遺構出土石器・石製品・搬入礫 SK141・145・575・601 2・6～8区 包含層出土石器・石製品・土製品・鉄製品・銭貨)
- 図版 60 第12図 遺物分布 5・7区 古代・中世土器接合関係図

写真図版目次

- 写真図版 1 細池寺道上遺跡周辺空中写真
- 写真図版 2 平成19年度調査区周辺現況空中写真
- 写真図版 3 空中写真
- 写真図版 4 基本層序 (1) 1区～4区
- 写真図版 5 基本層序 (2) 6区・7区
- 写真図版 6 1区1 (着手前、完掘、SD11・14・33)
- 写真図版 7 1区2 (SD3・46、SE51、SK2・68)
- 写真図版 8 1区3 (SK20・22・54・55、SX7・15)
- 写真図版 9 2区1 (着手前、完掘、SD9・15・17)
- 写真図版 10 2区2 (SD23・24・34・55・56・63)
- 写真図版 11 2区3 (SD63・89、SE25・97、SK67)
- 写真図版 12 2区4 (SK10・16・37・96)
- 写真図版 13 3区1 (着手前、完掘、SD4・7・10・16)
- 写真図版 14 3区2 (SD19・20・23・33・39、SK24)
- 写真図版 15 3区3 (SD39・40・44・45・57・84、SX81)
- 写真図版 16 3区4 (SD57、SK15・24・47・50・70・71、SX81、P82)
- 写真図版 17 3区5 (河跡)
- 写真図版 18 4区1 (着手前、完掘、SD1・5・11・18)
- 写真図版 19 4区2 (SD23・30・34・36・50)
- 写真図版 20 4区3 (SD50・71・72・74、SK73)
- 写真図版 21 4区4 (SD77・78・83・94、SE112、P121)
- 写真図版 22 4区5 (SD88・91・106・113)
- 写真図版 23 4区6 (SD113、SE59・70・103・112)
- 写真図版 24 4区7 (SD3・22、SE117、SK6・7・14、P118)
- 写真図版 25 4区8 (SK40・41・44・46・68)
- 写真図版 26 4区9 (SD21・94、SK69・73・109、SX19・76)
- 写真図版 27 6区1 (着手前、完掘、SD10・11・16)
- 写真図版 28 6区2 (SD18・19・21・24、畝状遺構 (SD8・27～30))
- 写真図版 29 6区3 (畝状遺構 (SD31～38)、SK1・3)
- 写真図版 30 6区4 (SD18、SK4・12・13・26、SX20)
- 写真図版 31 7区 空中写真
- 写真図版 32 7区 俯瞰写真1
- 写真図版 33 7区 俯瞰写真2
I期遺構集中部分、堀立柱建物 (SB7)
- 写真図版 34 7区 柱穴列 (SA1) 及び掘立柱建物 (SB1～6・10)
- 写真図版 35 7区 掘立柱建物 (SB7～9)
- 写真図版 36 7区 11S-5F周辺の遺構、II期区画溝1 (SD30・47・108・133ほか)
- 写真図版 37 7区 II期区画溝2 (SD108・190・775・808ほか)
- 写真図版 38 7区1 (SD2・17・21、SK20)
- 写真図版 39 7区2 (SD30・47・108・607、SK66・74)
- 写真図版 40 7区3 (SD93・96・102・133・267、SK98)
- 写真図版 41 7区4 (SD133・190～193・207・267・268)
- 写真図版 42 7区5 (SD190・268・367・382・390・413・423、SX694)
- 写真図版 43 7区6 (SD423・487・635・636・662・712～716、SX720、P638)
- 写真図版 44 7区7 (SD716・718・719・773・775・808・837・878・918、SX807)
- 写真図版 45 7区8 (SE399・434・677・678)
- 写真図版 46 7区9 (SE678・704、SK1・18)
- 写真図版 47 7区10 (SK22・23・28・34・50、P52)
- 写真図版 48 7区11 (SK53・56・68・69・76)
- 写真図版 49 7区12 (SK77・86・90・92)
- 写真図版 50 7区13 (SD93、SK97・98・99・116・140、SX143)
- 写真図版 51 7区14 (SK140・141・145)
- 写真図版 52 7区15 (SD2、SK145・194・195・200)
- 写真図版 53 7区16 (SK201・202・250・273)
- 写真図版 54 7区17 (SK292・324・409・411)
- 写真図版 55 7区18 (SK414・442・488・575・576、P580)
- 写真図版 56 7区19 (SK575～577・597・601、P584)

- 写真図版 57 7区 20 (SK681・682・799・899)
- 写真図版 58 7区 21 (SX26・58・106・118・119・144)
- 写真図版 59 7区 22 (SX144・327・328・550・693)
- 写真図版 60 7区 23 (SX693・743・807、P70・229・421・742)
- 写真図版 61 7区 24 (P581・584) 8区 (遺跡発見・検出状況)
- 写真図版 62 主要遺物側面写真
- 写真図版 63 SK145 出土 土師器鍋 (99) 展開写真
- 写真図版 64 遺構出土土器・陶磁器 1 (2～4・7区)
- 写真図版 65 遺構出土土器・陶磁器 2 (7区)
- 写真図版 66 遺構出土土器・陶磁器 3 (7区)
- 写真図版 67 遺構出土土器・陶磁器 4 (7区)
- 写真図版 68 遺構出土土器・陶磁器 5 (7区)、
包含層出土土器・陶磁器 1 (1～4・7区)
- 写真図版 69 包含層出土土器・陶磁器 2 (7区)
- 写真図版 70 包含層出土土器・陶磁器 3 (7区)
- 写真図版 71 石器・石製品、搬入礫、土製品、鉄製品、
錢貨、鉄滓
- 写真図版 72 石製品、搬入礫
- 写真図版 73 調整痕拡大写真 1
- 写真図版 74 調整痕拡大写真 2

第 I 章 序 説

第 1 節 遺 跡 概 観

細池寺道上遺跡は、新潟市秋葉区大安寺・六郷・金屋を中心とする面積約 1,572,000 (157.2ha) m² の遺跡である。昭和 60 (1985) 年から 20 年以上にわたって断続的に調査されており、調査の結果古代・中世の農村集落的性格を有する遺跡であることが判明している。

遺跡の発見は昭和 60 年 8 月に行われた新潟県教育委員会（以下県教委という）による遺跡分布調査によるが、遺物が採取された地点を中心として、細池、木津橋、寺道上等複数の遺跡に分かれていた。本格的な調査は平成 2 (1990) 年、磐越自動車道建設にともない県教委が実施した細池遺跡・寺道上遺跡の確認調査（第 1・2 次調査）が最初である〔小池ほか 1994〕。

両遺跡は平成 3 (1991) ～平成 4 (1992) 年にかけて県教委により約 34,000m² が調査され、古代・中世にかけての遺構・遺物が出土し、細池遺跡では中世のほ場と思われる区画も発見されている〔小池ほか前掲〕。また、平成 8・9 (1996・1997) 年には新潟市教育委員会（以下新潟市教委という）による細池遺跡の本調査〔立木ほか 1998〕が、平成 11 (1999) 年には寺道上遺跡の本調査〔渡邊ほか 2001〕が同市教委により実施されている。

遺跡の範囲は一連の調査を通じて拡大されてきたが、平成 13 (2001) 年から始まった両新地区ほ場整備事業に伴う確認調査の結果、木津橋遺跡・土手外遺跡など付近の遺跡を統合し、細池寺道上遺跡として再登録されている。この後、平成 15 年 (2003) 年に鉄塔建設に伴う本調査が実施された〔北村ほか 2004〕が、平成 16 (2004) 年以降は、ほ場整備事業に係わる調査が多くを占める。本書で報告する調査次数は分布調査を除いて通算で 25 回目（第 1 表）、細池寺道上遺跡としては 13 回目、ほ場整備による調査として 11 回目となる。調査面積は 8952.7m² である。

第 2 節 調査に至る経緯

今次調査は、平成 7 (1995) 年度に新潟県新潟土木事務所（現新潟県新潟地域振興局）および新潟東土地改良区（現新潟郷土地改良区）の計画する両新地区（旧中蒲原郡阿賀浦村・新関村）における県営ほ場整備事業の計画が当時の新潟市教育委員会にもたらされたことに端を発する。

事業の見直し等を経て計画が具体化したのは平成 11 (1999) 年以降で、事業対象面積は両新地区の農地約 170ha、新潟県新潟農地事務所（現新潟県新潟地域振興局 新潟農業振興部 以下新潟地域振興局という）が事業主体となる。新潟市教委は新潟地域振興局と協議を行い、計画地全域を対象とした試掘・確認調査を実施することで合意した。

試掘・確認調査は平成 13～18 年度にわたって行われ、その過程で道上遺跡、下久保遺跡等新たな遺跡も発見され、道上遺跡は平成 17 年度に、下久保遺跡については平成 18 年度に本発掘調査を実施している。試掘・確認調査の結果をもとに事業主体である新潟地域振興局および新潟郷土地改良区、新潟市教育委員会（平成 17 年度以降は合併により新潟市歴史文化課が引き継ぐ）の間で事前協議を行い、工事の施工に際し保護層（埋蔵文化財を保護するために設ける一定の厚さの層）⁽¹⁾ を確保できない部分については本発掘調査を実施することで合意した。

今次調査は、新潟地域振興局の平成 19 年度工事計画にもとづき、埋蔵文化財の保護層が確保できない田面および用水管（以下路線部という）部分約 8952.7m² の面積が対象となっている。

第2節 調査に至る経緯

第1表 調査履歴

調査回数 通算 ほ場	調査年次	調査種別	調査原因	原因者	調査主体	調査担当	調査面積 (m ²)	文 献	旧遺跡名	備 考
	S60(1985)8.4	分布調査	新潟県遺跡詳細分布調査		新潟県教育委員会	横山 勝米				
	H1(1989)	分布調査	『新津市史』編纂事業		新津市教育委員会	川上 貞雄		〔川上ほか1989〕		『新津市史』に掲載され、一般に周知
1	H2(1990)10.1~10.18	確認調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人	958.0	〔小池ほか1994〕	細池	
2	H2(1990)10.1~10.18	確認調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人	820.0	〔小池ほか1994〕	寺道上	
3	H3(1991)4.15~12.7	本発掘調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人	34,320	〔小池ほか1994〕	細池	古代・中世の集落跡および中世のほ場を検出。遺物は新津丘陵産、佐渡産須恵器をはじめ9世紀を主体とする。
4	H3(1991)7.8~12.7	本発掘調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人			寺道上	
5	H4(1992)4.8~8.7	本発掘調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人			細池	
6	H4(1992)4.24~5.28	本発掘調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人			寺道上	
7	H7(1995)11.6~11.10	確認調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会	渡邊 朋和	97.0		細池	
8	H8(1996)7.22~7.23	確認調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会	渡邊 朋和	53.0		寺道上	
9	H8(1996)10.17~12.13	本発掘調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会	渡邊 朋和	1429.0	〔立木ほか1998〕	細池	
10	H9(1997)10.7~11.25	本発掘調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会	立木 宏明	1419.0		細池	
11	H9(1997)10.30	確認調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会	渡邊 朋和	9.0		寺道上	
12	H11(1999)10.1~12.15	本発掘調査	農道拡幅	新津市	新津市教育委員会	渡邊 朋和	844.0	〔渡邊ほか2001〕	寺道上	
13 1	H13(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新津市教育委員会	渡邊 朋和	1147.0		寺道上	確認調査の結果、細池・寺道上・木津橋遺跡を統合し、細池寺道上遺跡とする。
14 2	H13(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新津市教育委員会	渡邊 朋和			木津橋	
15 3	H13(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新津市教育委員会	渡邊 朋和			細池	
16 4	H13(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新津市教育委員会	渡邊 朋和			土手外	
17	H14(2002)10.16~10.24	確認調査	鉄塔建設	東北電力	新津市教育委員会	立木 宏明	86.4			
18 5	H14(2002)10.16~11.15	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新津市教育委員会	渡邊 朋和	1701.0			土手外を統合
19 6	H14(2002)10.16~11.15	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新津市教育委員会	渡邊 朋和			土手外	
20	H15(2003)9.5~12.19	本発掘調査	鉄塔建設	東北電力	新津市教育委員会	北村 淳	412.0	〔北村ほか2004〕		
21 7	H15(2003)11.17~12.1	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新津市教育委員会	渡邊 朋和	491.0			
22 8	H16(2004)10.4~11.5	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新津市教育委員会	渡邊 朋和	40.0			
23 9	H17(2005)10.11~10.26	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	渡邊ますみ	154.5			
24 10	H18(2006)11.30	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	沢田 敦	24.0			
25 11	H19(2007)6.11~12.11	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	謙山えりか	8952.7	〔本書〕		

事前協議から発掘調査着手までの流れとしては、以下のとおりである。

平成 19 年

3月27日 新潟地域振興局長から新潟県教育委員会教育長へ文化財保護法第94条第1項にもとづく通知がなされる(平成19年3月26日付新振津農第595号)。

3月27日 新潟地域振興局長から新潟市教育委員会教育長へ本発掘調査依頼書が提出される(平成19年3月26日付新振津農第595-3号)。

4月23日 新潟県教育委員会教育長から新津農地事務所長へ、文化財保護法第94条にもとづく本発掘調査の実施に関する指示がなされる(平成19年4月23日付教文第82号)。

6月11日 上記の指示にもとづき、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長宛てに文化財保護法第99条第1項にもとづく通知(平成19年6月11日付新歴第1820号)を提出し、調査に着手する。

(1) 発掘調査の要否の判断については、平成11年9月10日付教文第578号にて新潟県教育委員会教育長より通知された「発掘調査の要否の判断基準について(通知)」にもとづく。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境 (第1図)

A 越後平野の地形環境

越後平野は、長さ約 100km、幅約 25km、面積約 2,040km² の広がりを持つ日本海側最大の平野である。平野中には日本有数の大河である信濃川と阿賀野川が貫流し、途中で多くの中・小河川の水を集めながら日本海へ注いでいる。両河川の河口部に位置する新潟市は、人口約 81 万人を数える政令指定都市である⁽¹⁾。

新潟市の地形は、海岸部の砂丘、西の角田山塊、南東部の新津丘陵と、その間の沖積面に大別される。海岸線後退にともなう風沙作用により形成された砂丘は、海岸線と並行に弧状に連なって分布している。これらの砂丘は全て完新世第四紀以降の形成とされ、更新世由来の「古砂丘」に対し「新砂丘」と呼ばれている〔新潟砂丘グループ 1979〕。砂丘列は 10 列 3 群 (Ⅰ～Ⅲ) に分かれ、最も内陸の列 (いわゆる亀田砂丘) は海岸線から約 11km 離れている。砂丘列は中央区鳥屋野・江南区茅野山付近で途切れ、角田山麓で再び現れるが、この間の沖積面にも埋没した砂丘列が存在することがわかっている⁽²⁾。

市の西縁を海岸線に沿って連なる弥彦・角田山塊および南東部に位置する新津丘陵は、第三紀中新世 (2,500 万～500 万年前) の火山活動を起源とし、海底噴出した溶岩が更新世前期 (170 万年前～70 万年前) に隆起して形成された地形で、山麓に更新世起源の段丘を有している。段丘裾部は山地から流れ出る河川により侵食され、小規模な扇状地や谷底平野を形成する。豊かな自然環境を有するが、古くから木材の供給や製鉄・製陶場としての利用など、人間の積極的な介入を受け里山化が進んでおり、植生のかなりの部分に人為的な変化が見られる。

市域の大部分を占める沖積面は、完新世以後、海岸部を砂丘に仕切られた内海状の環境下において、河川の沖積作用により形成されたものである。地層は主に粘土やシルト、いわゆるガツボと呼ばれる未分解の植物遺体から成り、特に河川や湖沼跡の地盤は非常に軟弱である。平野中には、旧・現河道に沿って自然堤防が数多く分布しており、地形図や空中写真から、その痕跡を多く確認することができる。旧河道や潟湖は、近代以降も沼沢地として多く残っていたが、戦中から昭和 30 年代にかけての耕地整理による乾田化でほとんどが姿を消している。

B 両新地区の地形環境

細池寺道上遺跡の所在する秋葉区両新地区は、新津丘陵のやや北東 2.5km の沖積地に位置し、阿賀野川、能代川、小阿賀野川、早出川に囲まれている。周囲は農村地帯で、水田とそれを転用した麦畑が多くを占める。

表層地質は主に河川堆積物から成り、砂、シルト、粘土を主な土壌成分とする。地形は自然堤防と後背低地に分けられ、南東から北西に向かって緩やかに傾斜している。自然堤防の発達は良好で、標高は秋葉区六郷付近で海拔 9.6m、後背低地は秋葉区寺新田付近で海拔 8.5～9.0m となり、両者間には最大で 1m 程度の標高差がある。

地形形成過程で影響を与えた河川は阿賀野川と早出川と思われるが、第 1 図のとおり、遺跡周辺における阿賀野川は東側に曲流し、阿賀野市側 (右岸) を攻撃斜面としているため、遺跡周辺の阿賀野川による沖積作用は、右岸と比べ顕著でないと思われる。対して早出川は、秋葉区市新から金屋を通って大安寺方面に抜ける旧河道状の低湿地が存在し、その両岸に自然堤防が分布している。これらの自然堤防は、標高は低いが、数多く分布しており、遺跡周辺の初期の地形形成は早出川の沖積作用に負うところが多いと思われる⁽³⁾。耕地整理前の地籍図では、多くが畑地として利用されて、水田は旧河道と思われる箇所のみとなっており (図版 2)、新津丘陵の北・西の沖積地と比べ畑地の割合が圧倒的に多いのが特徴である。

第2節 歴史的環境 (第2図 第2表)

秋葉区内の遺跡数は平成24年12月31日現在、112か所を数える。この地域は平野の背後に新津丘陵をかかえ、豊かな自然環境と良好な居住性を有する地域であるため、平野部と比べて様々な時代の遺跡が存在する。

遺跡は、古い時代ほど丘陵部に多く、時代が下るにつれて丘陵縁辺から平野部に分布を広げていく。旧石器時代から古墳時代までの遺跡の多くは丘陵・段丘上に分布しているが、奈良・平安時代になると、水田耕作を背景とした平野部の開発が進み、自然堤防を中心に遺跡の増加が見られる一方で、製鉄遺跡や須恵器窯などの生産遺跡は燃料材の入手が容易な丘陵の麓に引き続き営まれる。中世以降、ほ場や灌漑施設の整備などを通じて、中・長期的な居住がなされるようになり、近世初期には現集落の大部分が成立している。

以下に時代ごとに遺跡の分布とその時代背景を述べる。

旧石器時代

人々は丘陵・山地を主な生活の舞台とし、定期的な移動を繰り返しながら狩猟・採集で生計を立てていたと想定される。市内で確認されている旧石器時代の遺跡は3か所で、弥彦・角田山麓と新津丘陵にのみ分布しているが、資料は断片的である。

秋葉区内で確認されているのは草水町2丁目遺跡と古津八幡山遺跡の2か所で、前者は段丘上に、後者は丘陵の尾根に立地している。いずれも遺構は発見されず、ナイフ形石器と石刃がわずかに出土しているのみで、両遺跡における旧石器時代の様相は不明である。

縄文時代

西蒲区・秋葉区・江南区・北区など、丘陵周辺と砂丘のある地域に多く分布し、特に西蒲区・秋葉区に集中する。後期までは丘陵部に生活の基盤を置いていたようだが、晩期になると沖積地に進出する遺跡もあらわれる。

秋葉区では愛宕澤遺跡(草創期)、平遺跡(中・後期)、秋葉遺跡(中・後期)、原遺跡(中・晩期)など、縄文草創期から晩期までの遺跡が分布する。平野部の遺跡では大野中遺跡(中期)、大沢谷内遺跡(晩期中葉～終末)などがある。平野部の遺跡は主に微高地上に立地すると思われるが、大野中遺跡のように地表下2m程度で確認される例もあり、実際には相当数の縄文遺跡が沖積面下に埋没していると思われる。

弥生時代

市内では、緒立遺跡(西区)・西郷遺跡(江南区)など、内陸部に残る砂丘縁辺で最初期の生活痕が見られるが、秋葉区内で確認されている遺跡は弥生後期を主体とする。丘陵部では古津八幡山遺跡、埋葬地遺跡、居村C遺跡が主な遺跡として知られ、特に古津八幡山遺跡は環濠、竪穴建物、前方後方形墳墓などを有する拠点集落で、東北系(天王山式)と北陸系両系統の土器が出土するなど、この時代の地域間交流を考える上で注目される。平野部では丘陵西麓の微高地に立地する舟戸遺跡、丘陵東側の能代川自然堤防上に立地する五泉市筥下遺跡で若干の出土報告がなされているが、いずれもまとまった量ではない。社会は狩猟・採集を基盤とする経済から稲などの農業生産を主体とする経済に転換しつつあり、遺跡の分布もこうした背景を反映し、水田耕作に有利な平野寄りの立地傾向を示す。

古墳時代

前期に各地で造営される古墳と、終末期に信濃川・阿賀野川河口部に設置される淳足柵がこの時代を特徴づける。大和王権の勢力は、4世紀後半に新潟平野に及んだとされ(石崎1993)、市内では角田山麓の山谷古墳(西蒲区:前方後方墳)と菖蒲塚古墳(西蒲区:前方後円墳)、砂丘上に立地する緒立八幡神社古墳(西区:円墳)、新津丘陵の古津八幡山古墳(秋葉区:円墳)がそれぞれ前期の造営とされている⁽⁴⁾。

647年には北方経営と対蝦夷政策の拠点として、大和政権により淳足柵が設置される。その位置については諸説あるが、東区山ノ下(小林2005)、北区内(金子2007)などが近年主流になりつつある。

古津八幡山古墳は新津丘陵東縁の尾根上に造られた直径約 60m の円墳で、県内最大規模を誇る。また、同古墳の南約 1.5km の段丘上にも、三沢塚（円塚古墳）と呼ばれる直径 19m ほどの円形を呈する塚状の遺構が存在する〔新潟市 2007〕が、詳細は不明である。

大規模な墳墓が尾根上にあらわれる一方で、水田耕作が主たる生業となった結果、日常生活の舞台は徐々に平野部に移ったと考えられる。秋葉区では高矢 C 遺跡・舟戸遺跡などの集落的性格を有する遺跡が丘陵麓部に分布するほか、中田遺跡、沖ノ羽遺跡、上浦 B 遺跡、結遺跡など平野部に立地する遺跡も増えてくる。

細池寺道上遺跡およびその周囲では古墳時代の遺跡は発見されていないが、3km ほど下流には先に挙げた沖ノ羽・中田・結等の遺跡が分布している。

古 代（奈良・平安時代）

9 世紀成立の『和名類聚抄』には越後国蒲原郡に日置・勇礼・桜井・青海・小伏の郷名が記載されている。新津・五泉地域には日置郷が所在したとされる〔井上ほか 2002〕が、決定的な証拠は見つかっていない。8 世紀半ばに懇田永年私財法が制定されると、国衙や寺院・土豪などが農地開発に乗り出し、やがて初期荘園に発展していく。このような時代背景を反映してか、新潟平野全域で 9 世紀後半以降遺跡数が飛躍的に増加し始め、積極的な平野部への進出がなされたと考えられている。

新津丘陵周辺も状況は同じで、遺跡の分布は丘陵縁辺から平野部の自然堤防が主体となってくる。これまでの遺跡の調査例から、平野部の遺跡は水田耕作を中核とし、畑作や、周辺の河川・湖沼での漁撈などを組み合わせた食料獲得活動を行っていたと思われる。遺構の数や土器の形態等から、多くの遺跡は 1 世代程度で廃絶したと考えられるが、上浦 A 遺跡や沖ノ羽遺跡のような、複数の時期にわたり存続したと思われる遺跡も散見される。

丘陵部は生産活動の場として利用されるようになり、製鉄・製陶に関連する遺跡が新津丘陵の縁辺部に営まれる。製鉄関連遺跡は丘陵の西側縁辺に分布し、居村 A～C 遺跡・大入遺跡などから鉄の製錬炉および多数の木炭を検出している。また山崎窯跡、草水町二丁目窯跡、秋葉二丁目窯跡、七本松窯跡などの在地須恵器窯が 8 世紀後半から 9 世紀前半にかけて新津丘陵北東麓一帯で操業し、周辺の遺跡に須恵器を供給している。新津丘陵は、これら生産活動に伴う燃料や日常生活の薪炭材の供給源の役割を果たしていたと思われ、この時期に丘陵の里山化が進んだと思われる。細池寺道上遺跡における調査ではこの時代の遺物量が最も多い。

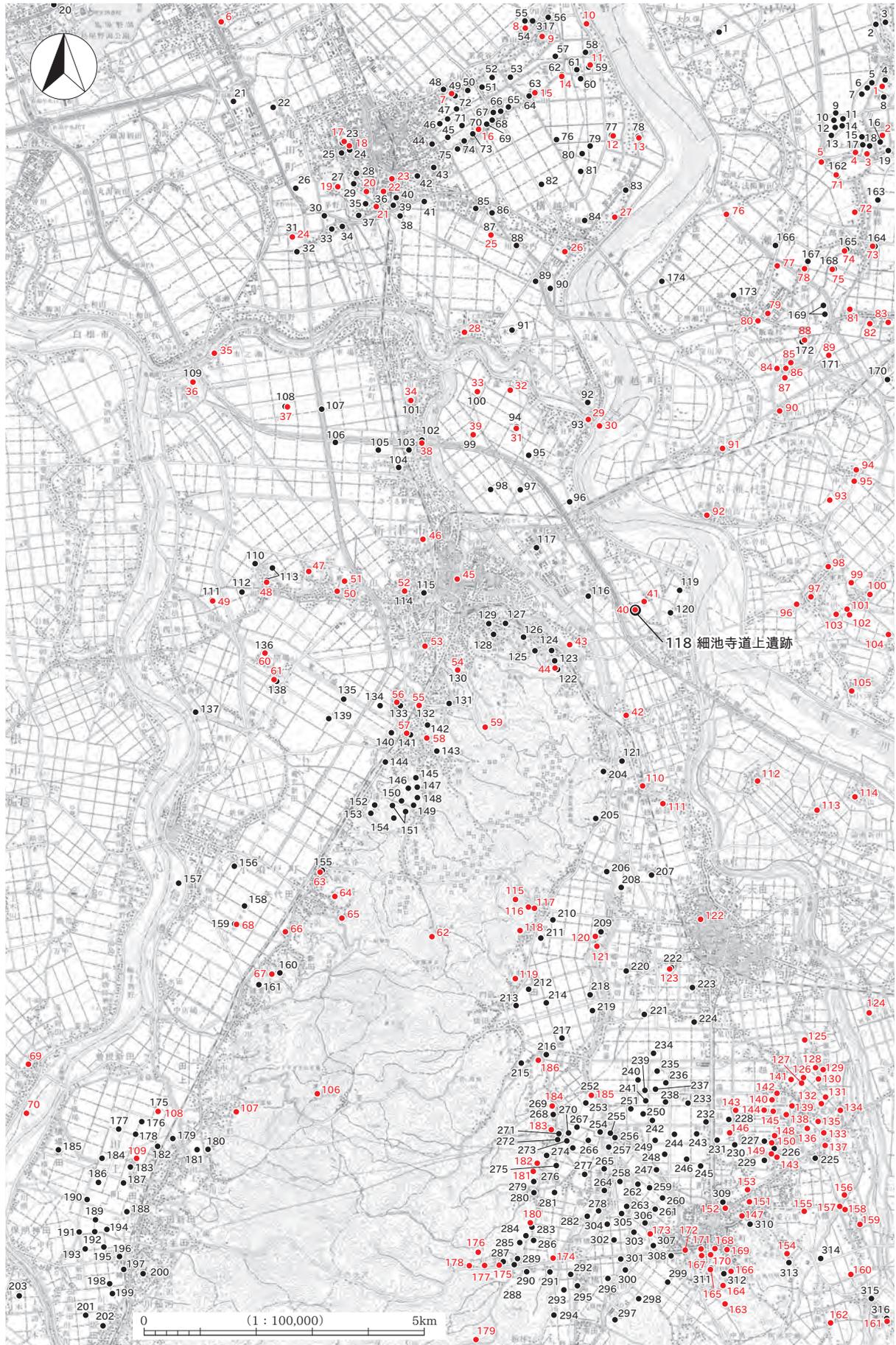
中 世（鎌倉～安土・桃山時代）

平安中期ごろからそれまでの国・郡を単位とする支配体制が崩れ、荘園や国衙領による支配体制が成立する。新潟市周辺では弥彦荘・青海荘・菅名荘・金津保などの荘園・国衙領の存在が知られており、秋葉区は大部分が金津保に属していたとされる〔木村 1989, 井上ほか 2002〕。現在の地名が文献上で確認されるのもこの時期からで、12 世紀には新津・金津など現集落に通じる姓を名乗る人物が記録にあらわれている。

集落遺跡の多くは平野部の自然堤防もしくは砂丘に立地する。古代遺跡と複相をなすことも多く、古代から本格化した平野部での生活が完全に定着したことを示すものであろう。秋葉区内では沖ノ羽遺跡、江内遺跡、内野遺跡などが集落跡と考えられている。

在地領主の勢力振興にともない城館や山城跡が出現するのもこの時期の特徴で、秋葉区内では新津城（山谷町）、大関館（大関）などが平野部の自然堤防上に、程島館（程島）、五本田館跡（矢代田）などが丘陵末端に立地している。山城とされる遺跡は金津城（秋葉区金津）、東島城（同東島）、西紙屋山城跡（同天ヶ沢新田）であるが、いずれも本格的な調査はなされておらず、実態は不明である。

細池寺道上遺跡では 1992 年の第 5・6 次調査で縦横に走る大規模な溝や、ほ場跡と思われる広範囲にわたる浅い掘り込みが確認されている〔小池ほか 1994〕ほか、今回の調査でも平安時代に構築されたと思われる溝を引き続き使用している形跡が認められるなど、積極的な地形改変や長期的な施設の維持・管理がなされていたことが見て取れる。



第2図 古代・中世遺跡分布図

第2表 細池寺道上遺跡周辺の古代遺跡一覧表

No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代
1	新潟市北区	縄内	平安	107	新潟市秋葉区	結	古墳・奈良	213	五泉市	橋田C	古代
2	新潟市北区	村下	奈良・平安	108	新潟市秋葉区	長沼	平安・鎌倉	214	五泉市	橋田A	奈良
3	新潟市北区	内沼浦	奈良・平安	109	新潟市秋葉区	下等別当	平安・鎌倉～室町	215	五泉市	中田	平安
4	新潟市北区	川東	奈良・平安	110	新潟市秋葉区	西沼	平安	216	五泉市	南谷地西	平安
5	新潟市北区	中道A	奈良・平安	111	新潟市秋葉区	川根	平安・鎌倉～室町	217	五泉市	住吉田	古墳・平安
6	新潟市北区	中道B	奈良・平安	112	新潟市秋葉区	長左門沼	平安	218	五泉市	新保北	平安
7	新潟市北区	長場	平安	113	新潟市秋葉区	小戸組	平安・鎌倉～室町	219	五泉市	新保	奈良・平安・江戸
8	新潟市北区	城の湯	平安	114	新潟市秋葉区	新城跡	平安・室町	220	五泉市	江中	古代
9	新潟市北区	大夫首根	平安	115	新潟市秋葉区	菅免	古代	221	五泉市	段ノ腰	奈良・平安
10	新潟市北区	山飯野神田B	奈良・平安	116	新潟市秋葉区	西江浦	平安	222	五泉市	福島	奈良・平安・中世
11	新潟市北区	山飯野神田A	奈良・平安	117	新潟市秋葉区	大野中	縄文・平安	223	五泉市	ソフタ	奈良・平安
12	新潟市北区	並柳	奈良・平安	118	新潟市秋葉区	細池寺道上	平安・中世	224	五泉市	石ノ子	奈良・平安
13	新潟市北区	板曾根B	奈良・平安	119	新潟市秋葉区	下久保	平安	225	五泉市	熊野堂南	縄文・古代
14	新潟市北区	板曾根A	奈良・平安	120	新潟市秋葉区	道上	平安	226	五泉市	若宮東	古代
15	新潟市北区	池田B	奈良・平安	121	新潟市秋葉区	諏訪畑	平安	227	五泉市	若宮八幡宮	古代・中世
16	新潟市北区	飯坂野	平安	122	新潟市秋葉区	愛古澤	縄文・平安・中世	228	五泉市	馬場西Ⅱ	古代・中世
17	新潟市北区	池田A	奈良・平安	123	新潟市秋葉区	草生水2丁目窓跡	古墳・縄文・平安	229	五泉市	若宮南	古代
18	新潟市北区	上堀田	平安	124	新潟市秋葉区	草生水1丁目窓跡	平安	230	五泉市	若宮西Ⅰ	古代・中世
19	新潟市北区	岡新田	平安	125	新潟市秋葉区	滝谷窓跡	平安	231	五泉市	若宮西Ⅱ	縄文・平安
20	新潟市中央区	女池稲荷	平安	126	新潟市秋葉区	七本松窓跡群	平安	232	五泉市	香形東	平安
21	新潟市江南区	駒首橋	平安	127	新潟市秋葉区	秋葉2丁目窓跡	平安	233	五泉市	三軒屋	平安
22	新潟市江南区	鶴ノ子	平安	128	新潟市秋葉区	秋葉ノドウ園	縄文・奈良・平安	234	五泉市	香形北Ⅱ	平安
23	新潟市江南区	市助裏	平安・鎌倉	129	新潟市秋葉区	秋葉	縄文・弥生・平安	235	五泉市	香形北Ⅰ	平安
24	新潟市江南区	川西	平安・鎌倉	130	新潟市秋葉区	城見山	縄文・奈良・平安・鎌倉・室町	236	五泉市	香形中Ⅰ	平安
25	新潟市江南区	狐山	奈良・平安	131	新潟市秋葉区	大坪	奈良・平安	237	五泉市	香形中Ⅲ	平安
26	新潟市江南区	泥湯	平安	132	新潟市秋葉区	東島大道下	古墳・奈良・平安・鎌倉・室町	238	五泉市	香形中Ⅱ	平安
27	新潟市江南区	手代山	古墳・奈良・平安・鎌倉	133	新潟市秋葉区	板大門	平安	239	五泉市	香形西Ⅲ	平安
28	新潟市江南区	貝塚	奈良・平安	134	新潟市秋葉区	西島中谷内	奈良・平安	240	五泉市	香形西Ⅰ	平安
29	新潟市江南区	中ノ山	奈良・平安	135	新潟市秋葉区	古通	平安	241	五泉市	香形西Ⅱ	平安
30	新潟市江南区	西郷	弥生・平安	136	新潟市秋葉区	下海ノ木	平安・鎌倉～室町	242	五泉市	香形南	平安
31	新潟市江南区	早通前	平安・鎌倉	137	新潟市秋葉区	浦興野	古代	243	五泉市	番文免東	平安
32	新潟市江南区	西前郷	縄文・奈良・平安	138	新潟市秋葉区	曾根	平安・鎌倉	244	五泉市	番文免西	平安
33	新潟市江南区	養山前	縄文・弥生・古墳・平安	139	新潟市秋葉区	中郷	平安	245	五泉市	小新保東	平安
34	新潟市江南区	八幡前	弥生・平安	140	新潟市秋葉区	舟戸	弥生・古墳・奈良・平安	246	五泉市	小新保中	平安
35	新潟市江南区	日水	奈良・平安	141	新潟市秋葉区	塩辛	弥生・古墳・奈良・平安・中世	247	五泉市	本久	平安
36	新潟市江南区	日水南	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・室町	142	新潟市秋葉区	山脇	古墳・平安	248	五泉市	小新保西	平安
37	新潟市江南区	日水前	縄文・弥生・平安	143	新潟市秋葉区	森田	弥生・古墳・平安・中世	249	五泉市	番文免西	平安
38	新潟市江南区	牛道	平安	144	新潟市秋葉区	三石刈	縄文・古代	250	五泉市	坪子西	平安
39	新潟市江南区	亀田城山A	縄文・弥生・奈良・平安	145	新潟市秋葉区	古津初越B	奈良・平安	251	五泉市	坪子東	平安
40	新潟市江南区	斉助山	縄文・弥生・奈良・平安	146	新潟市秋葉区	古津八幡山	縄文・弥生・古墳・平安	252	五泉市	町屋六条	古代・中世
41	新潟市江南区	岡田	奈良・平安	147	新潟市秋葉区	古津初越A	奈良・平安	253	五泉市	下ノ坪北	平安
42	新潟市江南区	茨島	奈良・平安	148	新潟市秋葉区	金津初越B	奈良・平安	254	五泉市	千原	平安
43	新潟市江南区	砂岡	奈良・平安	149	新潟市秋葉区	金津初越A	奈良・平安	255	五泉市	川端北	平安
44	新潟市江南区	塚ノ山	奈良・平安	150	新潟市秋葉区	大入	奈良・平安	256	五泉市	川端南	平安
45	新潟市江南区	三條岡	奈良・平安	151	新潟市秋葉区	居村C	縄文・弥生・奈良・平安	257	五泉市	中坪	平安
46	新潟市江南区	前山	奈良・平安	152	新潟市秋葉区	神田	縄文・奈良・平安	258	五泉市	太田北	平安
47	新潟市江南区	金塚山	縄文・奈良・平安	153	新潟市秋葉区	居村A	平安	259	五泉市	城下北	平安
48	新潟市江南区	北山	平安	154	新潟市秋葉区	居村B	弥生・奈良・平安	260	五泉市	城下東	平安
49	新潟市江南区	大道外	平安・中世	155	新潟市秋葉区	三沢A・B	平安	261	五泉市	城下	平安
50	新潟市江南区	清水ヶ丘	平安	156	新潟市秋葉区	東履付	平安	262	五泉市	城下西	平安
51	新潟市江南区	丸山	平安	157	新潟市秋葉区	横川浜堤外地	縄文・平安	263	五泉市	太田中	平安
52	新潟市江南区	茗荷谷墓地	平安	158	新潟市秋葉区	大沢谷内北	縄文・弥生・平安	264	五泉市	笹野町B	平安
53	新潟市江南区	茗荷谷	奈良・平安	159	新潟市秋葉区	大沢谷内1区～4区	縄文・弥生・古墳・飛鳥～平安・中世	265	五泉市	笹野町A	平安
54	新潟市江南区	小丸山	縄文・古墳・平安・中世・近世	160	新潟市秋葉区	浦ノ沢	古代	266	五泉市	笹野町	平安
55	新潟市江南区	直り山B	平安	161	新潟市秋葉区	六尺衛戩	古墳	267	五泉市	梨木	平安
56	新潟市江南区	直り山A	平安	162	新潟市秋葉区	山島屋敷	古墳・古代・中世	268	五泉市	下ノ坪南	平安
57	新潟市江南区	松山向山	平安	163	新潟市秋葉区	千刈	平安	269	五泉市	下ノ坪	古代・中世
58	新潟市江南区	中山	縄文・古墳・奈良・平安	164	新潟市秋葉区	土居内西	平安・中世	270	五泉市	中ノ坪東	古代
59	新潟市江南区	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	165	新潟市秋葉区	轟	平安・中世	271	五泉市	中ノ坪	縄文・古代
60	新潟市江南区	笹山前	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	166	新潟市秋葉区	村下	平安	272	五泉市	中ノ坪南Ⅰ	古代
61	新潟市江南区	神明社裏	平安	167	新潟市秋葉区	善四郎谷地	平安	273	五泉市	中ノ坪南Ⅲ	平安
62	新潟市江南区	平山	平安・鎌倉	168	新潟市秋葉区	善四郎谷内C	平安・中世	274	五泉市	中名沢	平安
63	新潟市江南区	藤山	平安・鎌倉	169	新潟市秋葉区	大南川端	平安	275	五泉市	上ノ坪	平安
64	新潟市江南区	上の山	縄文・弥生・平安	170	新潟市秋葉区	三辺稲荷	平安	276	五泉市	夜明南	古代
65	新潟市江南区	駒込小丸山	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	171	新潟市秋葉区	山口	弥生・古代・中世	277	五泉市	浦	平安
66	新潟市江南区	駒込墓所	縄文・奈良・平安	172	新潟市秋葉区	柄ノ木	古代・中世	278	五泉市	中江北	奈良・平安
67	新潟市江南区	駒込居浦郷	奈良・平安	173	新潟市秋葉区	城館跡	平安	279	五泉市	山ノ入	奈良・中世
68	新潟市江南区	山ノ家	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	174	新潟市秋葉区	京ノ瀬村 曾根	平安	280	五泉市	山ノ入南	奈良・中世
69	新潟市江南区	前郷	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	175	新潟市秋葉区	難土	縄文・平安・中世	281	五泉市	上江	古代
70	新潟市江南区	迎山	縄文・奈良～室町	176	新潟市秋葉区	三波	縄文・平安	282	五泉市	中江	平安
71	新潟市江南区	浦ノ山	平安	177	新潟市秋葉区	館外	平安	283	五泉市	中丸北Ⅰ	平安
72	新潟市江南区	彦七山	奈良・平安	178	新潟市秋葉区	土居下	古墳・平安	284	五泉市	中丸北Ⅱ	平安・中世
73	新潟市江南区	砂崩	縄文・奈良・平安	179	新潟市秋葉区	下屋敷跡	平安	285	五泉市	中丸北Ⅲ	平安
74	新潟市江南区	砂崩前郷	縄文・平安・近世	180	新潟市秋葉区	諏訪の前	平安	286	五泉市	中丸南	平安
75	新潟市江南区	砂崩上ノ山	奈良・平安	181	新潟市秋葉区	中磐	平安	287	五泉市	中丸西	古代
76	新潟市江南区	江尻	平安	182	新潟市秋葉区	新川	縄文・平安	288	五泉市	中丸Ⅱ	古代
77	新潟市江南区	居附A	平安～室町	183	新潟市秋葉区	館内	奈良・平安	289	五泉市	中丸Ⅰ	古代
78	新潟市江南区	松嶺寺	平安・中世	184	新潟市秋葉区	二段あげ	平安	290	五泉市	出戸	古代
79	新潟市江南区	山のハサバ	平安	185	新潟市秋葉区	ガゴウ寺	平安	291	五泉市	ハケツ下	古代
80	新潟市江南区	山田	縄文・弥生・平安	186	新潟市秋葉区	上谷内	奈良・平安	292	五泉市	青橋浦	古代
81	新潟市江南区	宮尻郷	古墳・平安	187	新潟市秋葉区	中谷内	奈良・平安	293	五泉市	青橋浦西	古代
82	新潟市江南区	新田郷	平安	188	新潟市秋葉区	平ノ木	奈良・平安	294	五泉市	大ハゲⅢ	縄文・平安
83	新潟市江南区	下郷	平安	189	新潟市秋葉区	竹ノ花	奈良・平安	295	五泉市	青橋浦南	古代
84	新潟市江南区	曾我墓所	平安	190	新潟市秋葉区	八反田	奈良・平安	296	五泉市	菅ノ町	平安
85	新潟市江南区	上沼	奈良・平安	191	新潟市秋葉区	株明浦	縄文・奈良・平安・近世	297	五泉市	寺田野田	縄文・平安
86	新潟市江南区	川根谷内	奈良・平安	192	新潟市秋葉区	羽生田中谷内	奈良・平安	298	五泉市	野田	奈良・平安
87	新潟市江南区	川根谷内墓所	平安・室町	193	新潟市秋葉区	向田	奈良・平安	299	五泉市	諏訪通	奈良・平安
88	新潟市江南区	上郷C	平安	194	新潟市秋葉区	川成	奈良・平安	300	五泉市	谷地	奈良・平安
89	新潟市江南区	上郷A	奈良・平安	195	新潟市秋葉区	古江端	奈良・平安	301	五泉市	五部一	平安
90	新潟市江南区	上郷B	奈良・平安	196	新潟市秋葉区	村浦	奈良・平安	302	五泉市	庚塚	平安
91	新潟市江南区	天王杉	平安・室町	197	新潟市秋葉区	吉田上谷内	奈良・平安	303	五泉市	一本杉西	平安
92	新潟市江南区	居屋敷跡	古代	198	新潟市秋葉区	横手下	奈良・平安	304	五泉市	太田南	平安
93	新潟市秋葉区	寺嶋	平安・鎌倉	199	新潟市秋葉区	大坪	奈良・平安	305	五泉市	太田東	平安
94	新潟市秋葉区	内野	平安・中世	200	新潟市秋葉区	羽生田城跡	平安	306	五泉市	一本杉北	平安
95	新潟市秋葉区	無頭	平安	201	新潟市秋葉区	沼田	奈良・平安	307	五泉市	一本杉	平安・中世
96	新潟市秋葉区	久保	平安	202	新潟市秋葉区	大道上	奈良・平安	308	五泉市	茨塚東	平安
97	新潟市秋葉区	大下	平安	203	新潟市秋葉区	菅端	古代	309	五泉市	小新保	平安
98	新潟市秋葉区	山王浦	平安	204	五泉市	小安山	縄文・弥生・奈良・平安	310	五泉市	御堂入	古代・中世
99	新潟市秋葉区	神ノ羽	古墳・奈良・平安・中世	205	五泉市	山崎窓跡	奈良	311	五泉市	脇沢	平安・中世
100	新潟市秋葉区	中谷内	古墳・奈良・平安・中世	206	五泉市	寛下	縄文・奈良・平安	312	五泉市	脇沢北	平安・中世
101	新潟市秋葉区	結七島	古墳・奈良・平安・中世	207	五泉市	中野	奈良・平安	313	五泉市	番坂	古代・中世
102	新潟市秋葉区	江内	平安・中世・近世	208	五泉市	村付	奈良・平安	314	五泉市	八幡下	古代
103	新潟市秋葉区	川口甲	平安	209	五泉市	榎表	奈良・平安・中世	315	五泉市	矢津川	縄文・古代
104	新潟市秋葉区	川口乙	平安	210	五泉市	丸田	平安	316	五泉市	大道	古代
105	新潟市秋葉区	上浦B	古墳・古代	211	五泉市	道金	奈良・平安	317	新潟市	小丸山東	古代
106	新潟市秋葉区	上浦A	平安	212	五泉市	橋田B	奈良・平安				

第2節 歴史的環境

第3表 細池寺道上遺跡周辺の中世遺跡一覧表

No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代
1	新潟市北区	長場館跡	室町	63	新潟市秋葉区	三沢	室町	125	五泉市	相輪願成寺塔	室町
2	新潟市北区	里飯野石仏	中世	64	新潟市秋葉区	了尊寺跡	中世	126	五泉市	願成寺経塚	室町
3	新潟市北区	上堀田石仏B	中世	65	新潟市秋葉区	西善寺石仏	中世	127	五泉市	町	中世
4	新潟市北区	上堀田石仏C	中世	66	新潟市秋葉区	五木田館跡	室町	128	五泉市	門後	中世
5	新潟市北区	上堀田石仏A	中世	67	新潟市秋葉区	西龍屋山館跡	室町	129	五泉市	門後北墳墓	鎌倉
6	新潟市中央区	石仏山	中世	68	新潟市秋葉区	大沢谷内1区～4区	縄文・弥生・古墳・飛鳥～平安・中世	130	五泉市	門後墳墓	室町
7	新潟市江南区	大道外	平安・中世	69	新潟市江南区	庄瀬館跡	室町	131	五泉市	高内西	中世
8	新潟市江南区	小丸山	縄文・古墳・平安・中世・近世	70	新潟市江南区	元屋敷	中世	132	五泉市	荒屋	室町
9	新潟市江南区	松山	縄文・中世	71	阿賀野市	山島屋敷	古墳・古代・中世	133	五泉市	荒屋南墳墓	中世
10	新潟市江南区	細山石仏	室町	72	阿賀野市	駒林要害	室町	134	五泉市	高内	中世
11	新潟市江南区	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	73	阿賀野市	土居内西	平安・中世	135	五泉市	福蔵寺石仏群	南北朝
12	新潟市江南区	厨附A	平安～室町	74	阿賀野市	轟	平安・中世	136	五泉市	熊野堂	中世
13	新潟市江南区	松嶺寺	平安・中世	75	阿賀野市	善四郎谷内C	平安・中世	137	五泉市	禪定院五輪塔姿	鎌倉
14	新潟市江南区	平山	平安・鎌倉	76	阿賀野市	下谷地	中世	138	五泉市	馬場館跡	室町
15	新潟市江南区	藤山	平安・鎌倉	77	阿賀野市	曾舞前	中世	139	五泉市	大畑	中世
16	新潟市江南区	迎山	縄文・奈良～室町	78	阿賀野市	大畑	中世	140	五泉市	常照寺五輪塔姿	鎌倉
17	新潟市江南区	市助裏	平安・鎌倉	79	阿賀野市	本田裏	中世	141	五泉市	門後南	中世
18	新潟市江南区	川西	平安・鎌倉	80	阿賀野市	町道上	中世	142	五泉市	八反畑	中世
19	新潟市江南区	手代山	古墳・奈良・平安・鎌倉	81	阿賀野市	羽波場	中世	143	五泉市	馬場西Ⅱ	古代・中世
20	新潟市江南区	荒木南	鎌倉	82	阿賀野市	土居内	中世	144	五泉市	馬場西Ⅰ	中世
21	新潟市江南区	日本前	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・室町	83	阿賀野市	浄栄寺	中世	145	五泉市	馬場	中世
22	新潟市江南区	亀田城山B	南北朝～江戸	84	阿賀野市	紺屋	中世	146	五泉市	若宮西Ⅰ	古代・中世
23	新潟市江南区	三上山	室町	85	阿賀野市	下の橋館	室町	147	五泉市	若宮八幡宮	古代・中世
24	新潟市江南区	早通	平安・鎌倉	86	阿賀野市	清水家石仏	中世	148	五泉市	若宮	中世
25	新潟市江南区	川根谷内墓所	平安・室町	87	阿賀野市	藤の木	室町	149	五泉市	宮ノ下五輪塔姿	鎌倉
26	新潟市江南区	横越館跡	室町	88	阿賀野市	柄目木	古代・中世	150	五泉市	善明寺板碑	鎌倉
27	新潟市江南区	下郷経塚	安土桃山	89	阿賀野市	山口	弥生・古代・中世	151	五泉市	石曾神社五輪塔姿	鎌倉
28	新潟市江南区	円通寺石仏	室町	90	阿賀野市	諏訪神社	中世	152	五泉市	梅田氏蔵板碑	鎌倉
29	新潟市秋葉区	寺崎	平安・鎌倉	91	阿賀野市	小戸原	中世	153	五泉市	香堂入	古代・中世
30	新潟市秋葉区	長崎	室町	92	阿賀野市	嘉瀬島諏訪社	中世	154	五泉市	番坂	古代・中世
31	新潟市秋葉区	内野	平安・中世	93	阿賀野市	天徳林の石仏	室町	155	五泉市	女窪	中世
32	新潟市秋葉区	新久免の塚	室町～近世	94	阿賀野市	中島神明堂の石仏	室町	156	五泉市	中野	中世
33	新潟市秋葉区	中谷内	古墳・奈良・平安・中世	95	阿賀野市	中島観音様の石仏	室町	157	五泉市	伊津石川家五輪塔姿	鎌倉
34	新潟市秋葉区	結七島	古墳・奈良・平安・中世	96	阿賀野市	玉泉寺石仏	中世	158	五泉市	伊右江門屋敷	中世
35	新潟市秋葉区	川原畑	中世	97	阿賀野市	玉泉寺	室町	159	五泉市	泉福寺板碑群	南北朝
36	新潟市秋葉区	下等別当	平安・鎌倉～室町	98	阿賀野市	村下	室町	160	五泉市	矢津川板碑	鎌倉
37	新潟市秋葉区	長沼	平安・鎌倉	99	阿賀野市	祥雲寺の石仏	室町	161	五泉市	永谷寺	鎌倉
38	新潟市秋葉区	江内	平安・中世・近世	100	阿賀野市	上江端の石仏	室町	162	五泉市	内野Ⅰ	中世
39	新潟市秋葉区	沖ノ羽	古墳・奈良・平安・中世	101	阿賀野市	新明野	室町	163	五泉市	諏訪平	縄文・中世
40	新潟市秋葉区	細池寺道上	平安・中世	102	阿賀野市	分田館跡	室町	164	五泉市	愛宕原	中世
41	新潟市秋葉区	盛岩寺石仏	中世	103	阿賀野市	内山王	室町	165	五泉市	路沢	古代・中世
42	新潟市秋葉区	大関館跡	中世	104	阿賀野市	成田屋敷	室町	166	五泉市	路沢北	古代・中世
43	新潟市秋葉区	尻池の塚	室町	105	阿賀野市	大塚家蔵石仏群	南北朝・室町	167	五泉市	正門寺板碑群	中世
44	新潟市秋葉区	愛宕澤	縄文・平安・中世	106	田上町	護聖堂城跡	室町	168	五泉市	英林寺板碑	鎌倉
45	新潟市秋葉区	本町石仏	中世	107	田上町	山田古銭出土地	鎌倉	169	五泉市	路沢墳墓	鎌倉
46	新潟市秋葉区	埴畑	中世	108	田上町	鎌吐	縄文・平安・中世	170	五泉市	燦崎蔵石仏	南北朝
47	新潟市秋葉区	浄栄	室町	109	田上町	田上館跡	室町	171	五泉市	清水寺板碑	南北朝
48	新潟市秋葉区	小戸下組	平安・鎌倉～室町	110	五泉市	龍越古銭出土その2	中世	172	五泉市	山王前	中世
49	新潟市秋葉区	川根	平安・鎌倉～室町	111	五泉市	龍越古銭出土その1	中世	173	五泉市	一本杉	平安・中世
50	新潟市秋葉区	諏訪神社石仏	中世	112	五泉市	桑山石仏	中世	174	五泉市	八石	中世
51	新潟市秋葉区	腰廻	室町・安土桃山	113	五泉市	丸山石仏群	中世	175	五泉市	十二南Ⅲ	中世
52	新潟市秋葉区	新津城跡	平安・室町	114	五泉市	高山石造物群	南北朝	176	五泉市	十二北	中世
53	新潟市秋葉区	程見山	戦国	115	五泉市	館之内宝篋印塔	中世	177	五泉市	十二南Ⅱ	中世
54	新潟市秋葉区	城見山	縄文・平安・鎌倉～室町	116	五泉市	堤	室町	178	五泉市	十二南Ⅰ	中世
55	新潟市秋葉区	東島大道下	古墳・平安・鎌倉～室町	117	五泉市	丸田館跡	室町	179	五泉市	牧城跡	室町
56	新潟市秋葉区	西島館跡	奈良・平安・鎌倉～室町	118	五泉市	延命寺石仏群	中世	180	五泉市	大丸北Ⅱ	平安・中世
57	新潟市秋葉区	塩辛	弥生・古墳・奈良・平安・中世	119	五泉市	大丸山尼寺跡	中世	181	五泉市	山ノ入	平安・中世
58	新潟市秋葉区	森田	弥生・古墳・平安・中世	120	五泉市	榎表	奈良・平安・中世	182	五泉市	家ノ浦	中世
59	新潟市秋葉区	東島城跡	室町	121	五泉市	榎表南	鎌倉・南北朝	183	五泉市	中ノ坪南Ⅱ	中世
60	新潟市秋葉区	下榎ノ木	平安・鎌倉～室町	122	五泉市	五島城	室町	184	五泉市	下ノ坪	古代・中世
61	新潟市秋葉区	曾根	平安・鎌倉	123	五泉市	福島	奈良・平安・中世	185	五泉市	町屋六条	古代・中世
62	新潟市秋葉区	金津城	南北朝	124	五泉市	諏訪ノ木石仏	中世	186	五泉市	便住城	室町

近世

中世末から近世初期にかけて低湿地の開拓が本格化し、元禄年間（1688～1704年）成立とされる「新津組・小須戸組絵図」には大安寺・木津橋・金屋など現在の地名に通じる集落が記載されている。秋葉区は当初大半が新発田藩領で、それに幕府領・高田藩領・旗本領などが混在する状況であった。18世紀末以降、2度に渡る大きな領地替えがあり、新津市街が幕府領となるなど、領域に変動がある。

16世紀半ば以降、阿賀野川・早出川・能代川流域では、取水のため堰が設けられ治水・利水施設が整備され、水田ほ場の整備が進み、近世末には現在と大差ない景観となっていたと思われる⁽⁵⁾。

市内には約50箇所の近世遺跡が存在するが、中央区の近世新潟町跡（17～19世紀）、秋葉区の江内遺跡（17世紀）などが発掘調査され、近世集落が、現市街地・集落と重複して存在することが判明している。また、災害や開発などで移転した集落も文献上で確認できることがあり、旧地形の復元や遺跡分布を考慮する上で資料となり得る。

- (1) 平成17年3月21日に周辺の12市町村と合併した新潟市は、同年9月に西蒲原郡巻町との合併を経て、平成18年4月1日より区制を敷き、政令指定都市に移行した。この結果人口約81万、市域は南北約34.9km、東西約42.4km、面積約726.1km²と、越後平野の3分の1強を占める市域を有するに至った。
- (2) 緒立遺跡〔渡邊ますみ1994〕・的場遺跡〔小池邦明ほか1993〕・四十石遺跡〔渡邊ますみほか2012〕の調査により、新砂丘Ⅰ・Ⅱが沖積面下に埋没していることが部分的ながら証明されている。
- (3) 両新地区の農業用水が早出川水系から供給されているのは、その名残といえようか。
- (4) 古津八幡山古墳については、確認調査の結果、前期末～中期初頭との見解も示されている。
- (5) 明治44年陸地測量部測図1/25,000地形図より

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査（第3図 第4表 図版4）

両新地区ほ場整備に伴う事前の試掘・確認調査は、平成13年～18年度にかけて実施し、計3,643.9m²を調査した（第4表）。ほ場整備範囲全体を対象とし、周辺の西江浦・下久保・道上遺跡の範囲も含め約640箇所を掘削している。掘削方法は任意に設定した箇所を重機で坪掘りし、遺構・遺物の有無の確認後、層位を記録し、その場で埋め戻した。地盤が軟弱であることと、引き続き水田として耕作する箇所が多いため、埋め戻しに際しては事業者側の指示にしたがい適宜川砂を用いた。

工区全体の試掘箇所については図版4に、今次調査地周辺の状況については主な土層柱状を含めて第3図に示した。遺物包含層相当層であるⅢ層と遺構確認面のⅣ層が多く、試掘坑で確認されており、両層が周辺地域に広く分布していることがわかる。

第4表 両新地区ほ場整備年度別試掘・確認調査面積

年度	面積
平成13年度	1147.0 m ²
平成14年度	1787.4 m ²
平成15年度	491.0 m ²
平成16年度	40.0 m ²
平成17年度	154.5 m ²
平成18年度	24.0 m ²
合計	3643.9 m ²

第2節 本発掘調査

試掘・確認調査によって明らかになった遺跡の範囲及び深度と工事計画を突き合わせ、平成19年度工区のうち、十分な保護層を確保できない水路・給水ユニット部分と、遺構確認面までが浅く保護層が確保できない田面8952.7m²について本発掘調査対象地とした（第3図）。

A 調査方法

1) 現況（写真図版2）

現況は水田および転作の麦畑が多くを占める。路線部の3区は砂利敷の農道、4区はアスファルト舗装の道路である。掘削前の地表面標高は9m前後、地形は全体的に東から北西方向に緩く傾斜している。

2) グリッドの設定（図版5・6）

世界測地系に基づき設定し、打設は測量業者による。基準点はX座標200400.000、Y座標56900.000に設定した大大グリッド1A1A杭（北緯37度48分15秒14414、東経139度08分42秒21710）を基点に10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。

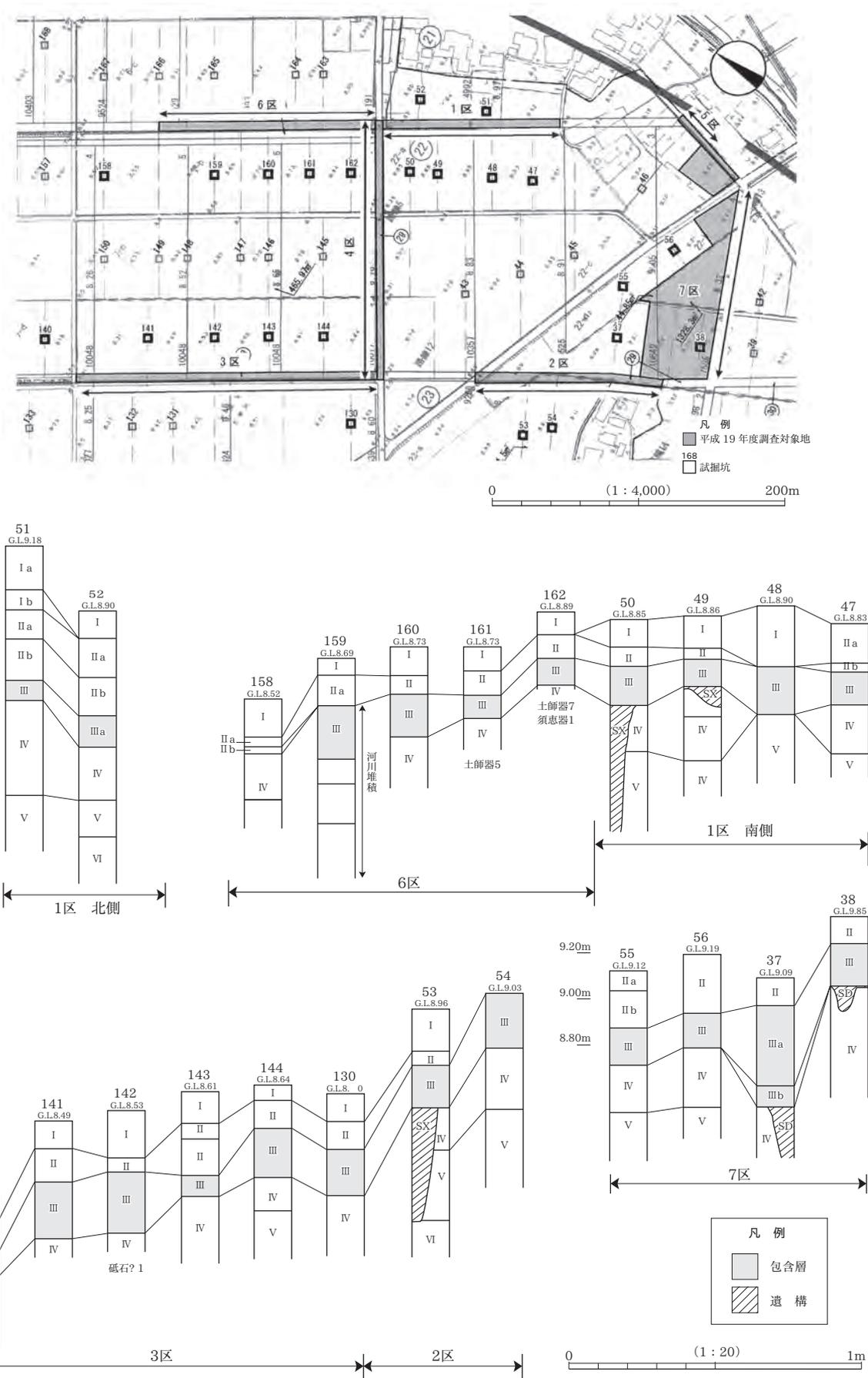
大グリッドの名称は基準杭から南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットとし、この組み合わせにより表示した。大グリッドはさらに2m方眼の小グリッドに25分割され、大大、大、小の組み合わせで運用される（例7P-1J16）。

3) 調査方法

以下の段階を経た。

① 調査区の設定 調査区は大きく路線部（1～6区）と水田部（7区）に分かれるが、調査は並行して行った。境界杭は既設のものを使用し、トランシットで掘削範囲を設定した。

② 表土除去 法面バケット装備の0.40m²級重機を使用した。表土中で一定量の遺物が出土しているが、7区は地表面から遺構確認面（以後確認面という）までの深度が浅く、包含層もかなりの攪乱を受けていることが判明したため、遺物の出土に注意しつつ、機械掘削により確認面を露出させた。1～6区については、地表から確



第3図 調査区周辺の確認調査状況

認面まで深度があり、包含層の残存も良好であったが、遺物がきわめて希薄なため、水田部と同様に機力により確認面を露出させた。

手順としては最初に重機で遺構確認面を露出させた後、その面を追って表土を除去する。発生した排土は事業者側と事前に協議した場所に排出した。なお調査区の外壁には、崩落等の危険を考え、10～20%の勾配をつけている。また、表土除去と並行して調査区内縁に沿って土側溝を設け、要所に水中ポンプを設置して雨水・湧水等の排水系を構築した⁽¹⁾。

③ 遺構確認・掘削 遺構の検出は、人力によった。検出された遺構はプラン確認後、種別・番号を付し、部分的に掘削して覆土の断面を記録後、完掘している。なお、遺構検出作業と平行して、遺構の量と分布を把握するため1/200スケールで略測図を作成した。

④ 遺構実測 平面図および地形測量を測量業者に委託した。通常は断面と完掘後の平面を図化するが、状況によって出土遺物の詳細やエレベーションを記録したものもある。なお、ピットは柱穴を除いて断面図を作成していない。

⑤ 写真撮影 主に35mmおよび6×7版のフィルムカメラ並びにデジタルカメラで撮影した。撮影対象は調査着手前、基本層序、遺構の断面および完掘状態を基本とし、必要に応じて作業風景、周辺地形など、調査資料として必要と思われるものを撮影した⁽²⁾。止むを得ない場合を除いて、完掘写真と断面写真の撮影方向は同一である。調査区全体の完掘写真は路線部(1～6区)は西側からの俯瞰撮影としたが、7区(水田部)のみ空中写真を撮影した。

⑥ 遺物の取上げ 遺構・包含層とも小グリッド単位で取上げている。取上げ時にグリッド・遺構名・層位(もしくは出土した深さ)・日付等を記入した。なお、一括出土など特殊な出土状況の遺物においては、1点ごとに番号を付し、トータルステーションで出土位置を押さえた上で取上げた。

⑦ 分析用サンプル採取 井戸の土壌サンプリングを実施した。下層の覆土を採り置いて洗浄し、木製品や食物残滓の有無を調べた。

B 調査経過(第5表)

平成19年6月11日から準備工を開始し、プレハブ、機材等を設置・搬入する。測量関係では基準点の設置も行った。同18日に1・7区とも重機・作業員を投入し、表土除去を開始。並行して法面仕上げと土側溝の掘削を行い、要所に水中ポンプを設置して排水を始めた。7区は面積が広く、9月まで断続的に表土除去を行った。路線部は各区の調査完了を待って引き渡す計画であるため、7区と並行して調査に入り、1区より順に仕上げていくことになった。各区の調査期間は第5表記載のとおりである。

路線部は11月30日の6区の終了をもって調査を完了し、残った7区も12月6日までに掘削を終了、空中写真撮影を経て同日より撤収作業を開始し、並行して遺構の堀り残しと測量もれをチェックした。諸事確認を終え、同11日に事業者側に全調査区を引き渡し、撤収を完了した。

C 工事立会

調査区周辺で実施されたほ場整備関連の工事ともない実施した工事立会である。

1) 1区隣接地(平成19年11月29・30日)

用水管の本管設置工事ともなう工事立会である。1区の遺物包含層から続く黒色土層が確認されたが、遺構・遺物は発見されなかった。

2) 4区隣接地(平成19年11月29・30日)

用水管の本管設置工事ともなう工事立会である。4区から延びる溝の一部が確認されたが、幅が狭小なため、断面写真を撮影するにとどめた。遺物は出土していない。

3) 8 区 (平成19年10月16～19日)

4区の調査中、隣接地において実施していたほ場整備にともなう仮設搬路の設置工事で、表土を除去しているのが確認されたため、現地で遺構の有無を精査したところ、溝や土坑のプランが確認された。至急歴史文化課と事業者で協議し、それ以上の掘削を行わないものとし、仮設搬路設の撤去後、埋め戻すことで擬似的な保護層を確保できることから、遺物を回収し遺構のプランを押さえるにとどめ、掘削調査は行わないこととした。検出遺構および出土遺物については図7および第6章に掲載した。

D 調査体制

発掘調査体制は、以下のとおりである。

平成19年度(2007年)

調査主体	新潟市教育委員会(教育長 佐藤満男)
調査担当	新潟市埋蔵文化財センター 主査 諫山えりか
所管課	新潟市歴史文化課(課長 倉地一則)
事務局	新潟市埋蔵文化財センター(所長 山田光行)
調査員	新潟市埋蔵文化財センター 学芸員 潮田憲幸 同 専門臨時職員 高野裕子 同 専門臨時職員 八藤後智人

第5表 発掘作業工程

	6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
1区		表土除去		遺構調査																		
2区				表土除去		遺構調査																
3区					表土除去		遺構調査															
4区								表土除去		遺構調査												
5区														表土除去		遺構調査						
6区													表土除去		遺構調査							
7区			表土除去												遺構調査							
8区												発見	遺構調査									

第3節 整理作業

整理・報告に関する諸作業は、埋蔵文化財整理・報告書作成基準(新潟市埋蔵文化財センター2007)に従った。

A 整理方法

1) 遺構

遺構の整理については、以下の手順を踏んでいる。

- ① 図面合せ 手取り断面図と測量平面図の校正作業である。当市では断面図をもとに平面図を修正している。
- ② 掲載遺構の抽出および仮版下作成 報告書に掲載する遺構の平・断面図を抽出・レイアウトし、仮版下を作成する。
- ③ デジタル編集 仮版下をもとにデジタル編集した。

以上の作業のうち、①・②の図面合せについては整理補助員が、それをもとにした平面図の修正は測量業者が行った。③については業者に委託した。

2) 遺物

遺物整理は以下の手順を経ている。

- ① 洗浄 2度の洗浄（予洗い、本洗い）を行った。
- ② 注記 遺跡名は「07 ホソイケ」とし、調査区名（1～8区）、グリッド、遺構名、出土層位等を注記した。
例：07 ホソイケ 7区 8J-IC22 SE11 6層
- ③ 器種分類 遺物の器種分類を行った。器種・器形・材質等をもとにしているが、詳細はV章で述べる。
- ④ 包含層出土遺物の重量計測 包含層出土遺物について、小グリッド別の重量を計測した。
- ⑤ 遺構出土遺物の器種別重量・固体数計測 ③で実施した分類別に、重量を計測した。個体数計測方法は口縁部残存率計測法〔宇野 1992〕を用いた。
- ⑥ 接合 遺構内部、遺構間、遺構・包含層間での接合関係を試みた。
- ⑦ 報告書掲載遺物の抽出 残存率の良いもの、時期決定の指標となるもの、希少なものを基準に抽出した。
- ⑧ 実測図・観察表の作成 実測図は、主に調査補助員が作成し、調査担当が確認・修正した。実測図記載の観察項目に基づいて遺物観察表を作成した。
- ⑨ トレース 遺物実測図をデジタルトレースした。
- ⑩ 版下作成 仮図版をもとにデジタル編集にて作成した。

以上の作業のうち、⑧までは整理補助員が主に作成し、⑨および⑩については業者に委託した。

B 整理経過

報告書刊行までの流れを、以下に記述する。

平成 19 年度 遺物の洗浄は現地調査中に終了し、現地撤収後に図面校正・各種データの整理および注記作業並びに遺物の分類・集計作業を行った。

平成 20 年度 1～6 区の遺構観察表および写真図版（仮）を作成。遺物については接合・復元・実測・デジタルトレース（一部）を行う。

平成 21 年度 遺物の追加抽出と実測、7 区遺構観察表の作成。

平成 22 年度 遺物の追加実測。7 区遺構仮図版、遺物仮図版、遺構・遺物観察表等の作成。

平成 23 年度 22 年度までのデータを整理し、遺構表等の作成もれを補遺。加えて 7 区遺構の事実記載の執筆開始。一部の図版のデジタル版下を作成した。

平成 24 年度 原稿の執筆・掲載遺物の写真撮影を経てデジタル編集を行った。

第 6 表 整理作業工程

	4月			5月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
平成 19 年度							遺物洗浄・注記・図面校正・各種データ整理											
平成 20 年度	図面校正・各種データ整理						遺構・写真データ等整理・遺物基礎整理・遺物実測・デジタルトレース委託											
平成 21 年度													遺物実測					
平成 22 年度													遺構・遺物データ整理・遺物実測・版下作成					
平成 23 年度													各種データ整理・原稿執筆					
平成 24 年度													原稿・追加実測遺物トレース・デジタル編集					
平成 25 年度	刊 行																	

第3節 整理作業

平成25年度 印刷・刊行。

C 整理体制

【平成19年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 佐藤満男）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 山田一雄 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
整理担当	新潟市埋蔵文化財センター 主査 諫山えりか
調査員	新潟市埋蔵文化財センター 学芸員 潮田憲幸 同 専門臨時職員 高野裕子 同 専門臨時職員 八藤後智人

【平成20年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 佐藤満男）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 山田一雄 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
整理担当	新潟市埋蔵文化財センター 主査 諫山えりか
調査員	新潟市埋蔵文化財センター 副主査 潮田憲幸
整理補助	市臨時職員

【平成21年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頓所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
整理担当	新潟市埋蔵文化財センター 副主査 潮田憲幸
整理補助	市臨時職員

【平成22年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頓所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
整理担当	新潟市埋蔵文化財センター 副主査 潮田憲幸
整理補助	市臨時職員

【平成23年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
整理担当	新潟市文化財センター 副主査 潮田憲幸
整理補助	市臨時職員

【平成 24 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課	新潟市文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
整理担当	新潟市文化財センター 主査 潮田憲幸



発掘作業風景



整理作業風景

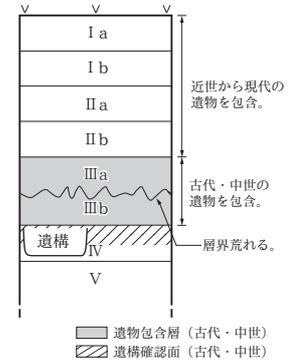
- (1) 土側溝の掘削による遺構の一部破壊等が発生する可能性があるが、調査地が低湿地帯にあり、湛水により調査不能になることを防ぐ処置として行っている。
- (2) 基本的に土坑以上の遺構はフィルム・デジタルカメラ併用としたが、ピットと自然地形はデジタルカメラのみとした。

第IV章 基本層序と遺構

第1節 概要

遺構の大部分は基本層序IV層上面で確認した。確認面までの深さは路線部（1～6区）が地表からおおむね40～100cm程度、水田部（7区）が30～40cm程度で、路線部が若干深くなる。

遺構は両者合計で1,258基発見されており（第7表）、溝とピットが主体である。遺構の主・長軸から大きく3グループに分けられるが、それぞれ切り合い関係が存在する上、遺物の出土傾向にも差異がある。出土する遺物は平安時代では須恵器、土師器などの土器が多く、中世の遺構からは珠洲焼や青磁が出土している。

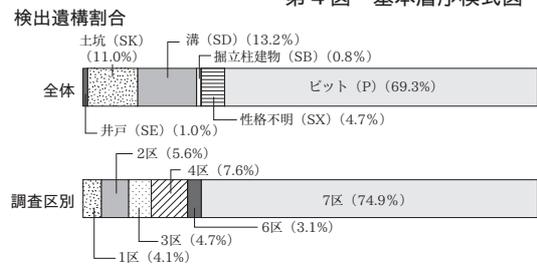


第4図 基本層序模式図

第7表 遺構検出状況

調査区	調査面積 (㎡)	遺構種別						合計
		掘立柱建物 (SB)	溝 (SD)	井戸 (SE)	土坑 (SK)	性格不明 (SX)	ピット (P)	
1区	292.1		5条	1基	10基	4基	31基	51基
2区	384.8		10条	2基	14基		44基	70基
3区	723.9		14条		10基	3基	32基	59基
4区	534.2		24条	5基	11基	4基	52基	96基
5区	130.9							0基
6区	425.2		20条		9基	4基	6基	39基
7区	6,461.6	10棟	93条	5基	85基	43基	707基※	943基
合計	8,952.7	10棟	166条	13基	139基	59基	871基	1,258基

※柱穴列 (SA) を含む。



第5図 遺構割合

第2節 基本層序 (第4図 図版8・10・14・17・22・24 写真図版4・5)

基本層序は全調査区共通である。土壌はシルトを主な成分とする水成堆積土（II層およびIV層以下）と、植生等が腐食した有機質の黒色土（III層）、客土（I層）からなる。III層が古代・中世の遺物包含層、IV層上面が古代・中世の遺構確認面である。表層部分は後世の客土や耕作による攪乱・変質がなされ、2・5・7区においてはIV層まで及ぶ。1・3・4・6区は包含層まで深度があり、人為攪乱の影響は少ない。全体として、洪水砂の貫入やラミナ状の堆積は目立たず、有機質に富んだ腐食層であるIII層が形成されていることから、冠水頻度の少ない安定した環境にあったことが窺える。

基本層序の決定は、主として目視による色調と土質および混入物の観察にもとづいている。普遍的に見られ、層質や色調でまとまりを見せる層をローマ数字で表記し、その中でさらに細分しえる土壌、スポット的にあらわれる土壌を小文字のアルファベットで表記した。層名は、この二者の組み合わせで表記し、8層に分類される。

層序および層名の決定にあたっては、細池遺跡・寺道上遺跡〔小池ほか1994〕、細池遺跡〔立木ほか1998〕、寺道上遺跡〔渡邊ほか2001〕との整合性を考慮してある（ローマ数字部分が共通）。

I 層 地表面の耕作土を一括した。由来となる土壌により層質・色調に若干ばらつきがあるが、耕作により攪乱が激しいことが多い。客土であると思われる。色調はおおむね灰黄褐色～暗褐色。

I a 層 灰黄褐色～暗褐色粘質シルト。耕作により攪乱されている層。粘性有り、しまりはやや弱い。

I b 層 暗黄褐色～暗褐色粘質シルト。I a 層と比べ、砂味が強い。

両者の分類が不可能な場合は、単にⅠ層と記述している。

Ⅱ層 灰褐色～淡青灰色を呈する粘質のシルト土壌。水田の床土と思われ、還元作用を受け灰色～青灰色となることが多い。Ⅲ層との層界が荒れることがある。近～現代の遺物を包含する。

Ⅱa層 灰褐色粘質シルト。粘性強、しまり強。細砂と粘土をブロック状に含む。耕作等により変質したⅡb層で、Ⅱb層との境界部が荒れることがある。近世～現代の遺物を包含する。

Ⅱb層 淡青灰色～青灰色粘質シルト。粘性強、しまり強。Ⅱa層土とⅢ層土をブロック状に含む。粘性強。しまり強。ラミナ状を呈することがある。7区では削平・攪乱を多分に受けている。

両者の分類が不可能な場合は、単にⅡ層と記述している。

Ⅲ層 有機質に富んだ黒色～暗褐色を呈する粘質シルト。有機分は主に植生に由来すると思われる。1・3区では植物が未分解の状態（いわゆるガツボ）で残存することが多いが、2・5・7区では完全に分解され、土壌化している。調査区全体を通して観察され、中世・古代の遺物を包含するが、削平・攪乱も多い。

Ⅲa層 黒色～暗色腐食シルトで、Ⅲb層より腐食が強い。粘性・しまりがあり、鉄分（パイプ状）、炭化物等が混入するが、おむね均質。Ⅰ区では未分解の植物遺体（ガツボ）を多く含み、灰褐色を呈する。古代・中世の遺物を包含する。中世の遺構は本層中から掘り込みが確認されることがある。

Ⅲb層 黒色～暗褐色腐食シルト。粘性あり。しまりやや有り。パイプ状の水酸化鉄と炭化物の混入が見られる。Ⅳ層土をブロック状に含む。上・下層界が荒れる場合が多く、植生もしくは耕作による攪乱の可能性が有る。古代・中世の遺物を包含する。古代の遺構は本層中から掘り込まれる可能性がある。

両者の分類が不可能な場合は、単にⅢ層と記述している。

Ⅳ層 酸化して黄褐色～白褐色を呈する粘質シルト土壌。マンガン粒の帯状分布および鉄分（パイプ状）の沈着が見られる。安定した層で、調査区全体に普遍的に見ることができる。古代・中世および近世以降の遺構確認面である。粘性・しまりをやや有する。上部は耕作と植生により攪乱され、荒れることがある。本層以下での遺構・遺物の出土は見られない。

Ⅴ層 やや還元したシルトと細砂の互層で、下部で湧水を見る。水酸化鉄の斑状分布やマンガン粒の沈着が見られる。地山であり、遺構・遺物の検出はないが、井戸や溝・ピットは本層中まで掘り込まれる。

第3節 遺 構

遺構は1,258基検出された(第7表)。調査面積の関係もあるが、7区が圧倒的に多い。遺構の種別ではピット(P)が全体の7割を占め、溝、土坑と続く(第5図)。

以下、調査区別に主な遺構を記述する。遺構種別の略標記および記述の順番は〔奈良文化財研究所2010〕を参考とした。記述内容は巻末の遺構計測表にもとづき、所在する調査区、遺構名、所在グリッド、確認面、切合い関係、軸方位、規模(長さ・幅・深度)、平・断面の形状、覆土の状況、遺物の有無等である。なお、5区(10S-10Iほか)は遺構が検出されなかったため、記述はない。

A 1 区(図版8・9 写真図版6～8)

長さ約121m、上端で面積292.1m²を測る。北西部をのぞき大部分が低湿地帯にあり、中・小河川跡と思われる部分が3箇所確認できる。上部は盛土や耕作で攪乱されているが、遺構確認面までの深さがあるため、遺構の残存は良好である。遺構確認面までの深さは南東端で地表下約1.5～2m、中部で1m前後、北西端で30～50cmとなり、南東から北西に向かって徐々に標高を増す。

遺構は溝とピットを主体とし、井戸(SE)1基、溝状遺構(SD)5条、土坑(SK)10基、ピット(P)31基、性格不明遺構(SX)4基の合計51基を検出した。遺構は前述した河川間に多く分布する。遺物はきわめて少なく、古

代と中世の土器・陶磁器が破片状態で出土しているに過ぎない。

a) 溝 状 遺 構 (SD)

SD3 (図版8・9 写真図版7) 9S-9B9 および 14 に位置する。検出面はIV層上部である。SK2 に切られる。上端で幅 36cm を測り、確認面からの深さは 9cm である。長軸は N-55° -E を向く。断面は皿形である。覆土は腐食質のシルトからなり、2層に分層できる。遺物は出土していない。

SD11 (図版8・9 写真図版6) 9S-7A12・13・18 および 19 に位置する。検出面はIV層上面であるが、プランが不明瞭であったため、遺構精査の際に上部を 3cm ほど削平している。長軸主軸線は N-69° -E を向く。途中から西に向かって分岐する。主線上端の最大幅は 78cm を測る。深さは 16cm である。断面は皿形を呈する。覆土はやや暗褐色を呈する砂質のシルトからなり、主線部で 2層、支線部では 1層に分層できる。遺物は出土していない。

SD14 (図版8・9 写真図版6) 9S-6A21・9S-7A1 に位置する、検出面はⅢb層上部である。上端で幅 54cm、深さは 37cm である。主軸は N-59° -E を向く。断面は半円形で、覆土は 4層に分かれる。遺物の出土はない。

SD33 (図版8・9 写真図版6) 9R-4I18・19・23・24、9R-5I4 に位置し、河2を切っている。検出面はIV層上面である。河2の傾斜に沿って構築され、主軸は北東 (N-82° -E) へ向かっているが、河2に交わると南北方向 (N-14° -E) に流れを変える。幅は上端で 173cm、深さは 30cm である。断面は皿形を呈する。覆土は 5層に分かれる。遺物の出土はない。

SD46 (図版8・9 写真図版7) 9R-3H13・14 に位置し、Ⅲb層上部で検出した。主軸は N-58° -E を向き、河2と平行に構築されている。断面は皿形を呈する。上端で幅 82cm、深さ 17cm を測る。覆土は 3層に分かれる。遺物の出土はない。

b) 井 戸 (SE)

SE51 (図版9 写真図版7) 9R-6J9・14・15・20 に位置し、IV層上面で検出され、SK68を切っている。大部分が調査区外にあるが、調査しえた部分から推定すると径 220cm 程度の円形をなすと思われる。覆土は 6層に分層され、深さは 46cm である。断面はやや深めの皿形を呈する。覆土は 6層に分かれる。地山ブロックの少ないレンズ状堆積であり、時間をかけて埋没した可能性が高い。底部付近で湧水する。遺物は出土していない。

c) 土 坑 (SK)

SK2 (図版9 写真図版7) 9S-9B9 および 14 に位置する。IV層上部で検出し、SD3を切っている。上端で長さ 32cm × 幅 18cm、深さは 3cm を測り、長軸は N-36° -W を向く。平面形は楕円形、断面は皿形である。覆土は単層で、V層を基調とした細砂の中に SD3 由来の腐食質シルトをブロック状に含んでいる。遺物は出土していない。

SK20 (図版9 写真図版8) 9R-6J8 および 9 に位置し、SK55に隣接する。検出面はIV層上面である。上端で長さ 65cm × 幅 57cm、深さ 14cm を測り、円形をなす。長軸は N-21° -E を向く。断面は皿形で覆土は 3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK22 (図版9 写真図版8) 9R-5J22 に位置する。検出面はIV層上部である。上端で長さ 50cm × 幅 32cm、深さ 12cm を測る。遺構の長軸は N-25° -E を向く。平面形は楕円形、断面は皿形を呈す。覆土は 2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK54 (図版9 写真図版8) 9R-6J20 に位置する。検出面はIV層上部である。上端で長さ 50cm × 28cm を測り、長軸は N-21° -W を向く。平面形は不整形、断面は皿形を呈し、深さは 14cm で、覆土は 2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK55 (図版9 写真図版8) 9R-6J8 に位置し、SK20と隣接する。検出面はIV層上面である。上端で長さ推定 80cm × 幅推定 62cm を測る。遺構の長軸は N-49° -W を向く。平面形は方形、断面は皿形で、深さは 17cm、覆土は 3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK68 (図版9 写真図版7) 9R-6J14・15に位置し、SE51に切られる。検出面はIV層上面である。上端で長さ85cm×幅推定70cmを測る。長軸は恐らくN-68°-Wであろう。平面形は方形、断面は皿形を呈し、深さは14cm、覆土は2層に分層できる。遺物は出土していない。

d) 性格不明遺構 (SX)

SX7 (図版9 写真図版8) 9S-8B17に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ163cm×32cm、深さ4cmを測り、長軸はN-33°-Wを向く。平面形は不整形、断面は皿形である。覆土は単層で、V層を基調とした細砂の中に腐食質シルトをブロック状に含む。遺物は出土していない。

SX15 (図版9 写真図版8) 9R-6J20、9S-6A16・21に位置する。検出面はIV層上面である。調査区の際で検出されているため、全体の形状は不明であるが、検出部分では上端で長さ199cm×幅18cm、深さ18cmと規模が大きい。遺構の長軸はN-34°-Wを向く。断面は皿形である。覆土は単層としたが、大部分が調査区外に広がっているため、一部の観察にとどまっていることを明記しておく。土質は隣接するSE51と類似する。遺物の出土は見られない。

e) 河 跡

河2 (図版8) 9R-4I24、9R-5I4・5・9・10・15、9R-5J6に位置する。流路の幅は上端で約340cm、確認面からの深さ約70cmの自然河川である。底面の傾斜から調査区付近では北から南へ向かって流下していたようである。右岸には傾斜を利用して溝(SD33)が掘られるなど、河川を利用したと思われる痕跡が認められる。下部にわずかに細砂・シルトの互層を見るが、堆積土の大部分は未分解の植物遺体(ガツボ)を多く含む泥炭質のシルトである。河川の規模が小さいため、埋積が早く進んだと思われる。最下部で平安時代の土師器が出土しており、この時代には河川として機能していたと思われる。

B 2 区 (図版10～12 写真図版9～12)

長さ約104m、面積は上端で384.8m²を測る。調査区の東端部は7区と隣接する。地形は南東から北西にかけて緩やかに傾斜し、遺構は標高の高い南東部に集中する。現地表面から遺構確認面までは概ね40～60cmあるが、確認面までの深さが浅い南東部では、耕作等により攪乱されることがある。

遺構は井戸(SE)2基、溝状遺構(SD)10条、土坑(SK)14基、ピット(P)44基の合計70基を検出した。遺物は古代の土器を中心に出土している。

a) 溝 状 遺 構 (SD)

SD9 (図版10・11 写真図版9) 11R-7C3・7・8・12に位置する。III層上面で検出されるが、掘込みは2層中からなされるようである。幅は上端で推定70cm、深さ推定66cm 主軸方位はN-19°-Eである。上部は攪乱されている。断面は階段形を呈し、覆土は5層に分かれる。5層から珠洲系陶器の鉢、近世陶磁器および曲物の底部および籬、が出土している。

SD15 (図版10・11 写真図版9) 11R-6B4・8・9・14に位置する。検出面はIV層上面である。幅は上端で推定88cm、主軸はN-27°-Wを向く。断面は半円形～U字形、44cmの深さがある。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SD17 (図版10・11 写真図版9) 11R-6B4・9・14に位置する。検出面はIV層上面である。幅は上端で48cm、主軸はN-8°-Wを向くが、北端で西へ屈曲する。断面は台形で、深さは34cmを測る。覆土は4層に分かれる。1層から礫が出土している。

SD23 (図版10・11 写真図版10) 11R-5B12・13に位置する。検出面はIV層上面である。幅は上端で約61cm、主軸はN-85°-Eを向く。断面は階段形で、深さは24cmを測る。テラス部を有し、底部は一段深くなる。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。SD24と平行する。

SD24 (図版10・11 写真図版10) 11R-5B11～13に位置する。IV層上面で検出した。幅は上端で約53cm、

軸はN-87° -Eである。断面は皿形、深さは10cmである。覆土は2層に分かれ、1層から砥石が出土している。遺構の配置・層位からSD23と同時期と思われる。

SD34 (図版10・11 写真図版10) 11R-4A20・25、11R-4B16・21、11R-5A5、11R-5B1・6に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-3° -Eを向く。断面は半円形を呈し、上端で幅推定70cm、深さ33cmを測る。覆土は5層に分かれる。砥石が5層から出土している。

SD55 (図版10・11 写真図版10) 11Q-2J24、11Q-3J4に位置し、IV層上面で検出した。SD56を切る。幅は上端で推定30cm、主軸はN-3° -Eを向き、SD56と交差する。断面は皿形、深さは5cmである。覆土は単層で、掘り込みは浅い(5cm)。遺物は出土していない。

SD56 (図版10・11 写真図版10) 11Q-2J24に位置し、SD55に切られる。検出面はIV層上面である。幅は上端で推定20cm、主軸はN-79° -Wを向く。断面は皿形を呈する。覆土は単層で、掘り込みは浅い(4cm)。遺物は出土していない。

SD63 (図版10・11・12 写真図版10) 11Q-2J12・13・17～20に位置し、SE97を切る。検出面はIV層上面である。上端で幅156cm、確認面からの深さ73cmを測る。主軸方向はN-84° -Wである。断面は半円形を呈す。覆土は6層に分かれ、2層で砥石が出土している。

SD89 (図版10・11 写真図版9・11) 10Q-8G13～15・19・20・25、10Q-9G5に位置し、IV層上面で検出した。部分検出であるため、遺構の正確な形状は不明である。2本の溝から構成される。軸はそれぞれ東西N-59° -W、南北N-4° -Wを向く。確認面からの深さは36cmを測る。断面は皿形～階段形である。覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

b) 井 戸 (SE)

SE25 (図版12 写真図版11) 11R-5B3・4・8・9に位置する。検出面はIV層上面である。遺構の規模は推定径が約280cm、確認面からの深さは110cmで、底部付近で激しく湧水する。断面は不整な台形、平面は楕円形を呈し、覆土は15層に分かれる。ラミナ状に堆積する12層以下は自然状態での埋積によると思われるが、9層以上ではIV層がブロック状に混入しており、短時間で埋め戻しを行ったとみられる。底部に平面が方形の掘り方が確認されており、水溜の設置が推定される。1層で砥石、10層で釘が出土している。

SE97 (図版12 写真図版11) 11Q-2J17・18・23に位置する。検出面はIV層上面である。SD63に切られる。調査部分から推定すると平面形は上端で直径200cmを測る円形と思われる。断面は階段状で、確認面からの深さは83cmである。長軸方向はN-35° -Wを向く。覆土は5層に分かれる。3層からIIIb・IV層質のブロック状混入が見られ、短時間で埋め戻された状況にあったことが解る。底部は円形に一段低くなっており、曲物等の井戸枠の存在が推定される。遺物は出土していない。

c) 土 坑 (SK)

SK10 (図版12 写真図版12) 11R-6B20・25、11R-6C21に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ60cm×幅41cm、深さ10cmを測り、N-60° -W方向に長軸がある。平面形は不整形、断面は台形を呈す。覆土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

SK16 (図版12 写真図版12) 11R-6B15に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ63cm×44cm、深さ13cmを測り、長軸方向はN-55° -Eである。平面形は楕円形、断面は皿形を呈す。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK37 (図版12 写真図版12) 11R-4A8・9に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ86cm×61cm、深さ35cmを測り、長軸はN-2° -Eである。平面形は不整形、断面は皿形～半円形を呈する。覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

SK61 (図版12) 11Q-2J18・23に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ34cm×幅33cm、深さ30cmを測り、長軸方向はN-60° -Eである。平面形は円形で断面形は台形を呈す。覆土は3層に分かれる。遺

物は出土していない。

SK67 (図版 12 写真図版 11) 11Q-2J14 に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ 58cm × 幅 45cm を測る。遺構の長軸は N-61° -E を向く。平面形は楕円形、断面は箱形を呈し、確認面からの深さは 12cm である。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK96 (図版 12 写真図版 12) 11Q-2J14・15・20 に位置し、SD63 に隣接する。検出面はIV層上面である。部分的な調査にとどまるため全体の形状は不明であるが、長軸は N-33° -W を向くようである。断面は階段形で、覆土は 5 層に分かれる。遺物は出土していない。

C 3 区 (図版 13 ~ 16 写真図版 13 ~ 17)

長さ約 190m で、面積は上端で 723.9m² である。調査前は砂利敷の農道となっており、路盤材が充填されていたが、水田面に直接盛土されていたため、包含層(Ⅲ層)以下の遺存状況は良好である。確認面までの深さは現地表から 50 ~ 100cm と幅がある。若干の微高地はあるものの、地形は全般に低湿で、Ⅲ層中には未分解の植物遺体が多く混入し、IV層以下は還元が進み、青白色を呈することが多い。

遺構は溝とピットを中心に 59 基検出しており、内訳は溝状遺構(SD) 14 条、土坑(SK) 10 基、ピット(P) 32 基、性格不明遺構(SX) 3 基である。遺物は古代・中世の土器および炉壁・礫が出土しているが、量は少ない。

a) 溝状遺構(SD)

SD4 (図版 14・15 写真図版 13) 9Q-10B23 ~ 25、10Q-1B3 ~ 5・9・10・14・15・19・20・25 に位置する。検出面はIV層上面である。底部は二条に分かれるが、断面では切り合い関係は確認できない。上端で幅推定 235cm を測り、主軸は N-13° -W を向く。断面は不整な皿形をなし、覆土は 6 層に分かれ、深さは 40cm である。覆土中から珠洲焼の壺と播鉢が出土している。

SD7 (図版 14・15 写真図版 13) 9Q-10A15・20、9Q-10B11・12・16 に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅推定 97cm を測り、主軸は N-77° -E を向く。確認面からの深さは 55cm で、断面は逆台形である。覆土は 7 層に分層される。遺物の出土はない。隣接する SD10 と主軸をほぼ同じくする。

SD10 (図版 14・15 写真図版 13) 9Q-10A9・10・14・15、9Q-10B6・11・12 に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅推定 173cm を測り、主軸は N-79° -E を向く。溝の底部は途中で二条に分かれ、底面は東から西に向かって傾斜する。確認面からの深さは 38cm で、断面は皿形である。覆土は 4 層に分かれる。遺物の出土はない。隣接する SD7 と主軸方向を一にする。

SD16 (図版 14・15 写真図版 13) 9P-7I3・4、8 ~ 10、9P-7J6 ~ 8、11 ~ 13 に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅推定 130cm を測り、主軸は N-104° -E を向く。確認面からの深さは 45cm、断面は皿形 ~ 半円形で、覆土は 5 層に分かれる。遺物の出土はみられない。

SD19 (図版 14・15 写真図版 14) 9P-6I22 ~ 25 に位置する。SD20 に隣接し、主軸もほぼ同一である。検出面はIV層上面である。上端で幅 85cm を測り、主軸は N-84° -E を向く。確認面からの深さは 20cm、断面は皿形で、覆土は 2 層に分かれる。遺物の出土はみられない。

SD20 (図版 14・15 写真図版 14) 9P-6I18・19・23・24 に位置し、検出面はIV層上面である。SD19 に隣接し、主軸方向もほぼ共通する。上端で幅 51cm を測り、主軸は N-85° -E を向く。確認面からの深さは 36cm、断面は段の付いた V 字形で、テラス状の張り出しを有する。覆土は 5 層に分かれる。珠洲焼の播鉢が出土している。

SD23 (図版 14・15 写真図版 14) 9P-4H24、9P-5H4・9・10、9P-5I6 に位置する。検出面はIV層上面である。区画溝の一部と思われ、全体の規模は不明だが、幅は上端で 46cm を測る。軸は東西 N-95° -E、南北 N-10° -W を向く。断面は皿形で、深さ 29cm、覆土は 4 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD33 (図版 13・15 写真図版 14) 9P-4H11・12・16・17・21・22、9P-5H2 に位置する。検出面はIV層上面である。底部は 2 条に別れる。上端で幅推定 73cm を測り、主軸は N-7° -W を向く。確認面からの深さは

38cm、断面は不整形で、覆土は3層に分かれる。2層から砥石が出土している。

SD39 (図版13・15 写真図版14・15) 9P-3G18・19・23～25、9P-4G3・4に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅220cmを測り、主軸はN-87°-Eを向く。断面は皿形をなし、確認面からの深さは45cmである。覆土は4層に分かれる。遺物の出土はない。

SD40 (図版13・15 写真図版15) 9P-3G11～13、16～18に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅130cmを測り、主軸はN-82°-Eを向く。断面は半円形をなし、確認面からの深さは40cmである。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SD44 (図版13・15 写真図版15) 9P-2F24・25、9P-2G16・17・21～23、9P-3F5・10、9P-3G1～3・6・7に位置し、SD84に切られる。検出はIV層上面である。両岸に弱いテラス状の平坦面が見られ、断面は浅い台形である。幅は上端で330cm、確認面からの深さは86cm、主軸はN-92°-Eを向き、覆土は8層に分かれる。覆土中から珠洲焼の壺と、瀬戸焼、自然礫125点が出土している。

SD45 (図版13・15 写真図版15) 9P-2F8・9・13・14に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅45cmを測り、深さ17cm、主軸はN-83°-Eを向く。断面は不整な皿形で、覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD57 (図版13・15 写真図版15・16) 8P-10E1・2・6・7・12・13・17・18・22・23に位置する。検出面はIV層上面である。SX81に切られる。上端で幅推定145cmを測り、深さ38cm、主軸はN-15°-Wを向く。断面は台形～階段形で、覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

SD84 (図版13・15 写真図版15) 9P-3F5・10、9P-3G1・2・6・7に位置し、SD44を切っている。検出面はIV層上面である。上端で幅推定165cmを測り、断面は半円形で深さは52cm、主軸はN-84°-Eを向く。覆土は4層に分かれる。4層から珠洲焼が出土している。

b) 土 坑 (SK)

SK15 (図版16 写真図版16) 9P-7J22・23・9P-8J2・3に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ140cm×幅75cm、深さ21cmを測り、軸方向はN-35°-Eである。断面は皿形を呈し、平面形は楕円形を呈すると思われる。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK24 (図版16 写真図版16) 9P-5H5・10に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ56cm×幅50cm、深さ12cmを測り、軸方向はN-57°-Wである。平面形は円形、断面は皿形で、覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK47 (図版16 写真図版16) 9P-7I5・10に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ36cm×幅35cm、主軸方向はN-57°-Eである。平面形は円形、断面は半円形を呈す。深さは16cmを測り、覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK50 (図版16 写真図版16) 9P-1E15に位置し、SK70に隣接する。検出面はIV層上面である。調査区外に位置する部分があるため遺構の形状は不明である。上端の幅で推定130cm、深さは28cmを測り、長軸はN-32°-Eである。断面は皿形で、覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK70 (図版16 写真図版16) 9P-1E15・20に位置し、SK50に隣接する。検出面はIV層上面である。遺構の大部分が調査区外のため形状、長さは不明である。上端の幅で推定21cm、深さは19cm、長軸はN-35°-Wを向く。断面は皿状で、覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK71 (図版16 写真図版16) 8P-9D24に位置する。検出面はIV層上面である。遺構の過半が調査区外のため形状、長さは不明である。上端の幅で推定35cm長軸はN-80°-Eを向く。深さは20cmを測り、断面は皿状で、覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

c) 性格不明遺構 (SX)

SX81 (図版16 写真図版15・16) 8P-10E17・18・22・23に位置し、SD57を切っている。検出面はIV層上

面である。一部が調査区外のため形状、長さは不明。幅は推定 105cm、断面は台形で深さは 27cm を測り、長軸は N-51° -W を向く。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

d) 河 跡 (図版 14 写真図版 17)

3 か所で検出されている。河 1 は 9Q-9A、河 2 は 8P-8D・8P-9D、河 3 は 8P-6B・8P-7C 付近に位置する。河 1 は N-61° -W の軸を有し、流下方向は西→東となる。単層の浅い流路で、SD10 に切られる。遺物は出土していない。河 2 は長軸 N-11° -W、推定幅 6.4m 程度の河川である。遺物は出土していない。やはり南北方向に流れている。河 3 は調査区の北西端に位置する。大規模な河川もしくは湖沼の一部と思われる。遺物は出土していない。

D 4 区 (図版 17～21 写真図版 18～26)

長さ 178m、面積は上端で 534.2m²、地形は北東から南西に向かって傾斜する。遺構は井戸 (SE) 5 基、溝状遺構 (SD) 23 条、土坑 (SK) 11 基、ピット (P) 52 基、性格不明遺構 (SX) 4 基の合計 95 基を検出した。古代・中世の遺物が出土しているが、量はかなり少なく、遺物の分布は粗である。

a) 溝 状 遺 構

SD1 (図版 17・18 写真図版 18) 10Q-2C4・5・9・10・14・15 に位置する。検出面はIV層上面である。幅は上端で推定 225cm、主軸は N-78° -E である。断面は不整な皿形を呈する。確認面からの深さは 38cm である。覆土は 9 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD3 (図版 17・18 写真図版 24) 10Q-1E6・7・11・12 に位置し、SK14 を切っている。検出面はIV層上面である。区画の一部と思われるが、全体の規模は不明である。軸も不明瞭だが、東西軸は SD11 と同様に N-2° -E を指向すると思われる。確認面からの深さは 15cm で、断面は台形を呈する。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD5 (図版 17・18 写真図版 18) 10Q-1E2・3・7・8 に位置し、SD18 を切り、SD11・SK6 に切られる。検出面はIV層上面である。SD11・18 との間で複雑に切り合っているため、平面形は断面図からの復元である。主軸は N-67° -E、推定幅は上端で約 225cm、深さ 37cm を測り、断面は台形を呈する。覆土は 8 層に分かれる。青磁の椀が出土している。

SD11 (図版 17・18 写真図版 18) 9Q-10E23～25、10Q-1E3～5 に位置し、SD5 を切っている。検出面はⅢb層上面である。平面形上端は断面図より復元している。軸は N-2° -E を指向し、推定幅は上端で 93cm、断面は階段状の皿形を呈し、確認面からの深さは 54cm である。覆土は 6 層に分かれる。土師器、黒色土器、珠洲焼の播鉢が出土している。

SD18 (図版 17・18 写真図版 18) 10Q-1E2・7・8 に位置し、SD5 に切られる。検出面はIV層上部である。主軸は N-54° -E を向き、推定幅は上端で 115cm である。断面は半円形で、確認面からの深さは 32cm を測る。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD21 (図版 17・18 写真図版 26) 9Q-10F12・17 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸は N-20° -E を向き、推定幅は上端で 65cm、断面は台形で確認面からの深さは 18cm である。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD22 (図版 17・18 写真図版 24) 9Q-10F4・5・9・10・14・15 に位置する。IV層上面で検出し、SE117 を切っている。主軸は N-71° -E を向き、幅は上端で 215cm である。断面は台形を呈し、確認面からの深さは 49cm である。覆土は 8 層に分かれる。SE117 の埋積後に、その上端の幅に沿って溝を構築したようである。土師器、中世土師器が出土している。

SD23 (図版 17・18 写真図版 19) 9Q-10F5・10 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸は N-82° -E を向き、推定幅は上端で 70cm、断面は半円形で、深さは 29cm である。覆土は 4 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD30 (図版 17・18 写真図版 19) 9Q-9G21～23 に位置する。検出面はIV層上面である。幅は上端で 34cm、主軸方向は N-2° -E である。断面は半円形をなし、確認面からの深さ 10cm、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD34 (図版 17・18 写真図版 19) 9Q-9G13～15・18・19、9Q-9H11 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸方向は N-5° -W、溝の推定幅は上端で 56cm、確認面からの深さは 7cm である。断面は皿形をなし、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD36 (図版 17・18 写真図版 19) 9Q-9G10・14・15、9Q-9H6・7・11・12 に位置する。検出面はIV層上部である。主軸は N-6° -W を向き、推定幅は上端で 170cm、確認面からの深さ 42cm を測る。断面は不整な皿形を呈し、覆土は 9 層に分かれる。珠洲焼の甕が出土している。

SD50 (図版 17・18 写真図版 19・20) 9Q-7J10・15、9R-7A6～8・11 に位置する区画溝の一部である。軸東西 N-84° -W、南北 N-2° -E を向く。IV層上部で検出され、幅は上端で 57cm である。断面は U 字形をなし、確認面からの深さは 57cm を測る。覆土はIV層をブロック状に含み、9 層に分かれる。西端部に杭跡状のピットが 2 基 (P119・120) 存在する。遺物は出土していない。

SD71 (図版 17・18 写真図版 20) 9R-6B12・13・18 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸は N-86° -E である。推定幅は上端で 48cm、断面は半円形を呈し、確認面からの深さ 27cm を測る。覆土は 4 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD72 (図版 17・18 写真図版 20) 9R-6B7～10、11～14 に位置し、主軸は N-2° -W 方向である。検出面はIV層上面である。推定幅は上端で 92cm、断面は不整な台形で、中央部は一段深くなる。確認面からの深さは 26cm である。覆土は 4 層に分かれ、3 層から砥石が出土している。

SD74 (図版 17・18 写真図版 20) 9R-5B25、9R-6B4・5・10 に位置する。北半は攪乱されている。検出面はIV層上面である。主軸は N-77° -E を向き、上端で推定幅 200cm、深さは確認面から推定 51cm を測る。断面はやや深い皿形を呈する。覆土は 5 層に分かれる。2 層から珠洲系の壺、5 層から珠洲焼の甕と須恵器の甕が出土している。

SD77 (図版 17・19 写真図版 21) 9R-5C5・10、9R-5D1～3、6～8 に位置し、SD94 と P97 に切られる。検出面はIV層上面である。主軸は N-1° -E を向く。推定幅は上端で 147cm、深さは確認面から 70cm を測る。断面は不整な皿形である。覆土は 12 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD78 (図版 17・19 写真図版 21) 9R-4D23、9R-5D3 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸は N-72° -E を向き、推定幅は上端で 35cm、確認面からの深さ 24cm を測る。断面は不整な箱形を呈する。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD83 (図版 17・19 写真図版 21) 9R-4D15・18～20、9R-4E8・9・11～14・16・17 に位置し、SE112 を切っている。検出面はIV層上面である。主軸は N-17° -W を向き、推定幅は上端で 158cm、確認面からの深さ 53cm である。断面は台形を呈し、覆土は 6 層に分かれる。珠洲系の甕、土師器、黒色土器、須恵器、砥石が出土している。SE112 との切り合いは一部しか把握できなかったが、断面観察では、SE112 の埋没後にその覆土を掘り込んで本遺構を構築しているようである。

SD88 (図版 17・19 写真図版 22) 9R-4E3～5・7～9、9R-3F21～23、9R-4F1 に位置し、SD113 に切られる。Ⅲb 層で検出され、主軸は N-23° -W、幅は上端で 80cm ある。確認面からの深さは 54cm を測り、断面は逆台形～半円形を呈する。覆土は 4 層に分かれる。珠洲焼、土師器、須恵器が出土している。

SD91 (図版 17・19 写真図版 22) 9R-3F16～19 に位置し、SD106、SD113 に切られる。検出面はIV層上面で、主軸は N-8° -W を向く。推定幅は上端で 85cm、確認面からの深さは 23cm である。断面は皿形を呈し、覆土は 3 層に分かれる。珠洲系の壺、土師器が出土している。

SD94 (図版 17・19 写真図版 26) 9R-5D1・6・11 に位置し、SD77、SX76 を切っている。検出面はIV層上面

で、主軸はN-89°-Wを向く。推定幅は上端で65cm、確認面からの深さは17cmである。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD106 (図版17・19 写真図版22) 9R-3F12～15・17～19、9R-3G6・11に位置し、SD91を切り、SD113に切られる。検出面はIV層上面で、主軸はN-14°-Wである。推定幅は上端で140cm、確認面からの深さは52cmである。断面は皿形で、覆土は8層に分かれる。3層から礫が出土している。

SD113 (図版17・19 写真図版22・23) 9R-3F16・17・21・22に位置する。検出面はIV層上面である。SD88・SD91・SD106を切っている。主軸はN-55°-Eを向き、推定幅は上端で145cm、確認面からの深さは推定56cmである。断面は皿形～台形を呈し、覆土は6層に分かれる。遺物の出土はない。

b) 井戸 (SE)

SE59 (図版17・20 写真図版23) 9R-7A3・4に位置する。確認面はIV層上面である。平面形は不整な楕円形で、上端でおおむね径150cm×120cm、確認面からの深さ67cmを測る。断面は不整な台形を呈する。覆土は10層あるが、井戸側・水溜の埋土(1～7層まで)と、掘り方(8～10層)に分けられる。井戸本体の覆土は炭を多く含む土壌(6・7層)とIV層質土をブロック状に含む土壌(1～5層)に細分され、前者の堆積後、後者が短時間で堆積している。7層下部で地下水の湧出が見られる。井戸側・水溜は残存していないが、底部に円形の掘り方が確認されており、曲物等の水溜の設置が想定される。被熱した礫が下層～底部を中心に出土している。

SE70 (図版17・20 写真図版23) 9R-6B11・12に位置する。検出面はIV層上面である。平面形は推定幅上端で160cm×130cm程度の円形を呈すると思われる。断面は箱形で、確認面から底までの深さは113cmを測る。覆土は7層に分かれる。覆土にはⅢ・IV層土のブロックが混入し、短時間での埋め戻しが想定される。7層で地山から地下水の滲出が始まる。遺物は出土していない。

SE103 (図版17・20 写真図版23) 9R-5D1・2に位置する。検出面はIV層上面である。平面形は上端で推定幅直径65cmの円形、断面は段のついた箱形となる。確認面からの深さは64cm、覆土は5層に分かれ、上層はⅢ・IV層土のブロックが目立ち、短時間に埋め戻した可能性が高い。5層で湧水が見られる。遺物は出土していない。

SE112 (図版17・20 写真図版23) 9R-4E11・12・16・17に位置し、上部はSD83に切られている。SD83調査中に発見された平面形は楕円形を呈し、上端で140cm×135cm、断面は逆台形で深さ110cmを測る。多量の湧水により断面が崩落し、やむなくエレベーションのみの記録としたが、SE117と同様に井戸の埋没後に溝が構築される類のものである。遺物の出土はない。

SE117 (図版17・20 写真図版24) 9Q-10F4・5・9・10・14に位置し、上部をSD22に切られている。SD22調査中に発見された。平面は上端で235cm×220cmの円形、断面は逆台形で深度約103cmを測る。覆土は9層に分かれる。5・8・9層で炭化物・炭化粒を多く含む。遺物は出土していない。当遺構の埋没後にSD22が構築される。

c) 土坑 (SK)

SK6 (図版17・21 写真図版24) 10Q-1E3に位置し、SD5を切っている。検出面はIV層上面である。上端で長さ70cm×幅68cmを測り、遺構の長軸はN-64°-Eである。平面は不整形、断面はU字形を呈す。確認面からの深度は53cm、覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK7 (図版17・21 写真図版24) 10Q-1E3・4・8・9に位置し、P118を切っている。検出面はIV層上面である。大きさは上端で長さ50cm×幅40cmを測り、長軸はN-34°-Wを向く。平面は円形、断面は半円形を呈す。確認面からの深度は22cm、覆土は3層に分かれる。覆土中から中世土師器が出土している。

SK14 (図版17・21 写真図版24) 10Q-1E6・7・11・12に位置する。検出面はIV層上面である。上部をSD3に切られる。平面は上端で長さ104cm×幅45cmの長楕円形で長軸はN-84°-Wを向く。断面は皿形で、確認面からの深さは22cmを測る。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK40 (図版17・21 写真図版25) 9Q-8H23に位置するが、遺構の過半が調査区外にあるため、全体の形状は

不明である。検出面はIV層上面である。上端の幅は推定 95cm で、長軸は N-38° -W を向く。断面は隅丸の台形、確認面からの深さは 27cm で、覆土は 4 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK41 (図版 17・21 写真図版 25) 9Q-8H24、9Q-9H4 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-37° -W を向く。平面は上端で長さ 46cm × 幅 45cm の円形、断面は皿形で確認面からの深さ 16cm、覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK44 (図版 17・21 写真図版 25) 9Q-7J21・22 に位置する。検出面はIV層上面である。平面は上端で長さ 90cm × 幅 53cm の不整な楕円形を呈し、長軸は N-7° -E を向く。断面は台形で、確認面からの深さは 30cm である。覆土は 5 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK46 (図版 17・21 写真図版 25) 9Q-7J13・14 に位置し、IV層上面で検出される。遺構の規模は上端で幅が推定 155cm、長軸は N-35° -W を向く。平面は半円形を呈すると思われる。断面は不整な皿形を呈し、確認面からの深度は 52cm を測る。覆土は 8 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK68 (図版 17・21 写真図版 25) 9R-6B21 に位置する。検出面はIV層上面である。平面形は上端で長さ 46cm × 幅 38cm の不整形で、長軸は N-2° -E を向く。底部に珠洲焼の播鉢の底部が正位で出土している。断面は台形だが、遺物の下に若干の掘り込みがある。確認面からの深さは 21cm である。覆土は単層である。

SK69 (図版 17・21 写真図版 26) 9R-6B11 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-58° -E を向く。遺構の規模は上端で長さ 46cm × 幅 40cm である。断面は皿形で、確認面からの深度は 10cm を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK73 (図版 17・21 写真図版 20・26) 9R-6B7・8 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-36° -E を向く。一部が調査区外にあるため平面形は不明だが、推定幅は上端で長さ 113cm × 幅 85cm を測る。断面は箱形で確認面からの深さは 23cm である。覆土は 5 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK109 (図版 17・21 写真図版 26) 9R-2G22・23 に位置し、確認面はIV層である。平面形は上端で推定長さ 113cm × 幅 60cm の不整な楕円形で、長軸は N-57° -E を向く。断面は皿形で、確認面からの深さ 31cm である。覆土は 4 層に分かれる。遺物は出土していない。

d) 性格不明遺構 (SX)

SX19 (図版 17・21 写真図版 26) 9Q-10F17 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-84° -W を向く。平面は不整な楕円形を呈すると思われるが、一部が調査区外にかかるため、全体の形状は不明である。推定幅は上端で長さ 160cm × 幅 120cm を測る。断面は皿形で、確認面からの深さは 16cm である。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SX76 (図版 17・21 写真図版 26) 9R-5C10・15、9R-5D6・11 に位置し、SD94 に切られる。確認面はIV層上面である。推定幅は上端で長さ 120cm × 65cm、平面形は不整な楕円形を呈する。長軸は N-79° -W を向く。断面は皿形で、確認面からの深さは 17cm を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

E 6 区 (図版 22・23 写真図版 27～30)

長さ約 135m、面積は上端で 425.2m² である。北部が最も標高が高く、中央部で低くなり、南部で再び標高を上げる。中央部には河川状の自然地形が検出されている。遺構数は溝状遺構 (SD) 20 条、土坑 (SK) 9 基、性格不明遺構 (SX) 4 基、ピット (P) 6 基の合計 39 基を検出した。溝状遺構には畝を形成するものがある。遺物は極めて少なく、古代の土師器破片と鉄製品が少量出土した程度である。

a) 溝 状 遺 構 (SD)

単独のもの、畝状遺構に分けて記述する。

SD10 (図版 22・23 写真図版 27) 8R-10F8・9・13 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸方位は N-32° -E で、幅は上端で 52cm、確認面からの深さは 9cm を測る。断面は不整な皿形で、覆土は 2 層に分かれる。遺物

は出土していない。

SD11(図版 22・23 写真図版 27) 8R-10F19・20・24・25 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-73° -E である。幅は上端で 55cm、確認面からの深さは 13cm である。断面は皿形で、覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD16(図版 22・23 写真図版 27) 9R-1G12・13・17・18 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-60° -E である。幅は上端で推定 75cm、深さは 37cm である。断面は台形で、覆土は 2 層に分かれる。1 層から鉄製品が出土している。

SD18 (図版 22・23 写真図版 28) 8R-2A19・22~24、8R-3A2・3 に位置し、河川状地形との際に構築される。一部を SK26 に切られる。検出面はⅢb層上面である。主軸はN-43° -E を向く。幅は上端で 90cm、確認面からの深さは 57cm である。断面は皿形~台形を呈し、覆土は 8 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD19 (図版 22・23 写真図版 28) 8R-9E10・14・15 に位置する。検出面はIV層上面である。SD34 を切り、主軸はN-58° -E を向く。幅は上端で推定 55cm、確認面からの深さは 41cm である。断面は台形で、覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD21 (図版 22・23 写真図版 28) 8Q-1J7・8・13 に位置する。検出面はIV層上面で、南部を SD24 に切られる。主軸はN-37° -W である。幅は上端で 40cm、深さは 12cm である。断面は皿形で、覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD24 (図版 22・23 写真図版 28) 8Q-1J13・14・17・18 に位置する。検出面はIV層上面で、SD21 を切っている。主軸はN-56° -E を向く。幅は上端で 45cm、深さは 17cm である。断面は皿形で、覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

畝状遺構 (図版 22・23 写真図版 28・29) SD8・SD27~38 により構成される畝状の遺構である。8R-8E23・24、8R-9E3~5・8~10・14・15・20、8R-9F11・16・17・21・22、8R-10F1~3・16・21 に位置する。検出面はIV層上面である。溝の主軸はいずれも N-20° -W 前後で共通する。幅は上端で 30~40cm 前後、深さは 5~10cm 前後、溝の間隔は 30~40cm となっている。断面は皿状を呈するが、外壁面での観察では本来の断面は上部の開く U 字形を呈している。覆土は単層である。遺物の出土はない。

c) 土 坑 (SK)

SK1 (図版 23 写真図版 29) 8Q-2J15、8R-2A11 に位置するが、過半は調査区外にある。確認面はIV層上面である。長軸は、推定で N-35° -W を向く。遺構の深さは 30cm で、断面は不整な皿形を呈する。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK3 (図版 23 写真図版 29) 8R-2A18・23 に位置する。確認面はIV層上面である。平面形は円形を呈し、長軸はN-38° -W を向く。長さは上端で 80cm、幅は 60cm ある。断面は皿形で、確認面からの深さは 18cm、覆土は 2 層に分かれる。遺物の出土はない。

SK4 (図版 23 写真図版 30) 8R-2A13・18 に位置する。検出面はIV層上面である。大部分が調査区外に位置するため、平面形・長軸方向は不明である。推定断面は皿形である。確認面からの深さは 17cm、覆土は 2 層に分かれる。遺物の出土はない。

SK12 (図版 23 写真図版 30) 9R-1G6 に位置する。確認面はIV層上面である。平面形は楕円形を呈し、長軸はN-43° -W を向く。長さは上端で 94cm、幅は 70cm である。断面は皿形を呈し、確認面からの深さ 22cm、覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK13 (図版 23 写真図版 30) 9R-1G6・11・12 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-34° -E を向く。上端で長さ 170cm、幅 130cm 測り、平面形は楕円形を呈する。遺構の深さは 32cm で、覆土は 5 層に分かれる。断面は台形を呈する。遺物の出土はない。

SK26 (図版 23 写真図版 30) 8R-3A2・3 に位置し、SD18 を切っている。検出面はⅢa層上面である。西半

が調査区外のため推定となるが、長軸はN-37°-Wを向き、平面形は円形を呈すると思われる。遺構の深さは50cmで、断面は半円形、覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

d) 性格不明遺構 (SX)

SX20 (図版 22・23 写真図版 30) 9R-1G24、9R-2G4・5・9に位置する。検出面はIV層上面だが、部分検出のため遺構の規模は不明である。長軸は推定でN-34°-Wを向く。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分かれる。確認面からの深さは24cmである。遺物は出土していない。

e) 河 跡 (図版 22)

調査区の中ほどに位置する河川状の落ち込み (河1・2) である。2箇所検出されているが、両者は同一の可能性もあり、まとめて記述する。サブトレンチによる観察では8R-4B2・3付近でIV層までの深さが約150cmある。堆積は未分解の植物遺体 (ガツボ) と細砂・粘土の互層となる。遺物は出土していない。

河1 8R-3A8～10・14・15・19・20・25、8R-3B11・16・21・22、8R-4B1～3・6～8・12～14・18～20に位置する。幅は上端で250cm、遺物の出土はない。

河2 8R-5C23・24、8R-6C3～5・8～10・14・15・19・20・25、8R-6D11・12・16～18・21～23、8R-7D1～3・6～8・12～14・18～20・24・25、8R-8D4・5・10、8R-8E1・6～8・11～13に位置する。幅は上端で430cmある。遺物は出土していない。

F 7 区 (図版 24～45 写真図版 31～61)

上端面積は6,461.6m²である。広域農道を挟んで北部 (606.4m²) と南部 (5,855m²) に分かれる。地表面から30～40cm程度で遺構確認面 (IV層) が露出するが、上層部はかなり攪乱されており、遺物包含層の残存は不良である。検出遺構は943基に及ぶ (第7表)。縦横に走り区画をなす溝を特徴とするが、前述のとおり地表から遺構確認面までが浅く、後世の攪乱をかなり受けているため、近世以後の遺構をかなり含んでいると思われる。

遺物は古代の須恵器・土師器、中世の土器・陶磁器を主体に112kg以上出土しており (第8表)、他の調査区を圧倒する。

a) 柱 穴 列 (SA)

直線的な列をなすピット群を柱穴列とした。2列確認されている。時期は不明であるが、近世以降の遺構に切られていること、SD108等の主要な遺構を切って構築されていることから、中世に帰属する遺構と思われる。

SA1 (図版 25・31・33 写真図版 34) 11R-6E24・25、11R-6F16・17・21、11R-7D13～18・21、11R-7E2～4・6・7に位置する。検出面はIV層上面で、P379、P396、P456、P458～P468、P471、P499～P504、P524、P525、P527から構成される。各ピットの断面は三角形を呈するものが多く、柱穴のような掘方も観察できないことから、杭状の柱材を直接打ち込んだものと思われ、長軸方向はN-63°-Eである。調査区外にも広がっている可能性があるため正確な全長は不明であるが、調査区内での長さ (P471～P527) は24.0mを測る。SB2・SD108等の遺構を切っているが、遺物が出土していないため時期は明確にしえない。

SA2 (図版 25・27・33) 11S-5D10・15・20・24・25、11S-6D4・9に位置する。検出面はIV層上面で、P722、P723、P725、P726から構成される。各ピットの断面が三角形を呈する傾向があるのはSA1と同様である。調査区外への広がり不明だが、確認されている範囲では長さ (P723～P726周辺) は14.9m、長軸方位N-18°-Eである。切合い関係にある遺構はない。

b) 掘立柱建物 (SB)

10棟検出されているが、柱穴と思われるピットは路線部を含めて数多く存在するため、抽出しきれなかった建物が存在すると思われる。したがって、当欄で記述したものが必ずしも掘立柱建物の実数ではない。

抽出された10棟については、[春日2009]にもとづき、平面形から分類を行っている (第6図)。梁間2間型が4棟、梁間1間型が6棟である。各説では建物を構成する遺構と規模 (桁行・梁行の総長)、身舎の面積を記載した。また、

SB1・8 など、柱間寸法が算出しえる場合は、文中に記載している。規模から見た場合、面積的なばらつきが大きく、SB3・SB9 などの 10m² 以下の梁間 1 間型のものは、居住用というよりも納屋・作業小屋程度のものと思われる。いずれも遺物は出土していない。

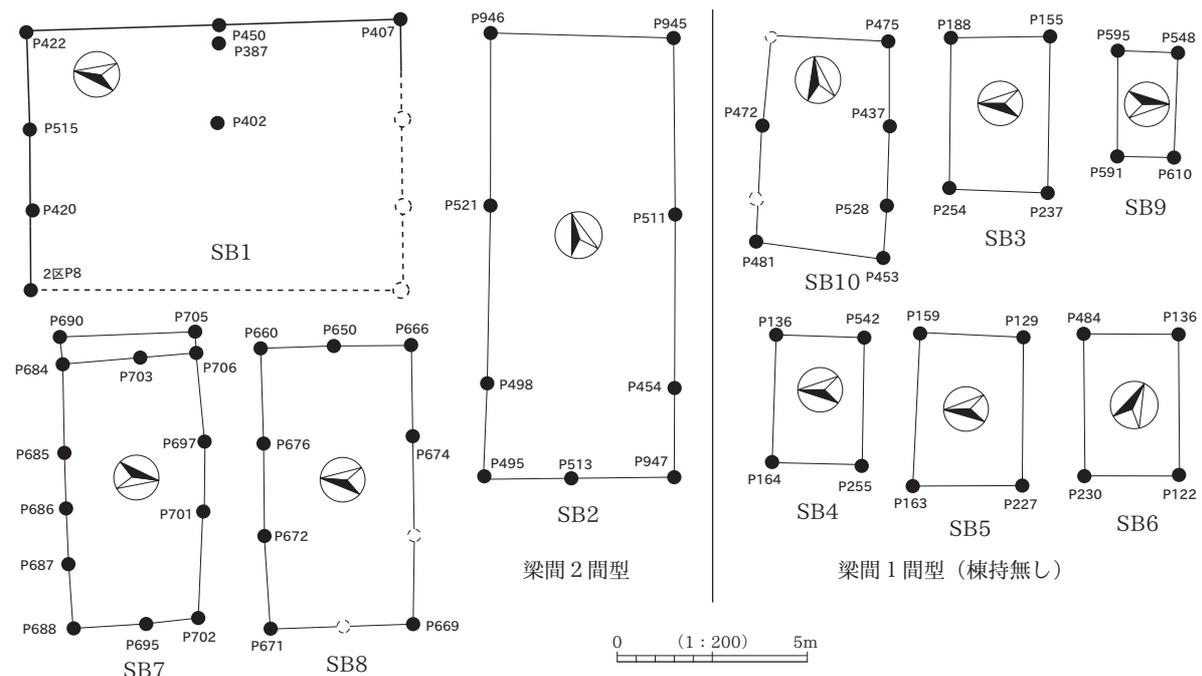
SB1 (図版 31・32・33 写真図版 34) 11R-7C9・10, 11R-7D6・7・11・12・16・17・20~23, 11R-9D1~3・7・8 に位置し、SA1 と SE399 に切られる。検出面はIV層上面で、P8 (2区)、P387、P402、P420、P422、P450、P407、P515 から構成される。南西部は調査区外となっているが、検出されている柱穴から、梁間 2 間型の建物と思われる。規模は桁行総長 6.3m (約 21 尺)、梁行総長約 4.8m (約 16 尺) で、柱間寸法は桁行がおおむね 180cm、梁行 230cm 程度である。身舎部分の面積は 30.2m² で、長軸は N-78° -E を指す。

SB2 (図版 31・34 写真図版 34) 11R-5E19・24・25, 11R-6E3~5・8~10・13~15・17~20・22~25, 11R-6F1・6・11, 11R-7E3・4・5 に位置し、SD108, SD423, SD193 に切られる。検出面はIV層上面で、P365, P454, P495, P498, P511, P513, P521, P945~947 から構成される。桁行総長約 11.8m (約 39.3 尺)、梁行総長約 5.1m (約 17 尺) の梁間 2 間型である。身舎の面積は 56.7m² で、長軸は N-19° -E を指す。明確な付帯施設は確認できなかったが、周囲のピット (P368, P448, P494, P496, P497, P507, P509, P522, P523, P530) から、庇などが存在した可能性もある。

SB3 (図版 31・35 写真図版 34) 11R-8G1~3・6~8 に位置する。検出面はIV層上面で、P155, P188, P237, P254 より成る。プランが SB4・5・6 と重なっているが、切合い関係は不明である。桁行総長約 4m (約 13.3 尺)、梁行総 2.5m (約 8.3 尺) の梁間 1 間型である。身舎の面積は 10.52m² で、長軸は N-72° -E を指す。付帯施設は認められない。

SB4 (図版 29・31・35 写真図版 34) 11R-8G2~4・7・8・12・13 に位置する。検出面はIV層上面で、P136・P164, P255・P542 より成る。プランが SB3・5・6 と重なっているが、切合い関係は不明である。桁行総長約 3.4m (約 11.3 尺)、梁行総長 2.5m (約 8.3 尺)、身舎面積は 7.88m² と小さな梁間 1 間型の建物である。長軸は N-76° -E を指す。付帯施設は認められない。

SB5 (図版 29・31・35 写真図版 34) 11R-8G1~4・6~9・11~13 に位置する。検出面はIV層上面で、P129, P159, P163, P227 より成る。プランが SB3・4・6 と重なっているが、切合い関係は不明である。梁



第 6 図 掘立柱建物の分類図

間1間型で、桁行総長約4.0m(約13.3尺)、梁行総長2.9m(約9.7尺)である。身舎の面積は11.46m²で、長軸はN-80°-Eを指す。付帯施設は認められない。

SB6(図版29・31・35 写真図版34) 11R-8G3・7～9・12～14に位置する。検出面はIV層上面で、P122、P136、P230、P484より成る。プランがSB3・4・5と重なっているが、切合い関係は不明である。桁行総長約4.7(約15.7尺)、梁行総長2.5m(約8.3尺)の梁間1間型である。身舎の面積は9.28m²で、長軸はN-35°-Wを指す。付帯施設は認められない。

SB7(図版30・33・34 写真図版35) 11R-4I21～25、11R-5I1～10に位置する。検出面はIV層上面で、P684～688、P690、P695、P697、P701～P703、P705、P706から構成されるが、主屋はP706、P702、P688、P684を頂点とする範囲で、P690とP705は庇であろう。梁間2間型に分類される。桁行総長約6.9m(約23尺)、梁行総長3.3m(約11尺)である。身舎の面積は23.01m²だが、庇を入れると27.1m²となり、SB10とほぼ同じになる。長軸はN-81°-Eを指す。P699が庇、SD683が雨落ち溝、SE704が井戸として付帯すると思われる。

SB8(図版28・30・34 写真図版35) 11R-6I10・15・20、11R-6J1～4・6～9・11～15に位置する。SD102、SD649、SE678に切られる。検出面はIV層上面で、P650、P660、P666、P669、P671、P672、P674、P676から構成される。一部がSD102、SD649、SE678等と重複している。桁行総長約7.4m(約24.7尺)、梁行総長3.9m(約13尺)、柱間寸法は桁行がおおむね210cm、梁行が170cm程度の梁間2間型である。身舎の面積は28.81m²で、長軸はN-84°-Eを指す。SE677が付帯施設と思われる。

SB9(図版28・35 写真図版35) 11R-8J24・25に位置する。検出面はIV層上面である。P548、P591、P595、P610で構成される梁間1間型の建物である。大きさは桁行総長2.8m(約9.3尺)、梁行総長1.5m(約5尺)、身舎の面積4.24m²と、検出された掘立柱建物の中では最も小さい。長軸はN-88°-Eを向く。付帯施設は認められない。

SB10(図版31・34 写真図版34) 11R-6D8～10・18～20・22～25に位置する。検出面はIV層上面である。SD423、SE434等に切られている。遺構はP437、P453、P472～475、P481、P528から構成される。桁行総長5.8m(約19.3尺)、梁行総長3.4m(約11.3尺)、柱間寸法は桁行が南部1単位が120cm、北部2単位は180cm、梁行が280cm程度の梁間1間型である。身舎の面積は18.59m²で、長軸はN-12°-Eを向く。付帯施設は認められない。

c) 溝 状 遺 構 (SD)

SD2(図版29・36 写真図版33・38) 11R-8F21、11R-9E10・15・20・25、11R-9F1・2・11・16・21・22・23・24、11R-10F3・4に位置し、SD47、SK97、SK200、SK537を切っている。検出面はIV層である。SD93・96と共に区画を形成する。主軸は東西N-74°-W、南北N-21°-E長さは上端で1,758cm、幅は上端で46cmを測る。確認面からの深さは44cmで、断面は皿形～台形を呈する。覆土は6層に分かれる。土師器、須恵器、礫、種子(モモ)が出土している。

SD17(図版29・36 写真図版38) 11R-10F9・10・14に位置し、IV層上面で検出される。主軸はN-41°-Eを向く。幅は上端で46cm、確認面からの深さは30cmで、断面はU字形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、黒色土器が出土している。

SD21(図版29・36 写真図版34・38) 11R-10E10・15、11R-10F6・11・12に位置する。検出面はIV層上面である。SK20、SX26を切っている。主軸方位はN-75°-Wである。遺構の規模は上端で長さ423cm、幅44cm、確認面からの深さは44cmで、断面はU字形を呈する。覆土は3層に分かれる。土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

SD30(図版28・29・31・36・37 写真図版34・36・39) 11R-8E14・15・19・20、11R-8F11～14・16～20・22～25、11R-8G16～25、11R-8H21～25、11R-8I21・22、11R-9H1～5・10、11R-9I1～10、

11R-9J1～3・6～10・14・15、11S-9A6～15、11S-9B6に位置する。検出面はIV層上面である。SK49、SX58、SX588、P208を切り、SD545、SK273、SX183、SX234、P182、P546、P582、P596に切られ、11R-8E14付近でSD108に接続する。主軸はN-82°-W、幅は上端で214cm、確認面からの深さは81cmで、断面は皿形～台形を呈する。覆土は15層に分かれる。土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、珠洲系の壺、中世土師器、土製品、鉄滓、礫、石製品、鉄製品が出土している。

SD47(図版28・29・31・36 写真図版34・36・39) 11R-8D24・25、11R-8E21・22、11R-8G10・15・20・25、11R-8H1・2・6～10・11・16・21、11R-8I6～12、11R-8J6～15、11R-9E1～5、11R-9F1～4・6～10・15、11R-9G5～7・9～15、11S-5A14・15・19・20・24・25、11S-6A5・10・15・20・25、11S-7A5・10・15・20・25、11S-8A5～15に位置し、SD96、SD643、SD872、SK537、SX372、P439、P616、P871を切り、SD2、SD102、SD607、SD609、SX540に切られ、11R-9G5付近でSD30に、11R-9E3付近でSD108に、11R-8H6付近でSD133に接続する。検出面はIV層上面である。軸は東西N-78°-W、南北N-20°-Eを指向し、幅は上端で85cm、確認面からの深さは72cmで、断面は皿形～台形を呈する。覆土は9層に分かれる。土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、珠洲焼、鉄滓、銭貨が出土している。

SD93(図版29・37 写真図版33・40) 11R-9E15、11R-9F11・12・16～19・24に位置する。検出面はIV層上面である。SK98、SK141を切り、SD2・96と共に区画を形成する。主軸はN-72°-Wを向き、遺構の規模は上端で長さ764cm、幅51cm、確認面からの深さは29cmで、断面は台形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、黒色土器、種子(モモ)が出土している。

SD96(図版29・37 写真図版33・40) 11R-9F10・15・19・20に位置し、SD2・93と共に区画を形成する。検出面はIV層上面である。SD47に切られる。主軸方位はN-18°-Eを向く。幅は上端で57cm、確認面からの深さは4cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD102(図版30・37 写真図版40) 11R-6H21、11R-6I25、11R-6J7・11・12・16・17・21、11R-7G5・10・15、11R-7H1・11・12・17～19・24・25、11R-7I5・9・10・14・18・19・21・23、11R-8I1～3に位置する区画溝である。検出面はIV層上面で、SB10、SD47、SD133、SD191～SD193を切り、P104、P107、P198に切られる。主軸は東西N-63°-W、南北N-20°-Eを指向し、幅は上端で29cm、確認面からの深さは6cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。モモの種子が出土している。

SD108(図版29・31・36・37 写真図版36・37・39) 11R-5E10・14・15・19・20・24・25、11R-6E4・5・9・10・14・15・18～20・23～25、11R-7E3～5・8～10・13～15・18～20・23・24、11R-8E2～4・7～9・12～14・17～19・22～24、11R-9E2～4・7～9・12～14・17・18・22・23、11R-10E3に位置し、SB2、SD190、SD532、SK205、SK206、P299、P300、P533を切り、SA1、SD193、SD383、SK354、P349、P362、P380、P508、P530、P531、P534に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-5°-Eを向き、幅は上端で276cm、確認面からの深さは88cm、断面は皿形～台形を呈する。覆土は17層に分かれる。土師器、須恵器、珠洲焼、中世土師器、緑釉陶器、礫、鉄製品が出土している。

SD133(図版28・30・35・37 写真図版34・37・40) 11R-4H21・22、11R-5H2・6・7・11・12・16・17・21・22、11R-6H1・2・6・7・11・12・16・17・21、11R-7H1・6・11・16・21・22、11R-8H1・6ほかに位置する区画溝で、SK202、SX693を切り、SD102、SD267、SD607、SD609、SD624に切られ、11R-4H22でSD267に接続する。検出面はIV層上面である。軸は東西N-88°-W、南北N-3°-E、幅は上端で108cm、確認面からの深さは40cmで、断面は皿形～台形を呈する。覆土は8層に分かれる。土師器、珠洲焼、鉄滓が出土している。

SD190(図版31・37 写真図版34・41) 11R-6E14・19・20、11R-6F16～18・23～25、11R-7F5、11R-7G1・2・6～9に位置し、SD382、P398を切り、SD108、P199に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-68°-Wを向き、幅は上端で26cm、確認面からの深さは12cmで、断面は半円形を呈する。覆土は2層に分かれる。

遺物は出土していない。

SD191 (図版 31・37 写真図版 34・41) 11R-6F13・18～20・25、11R-6G21・22、11R-7G2～4・9・10 に位置し、SD102、P189 に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-63°-Wを向く。幅は上端で34cm、確認面からの深さは20cmで、断面は半円形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD192 (図版 31・37 写真図版 34・41) 11R-6F1・2・7～9、13～15・20、11R-6G11・16・17・22～24、11R-7G4・5 に位置し、SD224 を切り、SD102、P368 に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-61°-Wを向く。幅は上端で49cm、確認面からの深さは43cmで、断面は台形を呈する。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SD193 (図版 31・37 写真図版 34・41) 11R-5E25、11R-5F21、11R-6D5、11R-6E1～5、11R-6F1～3・7～10・14・15、11R-6G11・12・16～18・23～25、11R-7G5、11R-7H1 に位置し、SB2、SD108、SD224、P225 を切り、SD102、SX430 に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-61°-Wを向く。幅は上端で67cm、確認面からの深さは93cmで、断面は台形を呈する。覆土は8層に分かれる。土師器、須恵器、鉄製品が出土している。

SD207 (図版 31・37 写真図版 34・41) 11R-6G11～13・18 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-61°-Wである。幅は上端で20cm、確認面からの深さは4cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD224 (図版 31・37 写真図版 34・41) 11R-6F1・2・7～9・14・15、11R-6G11・16～18・23・24 に位置する。検出面はIV層上面である。SD192・193 に切られるため遺構の平面規模は不明だが、主軸はN-61°-Wを指向するようである。確認面からの深さは14cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD267 (図版 30・38 写真図版 34・41) 11R-4F20・24・25、11R-4G16・17・21～25、11R-4H16～23、11R-4I16～18 に位置し、SD133、SD367、SK319 を切り、SD268、SD432、SK394、P322、P323 に切られている。検出面はIV層である。11R-4H22 でSD133 と接続し、区画の一部を形成する。軸はN-82°-Eを指向し、幅は上端で119cm、確認面からの深さは60cmで、断面は皿形～台形を呈する。覆土は7層に分かれる。軽石と礫が出土している。

SD268 (図版 30・38 写真図版 34・41・42) 11R-4G20・25、11R-4H7・11・12・16、11R-5G4・5 に位置し、SD267、SK317、SK319、SX694、P275、P325 を切る。検出面はIV層上面である。主軸はN-32°-Eを向く。幅は上端で50cm、確認面からの深さは20cmで、断面は台形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD382 (図版 31・37 写真図版 34・42) 11R-6E20、11R-6F6・11・16 に位置し、SD190 に切られる。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-25°-Eである。長さは上端で430cm、幅は20cm、確認面からの深さは4cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD390 (図版 31・38 写真図版 34・42) 11R-5F8・12・13・17・18・22 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-27°-Eを指向し、幅は上端で21cm、確認面からの深さは22cmで、断面はU字形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD413 (図版 31・38 写真図版 34・42) 11R-6D20・24・25、11R-7D4・5・9・14 に位置し、SD470 に切られる。検出面はIV層である。主軸方位はN-18°-Eである。遺構の規模は上端で長さ740cm、幅55cm、確認面からの深さは9cmで、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD423 (図版 31・38 写真図版 34・42) 11R-6D8・9・13～15・20、11R-6E4・5・9・10～14・16～19 に位置し、SB2・SB10 を切り、SD427、SD487、P526 に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-79°-Wを向く。幅は上端で100cm、確認面からの深さは66cmで、断面は皿形を呈する。覆土は7層に分かれる。土

師器、唐津焼、近世陶磁器が出土している。

SD428 (図版 31・38) 11R-6E4・9 に位置し、SD108、SD423 を切っている。検出面はIV層上面である。主軸はN-5° -E を向く。長さは上端で180cm、幅は24cm、確認面からの深さは25cmで断面は台形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD487 (図版 31・38 写真図版 34・43) 11R-6D5・10・15、11R-6E1・6 に位置する。検出面はIV層上面である。SD423 に切られる。主軸はN-7° -E を向く。幅は上端で32cm、確認面からの深さは12cmで、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD607 (図版 27・28・36 写真図版 39) 11S-5B19・23・24、11S-6B3・7・8・12・13・17・21・22、11S-7A10・15・19・20・24・25、11S-7B1・6、11S-8A4・8・9 に位置し、SD47、SD133、SD635、SD872 を切り、P641 に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-23° -E を向く。幅は上端で28cm、確認面からの深さは18cmで、断面はU字形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD635 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-6B8～10・15、11S-6C6・11～15・19・20、11S-6D16～18・23 に位置し、SD636 を切り、SD607 と P638 に切られる。検出面はIV層上面で、主軸はN-75° -W を向く。幅は上端で32cm、確認面からの深さは10cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD636 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-6C14・15、11S-6D11・16 に位置し、SD635、SD712、SD714 に切られる。確認面はIV層上面である。主軸はN-78° -W を向く。幅は上端で18cm、確認面からの深さは6cmで、断面は台形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD662 (図版 30・38 写真図版 35・43) 11R-5J6・11・16・17・21・22、11R-6J1・2 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-13° -W を向く。長さは上端で815cm、幅は53cm、確認面からの深さは23cmで、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD712 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-5D2・7・12・17・22、11S-6D2・7・11・12・16・17 に位置する。検出面はIV層上面である。SD715 に切られる。軸は東西N-79° -W、南北N-8° -Eを指向し、幅は上端で32cm、確認面からの深さは16cmで、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD713 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-6D17・18 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-80° -W を向く。幅は上端で30cm、確認面からの深さは17cmで、断面は半円形を呈する。覆土は2層である。遺物は出土していない。

SD714 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-5D2・7・12・17・22、11S-6D1・2・6・11・16、11S-4D22・23 に位置し、SD636 を切り、SD715、SX720 に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-13° -E を向く。幅は上端で32cm、確認面からの深さは28cmで、断面はU字形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD715 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-6C5、11S-6D1・6～9 に位置し、SD712、SD714 を切る。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-72° -W である。遺構の規模は上端で長さは上端で761cm、幅30cm、確認面からの深さは13cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD716 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-5D7・12・16・17 に位置し、SX720 に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-83° -W を向く。幅は上端30cm、確認面からの深さは50cmで、断面は皿形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SD718 (図版 27・38 写真図版 44) 11S-4D13～15・19・20、11S-4E16～18・23、11S-5E2・3・7・8・12・17・21・22、11S-6D20・25、11S-6E1・2・6・11・16・21、11S-7D5 に位置し、SD770 と SD773 を切る。検出面はIV層上面である。主軸はN-13° -E を向く。幅は上端で36cm、確認面からの深さは51cmで、断面はU字形を呈する。覆土は3層に分かれる。砥石が出土している。

SD719 (図版 27・39 写真図版 44) 11S-4D13～15・20、11S-4E11・16～18・23、11S-5E3・7・8・12・

13・17・22、11S-6E1・2・6・7・11・16・21、11S-7D5・10、11S-7E1・6に位置し、SD770を切っている。検出面はIV層上面である。主軸はN-13°-Eを向く。幅は上端で35cm、確認面からの深さは36cmで、断面は皿形～台形を呈する。覆土は2層に分かれる。珠洲焼が出土している。

SD773 (図版27・39 写真図版44) 11S-4D14・19・20に位置し、SD718に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-69°-Eを向く。幅は上端で20cm、確認面からの深さは6cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD775 (図版26・39 写真図版37・44) 11S-2F4・5・9・10・14・15・20・25、11S-2G11・16・17・21・22、11S-3F5、11S-3G1・2・6・7・11～13・16～18・22・23、11S-4G2～4・8・9・13・14・18～20に位置し、SD808、SD856、SK777、SX841、SX932、P867、P874に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-20°-Wを指向する。幅は上端で253cm、確認面からの深さは87cmで、断面は不整なV字形を呈する。覆土は15層に分かれる。土師器、須恵器、鉄製品が出土している。

SD808 (図版26・39 写真図版37・44) 11S-2G23、11S-3G3・8・13・18・23に位置し、SD775を切る。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-13°-Eである。遺構の規模は上端で長さ推定986cm、幅45cm、確認面からの深さは14cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD837 (図版26・39 写真図版44) 11S-4F4・5、11S-4G1に位置し、IV層上面で検出される。主軸方位はN-70°-Wである。遺構の規模は上端で長さ269cm、幅29cm、確認面からの深さは8cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD878 (図版26・39 写真図版44) 11S-3F25、11S-3G21に位置し、P852に切られる。検出面はIV層上面で、主軸はN-47°-Wを向く。幅は上端で32cm、確認面からの深さは8cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD918 (図版26・39 写真図版44) 11S-1G14・19・24、11S-2G4に位置する。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-7°-Eである。遺構の規模は上端で長さ528cm、幅21cm、確認面からの深さは4cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

d) 井 戸 (SE)

SE399 (図版31・40 写真図版45) 11R-7D7・8・12・13に位置する。検出面はIV層上面である。SB2を切っている。遺構の規模は上端で長さ164cm×幅148cm、確認面からの深さは110cmで、平面形は円形、断面はU字形を呈する。覆土は13層に分かれる。遺物は出土していない。

SE434 (図版31・40 写真図版45) 11R-6D18・23に位置する。検出面はIV層上面である。SB18を切っている。規模は上端で長さ177cm×幅推定125cm、確認面からの深さは92cmで、平面形は楕円形、断面はU字形を呈する。覆土は12層に分かれる。鉄製品が出土している。

SE677 (図版28・40 写真図版45) 11R-6J14・15に位置し、P667に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ149cm×幅143cm、確認面からの深さは127cmで、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は13層に分かれる。須恵器・珠洲焼・木片が出土している。SB8に付帯する可能性がある。

SE678 (図版28・40 写真図版45・46) 11R-6J13・14・18・19に位置する。検出面はIV層上面である。SB10を切っている。規模は上端で長さ133cm×幅106cm、確認面からの深さは120cmで、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は8層に分かれる。砥石・礫が出土している。

SE704 (図版30・40 写真図版46) 11R-5I11・12・17に位置する。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ178cm×幅167cm、確認面からの深さは93cmで、平面形は円形、断面U字形を呈する。覆土は9層に分かれる。土師器、須恵器、珠洲焼が出土している。SB7に付帯する可能性がある。

e) 土 坑 (SK)

SK1 (図版29・41 写真図版46) 11R-10E3・4・8・9・10・14に位置する。検出面はIV層上面である。遺構

の過半が調査区外にあるため規模は測定不能。確認面からの深さは28cmで、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、黒色土器、須恵器、鉄滓が出土している。

SK18 (図版29・41 写真図版46) 11R-10F7・12に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-45°-Eである。規模は上端で長さ137cm×幅118cm、確認面からの深さは10cmで、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK20 (図版29・36 写真図版38) 11R-10E10・15、11R-10F6・11に位置し、SK24を切り、SD21に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ170cm×幅149cm、確認面からの深さは16cmある。平面形は楕円形、断面形は皿形を呈する。覆土は1層に分かれる。土師器無台椀が1層から出土している。

SK22 (図版29・41 写真図版47) 11R-10E20、11R-10F16に位置し、SK23を含む。検出面はIV層上面である。遺構の過半が調査区外にあるため規模は測定不能、確認面からの深さは13cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK23 (図版29・41 写真図版47) 11R-10E20に位置し、SK22に含まれる。検出面はIV層上面である。規模は不明である。確認面からの深さは60cmで、平面形は不明、断面は皿形～台形を呈する。覆土は7層に分かれる。遺物は出土していない。

SK28 (図版29・41 写真図版47) 11R-10F1に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-60°-Wである。規模は上端で長さ63cm×幅56cm、確認面からの深さは24cmで、平面形は方形、断面は不整なV字形を呈する。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK34 (図版29・41 写真図版47) 12R-1F25、12R-1G21、12R-2G1に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は推定N-41°-Wである。規模は上端で長さ推定212cm×幅86cm、確認面からの深さは22cmで、平面形は不整形、断面は皿形～V字形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器が出土している。

SK50 (図版28・41 写真図版47) 11R-9I7に位置し、P52を含みSK53を切っている。検出面はIV層上面である。長軸はN-60°-Wである。規模は上端で長さ74cm×幅46cm、確認面からの深さは9cmで、平面形は楕円形、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK53 (図版28・41 写真図版48) 11R-9I7・8に位置し、SD51を切って、SK50に切られる。検出面はIV層上面である。長軸はN-20°-Eを向く。規模は上端で長さ63cm×幅36cm、確認面からの深さは56cmで、平面形は楕円形、断面はV字形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK56 (図版28・29・41 写真図版48) 11R-8I15・20に位置し、P67を切っている。検出面はIV層上面である。長軸はN-12°-Eを向く。規模は上端で長さ166cm×幅142cm、確認面からの深さは32cmで、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、須恵器、黒色土器、軽石等が多く出土し、一括廃棄に近い状況を示す。

SK68 (図版29・41 写真図版48) 11R-10F10に位置し、SK69に切られる。検出面はIV層上面である。遺構の長さは測定不能だが、幅は32cmある。確認面からの深さは9cmで、平面形は不明、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。土師器と須恵器が出土している。

SK69 (図版28・29・41 写真図版48) 11R-10F10に位置し、検出面はIV層上面である。SK68を切っている。側溝に破壊されているため、遺構の長さは測定不能だが、幅は44cmある。確認面からの深さは20cmで、平面形は不明、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。土師器が出土している。

SK76 (図版29・41 写真図版48) 11R-9E24・25に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-35°-Wである。規模は上端で長さ71cm×幅60cm、確認面からの深さは15cmで、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK77 (図版29・41 写真図版49) 11R-9E25に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-40°-Wである。規模は上端で長さ72cm×幅64cm、確認面からの深さは18cmで、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆

土は3層に分かれる。土師器が出土している。

SK86 (図版29・41 写真図版49) 11R-9F21に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-35°-Wである。規模は上端で長さ70cm×幅62cm、確認面からの深さは20cmで、平面形は円形、断面は半円形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK90 (図版29・42 写真図版49) 11R-9F16・17に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-65°-Wである。規模は上端で長さ54cm×幅32cm、確認面からの深さは8cmで、平面形は楕円形、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK92 (図版29・42 写真図版49) 11R-9F13・14・19に位置し、SK116とSX143を切っている。検出面はIV層上面である。長軸はN-78°-Wである。規模は上端で長さ170cm×幅99cm、確認面からの深さは16cmで、平面形は楕円形、断面は皿形を呈する。覆土は3層に分かれる。土師器、須恵器、礫、粘土塊等が出土している。

SK97 (図版29・42 写真図版50) 11R-9F16・21に位置し、SD2に切られる。検出面はIV層上面である。長さは不明だが、幅は71cmある。確認面からの深さは20cmで、平面形は不明、断面は皿形を呈する。覆土は3層に分かれる。土師器、須恵器、木片が出土している。

SK98 (図版29・42 写真図版33・50) 11R-9F17・18・22・23に位置する。SK99を切り、SD93に切られる。検出面はIV層上面である。長さは不明だが、幅は推定58cm、確認面からの深さは19cmで、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK99 (図版29・42 写真図版50) 11R-9F17・18に位置し、SK98・SD93に切られる。検出面はIV層上面である。攪乱により遺構の平面規模は測定不能である。確認面からの深さは34cmを測る。平面形は不整楕円形、断面は不整な皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK116 (図版29・42 写真図版49・50) 11R-9F13・14に位置し、SX92・SX143に切られる。検出面はIV層上面である。長軸はN-70°-Wを指向する。規模は上端で長さ203cm×幅124cm、確認面からの深さは15cmで、平面形は楕円形、断面は皿形を呈する。覆土は3層に分かれる。土師器と鉄滓が出土している。

SK140 (図版29・42 写真図版50・51) 11R-9F17に位置し、SD93に切られる。検出面はIV層上面である。遺構の規模、平面形は不明。確認面からの深さは25cmで、断面は皿形を呈する。覆土は3層に分かれる。土師器が出土している。

SK141 (図版29・42 写真図版51) 11R-9F19に位置し、SD93に切られる。検出面はIV層上面である。遺構の長さはSD93による攪乱で測定不能だが、幅は112cm、確認面からの深さは7cmを測る。平面形は不明、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、須恵器、礫等のまとまった出土がある。

SK145 (図版23・42 写真図版51・52) 11R-9F11・12に位置し、検出面はIV層上面である。長軸はN-50°-Wを向く。規模は上端で長さ267cm×幅213cm、確認面からの深さは16cmで、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、礫、軽石がまとめて出土している。

SK194 (図版31・42 写真図版52) 11R-6H21に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-68°-Eである。規模は上端で長さ38cm×幅32cm、確認面からの深さは40cmで、平面形は方形、断面はU字形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK195 (図版29・42 写真図版52) 11R-9E23・24に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-60°-Wである。規模は上端で長さ42cm×幅35cm、確認面からの深さは18cmで、平面形は楕円形、断面は半円形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK200 (図版31・42 写真図版52) 11R-8F21・22、11R-9F1に位置し、SD2に切られる。検出面はIV層である。長軸はN-75°-Eを向く。規模は上端で長さ推定86cm×幅推定80cm、確認面からの深さは12cmで、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK201 (図版29・43 写真図版53) 11R-9G3・4に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-22°-Eを向

く。規模は上端で長さ 112cm × 幅 88cm、確認面からの深さは 22cm で、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は 4 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK202 (図版 31・43 写真図版 53) 11R-7G20・25、11R-7H16・21 に位置し、SD133 に切られる。検出面はIV層上面である。遺構の長さは不明だが、幅は上端で 51cm、確認面からの深さは 24cm ある。平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は 2 層に分かれる。土師器が出土している。

SK250 (図版 30・31・43 写真図版 52・53) 11R-5G17・22 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-80° -W である。規模は上端で長さ 96cm × 幅 60cm、確認面からの深さは 24cm で、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK273 (図版 31・43 写真図版 53) 11R-8E20、11R-8F16 に位置し、SD30 に切られる。検出面はIV層上面である。長軸は推定 N-80° -E である。規模は上端で長さ推定 67cm × 幅推定 37cm、確認面からの深さは 24cm で、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK292 (図版 31・43 写真図版 54) 11R-7F23、11R-8F3 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-70° -E である。規模は上端で長さ 61cm × 幅 54cm、確認面からの深さは 3cm で、平面形は不整形、断面は半円形を呈する。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK317 (図版 30・38 写真図版 42) 11R-4G24・25、11R-5G4・5 に位置し、SD268 に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ測定不能、幅 86cm、確認面からの深さは 22cm で、平面形は不明、断面は皿形を呈する。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK324 (図版 31・43 写真図版 54) 11R-9E6・11 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-40° -W である。規模は上端で長さ 95cm × 幅 90cm、確認面からの深さは 16cm で、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK409 (図版 31・43 写真図版 54) 11R-7D21・22、11R-8D1・2 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は推定で N-109° -W を向く。規模は上端で長さ推定 103cm × 幅 85cm、確認面からの深さは 29cm で、平面形は不明、断面は半円形を呈する。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK411 (図版 31・43 写真図版 54) 11R-7E16・17 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-15° -W を向く。規模は上端で長さ 116cm × 幅 112cm、確認面からの深さは 29cm で、平面形は方形、断面は皿形を呈する。覆土は 4 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK414 (図版 31・43 写真図版 55) 11R-7D5・10・15 に位置し、IV層上面で検出される。長軸は N-24° -E である。遺構の規模は上端で長さ 271cm × 幅推定 104cm、確認面からの深さは 26cm で、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK442 (図版 29・43 写真図版 55) 11R-9F7 に位置し、IV層上面で検出される。長軸は N-60° -W である。規模は上端で長さ 96cm × 幅 84cm、確認面からの深さは 17cm で、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆土は 2 層に分かれる。土師器が出土している。

SK488 (図版 31・43 写真図版 55) 11R-6D4・5・9・10 に位置し、SK535 に切られる。検出面はIV層上面である。遺構の過半が調査区外のため、長さは不明。幅は上端で推定 185cm、確認面からの深さは 62cm ある。平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は 7 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK575 (図版 28・44 写真図版 55・56) 11R-7J21・22、11R-8J1・2 に位置し、SK576 を切り、P580 に切られる。検出面はIV層上面である。長軸は N-26° -E を向く。規模は上端で長さ 357cm × 幅 280cm、確認面からの深さは 30cm で、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は 4 層に分かれる。土師器、黒色土器、礫、鉄製品がまとまって出土し、一括廃棄に近い状況である。

SK576 (図版 28・44 写真図版 55・56) 11R-7J22 に位置し、SK575 に切られる。検出面はIV層上面で、長軸は N-32° -E を向く。規模は上端で長さ 136cm × 幅 80cm、確認面からの深さは 33cm で、平面形は不整形、

断面は皿形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK577 (図版28・44 写真図版56) 11R-8J2～4・8・9に位置し、P584を切る。IV層上面で検出され、長軸はN-56°-Eを指向する。規模は上端で長さ267cm×幅250cm、確認面からの深さは29cmで、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は6層に分かれる。土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器がまとまって出土している。

SK597 (図版28・44 写真図版56) 11S-8B7・8に位置し、IV層で検出される。長軸はN-90°-Eである。遺構の規模は上端で長さ55cm、幅48cm、確認面からの深さは13cmで、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK601 (図版28・44 写真図版56) 11S-7B22・23、11S-8B2・3に位置し、IV層上面で検出される。長軸はN-47°-Eである。規模は上端で長さ210cm×幅194cm、確認面からの深さは25cmで、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆土は5層に分かれる。軽石が出土している。

SK681 (図版30・44 写真図版57) 11R-4I21に位置し、IV層上面で検出される。長軸はN-75°-Eである。規模は上端で長さ78cm×幅76cm、確認面からの深さは24cmで、平面形は円形、断面は台形を呈する。覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

SK682 (図版30・44 写真図版57) 11R-4I21・22に位置し、IV層上面で検出される。長軸はN-53°-Wを向く。規模は上端で長さ80cm×幅52cm、確認面からの深さは36cmで、平面形は不整形、断面は箱形を呈する。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK799 (図版27・44 写真図版57) 11S-6F4に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-57°-Eを向く。規模は上端で長さ49cm×幅33cm、確認面からの深さは22cmで、平面形は楕円形、断面は階段状を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK899 (図版26・44 写真図版57) 11S-2H7に位置し、IV層上面で検出される。長軸はN-60°-Wを向く。規模は上端で長さ46cm×幅32cm、確認面からの深さは20cmで、平面形は楕円形、断面は不整形半円形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

f) 性格不明遺構 (SX)

SX26 (図版29・45 写真図版58) 11R-10F12に位置し、SX144を切り、SD21に切られている。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ推定96cm×幅推定74cm、確認面からの深さは12cmで、平面形は不明、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。土師器が出土している。

SX58 (図版29・45 写真図版57) 11R-8I24・25、11R-9I4・5に位置し、SD30に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ200cmあるが、SD30の攪乱により、幅は不明である。確認面からの深さは13cmで、平面形は不明、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SX106 (図版29・45 写真図版58) 11R-8I4・9に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-0°である。規模は上端で長さ94cm×幅39cm、確認面からの深さは12cmで、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX118 (図版29・45 写真図版58) 11R-7H24・25、11R-8H5に位置し、SX119を切る。検出面はIV層上面である。長軸はN-53°-Wを向く。遺構の規模は上端で長さ90cm×幅69cm、確認面からの深さは50cmで、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SX119 (図版29・45 写真図版58) 11R-7H25に位置し、SX118に切られる。検出面はIV層上面で、長軸はN-42°-Eを指向する。SX118の攪乱により、正確な規模は不明ながら、幅は上端で36cm、確認面からの深さは10cmある。平面形は不明、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX144 (図版29・45 写真図版58・59) 11R-10F11・12・16・17に位置し、SX26、P27、P60、P61に切られる。検出面はIV層上面で、長軸はN-44°-Wを向く。規模は上端で長さ210cm×幅176cm、確認面からの深さは

20cm で、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆土は単層で、土師器、須恵器が出土している。

SX327 (図版 30・45 写真図版 59) 11R-4G17・18 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-35° -E である。規模は上端で長さ 63cm × 幅 32cm、確認面からの深さは 6cm で、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX328 (図版 30・45 写真図版 59) 11R-4G20 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-15° -E である。規模は上端で長さ 108cm × 幅 102cm、確認面からの深さは 14cm で、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX550 (図版 29・45 写真図版 59) 11R-8J18 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-50° -W である。規模は上端で長さ 79cm × 幅 30cm、確認面からの深さは 11cm で、平面形は不整形、断面は緩いV字形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SX693 (図版 30・45 写真図版 60) 11R-4H22・23、11R-5G2・3 に位置し、SD133 に切られる。検出面はIV層上面で、長さはSD133の攪乱により測定不能だが、幅は上端で 69cm、確認面からの深さは 30cm ある。平面形は不明、断面はV字形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SX694 (図版 30・38 写真図版 42) 11R-4H11・16 に位置し、SD268 に切られる。検出面はIV層上面で、長軸は N-54° -E を向く。長さはSD268の攪乱により不明、幅は上端で 84cm、確認面からの深さは 4cm で、平面形は不明、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX743 (図版 27・45 写真図版 60) 11S-5F19・24 に位置し、SX742 を切り、P744 に切られる。検出面はIV層上面で、長軸は N-28° -E を向く。規模は上端で長さ 90cm × 幅 43cm、確認面からの深さは 11cm で、平面形は長円形、断面は不整半円形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX807 (図版 26・39 写真図版 60) 11S-3G16・17 に位置し、SD775 に含まれる。検出面はIV層上面である。長軸は N-20° -W である。規模は上端で長さ 81cm × 幅 55cm、確認面からの深さは 23cm で、平面形は楕円形、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

g) ピ ッ ト (P)

掲載遺物が出土しているピットについて、記載した。

P70 (図版 29・45 写真図版 60) 11R-8I19・20 に位置する。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ 52cm × 幅 40cm、確認面からの深さは 23cm。平・断面とも不整形を呈す。柱穴と思われるが判然としない。土師器、須恵器が出土している。

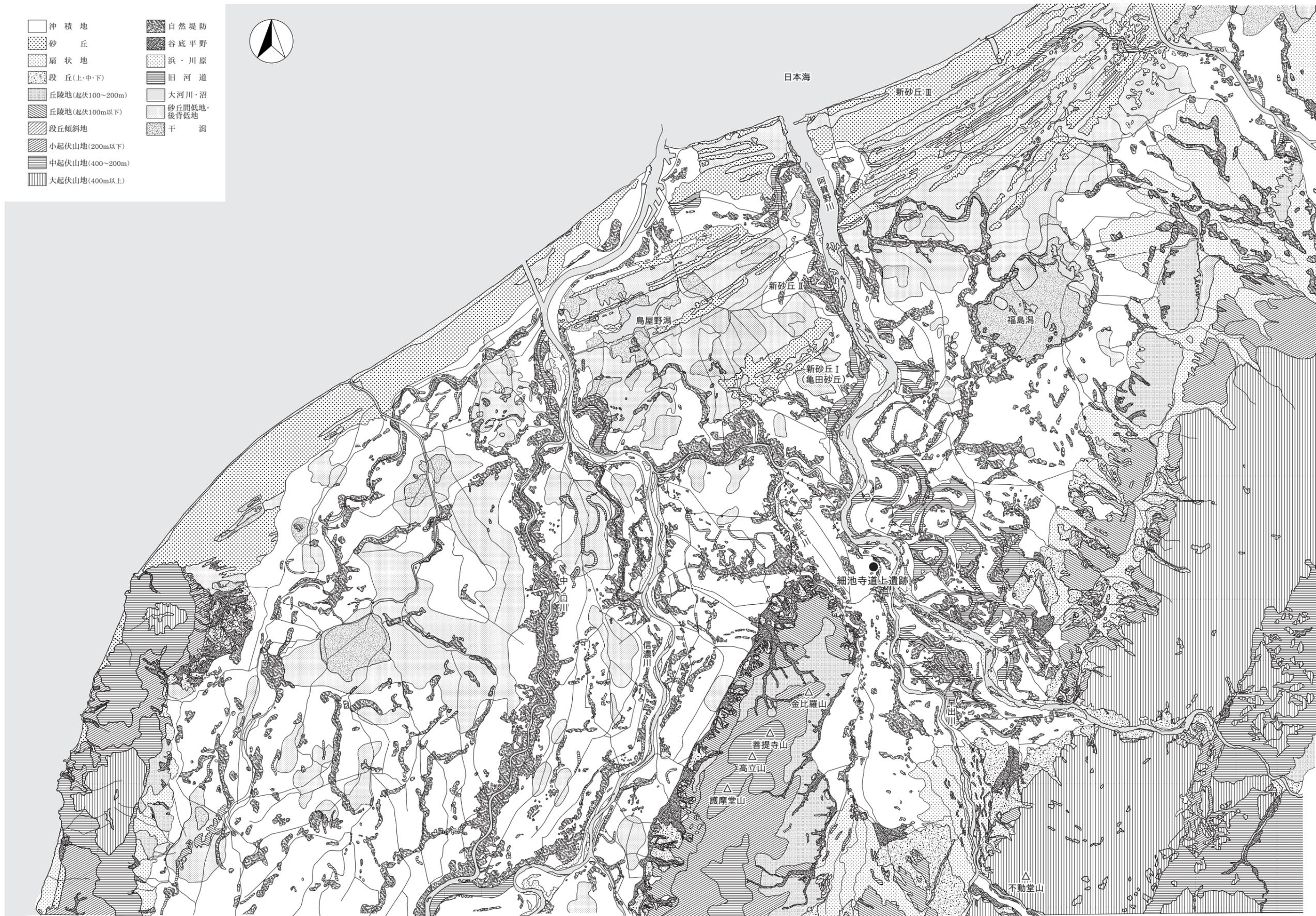
P229 (図版 31・45 写真図版 60) 11R-6F5 に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は N-70° -W を向く。規模は上端で長さ 46cm × 幅 34cm、確認面からの深さは 31cm で、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

P421 (図版 31・45 写真図版 60) 11R-6D19 に位置する。検出面はIV層上面である。遺構の規模は上端で長さ 37cm、幅 31cm、確認面からの深さは 44cm。平面形は円形で、断面はU字形を呈す形状から柱穴であろう。遺物は出土していない。

P581 (図版 28・45 写真図版 61) 11S-8A17 に位置し、P572 に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ 24cm × 幅 18cm、平面形は円形で、断面はU字形を呈す。深さは 6cm。土師器が出土している。

P584 (図版 28・44 写真図版 61) 11R-8J3・8 に位置し、SK577 に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ 65cm × 幅 40cm、深さは 16cm。平面形は不整な楕円形、断面は皿形である。土師器、黒色土器等が出土している。

P692 (図版 30・45 写真図版 61) 11R-5I4 に位置する。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ 28cm × 幅 25cm、確認面からの深さは 42cm。平面形は円形で、断面はU字形を呈す。形状から柱穴であろう。鉄製品が出土している。



第1図 新潟市周辺地形分類図

0 (1:150,000) 5km
 国土地理院発行『2万5千分の1土地条件図 新潟・内野・新津・弥彦・三条・新発田』をもとに作成

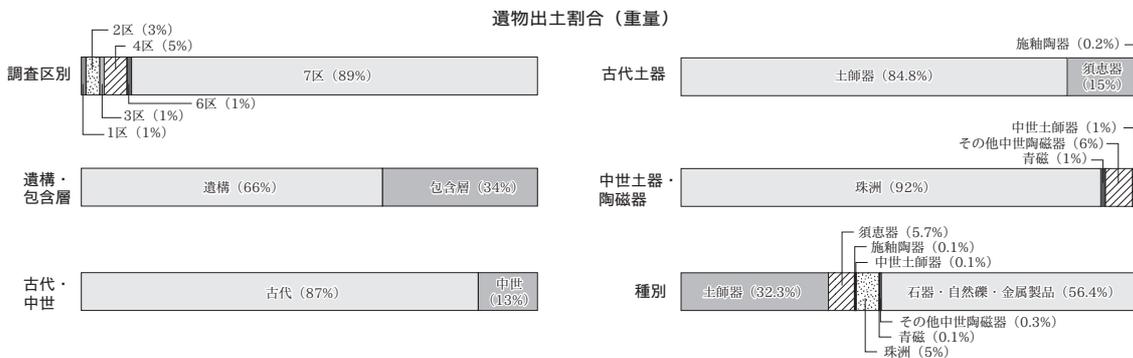
第V章 遺物

第1節 概要

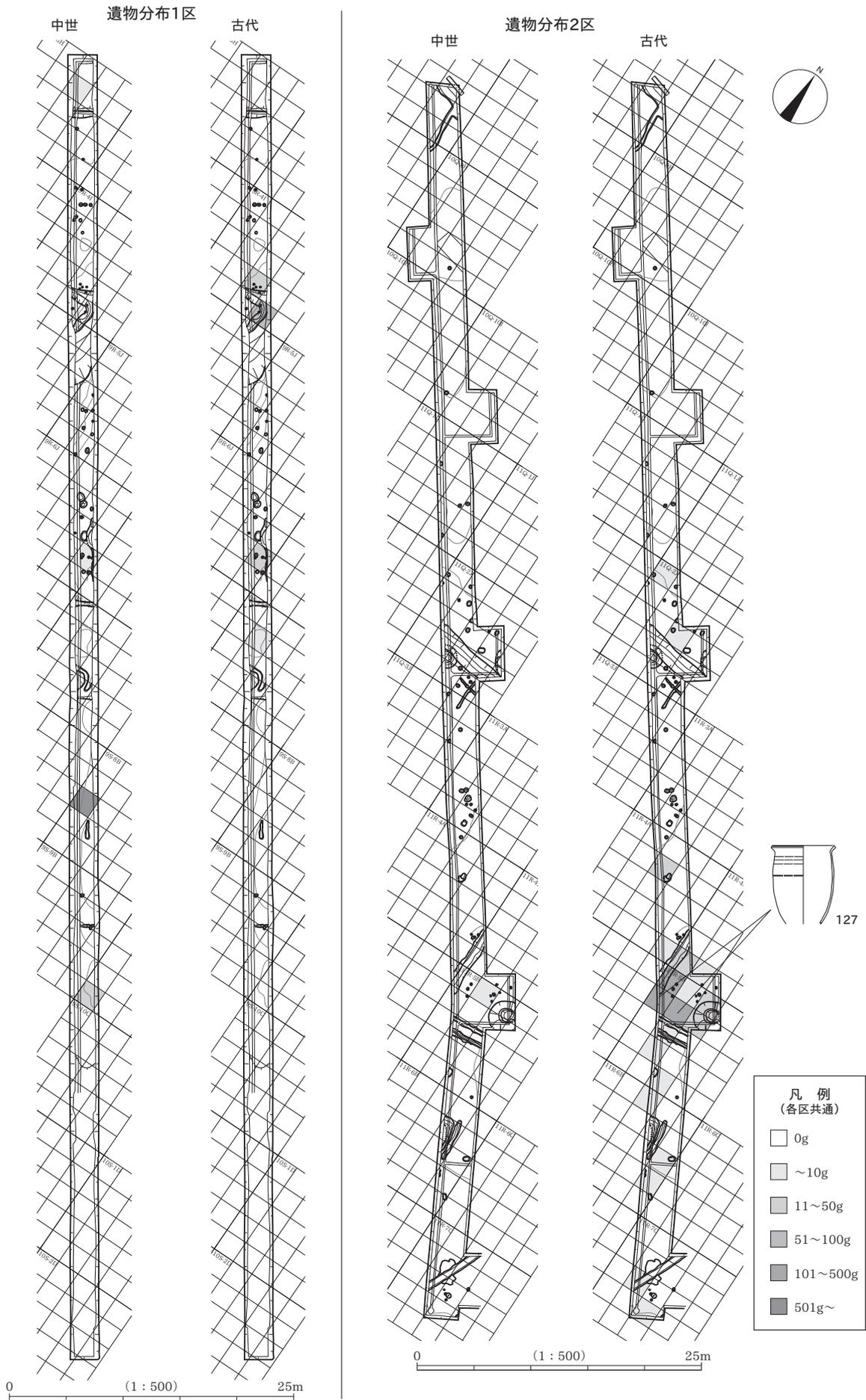
今次調査では、平安時代と鎌倉・室町時代の遺物が出土している。遺物出土総量はコンテナ（内法 54.5 × 33.6 × 10.0cm）約 118 箱である。重量別内訳は第 8 表に示した。遺構出土が 77,045.5g（66%）、包含層出土遺物は 40,180.7g（34%）である。調査区別の出土量では、7 区が 104,838.5g（89%）で他区を圧倒する。5 区は遺構の検出は無いが、包含層中より土師器 32.90g が出土している。小片のため実測図は掲載していない。時期別では古代 44,565.8g（87%）に対し中世 6,456.1g（13%）、遺物種別では古代の土師器 37,781.7g（32.3%）、須恵器 6,784.1g（5.7%）、施釉陶器 77.5g（0.1%）、中世土師器 73.2g（0.1%）、珠洲焼 5,962.5g（5%）、青磁 44.7g（0.1%）、その他中世陶磁器 383.9g（0.3%）、金属製品・石器・搬入礫等 66,118.6g（56.4%）である（第 7 図）。

第 8 表 調査区別遺物出土状況（重量別）

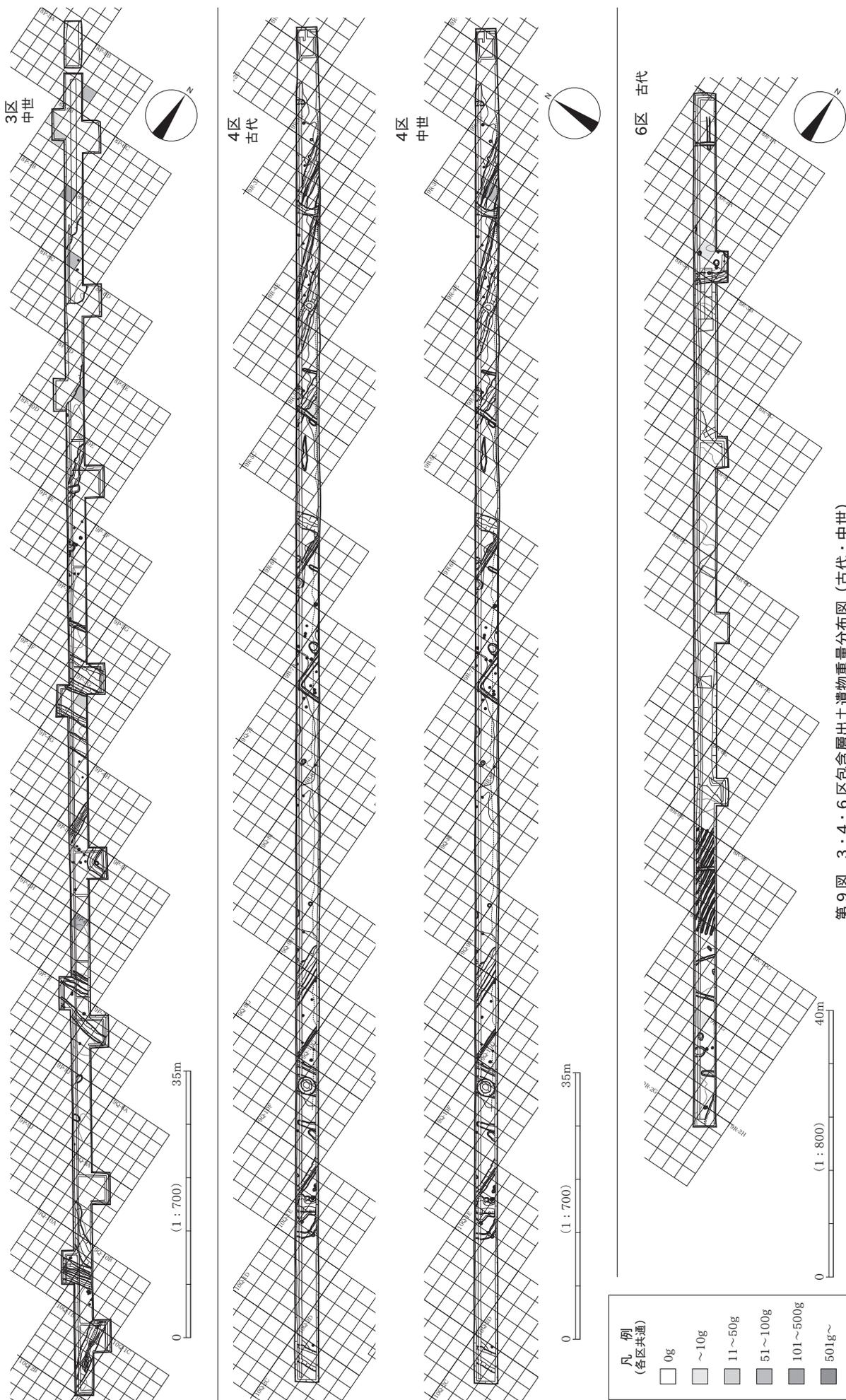
		土師器	須恵器	施釉陶器	中世土師器	珠洲	青磁	その他中世陶磁器	その他遺物	合計
遺構	1区									
	2区	255.00							9.20	264.20
	3区	0.50				299.50		88.50		388.50
	4区	323.40	487.10		31.80	1,658.00		5.60	3,673.10	6,179.00
	5区									
	6区	30.70							41.50	72.20
	7区	15,733.00	3,380.20	74.50	34.50	2,534.40	4.00	213.00	48,168.00	70,141.60
	合計	16,342.60	3,867.30	74.50	66.30	4,491.90	4.00	307.10	51,891.80	77,045.50
包含層	1区	126.40				584.60	32.50	5.00		748.50
	2区	2,571.70	226.10		6.90					2,804.70
	3区	7.50				419.80		68.80	109.60	605.70
	4区	22.50				63.60			6.00	92.10
	5区	32.90								32.90
	6区	55.10						3.00	728.00	786.10
	7区	18,623.00	2,690.70	3.0		402.60	8.2		13,383.20	35,110.70
	合計	21,439.10	2,916.80	3.0	6.90	1,470.60	40.70	76.80	14,226.80	40,180.70
総計	37,781.70	6,784.10	77.50	73.20	5,962.50	44.70	383.90	66,118.60	117,226.20	
		古代合計 44,565.80			中世合計 6,464.30					



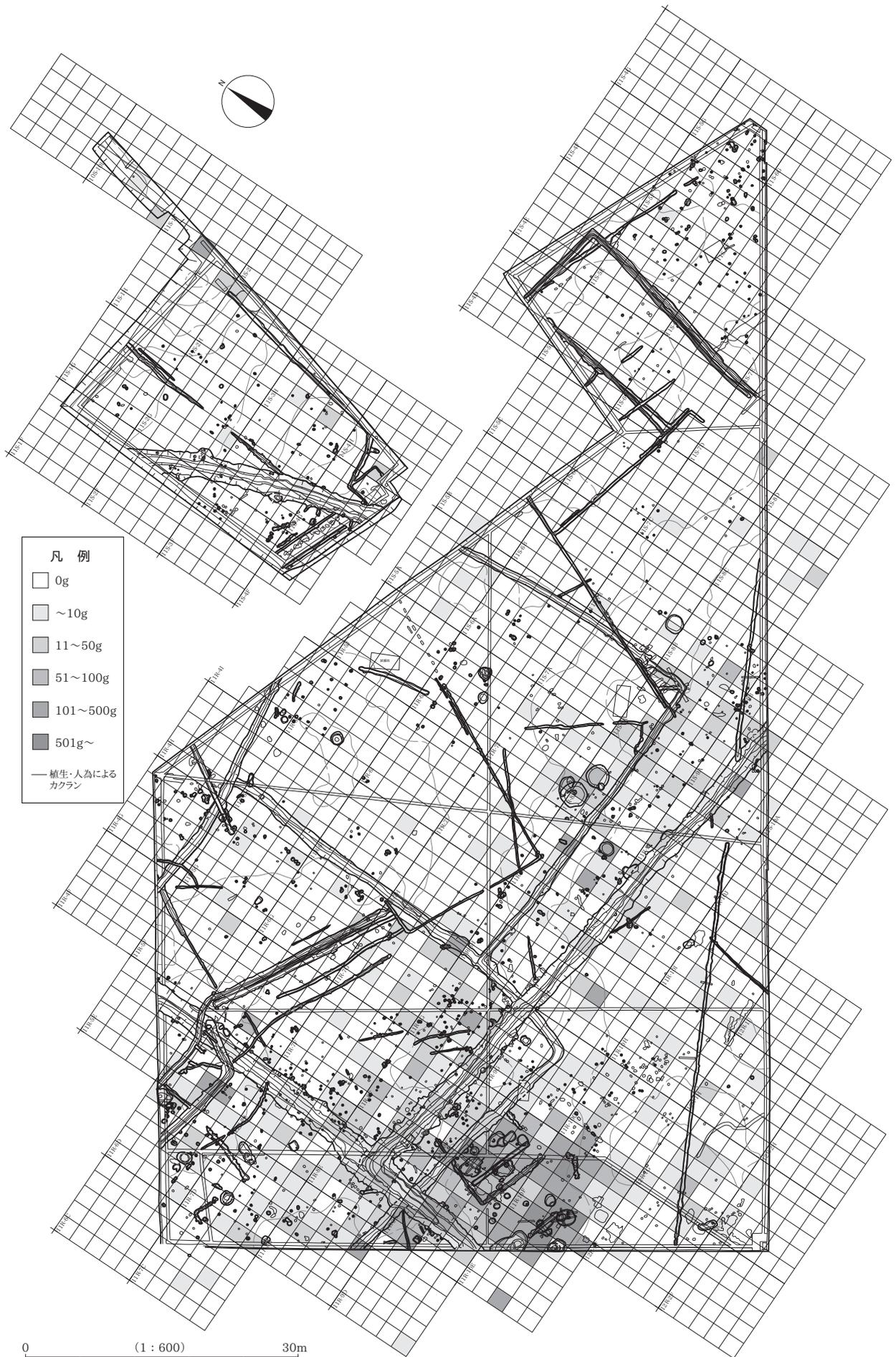
第 7 図 遺物出土割合



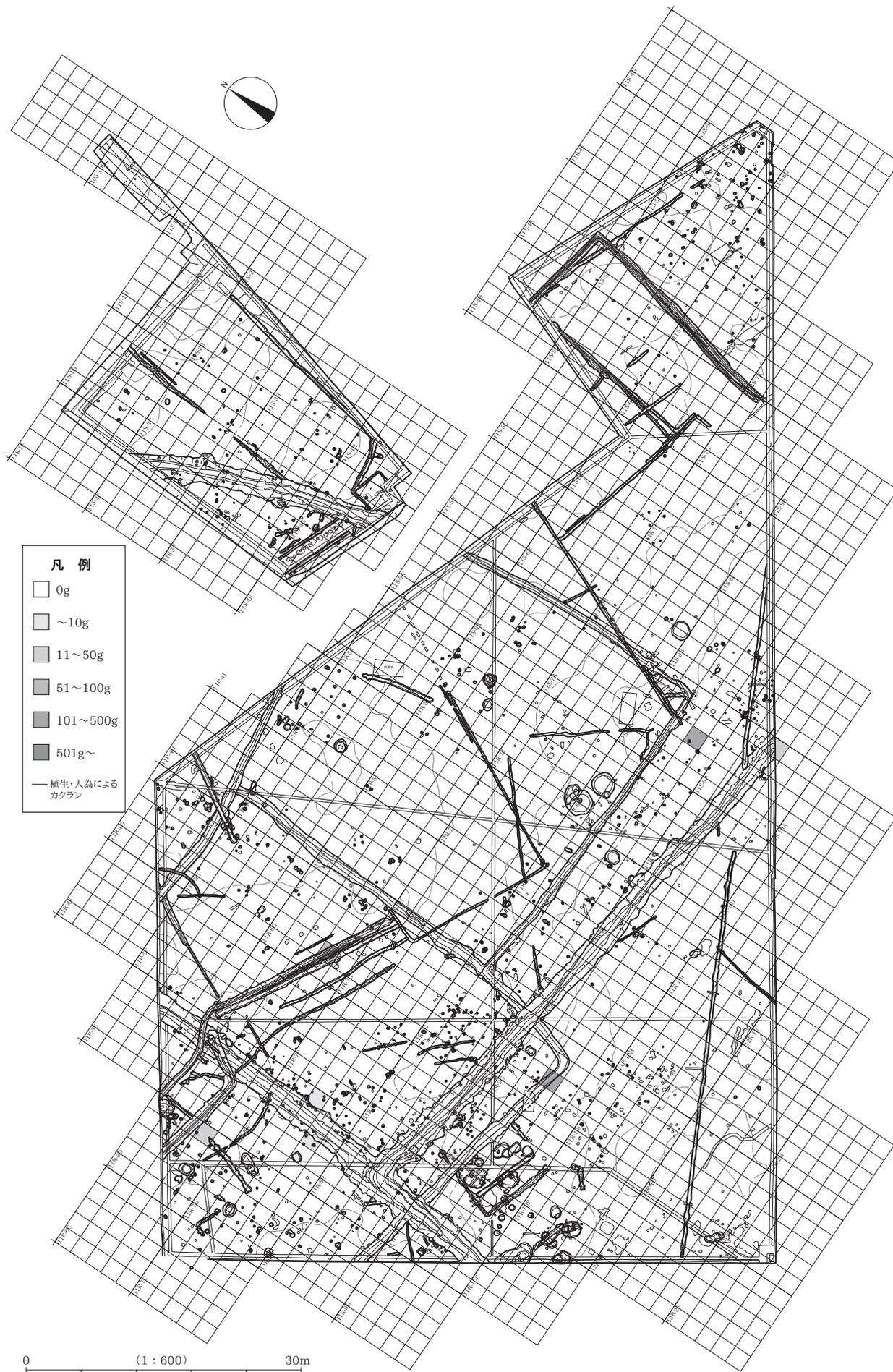
第8图 1·2区包含層出土遺物重量分布图(古代·中世)



第9图 3·4·6区包含層出土遺物重量分布图 (古代·中世)



第10図 5・7区包含層出土遺物重量分布図(古代)



第11図 5・7区包含層出土遺物重量分布図(中世)

第2節 土器・陶磁器

A 出土状況 (図版第8～11図)

1) 古代

包含層出土遺物を須恵器・土師器に分け、小グリッド別に重量集計したものを第8～11図に示す。1・3～6区は遺物量が少ないため分布傾向をしえない。2区は大グリッド11R-5Bを中心に遺物が偏在する。7区については、層序の項でも言及したとおり包含層が攪乱されているため、本図が必ずしも本来の遺物分布傾向にあるとは限らないが、分布の傾向としては、大グリッド11R-9E、11R-9F、11R-10E、11R-10F周辺に集中する。

接合については、遺構間と遺構・包含層、包含層間での接合を試み、43例の接合関係が確認された。詳細は図版60に示す。

2) 中世

1～7区総計で6,464.3g出土しており、1区、3区、7区での出土が目立つ。器種は珠洲焼が大半を占めている。包含層出土遺物の小グリッド別分布状況は第8～11図に示したが、出土数が少ないため、分布の傾向を見出すことは出来ない。遺構では、7区SD108、SD133、SE704等でまとまった出土がある。

接合については、遺構同士、遺構・包含層間で合計5例の接合関係が確認された。詳細は図版60に示す。

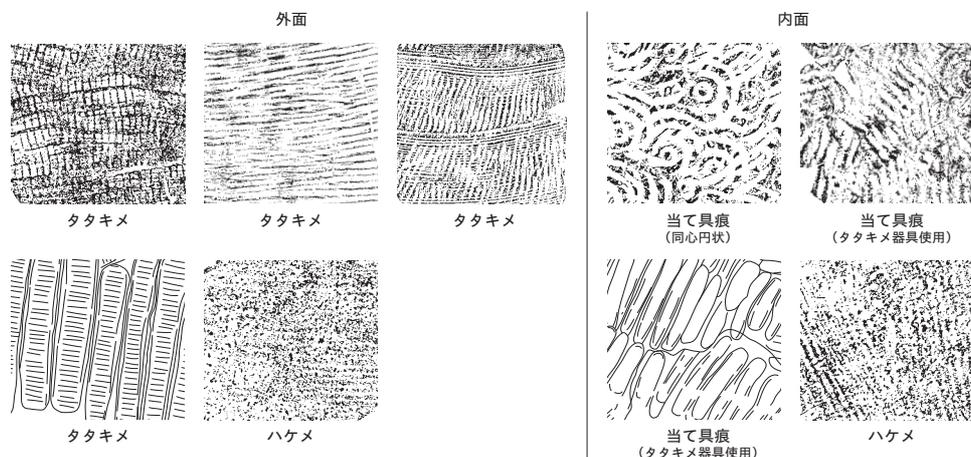
B 古代の土器

記述で使用する主な用語および器種について、以下のとおり規定・分類する。

1) 成形・調整

成形・調整技法は器種を問わず北陸地方の一般的な須恵器製作技法によりなされている。斉一性が高いため、以下に示しておく。なお、貯蔵具に見られるタタキメ、当て具痕は、第12図および写真図版73・74に具体例を示した。呼称については、〔内堀1988〕・〔柿田2001〕に基づく。

- 1：ロクロ・回転台を使った撫でを「ロクロナデ」、ロクロ・回転台を使わない撫でを「ナデ」とする。
- 2：ロクロ・回転台を使った削りを「ロクロケズリ」、ロクロ・回転台を使わない削りを「ケズリ」とする。
- 3：ロクロ・回転台を使ったハケ目を「カキメ」、ロクロ・回転台を使わないハケ目を「ハケメ」とする。
- 4：ロクロ・回転台等を使った磨きを「ロクロミガキ」、ロクロ・回転台を使わず磨いたものを「ミガキ」とする。
- 5：土器の外面に残る叩きの痕跡を「タタキメ」、内面に残る当て具の痕跡を「当て具痕」とする。
- 6：底部切離しについて、糸によるものを「糸切り」、ヘラによるものを「ヘラ切り」とした。いずれもロク



第12図 須恵器のタタキメと当て具痕

口の回転を利用したものである。また、切離しの際ロクロ等の回転を伴わない場合は、「静止糸切り」とした。

7：指の跡について、指先で押さえて圧をかけたと思われる場合はコビオサエ、それ以外は指頭痕とした。

2) 胎 土

肉眼観察の結果、質・混入物・色調等について共通するものをまとめ、類型化した。食膳具と貯蔵具に質の違いが見られる。須恵器（A・B類）については観察表に産地を記載してある。

a) 須 恵 器

A類：佐渡小泊産須恵器と思われる一群である。胎土の質と混入物の違いにより2分した。

A1：還元炎焼成され、灰色～青灰色を呈する。精良で白色小粒子を多く含み、黒色の斑点、吹き出しが見られる。食膳具に多い傾向がある。

A2：A1類と質を同じくするが、多量の石英・長石により砂質を呈するもの。貯蔵具に多い傾向がある。

B類：新津丘陵産と思われる須恵器群である。胎土は精良で粘土質が強く、石英・長石等の小粒子を含み、焼き上がりは硬質感がある。須恵器長頸壺（137・140）2点のみの出土である。

b) 土 師 器

C類：酸化炎焼成で赤褐色系の色調を呈する。胎土はやや砂質であるが精良で、焼き上がりは硬質感がある。極小粒の角閃石を多く含むため、ざらつく触感がある。

D類：明褐色を呈する土師器である。非常に密で粘土質の胎土に特徴がある。混和材の量と大きさとで2分した。

D1：酸化炎焼成で明褐色系の色調を呈する。胎土は精良で粒子は非常に細かく、粘性がある。混和材として石英・長石・雲母等を含むが、粒は極小で、量も少ない。強度は弱く、風化により粉っぽくなる。土師器無台碗に多く見られる。

D2：酸化炎焼成で明灰白色系を呈する。胎土・混和材の種類はD1類と同様だが、粒が大きく、量も多いため、ざらついた印象を受ける。比較的強度があり、風化もD1類ほど顕著でない。長甕・小甕等に多い傾向がある。

E類：D類より明るい色調で、焼成は良好、胎土も緻密で・堅緻な仕上りのグループである。胎土に含まれる砂の量で2分した。

E1：酸化炎焼成で灰褐色～明褐色系の色調を呈する。胎土は精良で粒子は細かい。D1類より焼き上がりは堅緻で、硬質感がある。

E2：酸化炎焼成で明褐色系の色調を呈する。E1類と同様の胎土だが、砂の量が多く、触感はざらつく。E1類には劣るが、焼き上がりは堅緻で硬質感がある。

F類：酸化炎焼成で橙褐色系の色調を呈するが、焼成はかなり不良で胎土も粗く、雲母・角閃石・焼土粒の混入が目立ち、ざらざらした質感で風化が進む。食膳具・煮炊具ともに見られる。

3) 器 種

出土した須恵器と土師器について、以下のとおり分類する。製作技法に斉一性が高いため、主な成形・調整技法を一括で記載し、各説では補足を除いて成形・調整に関する記述を省略する。なお、文中で用いられる「成形」は器の形を作る行為を、「調整」は成形後のタタキ・ロクロナデ等を指す。

a) 須 恵 器（第13図）

還元炎焼成された青灰色を呈する硬質な土器群であるが、一部酸化炎焼成され、土師器に近い質感となるものもある。多くは佐渡小泊窯より供給されるが、わずかに新津丘陵産も認められる。成形・調整技法は前項で述べたとおり北陸地方の技術系譜にある。6,784.1g（古代土器の約15%）出土している。

食 膳 具

無台杯・有台杯がある。

無台・有台杯 製作技法は〔春日 2001〕にもとづき記述する。ロクロ成形で内・外面はロクロナデ（内面底部は静止状態でのナデ）により調整される。底部の切離しはヘラ切りと回転糸切がある。有台杯は杯身の成形・調整後、底部に粘土紐を貼り付け、ケズリ・ナデ等で調整する。

貯蔵具

大甕と長頸壺があるが、破片等により判別しえない場合は、単に甕・壺とした。

甕・大甕 製作技法は〔望月 2001〕に基づき記述する。粘土紐の巻き上げとタタキ調整の繰り返しにより成形される。外面は口縁部を除きほぼ全面にタタキメが残る例が多い。(139)のようにタタキメの上からヘラナデを行うものもある。内面は全面に当て具痕（同心円状と平行線状がある）が残る。口縁部はロクロナデのみで仕上げられる。

壺・長頸壺 製作技法の詳細は〔春日 2001〕に従う。全てロクロによる成形で、内・外面ともロクロナデで調整される。底部にロクロケズリがなされる例（31・120）がある。高台は本体の調整後に粘土紐を貼り付けたものである。

b) 施釉陶器（第13図）

緑釉陶器と灰釉陶器がある。緑釉陶器は皿、灰釉陶器は皿と長頸瓶があるが、いずれも破片である。77.5g（古代土器の0.2%）出土している。

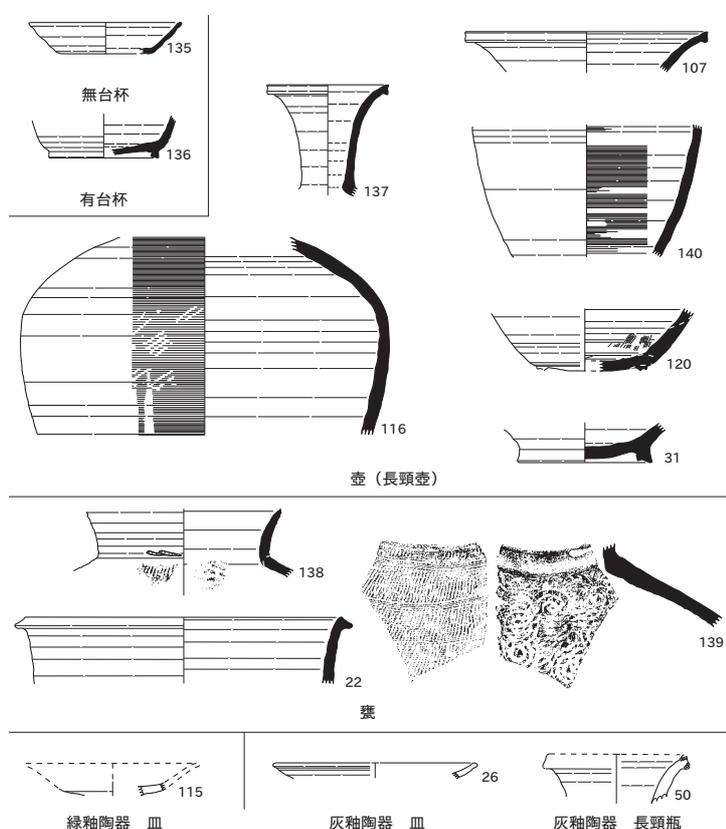
c) 土師器（第14図）

酸化炎焼成されたやや軟質の土器群で、37,781.7g（古代土器の約85%）出土している。須恵器と同様に北陸地方の須恵器技法を用いて製作されるため、成形・調整技法は共通する。食膳具と煮炊具に大別し、器種で細別される。

食膳具

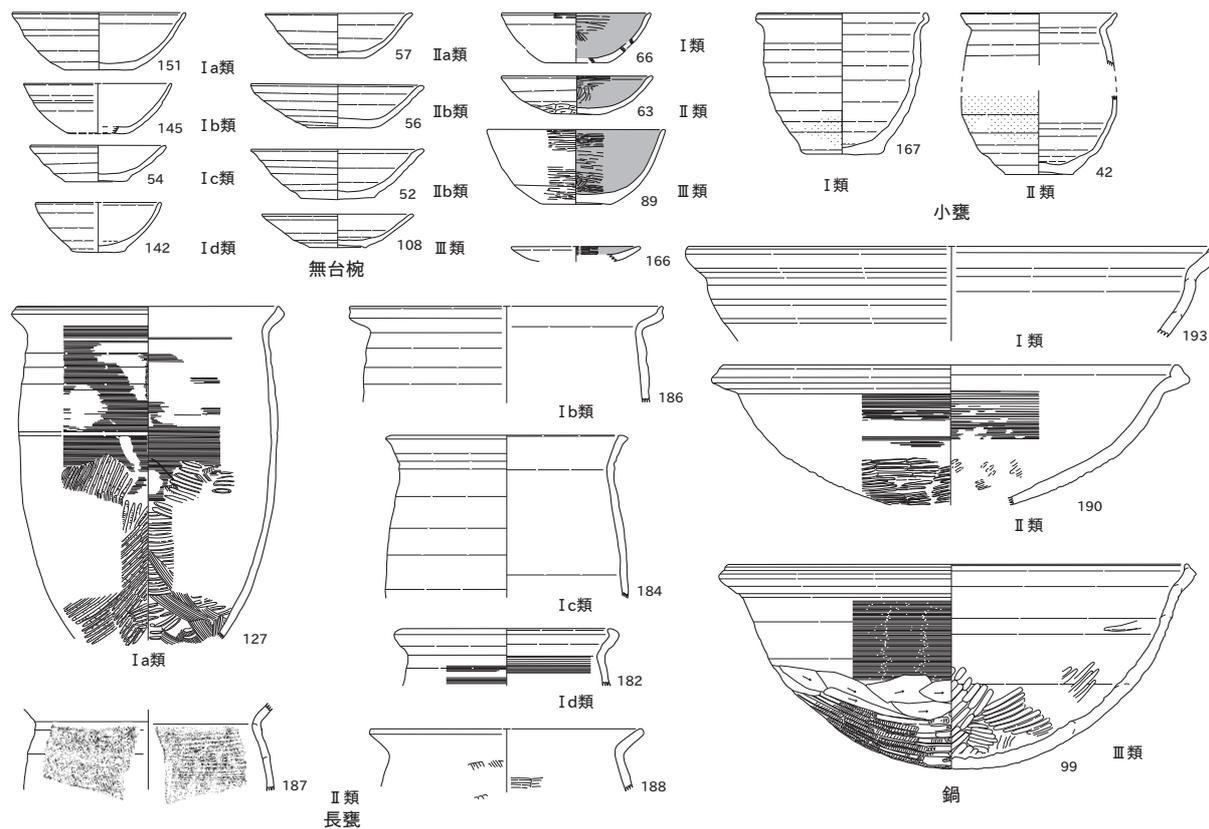
無台碗・黒色土器無台碗・黒色土器皿がある。

無台碗 ロクロにより成形される。口縁・体部は内外面の調整はロクロナデ（内面底部のみ静止ナデ）によることが多いが、(153)のように体部下半から底部にかけてケズリ調整を行う例もある。底部の切離しはほとんどが回転糸切りである。形状と法量で細分している。

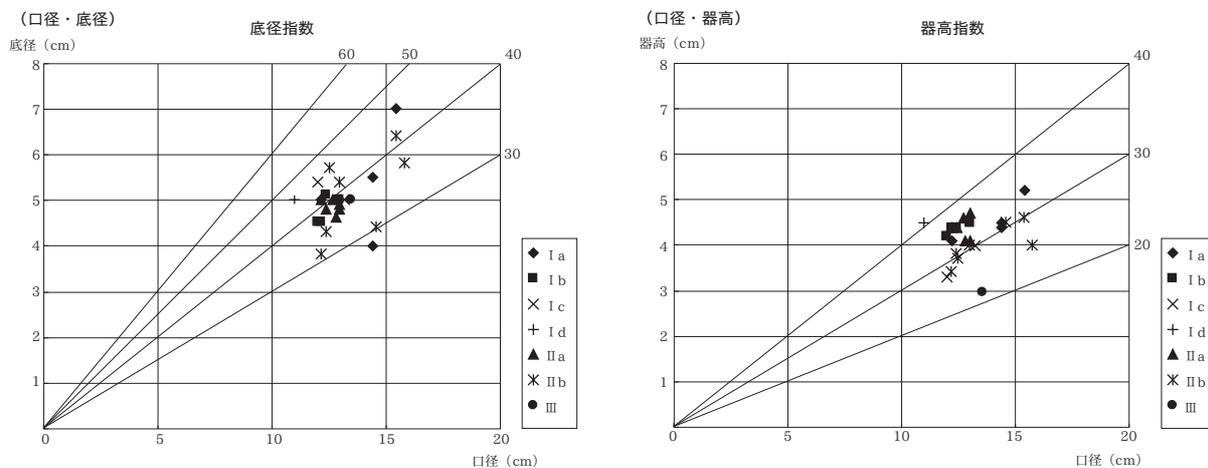


第13図 主要器種分類図 須恵器・施釉陶器

- I 類 体部が内彎気味に開くもの。法量（推定値含む）で細分される（第15図）。
 - I a 類 口径14cm以上のもの。
 - I b 類 口径12～13.5cm程度、底径指数37～41、器高指数34～36程度のもの。
 - I c 類 口径12～13.5cm程度で、器高指数が28～30のもの。
 - I d 類 口径12cm以下で、底径指数45、器高指数40前後のもの。
- II 類 体部が内彎気味に開き口縁端部で短く外反するもの。法量（推定値含む）で細分される。
 - II a 類 器高指数がおおむね32～36のもの。多くは口径12～13.5cmにおさまる。



第14図 主要器種分類図 土師器



第15図 土師器無台椀 分類別法量分布

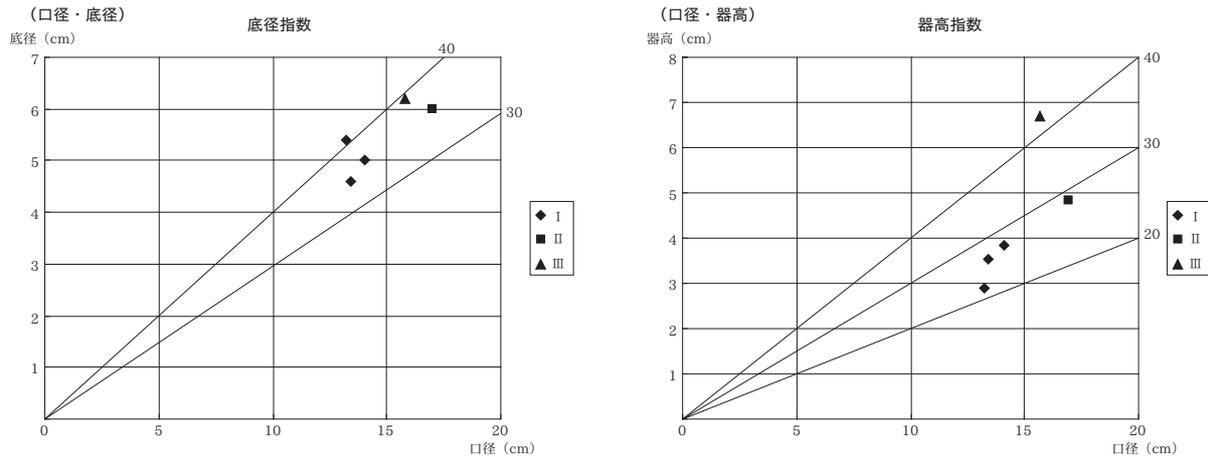
IIb類 器高指数31以下のもの。

III類 体部が直線的に開くもの。

黒色土器 無台椀 通常の成形・調整工程に加え、内面に炭素を吸着させ、ヘラミガキを施している無台椀である。ミガキは内・外面ともに施されるものと内面のみの場合がある。ミガキの方向は体部上半が横、下半および内面底部は横方向のものと、縦・斜め方向になるものがあり、後者は暗文状になる場合がある(64・67)。器壁は通常の無台椀より薄く、胎土もやや硬質なE1類が多い。法量(推定値含む)と形態で3分される(第16図)。

I類 口径12~14cm、推定含め底径指数31~33、器高指数32~34程度のもの。土師器無台椀I類に法量が近い。

II類 器高指数30以下の平たいもの。



第 16 図 黒色土器無台椀 分類別法量分布

Ⅲ類 仏鉢形を呈する深身のもの。

黒色土器皿 内面を黒色土器無台椀と同様な手法で黒色処理した土師器の皿である。口縁の一部が出土するにとどまる。

煮炊具

小甕、長甕、鍋がある。

小 甕 ロクロ成形で、ロクロナデ以外に目立った調整は行われぬが、ロクロケズリ (173)、ユビオサエ (177) 等の調整が残る例もある。多くは底部外面に回転糸切痕が見られる。口径は推定を含むが 13・14cm が主体だが、15.6cm (69)、7.8cm (113) 等の個体も存在する。口縁部の形態で 2 分した。

I 類 受け口のもの。頸部の屈曲は緩い

II 類 緩く内彎しつつ開くもの

長 甕 製作技法の考え方は〔坂井 1989〕にもとづく。大きく須恵器製作技法を用いた北陸型長甕 (坂井のいう B 系) と、非ロクロ成形で体部がハケ調整されるハケ甕 (坂井のいう A 系) があり、前者が多数を占める。口径は推定値を含めると 17～24cm が主体であるが、(90) のように 28cm を超えるものもある。

製作技法および口縁部の形状で 5 分した。

I 類 北陸型長甕の技法で製作されるもの。

I a 類 頸部が屈曲し、口縁端部は内彎しつまみ上げられる

I b 類 頸部の屈曲が強く、口縁端部は内彎しつまみ上げられる

I c 類 頸部の屈曲が弱く、口縁端部は外部につまみ出される

I d 類 頸部が屈曲し、口縁端部が内彎する

II 類 非ロクロ成形で、器面をハケにより調整するもの。底部は平底を呈する (189) と思われる。8 世紀代に多く、他の遺物と比べ古い遺物である。4 固体 (96、187～189) 出土している。

鍋 長甕と同様に、口縁部にロクロナデ、胴部上半にカキメ、胴部下半から底部にかけてタタキメ、内面に当て具痕等の成形・調整痕が残る、北陸型長甕の製作技法を用いて作られている。7 区の SK145 から完形個体 (99) が出土しており、成形・調整の過程が良くわかる。推定値を含むが、口径は 37～40cm 前後が標準である。容量は (99) が満杯状態で 10.2 l ある。

口縁部の形状で 3 分した。

I 類 口縁端部がやや内彎するもの。頸部の屈曲は緩い傾向がある。

II 類 頸部が屈曲し、口縁端部が上方に伸びるもの。

III 類 口縁外部につまみ出し成形が見られるもの。頸部は直線的に開くことが多い。

C 中世の土器・陶磁器

1) 成型・調整および胎土

技法の名称は古代のものをそのまま用いるが、珠洲焼等のタタキメ・当て具痕・底部板目痕については、第17図にもとづき記述する。胎土については分類していないが、観察により産地が判明したものは、観察表等に記載した。



第17図 珠洲焼の調整痕

2) 器種分類 (第18図)

主な器種を第18図に示す。器種別の詳細は以下に記述する。成形・調整技法の斉一性が高いため、それらの説明は本節で一括して行い、各項目では補足を記述する。

青磁 椀と段皿がある。南宋同安窯と同龍泉窯産がある。蓮弁文・草花文が施される場合が多い。

珠洲焼 3区SD44、7区SD108、133等で多く出土する。甕、壺、播鉢に大別される。器種および成形・調整技法については〔吉岡1994〕にもとづく。

甕 大甕と甕に分かれるが、破片のため判別が困難な場合は単に「甕」とした。成形は粘土紐を巻上げてタタキにより形状を整える。口縁部はロクロナデ、体部外面にタタキメ、内面に当て具痕が残る。底部の外面には板目痕が残ることが多い。

壺 T種とR種に分かれるが、判別が困難な場合は単に「壺」とした。T種は底部と口端部がロクロ成形されるが、胴部は甕と同様粘土紐の巻上げである。調整の部位・手法もロクロ成形部を除き甕と同様である。R種はロクロ成形の壺で、器高は30cm以下の個体が多い。(21)のようにナデ調整を行うものもあるが、基本的には無調整である。

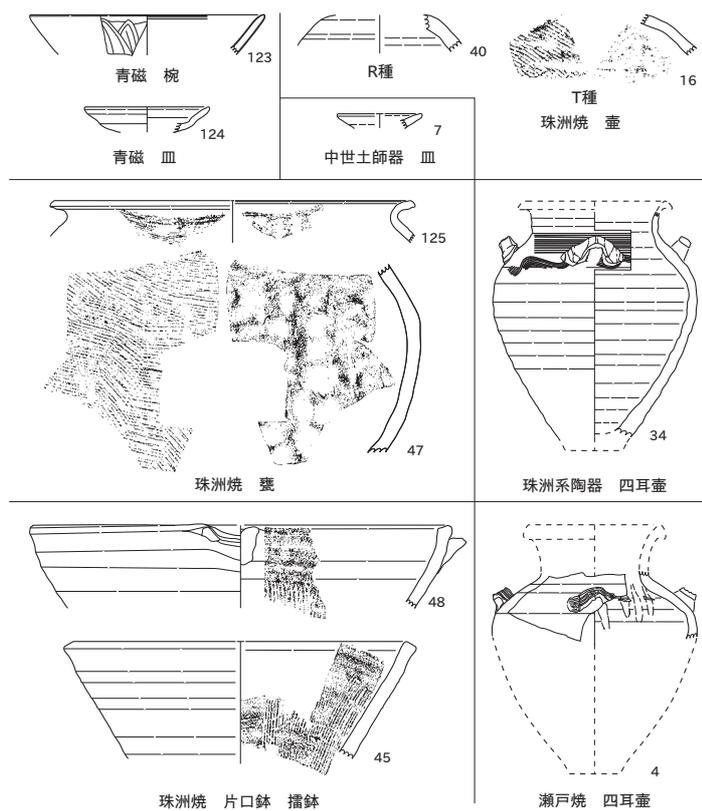
片口鉢・播鉢 注口部の確認できるものを片口鉢、確認できないものを播鉢とする。両者とも内面に卸目を有する。粘土紐を積上げ成形し、ロクロで調整される。注口部の作出は手づくねにより、卸目は櫛状の道具を用いて施される。外面底部には板目痕が残る。

珠洲系陶器 北越窯〔鶴巻1997〕等、珠洲焼の系統を汲むもので、成形・調整技法は共通するが、胎土が粗く、黒色を呈することが多い。四耳壺、甕、壺がある。

越前焼 甕の胴部破片が1点(133)出土している。

瀬戸焼 四耳壺が1点(4)出土している。

中世土師器 皿がある。



第18図 中世土器・陶磁器 主要器種分類表

D 遺物各説

以下、古代・中世の土器・陶磁器について記述する。掲載した遺物は、完形およびある程度形状が推定・復元できるものを対象とし、微細な破片等は除外したが、遺構の性格を示すような遺物は、破片であっても図示している。また、複数の遺構出土した遺物が接合した場合、最も破片の大きい遺物が出土した遺構を帰属遺構とした。帰属遺構は、図版と観察表で太字で示してある。

遺構出土遺物は、掲載遺物を中心に言及する。個々の遺物の詳細および遺構別の出土状況については、観察表・集計表および図面・写真をあわせて参照していただきたい。

1) 遺構出土遺物

2 区

SD9 (図版 46 写真図版 64) 5層から珠洲系陶器の鉢(1)が出土している。底部の破片で、卸目等は確認できない。外面底部には板目痕が残る。

3 区

SD4 (図版 46 写真図版 64) (3) は1層出土の珠洲焼の片口鉢で、体部の破片である。

SD20 (図版 46 写真図版 64) (2) は珠洲焼の播鉢で、1層から出土している。口縁から体部上半にかけて残存する。内面に卸目がある。

SD44 (図版 46 写真図版 64) (4) は1層出土の古瀬戸の四耳壺で、肩部の破片である。耳部は帯状の胎土の貼り付け、両端部をヘラでナデ付けている。表面は櫛描文により加飾される。内・外面には自然釉が付着する。

SD84 (図版 46 写真図版 64) (5) は珠洲焼の甕の胴部破片で、4層から出土している。

4 区

SD5 (図版 46 写真図版 64) (6) は1層出土の青磁碗の破片で、同安窯産と思われる。内面には櫛描きによる草花文の一部が見られる。

SD11 (図版 46 写真図版 64) 5層出土の珠洲焼播鉢の底部破片(8)を図示した。底部の切離しは静止糸切による。

SD22 (図版 46 写真図版 64) (7) は6層出土の中世土師器の皿で、口縁部破片のみの残存である。推定口径は約7cmと小さい。

SD36 (図版 46 写真図版 64) (9) は珠洲焼の甕で、9層の出土である。図示資料は胴部の破片である。

SD74 (図版 46 写真図版 64) (16) は珠洲焼の壺 T 種の胴部破片で2層出土、(10) は珠洲系陶器の甕の胴部破片で5層出土である。

SD83 (図版 46 写真図版 64) (13) は1層出土の珠洲系陶器甕の頸部破片である。外面にタタキメ、内面には当て具痕が残る。

SD88 (図版 46 写真図版 64) (14) は珠洲焼の播鉢で、2層の出土である。図示資料は体部の破片である。内面に卸目が残る。

SD91 (図版 46 写真図版 64) (15) は珠洲系陶器の壺 T 種で、3層の出土である。胴部の破片のみの残存である。

SK7 (図版 46 写真図版 64) (11) は中世土師器の皿の底部破片で、1層から出土している。底径は推定9.6cm、外面には糸切痕が残る。内面は被熱している。

SK68 (図版 46 写真図版 64) (12) は珠洲焼の播鉢で、2層からの出土である。胴部下半から底部にかけて残存し、底径は13.4cmある。内面には卸目が残るほか、コゲが付着している。底部の切離しは静止糸切による。内面にコゲ、外面にススが付着する。

7 区

SD2 (図版 46 写真図版 64) (17)・(18) は土師器の鍋で、(17) は2・4層の接合品で口縁の破片、(18) は3層出土で口縁から体部の破片である。器形は両者とも皿類、胎土は両者とも E2 類である。

SD21 (図版 46 写真図版 64) (19) は 1 層出土の須恵器大甕の胴部破片である。外面に格子状タタキ目、内面に同心円の当て具痕が残る。胎土は A2 類で、小泊産である。

SD30 (図版 46・47 写真図版 64) (22) は須恵器大甕の口縁部破片で、1～3 層出土品の接合固体である。胎土は A2 類で、小泊産と思われる。(20)・(29) は須恵器大甕の胴部破片で、(29) は SD47 の 4 層出土資料と接合する。両者とも胎土は A2 類で、産地は小泊である。外面にタタキ目、内面は当て具痕(同心円・平行線状)が残る。(25) は緑釉陶器の皿で、2・3 層および SD47 間で接合した口縁部の破片である。釉色は 10Y6/2 (灰オリーブ) を呈する。

(21) は珠洲系壺 R 種の底部破片で、1 層と 3 層間で接合する。外面底部には板目痕が認められる。

SD47 (図版 46 写真図版 64) (23)・(24) は土師器無台椀である。(23) は 1 層出土で底部が完存し、外面に右方向の回転糸切痕が残る。胎土は C 類である。(24) は口縁部の破片で、2・3 層間で接合する。胎土は C 類である。(26) は灰釉陶器の皿で、2・3 層間で接合する。残存は口縁部のみ、推定口径は 16.4cm ある。

(27)・(28) は珠洲焼甕の胴部破片である。

SD93 (図版 47 写真図版 65) (37) は土師器の鍋で、SK140 の 1 層、SX17・26 の 1 層出土資料と接合する。口縁部の 1/6 程度が残存する破片で、推定口径は約 42cm となる。器形は II 類で口縁部外面は肥厚し、口端部は上方につまみ上げられる。E1 類の胎土である。

SD108 (図版 47 写真図版 65) (30) は 3 層出土の須恵器無台杯である。残存は底部のみで、ヘラ切り痕が残る。胎土は A1 類で、産地は小泊である。(31) は 5 層出土の須恵器長頸壺で、底部のみの残存である。高台は外面端部接地型で、底部にはケズリ痕が残る。胎土は A2 類で、小泊産である。(32) は土師器無台椀で、出土層位は 1 層である。内面と口縁部外面にかけてススが付着している。器形は Ia 類、胎土は D1 類で、底部外面に糸切痕が残るが、劣化が激しく回転方向は不明である。(33) は 3 層出土の土師器の小甕で、胴部下半底部のみの残存である。底部に右回転で切離した糸切痕が残る。胎土は D2 類である。

(34) は珠洲系陶器の四耳壺の肩から胴部上半にわたる破片で、1 層から出土している。胎土から北越窯産と思われる。胴部は上半の 1/4 程度が残存し、外面には波状の櫛描文が施される。耳は粘土紐の貼り付け、両端をヘラでナデつけて作出される。(35) は珠洲焼の有耳壺で、5 層からの出土である。肩部の破片と思われる。(36) は 1 層出土の珠洲焼甕の胴部破片である。

SD133 (図版 47 写真図版 65) 珠洲焼甕 (39)、壺 R 種 (40)、播鉢 (38) が出土している。(40) は肩部、(39) は胴部下半で内面に漆状物質が付着する。(38) は 1 層出土の口縁～体部上半にかけての破片である。内面にはススが付着する。

SD363 (図版 47 写真図版 65) (41) は 1 層出土の土師器の鍋で、口縁から体部上半の破片である。胎土は D2 類、器形は II 類で、口縁の外面が肥厚し、口端部は上方につまみ上げられる。

SD775 (図版 47 写真図版 65) (42) は土師器の小甕で、1 層の出土である。口縁部から胴部が部分的に残存、底部は完存する。胎土は E2 類である。器形は II 類で、口縁部は外面に稜を有するが、おおむね直線的に開く。底部外面には左回転の糸切が残る。外面にススが付着する。

SE677 (図版 48 写真図版 65) (43) は青磁の椀で、12 層から出土している。口縁部の破片で、口端部は緩い波状を呈し(いわゆる輪花状口縁)、体部には蓮弁文が施される。龍泉窯の製品と思われる。(44) は 2 層出土の珠洲焼甕の胴部破片である。(45) は 13 層出土の珠洲焼すり鉢の体部破片で、SE704 の 1 層出土資料と接合する。内面に卸目が残る。

SE704 (図版 48 写真図版 65) 珠洲焼が出土している。(46)、(47) は甕で、いずれも胴部破片である。(49) は播鉢で 5 層から出土し、SD133 の 4・6 層出土破片と接合する。外面底部に板目痕が残る。(48) は 4 層出土の片口鉢である。両資料とも内面にコゲが付着する。

SK1 (図版 48 写真図版 66) (50) は 1 層出土の灰釉陶器の長頸瓶である。口縁部の破片で、口端部を欠損して

いる。欠損部位は剥離痕に近似し、意図的な打ち欠きの可能性がある。釉が外面にかかる。

SK20 (図版 48 写真図版 66) (51) は土師器の無台椀で、底部の破片である。1 層から出土している。胎土は E2 類である。底部外面には右方向の回転糸切痕が残る。外面にススが付着する。

SK34 (図版 48 写真図版 66) 土師器の無台椀(52)が出土している。2～4 層出土の破片から接合したものである。器形は II b 類、胎土は C 類である。底部には右方向の回転糸切痕が残り、内・外面に黒斑が付着している。

SK56 (図版 48・49 写真図版 66) 土師器無台椀 (53～62)、黒色土器無台椀 (63～68)、土師器小甕 (69)、鍋 (70、71、72) 等が出土している。土師器無台椀 (53～62) は、それぞれ 1～3 層から出土する。器形は (53) が I a 類、(58)・(60) が I b 類、(54)・(59) が I c 類、(57) が II a 類、(56) が II b 類、(55)・(61)・(62) が II 類 (欠損により細分不可) である。胎土は (54・56) が C 類、(57)・(58)・(59)・(60)・(62) が E1 類、(53)・(55)・(56)・(61) が E2 類である。底部の切り離しはいずれも回転糸切である。(55) と (58) の外面にスス、(54) の内面に重ね焼痕が残る。

黒色土器は 6 点掲載した。いずれも無台椀である。出土層位は (65) が 1・2 層の接合、それ以外は 1 層である。成形・調整技法は土師器無台椀と共通する。(64)、(65)、(68) は外面底部付近をヘラケズリしている。内面のミガキはいずれの個体にも見られ、体部の上半は横方向、下半を縦もしくは斜め方向に整然と研磨しているが、暗文のように図案化したものはない。器形は (66)・(67) が I 類、(63)・(65) が II 類である。胎土は (63)～(65)、(67) が C 類、(66)、(68) が D1 類である。(64) の外面にはタール状の物質が付着している。

小甕 (69) は 1 層出土の口縁部の破片で、器形は I 類、胎土は F 類である。

鍋 (70～72) は 1 層出土で、いずれも口縁部破片で外面にススが付着する。器形は (70) が I 類、(71)・(72) が II 類で、胎土は (70)・(71) が C 類、(72) が E2 類である。

SK68 (図版 49 写真図版 66) 土師器無台椀 3 点 (73～75)、鍋 1 点 (76) を図示した。無台椀は 3 点とも 1 層出土で、器形は (73)・(74) が II a 類、胎土は E1 類である。体部内外面がナデ調整、底部は糸切である。(73) の内面にコゲ、外面にススが付着する。(73)・(75) は部分的な残存だが、(74) は略完形である。鍋 (76) は口縁から体部の約 2/3 が残存する。推定口径は 39.2cm で、器形は I 類、胎土は E2 類である。外面にススが付着する。

SK69 (図版 49 写真図版 66) 1 層より出土した土師器無台椀 2 点を図示した。(77) は口縁部が一部残存し、底部が完存する。器形は II a 類、胎土は E1 類である。(78) は口縁部から体部にかけての破片で、器形は II 類、胎土は D1 類である。両者とも体部内外面はロクロナデで調整される。底部には右方向の回転糸切痕が残る。

SK77 (図版 49 写真図版 66) (79) は 2 層出土の土師器無台椀である。底部の破片で、底部には右方向の回転糸切痕が残る。胎土は D1 類である。

SK92 (図版 49 写真図版 66) (80) は須恵器の無台杯、(81) は土師器無台椀である。ともに 1 層出土で、前者は口縁部破片で胎土 A1 (小泊)、後者は底部の破片で、胎土は D1 類である。

SK97 (図版 49 写真図版 66) (82) は須恵器の大甕の口縁部破片で、2 層より出土したものである。胎土は A2 類で、産地は小泊である。口端部が突出し、面をなす。

SK116 (図版 50 写真図版 67) (83)～(87) は土師器無台椀で、いずれも 2 層の出土である。(83) は器形 I a 類で体部がやや内彎気味に立ち上がり、口縁部付近でさらに 1 段外側に開く。器の厚さは薄い。胎土は E1 類で、底部には右方向の回転糸切痕が残る。(85)～(87) は体部下半～底部のみ残存する個体で、いずれも外面に回転糸切痕が観察できる。胎土は (86)・(87) が D1 類、(85) が E1 類である。(84) は口縁から体部にかけての破片で、胎土は E1 類である。(88) は鍋で、2・3 層および包含層で接合する。口縁から体部上半の破片である。胎土は E2 類である。

SK140 (図版 50 写真図版 67) (89) は 1・3 層出土の破片を接合した黒色土器の無台椀であるが、内面への炭素の吸着量は、少ない。器形は III 類、胎土は E1 類で、口縁部が欠損するが、体部下半と底部はほぼ完存している。ミガキ調整は内・外面に施される。方向は横が主体だが、内面底部に限り縦方向のものが見られる。底部は

切離し後、右回転のヘラナデにより、糸切り痕を消しているが、この際、底部周辺にもヘラナデ調整を施している。推定値であるが、口縁径は15.8cm、器高指数は42.4、底径指数が39.2と通常の土師器無台碗より法量が大きい。

(90)は長甕の口縁部から胴部の破片である。出土層位は1層、器形はIb類で、胎土はD2類である。頸部は「く」の字状に外反し、口端部は弱いつまみ上げが見られる。

SK141(図版50 写真図版67) 1層出土の土師器無台碗(91)を図示した。口縁の破片で胎土はD1類である。体部は内彎気味に立ち上がる(器形I類)。

SK145(図版50・51 写真図版67) (92)~(94)は土師器の無台碗で1層からの出土である。(92)は口縁から底部にかけての破片、(93)・(94)は底部の破片である。(92)・(94)の外面底部には右方向の回転糸切痕が見られるが、(93)の底部外面はナデ調整により糸切痕が消失している。器形は(92)がIIb類、胎土はいずれもD1類である。(95)・(99)は土師器の鍋で、器形は両者ともII類に分類される。(95)は1層出土、胎土D2類の口縁部破片、(99)は1層下部から逆位で出土した完存体の接合品で、容量は満杯状態で10.2ℓある。口径が39.6cm、器高は17.3cmある。胎土はE1類である。潰れた状態で検出されたが、土圧で圧壊したものである。口縁から体部上半にかけてはロクロナデとカキメ、外面体部下半から底部にかけてはタタキ調整を施す。底部中位には横方向のケズリ痕が残り、ケズリはタタキの後に行われている。内面は口縁から胴部中位にかけてはナデ、胴部下半から底部にかけては当て具痕が残る。胴部中位のナデは当て具痕を切る。底部はタタキ出しにより作出される。使い込まれた鍋で、外面は体部上半を中心にススが付着し、被熱による赤化と剥落も見られる。外面に部分的に見られるタタキメの磨耗は、五徳等支脚の跡であろうか。内面にはコゲ跡が広がる。

SK202(図版50 写真図版67) (96)は土師器の長甕で、胴部下半の破片である。出土層位は1層、胎土はC類である。器形はII類、器面調整が内外面ともハケを用いる「ハケ甕」である。内面が縦、外面が横方向にハケ目が残る。

SK442(図版50 写真図版67) (97)は1層出土の土師器小甕で、口縁部破片である。胎土はC類で、推定口径は12.8cm、弱いロクロナデによる調整が残る。

SK575(図版50・52 写真図版67) (100)~(104)は土師器無台碗である。無台碗(100)・(101)は口縁の一部のみの残存だが、底部は完存する。調整は内外面ともナデによる。(100)は器形Ib類、胎土E1類で、内面にススが少量付着し、底部には回転糸切痕が残る。(101)は器形IIb類、胎土はF類、糸切は右回転である。(102)は2層出土で、口縁部から底部にかけての破片である。ロクロの成形痕が顕著で、器厚は比較的厚い(5mm前後)。器形はIIb類、胎土はC類で、推定値であるが器高指数30.6、底径指数34.6と、やや平べったい形状をしている。底部には右方向の回転糸切痕が残り、外面にはススが付着している。無台碗(103)・(104)は共に2層出土の口縁部破片で、後者はSK577出土破片と接合する。(103:器形II類、胎土C類)の調整はナデだが、(104:器形Ia類、胎土E1類)は内面全体に横方向のヘラミガキが施される黒色土器の技法が用いられている。(105)は2層出土の黒色土器無台碗で、口縁から体部下半にかけての破片である。内面を黒色処理後、横方向にミガキを施してある。器形はI類、胎土はC類である。(98)は土師器の鍋で、1層から出土している。口縁から体部にかけての破片で、口縁部が外側に肥厚し、口端部は上方へつまみ上げられる。器形はII類、胎土はC類で、体部はケズリにより調整される。

SK577(図版52 写真図版67) (106)・(107)は須恵器の長頸壺で、(106)は底部の破片で5層出土、(107)は口縁部で2層出土である。胎土は(106)がA1類、(107)がA2類で、両者とも小泊産と思われる。(107)の口縁外面は肥厚し、口端部はつまみ上げられる。(114)は2・3層出土の大甕の胴部破片である。A2類の胎土で、小泊産と思われる。(108)~(111)は土師器の無台碗であるが、(108)以外はいずれも小破片で、それぞれ1~3層から出土した。(108)(2・3層接合)は器形III類で、口径に比し底径が小さく器高が低い、皿に近い形態である。胎土はF類でやや粗い。糸切の回転方向は右である。外面にススの付着が見られる。(109)・(110)は体部が緩やかに内彎する器形II類だが、(110)は立ち上がりがきつく、やや深身となる。両者とも胎土はC

類である。(111)は底部破片で、回転糸切後、ケズリによる仕上を行っている。胎土はE1類である。(112)は1層出土の黒色土器無台碗の底部破片である。内面にミガキが残る。胎土はC類で、ロクロからの切離しは糸切りによる。回転方向は右である。(113)は1層出土の小甕の口縁部破片である。推定口径が7.8cmと、かなり小さい。器形はII類、胎土はF類である。(115)は緑釉陶器の皿と思われるが、小片のため判然としない。出土層位は3層である。釉の厚さはごく薄く、土色は7.5YR7/2(灰白色)を呈すが、目視では薄い緑色である。SX144(図版52 写真図版68)(120)は1層出土の須恵器の長頸壺である。底部破片で、底部の高台先端部も欠損している。底部内面にはヘラ痕が残る。高台部の欠損は打ち欠きの可能性がある。胎土はA1類で、産地は小泊であろう。

P70(図版52 写真図版68)(116)は小泊産の須恵器壺で胎土はA1類である。2層から出土している。胴部から肩部にかけての破片であるが、おそらく長頸壺であろう。外面に自然釉の付着が見られる。

P581(図版52 写真図版68)(117)は土師器無台碗である。1層出土の口縁部破片で、器形はI類、胎土はC類、推定径は12.8cmである。

P584(図版52 写真図版68)(118)は土師器無台碗で、口縁部のみの破片である。推定口径12cmを測る。器形はI類、胎土はC類である。(119)は2層出土の土師器の長甕で、口縁から頸部の破片である。器形はIa類で、口縁は直線状に開き、口端はややつまみ上げられる。胎土はE2類である。

2) 包含層出土遺物

a) 古代の土器

1 区(図版53 写真図版68)(121)は須恵器の有台杯で、高台部のみの破片であるが、耕作土中(Ib層)からの出土であるため、混入の可能性が高い。胎土はA2類で、小泊産と思われる。(122)は土師器の無台碗で、口縁から底部にかけて部分的に残存する。底部の糸切は切離し後にナデ消されており、回転方向は判然としない。器形はIIb類、胎土はE2類である。

2 区(図版53 写真図版68) 土師器小甕(126)、長甕(127、128)を図示した。(126)は口縁部破片で外面にススが付着する。器形はI類、胎土はE1類である。(127)は口縁から胴部下半にかけての残存で、推定口径は21.5cmである。口縁部の形状は外面がやや肥厚し口端は弱くつまみ上げられる。Ia類の特徴を示す。頸部はくの字状を呈するが、屈曲は弱い。体部下半は外面にタタキ、内面に当て具痕が残るが、同じ平行線状の器具を使用している。内面底部付近にはタタキメを切るヘラ痕が見られる。胎土はE2類である。(128)は口縁部から体部上半にかけての残存で、内外面ともロクロナデ後、カキメ調整が入る。外面にはススが付着している。器形はIa類、胎土はE1類である。

4 区(図版53 写真図版68) 図示しえたのは土師器無台碗(134)1点のみである。(134)は口縁部から底部にかけての破片で、内面にコゲ、外面にススが付着している。器形はIIb類、胎土はE1類である。

7 区

須 恵 器(図版53 写真図版68)

2,690.7g出土しているが、破片が多数を占める。(135)は無台杯である。口縁部から底部にかけての破片で、焼成はやや不良で、焼き上がりは軟質を呈し、土師器に近い。底部の切離しはヘラによる。胎土はA1類で、小泊産と思われる。(136)は有台杯で、体部下半から底部にかけての破片である。底部の切離しは回転糸切による。高台は外面端部が接地する。胎土はA2類で、産地は小泊である。(137)は長頸壺で、口縁から頸部の破片である。口縁は朝顔型に開き、外縁は突帯状を呈する。胎土はB類で、新津丘陵産と思われる。(138)は甕である。口縁から頸部の破片で、胎土はA2類(小泊)、推定口径は16cmである。(140)は長頸壺の胴部破片で、胎土はB類(新津丘陵)である。外面はロクロナデ、内面にカキメが残る。(139)は大甕の胴部破片で、外面はロクロナデ後にタタキ調整される。内面の当て具痕は同心円状である。外面には重ね焼き痕が残る。胎土はA2類で、産地は小泊と思われる。

土師器・黒色土器（図版 54～56 写真図版 69・70）

18,623g 出土しており、量的には須恵器を圧倒する。(141)～(163)は無台碗である。成作技法はほぼ同様に、ロクロ成形→ヨコナデ調整→切離しの工程を経ている。底部が残存しないものも多いが、切離しの手法は回転糸切が主体と思われる。器形による口径は 11～13cm が主体であるが、(147)、(151)、(155) のように 15cm を超えるものも少数ある。器形は (151)、(155) が Ia 類、(145) が Ib 類、(142) が Id 類、(143)・(144) が IIa 類、(150) が IIb 類、(147)・(153) が III 類である。胎土は (161) が C 類、(146)、(147)、(149)、(150)、(152)、(156)、(157)、(162) が D1 類、(142)、(145)、(148)、(151)、(153)、(154)、(155)、(158)、(159)、(163) が E1 類、(143)・(144) が E2 類、(141) が F 類である。(157)、(160)～(163) は底部の破片である。

(164)・(165) は黒色土器の無台碗で、口縁から底部にかけて残存する。(164) は内面底部に放射状のミガキがなされ、暗文状を呈する。器形は III 類、胎土は E1 類で、推定口径は 15.6cm である。杯身は無台碗と比べて深く、本来の器高は 6cm 程度と思われる。(165) は器形 I 類、胎土 C 類、推定口径 14cm、器高指数 27.1 で、(164) と比べて杯身も浅く、通常の無台碗に黒色処理を施したような印象を受ける。

(166) は黒色土器の皿で、口縁部の破片である。胎土は E1 類、推定口径は 13.4cm である。

(167)～(178) は小甕である。破片が多く、残存は不良である。いずれもロクロ成形で、調整はナデによるが、行われぬ個体も多い。底部の切離しは無台碗と同様、回転糸切が主体 (167・174) だが、(177) は底部外周に沿って薄い粘土紐を貼り付け、ユビオサエで整形している。胴部はあまり張らず、口縁部が残存するもの (167～172) はいずれも I 類の器形に分類される。胎土は (173) が D1 類、(167)・(177) が D2 類、(169)、(170～172)、(176) が E1 類、(168)・(174) が E2 類、(175)・(178) が G 類である。(167) は外面胴部下半にススが付着している。

(179)～(189) は長甕である。いずれも破片で、残存は不良である。口径は推定で 17～26cm 前後とばらつきが多い。器形分類別では (180) が Ib 類、(184) が Ic 類、(179)、(182)、(183)、(185) が Id 類、ハケ調整が主体の (187)～(189) は II 類で、(189) は底部が平坦な固体である。胎土は (182)、(183)、(187)～(189) が C 類、(180)、(185) が D1 類、(180)、(181) が D2 類、(184) が E1 類、(179) が E2 類である。(183) は外面の広範囲にススの着が見られる。

(190)～(200) は鍋である。いずれも口縁部の破片であり、残存状況は悪い。推定復元値をもとにするが、口径は 40～44cm 程度である。胎土は (191)、(194)、(196)～(198)、(199) が D2 類、(193)、(200) が E1 類、(192)、(195) が E2 類、(190) が F 類で D2 類が多数を占めている。器形は (191)～(194) が I 類、(190)、(196)、(198)、(199) が II 類、(195)、(197)、(200) が III 類で、おおむね均等に分かれる。(190)、(196)、(198)、(200) の外面にススが付着する。いずれも口縁はロクロナデ、体部上半にカキメが確認できる。体部下半を残す個体は少ないが、(190)、(198) ではタタキメが確認できる。

b) 中世の土器・陶磁器

1 区（図版 53 写真図版 68）(123) は龍泉窯産の青磁碗で、口縁部の破片。外面に蓮弁文が施されている。出土層位は III 層である。(124) は青磁の皿で、体部に段を有する。推定口径は 10.2cm で、同安窯産と思われる。IV 層上面の出土である。(125) は III 層出土の珠洲焼の甕で、口縁部の破片である。

2 区（図版 53 写真図版 68）(129) は中世土師器で、III 層出土である。成形は手づくね、推定口径は 11.6cm ある。

3 区（図版 53 写真図版 68）珠洲焼・越前焼等が出土しているが、量は少なく、いずれも破片である。状態の良い 4 点を図示した。珠洲焼は壺 R 種 (130)・甕 (131)・播鉢 (132)・越前焼甕 (133) である。出土層位は珠洲焼の 3 点が III 層だが、越前焼の甕は I 層で、混入品の可能性がある。

7 区（図版 56 写真図版 70）比較的状態の良好な 2 点を図示した。(201) は珠洲焼の甕、(202) は珠洲焼の播鉢である。いずれも III 層の出土で、状態は破片である。

第3節 土製品・石製品・金属製品・搬入礫・鉄滓

A 出土状況

土器以外の出土遺物を記述する。土製品、石器、石製品、搬入礫、鉄製品、銭貨、鉄滓がある。

総計 66,118.6g 出土しており、7区における出土量（遺構 48,168g、包含層 13,383.2g）が最も多い。大多数が遺構出土で、7区の区画溝（SD30、108、775）や同区の遺物集中土坑（SK141、145等）、井戸（2区 SE25、4区 SE59、7区 SE678）などで多く出土している。

B 石器・石製品・搬入礫（図版 57～59 写真図版 71・72）

砥石と石製品、搬入礫がある。砥石は自然礫等の素材を加工せずそのまま使用したもの、使用前に素材を整形したもの、破片等を転用したものに分けられる。搬入礫は、砥石など日常道具としての使用は認められないが、何らかの意図を持って打割・被熱等の加工が加えられた礫である。形状は棒状・円盤型が多く、石材も軽石や流紋岩質凝灰岩等の遺跡周辺で採取できない石材を用い、多くが破碎されている。また、被熱するものと、しないものがある。

1) 遺構

a) 2区

SE25（図版 57 写真図版 71）（1）は流紋岩質凝灰岩の長円礫を用いた砥石で、両面に広く砥面を形成し、溝状の砥痕も見られる。

SD17（図版 57 写真図版 71）（2）は軽石製の砥石で、表裏両面に部分的な砥面を有する。

SD24（図版 57 写真図版 71）（3）は軽石の円礫を素材とする砥石である。砥面は片方のみだが、平坦に形成されている。裏面は一部打ち欠かされている。

SD34（図版 57 写真図版 71）（4）は流紋岩質凝灰岩の砥石で、事前に素材を敲打により成形したと思われ、全面に平坦な砥面を有している。

SD63（図版 57 写真図版 71）（5）は流紋岩質凝灰岩の破片を利用した砥石で、表面のみに砥面が形成される。

b) 3区

SD33（図版 57 写真図版 71）（6）は砥石で、軽石の円礫を直接転用したものである。表裏面と側面に砥面を有する。

c) 4区

SD72（図版 57 写真図版 71）（7）は3層出土の砥石である。軽石の円礫を直接素材としているが、砥面は溝状となる。裏面は自然面のままだが、打欠き痕がある。

SD83（図版 57 写真図版 71）（8）は排土より発見されたもので、層位は不明。緑色凝灰岩の棒状礫を直接転用したもので、正・裏面と両側面に砥面を有する。刀子状の物体の研磨痕が全面に観察される。

SD106（図版 57 写真図版 71）砥石（9）が3層から出土している。卵形の礫を素材としたもので、表面に刀子等の刃部の砥痕が残る。下部の平坦面は使用痕ではなく、石の目である。

SE59（図版 57 写真図版 71）搬入礫（10・11）が出土している。（10）は安山岩であるが、破碎が激しく、原礫の正確な形状は不明である。縁辺に連続剥離痕が残る。表面は被熱により赤化し、全体にススが付着する。被熱行為は破碎後に行っている。（11）はやや扁平な流紋岩の棒状礫を素材とする。最初に短軸方向に打割し、打割面を打面として長軸方向に加撃し、表面を剥離している。全体にススが付着しているが、表の打割面と剥離面には付着せず、段階を経て破碎した可能性がある。

d) 7 区

SE678 (図版 57 写真図版 71) (12)・(13)・(14) は砥石である。いずれも相当使い込んであり、ほぼ全面に砥痕が残っている。(12) と (14) に多く残る細い溝は刀子の刃部の砥痕と思われる。

SD2 (図版 57 写真図版 72) (15) は搬入礫である。流紋岩質凝灰岩の路頭採取礫で、接合後の法量は長さ 20.5cm × 幅 15cm × 高さ 12.8cm、重さは 2,675.8g ある。石材の産地は (27) と同地であろう。使用痕は認められないが、外面は被熱している。

SD30 (図版 58 写真図版 71) (16) は搬入礫である。使用痕・被熱等は認められない花崗岩の棒状礫であるが、(1)、(8)、(25) 等の素材として搬入された可能性を考慮し、掲載した。

SD108 (図版 58 写真図版 71・72) (17)・(18) は搬入礫である。(17) は変成砂岩の転礫で、長さ 29.2cm × 幅 15cm × 高さ 12.2cm、重さは 8,757.5g ある。被熱しないが、裏面に加撃時の打点が残し、意図的な破碎であることが分かる。(18) は扁平な閃緑岩の円礫で、短軸面で半割される。被熱により劣化し、表・裏面にススが付着する。破碎はススの付着後である。

SD267 (図版 58 写真図版 71) (19) は軽石の破片を再利用した砥石である。(20) は扁平な安山岩の搬入礫で、全体にススが付着する。軸に近い部分で打ち割られているが、破断面にススの付着が認められないことから、ススを付着させる行為後に半割されたことがわかる。使用痕は観察できないが、被熱後に打割→廃棄の工程を経ている。

SD718 (図版 58 写真図版 71) (21) は流紋岩質凝灰岩の砥石の破片である。

SD775 (図版 58 写真図版 71) (22) は頁岩製の砥石である。硯の破片からの転用品と思われる。

SK56 (図版 58 写真図版 71) (23) は軽石の全体を敲打により整形した石製品である。下半部を欠損するが、幅中央部が激しい敲打により溝状を呈する。特に正面は激しい敲打によりクレーター状となる。用途は不明だが、溝状の部分に縄を掛け、錘として用いたか。ただし溝に摩滅痕は見られない。

SK92 (図版 58 写真図版 71) (24) は搬入礫である。安山岩の扁平円礫で、破断面にも顕著な被熱痕が残ることから、破碎後にも被熱させたことがわかる。

SK141 (図版 59 写真図版 71) (25) は搬入礫で、安山岩の棒状礫を短軸方向で半割し、その後、長軸に沿って半割されたもの。打割面が強く被熱し、赤化する。

SK145 (図版 59 写真図版 71・72) (26) は軽石製の砥石で、細かく破碎され廃棄されていたものを接合したもの。(27) は搬入礫である。流紋岩質凝灰岩の大型礫で、破片の接合体である。長さ 24.6cm × 幅 21.7cm × 高さ 15.7cm、重さは 5,806g ある。形状から、転礫でなく路頭採取礫と思われる。打割後に被熱している。

SK575 (図版 59 写真図版 71) (28) は搬入礫で、軽石の長円礫を母材とする。外面は比較的平滑であるが、使用痕は確認できない。長さ方向に大きく割れており、上部の打点周囲には顕著な加撃痕が見られる。被熱痕は確認できない。

SK601 (図版 59 写真図版 71) (29) は砥石である。発泡した流紋岩(軽石)を使用している。整った形状であるが、明瞭な使用痕は確認できない。正面中央部に凹痕状の凹面を有するが、使用痕とは判断できない。(30) は扁平な軽石の円礫をそのまま砥石として用いたもので、扁平な面(図での正・裏面)を砥面としている。

2) 包含層

2 区 (図版 59 写真図版 71) (31)、(32) は砥石である。どちらも礫の破片の一部を用い、使用の結果砥面が形成された転用砥石である。(31) は流紋岩、(32) は流紋岩質凝灰岩である。

7 区 (図版 59 写真図版 71) (33)・(34)・(35) は砥石である。(33)・(35) は礫破片の転用砥石で、石材は流紋岩質凝灰岩である。(34) は形状を意識しているようであるが、原礫の表面は使用により完全に消失しており、事前に整形したのか、使用の結果であるのかは判断できない。流紋岩質凝灰岩を用いている。

C 土製品 (図版 59 写真図版 71)

(1) は 7 区 SD30 出土の焼成粘土塊である。胎土は土師器無台椀に多い D1 類で、内外面に不定方向のナデが観察される。

D 金属製品・銭貨・鉄滓 (図版 59 写真図版 71)

2・6・7区で22点出土している。いずれも腐食が進み、一部分のみの残存である。図示しえた7点を掲載する。

(1)は板状の製品であるが、詳細は不明である。6区SD16からの出土である。半身が欠損している。(2)、(3)、(4)、(7)は釘の一部と思われる。それぞれ2区SE25、7区包含層(11R-9E5)、7区包含層(11R-8F10)、7区SD775から出土している。

(5)は腐食が甚だしいが、断面が扁平で、刀子の刃部と思われる。7区P692から出土している。

(6)は鉄鏃で、7区包含層(11R-8F4)から出土している。

(8)は銭貨で、7区SD47の2層下部からまとまって出土した6枚のうち1点である。他の銭貨は依存状態が極めて悪く、本資料のみ図示した。いわゆる北宋銭で、行書で元豊通宝(初鑄1078年)の銘が見える。

この他、図示していないが、7区では遺構・包含層から鉄滓が10点出土している。残存状況が良好な4点(9～12)を写真図版71に掲載した。いずれも褐色～赤褐色を呈し、不純物が多く、磁性は極めて低い。炉材や燃料材が溶融したものであろう。詳細は観察表および写真図版を参照されたい。

第VI章 8区 工事立会

本章では、8区における工事立会で発見された遺構・遺物を解説する。発見の経緯および調査過程については第三章を参照されたい。

A 基本層序

1～7区と共通する。詳細は第四章での記述に従う。Ⅲ層が遺物包含層、Ⅳ層上面が遺構確認面である。Ⅲ層およびⅣ層上部は攪乱により残存不良である。

B 遺 構 (第19図 写真図版61)

調査面積は上端で84.3m²を測る。

溝11条、土坑1基、ピット2基が検出されている。掘削していないため、深度や覆土の堆積状況は不明である。溝は主軸がN-83°-E周辺にあり、3・4区の主な溝と軸が共通する。

C 遺 物

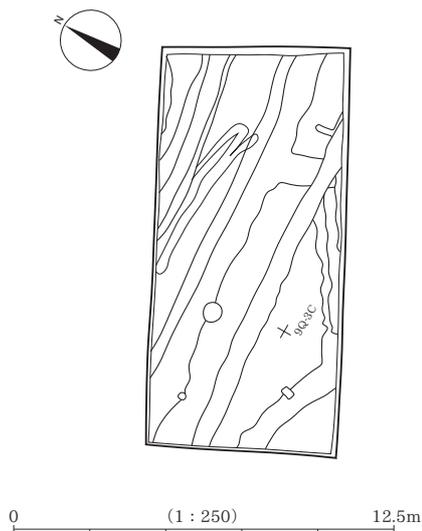
重量分布を第20図に示す。土器・陶磁器類411.1g(土師器34g、珠洲焼329g、青磁8.2g)、石製品1,614.9gが出土している。古代の土器は小破片のため掲載していない。

1) 中世土器・陶器 (図版56 写真図版70)

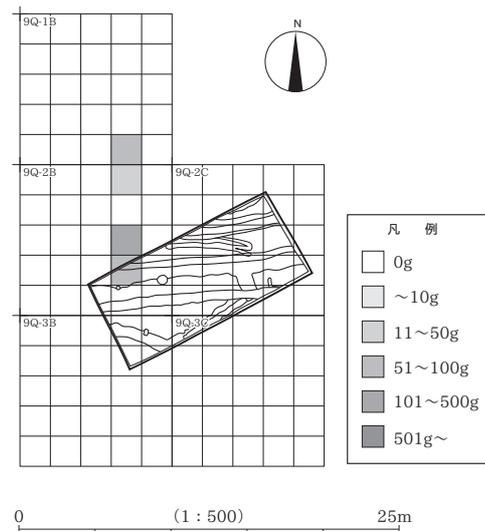
破片資料の2点を掲載した。いずれもⅢ層から出土している。(204)は珠洲系陶器の播鉢である。焼成は不良で、内面は剥落が激しい。(203)は珠洲焼の壺で、焼成はやや瓦質。底部に静止糸切痕が確認できる。

2) 石 製 品 (図版59 写真図版71)

36は石製品で、五輪塔の一部と思われる。砂岩を加工している。



第19図 8区遺構検出状況



第20図 8区遺物分布状況(古代・中世)

第Ⅶ章 総 括

第 1 節 遺 物

A 古代の土器

1) 器 種 構 成

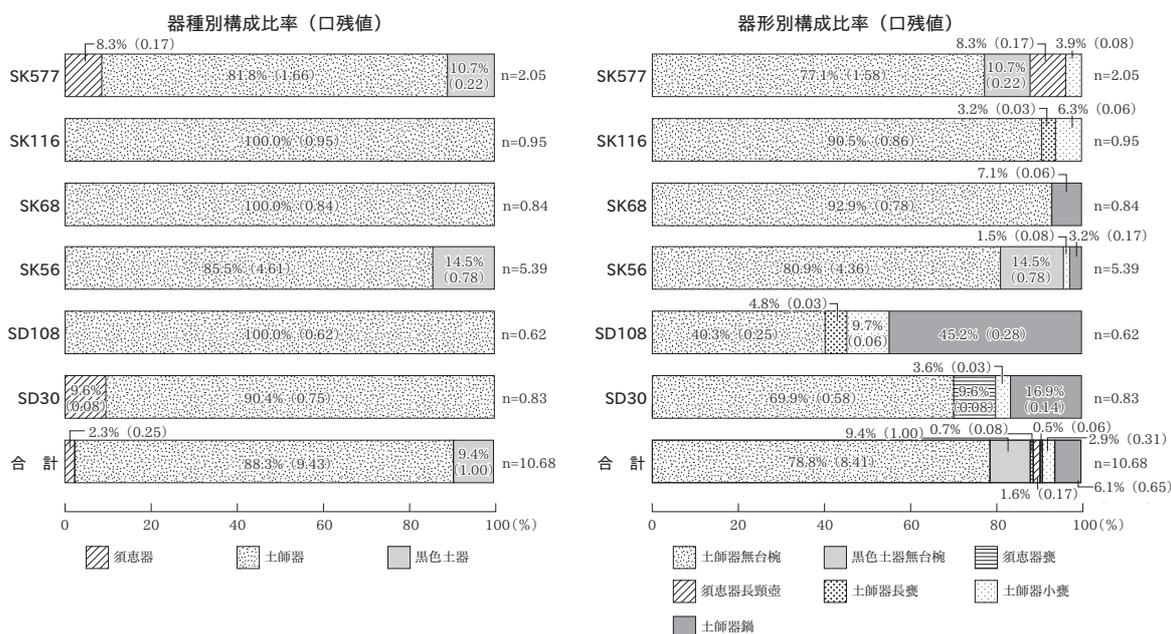
主要遺構における出土土器の機種構成比率については、別表 8 に口縁部計測法〔宇野 1992〕に基づいて算出した遺構別の器種別構成比率を示した。口縁部が残存しない器種も存在するため、破片数と重量も併記している。

別表 8 にもとづき、主な遺構の出土土器の構成比率をグラフ化したのが第 21 図である。対象遺構は 7 区のみである。1～6 区は遺構からの遺物の出土量が少なく、まとまったデータが採取できなかった。

器種別では土師器の割合がいずれも 80% を超え、須恵器・土師器の量に大きな差がある。

器形別では食膳具の割合が多く、個別で見ると土師器無台碗がそれぞれ 40～90% 台を示す一方、黒色土器無台碗の割合は多くても 10% 台後半で、出土する遺構も限られる。貯蔵具の割合は低く、全体で 9.6%、遺構別でも 20% 以下がほとんどである。煮炊具も同様の傾向を示すが、SD108 のみ土師器鍋のまとまった出土(45.2%)がある。

以上、遺構出土遺物の割合からは、古代の土器は土師器を主体とし、用途別では食膳具の土師器無台碗がほとんどを占め、須恵器が極めて少ないことがわかる。

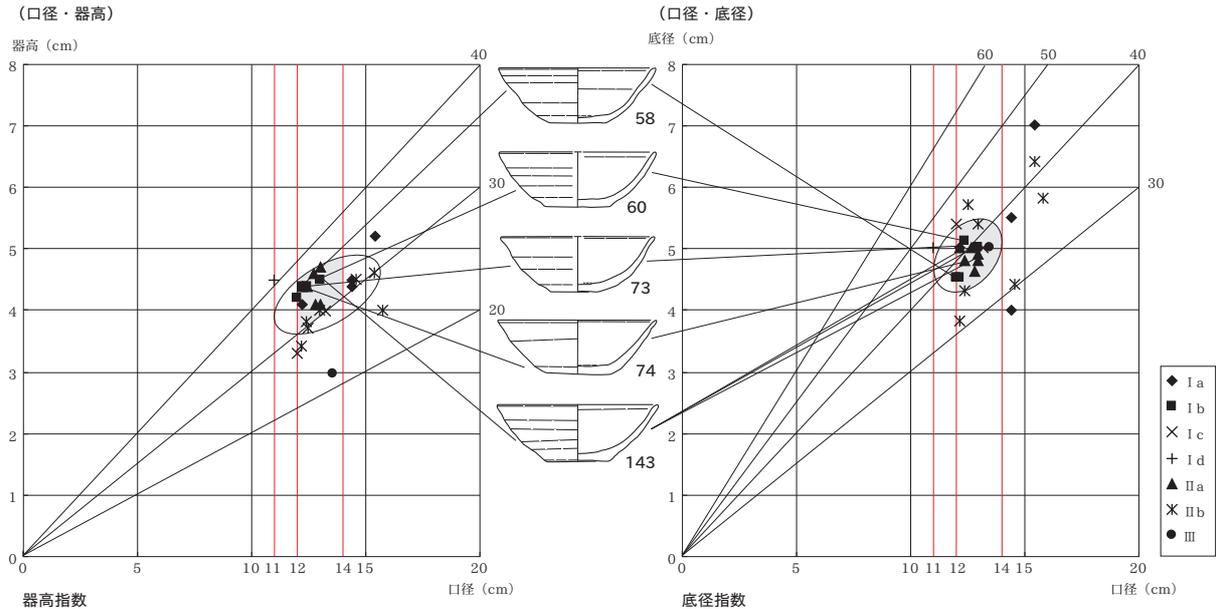


第 21 図 細池寺道上遺構別器種構成比率 (口残値)

2) 法 量

土師器無台碗の分類別法量については第Ⅴ章第 15 図で示したとおりだが、それにもとづけば、口径については 14cm 以上 (大型)、12～13.5cm (中型)、11cm 程度 (小型) の 3 グループに分けられる。分類別では I a 類の多くが大型に、I b・I c・II a 類が中型、I d 類が小型になる。II b 類は大型と中型がある (第 22 図)。

次に器高指数に着目すると、腰高な I d 類 (40.9)、低平な III 類 (22.2) 等の極端な形状を除くと、多くが器高指数 30～36 以内におさまっている (分類別では I b 類が 35 前後、II b 類は 30 前後に多い傾向がある。II a 類は 36 前



第22図 細池寺道上遺跡主要土師器無台椀法量

後のものと、32前後のものがある)。

底径指数では35～40周辺が最も多い。特にI b、II a、III類が36～40周辺にまとまって分布している。I a、I c、II b類はばらつきが大きい。I d類(45.5)はやはり特異である。

土師器無台椀の法量からは、細池寺道上遺跡出土の土師器無台椀の法量は、口径12～13.5cm、器高指数30～36、底径指数35～45程度の個体が多数を占め、I b類・II a類が標準的な器形であることがわかる(第22図)。

3) 編年の位置付け

細池寺道上遺跡における器種別割合および土師器無台椀の法量解析を踏まえ、遺物の編年の位置付けについて、同時期の遺跡(第9表)と比較しつつ、検討する。使用する編年は、春日真実による編年案(〔春日2007〕、以下春日編年という)を基とし、〔春日1999・2000・2005〕等を参考とした。年代の表記は、ローマ数字表記による春日編年と世紀と四半期で示す実年代を併記した。

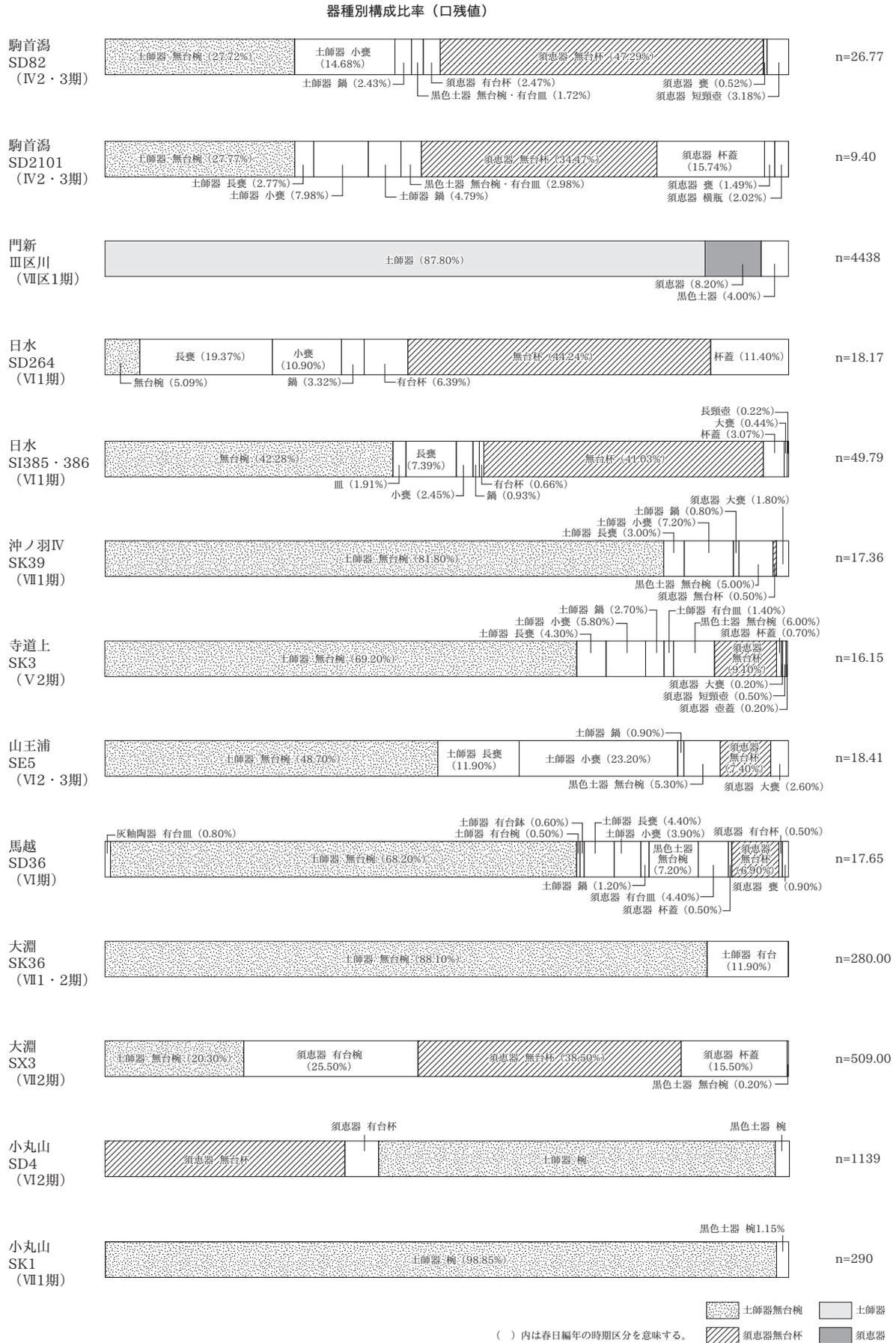
a) 器種の割合から

周辺遺跡における器種別の出土割合をまとめたのが第24図である。この中から今次調査の器種構成の特徴である①土師器無台椀の圧倒、②須恵器が極僅か、と同様の条件を満たすのは器種構成を有する例は、門新遺跡Ⅲ区川〔丸山2005〕、沖ノ羽遺跡Ⅳ SK39〔立木ほか2008〕、寺道上遺跡 SK3〔渡邊朋和ほか2001〕、大淵遺跡 SK36〔廣野ほか1999〕、小丸山遺跡 SK1〔小池ほか1995〕である。寺道上(V2期)以外は、春日編年でVI 2・3～VII 1・2(9世紀後半から10世紀初頭)に位置付けられる。特に数値的に近いのが門新(VII 1・2)、沖ノ羽Ⅳ(VII 1)、大淵(VII 2)、小丸山(VII 1)で、これらの遺跡の出土状

第9表 器種構成・法量比較事例遺跡一覧

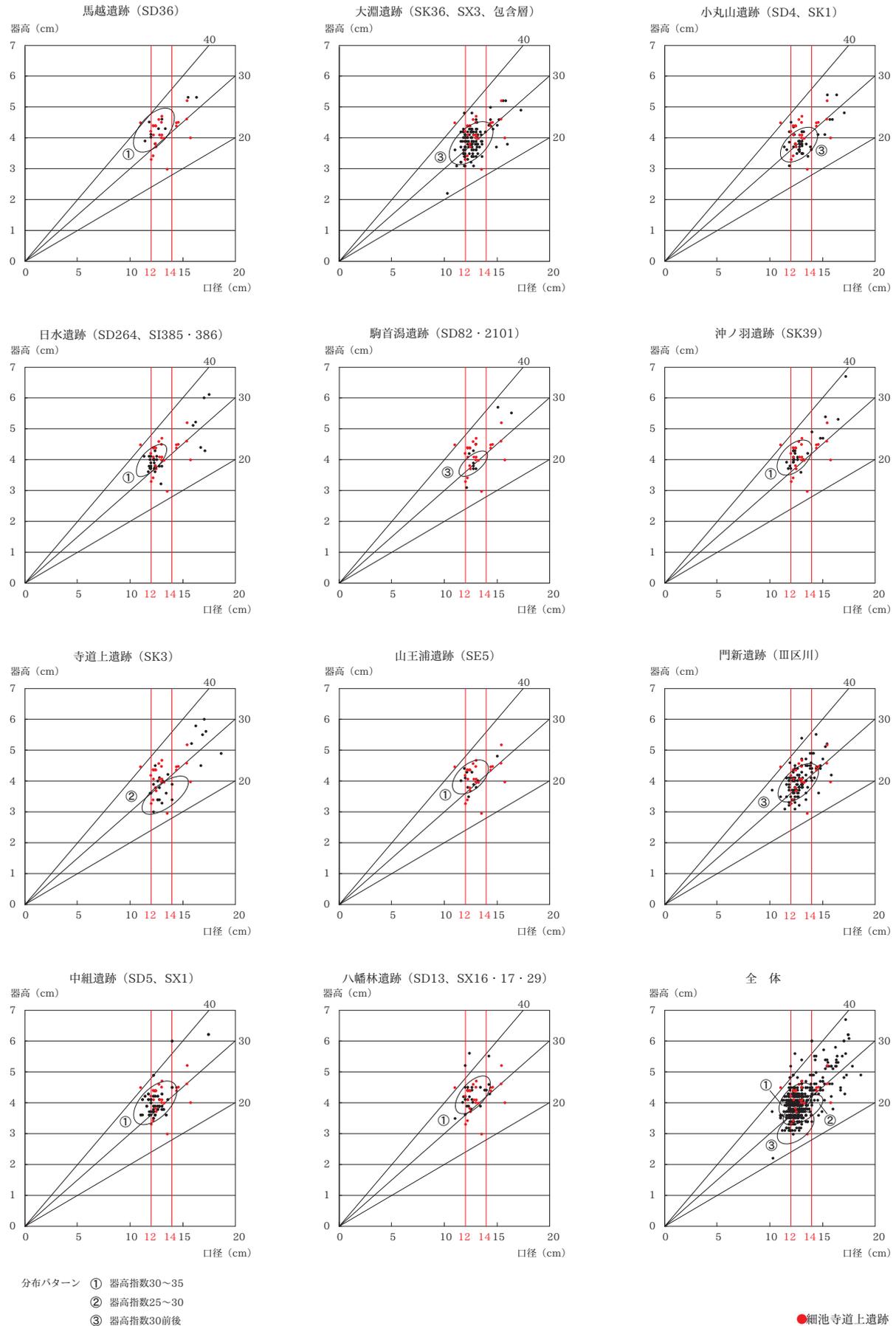
第24～26図は本表掲載資料をもとに作成した。

遺跡名	所在	抽出遺構	文献	備考
馬越	加茂市	SD36	〔伊藤2005〕	
		SK36		
大淵	新潟市江南区	SX3	〔廣野ほか1999〕	
		包含層		
小丸山	新潟市江南区	SD2	〔小池ほか1995〕	
		SD4		
		SD5		
		SK1		
		SX3		
日水	新潟市江南区	SD264	〔今井ほか2007〕	
		SI385		
		SI386		
駒首潟	新潟市江南区	SD82	〔渡辺ますみほか2009〕	
		SD2101		
沖ノ羽Ⅳ	新潟市秋葉区	SK39	〔立木ほか2008〕	
寺道上	新潟市秋葉区	SK3	〔渡邊朋和ほか2001〕	現・細池寺道上遺跡範囲内(H13統合)
山王浦	新潟市秋葉区	SE5	〔立木ほか2004〕	
門新	長岡市	Ⅲ区川	〔丸山2005〕	旧和島村
中組	燕市	SD5	〔川上1996〕	旧吉田町
		SX1		旧吉田町
八幡林	燕市	SD13	〔田中2005〕	旧和島村
		SX16		旧和島村
		SX17		旧和島村
		SX29		旧和島村

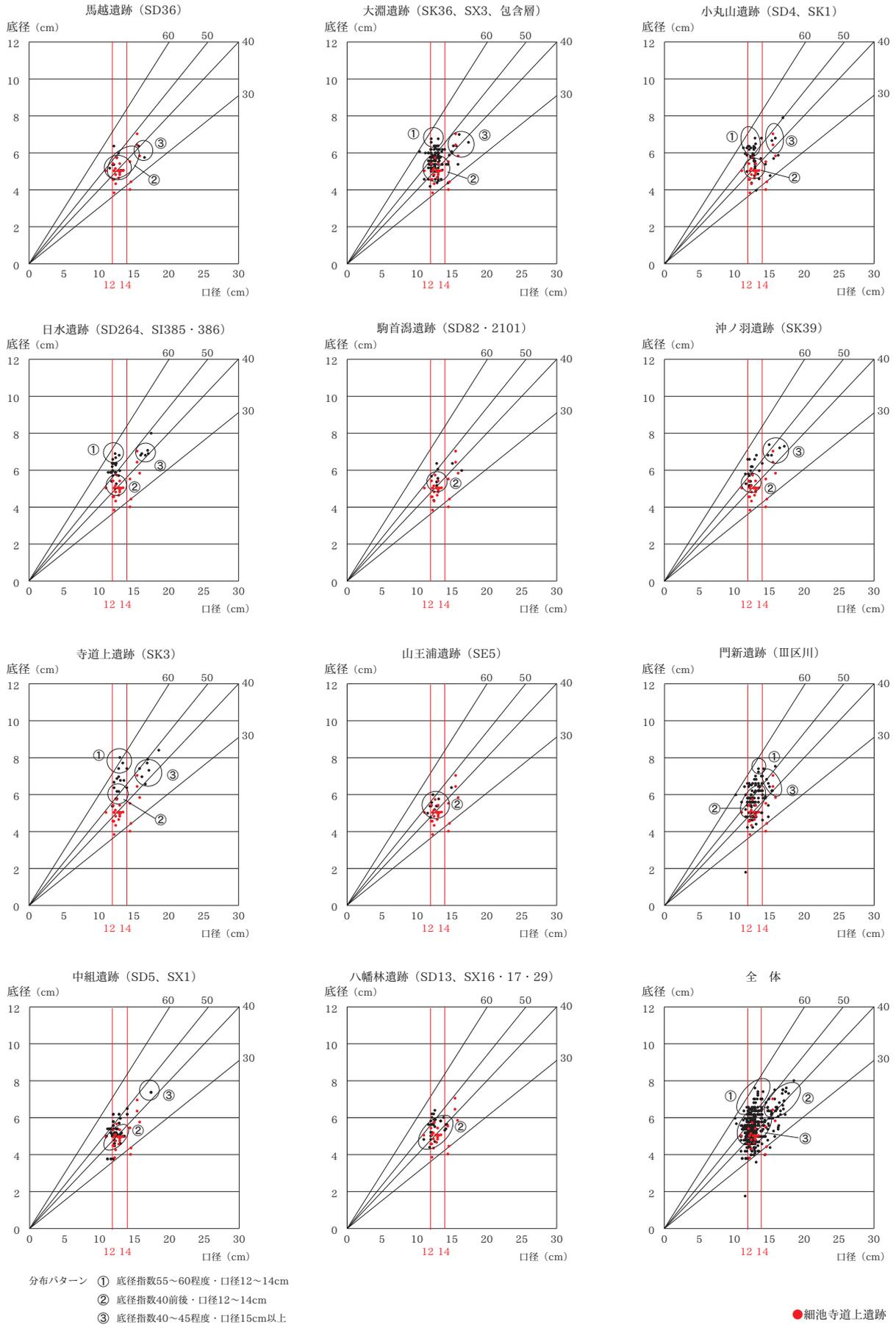


第 23 図 周辺遺跡主要遺構別器種組成図

第1節 遺物



第24図 周辺遺跡の土師器無台椀法量比較 (器高指数)



第25図 周辺遺跡の土器無台税法量比較 (底径指数)

況に照らせば、細池寺道上の遺物出土割合は春日編年でVI 2・3～VII 1・2期（おおむね9世紀後半～10世紀初頭）に比定される⁽¹⁾。

b) 器高指数と底径指数から

第24・25図は第9表に挙げた遺跡から作成した土師器無台碗の法量分布図（器高指数・底径指数）に、細池寺道上遺跡の法量（赤）をプロットしたものである。

口径では、全ての遺跡で12～14cmのもの（細池寺道上ではI b、I c、II a類が該当する）が圧倒的に多いが、大淵、小丸山、日水、沖ノ羽等では口径14cm以上（同I a類に相当）のものも少数ながら存在する。

器高指数では、各遺跡とも25～35前後に集中するが、詳細に見ると、①器高指数30～35（馬越、日水、沖ノ羽、山王浦、中組、八幡林）と、②25～30前後（寺道上）、③30前後（大淵、小丸山、駒首湯、門新）に分布の集中が見出せる。細池寺道上遺跡ではいずれのグループも見出せるが、個体数では①と③にあたるもの多く、法量の分布は③の遺跡に近い。

底径指数については、第25図のとおり、いずれの遺跡も底径指数30～60の間に広く分布しているが、①口径12～14cmで、指数55～60程度のグループ、②口径12～14cmで指数40前後のグループ、③口径15cm以上で指数40～45程度のグループに分けられそうである。細池寺道上遺跡では上記①～③いずれの法量も存在するが、比較事例で挙げた遺跡のうち、同様に①～③全ての法量が存在するのは大淵、小丸山、日水、寺道上、門新遺跡である。

周辺事例との検討の結果、細池寺道上遺跡出土の土師器無台碗の法量は、器高指数で大淵、小丸山、門新遺跡と底径指数では大淵、小丸山、日水、寺道上、門新遺跡と同様の分布傾向を示し、細池寺道上、大淵、小丸山、門新遺跡の土師器無台碗の法量は一致することがわかった。

c) 細池寺道上遺跡の古代遺物の編年の位置

前項までの検討の結果判明した事実は、①出土土器は、器種構成では春日編年VI 2・3～VII 1・2期頃の器種構成と同様であること、②土師器無台碗の法量は、大淵遺跡SK36（春日編年VII 1期）、SX3（同VI 2期）、小丸山遺跡SD4（同VI 2期）、SK1（同VII 1期）（同VI 2・3～VII期）、門新遺跡Ⅲ区川（同VII 1期）とおおむね一致する、という点である。

以上の事実から、細池寺道上遺跡出土の古代遺物は、大きくは春日編年VI 2・3～VII 1・2期（おおむね9世紀後半～10世紀初頭ごろ）に比定できるが、これに須恵器および土師器煮炊具が極めて少ない点と、SK56、SK575等で見られる土師器の一括廃棄事例を加味し、春日編年VII 1・2期（9世紀末～10世紀初頭）と判断する。

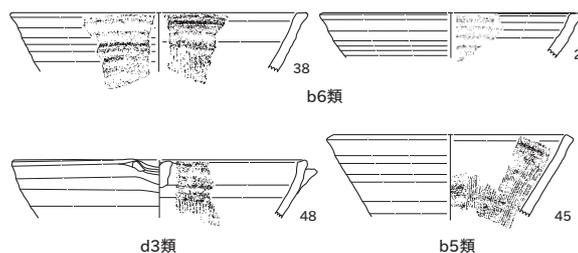
B 中世の土器

1) 資料の検討

中世の遺物はまとまった量が出土しておらず、全て破片資料のため、得られる情報は少ない。最も多く出土しており、編年が確立されている珠洲焼を個別に検討し、遺物の時期を比定する。対象資料は珠洲焼の中で最も時期別の差異が明瞭な播鉢・片口鉢の口縁部4点（2・38・45・48）である。用いる編年は〔吉岡1994〕（以下吉岡編年という）にもとづく。

口径は、いずれも推定値であるが、35cm前後のもの（38・48）、30cm程度のもの（2）、28cm程度のもの（45）に分かれる。各時期とも定量存在する法量のようなものである〔吉岡前掲〕。

器形は底部から口縁部に向かっておおむね直線的に開き、口端部に水平面が作出される「水平口縁」（2・38・48）と、胴部の伸張方向と口端部が



第26図 珠洲焼 片口鉢・播鉢 断面形体分類図
〔吉岡1994〕にもとづく

直交する面が作出され、かつその面が外側に向かって傾斜する「外傾口縁」(45)が存在する。吉岡の分類によれば水平口縁は(2)・(38)がb6類、(48)がd3類、外形口縁はb5類に相当する(第26図)。

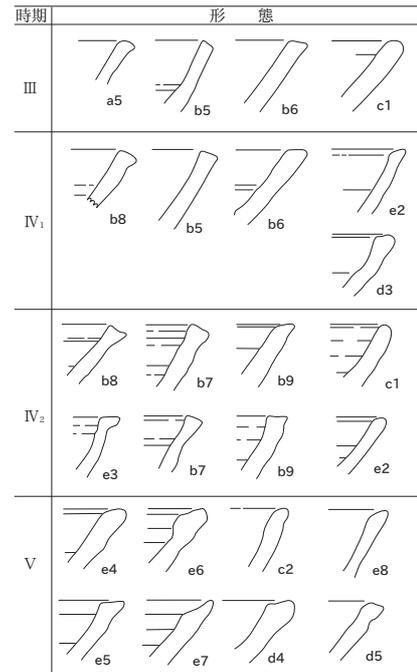
卸目の幅は2~2.5cm前後で、目は深く、はっきりしているが、破片のみであるため、条数は不明である。

2) 編年の位置付け

遺物の残存の問題から、法量と卸目のデータは採れなかったため、口縁部断面形状のみで遺物の帰属時期を検討する。精確さには欠けるので、あくまで目安と捉えていただきたい。

吉岡編年にもとづく口縁型式変遷図(第27図)に、分類した断面形状を当てはめると、片口鉢の水平口縁b6類が存在するのはⅢ期とⅣ₁期、同d3類はⅣ₁期のみにあられる。外傾口縁b5類もⅢ期とⅣ₁期のみであるため、3者が共通して存在するⅣ₁期(1280~1310年代)となる。

以上の結果から、出土した珠洲焼の時期は鎌倉時代後期に位置付けられ、遺構等で供伴するその他の中世遺物も概ね同時期と推定される。



第27図 珠洲焼 片口鉢・播鉢 口縁型式変遷図 (吉岡1994を一部抜粋)

第2節 遺構

A 帰属時期の決定

1) 7区の遺構

7区の遺構の帰属時期の決定にあたっては、以下の手順に沿った。

① 出土遺物の検討(第28図)

古代・中世いずれかのみを出土するか、もしくは供伴するか、供伴には層位的な偏りがあるか。

② 図版60から遺物の接合関係を抽出(第10表)。異なる遺構覆土から出土した破片が接合した場合、両者は同時代の可能性を有する(確定ではない)。

③ ①・②で時期の確定した遺構と軸が平行・直交もしくはそれに付帯すると思われる帰属時期未定の遺構をリストアップし、仮グループを作成。

④ ②で抽出した同時期の可能性のある遺構と③で作成した仮グループ内で、個別の情報(平断面図・写真・土層注記)および隣接調査区の遺構配置を突合せ、最終的に選抜する。

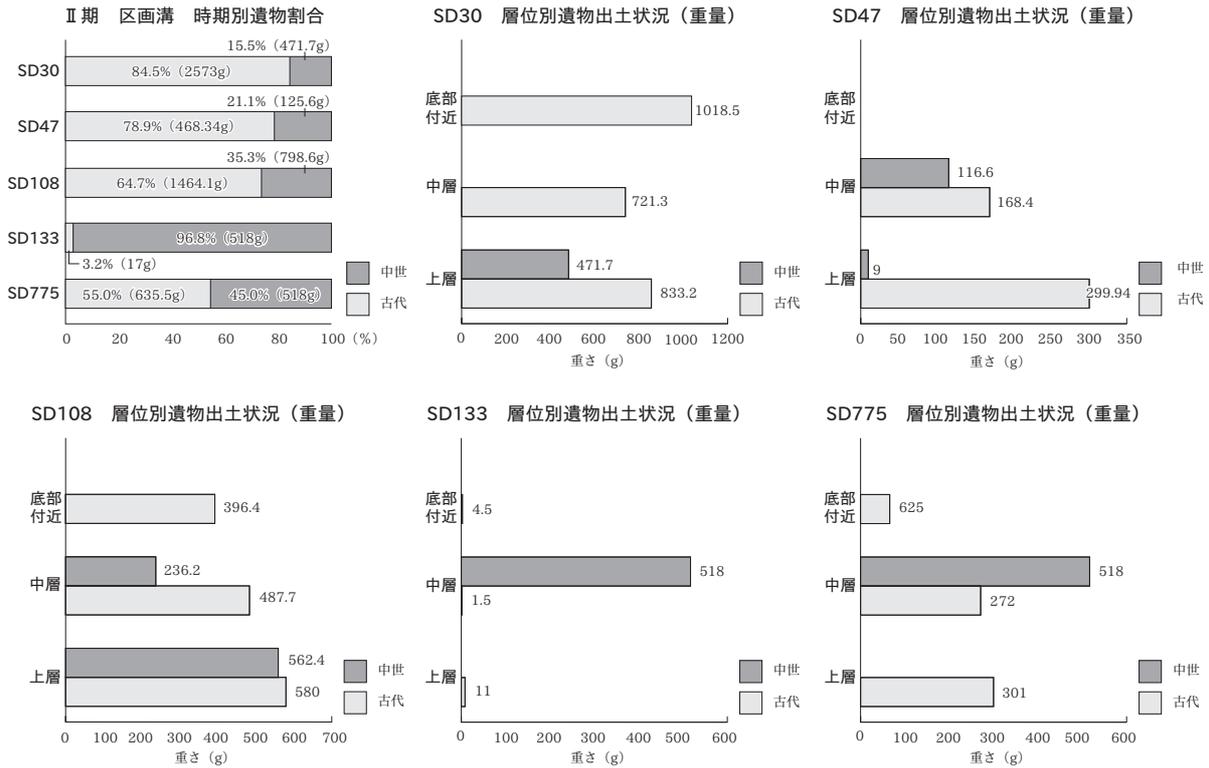
覆土の土質については、調査区間で質にばらつきがあるため、時期判別の要因とはならなかった⁽²⁾。

なお、この過程を経ても帰属時期が不明な遺構が相当数存在するが、これらは帰属時期不明扱いとした。以上の作業により決定した7区の時期別の遺構分布が第29図である。以下に詳細を記述する。

細池寺道上Ⅰ期(9世紀末~10世紀初頭) SB2・10、SD2・17・93・94、SK26・56・116・145・201・202・411・414・575・577・601・878などで構成される。特徴としては、①古代の遺物のみが出土する。②古い様相を示す遺物(ハケ甕95)が出土する。③SD30・108等に切られる、④主軸がN-20°-EもしくはN-110°-E近辺にあることが挙げられる。遺物は春日編年Ⅶ1・2期に相当する土師器無台椀が主体である。遺構間の接合関係はSD17とSK26およびSD93、SK56とSK577、SD2とSK116、SK575とSK577の間

第10表 接合関係にある遺構一覧

遺物No.	器種	遺構
25	緑釉陶器皿	SD30, SD47
29	須恵器大甕	SD30, SD47
37	土師器鍋	SD17, SK26, SD93, SD140
45	珠洲焼播鉢	SE677, SE704
49	珠洲焼播鉢	SD133, SE704
65	黒色土器無台椀	SK56, SK577
88	土師器鍋	SD2, SK116
104	土師器無台椀	SK575, SK577



第28図 II期区画溝における古代・中世遺物の供伴状況

で認められる。なお、土師器はSD30をはじめとする大規模な溝の深部でも出土していることから(第28図)、SD30・47・108・133等の溝は、当期のいずれかの段階で構築が開始されたと思われる。

細池寺道上II期(13世紀末～14世紀初頭) SB7・8等の掘立柱建物が設置され、中世的集落が完成した時期。SD30・108等は当期において完全な区画・水系として確立する。SB1・3～9、SE677・704、SD30・47・108・133・775等から構成される。遺構の主軸方位はおおむね東西南北を意識し(SD775のように例外もあるが)、区画を形成している。遺物量は非常に少なく、SD30等の区画溝と井戸に偏る。接合関係はSD30と47、SE677とSE704、SD133とSE704の間で認められる(第10表)。溝からは古代と中世の遺物が共伴するが、中世の遺物は覆土の中層以上で出土する傾向があり(第28図)、SD30をはじめとする区画溝がI期から継続利用されていた可能性を示している。遺物の主体となる珠洲焼は吉岡編年IV₂期(1280～1310年代)に該当する。

近世以降 SD102・190～193・423・607・628・629等、溝のみで構成される。主軸と切り合いから、軸がN-27°-EもしくはN-63°-Wを向く一群(SD102・193等)と、主軸がN-49°-EもしくはN-37°-Eを向く一群(SD103、SD628等)、II期の遺構と軸が近い一群(SD193・423)に分けられる。両者の前後関係は、SD193、SD102 > SD103であり、前者が新しい。いずれもII期の遺構を切っている。SD193・603等は暗渠の可能性もあるが、位置関係から現圃場との関係性はないと思われる。近世陶磁器と古代・中世遺物の同一層内での供伴が見られる。

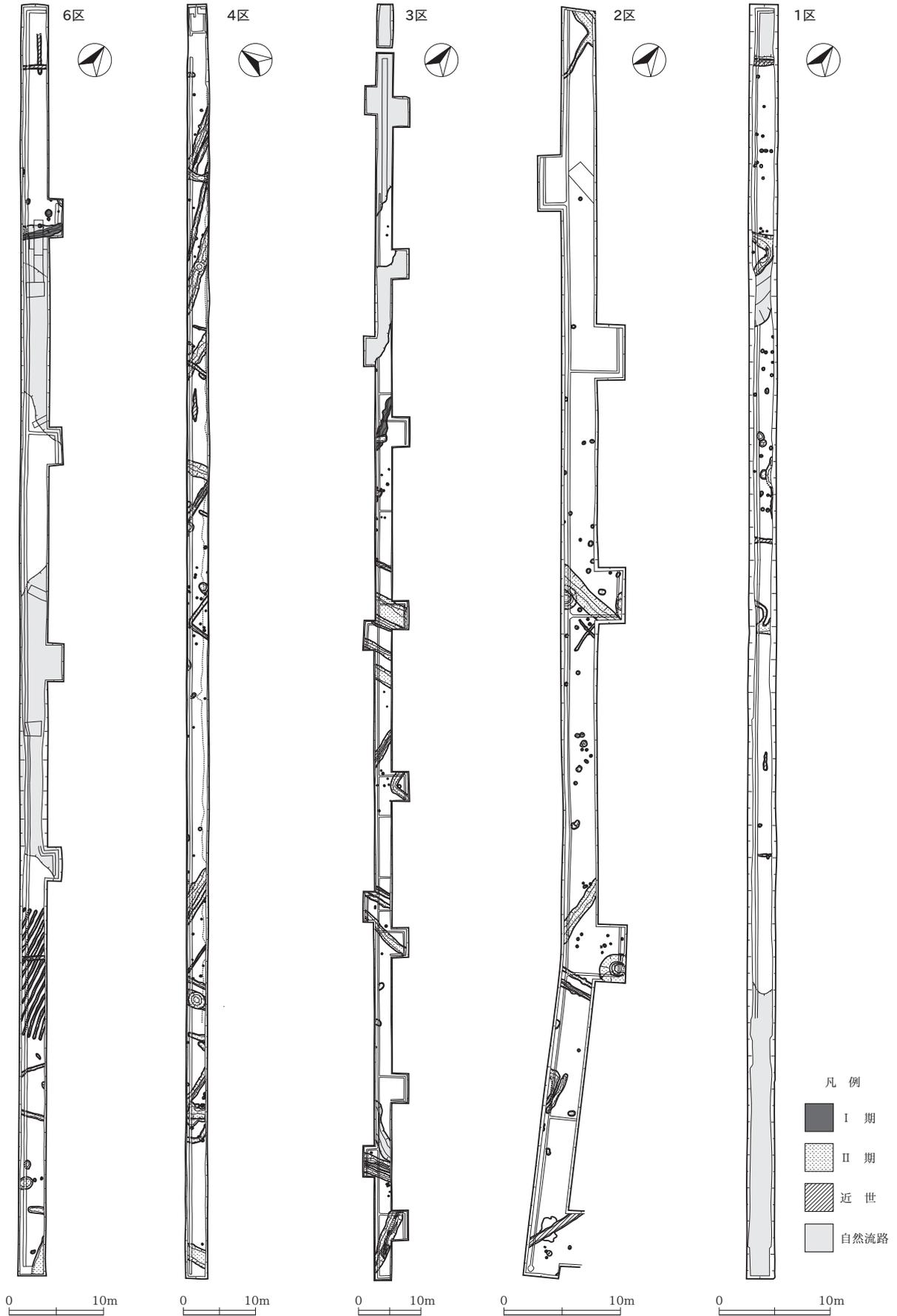
掘立柱建物(SB)・井戸(SE)

掘立柱建物と井戸の時期決定については、以下に詳細を記述する。

SD30、108などの大規模な溝群との関係が帰属時期の判断根拠の一つとなるが、個別に見てみると、軸が共通するもの(SB1、3～9)と、溝(SD108など)に切られているもの(SB2・10)があることがわかる。これらの溝は古代末から中世前期にかけての遺物が多く出土していることから、この溝群と切合い関係の無い前者がII期、後者をI期に位置付けることができよう。掘立柱建物自体の形態には時期差を見出せないが、II期の掘立柱建物が周囲に井戸や土坑・雨落溝等、何らかの付帯施設を有するのに対し、I期の掘立柱建物は目立った付帯施設を



第 29 図 時期別の遺構 5・7 区



第30図 時期別の遺構 1～4・6区

有しない⁽³⁾ 点に違いが認められる(第31図)。

井戸については、遺物はSE399・434で古代のみ、SE677・704で古代・中世遺物が供伴し、SE678では中世遺物のみ出土している。また、SE677、SE704間で遺物(珠洲焼播鉢)に接合関係があり、両者が同時期の可能性を示唆している。井戸と掘立柱建物との関係に着目すると、SB9に隣接し、かつ切合い関係にないSE704はSB9の付帯施設であり、時期を同じくすると判断できる。SB9はⅡ期に比定されるため、SE704はⅡ期の遺構となる。

SE399・434・677・678はいずれも掘立柱建物と切合い関係が認められる。SE399・677・678は縁辺部が建物のプランと切合っているが、配置的には建物を意識していると思われる。井戸の掘り方は実際の規模より大きくなるため、一部が建物のプランに食い込んでも不思議はない。むしろ先行して井戸を設置し、その後、建物を建てるという工程を想起しよう。SE399はSB1に、SE677・678⁽⁴⁾はSB8に伴って構築されたと考えられ、建物の時期に合わせれば、両者ともⅡ期となる。

SE434はSB10(Ⅰ期)と切り合い関係を有するが、SB10のプランはSE434の中心部を通り、同構の柱穴も想定されることから、両者は時期を異にすることがわかる。SE434はSB10より後に構築されたもので、Ⅱ期に比定されよう。

以上のとおり、7区で検出された井戸は、すべてⅡ期に属すると判断する。

2) 1～6区の遺構(第30図)

路線部は出土遺物量が極端に少ないため、前項③の手法により、7区と対比することで決定した。

1区 SE51、SD11・33、SK20・55等主要な遺構はⅡ期。SD3・14・46、SX7等は近世以降と思われる。

2区 SE25、SD16・17・23・24・34・53・89、SK96等はⅡ期、SD53を切るSD9は近世以降とした。

3区 SD57のみⅠ期、それ以外は全てⅡ期にあたる。

4区 SX75(近世)を除いてほぼ全ての遺構がⅡ期と思われる。

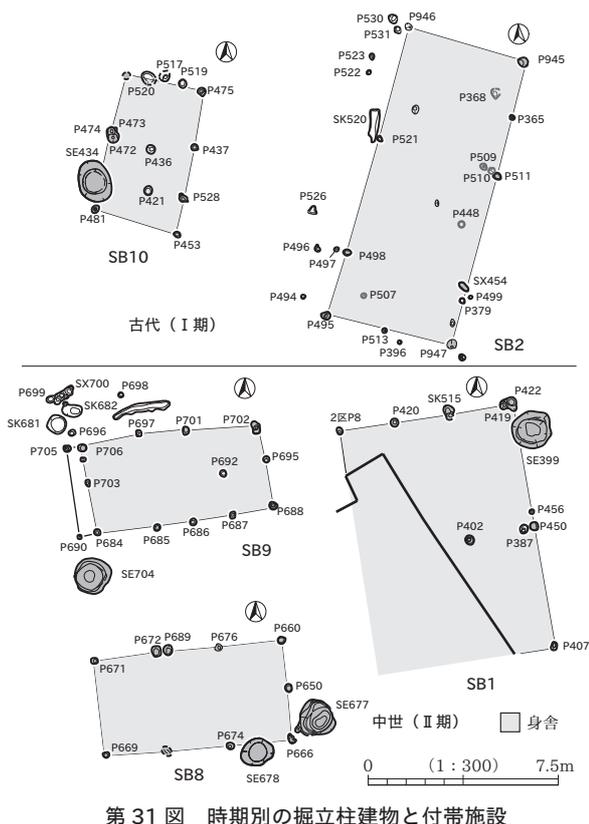
6区 Ⅰ期の遺構群は調査区の北部に(SD18・SK3等)、Ⅱ期の遺構(畝状遺構、SK14等)は河の南側に集中する。SD19・21・24は近世以降と思われる。

第3節 まとめ

第1・2節において、今次調査で発見された遺構は平安時代後半(9世紀末～10世紀初頭)と鎌倉時代後期(13世紀末～14世紀初頭)を主体とすることがわかったが、最後に本節において遺跡の位置付けを行い、まとめたい。

1) 遺跡の立地について

第Ⅱ章で述べたとおり遺跡は阿賀野川と早出川によって形成された自然堤防上に位置するが、立地上の宿命として、周辺の地形は常にこの2河川に影響を受けたと思われる。遺跡周辺は旧河道が比較的良好に残存してい



第31図 時期別の掘立柱建物と付帯施設

るため、流路の変遷が把握しやすいことから、河道の変遷と遺跡の消長について、若干考察してみたい。

阿賀野川については、小田由美子氏により、本流が中世末から近世にかけて、東から西に遷移したことがわかっている〔小田ほか2001〕。それによると江南区沢海付近の現流路はかつて阿賀野市七島（第32図③）付近にあり、同市京ヶ島（第32図②）を経て現沢海飛地（第32図①）に至り、1911年の河川改修を経て現流路となっている。このことから、「河道の側に三日月状の旧河道の痕跡が複数ある場合は、現河道より遠いほど古い〔小田ほか前掲〕」ことになる。

細池寺道上遺跡周辺に目を移すと、遺跡至近の新潟市秋葉区深川（上深川）の対岸である阿賀野市水ヶ曾根・上福岡を囲むように旧河道（以下旧河道①とする）が存在する（第34図）。正保絵図では深川（上深川）と上福岡・水ヶ曾根が陸続きであり（第33図）、本図が作成された17世紀半ばの時点では旧河道①が本流であったことがわかる（第34図）。一方19世紀半ばに作成された天保絵図では深川（上深川）と上福岡（福岡村）・水ヶ曾根が対岸となっており、この間に河道の変化があったようである。なお、阿賀野市堀越・同市福井周辺に旧河道①とほぼ平行する三日月状の旧河道（前者を旧河道②、後者を旧河道③とする）が確認できるが、これらの流路が機能していた時期は不明である。いずれにせよ、細池寺道上遺跡周辺では、近世以前の阿賀野川の本流は現在よりも東にあった可能性が高いといえる。

早出川は、正保絵図では五泉市論瀬付近で阿賀野川と合流しているのが確認できる（第33図）。兩岸には中小の河道跡が多く存在するが、右岸側の河道は阿賀野川からの分派が多いようである（第34図）。一方左岸側は、五泉市矢津付近で東側に分派する旧早出川本流と思われる小河川と自然堤防が確認でき、そのうち1つは五泉市矢津から同市木越・太田を抜け、新潟市秋葉区金屋から大安寺まで達し、細池寺道上遺跡の範囲内を貫流している。第34図では金屋付近に旧河川が認められるが、この流路の一部と思われる地形は、大正年間に作成された耕地整理原形図（図版2）でも確認でき、早出川が左岸側を中心に流路を変遷させてきた可能性を指摘しえる。

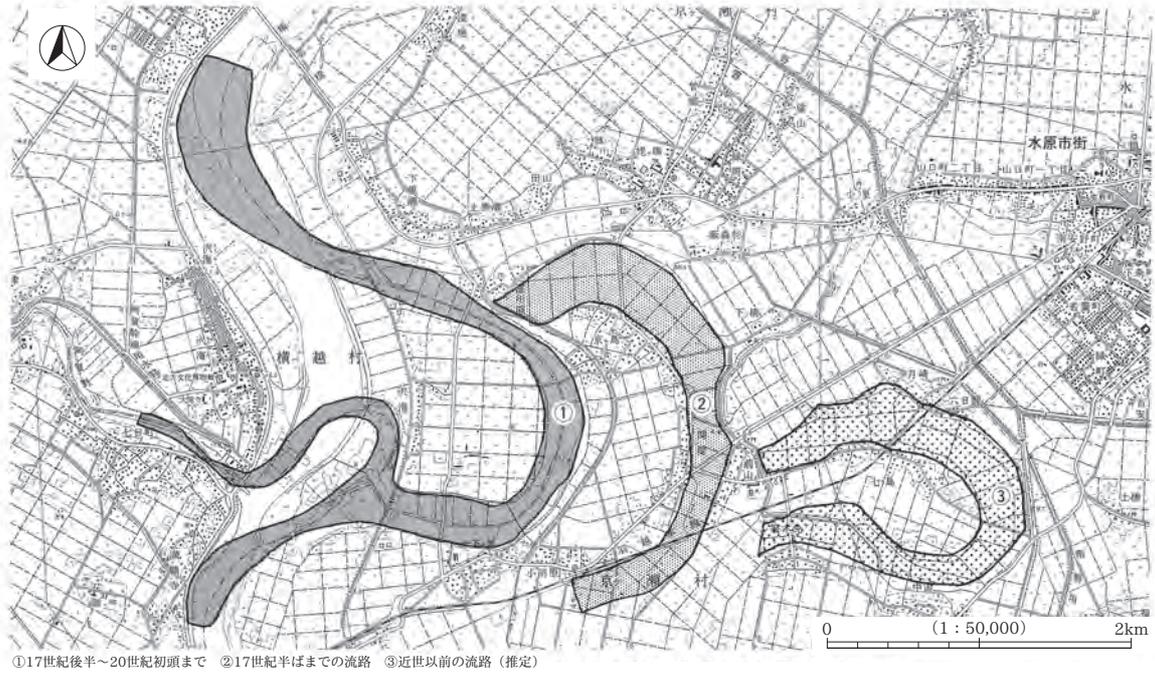
以上を踏まえ、河道の変遷および周辺地形を推定すると、遺跡が機能していた時期には阿賀野川は数km東を流れており、現在は分断されている対岸の集落とも陸続きで、かなり広い土地が存在していたこと⁽⁵⁾、この時期の遺跡周辺の沖積作用の主体は早出川であった可能性が高い。細池寺道上遺跡は主に早出川による沖積地を開発した可能性を指摘し得る。

2) 遺跡の時期別様相

調査によって明らかになった事実を整理すると、細池寺道上遺跡は、主に早出川により供給された土砂により形成された沖積地上に営まれたと思われるが、遺構・遺物から判断するに、この地への居住は平安時代以降に本格化したと考えられる⁽⁶⁾。時期は大きく2期（Ⅰ・Ⅱ期）に分かれ、Ⅰ期の遺跡は平安時代後期（9世紀末～10世紀初頭）に営まれる。当期の遺構は少数の掘立柱建物と土坑および小規模な溝からなる。土師器の一括廃棄等定量の遺物が出土しており、定住生活を送っていたと思われるが、井戸や排水溝等の生活インフラは少なく、居住の初期段階といった様相である。やがて7区ではSD30・47・133等の大規模な溝が開削され、徐々に生活の基盤を整えていったようである。これらの溝の構築はⅠ期のうちに始まったと思われるが、当初の遺構配置をあまり考慮せず構築されており、土地の仕切り直し的な意味もあったのかもしれない。溝の完成時期は不明であるが、これらの区画溝の完成およびSB7・8等の掘立柱建物の設置をもって一つの画期（Ⅱ期）と判断する。

Ⅱ期の遺構は掘立柱建物、溝、井戸を主体とし、調査区全域に広がりを見せる。特に1～6区の遺構の多くがⅡ期に属することからわかるように、当期は遺跡周辺のかなり広い範囲が利用されていたようである。遺構の数はⅠ期と比べ爆発的に増加する。掘立柱建物は溝の区画と軸を合わせており、SB7・8のように井戸（SE677・704）を有し、Ⅰ期より生活感が強い。集落の可能性を想定できるが、1区画内の建物は2棟程度にとどまり、集住は見られず、散村的な居住形態である⁽⁷⁾。

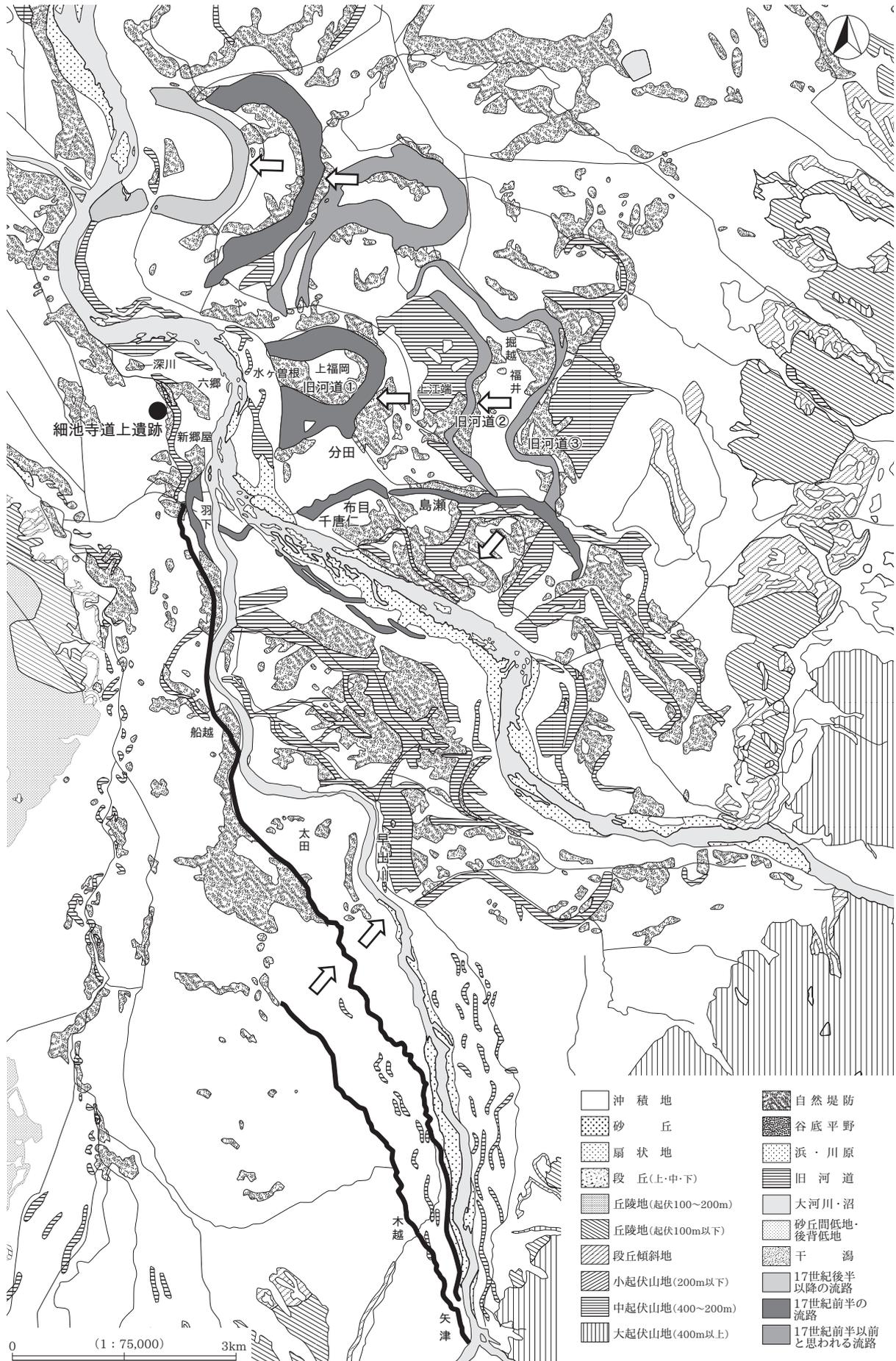
遺物は7区の遺構、特にSD30等の区画溝において古代と中世遺物の供伴が見られる。量的には古代遺物が優勢だが、層位別の出土傾向は古代遺物が中・下層、中世遺物が上・中層に多い傾向があり（第28図）、古代に



第32図 阿賀野川流路の変遷図 阿賀野市京ヶ島付近〔小田ほか2001、北陸地方整備局阿賀野川河川事務所1988〕より



第33図 正保絵図に見える遺跡周辺の地名及び流路
正保二年（1645）越後国絵図および〔小田ほか2001〕を元に作成



第34図 阿賀野川・早出川の流路の変遷(推定)

構築された溝が、中世においても使用されたことを暗示している。

古代と中世の遺物には年代的に相当の隔たりが認められるため、Ⅰ期とⅡ期の間に断絶があるように見えるが、遺構の利用と遺物の出土状況からは、土地利用に継続性を見出せるのもまた事実である。

古代末期から中世初期にかけて遺構・遺物が極端に少なくなり、遺跡の連続性が不明瞭になる問題は東日本に共通するようで、遺構の減少に関して宇野隆夫・坂井秀弥らは、短期で小規模分散型の集落が移動を繰り返した結果〔宇野 1991・坂井 2008〕と解釈している。また、遺物の減少については日常什器が土器から木製品・金属製品へと転換したことにより残存しにくくなった等の見解があるが、あるいはⅠ・Ⅱ期の間に把握できない時期があるのだろうか。

以上、発掘調査の結果得られた情報をもとに遺跡の時期を決定し、時期別の様相を述べたが、つまるところ、農地を開拓し（Ⅰ期）、維持・拡大（Ⅱ期）しつつ古代から中世にかけて営まれた地方農村が細池寺道上遺跡の実態ではないだろうか。溝を多く構築していることから用・排水の必要性、つまりは水田耕作を想起できようし、周辺で検出された圃場と思われる遺構の存在〔小池ほか 1994〕も、その事実を示しているといえよう。

そして、その背景には、律令体制の崩壊から王朝国家体制〔春日 1995〕に変質する過程で 9 世紀後半以降に顕在化した国衙・寺社勢力等による開拓事業に端を発すると思われる遺跡の増加〔荻野 1986a・b〕との関連性も想定される。このような中で成立した「新しい集落」の一つがⅠ期の遺構であり、一時の断絶期（のように見える）を経ながらやがてⅡ期中世型散村を形成したと考えられる。

-
- (1) 本期の特徴としては、小泊産須恵器の量の大幅な減少、土師器の大量廃棄事例の増加、土師器食膳具の作りの粗雑化等があり〔春日 1999〕、当遺跡のデータ、比較対象のデータとも同様の状況を示している。
 - (2) 近世以降と古代・中世では違いが分かることがあるが、古代と中世ではあまり変わらない。
 - (3) SB10 の北側にある土坑（SK488・499・535 等）が同構の付帯施設である可能性はある。なお SK488 は一見すると SB10 に付帯する井戸ともとれるが、透水層まで掘り込んでおらず全く湧水しないため、井戸とするには躊躇する。
 - (4) SB8 は SE677・678 の 2 つの井戸を有することとなるが、いわゆる掘り直し〔加藤 2007〕と考えれば辻褄が合う。両者の新旧は不明だが、出土遺物に基づくならば SE677 → SE688 である。
 - (5) 1～6 区まで、広い範囲にわたって存在するⅡ期の溝は大規模な水利網の存在を想起させる。かなり広い範囲が耕地化されていた、と考えるべきであろう。基本層序には目立った洪水の跡が認められず、暴れ川として知られる早出川の付近にもかかわらず、比較的安定した土地であったと思われる。
 - (6) 周辺の地盤が安定し、居住に堪える状況となったのがこの時代、とも言える。
 - (7) 9 世紀後半以後に成立した数棟の建物と井戸・生産施設がセットとなった中世の散村的な居住形態である〔坂井 1999〕。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣^{ほか} 2012 『林付遺跡 第2次調査－新潟市立潟東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書－』新潟市教育委員会
- 朝岡政康 2004 「5 亀田砂丘周辺の様相」『越後阿賀北地域の古代土器様相』41-58 頁 新潟古代土器研究会
- イ 家田順一郎 1981 「井戸の形式と用材の検討」『曽根遺跡Ⅰ』100・101 頁 北蒲原郡豊浦町教育委員会
- 石川智紀^{ほか} 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第103集 国営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石崎真紀子 1993 「新潟県の古墳時代」『新潟市史 通史編 上巻』67-81 頁 新潟市
- 伊藤秀和 2001 『加茂市文化財調査報告(13) 鬼倉遺跡－国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書－』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2005 『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡－国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書－』加茂市教育委員会
- 井上慶隆^{ほか} 2002 「第1章 第2節 古代の五泉郷」『五泉市史 通史編』35-43 頁 五泉市
- 今井さやか^{ほか} 2007 『日水遺跡 第3次調査－鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告書－』新潟市教育委員会
- ウ 上野一久^{ほか} 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第87集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 内堀信雄 1988 「須恵器甕に見られる叩き目文について」『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題 報告編』石川県考古学会・北陸古代土器研究会
- 宇野隆夫 1991 『律令社会の考古学的研究 北陸を舞台として』桂書房
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 215-231 頁 国立歴史民俗博物館
- オ 荻野正博 1986a 「第5章第6節 初期荘園の成立と推移」『新潟県史 通史編Ⅰ 原始・古代』517-530 頁 新潟県
- 荻野正博 1986b 「第6章第2節 荘園と国衙領」『新潟県史 通史編Ⅰ 原始・古代』564-617 頁 新潟県
- 小田由美子^{ほか} 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第99集 一般国道49号線堀越歩道工事関係発掘調査報告書 堀越館跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小山正忠・竹原透雄 1967 『新編 標準土色帖』日本色研事業株式会社
- 折原洋一 2004 「第3章 新保遺跡の調査」『五泉市文化財報告(11) 能代川関係発掘調査報告書Ⅳ 新保・住吉田遺跡』119-75 頁 五泉市教育委員会
- カ 柿田祐司 2001 「須恵器甕の叩き目から」『北陸古代土器研究』第9号 72-76 頁 北陸古代土器研究会
- 籠瀬良明 1990 『自然堤防の諸類型』古今書院
- 春日真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会会報』第8号 24-34 頁 新潟考古学談話会
- 春日真実 1993 「王朝変遷期の越後」『新潟考古』第4号 1-21 頁 新潟県考古学会
- 春日真実 1995 「古代集落の展開」『研究紀要1995』66-104 頁 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1997a 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第6号 73-81 頁 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997b 「越後における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号 13-21 頁 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1999 「第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』301-310 頁 高志書院
- 春日真実 2000 「第5章 まとめ」『吉田町史 資料編1 考古・古代・中世』376-418 頁 吉田町
- 春日真実 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第104集 国道116号埋蔵文化財発掘調査報告書 梯子谷窯跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2002 「『古代の土器研究会 第6回 シンポジウム須恵器の製作技法とその転換』参加記」『新潟考古学談話会会報』第27号 新潟考古学談話会
- 春日真実 2003a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第123集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003b 「消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向」『研究紀要』第4号 13-26 頁 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について」『新潟考古』第16号 41-76 頁 新潟県考古学会
- 春日真実 2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第18号 9-54 頁 新潟県考古学会
- 春日真実 2009 「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会
- 春日真実^{ほか} 1999 「越後・佐渡の様相」『北陸古代土器研究 第8号』37-44 頁 北陸古代土器研究会

- 加藤 学 2004 「新潟県域におけるほ北方系の土師器甕」『越後阿賀北地域の古代土器様相』85-96頁 新潟古代土器研究会
- 加藤 学^{ほか} 2006 「B 中世(Ⅲ～Ⅳ期)の遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第159集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅳ 用言寺遺跡Ⅰ』20-32頁 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学^{ほか} 2007 「第四章 2-A 井戸(Ⅲ～Ⅳ期)」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第183集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅶ 用言寺遺跡Ⅱ』20-23頁 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鐘方正樹 2003 『ものが語る歴史8 井戸の考古学』同成社
- 金子拓男 2007 「沼足柵地『沼垂王瀬』説への疑問」『新潟考古』第18号 55-80頁 新潟県考古学会
- 鴨居幸彦 2002 「2各地の平野地盤」『新潟県地盤図説明書』15-30頁 新潟県地質調査業協会
- 川上貞雄 1981 『五泉市文化財調査報告(2) 山崎須恵器窯址緊急発掘調査報告書』五泉市教育委員会
- 川上貞雄 1989 「第二編 考古」『新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』31-236頁 新津市
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996 『中組遺跡』吉田町教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 川村浩司 2005 「越後の古代集落の素描」『新潟考古談話会会報』第3号 27-40頁 新潟考古学談話会
- キ 北田裕行 2000 「古代における都城祭祀」『考古学研究』第47巻第1号 53-70頁 考古学研究会
- 北村 淳^{ほか} 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 木下 浩 1993 「第2編 第3章 第1節 水利と新田開発」『新津市史 通史編 上巻』389-402頁 新津市
- 木村宗文 1989 「第3章 文献資料解説」『新津市史 資料編 第1巻 原始・古代・中世』238-411頁 新津市
- ク 日下 哉 2002 『図解 日本地形用語辞典』東洋書店
- コ 小池邦明・藤塚 明 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間桂吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池義人^{ほか} 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第59集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡・寺道上遺跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林巖雄 1995 「I 巻町周辺の地形・地質」『巻町史 資料編Ⅰ 考古』1-44頁 巻町
- 小林正吾 1998 「第3章 森の生い立ちと行方」『里山の植物』105-119頁 財団法人新潟県都市緑化センター
- 小林昌二 2005 『越の城柵』新大人文選書1 高志書院
- 駒見和夫 1992 「井戸をめぐる祭祀」『考古学雑誌』第77巻4号 78-109頁 日本考古学協会
- サ 坂井秀弥 1989 「北陸型長甕の製作技法」『新潟考古学談話会会報』第3号 20-26頁 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1999 「第1節 総論」『新潟県の考古学』293-300頁 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 2008 『古代地域社会の考古学』同成社
- 坂井秀弥^{ほか} 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集 上新バイパス関係遺跡発掘調査報告Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 坂井秀弥^{ほか} 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第53集 新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 26-67頁 新潟県考古学会
- 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第118集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 笹沢正史 1999 「第2項 窯業」『新潟県の考古学』331-338頁 高志書院
- 笹沢正史 2003 「第5章第1節 時代概説」『上越市史 資料編2 考古』429-441頁 上越市
- ス 鈴木邦夫 1989 「第1編 自然」『新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』1-17頁 新津市
- 鈴木浩平 1989 「第5編 地名」『新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』455-461頁 新津市
- 鈴木浩平 1994 「第1節 地形の概観」『新津市史 通史編 上巻』1-6頁 新津市
- 鈴木俊成 1994 「第四章 4B 井戸の祭祀行為について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第60集 一之口遺跡東地区 北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書』227・228頁 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木隆介 1998 『建設技術者のための地形図読図入門2 低地』古今書院
- タ 平 慎三 1998 「第5章 植生」『里山の植物』159-206頁 財団法人新潟県都市緑化センター
- 高橋 学 2003 『平野の環境考古学』古今書院
- 田中 靖 1995 『和島村文化財調査報告書 第4集 門新遺跡』和島村教育委員会
- 田中 靖 1999 『和島村文化財調査報告書 第8集 下ノ西遺跡Ⅱ』和島村教育委員会
- 田中 靖 2003 『和島村文化財調査報告書 第14集 下ノ西遺跡Ⅳ』和島村教育委員会
- 田中 靖 2005 『和島村文化財調査報告書 第16集 八幡林遺跡Ⅳ』和島村教育委員会
- ツ 立木宏明^{ほか} 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会

- 立木宏明^{ほか} 2004 『山王浦遺跡発掘調査報告書－県営圃場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書－』新津市教育委員会
- 立木宏明^{ほか} 2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査』新潟市教育委員会
- 立木（土橋）由理子^{ほか} 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第91集 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書 牛道遺跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田村 裕 1993 「第3章 荘・保と武士の世」『新津市史 通史編 上巻』129-214頁 新津市
- 鶴巻康志 1997 「北越窯の年代と技術系譜」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』桂書房
- ナ 長澤典生^{ほか} 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 長澤典生^{ほか} 2004 『五泉市文化財報告（13）能代川関係発掘調査報告Ⅵ 中田遺跡』五泉市教育委員会
- 永井久美男 2002 『新版 中世出土銭の分類図版』高志書院
- 永井久美男（編）1996 『日本出土銭総覧 1996年版』兵庫埋蔵銭調査会
- 奈良文化財研究所 編 2010 『発掘調査の手引き－集落遺跡発掘編－』文化庁文化財部記念物課
- ニ 新潟古砂丘グループ 1979 「新潟平野をめぐる地形と特質 -5 砂丘と平野」『アーバンクボタ』172-12頁 株式会社クボタ
- 新潟市 編 2007 『新潟市の遺跡』新・新潟歴史双書2 新潟市
- ノ 能代川改修史編纂委員（編）1985 『新しい流れをひらく－能代川改修史－』新津市役所
- ヒ 廣野耕造^{ほか} 1999 『大淵遺跡 宅地開発事業に伴う発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- ホ 北陸地方整備局 阿賀野川工事事務所（編）1988 『阿賀野川史』阿賀野川工事事務所
- 星野信明^{ほか} 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第80集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ（B地区）』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細野高伯^{ほか} 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- マ 前山精明・（株）火山灰考古学研究所 2012 『大沢谷内遺跡Ⅲ 第18次調査－市道鎌倉横川線改良工事に伴う大沢谷内遺跡第2次発掘調査報告書－』新潟市教育委員会
- 丸山一昭 2005 『和島村文化財調査報告書 第17集 門新遺跡 谷地地区Ⅱ－国道116号線と和島バイパス建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－』和島村教育委員会
- ム 向井裕知 1999 「井戸における貯蔵具の使用」『北陸古代土器研究 第8号』93-102頁 北陸古代土器研究会
- モ 望月精司 1997 「第2章第4節 北陸」『古代の土師器生産と焼成遺構』111-138頁 真陽社
- 望月精司 1999 「第5章 須恵器生産関連遺物」『林タカヤマ窯跡』小松市教育委員会
- 望月精司 2001 「須恵器甕の製作痕跡と成形技法」『北陸古代土器研究 第9号 須恵器貯蔵具を考えるⅡ つぼとかめのつくり方』27-52頁 北陸古代土器研究会
- 望月精司 2002 『二ツ梨一貫山窯跡』小松市教育委員会
- 森田信博^{ほか} 2003 「第3章 十二田遺跡」『十二田・江添E遺跡－吉田町米納津地内県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』吉田町文化財調査報告書 第11集 11-17頁 吉田町教育委員会
- ヤ 山崎 天^{ほか} 1999 『五泉市文化財報告（4）小実山遺跡 工業用地造成工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』五泉市教育委員会
- 山崎 天^{ほか} 2004a 『五泉市文化財報告（10）能代川関係発掘調査報告書Ⅲ 新田遺跡』五泉市教育委員会
- 山崎 天^{ほか} 2004b 『五泉市文化財報告（12）能代川関係発掘調査報告書Ⅴ 笥下遺跡』五泉市教育委員会
- 山崎 天^{ほか} 2004c 『五泉市文化財報告（14）能代川関係発掘調査報告書Ⅶ 巳ノ明遺跡』五泉市教育委員会
- 山崎 天^{ほか} 2004d 『五泉市文化財報告（15）能代川関係発掘調査報告書Ⅷ 住吉田遺跡・住吉田南遺跡』五泉市教育委員会
- 山田昌久^{ほか} 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究』特別1号 植生史研究会
- ヨ 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- ヲ 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和^{ほか} 1997 『金津丘陵製鉄遺跡発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点、大入遺跡A地点』新津市教育委員会
- 渡邊朋和^{ほか} 1998 『金津丘陵製鉄遺跡発掘調査報告書Ⅲ（分析・考案編）』新津市教育委員会
- 渡邊朋和^{ほか} 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和^{ほか} 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』新津市教育委員会
- 渡邊ますみ 1990 「新潟県における古代・中世の井戸」『新潟考古学談話会会報』第6号 13・14頁 新潟考古学談話会
- 渡邊ますみ 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会
- 渡邊ますみ^{ほか} 2009 『駒首潟遺跡 第3・4次調査－大型小売店舗建設に伴う駒首潟遺跡第3・4次発掘調査報告書－』新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ^{ほか} 2012 『四十石遺跡 第2次調査－（仮称）新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書－』新潟市教育委員会

別表1 細池寺道上遺跡遺構計測表（柱穴列）

図版No.	区	遺構名	グリッド	時期	検出面	主軸方位	規模 (m)	構成遺構					切合関係
33	7	SA1	11R-6E24・25、11R-6F16・17・21、11R-7D13~18・21、11R-7E2~4・6・7	不明	IV	N-63°-E	24.0	P379、P396、P456、P458、P459、P460、P461、P462、P463、P464、P465、P466、P467、P468、P471、P499、P500、P501、P502、P503、P504、P524、P525、P527					>SB2、SD108
33	7	SA2	11S-5D10・15・20・24・25、11S-6D4・9	不明	IV	N-18°-E	14.9	P722、P723、P725、P726					

別表2 細池寺道上遺跡遺構計測表（掘立柱建物）

個別図版 No.	区	遺構名	グリッド	時期	検出面	主軸方位	規模 (m)						身舎面積 (㎡)	構成遺構	形態	付帯施設	切合関係	備考
							桁行			梁行								
							尺	(m)	間	尺	(m)	間						
33	2・7	SB1	11R-7C9・10、11R-7D6・7・11・12・16・17、20~23、11R-9D1~3・7・8	II	IV	N-78°-E	21.0	6.3	3	16.0	4.8	2	30.2	P8 (2区)、P387、P402、P407、P420、P422、P450、P515	梁間2間型	庇	<SA1、SE399	庇 P450・P452
34	7	SB2	11R-5E19・24・25、11R-6E3~5・8~10、13~15、17~20、22~25、11R-6F1・6・11、11R-7E3・4・5	I	IV	N-19°-E	39.3	11.8	3	17.0	5.1	2	56.7	P365、P454、P495、P498、P511、P513、P521、P945~P947	梁間2間型		<SD108、SD423、SD193	
35	7	SB3	11R-8G1~3・6~8	II	IV	N-72°-E	13.3	4.0	1	8.3	2.5	1	10.52	P155、P188、P237、P254	梁間1間型 (棟持無し)		SB4、5、6	
35	7	SB4	11R-8G2~4・7・8・12・13	II	IV	N-76°-E	11.3	3.4	1	8.3	2.5	1	7.88	P136、P164、P255、P542	梁間1間型 (棟持無し)		SB3、5、6	
35	7	SB5	11R-8G1~4・6~9・11~13	II	IV	N-80°-E	13.3	4.0	1	9.7	2.9	1	11.46	P129、P159、P163、P227	梁間1間型 (棟持無し)		SB3、4、6	
35	7	SB6	11R-8G3・7~9、12~14	II	IV	N-35°-W	15.7	4.7	1	8.3	2.5	1	9.28	P122、P136、P230、P484	梁間1間型 (棟持無し)		SB3、4、5	
34	7	SB7	11R-4I21~25、11R-5I1~10	II	IV	N-81°-E (23.0)	(6.9)	3	11.0	3.3	2	23.01	P684~688、P690、P695、P697、P701、P702、P703、P705、P706	梁間2間型	庇		庇 P690・P705	
34	7	SB8	11R-6I10・15・20、11R-6J1~4・6~9・11~15	II	IV	N-84°-E	24.7	7.4	3	13.0	3.9	2	28.81	P650、P660、P666、P669、P671、P672、P674、P676	梁間2間型		<SD102、SD649、SE678	
35	7	SB9	11R-8J24・25	II	IV	N-88°-E	9.3	2.8	1	5.0	1.5	1	4.24	P548、P591、P595、P610	梁間1間型 (棟持無し)			
34	7	SB10	11R-6D8~10・18~20・22~25	I	IV	N-12°-E	19.3	5.8	3以上?	11.3	3.4	1	18.59	P437、P453、P472~P475、P481、P528	梁間1間型 (棟持無し)		<SD423、SE434	

別表3 細池寺道上遺跡遺構計測表

個別図版 No.	区	遺構	グリッド	時期	確認面	主軸方位	規模 (cm)				深度	底面座標 (m)	平面形態	断面形態	埋土	遺物の有無	遺物図版	切合関係	備考
							上場		下場										
							長軸	短軸	長軸	短軸									
9	1区	SD3	9S-9B9・14	近	IV	N-55°-E	(125.00)	36.00	(125.00)	14.00	9.00	8.00	-	皿形	2		<SK2		
9	1区	SD11	9S-7A12・13・18・19	中	IV	N-69°-E	-	78.00	-	44.00	16.00	7.84	-	皿形	3				
9	1区	SD14	9S-6A21、9S-7A1	近	III b	N-59°-E	-	54.00	-	38.00	37.00	7.83	-	半円形	4				
9	1区	SD33	9R-4I18・19・23・24、9R-5I4	II	IV	N-82°-E N-14°-E	-	173.00	-	82.00	30.00	7.83	-	皿形	5				
9	1区	SD46	9R-3H13・14	II	III b	N-58°-E	-	82.00	-	15.00	17.00	7.98	-	皿形	3				
9	1区	SE51	9R-6J9・14・15・20	II	IV	N-35°-W	(355.00)	(45.00)	(295.00)	(28.00)	46.00	7.61	(円形)	皿形	6		>SK68		
9	1区	SK2	9S-9B9・14	II	IV	N-36°-W	32.00	18.00	26.00	15.00	3.00	8.07	楕円形	皿形	1		>SD3		
9	1区	SK20	9R-6J8・9	II	IV	N-21°-E	65.00	57.00	30.00	29.00	14.00	7.93	円形	皿形	3				
9	1区	SK22	9R-5J22	II	IV	N-25°-E	50.00	32.00	33.00	15.00	12.00	7.90	楕円形	皿形	2				
9	1区	SK54	9R-6J20	II	IV	N-21°-W	50.00	28.00	12.00	12.00	14.00	7.90	不整形	皿形	2				
9	1区	SK55	9R-6J8	II	IV	N-49°-W	(80.00)	(62.00)	(56.00)	(40.00)	17.00	7.90	方形	皿形	3				
9	1区	SK68	9R-6J14・15	II	IV	(N-68°-W)	85.00	(70.00)	65.00	60.00	14.00	7.94	方形	皿形	2		<SE51		
9	1区	SX7	9S-8B17	近	IV	N-33°-W	163.00	32.00	152.00	21.00	4.00	8.08	不整形	皿形	1				
9	1区	SX15	9R-6J20、9S-6A16・21	II	IV	N-34°-W	(199.00)	(18.00)	(176.00)	(8.00)	18.00	7.88	-	皿形	1				
11	2区	SD9	11R-7C3・7・8・12	近	III	N-19°-E	-	(70.00)	-	(40.00)	(66.00)	8.14	-	階段形	5	○	46		
11	2区	SD15	11R-6B4・8・9・14	II	IV	N-27°-W	-	(88.00)	-	(26.00)	44.00	8.31	-	半円形~U字形	4				
11	2区	SD17	11R-6B4・9・14	II	IV	N-8°-W	375.00	48.00	350.00	25.00	34.00	8.38	-	台形	4	○			
11	2区	SD23	11R-5B12・13	II	IV	N-85°-E	-	(61.00)	-	(15.00)	24.00	8.50	-	階段形	3				
11	2区	SD24	11R-5B11~13	II	IV	N-87°-E	-	(53.00)	-	(45.00)	10.00	8.61	-	皿形	2	○			
11	2区	SD34	11R-4A20・25、11R-4B16・21、11R-5A5、11R-5B1・6	II	IV	N-3°-E	-	(70.00)	-	(45.00)	33.00	8.28	-	半円形	5	○			

個別図版 No.	区	遺構	グリッド	時期	確認面	主軸方位	規模 (cm)				深度	底面座標 (m)	平面形態	断面形態	埋土	遺物の有無	遺物図版	切合関係	備考
							上場		下場										
							長軸	短軸	長軸	短軸									
11	2区	SD55	11Q-2J24, 11Q-3J4	II	IV	N-3°-E	-	(30.00)	-	(16.00)	5.00	8.50	-	皿形	1		>SD56		
11	2区	SD56	11Q-2J24	II	IV	N-79°-W	-	(20.00)	-	(11.00)	4.00	8.51	-	皿形	1		<SD55		
11	2区	SD63	11Q-2J12・13・17~20	II	IV	N-84°-W	-	156.00	-	43.00	73.00	7.82	-	半円形	6	○	>SE97		
11	2区	SD89	10Q-8G13~15・19・20・25, 10Q-9G5	II	IV	(東西) N-59°-W (南北) N-4°-W	-	-	-	-	36.00	8.30	-	皿形~階段形	5				
12	2区	SE25	11R-5B3・4・8・9	II	IV	N-8°-E	-	(280.00)	-	60.00	110.00	7.49	(円形)	台形	15	○			
12	2区	SE97	11Q-2J17・18・23	II	IV	N-35°-W	(200.00)	-	(60.00)	-	83.00	7.72	(円形)	階段形	5		<SD63		
12	2区	SK10	11R-6B20・25, 11R-6C21	II	IV	N-60°-W	60.00	41.00	41.00	20.00	10.00	8.73	不整形	台形	2				
12	2区	SK16	11R-6B15	II	IV	N-55°-E	63.00	44.00	45.00	28.00	13.00	8.63	楕円形	皿形	3				
12	2区	SK37	11R-4A8・9	II	IV	N-2°-E	86.00	61.00	75.00	37.00	35.00	8.33	不整形	皿形~半円形	5				
12	2区	SK61	11Q-2J18・23		IV	N-60°-E	34.00	33.00	18.00	18.00	30.00		円形	台形	3				
12	2区	SK67	11Q-2J14	II	IV	N-61°-E	58.00	45.00	54.00	30.00	12.00	8.45	楕円形	箱形	2				
12	2区	SK96	11Q-2J14・15・20	II	IV	N-33°-W	-	(45.00)	-	(35.00)	83.00	7.90	-	階段形	5				
15	3区	SD4	9Q-10B23~25, 10Q-1B3~5・9・10・14・15・19・20・25	II	IV	N-13°-W	-	(235.00)	-	(68.00)	40.00	7.80	-	皿形	6	○	46		
15	3区	SD7	9Q-10A15・20, 9Q-10B11・12・16	II	IV	N-77°-E	-	(97.00)	-	-	80.00	55.00	7.52	-	逆台形	7			
15	3区	SD10	9Q-10A9・10・14・15, 9Q-10B6・11・12	II	IV	N-79°-E	-	(173.00)	-	(30.00)	38.00	7.67	-	皿形	4				
15	3区	SD16	9P-7I3・4・8~10, 9P-7J6~8・11~13	II	IV	N-104°-E	-	(130.00)	-	(60.00)	45.00	7.63	-	皿形~半円形	5				
15	3区	SD19	9P-6I22~25	II	IV	N-84°-E	-	85.00	-	53.00	20.00	7.87	-	皿形	2				
15	3区	SD20	9P-6I18・19・23・24	II	IV	N-85°-E	-	51.00	-	20.00	36.00	7.66	-	V字形	5	○	46		
15	3区	SD23	9P-4H24, 9P-5H4・9・10, 9P-5I6	II	IV	(東西) N-95°-E (南北) N-10°-W	-	46.00	-	-	29.00	7.91	-	皿形	4				
15	3区	SD33	9P-4H11・12・16・17・21・22, 9P-5H2	II	IV	N-7°-W	-	(73.00)	-	(23.00)	38.00	7.75	-	不整形	3	○			
15	3区	SD39	9P-3G18・19・23~25, 9P-4G3・4	II	IV	N-87°-E	-	220.00	-	145.00	45.00	7.65	-	皿形	4				
15	3区	SD40	9P-3G11~13・16~18	II	IV	N-82°-E	-	130.00	-	45.00	40.00	7.70	-	半円形	4				
15	3区	SD44	9P-2F24・25, 9P-2G16・17・21~23, 9P-3F5・10, 9P-3G1~3・6・7	II	IV	N-92°-E	-	330.00	-	170.00	86.00	7.18	-	台形	8	○	46	<SD84	
15	3区	SD45	9P-2F8・9・13・14	II	IV	N-83°-E	-	45.00	-	85.00	17.00	7.84	-	皿形	2				
15	3区	SD57	8P-10E1・2・6・7・12・13・17・18・22・23	I	IV	N-15°-W	-	(145.00)	-	(130.00)	38.00	7.70	-	台形~階段形	5		<SX81		
15	3区	SD84	9P-3F5・10, 9P-3G1・2・6・7	II	IV	N-84°-E	-	(165.00)	-	(41.00)	52.00	7.50	-	半円形	4	○	46	>SD44	
16	3区	SK15	9P-7J22・23, 9P-8J2・3	II	IV	N-35°-E	140.00	75.00	115.00	65.00	21.00	7.96	(楕円形)	(皿形)	3				
16	3区	SK24	9P-5H5・10	II	IV	N-57°-W	56.00	50.00	40.00	38.00	12.00	8.00	円形	皿形	3				
16	3区	SK47	9P-7I5・10	II	IV	N-57°-E	36.00	35.00	15.00	14.00	16.00	7.78	円形	半円形	3				
16	3区	SK50	9P-1E15	II	IV	N-32°-E	-	(130.00)	-	(100.00)	28.00	7.71	-	皿形	4				
16	3区	SK70	9P-1E15・20	II	IV	N-35°-W	-	(21.00)	-	(10.00)	19.00	7.88	-	皿形	2				
16	3区	SK71	8P-9D24	II	IV	N-80°-E	-	(35.00)	-	(16.00)	20.00	7.80	-	皿形	2				
16	3区	SX81	8P-10E17・18・22・23	II	IV	N-51°-W	-	(105.00)	-	(66.00)	27.00	7.74	-	台形	2		>SD57		
18	4区	SD1	10Q-2C4・5・9・10・14・15	II	IV	N-78°-E	-	(225.00)	-	(149.00)	38.00	7.73	-	不整皿形	9				
18	4区	SD3	10Q-1E6・7・11・12	II	IV	(N-2°-E)	-	-	-	-	15.00	8.03	-	台形	3		>SK14		
18	4区	SD5	10Q-1E2・3・7・8	II	IV	N-67°-E	-	(225.00)	-	(105.00)	37.00	7.78	-	台形	8	○	46	>SD18, <SD11, SK6	
18	4区	SD11	9Q-10E23~25, 10Q-1E3~5	II	III b	N-2°-E	-	(93.00)	-	(20.00)	54.00	7.76	-	皿形	6	○	46	>SD5	
18	4区	SD18	10Q-1E2・7・8	II	IV	N-54°-E	-	(115.00)	-	(69.00)	32.00	7.81	-	半円形	3		<SD5		
18	4区	SD21	9Q-10F12・17	II	IV	N-20°-E	-	(65.00)	-	-	18.00		-	台形	3				
18	4区	SD22	9Q-10F4・5・9・10・14・15	II	IV	N-71°-E	-	215.00	-	89.00	49.00	7.69	-	台形	8	○	46	>SE117	
18	4区	SD23	9Q-10F5・10	II	IV	N-82°-E	-	(70.00)	-	(30.00)	29.00	7.88	-	半円形	4				
18	4区	SD30	9Q-9G21~23	II	IV	N-2°-E	-	34.00	-	15.00	10.00	8.02	-	半円形	1				
18	4区	SD34	9Q-9G13~15・18・19, 9Q-9H11	II	IV	N-5°-W	-	(56.00)	-	(40.00)	7.00		-	皿形	1				
18	4区	SD36	9Q-9G10・14・15, 9Q-9H6・7・11・12	II	IV	N-6°-W	-	(170.00)	-	(75.00)	42.00	7.73	-	皿形	9	○	46		
18	4区	SD50	9Q-7J10・15, 9R-7A6~8・11	II	IV	(東西) N-84°-W (南北) N-2°-E	-	57.00	-	40.00	57.00	7.69	-	U字形	9				
18	4区	SD71	9R-6B12・13・18	II	IV	N-86°-E	-	(48.00)	-	(17.00)	27.00	8.21	-	半円形	4				
18	4区	SD72	9R-6B7~10, 11~14	II	IV	N-2°-W	-	(92.00)	-	(50.00)	26.00	8.06	-	台形	4	○			
18	4区	SD74	9R-5B25, 9R-6B4・5・10	II	IV	N-77°-E	-	(200.00)	-	(60.00)	(51.00)	7.75	-	皿形	5	○	46		
19	4区	SD77	9R-5C5・10, 9R-5D1~3, 6~8	II	IV	N-1°-E	-	(147.00)	-	(68.00)	70.00	7.78	-	皿形	12		<SD94, P97		
19	4区	SD78	9R-4D23, 9R-5D3	II	IV	N-72°-E	-	(35.00)	-	(20.00)	24.00	8.20	-	箱形	2				
19	4区	SD83	9R-4D15・18~20, 9R-4E8・9・11~14・16・17	II	IV	N-17°-W	-	(158.00)	-	(70.00)	53.00	7.80	-	台形	6	○	>SD112		
19	4区	SD88	9R-4E3~5・7~9, 9R-3F21~23, 9R-4F1	II	III b	N-23°-W	-	80.00	-	34.00	54.00	8.10	-	台形~半円形	4	○	46	<SD113	

個別図版 No.	区	遺構	グリッド	時期	確認面	主軸方位	規模 (cm)				深度	底面座標 (m)	平面形態	断面形態	埋土	遺物の 有無	遺物 図版	切合関係	備考
							上 場		下 場										
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸									
19	4区	SD91	9R-3F16~19	II	IV	N- 8 °- W	—	(85.00)	—	(40.00)	23.00	8.18	—	皿形	3	○	46	<SD106, SD113	
19	4区	SD94	9R-5D1・6・11	II	IV	N- 89 °- W	—	(65.00)	—	(33.00)	17.00	8.13	—	皿形	2			>SD77, SX76	
19	4区	SD106	9R-3F12~15・17~19、9R-3G6・11	II	IV	N- 14 °- W	—	(140.00)	—	(32.00)	52.00	7.78	—	皿形	8	○		>SD91, <SD113	
19	4区	SD113	9R-3F16・17・21・22	II	IV	N- 55 °- E	—	(145.00)	—	(65.00)	(56.00)	7.87	—	皿形~台形	6			>SD88, SD91, SD106	
20	4区	SE59	9R-7A3・4	II	IV	N- 47 °- W	150.00	120.00	97.00	80.00	67.00	7.72	楕円形	台形	10	○			
20	4区	SE70	9R-6B11・12	II	IV	N- 54 °- E	(160.00)	(130.00)	(100.00)	(79.00)	113.00	7.26	(円形)	箱形	7				
20	4区	SE103	9R-5D1・2	II	IV	N- 32 °- W	—	(65.00)	—	(56.00)	64.00	7.67	円形	箱形	5				
20	4区	SE112	9R-4E11・12・16・17	II	SD83 底面	N- 79 °- E	140.00	135.00	70.00	65.00	110.00	7.20	楕円形	台形	—			<SD83	
20	4区	SE117	9Q-10F4・5・9・10・14	II	SD22 底面	N- 74 °- E	235.00	220.00	81.00	70.00	(103.00)	7.12	円形	台形	9			<SD22	
21	4区	SK6	10Q-1E3	II	IV	N- 64 °- E	70.00	68.00	40.00	36.00	53.00	7.54	不整形	U字形	4			>SD5	
21	4区	SK7	10Q-1E3・4・8・9	II	IV	N- 34 °- W	50.00	40.00	104.00	8.00	22.00	7.88	円形	半円形	3	○	46	>P118	
21	4区	SK14	10Q-1E6・7・11・12	II	IV	N- 84 °- W	104.00	45.00	81.00	22.00	22.00	7.96	楕円形	皿形	4			<SD3	
21	4区	SK40	9Q-8H23	II	IV	N- 38 °- W	—	(95.00)	—	(73.00)	27.00	8.14	—	台形	4				
21	4区	SK41	9Q-8H24、9Q-9H4	II	IV	N- 37 °- W	46.00	45.00	30.00	29.00	16.00	8.13	円形	皿形	2				
21	4区	SK44	9Q-7J21・22	II	IV	N- 7 °- E	90.00	53.00	49.00	20.00	30.00	7.95	楕円形	台形	5				
21	4区	SK46	9Q-7J13・14	II	IV	N- 35 °- W	—	(155.00)	—	(55.00)	52.00	7.94	半円形	皿形	8				
21	4区	SK68	9R-6B21	II	IV	N- 2 °- E	46.00	38.00	31.00	22.00	21.00	8.14	不整形	台形	1	○	46		
21	4区	SK69	9R-6B11	II	IV	N- 58 °- E	46.00	40.00	29.00	22.00	10.00	8.30	—	皿形	1				
21	4区	SK73	9R-6B7・8	II	IV	N- 36 °- E	(113.00)	(85.00)	(85.00)	(7.00)	23.00	8.19	—	箱形	5				
21	4区	SX19	9Q-10F17	II	IV	N- 84 °- W	(160.00)	(120.00)	(80.00)	(50.00)	16.00	7.90	(楕円形)	皿形	2				
21	4区	SX76	9R-5C10・15、9R-5D6・11	II	IV	N- 79 °- W	(120.00)	(65.00)	(96.00)	(33.00)	17.00	8.19	楕円形	皿形	2			<SD94	
21	4区	SK109	9R-2G22・23	II	IV	N- 57 °- E	(113.00)	(60.00)	(40.00)	(30.00)	31.00	8.04	楕円形	皿形	4				
23	6区	SD8	8R-9F22、8R-10F2・3	II	IV	N- 19 °- W	—	(28.00)	—	(19.00)	5.00	8.28	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD10	8R-10F8・9・13	II	IV	N- 32 °- E	—	52.00	—	25.00	9.00	8.42	—	皿形	2				
23	6区	SD11	8R-10F19・20・24・25	II	IV	N- 73 °- E	—	55.00	—	32.00	13.00	8.28	—	皿形	2				
23	6区	SD16	9R-1G12・13・17・18	II	IV	N- 60 °- E	—	(75.00)	—	38.00	37.00	8.01	—	台形	2	○			
23	6区	SD18	8R-2A19・22~24、8R-3A2・3	I	III b	N- 43 °- E	—	90.00	—	35.00	57.00	7.70	—	皿形~台形	8			<SK26	
23	6区	SD19	8R-9E10・14・15	近	IV	N- 58 °- E	—	(55.00)	—	27.00	41.00	8.21	—	台形	3				
23	6区	SD21	8Q-1J7・8・13	近	IV	N- 37 °- W	—	40.00	—	20.00	12.00	8.23	—	皿形	2			<SD24	
23	6区	SD24	8Q-1J13・14・17・18	近	IV	N- 56 °- E	—	45.00	—	25.00	17.00	8.28	—	皿形	2			>SD21	
23	6区	SD27	8R-9F17・22、8R-10F2	II	IV	N- 16 °- W	—	(35.00)	—	(15.00)	8.00	8.26	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD28	8R-9F16・17・21・22、8R-10F2	II	IV	N- 13 °- W	—	(30.00)	—	(15.00)	9.00	8.27	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD29	8R-9F11・16・21、8R-10F1・2	II	IV	N- 17 °- W	—	(23.00)	—	(15.00)	7.00	8.30	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD30	8R-9F11・16・21、8R-10F1	II	IV	N- 12 °- W	—	(30.00)	—	(15.00)	6.00	8.31	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD31	8R-9E10・15・20、8R-10F16・21	II	IV	N- 12 °- W	—	(40.00)	—	(15.00)	11.00	8.28	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD32	8R-9E10・15・20	II	IV	N- 12 °- W	—	(32.00)	—	(11.00)	5.00	8.34	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD33	8R-9E4・5・9・10・15・20	II	IV	N- 6 °- W	—	(31.00)	—	(18.00)	9.00	8.24	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD34	8R-9E4・9・14	II	IV	N- 5 °- W	—	(30.00)	—	(23.00)	7.00	8.22	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD35	8R-8E24、8R-9E4・9・14	II	IV	N- 8 °- W	—	(30.00)	—	(15.00)	8.00	8.22	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD36	8R-8E23・24、8R-9E3・4・9	II	IV	N- 10 °- W	—	(26.00)	—	(14.00)	8.00	8.22	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD37	8R-9E3・8	II	IV	N- 10 °- W	—	(29.00)	—	(14.00)	6.00		—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SD38	8R-9E3	II	IV	N- 5 °- W	45.00	20.00	33.00	9.00	4.00	8.18	—	皿形	1			畝状遺構	
23	6区	SK1	8Q-2J15、8R-2A11	I	IV	(N- 35 °- W)	—	—	—	—	30.00	8.26	—	皿形	2				
23	6区	SK3	8R-2A18・23	I	IV	N- 38 °- W	80.00	60.00	50.00	45.00	18.00	8.22	円形	皿形	2				
23	6区	SK4	8R-2A13・18	II	IV	—	—	—	—	—	17.00	8.21	—	(皿形)	2				
23	6区	SK12	9R-1G6	II	IV	N- 43 °- W	94.00	70.00	60.00	35.00	22.00	8.20	楕円形	皿形	3				
23	6区	SK13	9R-1G6・11・12	II	IV	N- 34 °- E	170.00	130.00	123.00	82.00	32.00	8.14	楕円形	台形	5				
23	6区	SK26	8R-3A2・3	II	III a	(N- 37 °- W)	—	—	—	—	50.00	7.88	(円形)	半円形	5			>SD18	
23	6区	SX20	9R-1G24、9R-2G4・5・9	II	IV	(N- 34 °- W)	—	—	—	—	24.00	8.14	—	皿形	3				
36	7区	SD2	11R-8F21、11R-9E10・15・20・25、11R-9F1・2・11・16・21・22・23・24、11R-10F3・4	I	IV	(東西) N- 74 °- W (南北) N- 21 °- E	1,758.00	46.00	—	17.00	44.00	8.52	—	皿形~台形	6	○	46	>SD47, SK97, SK200, SK537	
36	7区	SD17	11R-10F9・10・14	I	IV	N- 41 °- E	—	46.00	—	—	30.00	8.68	—	U字形	2	○			
36	7区	SD21	11R-10E10・15、11R-10F6・11・12	I	IV	N- 75 °- W	423.00	44.00	344.00	22.00	44.00	8.64	—	U字形	3	○	46	>SK20, SX26	

個別図版 No.	区	遺構	グリッド	時期	確認面	主軸方位	規模 (cm)				深度	底面座標 (m)	平面形態	断面形態	埋土	遺物の 有無	遺物 図版	切合関係	備考
							上場		下場										
							長軸	短軸	長軸	短軸									
36・37	7区	SD30	11R-8E14・15・19・20, 11R-8F11~14・16~20・22~25, 11R-8G16~25, 11R-8H21~25, 11R-8I21・22, 11R-9H1~5・10, 11R-9H1~10, 11R-9J1~3・6~10・14・15, 11S-9A6~15, 11S-9B6	II	IV	N・82°・W	-	214.00	-	30.00	81.00	7.96	-	皿形~台形	15	○	46・47	>SK49, SX58, P208, SX588 <P182, SX183, SX234, SK273, SD545, P546, P582, P596	
36・37	7区	SD47	11R-8D24・25, 11R-8E21・22, 11R-8G10・15・20・25, 11R-8H1・2・6~10・11・16・21, 11R-8I6~12, 11R-8J6~15, 11R9E1~5, 11R-9F1~4・6~10・15, 11R-9G5~7・9・~15, 11S-5A14・15・19・20・24・25, 11S-6A5・10・15・20・25, 11S-7A5・10・15・20・25, 11S-8A5~15	II	IV	(東西) N・78°・W (南北) N・20°・E	-	85.00	-	32.00	72.00	8.48	-	皿形~台形	9	○	46	>SD96, SX372, P439, SK537, P616, SD643, P871, SD872 <SD2, SD102, SD607, SD609, SX540	
37	7区	SD93	11R-9E15, 11R-9F11・12・16~19・24	I	IV	N・72°・W	764.00	51.00	737.00	30.00	29.00	8.74	-	台形	2	○	47	>SK98, SK141	
37	7区	SD96	11R-9F10・15・19・20	I	IV	N・18°・E	-	57.00	-	34.00	4.00	8.90	-	皿形	1			<SD47	
37	7区	SD102	11R-6H21, 11R-6I25, 11R-6J7・11・12・16・17・21, 11R-7G5・10・15, 11R-7H1・11・12・17~19・24・25, 11R-7I5・9・10・14・18・19・21・23, 11R-8I1~3	近	IV	(東西) N・63°・W (南北) N・20°・E	-	29.00	-	17.00	6.00	8.87	-	皿形	1	○		>SB10, SD47, SD133, SD191, SD192, SD193 <P104, P107, P198	
36・37	7区	SD108	11R-5E10・14・15・19・20・24・25, 11R-6E4・5・9・10・14・15・18~20・23~25, 11R-7E3~5・8~10・13~15・18~20・23・24, 11R-8E2~4・7~9・12~14・17~19・22~24, 11R-9E2~4・7~9・12~14・17・18・22・23, 11R-10E3	II	IV	N・5°・E	-	276.00	-	66.00	88.00	7.88	-	皿形~台形	17	○	47	>SB3, SD190, SK205, SK206, P299, P300, SD532, P533 <SA1, SD193, P349, SK354, P362, P380, SD383, P508, P530, P531, P534	
37・38	7区	SD133	11R-4H21・22, 11R-5H2・6・7・11・12・16・17・21・22, 11R-6H1・2・6・7・11・12・16・17・21, 11R-7H1・6・11・16・21・22, 11R-8H1・6, 11R-8I6~12, 11R-8J6~15, 11R-9E1~5, 11R-9F1~4・6~10・15, 11R-9G5~7・9~15, 11S-5A14・15・19・20・24・25, 11S-6A5・10・15・20・25, 11S-7A5・10・15・20・25, 11S-8A5~15	II	IV	(東西) N・88°・W (南北) N・3°・E	-	108.00	-	38.00	40.00	8.34	-	皿形~台形	8	○	47	>SK693 (SK202) <SD102, SD267, SD607, SD609, SD624	
37	7区	SD190	11R-6E14・19・20, 11R-6F16~18, 23~25, 11R-7F5, 11R-7G1・2・6~9	近	IV	N・68°・W	-	26.00	-	17.00	12.00	8.74	-	半円形	2			>SD382, P398 <SD108, P199	
37	7区	SD191	11R-6F13・18~20・25, 11R-6G21・22, 11R-7G2~4・9・10	近	IV	N・63°・W	-	34.00	-	18.00	20.00	8.64	-	半円形	2			<SD102, P189	
37	7区	SD192	11R-6F1・2・7~9, 13~15・20, 11R-6G11・16・17・22~24, 11R-7G4・5	近	IV	N・61°・W	-	49.00	-	30.00	43.00	8.44	-	台形	4			>SD224 <SD102, P368	
37	7区	SD193	11R-5E25, 11R-5F21, 11R-6D5, 11R-6E1~5, 11R-6F1~3・7~10・14・15, 11R-6G11・12・16~18・23~25, 11R-7G5, 11R-7H1	近	IV	N・61°・W	-	67.00	-	25.00	93.00	8.40	-	台形	8	○		>SB3, SD108, P225, (SD224) <SD102, SX430	
37	7区	SD207	11R-6G11~13・18	近	IV	N・61°・W	470.00	20.00	-	11.00	4.00	7.90	-	皿形	1				
37	7区	SD224	11R-6F1・2・7~9・14・15, 11R-6G11・16~18・23・24	近	IV	(N・61°・W)	-	-	-	-	14.00	8.64	-	皿形	1			<SD192, SD193	
38	7区	SD267	11R-4F20・24・25, 11R-4G16・17・21~25, 11R-4H16~23, 11R-4I16~18	II	IV	N・82°・E	-	119.00	-	41.00	60.00	8.10	-	皿形~台形	7	○		>SD133, SK319, SD367 <SD268, P322, P323, SK394, SD432	
38	7区	SD268	11R-4G20・25, 11R-4H7・11・12・16, 11R-5G4・5	近	IV	N・32°・E	-	50.00	-	25.00	20.00	8.60	-	台形	3			>SD267, P275, SK317, SK319, SX694, P325	
38	7区	SD363	11R-9E12・67	近	IV	N・44°・E	-	23.90	-	10.00		8.76	-		1	○	47		
38	7区	SD382	11R-6E20, 11R-6F6・11・16	近	IV	N・25°・E	430.00	20.00	420.00	15.00	4.00	8.76	-	皿形	2			<SD190	
38	7区	SD390	11R-5F8・12・13・17・18・22	近	IV	N・27°・E	-	21.00	-	15.00	22.00	8.60	-	U字形	2				
38	7区	SD413	11R-6D20・24・25, 11R-7D4・5・9・14	I	IV	N・18°・E	740.00	55.00	720.00	30.00	9.00	8.72	-	皿形	2			<SD470	
38	7区	SD423	11R-6D8・9・13~15・20, 11R-6E4・5・9・10~14・16~19	近	IV	N・79°・W	-	100.00	-	22.00	66.00	8.45	-	皿形	7	○		>SB3, SB18 <SD427, SD487, P526	
38	7区	SD428	11R-6E4・9		IV	N・10°・E	-	24.00	-		25.00		-	台形	1			>SD108, SD423	
38	7区	SD487	11R-6D5・10・15, 11R-6E1・6	I	IV	N・7°・E	-	32.00	-	15.00	12.00	8.60	-	皿形	2			<SD423	
36	7区	SD607	11S-5B19・23・24, 11S-6B3・7・8・12・13・17・21・22, 11S-7A10・15・19・20・24・25, 11S-7B1・6, 11S-8A4・8・9	近	IV	N・23°・E	-	28.00	-	17.00	18.00	8.78	-	U字形	2			>SD47, SD133, SD635, SD872 <P641	
38	7区	SD635	11S-6B8~10・15, 11S-6C6・11~15・19・20, 11S-6D16~18・23	近	IV	N・75°・W	-	32.00	-	18.00	10.00	8.80	-	皿形	1			>SD636 <SD607, P638	
38	7区	SD636	11S-6C14・15, 11S-6D11・16		IV	N・79°・W	-	18.00	-		6.00		-	台形	1			<SD653, SD712, SD714	
38	7区	SD662	11R-5J6・11・16・17・21・22, 11R-6J1・2	II	IV	N・13°・W	815.00	53.00	800.00	20.00	23.00	8.62	-	皿形	2				
38	7区	SD712	11S-5D2・7・12・17・22, 11S-6D2・7・11・12・16・17	近	IV	(東西) N・79°・W (南北) N・8°・E	-	32.00	-	16.00	16.00	8.76	-	皿形	2			<SD715	
38	7区	SD713	11S-6D17・18		IV	N・80°・W	-	30.00	-		17.00		-	半円形	2				
38	7区	SD714	11S-5D2・7・12・17・22, 11S-6D1・2・6・11・16, 11S-4D22・23	近	IV	N・13°・E	-	32.00	-	18.00	28.00	8.62	-	U字形	2			<SD715, SX720 >SD636	
38	7区	SD715	11S-6C5, 11S-6D1・6~9	近	IV	N・72°・W	761.00	30.00	753.00	16.00	13.00	8.84	-	皿形	1			>SD712, SD714	
38	7区	SD716	11S-5D7・12・16・17	近	IV	N・83°・W	-	30.00	-	8.00	50.00	8.85	-	皿形	3			<SX720	
38	7区	SD718	11S-4D13~15・19・20, 11S-4E16~18・23, 11S-5E2・3・7・8・12・17・21・22, 11S-6D20・25, 11S-6E1・2・6・11・16・21, 11S-7D5	近	IV	N・13°・E	-	36.00	-	12.00	51.00	8.30	-	U字形	3	○		>SD770, SD773	

個別図版 No.	区	遺構	グリッド	時期	確認面	主軸方位	規模 (cm)				深 度	底面座標 (m)	平面形態	断面形態	埋 土	遺物の 有無	遺物 図版	切合関係	備 考
							上 場		下 場										
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸									
38	7区	SD719	11S-4D13~15・20, 11S-4E11・16~18・23, 11S-5E3・7・8・12・13・17・22, 11S-6E1・2・6・7・11・16・21, 11S-7D5・10, 11S-7E1・6	近	IV	N・13°・E	-	35.00	-	14.00	36.00	8.49	-	皿形~台形	2	○	>SD770		
38	7区	SD773	11S-4D14・19・20	近	IV	N・69°・E	-	20.00	-	12.00	6.00	8.68	-	皿形	1		<SD718		
39	7区	SD775	11S-2F4・5・9・10・14・15・20・25, 11S-2G11・16・17・21・22, 11S-3F5, 11S-3G1・2・6・7・11~13・16~18・22・23, 11S-4G2~4・8・9・13・14・18~20	II	IV	N・20°・W	-	253.00	-	58.00	87.00	8.04	-	V字形	15	○	47	<SK777, SD808, SX841, SD856, P867, P874, SX932	
39	7区	SD808	11S-2G23, 11S-3G3・8・13・18・23	近	IV	N・13°・E	(986.00)	45.00	(968.00)	18.00	14.00	8.87	-	皿形	1		>SD775		
39	7区	SD837	11S-4F4・5, 11S-4G1	近	IV	N・70°・W	269.00	29.00	260.00	9.00	8.00	8.84	-	皿形	1				
39	7区	SD878	11S-3F25, 11S-3G21	I	IV	N・47°・W	-	32.00	-	14.00	8.00	8.89	-	皿形	1		<P852		
39	7区	SD918	11S-1G14・19・24, 11S-2G4	近	IV	N・7°・E	528.00	21.00	516.00	10.00	4.00	8.90	-	皿形	1				
40	7区	SE399	11R-7D7・8・12・13	II	IV	N・43°・E	164.00	148.00	72.00	68.00	110.00	7.72	円形	U字形	13		>SB2		
40	7区	SE434	11R-6D18・23	II	IV	N・32°・W	177.00	(125.00)	81.00	76.00	92.00	7.13	楕円形	U字形	12	○		>SB18	
40	7区	SE677	11R-6J14・15	II	IV	N・30°・E	149.00	143.00	(107.00)	70.00	127.00	7.58	不整形	台形	13	○	48	<P667	
40	7区	SE678	11R-6J13・14・18・19	II	IV	N・68°・E	133.00	106.00	78.00	69.00	120.00	7.68	不整形	台形	8	○		>SB10	
40	7区	SE704	11R-5I11・12・17	II	IV	N・65°・E	178.00	167.00	84.00	77.00	93.00	7.62	円形	U字形	9	○	48		
41	7区	SK1	11R-10E3・4・8・9・10・14	I	IV	-	-	-	-	-	28.00	8.72	-	皿形	2	○	48		
36	7区	SK20	11R-10E15, 11R-10F6・11		IV	-	170.00	149.00	-	-	16.00		-	皿形	1	○	48	>SD21 <SK24	
41	7区	SK18	11R-10F7・12	I	IV	N・45°・E	137.00	118.00	44.00	29.00	10.00	8.85	円形	皿形	1				
41	7区	SK22	11R-10E20, 11R-10F16	I	IV	-	-	-	-	-	13.00	8.88	-	皿形	1				
41	7区	SK23	11R-10E20	I	IV	-	-	-	-	-	60.00	8.58	-	皿形~台形	7				
41	7区	SK28	11R-10F1	I	IV	N・60°・W	63.00	56.00	10.00	9.00	24.00	8.67	方形	V字形	4				
41	7区	SK34	12R-1F25, 12R-1G21, 12R-2G1	I	IV	(N・41°・W)	(212.00)	86.00	(170.00)	53.00	22.00	8.86	不整形	皿形~V字形	3	○	48		
41	7区	SK50	11R-9I7	I	IV	N・60°・W	74.00	46.00	27.00	19.00	9.00	8.92	楕円形	皿形	1		>SK53		
41	7区	SK53	11R-9I7・8	I	IV	N・20°・E	63.00	36.00	14.00	8.00	56.00	8.42	楕円形	V字形	2		>SK51 <SK50		
41	7区	SK56	11R-8I15・20	I	IV	N・12°・E	166.00	142.00	122.00	109.00	32.00	8.72	円形	皿形	2	○	48・49	>P67	
41	7区	SK68	11R-10F10	I	IV	-	-	32.00	-	29.00	9.00	8.90	-	皿形	1	○	49	<SK69	
41	7区	SK69	11R-10F10	I	IV	-	-	44.00	-	30.00	20.00	8.82	-	皿形	1	○	49	>SK68	
41	7区	SK76	11R-9E24・25	I	IV	N・35°・W	71.00	60.00	52.00	38.00	15.00	8.80	円形	皿形	2				
41	7区	SK77	11R-9E25	I	IV	N・40°・W	72.00	64.00	48.00	38.00	18.00	8.78	円形	皿形	3	○	49		
41	7区	SK86	11R-9F21	I	IV	N・35°・W	70.00	62.00	57.00	47.00	20.00	8.74	円形	半円形	2				
42	7区	SK90	11R-9F16・17	I	IV	N・65°・W	54.00	32.00	42.00	21.00	8.00	8.85	楕円形	皿形	1				
	7区	SK92	11R-9F13・14・19	I	IV	N・78°・W	170.00	99.00	149.00	74.00	16.00	8.75	楕円形	皿形	3	○	49	>SK116, SX143	
42	7区	SK97	11R-9F16・21	I	IV	-	-	71.00	-	45.00	20.00	8.72	-	皿形	3	○	49	<SD2	
42	7区	SK98	11R-9F17・18・22・23	I	IV	-	-	(58.00)	-	34.00	19.00	8.68	不整形	皿形	2		>SK99 <SD93		
42	7区	SK99	11R-9F17・18	I	IV	-	-	-	-	34.00	22.00	8.66	不整形楕円形	皿形	2		<SK98, SD93		
42	7区	SK116	11R-9F13・14	I	IV	N・70°・W	203.00	124.00	179.00	98.00	15.00	8.76	楕円形	皿形	3	○	50	<SX92, SX143	
42	7区	SK140	11R-9F17	I	IV	-	-	-	-	25.00	8.67	-	皿形	3	○	50	<SD93		
42	7区	SK141	11R-9F19	I	IV	-	-	112.00	-	80.00	7.00	8.83	-	皿形	2	○	50	<SD93	
42	7区	SK145	11R-9F11・12	I	IV	N・50°・W	267.00	213.00	246.00	168.00	16.00	8.80	不整形円形	皿形	2	○	50・51		
42	7区	SK194	11R-6H21	II	IV	N・68°・E	38.00	32.00	5.00	5.00	40.00	8.50	方形	U字形	2				
42	7区	SK195	11R-9E23・24	II	IV	N・60°・W	42.00	35.00	26.00	18.00	18.00	8.76	楕円形	半円形	2				
42	7区	SK200	11R-8F21・22, 11R-9F1	I	IV	N・75°・E	(86.00)	(80.00)	(58.00)	(56.00)	12.00	8.78	不整形	皿形	3		<SD2		
42	7区	SK201	11R-9G3・4	I	IV	N・22°・E	112.00	88.00	66.00	50.00	22.00	8.72	不整形	皿形	4				
42	7区	SK202	11R-7G20・25, 11R-7H16・21	I	IV	-	-	51.00	-	20.00	24.00	8.58	不整形	皿形	2	○	50	<SD133	
43	7区	SK250	11R-5G17・22	II	IV	N・80°・W	96.00	60.00	74.00	45.00	24.00	8.60	不整形	皿形	2				
43	7区	SK273	11R-8E20, 11R-8F16	II	IV	(N・80°・E)	(67.00)	(37.00)	(14.00)	(12.00)	24.00	8.62	不整形	台形	3		<SD30		
43	7区	SK292	11R-7F23, 11R-8F3	II	IV	N・70°・E	61.00	54.00	28.00	8.00	3.00	8.56	不整形	半円形	3				
38	7区	SK317	11R-4G24・25, 11R-5G4・5	II	IV	-	-	86.00	-	22.00	22.00	8.54	-	皿形	2		<SD268		
43	7区	SK324	11R-9E6・11	II	IV	N・40°・W	95.00	90.00	70.00	65.00	16.00	8.76	円形	皿形	1				
43	7区	SK409	11R-7D21・22, 11R-8D1・2	I	IV	(N・109°・W)	(103.00)	85.00	54.00	50.00	29.00	8.64	-	半円形	3				
43	7区	SK411	11R-7E16・17	I	IV	N・15°・W	116.00	112.00	88.00	78.00	29.00	8.54	方形	皿形	4				
43	7区	SK414	11R-7D5・10・15	I	IV	N・24°・E	271.00	(104.00)	228.00	50.00	26.00	8.60	不整形	台形	3				
43	7区	SK442	11R-9F7	I	IV	N・60°・W	96.00	84.00	56.00	42.00	17.00	8.72	円形	皿形	2	○	50		
43	7区	SK488	11R-6D4・5・9・10	I	IV	-	-	(185.00)	-	77.00	62.00	8.14	不整形	皿形	7		<SK535		

個別図版 No.	区	遺構	グリッド	時期	確認面	主軸方位	規模 (cm)				深度	底面座標 (m)	平面形態	断面形態	埋土	遺物の有無	遺物図版	切合関係	備考
							上場		下場										
							長軸	短軸	長軸	短軸									
44	7区	SK575	11R-7J21・22、11R-8J1・2	I	IV	N-26°-E	357.00	280.00	298.00	214.00	30.00	8.70	不整形	皿形	4	○	50・52	>SK576 <P580	
43	7区	SK576	11R-7J22	I	IV	N-32°-E	136.00	80.00	53.00	27.00	33.00	8.62	不整形	皿形	3			<SK575	
43	7区	SK577	11R-8J2・4・8・9	I	IV	N-56°-E	267.00	250.00	192.00	185.00	29.00	8.72	不整形	皿形	6	○	52	>P584	
43	7区	SK597	11S-8B7・8	II	IV	N-90°-E	55.00	48.00	47.00	35.00	13.00	8.90	円形	皿形	1				
43	7区	SK601	11S-7B22・23、11S-8B2・3	I	IV	N-47°-E	210.00	194.00	163.00	155.00	25.00	8.72	円形	皿形	5	○			
43	7区	SK681	11R-4I21	II	IV	N-75°-E	78.00	76.00	53.00	51.00	24.00	8.48	円形	台形	5				
43	7区	SK682	11R-4I21・22	II	IV	N-53°-W	80.00	52.00	66.00	28.00	36.00	8.37	不整形	箱形	4				
43	7区	SK799	11S-6F4	II	IV	N-57°-E	49.00	33.00	30.00	12.00	22.00	8.70	楕円形	階段状	3				
44	7区	SK899	11S-2H7	II	IV	N-60°-W	46.00	32.00	20.00	15.00	20.00	8.58	楕円形	不整形半円形	3				
45	7区	SX26	11R-10F12	I	IV	-	(96.00)	(74.00)	(60.00)	(50.00)	12.00	8.88	-	皿形	1	○		>SX144 <SD21	
45	7区	SX58	11R-8I24・25、11R-9I4・5	I	IV	-	200.00	-	180.00	-	13.00	8.85	-	皿形	2			<SD30	
45	7区	SX106	11R-8I4・9	II	IV	N-0°-	94.00	39.00	87.00	25.00	12.00	8.86	不整形	皿形	1				
45	7区	SX118	11R-7H24・25、11R-8H5	II	IV	N-53°-W	90.00	69.00	58.00	49.00	50.00	8.42	不整形	台形	4			>SX119	
45	7区	SX119	11R-7H25	II	IV	N-42°-E	-	36.00	-	24.00	10.00	8.73	-	皿形	1			<SX118	
45	7区	SX144	11R-10F11・12・16・17	I	IV	N-44°-W	210.00	176.00	190.00	147.00	20.00	8.80	円形	皿形	1	○	52	<SX26、P27、P60、P61	
45	7区	SX327	11R-4G17・18	II	IV	N-35°-E	63.00	32.00	54.00	26.00	6.00	8.68	不整形	皿形	1				
45	7区	SX328	11R-4G20	II	IV	N-15°-E	108.00	102.00	97.00	82.00	14.00	8.60	不整形	皿形	1				
45	7区	SX550	11R-8J18	II	IV	N-50°-W	79.00	30.00	12.00	6.00	11.00	8.94	不整形	V字形	3				
45	7区	SX693	11R-4H22・23、11R-5G2・3	II	IV	N-67°-E	-	69.00	-	30.00	30.00	8.44	-	V字形	2			<SD133	
38	7区	SX694	11R-4H11・16	II	IV	N-54°-E	-	84.00	-	62.00	4.00	8.68	-	皿形	1			<SD268	
45	7区	SX743	11S-5F19・24	II	IV	N-28°-E	90.00	43.00	77.00	27.00	11.00	8.89	長円形	不整形半円形	1			>SX742 <P744	
39	7区	SX807	11S-3G16・17	II	IV	N-20°-W	81.00	55.00	45.00	30.00	23.00	8.74	楕円形	皿形	2				
45	7区	P70	11R-8I19・20	I	IV	N-40°-W	52.00	40.00	8.00	7.00	23.00	8.84	不整形	不整形	1	○	52		
45	7区	P229	11R-6F5	II	IV	N-70°-W	46.00	34.00	36.00	22.00	31.00	8.54	不整形	台形	2				
45	7区	P421	11R-6D19	II	IV	N-11°-E	37.00	31.00	23.00	21.00	44.00	8.30	円形	U字形					
45	7区	P581	11S-8A17	I	IV	N-18°-E	24.00	18.00	14.00	11.00	6.00	8.82	円形	U字形		○	52	<P572	
44	7区	P584	11R-8J3・8	I	IV	-	65.00	40.00	50.00	30.00	16.00	8.69	楕円形	皿形	○	○	52	<SK577	
45	7区	P692	11R-5I4	II	IV	N-25°-W	28.00	25.00	17.00	13.00	42.00	8.44	円形	U字形	○				

別表4 細池寺道上遺跡 土器・陶磁器観察表

凡例 複数の遺構から出土した遺物が接合した場合、最も破片の大きい遺構を帰属遺構（太字）とした。

実測 No.	図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	器形	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	胎土		色調	焼成	成形・調整				遺存率		備考	
			区	遺構名					グリッド	口径	底径				器高	含有物			産地	外面	内面	底部	回転方向	口縁部		底部
127	46	1	2	SD9	11R-7C8	5層	珠洲系	鉢	-	(10.0)	-	-	-	長			10Y7/1 灰白	還元硬質	ナデ	ナデ	板目痕		-	4/36	底部破片	
172	46	2	3	SD20	9P-6I19	1層	珠洲焼	楕鉢	(30.2)	-	-	-	-	長			2.5GY6/1 オリーブ灰	還元硬質	ロクロナデ	ロクロナデ卸し目			1/36	-	口縁~体部上半破片	
174	46	3	3	SD4	10Q-1B4	1層	珠洲焼	片口鉢	-	-	-	-	-	長			5Y7/1 灰白	還元硬質	ロクロナデ	ロクロナデ			-	-	体部破片	
155	46	4	3	SD44	9R-2G21	1層	古瀬戸	四耳壺	-	-	-	-	-	長			N8/O 灰白	硬質堅微	ロクロナデ	ロクロナデ→オサエ→ナデ			-	-	肩部破片	外面 自然釉付着
173	46	5	3	SD84	9P-3G2	4層	珠洲焼	甕	-	-	-	-	-	長			N5/O 灰	還元硬質	タタキ目	ロクロナデ			-	-	胴部破片	
157	46	6	4	SD5	10Q-1E3	1層	青磁	碗	-	-	-	-	-		同安窯	N8/O 灰白 (生地) 5GY7/1 明オリーブ灰 (釉)	硬質堅微	ロクロナデ	ロクロナデ 草花文			-	-	体部破片		
158	46	7	4	SD22	9Q-10F9	6層	中世土師器	皿	(7.0)	-	-	-	-	長・石・角・焼微砂多い			2.5YR7/6 橙	酸化良好	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	-	口縁部破片	
126	46	8	4	SD11	10Q-1E5	5層	珠洲焼	楕鉢	-	(10.0)	-	-	-	長・骨			N5/O 灰白	還元硬質	ロクロナデ	ロクロナデ	静止系切り		-	4/36	底部破片	
182	46	9	4	SD36	9Q-10G15	9層	珠洲焼	甕	-	-	-	-	-	長・骨			N4/O 灰	還元硬質	タタキ目	ナデ、当て具痕			-	-	胴部破片	
178	46	10	4	SD74	9R-6B5	5層	珠洲系	甕	-	-	-	-	-	長・石			7.5Y4/2 灰オリーブ	還元硬質	タタキ目	当て具痕			-	-	胴部破片	

実測 No.	図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	器形	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土	胎 土		色 調	焼成	成形・調整				遺 存 率			備 考	
			区	遺構名					グリッド	口径	底径				器高	含有物			産地	外 面		底 部	回転方向	口縁部	底部		状態
																				外 面	内 面						
159	46	11	4	SK7	10Q-1E8	1層	中世土師器	皿	-	(9.6)	-	-	-	長・焼・骨 細砂		7.5YR4/2 灰褐	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		-	6/36	底部破片	内面コゲ、外面ス ス		
128	46	12	4	SK68	9R-6B21	2層	珠洲焼	播鉢	-	13.4	-	-	-	長・石・植物繊維		N4/0 灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ 鉗し目	静止糸切り		-	36/36	底部	内面コゲ外面コゲ		
180	46	13	4	SD83	9R-4E12	1層	珠洲系	甕	-	-	-	-	-	長・角		N7/0 灰白	還元 硬質	頸部ロクロナデ 肩部タタキ目	頸部ロクロナデ 肩部ナデ 当て具痕			-	-	頸部破片			
181	46	14	4	SD88	9R-4E5	2層	珠洲焼	播鉢	-	-	-	-	-	長 微砂		N7/0 灰白	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ 鉗し目			-	-	体部破片			
179	46	15	4	SD91	9R-3F18	3層	珠洲系	壺T種	-	-	-	-	-	長		7.5Y7/1 灰白	還元 硬質	タタキ目	当て具痕			-	-	胴部破片			
177	46	16	4	SD74	9R-6B5	2層	珠洲焼	壺T種	-	-	-	-	-	長		7.5Y6/3 オリーブ黄	還元 硬質	タタキ目	当て具痕			-	-	肩部破片			
200	46	17	7	SD2	11R-9F23	2・4層	土師器	鍋	III	-	-	-	-	E2 長・石・角・白・焼		5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ→カキ目	ロクロナデ→カキ目			1/36	-	口縁部破片			
103	46	18	7	SD2 包含層	11R-9F23 11R-10F3	3層 III層	土師器	鍋	III	-	-	-	-	E2 長・石・角		5YR7/6 橙	酸化 良好	口～体上:ロクロナ デ、カキメ 体下:タタキメ	ロクロナデ、カキ目			1/36	1/36	口縁～底部破片			
192	46	19	7	SD21 包含層	11R-10E15 11R-10F12	1層 III層	須恵器	大甕	-	-	-	-	-	A2 長・骨 微砂	小泊	10YR5/1 褐灰	還元 良好	格子状タタキ目	当て具痕			-	-	胴部破片			
185	46	20	7	SD30	11R-8G25	1層	須恵器	大甕	-	-	-	-	-	A2 長・石・雲	小泊	N6/0 灰	還元 硬質	タタキメ	当て具痕			-	-	胴部破片			
131	46	21	7	SD30 包含層	11R-9J9 11S-9A15	1・3層 III層	珠洲系	壺R種	-	(13.6)	-	-	-	長・流		N6/0 灰	還元 良好	ロクロナデ	ロクロナデ→ナデ	板目痕		-	6/36	底部破片			
117	46	22	7	SD30	11R-9J8	1・3層	須恵器	大甕	(26.0)	-	-	-	-	A2 長・石	小泊	N6/0 灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	-	口縁部破片			
13	46	23	7	SD47	11S-8A11	1層	土師器	無台碗	-	5.0	-	-	-	C 長・石・褐・流・角		10YR7/3 にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	-	36/36	底部			
14	46	24	7	SD47	11S-8A13	2・3層	土師器	無台碗	(13.2)	-	-	-	-	C 粘土・褐・角・長・石		7.5YR7/4 にぶい橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ→仕上げ ナデ			5/36	-	口縁部破片			
144	46	25	7	SD30 SD47	11S-9A8 11S-8A13	1層 2・3層	緑釉陶器	皿	(15.2)	-	-	-	-	微砂 白色粒		10YR6/1 褐灰 (生地) 10Y6/2 灰オリーブ (釉)	やや 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	-	口縁部破片			
143	46	26	7	SD47	11S-8A11	2・3層	灰釉陶器	皿	(16.4)	-	-	-	-	微砂		7.5YR8/1 灰白 (生地)	硬質	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36	-	口縁部破片			
168	46	27	7	SD47	11R-8I6	4層	珠洲焼	甕	-	-	-	-	-	長・石・焼・骨		N4/0 灰	還元 硬質	タタキ目	当て具痕			-	-	胴部破片			
170	46	28	7	SD47	11S-6A25	1層	珠洲焼	甕	-	-	-	-	-	礫・石		10Y5/1 灰	還元 硬質	タタキ目					-	-	胴部破片		
183	47	29	7	SD30 SD47 包含層 包含層 包含層	11R-8G24 11R-9F6 11R-9F1 11R-9F19 11R-10E10	5層 4層 III層 III層 III層	須恵器	大甕	-	-	-	-	-	A2 礫・長・石・雲・骨	小泊	N6/0 灰	還元 硬質	タタキメ	当て具痕 自然袖付着			-	-	胴部破片			
123	47	30	7	SD108	11R-9E17	3層	須恵器	無台杯	-	(3.0)	-	-	-	A1 長・骨	小泊	N6/0 灰	還元 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		-	8/36	底部破片			
119	47	31	7	SD108	11R-7E24	5層	須恵器	長頸壺	-	(11.0)	-	-	-	A2 長・流	小泊	N4/0 灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ、回 転ケズリ		-	9/36	底部破片			
15	47	32	7	SD108 包含層	11R-8E23 11R-9E2	1層 III層	土師器	無台碗	I a	(14.4)	4.0	(4.5)	(27.8)	(31.3)	D1 長・石・焼・円粒		7.5YR7/3 にぶい橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ→仕上げ ナデ	糸切り		1/36	36/36	口縁～底部	内外面スス 外面劣化はげしい	
66	47	33	7	SD108	11R-9E18	3層	土師器	小甕	-	6.2	-	-	-	D2 長・石・流 粉っ ぽい～微砂多い		10YR6/6 赤橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	-	36/36	胴部下半～底部			
160	47	34	7	SD108	11R-7E23	1層	北陸窯か	四耳壺	-	-	-	-	-	長・石	北陸 窯?	N5/0 灰	還元 硬質	ロクロナデ→頸部にカ キ目 肩部にクシガキ波状文	ロクロナデ			-	-	肩～胴部上半破 片			
166	47	35	7	SD108	11R-7E4	5層	珠洲焼	有耳壺	-	-	-	-	-	長・石・骨		N6/0 灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ			-	-	胴部破片			
169	47	36	7	SD108	11R-8E13	1層	珠洲焼	甕	-	-	-	-	-	長・骨 砂粒含む		N4/0 灰	還元 硬質	タタキ目	当て具痕			-	-	胴部破片			
97	47	37	7	SD93 SK140 SX17 SX26	11R-9F17 11R-10F10 11R-10F12 11R-10F6	1層	土師器	鍋	II	(42.0)	-	-	-	E1 礫・石・長・雲		7.5YR7/2 明褐灰	酸化 良好	カキメ<ロクロナデ	ロクロナデ			6/36	-	口縁部破片			
136	47	38	7	SD133	11R-6H6	1層	珠洲焼	播鉢	(34.8)	-	-	-	-	長・石		5Y6/2 灰オリーブ	還元 やや 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ 鉗し目			3/36	-	口縁部破片	内面スス		
167	47	39	7	SD133	11R-5H21 11R-6H6	2・3層 2・3層	珠洲焼	甕	-	-	-	-	-	長・石・骨		5GY5/1 オリーブ灰	還元 やや 軟質	タタキ目	当て具痕			-	-	胴部破片	内外面漆状物質付 着		

実測 No.	図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	器形	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土 含有物	胎土 産地	色 調	焼成	成形・調整				遺 存 率		備 考				
			区	遺構名					グリッド	口径	底径							器高	胎 土		外 面	内 面	底 部		回転方向	口縁部	底部	状態
																			産地	含有物								
164	47	40	7	SD133	11R-6H1	2・3層	珠洲焼	壺R種		-	-	-	-	-	長・石		N5/0 灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ			-	-	肩部破片			
98	47	41	7	SD363	11R-9E6	1層	土師器	鍋	II	-	-	-	-	-	長・雲・焼		10YR7/3 にぶい黄橙	酸化 良好	ロクロナデ 体上:カキメ	カキメ		左	-	-	口縁部破片			
63	47	42	7	SD775	11S-4G15	1層	土師器	小甕	II	(12.8)	5.7	(13.8)	(107.8)	(44.5)	流・長・石・角 微砂多量		7.5YR6/3 にぶい褐色	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	12/36	36/36	口縁~底部	外面スス付着		
147	48	43	7	SE677	11R-6J15	12層	青磁	椀		(18.4)	-	-	-	-		龍泉窯	N8/0 灰白(生地) 7.5GY8/1 明緑灰(釉)	硬質 堅微	ロクロナデ 蓮弁文/輪花口縁	ロクロナデ				2/36	-	口縁部破片		
161	48	44	7	SE677	11R-6J15	2層	珠洲焼	甕		-	-	-	-	-	長・骨		5B4/1 暗青灰	還元 硬質	タタキ目	当て具痕→ナデ				-	-	胴部破片		
134	48	45	7	SE677 SE704	11R-6J15 11R-5I12	13層 7層	珠洲焼	播鉢		(27.6)	-	-	-	-	長・石・骨		5GY6/1 オリーブ灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ卸し目				2/36	-	口縁~底部破片		
162	48	46	7	SE704	11R-5I12	5層	珠洲焼	甕		-	-	-	-	-	長		N5/0 灰	還元 硬質	タタキ目	当て具痕				-	-	胴部破片	外面、破面はスリ跡 砥石に転用	
165	48	47	7	SE704	11R-5I12	7層	珠洲焼	甕		-	-	-	-	-	長・骨		5B4/1 暗青灰	還元 硬質	タタキ目	当て具痕	板目痕				-	-	胴部破片	
135	48	48	7	SE704	11R-5I12	4層	珠洲焼	片口鉢		(34.6)	-	-	-	-	長・石・骨		N5/0 灰	還元 良好	ロクロナデ	ロクロナデ卸し目				2/36	-	口縁~体部上半 破片	内面コゲ付着	
133	48	49	7	SE704 SD133	11R-5I22 11R-4H22	5層 4・6層	珠洲焼	播鉢		-	(14.8)	-	-	-	長・石・骨		5Y6/1 灰	還元 硬質	ロクロナデ	卸し目				-	6/36	体部下半~底部 破片	内断面コゲ・炭化 破片	
148	48	50	7	SK1	11R-10E9	1層	灰釉陶器	長頸瓶		-	-	-	-	-	長 微少な垂角粒多量		5PB7/1 明青灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ				-	-	口縁部破片	口縁部欠損 外面に釉	
17	48	51	7	SK20	11R-10F11	1層	土師器	無台椀		-	4.2	-	-	-	E2 長・石・流・焼・長・ 石		5YR7/6 橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ→仕上げナデ	糸切り	右	-	36/36	底部	外面スス付着		
18	48	52	7	SK34	12R-1G21	2~4層	土師器	無台椀	II b	15.4	6.4	4.6	29.9	41.6	C 角・長・石・雲・ 海・流		10YR8/4 浅黄橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ→仕上げナデ	糸切り	右	29/36	20/36	口縁~底部	内、外面黒斑付着		
11	48	53	7	SK56	11R-8I20	2層	土師器	無台椀	I a	(14.4)	5.5	(4.4)	(30.6)	(38.2)	E2 長・石		5YR6/8 橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36	口縁~底部			
19	48	54	7	SK56 包含層	11R-8I20 11R-8I20	1層 III層	土師器	無台椀	I c	12.0	5.4	3.3	27.5	45.0	C 焼・雲・石・流・ 長・角		7.5YR8/4 浅黄橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ→仕上げナ デ	糸切り	右	22/36	36/36	口縁~底部	重ね焼痕あり		
21	48	55	7	SK56	11R-8I20	2層	土師器	無台椀	II	(16.2)	-	-	-	-	E2 長・石・雲・流・角		7.5YR6/3 にぶい褐色	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ→仕上げナデ				5/36	-	口縁~体部破片	外面スス	
3	48	56	7	SK56	11R-8I20	2層	土師器	無台椀	II b	15.8	5.8	4.0	25.3	36.7	C 長・石・雲・焼・角		7.5YR8/4 浅黄橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	21/36	36/36	口縁~底部	底部外面スス		
2	48	57	7	SK56	11R-8I20	1・2層	土師器	無台椀	II a	13.0	4.9	4.1	31.5	37.7	E1 長・石・焼		7.5YR8/4 浅黄橙	酸化 良好	ロクロナデ	平滑にロクロナデ	糸切り	右	26/36	36/36	口縁~底部			
7	48	58	7	SK56	11R-8I20	1層	土師器	無台椀	I b	(12.2)	4.5	4.4	(36.1)	(36.9)	E1 長・石・雲・焼		5YR7/6 橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36	口縁~底部	外面スス付着		
22	48	59	7	SK56	11R-8I20	1層	土師器	無台椀	I c	(13.2)	(5.0)	(4.0)	(30.3)	(37.9)	E1 長・石・流・角		10YR8/4 浅黄橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ→仕上げナデ	糸切り			4/36	11/36	口縁~体部破片		
9	48	60	7	SK56	11R-8I20	1層	土師器	無台椀	I b	(12.4)	5.1	(4.4)	(35.5)	(41.1)	E1 長・石・雲・焼・骨		10YR8/6 黄橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	19/36	口縁~体部破片			
198	48	61	7	SK56	11R-8I20	1層	土師器	無台椀	II	(14.0)	-	-	-	-	E2 長・石・焼		7.5YR6/8 橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36	-	口縁部破片		
20	48	62	7	SK56	11R-8I20	2・3層	土師器	無台椀	II	(12.0)	-	-	-	-	E1 長・石・角・流		5YR8/4 淡橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ→仕上げナデ	糸切り			13/36	-	口縁部破片	外面スス付着	
108	49	63	7	SK56 包含層	11R-8I20 11R-8I20	1層 III層	黒色土器	無台椀	II	13.4	4.6	3.5	26.1	34.3	C 石・角・流 微砂多い		10YR7/3 にぶい黄橙	酸化 良好	ロクロナデ後手持ちケ ズリ	ヨコミガキ→タテミガキ	糸切り	右	20/36	36/36	口縁~底部	外面棒状黒斑		
109	49	64	7	SK56	11R-8I20	1層	黒色土器	無台椀		-	5.0	-	-	-	C 長・石・角・焼 微少な円粒多量		10YR7/3 にぶい黄橙	酸化 良好	ロクロナデ 底部~腰 手持ちケズリ	ヘラミガキ(暗文風)	糸切り	左	-	36/36	底部	外面付着スス (タール状物質)		
105	49	65	7	SK56 SK577	11R-8I20 11R-8J3	1層 2層	黒色土器	無台椀	II	(17.0)	6.0	(4.8)	(26.5)	(25.9)	C 長・石・雲 微砂多い		7.5YR7/3 にぶい褐色	酸化 良好	ロクロナデ 体部下半ヘラケズリ→ ミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ミ ガキ			5/36	31/36	口縁~底部		
107	49	66	7	SK56 包含層	11R-8I20 11R-8I9	1層 III層	黒色土器	無台椀	I	(13.2)	(5.4)	(2.9)	(34.1)	(33.3)	D1 長・石・角・焼		7.5YR7/6 橙	酸化 軟質	口縁ヘラミガキ/ロク ロナデ	ヘラミガキ				6/36	7/36	口縁~底部破片		
104	49	67	7	SK56	11R-8I20	1層	黒色土器	無台椀	I	(12.4)	-	-	-	-	C 長・雲・角 微砂		10YR8/2 灰白	酸化 良好	ロクロナデ	ヨコハラミガキ後底~体 部タテヘラミガキ				9/36	-	口縁部破片		
106	49	68	7	SK56 包含層	11R-8I20 11R-8I20	1層 III層	黒色土器	無台椀		-	5.2	-	-	-	D1 長・石・角・流 微少~2mmの垂 角粒		10YR8/2 灰白	酸化 硬質	ロクロナデ 手持ちケズリ	ヘラミガキ				-	18/36	底部		
67	49	69	7	SK56	11R-8I20	1層	土師器	小甕	I	(15.6)	-	-	-	-	F 長・雲・褐 1~5 mmの垂角粒含む		2.5YR6/6 橙	酸化 やや 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	-	口縁部破片	被熱により外面剥 離顕著	
193	49	70	7	SK56	11R-8I20	1層	土師器	鍋	I	(37.6)	-	-	-	-	C 長・石・雲・焼		10YR7/4 にぶい黄橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36	-	口縁部破片	外面スス	
195	49	71	7	SK56	11R-8I20	1層	土師器	鍋	II	(36.8)	-	-	-	-	C 長・石・雲・焼		10YR6/4 にぶい橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36	-	口縁部破片	外面スス	
99	49	72	7	SK56	11R-8I20	1層	土師器	鍋	II	-	-	-	-	-	E2 雲・角・焼		5YR8/4 淡橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36	-	口縁部破片	外面スス	

実測 No.	図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	器形	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土	胎 土		色 調	焼成	成形・調整				遺 存 率			備 考		
			遺構名	グリッド					口径	底径	器高				含有物	産地			外 面		内 面		底 部	回転方向	口縁部		底部	状態
24	49	73	7	SK68	11R-10F10	1層	土師器	無台椀	II a	(12.2)	5.0	(4.4)	(36.1)	(41.0)	E1	長・石		5YR7/3 浅黄	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	1/36	36/36	口縁~底部	内面コゲ, 外面ス ス付着	
5	49	74	7	SK68	11R-10F10	1層	土師器	無台椀	II a	12.4	4.8	4.35	35.5	38.7	E1	長・石・焼		10YR8/4 浅黄橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	27/36	36/36	略完形		
23	49	75	7	SK68 包含層	11R-10F10 11R-10F10	1層 Ⅲ層	土師器	無台椀		-	5.0	-	-	-	E1	長・石・雲・焼		5YR6/6 橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	-	36/36	底部		
100	49	76	7	SK68	11R-10F10	1層	土師器	鍋	I	39.2	-	-	-	-	E2	石・長・雲		10YR7/4 にぶい黄橙	酸化 良好	口縁:ロクロナデ 体上:カキメ	口縁:ロクロナデ 体上:カキメ			24/36	-	口縁~体部上半 破片	外面スス	
1	49	77	7	SK69	11R-10F10	1層	土師器	無台椀	II a	(12.8)	4.6	4.1	(32.0)	35.9	E1	長・石・焼		10YR7/4 にぶい黄橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	11/36	36/36	口縁~底部		
25	49	78	7	SK69	11R-10F10	1層	土師器	無台椀	II	(13.0)	-	-	-	-	D1	長・石		7.5YR8/6 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	平滑にロクロナデ			3/36	-	口縁部破片		
26	49	79	7	SK77	11R-9E25	2層	土師器	無台椀		-	(5.0)	-	-	-	D1	長・石・焼・雲		7.5YR8/3 浅黄橙	酸化 軟質			糸切り	右	-	14/36	底部破片		
124	49	80	7	SK92	11R-9F14	1層	須臾器	無台杯		(13.4)	-	-	-	-	A1	長	小泊	2.5GY6/1 オリーブ灰	還元 良好	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	-	口縁部破片		
27	49	81	7	SK92	11R-9F14	1層	土師器	無台椀		-	(5.6)	-	-	-	D1	長・石・焼		7.5YR8/6 橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		-	16/36	底部破片		
118	49	82	7	SK97 包含層	11R-9F21 11R-9F14	2層 Ⅲ層	須臾器	大囊		(22.4)	-	-	-	-	A2	長	小泊	N6/0 灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	口縁部破片		
6	50	83	7	SK116	11R-9F13	2層	土師器	無台椀	I a	(12.2)	5.0	(5.0)	41.0	41.0	E1	長・石・雲・焼		7.5YR8/6 浅黄橙	酸化 軟質	ロクロナデ	平滑にロクロナデ	糸切り	右	15/36	36/36	口縁~底部		
31	50	84	7	SK116	11R-9F13	2層	土師器	無台椀	I	(13.0)	-	-	-	-	E1	長・石・雲		10YR6/2 灰黄褐	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ			13/36	-	口縁~体部破片		
29	50	85	7	SK116	11R-9F13	2層	土師器	無台椀		-	4.7	-	-	-	E1	長・石・雲・焼		10YR7/6 明黄褐	酸化 軟質			糸切り		-	22/36	底部		
28	50	86	7	SK116	11R-9F13	2層	土師器	無台椀		-	5.0	-	-	-	D1	長・石・雲・角・焼		5YR8/3 淡橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	-	30/36	底部		
30	50	87	7	SK116 包含層	11R-9F13 11R-9F13	2層 Ⅲ層	土師器	無台椀		-	(5.2)	-	-	-	D1	長・石・雲・焼		7.5YR8/1 淡白	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		-	17/36	底部破片		
95	50	88	7	SK116 SD2 包含層	11R-9F13 11R-9F22 11R-10F11	3層 2層 Ⅲ層	土師器	鍋	II	-	-	-	-	-	E2	長・石・角・焼		5YR7/6 橙	酸化 良好	ロクロナデ	口縁:ロクロナデ 体上:カキメ			4/36	-	口縁~体部上半 破片		
16	50	89	7	SK140	11R-9F17 11R-10E11 11R-9F16	1層 3層 3層	黒色土器	無台椀	III	(15.8)	6.2	(6.7)	42.4	39.2	E1	焼・石・流・長		5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ ヨコミガキ 底部付近ヘラナデ	ロクロナデ→ヨコミガキ	糸切り→回転ヘ ラナデ	左 (ヘラ ナデ)	11/36	36/36	口縁~底部	赤色粒多い 内面 コゲ	
82	50	90	7	SK140	11R-9F17	1層	土師器	長囊	I b	(27.8)	-	-	-	-	D2	長・流・焼		5YR7/6 橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36	-	口縁~胴部上半 破片		
32	50	91	7	SK141 包含層	11R-9F19 11R-9F19	1層 Ⅲ層	土師器	無台椀	I	(13.5)	-	-	-	-	D1	長・石・焼		7.5YR7/6 橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り→ナデ		6/36	-	口縁~体部破片		
10	50	92	7	SK145	11R-9F11	1層	土師器	無台椀	II b	(14.6)	4.4	4.5	(30.8)	(30.1)	D1	長・石・焼・白		5YR7/8 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	26/36	口縁~底部		
33	50	93	7	SK145	11R-9F11	1層	土師器	無台椀		-	5.2	-	-	-	D1	長・雲・石・焼		5YR7/6 橙	酸化 軟質	ロクロナデ		糸切り 外面ナデ		-	18/36	底部		
34	50	94	7	SK145	11R-9F11 11R-9F6	1層 1層	土師器	無台椀		-	5.0	-	-	-	D1	長・雲・石・焼		7.5YR8/6 浅黄橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	-	36/36	底部		
201	50	95	7	SK145 包含層	11R-9F6 11R-9F12	1層 Ⅲ層	土師器	鍋	II	(41.6)	-	-	-	-	D2	長・石・焼		5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ→カキ目 タタキ→ヘラナデ	ロクロナデ→カキ目			1/36	-	口縁部破片		
88	50	96	7	SK202	11R-7H16	1層	土師器	長囊	II	-	-	-	-	-	C	長・流・雲・角・石 微少円粒多量		2.5YR8/4 淡黄	酸化 良好	タテハケ目	ヨコハケ目			-	-	胴部破片	ハケ囊と思われる	
68	50	97	7	SK442	11R-9F7	1層	土師器	小囊		(12.8)	-	-	-	-	C	長・石		7.5YR7/6 橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	-	口縁部破片		
92	50	98	7	SK575 包含層	11R-8J2 11R-7J22	1層 Ⅲ層	土師器	鍋	II	(40.0)	-	-	-	-	C	礫・長・石・雲・焼		5YR7/6 橙	酸化 良好	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ			6/36	-	口縁~体部上半 破片		
209	51	99	7	SK145	11R-9F11	1層	土師器	鍋	II	39.6	-	17.3	-	-	E1	長・石・焼		10YR8/3 浅黄橙	酸化	口:ロクロナデ 体部:カキメ	口:ロクロナデ 体部:カキメ	タタキ目, 支脚 痕アリ		36/36	36/36	完存	外面スス 被熱による 赤化剥落 内面コ ゲ 容量 10.2 ℓ	
36	52	100	7	SK575 包含層	11R-8J2 11R-8J1	1・2層 Ⅲ層	土師器	無台椀	I b	(12.0)	4.5	(4.2)	(35.0)	(37.5)	E1	長・石・焼		5YR7/6 橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	口縁~底部	内面スス少量	
38	52	101	7	SK575	11R-8J2	2層	土師器	無台椀	II b	(12.5)	5.7	(3.7)	(29.6)	(45.6)	F	長・石・雲・焼		7.5YR8/4 浅黄橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	口縁~底部		
8	52	102	7	SK575	11R-8J2	2層	土師器	無台椀	II b	(12.4)	(4.3)	(3.8)	(30.6)	(34.7)	C	長・雲・石		10YR6/4 にぶい黄橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	9/36	口縁~底部破片	外面スス付着	
35	52	103	7	SK575	11R-7J22	2層	土師器	無台椀	II	13.2	-	-	-	-	C	長・石・角		10YR8/6 黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			30/36	-	口縁部		
41	52	104	7	SK575 SK577	11R-7J21 11R-8J3	2層 2層	土師器	無台椀	I a	(14.0)	-	-	-	-	E1	長・石・雲・焼		5YR6/8 橙	酸化 良好	ロクロナデ	ヨコヘラミガキ			6/36	-	口縁部破片		

実測 No.	図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	器形	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土	胎 土 含有物	産地	色 調	焼成	成形・調整				遺 存 率		備 考			
			遺構名	グリッド					口径	底径	器高								胎 土		外 面	内 面	底 部	回転方向		口縁部	底部	状態
																			口径	底径								
110	52	105	7	SK575	11R-8J2	2層	黒色土器	無台椀	I	(13.2)	-	-	-	C	流・石・角・雲 微少な亜角粒多量		10YR8/2 灰白	酸化 良好	ロクロナデ	ヨコミガキ			4/36	-	口縁～体部破片	棒状黒斑あり		
115	52	106	7	SK577	11R-8J3	5層	須恵器	長頸壺		-	11.6	-	-	A1	長・骨	小泊	N7/0 灰白	還元 良好	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		-	36/36	底部	高台は貼り付け後 ナデ		
120	52	107	7	SK577	11R-8J3	2層	須恵器	長頸壺		(19.9)	-	-	-	A2	長・石	小泊	10YR4/1 灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	口縁部破片			
12	52	108	7	SK577 包含層	11R-8J3 11R-8J3	1・2層 Ⅲ層	土師器	無台椀	Ⅲ	(13.5)	5.0	(3.0)	(22.2)	(37.0)	F	石・角・雲・焼		7.5YR8/8 黄橙	酸化	ロクロナデ	粗いロクロナデ	糸切り	右	5/36	35/36	口縁～底部	外面スス付着	
37	52	109	7	SK577	11R-8J3 11R-8J3・8	2層 3層	土師器	無台椀	Ⅱ	(17.0)	-	-	-	C	長・雲・石・焼		2.5Y7/3 浅黄	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ→丁寧なナデ			3/36	-	口縁部破片			
39	52	110	7	SK577	11R-8J3 11R-8J3・8	2層 3層	土師器	無台椀	Ⅱ	(16.6)	-	-	-	C	石・雲・角		2.5Y8/4 淡黄	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	-	口縁部破片			
40	52	111	7	SK577	11R-8J3	1層 2層	土師器	無台椀		-	(5.4)	-	-	E1	長・石・角		5YR5/6 明赤褐	酸化 良好	ロクロナデ→ミガキ	ミガキ	糸切り→ 回転ケズリ		-	10/36	底部破片			
111	52	112	7	SK577	11R-8J3	1層	黒色土器	無台椀		-	5.4	-	-	C	白・角		2.5Y7/2 灰黄	酸化 やや 軟質	ロクロナデ→ミガキ	ヘラミガキ	糸切り→ミガキ	右	-	36/36	底部			
69	52	113	7	SK577	11R-8J3	1層	土師器	小甕	Ⅱ	(7.8)	-	-	-	F	長・石 微砂		7.5YR7/6 橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	-	口縁部破片	外面スス		
189	52	114	7	SK577 包含層	11R-8J3 11R-8J2	2・3層 Ⅲ層	須恵器	大甕		-	-	-	-	A2	石・長・礫・雲	小泊	5Y6/3 オリーブ黄	還元 良好	タタキメ	当て具痕			-	-	胴部破片			
149	52	115	7	SK577	11R-8J3・8	3層	緑釉陶器	皿		-	-	-	-		微砂		10YR7/1 灰白(生地) 7.5YR7/2 灰白(釉)	やや 軟質	回転ケズリ	ロクロナデ→ミガキ?			-	-	体部破片			
187	52	116	7	P70 包含層	11R-8I18 11R-8I19	2層 Ⅲ層	須恵器	壺類		-	-	-	-	A1	長・石・骨・雲	小泊	N4/0 灰	還元 良好	ロクロナデ 自然釉の付着	ロクロナデ			-	-	肩部破片			
42	52	117	7	P581	11S-8A17	1層	土師器	無台椀	I	(12.8)	-	-	-	C	長・石・雲・角・焼		10YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	-	口縁部破片			
43	52	118	7	P584	11R-8J8	4層	土師器	無台椀	I	(12.0)	-	-	-	C	長・白・雲・角		2.5YR5/6 明赤褐	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	-	口縁部破片			
83	52	119	7	P584	11R-8J8	2層	土師器	長甕	I a	(20.0)	-	-	-	E2	角・流 微砂多い		7.5YR7/6 橙	酸化 やや 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	-	口縁部破片			
197	52	120	7	SX144 包含層 包含層	11R-10F17 11R-9F6 11R-10F12	1層 Ⅲ層 Ⅲ層	須恵器	長頸壺		-	-	-	-	A1	長・石	小泊	N5/0 灰	還元	ヘラケズリ→ロクロナ デ	ロクロナデ→ナデ	ロクロナデ→ ロクロナデ		1/36	-	口縁部破片			
152	53	121	1		9R-6J20	1 b 層	須恵器	有台杯		-	(6.6)	-	-	A2	長・石 微砂	小泊	N7/0 灰白	還元 硬質 堅微	ロクロナデ	ロクロナデ			-	4/36	底部破片			
254	53	122	1		9R-4I18 9R-4I24	Ⅳ層	土師器	無台椀	Ⅱ b	(13.0)	5.4	(4.0)	(30.7)	(41.3)	E2	長・石・焼		10YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り→ロク ロナデ		7/36	25/36	口縁～底部	内面コゲ	
151	53	123	1		9S-9C21	Ⅲ a 層	青磁	椀		(19.4)	-	-	-			龍泉窯 N8/0 灰白(生地) 5GY7/1明オリーブ灰(釉)	硬質 堅微	ロクロナデ, 蓮弁文	ロクロナデ			3/36	-	口縁部破片				
150	53	124	1		9R-3H3	Ⅳ層	青磁	皿		(10.2)	-	-	-			同安窯 N7/0 灰白(生地) 7.5Y 灰オリーブ(釉)	硬質 堅微	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	口縁部破片				
171	53	125	1		9S-8B16	Ⅲ b 層	珠洲焼	甕		(40.0)	-	-	-		長・骨		N4/0 灰	硬質 堅微	口:ロクロナデ 体上:タタキメ、ロク ロナデ	体上:当て具痕			4/36	-	口縁部破片			
65	53	126	2		11R-5B1	Ⅲ a 層	土師器	小甕	I	(13.4)	-	-	-	E1	長・石・角・焼		10YR8/4 浅黄橙	酸化 やや 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	-	口縁～胴部破片	外面スス		
78	53	127	2		11R-5B6 11R-5B7	Ⅲ a 層	土師器	長甕	I a	21.5	-	-	-	E2	石・長・雲・焼		10YR8/3 浅黄橙	酸化 良好	口:ロクロナデ 体上:カキメ 体下:タタキメ・ヘラ ナデ	口:ロクロナデ 体上:カキメ 体下:タタキメ・ヘラ ナデ			36/36	3/30	口縁～胴部	外面スス, 内面コ ゲ		
80	53	128	2		11R-5B7 11R-5B8	Ⅲ a 層 Ⅲ a 層	土師器	長甕	I a	(22.7)	-	-	-	E1	安・角・焼		10YR8/3 浅黄橙	酸化 良好	ロクロナデ→カキ目	ロクロナデ→カキ目			6/36	-	口縁～胴部破片	外面スス		
154	53	129	2		11R-5B2	Ⅲ a 層	中世土師器	皿		(11.6)	-	-	-		焼 微砂		7.5YR8/3 浅黄橙	酸化 硬質	てづくね成形後ヨコ ナデ	ヨコナデ			4/36	-	口縁部破片	内面タール付着・ 灯明皿		
175	53	130	3		9P-3G7	Ⅲ層	珠洲焼	壺R種		-	-	-	-		微砂		N6/0 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			-	-	胴部破片	内面スス		
176	53	131	3		8P-7B5	Ⅲ層	珠洲焼	甕		-	-	-	-		長・石・骨		N5/0 灰	還元	タタキ目→ロクロナ デ	当て具痕→ロクロナ デ			-	-	胴部破片			
125	53	132	3		9P-6I1	Ⅲ層	珠洲焼	桶鉢		(24.0)	-	-	-		長・石・骨		10Y6/1 灰	還元 やや 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ 口縁部クシ痕		5/36	-	口縁部破片			
156	53	133	3		8P-7C23	1層	越前焼	甕		-	-	-	-		長・石 1mm 前後の亜角 粒多い		7.5YR7/2 明褐灰	硬質 堅微	ナデ	ナデ			-	-	口縁部破片			
62	53	134	4		9R-4E20	Ⅳ層	土師器	無台椀	Ⅱ b	(13.8)	6.0	4.1	(29.7)	(43.5)	E1	焼		10YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	-	口縁～底部	内面コゲ, 外面ス スあり	

実測 No.	図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	器形	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土	胎 土		色 調	焼成	成形・調整				遺 存 率		備 考			
			区	遺構名					グリッド	口径	底径				器高	含有物			産地	外 面	内 面	底 部	回転方向	口縁部		底部	状態	
121	53	135	7		11R-7E24	Ⅲ層	須恵器	無台杯		(12.6)	7.2	2.6	-	-	A1	長・粘・骨	小泊	N7/O 灰白	やや 酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		5/36	-	口縁部破片		
122	53	136	7		11S-9A1	Ⅲ層	須恵器	有台杯		-	(9.0)	-	-	-	A2	長・流	小泊	N6/O 灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		-	6/36	底部破片		
116	53	137	7		11R-6E17 11R-7E12	Ⅲ層	須恵器	長頸壺		(10.0)	-	-	-	-	B	長	新津	N4/O 灰	還元 硬質	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	-	口縁部破片		
203	53	138	7		11R-10E14	Ⅲ層	須恵器	甕		(16.0)	-	-	-	-	A2	長・石	小泊	N2/O 黒	還元	口縁部ロクロナデ 頸部タタキ目	口縁部ロクロナデ 頸部当て具痕			4/36	-	口縁～頸部破片		
188	53	139	7		11R-6E12 11R-6F11	Ⅲ層 Ⅲ層	須恵器	大甕		-	-	-	-	-	A2	礫・石	小泊	N4/O 灰	還元 硬質	タタキ目ナデ	当て具痕			-	-	胴部破片	外面重ね焼痕	
186	53	140	7		11R-9F7	Ⅲ層	須恵器	長頸壺		-	-	-	-	-	B	礫・石	新津	N4/O 灰	還元 硬質	ロクロナデ	カキメ			-	-	胴部破片		
208	54	141	7		11R-9F19	Ⅲ層	土師器	無台椀	II b	(11.0)	-	-	-	-	F	長・石・焼		5YR7/8 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36	-	口縁部破片		
50	54	142	7		11R-9F19	Ⅲ層	土師器	無台椀	I d	(11.0)	5.0	(4.5)	(40.9)	(45.5)	E1	長・石・焼		5YR7/8 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ→ナデ	糸切り		3/36	36/36	口縁～底部		
56	54	143	7		11R-10E10 11R-10E15	Ⅲ層	土師器	無台椀	II a	12.7	5.0	4.6	36.2	39.4	E2	長・石・焼		2.5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	18/36	36/36	口縁～底部	内面スス	
57	54	144	7		11R-10F11	Ⅲ層	土師器	無台椀	II a	13.0	4.8	4.7	36.2	36.9	E2	長・石・焼		5YR6/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	33/36	36/36	口縁～底部		
253	54	145	7		11R-10F12 11R-10F17	Ⅲ層	土師器	無台椀	I b	(13.0)	(5.0)	(4.5)	(34.6)	(38.5)	E1	長・焼		10YR7/6 明黄褐色	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		1/36	4/36	口縁～底部破片		
53	54	146	7		11R-9F19 11R-9F20	Ⅲ層	土師器	無台椀	II	(12.0)	-	-	-	-	D1	雲・焼		5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	口縁部破片		
45	54	147	7		11R-9F6	Ⅲ層	土師器	無台椀	I a	(15.0)	-	-	-	-	D1	長・石・焼		7.5YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	口縁部破片		
54	54	148	7		11R-10E5 11R-10E9	Ⅲ層	土師器	無台椀	II	(12.8)	-	-	-	-	E1	長・石・焼		7.5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	口縁部破片		
60	54	149	7		12R-1G12	Ⅲ層	土師器	無台椀	II	(13.9)	-	-	-	-	D1	長・石・焼		5YR6/8 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			12/36	-	口縁部破片		
52	54	150	7		11R-9F19	Ⅲ層	土師器	無台椀	II b	(12.2)	(3.8)	(3.4)	(27.9)	(31.1)	D1	長・石・焼		5YR6/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		9/36	11/36	口縁～底部破片	底部スス	
4	54	151	7		11R-9F19	Ⅲ層	土師器	無台椀	I a	(15.4)	7.0	(5.2)	(33.8)	(45.4)	D1	長・石・雲・焼・角		7.5YR7/6 橙	酸化 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	24/36	口縁～底部		
48	54	152	7		11R-9F19	Ⅲ層	土師器	無台椀	II	(13.0)	-	-	-	-	D1	長・石・焼		7.5YR8/6 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			11/36	-	口縁部破片		
206	54	153	7		11R-9F18	Ⅲ層	土師器	無台椀	III	(13.0)	-	-	-	-	E1	石・焼		5YR7/6 橙	酸化	上ロクロナデ 下ヘラケズリ	上ロクロナデ	外面ヘラケズリ		3/36	-	口縁部破片		
58	54	154	7		11R-10F16	Ⅲ層	土師器	無台椀	II	(11.8)	-	-	-	-	E1	石・焼		2.5YR6/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	口縁～底部		
59	54	155	7		11S-8A7	Ⅲ層	土師器	無台椀	I a	(15.8)	-	-	-	-	E1	長・雲		10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		2/36	-	口縁部破片		
46	54	156	7		11R-9F13 11R-9F18	Ⅲ層	土師器	無台椀		-	-	-	-	-	D1	礫・長・雲		5YR6/8 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		-	11/36	底部破片		
47	54	157	7		11R-9F19	Ⅲ層	土師器	無台椀		-	5.2	-	-	-	D1	長・石・焼		2.5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ		糸切り	左	-	36/36	底部		
232	54	158	7		12R-1G12	Ⅲ層	土師器	無台椀	II	(12.0)	-	-	-	-	E1	長・石・角		10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36	-	口縁部破片		
49	54	159	7		11R-9F19	Ⅲ層	土師器	無台椀		-	-	-	-	-	E1	長・石・焼		2.5YR7/4 淡赤橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	-	36/36	口縁～底部		
51	54	160	7		11R-9F19	Ⅲ層	土師器	無台椀		-	4.4	-	-	-	E1	長・石・雲		2.5YR8/6 黄	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	-	22/36	底部		
44	54	161	7		11R-9E7 11R-9E8	Ⅲ層	土師器	無台椀		-	6.0	-	-	-	C	長・石・雲・骨		7.5YR7/6 橙	酸化			糸切り		-	27/36	底部	内面スス	
55	54	162	7		11R-10E15	Ⅲ層	土師器	無台椀		-	5.2	-	-	-	D1	長・石・焼		5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ		糸切り	左	-	28/36	底部		
146	54	163	7		11S-9A14	Ⅲ層	土師器	無台椀		-	(5.0)	-	-	-	E1	長・角・雲 微砂多量		7.5YR7/1 明褐灰	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ			-	4/36	底部破片	断面～外面被熱	
112	54	164	7		11R-9F13	Ⅲ層	黒色土器	無台椀	III	(15.6)	-	-	-	-	E1	長・流・石 2mm 以下の亜角 粒多い		10YR8/4 浅黄橙	酸化 良好	ロクロナデ→ 口縁部ヨコヘラミガキ 体部ヘラナデ	ヨコヘラミガキ後タテヘ ラミガキ			9/36	-	口縁～体部破片		
113	54	165	7		11R-9I5 11R-9I10	Ⅲ層	黒色土器	無台椀	I	(14.0)	(5.0)	(3.8)	(32.1)	(31.4)	C	長・角・石・雲		7.5YR8/3 浅黄橙	酸化 やや 軟質	ロクロナデ	ヘラミガキ	糸切り		4/36	11/36	口縁～底部破片		
114	54	166	7		11R-10F11	Ⅲ層	黒色土器	皿		(13.4)	-	-	-	-	E1	礫・石		7.5YR8/2 灰白	酸化 やや 硬質	ロクロナデ後ヘラミガ キ	ヘラミガキ			4/36	-	口縁部破片		
71	54	167	7		11R-9F19	Ⅲ層	土師器	小甕	I	(13.8)	5.8	(21.7)	-	-	D2	長・石・流・焼		10YR7/4 にぶい黄橙	酸化 炎 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	36/36	口縁～底部	外面スス付着	
73	54	168	7		11R-10E15	Ⅲ層	土師器	小甕	I	(14.0)	-	-	-	-	E2	長・石・角・流・骨 微砂		10YR6/2 灰黄褐	酸化 良好	ロクロナデ、カキ目	ロクロナデ			5/36	-	口縁部破片		
70	54	169	7		11R-9E8	Ⅲ層	土師器	小甕	I	(13.1)	-	-	-	-	E1	長・流・石・焼 微小～3mm の亜 角粒多量		10YR6/6 赤橙	酸化 炎	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	-	口縁部破片		
77	54	170	7		11R-10F7	Ⅲ層	土師器	小甕	I	(12.6)	-	-	-	-	E1	石・流・焼 1～2mm の亜角 粒多量		10YR6/8 赤橙	酸化 良好	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	-	口縁部破片		

実測 No.	図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	器形	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土 含有物	胎土 産地	色 調	焼成	成形・調整				遺 存 率		備 考				
			区	遺構名					グリッド	口径	底径							器高	外 面		内 面		底 部		回転方向	口縁部	底部	状態
205	54	171	7		11R-9E15	Ⅲ層	土師器	小甕	I	(17.2)	-	-	-	E1	長・石・角・焼・骨	2.5YR7/4 淡赤橙	酸化	口クロナデ	口クロナデ			5/36	-	口縁～胴部上半破片	外面スス			
64	54	172	7		11R-9F11 11R-9F12	Ⅲ層	土師器	小甕	I	(12.7)	-	-	-	E1	長・石・流 微砂多量	2.5YR7/4 淡赤橙	酸化 やや多量	口クロナデ	口クロナデ			6/36	-	口縁～胴部上半破片				
75	54	173	7		11R-10F6 11R-10F7	Ⅲ層	土師器	小甕		-	(7.4)	-	-	D1	長・石・流・焼 0.5～3mmの円粒	7.5YR7/6 橙	酸化 良好	口クロナデ 口クロケズリ	口クロナデ	糸切り→ ケズリか指圧痕		-	5/37	-	底部破片	外面スス付着		
74	54	174	7		11R-10E10 11R-10E15	Ⅲ層	土師器	小甕		-	7.0	-	-	E2	長・石・角・流	2.5YR6/4 にぶい橙	酸化 良好	口クロナデ	口クロナデ	糸切り	右	-	36/36	-	底部	内面底部コゲ		
231	54	175	7		11R-8E7	Ⅲ層	土師器	小甕		-	-	-	-	F	長・石・焼	7.5YR7/4 にぶい橙	酸化	口クロナデ	口クロナデ			-	-	胴部上半破片				
255	54	176	7		11R-9E2	Ⅲ層	土師器	小甕		-	-	-	-	E1	長・石・焼	2.5YR7/6 橙	酸化	口クロナデ	口クロナデ			-	-	胴部下半破片	内外面スス			
76	54	177	7		11R-10F10	Ⅲ層	土師器	小甕		-	6.0	-	-	D2	礫・石・長・雲	7.5YR8/8 黄橙	酸化 良好	口クロナデ	口クロナデ	糸切り後ユビナ デにより高台状 に整形		-	36/36	-	底部			
72	54	178	7		11R-10E15	Ⅲ層	土師器	小甕		-	5.3	-	-	F	長・石・角 微砂	2.5YR7/6 橙	酸化 良好	口クロナデ	口クロナデ	糸切り		-	26/36	-	底部			
199	55	179	7		11R-9F19	Ⅲ層	土師器	長甕	I d	(17.0)	-	-	-	E2	長・石・角・骨	5YR7/6 橙	酸化	口クロナデ→カキ目	口クロナデ→カキ目			8/36	-	口縁～胴部上半破片				
230	55	180	7		11R-10F17	Ⅲ層	土師器	長甕	I a	(24.0)	-	-	-	D2	長・石・雲・角・焼	5YR6/6 橙	酸化	口クロナデ	口クロナデ			2/36	-	口縁部破片				
229	55	181	7		11R-9E6	Ⅲ層	土師器	長甕	I a	(20.0)	-	-	-	D2	長・石・焼	10YR8/4 浅黄橙	酸化	口クロナデ	カキ目			1/36	-	口縁部破片				
87	55	182	7		11R-9F19	Ⅱ・Ⅲ層	土師器	長甕	I d	(17.0)	-	-	-	C	長・石・雲・流・骨 0.5mm～5mm の亜角粒多量	5YR7/6 橙	酸化 良好	口クロナデ→カキ目	口クロナデ→カキ目			15/36	-	口縁部破片				
79	55	183	7		11R-10F6 11R-10E10	Ⅲ層 Ⅲ層	土師器	長甕	I d	(20.0)	-	-	-	C	長・角・雲・焼・流	7.5YR8/6 浅黄橙	酸化 やや軟質	口クロナデ	口クロナデ			10/36	-	口縁～胴部上半破片	外面スス			
84	55	184	7		11R-10F16 11R-10F11	Ⅲ層	土師器	長甕	I c	19.2	-	-	-	E1	長・石・流・焼	7.5YR7/4 にぶい橙	酸化 やや硬質	口クロナデ	口クロナデ			29/36	-	口縁～胴部上半				
85	55	185	7		11R-9F12 11R-9F17 11R-10F11	Ⅲ層	土師器	長甕	I d	(22.0)	-	-	-	D1	長・石・雲・流	5YR6/8 橙	酸化 良好	口クロナデ、カキ目	口クロナデ→板ナデ			8/36	-	口縁部破片				
86	55	186	7		11R-10F12 11R-10F17	Ⅲ層	土師器	長甕	I b	(25.8)	-	-	-	D1	長・石	7.5YR8/6 浅黄橙	酸化 良好	口クロナデ	口クロナデ			3/36	-	口縁～胴部上半破片				
89	55	187	7		11R-7H21	Ⅲ層	土師器	長甕	Ⅱ	-	-	-	-	C	長・角・雲・流	10YR7/3 にぶい黄橙	酸化 良好	タテハケ目	ヨコハケ目			-	-	口縁～胴部上半破片	ハケ甕			
90	55	188	7		11R-8G16	Ⅲ層	土師器	長甕	Ⅱ	(22.4)	-	-	-	C	長・石・流・焼	10YR7/3 にぶい黄橙	酸化 良好	タテハケ目	ヨコハケ目			3/36	-	口縁部破片	ハケ甕			
91	55	189	7		11R-10F16	Ⅲ層	土師器	長甕	Ⅱ	-	(7.8)	-	-	C	長・石・流・焼	10YR8/4 浅黄橙	酸化 良好	ヨコハケ目→ナデ	ヨコハケ目			-	4/36	-	底部破片	ハケ甕		
94	55	190	7		11R-9F6 11R-9F7	Ⅲ層	土師器	鍋	Ⅱ	(40.0)	-	-	-	F	礫・白・長・焼	2.5YR8/3 淡黄	酸化 良好	口：口クロナデ 体上：カキメ 体下：タタキメ	口：口クロナデ 体上：カキメ 体下：タタキメ→ナデ			11/36	-	口縁～体部破片	外面スス			
101	55	191	7		11R-10F10	Ⅲ層	土師器	鍋	I	(40.0)	-	-	-	D2	石・雲・焼	7.5YR7/6 橙	酸化 良好	口クロナデ	口クロナデ、カキメ			3/36	-	口縁部破片	外面被熱により赤化			
196	55	192	7		11R-9F14 11R-10E15	Ⅲ層	土師器	鍋	I	(44.0)	-	-	-	E2	長・石・雲・焼	7.5YR7/6 橙	酸化	口クロナデ	口クロナデ			5/36	-	口縁部破片				
250	55	193	7		11R-9F19 11R-10F11	Ⅲ層 Ⅲ層	土師器	鍋	I	(44.0)	-	-	-	E1	長・石・雲・焼	7.5YR6/4 にぶい橙	酸化	口クロナデ	口クロナデ			3/36	-	口縁部破片				
207	56	194	7		11R-10F21	Ⅲ層	土師器	鍋	I	(40.0)	-	-	-	D2	長・石・チ・焼	10YR6/3 にぶい黄橙	酸化	口クロナデ	口クロナデ			1/36	-	口縁～体部上半破片				
252	56	195	7		11R-9F13	Ⅲ層	土師器	鍋	Ⅲ	(40.0)	-	-	-	E2	長・石・焼	7.8YR6/6 橙	酸化	口クロナデ→カキ目	口クロナデ→カキ目			2/36	-	口縁部破片				
202	56	196	7		11R-9E6	Ⅲ層	土師器	鍋	Ⅱ	(40.0)	-	-	-	D2	長・石・角・雲・焼	7.5YR7/4 にぶい橙	酸化	口クロナデ→カキ目	口クロナデ→カキ目			1/36	-	口縁部破片	外面スス			
251	56	197	7		11R-9F23	Ⅲ層	土師器	鍋	Ⅲ	(41.0)	-	-	-	D2	長・石・骨	7.5YR7/4 にぶい橙	酸化	口クロナデ→カキ目	口クロナデ→カキ目			1/36	-	口縁部破片				
204	56	198	7		11R-9F6 11R-9F7	Ⅲ層	土師器	鍋	Ⅱ	(40.6)	-	-	-	D2	長・石・焼	7.5YR7/6 橙	酸化	口クロナデ→カキ目 体部タタキ目	口クロナデ→カキ目			1/36	-	口縁部破片	外面スス			
264	56	199	7		11R-8E12	Ⅲ層	土師器	鍋	Ⅱ	(40.0)	-	-	-	D2	礫・石・雲・焼	10YR7/3 にぶい黄橙	酸化 良好	口クロナデ	口クロナデ			1/36	-	口縁部破片				
194	56	200	7		11R-9H13	Ⅲ層	土師器	鍋	Ⅲ	(40.0)	-	-	-	E1	石・チ	10YR7/2 にぶい黄橙	酸化	口クロナデ→体部ケズリ	口クロナデ→カキ目			3/36	-	口縁部破片	外面スス			
163	56	201	7		11R-9G13	Ⅲ層	珠洲焼	甕		-	-	-	-	長	7.5Y6/1 灰	酸化 硬質	タタキ目	当て具痕			-	-	胴部破片					
132	56	202	7		11S-8A18	Ⅲ層	珠洲焼	掃鉢		-	(15.8)	-	-	長・骨	5GY5/1 オリーブ灰	還元 軟質	口クロナデ卸し目	口クロナデ			-	3/36	-	底部破片				
130	56	203	8		9Q-1B24	Ⅲ a 層	珠洲焼	壺R種		-	(9.0)	-	-	長・骨	N5/O 灰	瓦質	口クロナデ	口クロナデ	静止糸切り			-	7/36	-	底部破片			
129	56	204	8		9Q-2B14	Ⅲ a 層	珠洲系	掃鉢		-	(11.2)	-	-	長・褐	2.5Y7/3 浅黄	酸化	口クロナデ	口クロナデ			-	5/36	-	底部破片	内面剥落著しい			

別表5 細池寺道上遺跡 土製品観察表

図版	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量					胎土	含有物	産地	色調	焼成	手法			遺存率		備考	
		区	遺構名				グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	底径(cm)						重量(g)	外面	内面	底部	口縁部		底部
59	1	7	SD30	11R-9J8	1層	土製品	-	-	-	-		61.5	D1	砂・石		5YR7/6 橙	酸化 やや軟質	ナデ	ナデ	-	-	-	

別表6 細池寺道上遺跡 石器・石製品・搬入礫観察表

凡例 複数の遺構から出土した遺物が接合した場合、最も破片の大きい遺構を帰属遺構(太字)とした。

図版	報告No.	出土位置		層位	器種	石材	法量				被熱	破碎	備考	
		区	遺構名				グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)				重量(g)
57	1	2	SE25	11R-5B3	1層	砥石	流紋岩質凝灰岩	18.9	5.5	5.2	682.8			
57	2	2	SD17	11R-6B9	1層	砥石	軽石	5.2	3.2	2.2	14.7			
57	3	2	SD24	11R-5B12	1層	砥石	軽石	7.3	5.6	2.9	48.2			
57	4	2	SD34	11R-5B1	5層	砥石	流紋岩質凝灰岩	6.7	2.9	2.1	43.4			
57	5	2	SD63	11Q-2J18	2層	砥石	流紋岩質凝灰岩	4.8	4.8	4.1	110.0			
57	6	3	SD33	9P-4H22	2層	砥石	軽石	5.9	5.0	3.0	39.6			
57	7	4	SD72	9R-6B8	3層	砥石	軽石	6.8	5.7	2.8	62.62			
57	8	4	SD83		排土	砥石	緑色凝灰岩	14.6	5.8	4.0	345.53			
57	9	4	SD106	9R-3F13	3層	砥石	砂岩	4.4	3.0	3.0	35.17			転礫を利用した簡易砥石と思われる
57	10	4	SE59	9R-7A3	9層	搬入礫	安山岩	17.0	8.4	8.0	1115.0	○		全体被熱によりスス着
57	11	4	SE59	9R-7A3	9層	搬入礫	流紋岩	17.9	9.1	8.1	1700.0			全面スス付着
57	12	7	SE678	11R-6J18	7層	砥石	流紋岩質凝灰岩	3.8	4.1	1.3	28.4			破断面以外全面に砥痕 研磨により形状を整形
57	13	7	SE678	11R-6J18	8層	砥石	流紋岩質凝灰岩	4.5	2.0	1.3	9.7			
57	14	7	SE678	11R-6J13	7層	砥石	流紋岩質凝灰岩	9.3	6.6	3.5	207.6			
57	15	7	SD2	11R-9F21	3層	搬入礫	流紋岩質凝灰岩	20.5	15.0	12.8	2675.8			意図的に破碎される。図は接合後を示したもの 被熱
58	16	7	SD30	11S-9A6	7層	搬入礫	花崗岩	13.6	5.0	4.6	454.3			
58	17	7	SD108	11R-9E17	17層 III層	搬入礫	変成砂岩	29.2	15.0	12.2	8757.5			
58	18	7	SD108	11R-6E10 11R-6E14	1層 5層	搬入礫	閃緑岩	13.0	10.6	4.7	977.5			スス痕・破碎
58	19	7	SD267	11R-4H21	2層	砥石	軽石	6.40	3.60	3.40	21.00	○		
58	20	7	SD267	11R-4H18 11R-4I17	1層 1層	搬入礫	安山岩	14.20	13.50	4	973.00			スス全体に付着
58	21	7	SD718	11S-7D5	3層	砥石	流紋岩質凝灰岩	4.9	3.1	1.7	29.6			
58	22	7	SD775	11S-3G13	1層	砥石	頁岩	6.1	3.5	0.4	13.3			左側面に擦痕 硯の転用品
58	23	7	SK56	11R-8I20	1層	石製品	軽石	14.9	10.8	9.1	805.1	○		敲打・研磨により整形 下部打撃により破碎
58	24	7	SK92 SD108	11R-9F14 11R-8E9	1層 5層	搬入礫	安山岩	13.8	8.2	6.7	817.0	○		全面(破断面)含む被熱痕あり
59	25	7	SK141	11R-9F19	1層	搬入礫	安山岩	10.0	6.8	6.6	663.3	○		打割面が強く被熱
59	26	7	SK145	11R-9F11 11R-9F6	1層 1層	砥石	軽石	14.9	10.9	7.9	275.0	○		
59	27	7	SK145	11R-9F11	1層	搬入礫	流紋岩質凝灰岩	24.6	21.7	15.7	5806.3			打割→被熱 露頭採取礫
59	28	7	SK575	11R-7J21	4層	搬入礫	軽石	13.50	7.60	7.6	267.6	○		
59	29	7	SK601	11S-7B23	3層	搬入礫	軽石	7.8	7.2	5.0	139.3			
59	30	7	SK601	11S-7B23	3層	砥石	軽石	6.80	6.20	2.80	60.8			
59	31	2		11R-7C13	I a層	砥石	流紋岩	3.5	2.4	0.7	7.1			
59	32	2		11R-5B1	III a層	砥石	流紋岩質凝灰岩	9.9	8.0	6.5	567.9			
59	33	7		11R-9F17	III層	砥石	流紋岩質凝灰岩	6.9	3.8	2.9	85.9			
59	34	7		11R-9F22	III層	砥石	流紋岩質凝灰岩	5.2	3.0	1.4	26.3			
59	35	7		11R-6G18	III層	砥石	流紋岩質凝灰岩	7.3	5.0	1.7	72.6			
59	36	8		9Q-2C12	III a層	五輪塔	緑色凝灰岩	15.6	11.8	9.3	1614.9			

別表7 細池寺道上遺跡 金属製品・銭貨・鉄滓観察表

図版	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量				
		区	遺構名				グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
59	1	6	SD16	9R-1G17	1層	鉄製品	不明鋳造品	7.8	4.2	0.7	31.2
59	2	2	SE25	11R-5B8	10層	鉄製品	釘	3.1	1.1	0.6	3.4
59	3	7		11R-9E5	III層	鉄製品	釘	1.9	0.6	0.7	1.3
59	4	7		11R-8F10	II層	鉄製品	釘	3.4	1.2	0.8	5.4
59	5	7	P692	11R-5I4	2層	鉄製品	刀子	3.2	1.2	0.5	2.4
59	6	7		11R-8F4	III層	鉄製品	鉄鎌	5.2	3.8	0.5	8.5
59	7	7	SD775	11S-2G21	1層	鉄製品	釘	5.9	30.0	2.0	16.2
59	8	7	SD47	11S-8A11	2層	銭貨	元豊通宝	2.2	2.2	0.1	3.46
写.71	9	7	SD133	11R-6H16	2層		鉄滓				61.3
写.71	10	7		11R-10F16	III層		鉄滓				4.64
写.71	11	7		11R-10F16	III層		鉄滓				4.12
写.71	12	7		11R-10F16	III層		鉄滓				4.5

調査区	遺構名	種別 計測法	食膳具												貯蔵具												合計													
			須恵器		杯蓋		土師器 無台座		黒色土器 無台座		有台座		施軸陶器		甕		長筒甕		須恵器 その他		鉢		その他		長甕				小甕		土師器		銅		鉄		施軸陶器 長頸瓶			
			数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)			数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)
7区	SK116	口残値	0.00%		0.86	90.52%																														0.95	100.00%			
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		0.00%																												2.00	100.00%				
		口残値	0.00%			3.44	100.00%																													3.44	100.00%			
		底部数(点)	0.00%		0.00%		81	86.17%																												94.00	100.00%			
7区	SK140	総点数(点)	0.00%		0.00%		314.0	67.81%																												463.00	100.00%			
		総重量(g)	0.00%		0.00%		0.00%																														39.00	100.00%		
		口残値	0.00%		0.00%		0.06	100.00%																													0.06	100.00%		
		底部数(点)	0.00%		0.00%		10	34.48%																													29.00	100.00%		
7区	SK141	総重量(g)	0.00%		0.00%		44.5	12.36%																													360.00	100.00%		
		口残値	0.00%		0.00%		0.11	100.00%																													0.11	100.00%		
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		1	100.00%																													1.00	100.00%		
		底部数(点)	0.00%		0.00%		0.72	100.00%																													0.72	100.00%		
7区	SK145	総重量(g)	0.00%		0.00%		44.5	8.33%																													534.00	100.00%		
		口残値	0.00%		0.00%		12	41.37%																														29.00	100.00%	
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		12	41.37%																														29.00	100.00%	
		底部数(点)	0.00%		0.00%		44.5	8.33%																														534.00	100.00%	
7区	SK202	総重量(g)	0.00%		0.00%		5	71.42%																													7.00	100.00%		
		口残値	0.00%		0.00%		5.0	12.82%																														7.00	100.00%	
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		5	71.42%																														7.00	100.00%	
		底部数(点)	0.00%		0.00%		5.0	12.82%																															7.00	100.00%
7区	SK442	総重量(g)	0.00%		0.00%		4.0	61.53%																														6.50	100.00%	
		口残値	0.00%		0.00%		0.03	27.27%																														0.11	100.00%	
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		1	50.00%																														2.00	100.00%	
		底部数(点)	0.00%		0.00%		6	66.66%																														9.00	100.00%	
7区	SK575	総重量(g)	0.00%		0.00%		4.0	61.53%																														6.50	100.00%	
		口残値	0.00%		0.00%		0.00%	0.17	73.91%																													0.23	100.00%	
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		0.00%		1	50.00%																													2.00	100.00%
		底部数(点)	0.00%		0.00%		47	77.04%		6	9.83%																											61.00	100.00%	
7区	SK577	総重量(g)	0.00%		0.00%		271.3	42.77%		36.3	5.72%																											634.20	100.00%	
		口残値	0.00%		0.00%		1.58	77.07%		0.22	10.73%																											2.05	100.00%	
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%																											2.00	100.00%	
		底部数(点)	0.00%		0.00%		1.67	40.83%		1.42	34.71%																												4.09	100.00%
7区	P70	総重量(g)	0.00%		0.00%		79	71.81%		11	10.00%		1	0.90%		4	3.63%		2	1.81%																		110.00	100.00%	
		口残値	0.00%		0.00%		1021.3	47.14%		101.2	4.67%			4.4	0.20%		625.4	28.86%		369.9	17.07%																		2166.40	100.00%
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		1	25.00%																															4.00	100.00%
		底部数(点)	0.00%		0.00%		1.0	0.58%																															171.70	100.00%
7区	P581	総重量(g)	0.00%		0.00%		15.6	100.00%																														15.60	100.00%	
		口残値	0.00%		0.00%		0.08	42.10%																															0.19	100.00%
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		1	50.00%																															2.00	100.00%
		底部数(点)	0.00%		0.00%		4	50.00%		2	25.00%																												8.00	100.00%
7区	P584	総重量(g)	0.00%		0.00%		14.1	18.40%		3.9	5.09%																											76.60	100.00%	
		口残値	0.00%		0.00%		0.14	63.63%																															0.22	100.00%
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		1	100.00%																															1.00	100.00%
		底部数(点)	0.00%		0.00%		0.25	100.00%																															0.25	100.00%
7区	SX17	総重量(g)	0.00%		0.00%		17	30.35%		1	1.78%																											56.00	100.00%	
		口残値	0.00%		0.00%		35.0	9.40%		1.5	0.40%																												372.00	100.00%
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		3	21.42%																															14.00	100.00%
		底部数(点)	0.00%		0.00%		7.5	5.81%																															129.00	100.00%
1区																																								

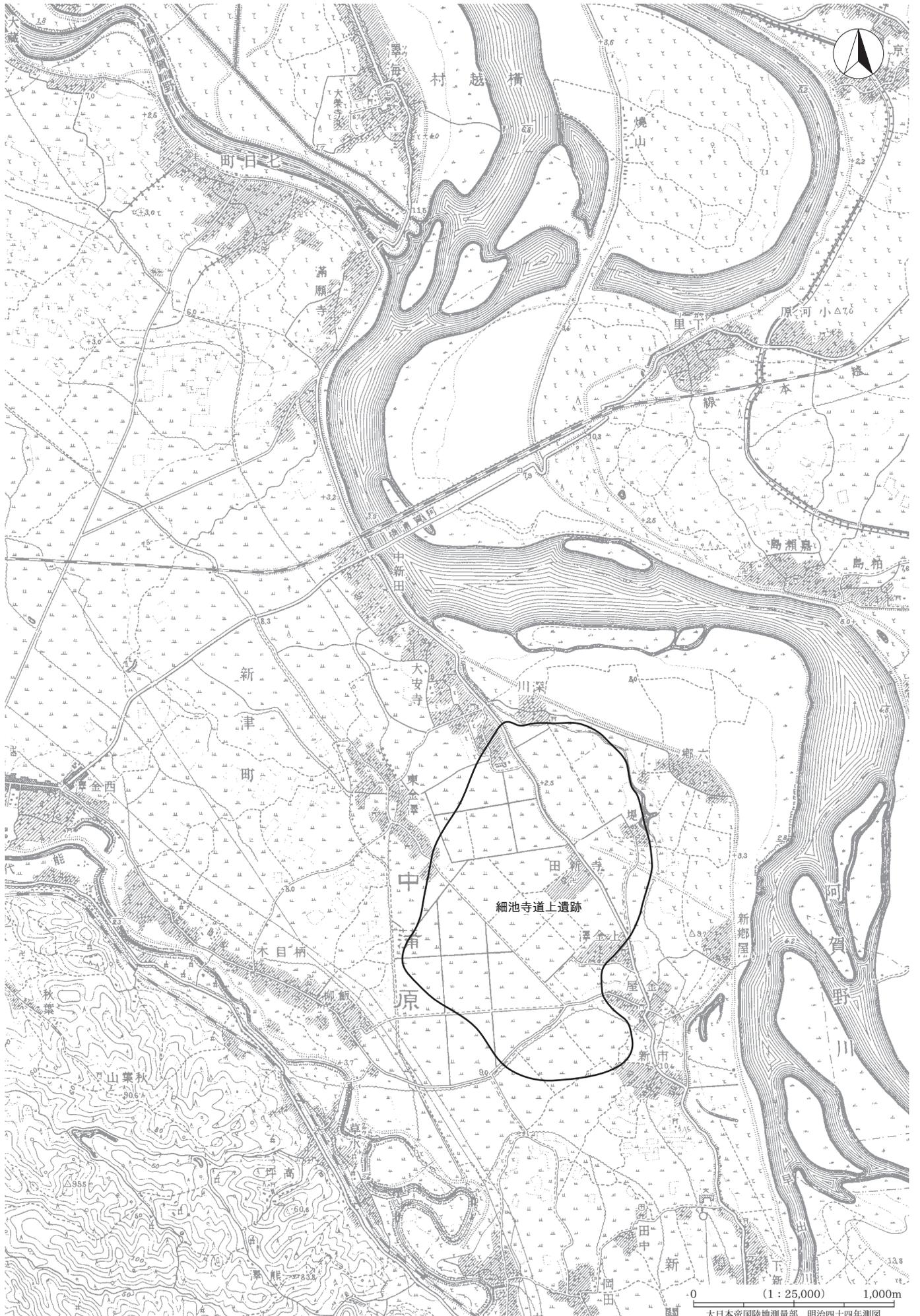
別表9 細池寺道上遺跡遺構出土中世土器器種構成率

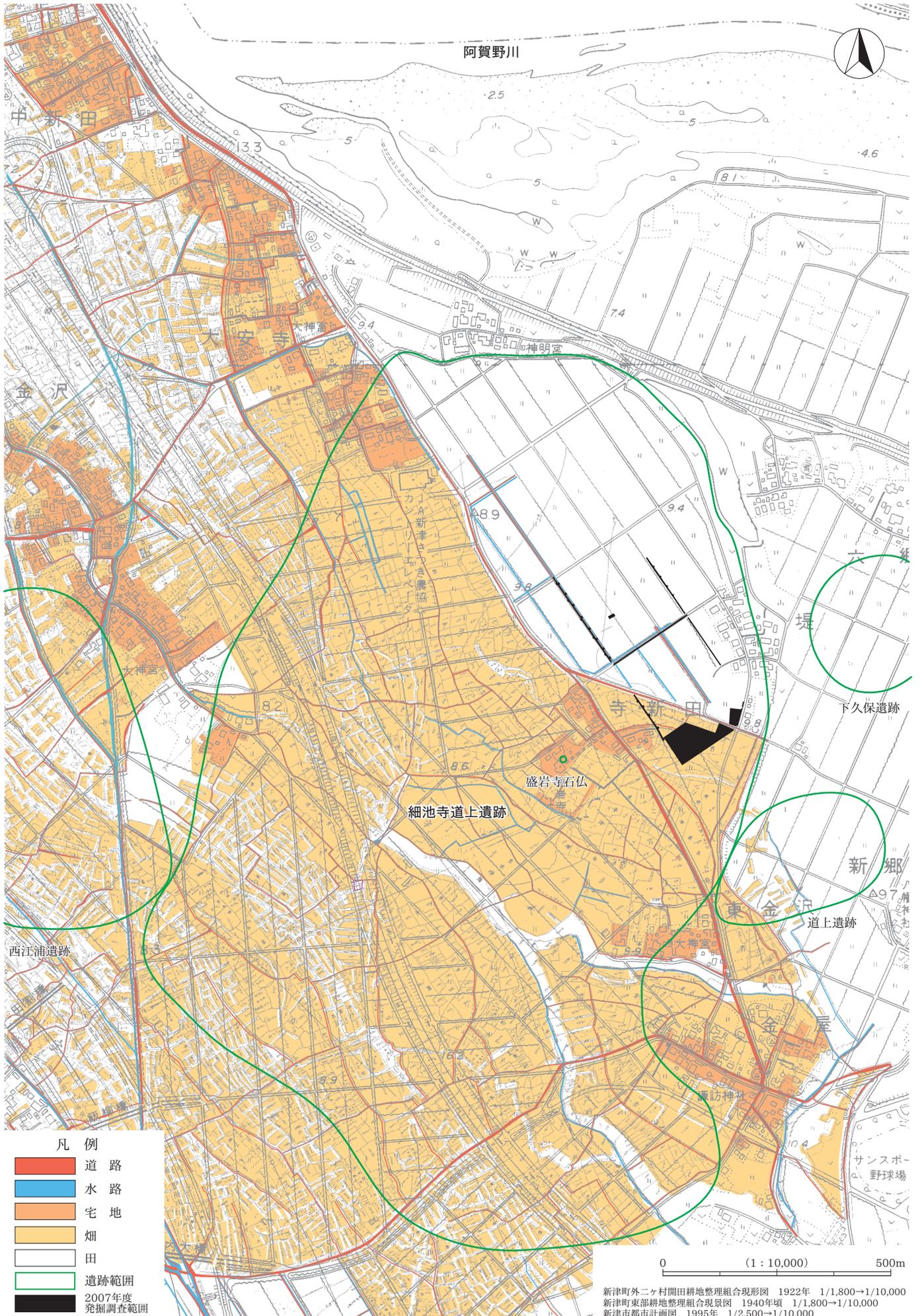
凡例 1 中世の遺構から出土した土器・陶磁器の構成比率を示した表である。
 2 土器の計測法は口縁部残存率法(宇野 1992・春日 1994)とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は7/36を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

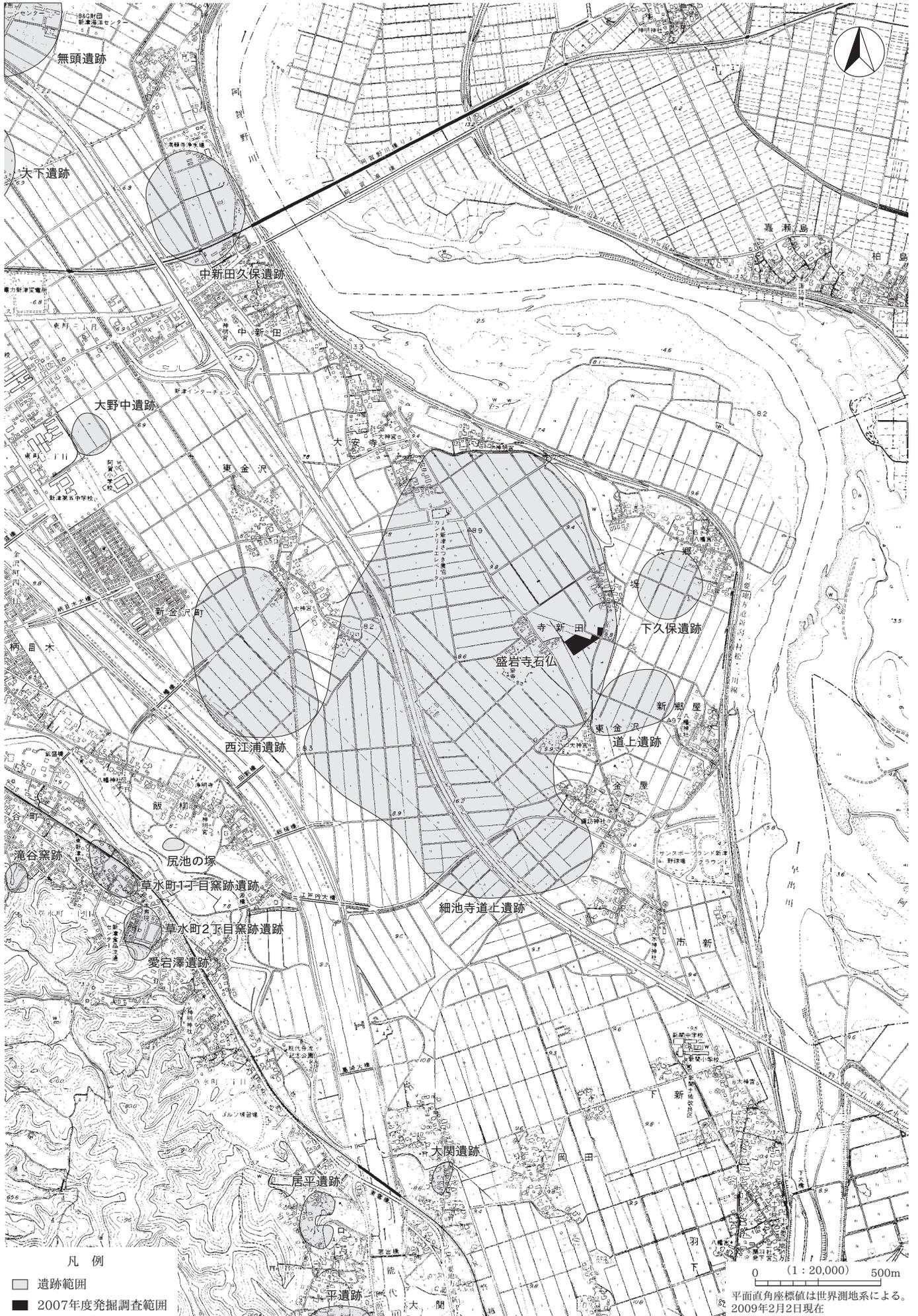
調査区	遺構名	種別	器系中世陶器		瀬戸		青磁・白磁		土師器		緑釉・山茶碗など		合計		
			計測法	口縁数(点)	底残値	口縁数(点)	底残値	口縁数(点)	底残値	口縁数(点)	底残値	口縁数(点)	底残値	口縁数(点)	底残値
2区	SD9	口縁数(点)													
		底残値	0.08	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08	100.00%
		底部数(点)	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総点数(点)	1	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.00	100.00%
		総重量(g)	27.5	49.90%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	55.10	100.00%
3区	SD4	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)													
		総点数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	1	50.00%	1	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.00	100.00%
		総重量(g)	0.00%	0.00%	0.00%	5.0	5.12%	92.5	94.87%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	97.50	100.00%
3区	SD44	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)													
		総点数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	1	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.00	100.00%
		総重量(g)	0.00%	0.00%	0.00%	53.0	37.45%	88.5	62.54%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	141.50	100.00%
3区	SD84	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)													
		総点数(点)	0.00%	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総重量(g)	0.00%	73.5	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	73.50	100.00%
4区	SD5	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)													
		総点数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総重量(g)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	5.60	100.00%	0.00%	0.00%	5.60	100.00%
4区	SD11	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.11	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.11	100.00%
		総点数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総重量(g)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	37.0	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	37.00	100.00%
4区	SD22	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03	100.00%	0.00%	0.03	100.00%
		総点数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	100.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総重量(g)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.5	100.00%	0.00%	2.50	100.00%
4区	SD36	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)	0.00%	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総点数(点)	0.00%	89.7	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	89.70	100.00%
		総重量(g)	0.00%			0.00%	0.00%								
4区	SD74	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)	0.00%	1	50.00%	1	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.00	100.00%
		総点数(点)	0.00%	142.8	80.26%	35.1	19.73%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	177.90	100.00%
		総重量(g)	0.00%			0.00%	0.00%								
4区	SD83	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)	0.00%	3	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.00	100.00%
		総点数(点)	0.00%	221.0	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	221.00	100.00%
		総重量(g)	0.00%			0.00%	0.00%								
4区	SD88	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総点数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	42.5	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	42.50	100.00%
		総重量(g)	0.00%			0.00%	0.00%								
4区	SD91	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総点数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	39.0	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	39.00	100.00%
		総重量(g)	0.00%												
4区	SK7	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.14	100.00%	0.00%	0.14	100.00%
		総点数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	100.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総重量(g)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	29.3	100.00%	0.00%	29.30	100.00%
4区	P68	口縁数(点)													
		底残値													
		底部数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総点数(点)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%
		総重量(g)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1011.9	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1,011.90	100.00%

調査区	遺構名	種別 計測法	瓷器系中世陶器		珠洲・珠洲系				瀬戸		青磁・白磁		土師器		緑釉・山茶碗など		合計					
			葉		垂 T		垂 R		寸口鉢・片口鉢		不明		皿		無台皿		皿					
			数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)	数値合計	割合(%)		
7区	SD30	口残値	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.06	100.00%	0.06	100.00%		
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		1	100.00%	1.00	100.00%		
		底残値	0.00%		0.00%		0.00%	0.17	37.77%	0.11	24.44%	0.00%		0.00%	0.17	37.77%	0.00%	0.45	100.00%	3.00	100.00%	
		底部数(点)	0.00%		0.00%		0.00%	1	33.33%	1	33.33%	0.00%		0.00%	1	33.33%	0.00%	3.00	100.00%	4.00	100.00%	
		総点数(点)	0.00%		0.00%		0.00%	1	25.00%	1	25.00%	0.00%		0.00%	1	25.00%	1	25.00%	4.00	100.00%	4.00	100.00%
7区	SD47	口残値	0.00%		0.00%		0.00%		253.2	53.57%	210.0	44.51%	0.00%		0.00%	6.0	1.27%	2.5	0.52%	471.70	100.00%	
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.06	100.00%	0.06	100.00%		
		底残値	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		2	100.00%	2.00	100.00%		
		底部数(点)	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%	1	20.00%	0.00%		0.00%		0.00%		2	40.00%	5.00	100.00%	
		総重量(g)	0.00%	110.6	88.05%	0.00%	0.00%	9.0	7.16%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	6.0	4.77%	125.60	100.00%	125.60	100.00%	
7区	SD108	口残値	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%	0.03	100.00%	0.00%	0.03	100.00%		
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%	1	100.00%	0.00%	1.00	100.00%		
		底残値	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%							
		底部数(点)	0.00%	2	6.89%	0.00%	0.00%	13	44.82%	0.00%	0.00%	0.00%	14	48.27%	0.00%	0.00%	0.00%	29.00	100.00%	29.00	100.00%	
		総重量(g)	0.00%	131.3	16.44%	0.00%	0.00%	638.8	79.98%	0.00%	0.00%	0.00%	28.5	3.56%	0.00%	0.00%	0.00%	798.60	100.00%	798.60	100.00%	
7区	SD133	口残値																				
		口縁数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)	0.00%	4	66.66%	0.00%	1	16.66%	1	16.66%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	6.00	100.00%	6.00	100.00%	
		総重量(g)	0.00%	453.5	87.46%	0.00%	32.5	6.26%	32.5	6.26%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	518.50	100.00%	518.50	100.00%	
7区	SD719	口残値																				
		口縁数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)	0.00%		0.00%	0.00%	0.00%	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.00	100.00%	1.00	100.00%	
		総重量(g)	0.00%		0.00%	0.00%	0.00%	87.0	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	87.00	100.00%	87.00	100.00%	
7区	SE677	口残値	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%	0.06	100.00%	0.00%		0.00%		0.00%	0.06	100.00%		
		口縁数(点)	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%	1.00	100.00%	0.00%		0.00%		0.00%	1.00	100.00%		
		底残値																				
		底部数(点)	0.00%	1	50.00%	0.00%	0.00%	1	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.00	100.00%	2.00	100.00%	
		総重量(g)	0.00%	198.5	76.86%	0.00%	0.00%	56.0	21.68%	0.00%	0.00%	3.75	1.45%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	258.25	100.00%	258.25	100.00%	
7区	SE704	口残値																				
		口縁数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)	0.00%	3	50.00%	0.00%	0.00%	3	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	6.00	100.00%	6.00	100.00%	
		総重量(g)	0.00%	253.5	51.05%	0.00%	0.00%	243.0	48.94%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	496.50	100.00%	496.50	100.00%	
7区	SK577	口残値																				
		口縁数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)	0.00%		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	100.00%	1.00	100.00%		
		総重量(g)	1.23%	20	24.69%	2	2.48%	4	4.93%	31	38.27%	1	1.23%	1.00	1.23%	2	2.46%	15	18.51%	4	4.93%	81
総重量(g)	28	0.28%	1786	18.56%	74	0.77%	344	3.57%	7212	74.96%	89	0.91%	9.35	0.09%	32	0.33%	35	0.35%	13	0.13%	9621	100.00%

圖 版







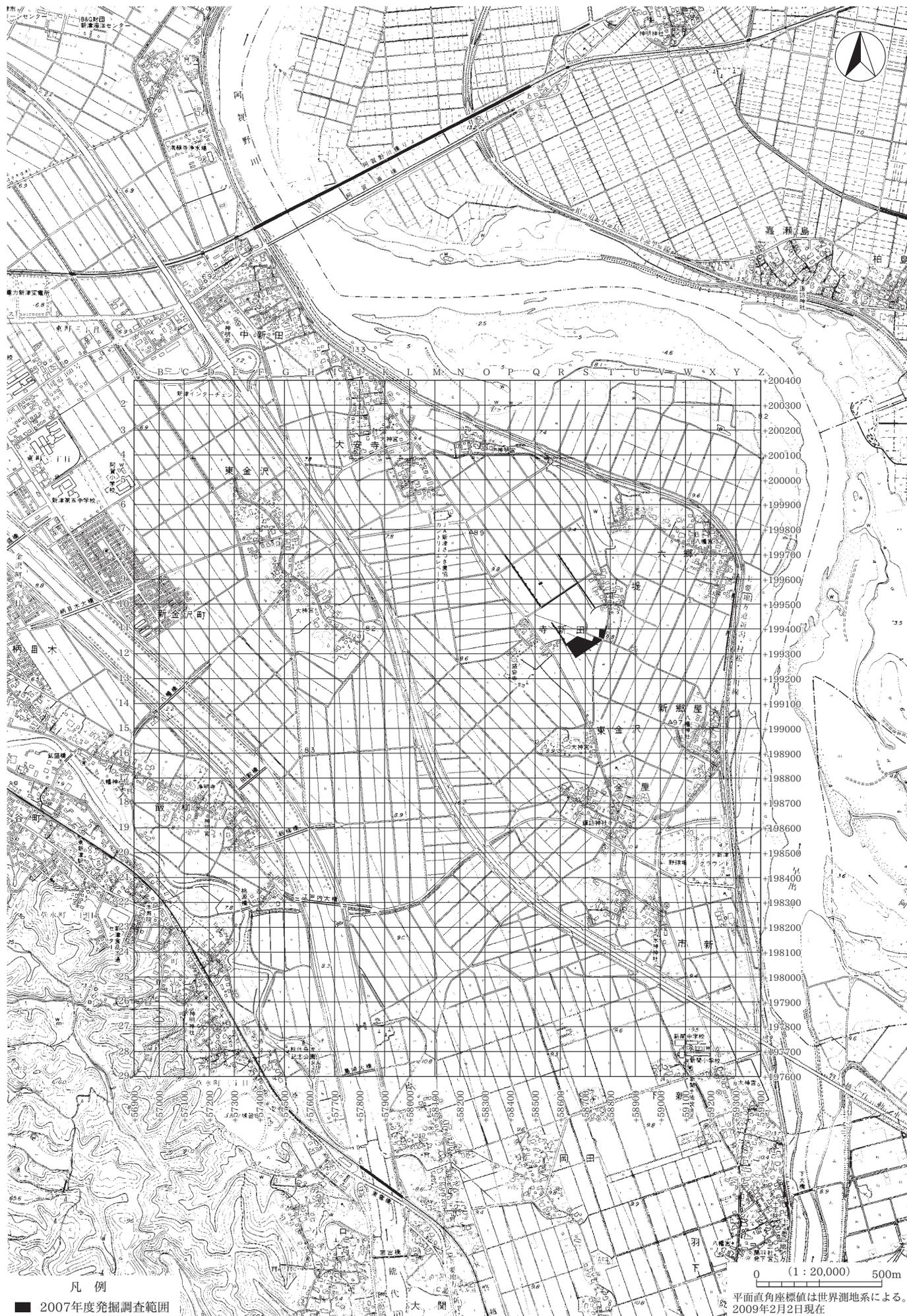


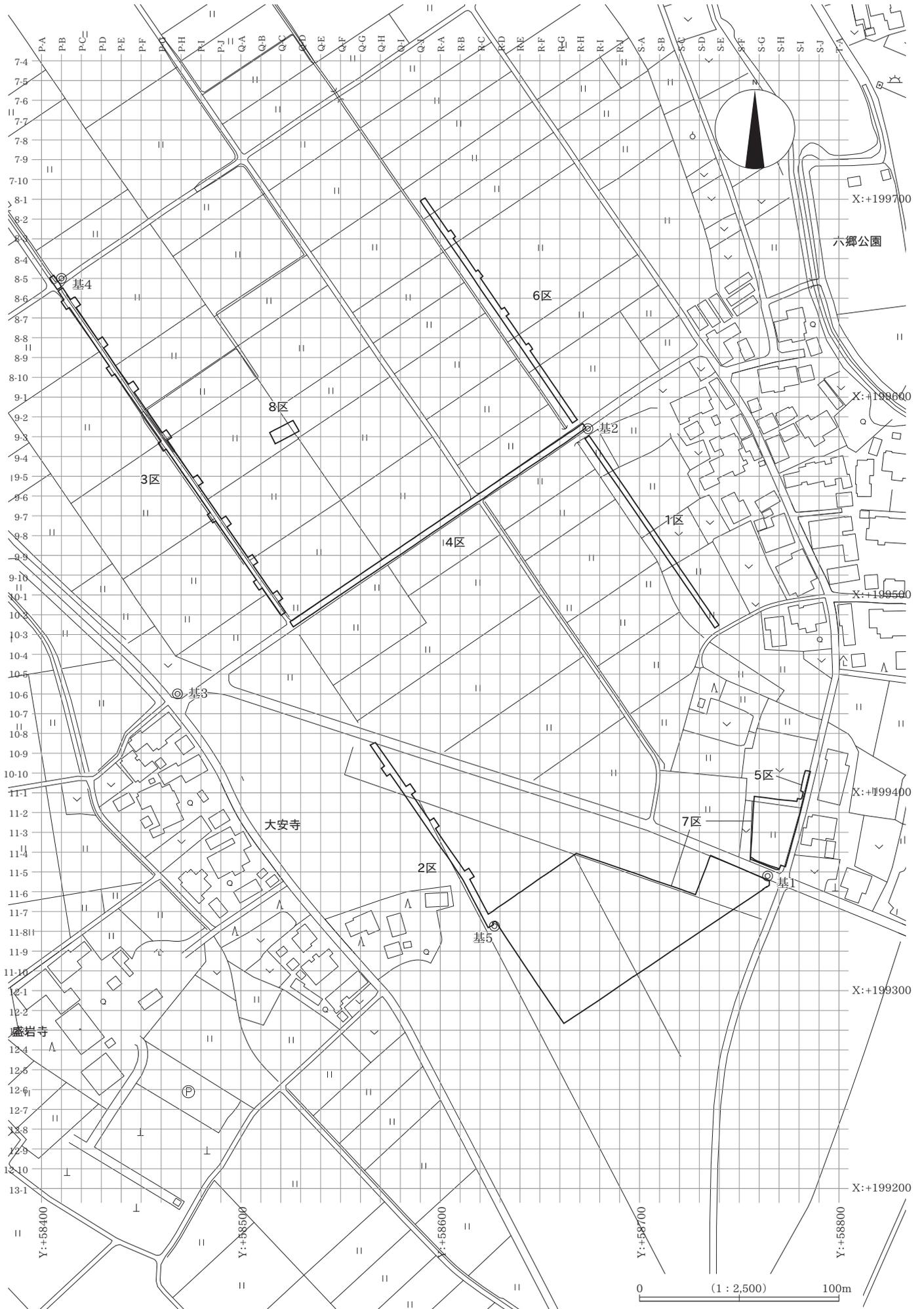
凡例

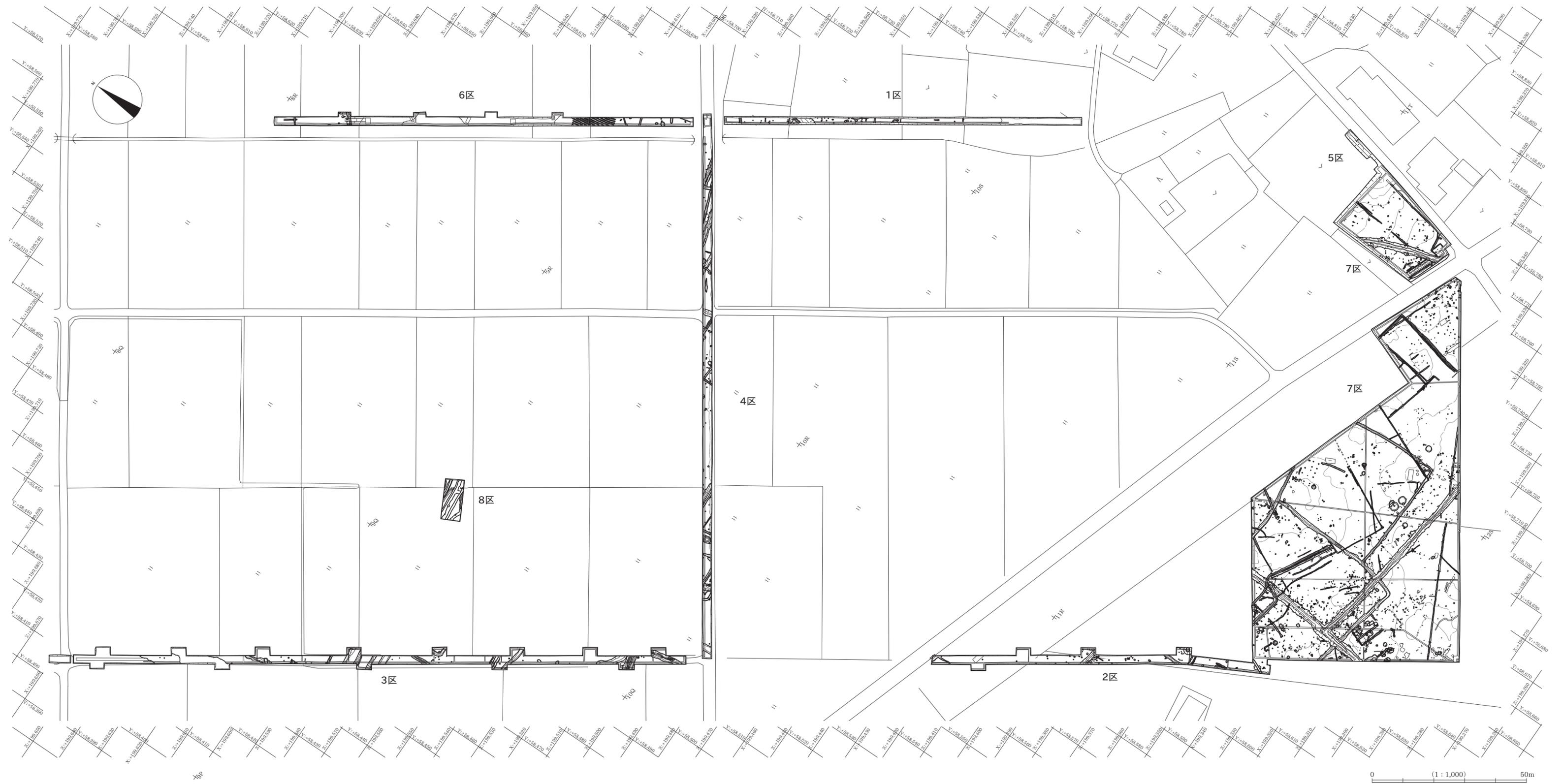
- 包含層出土の遺物、遺構が検出されたトレンチ
- 包含層出土の遺物、遺構が検出されなかったトレンチ

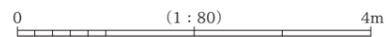
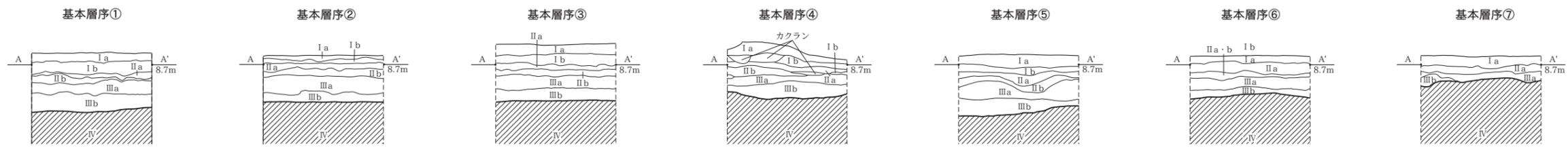
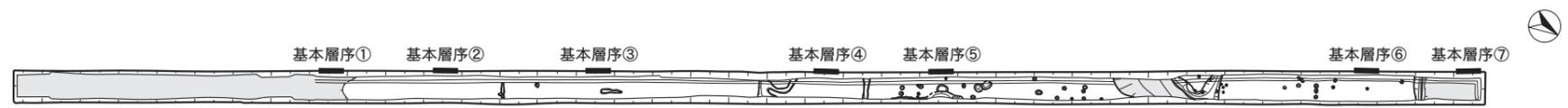
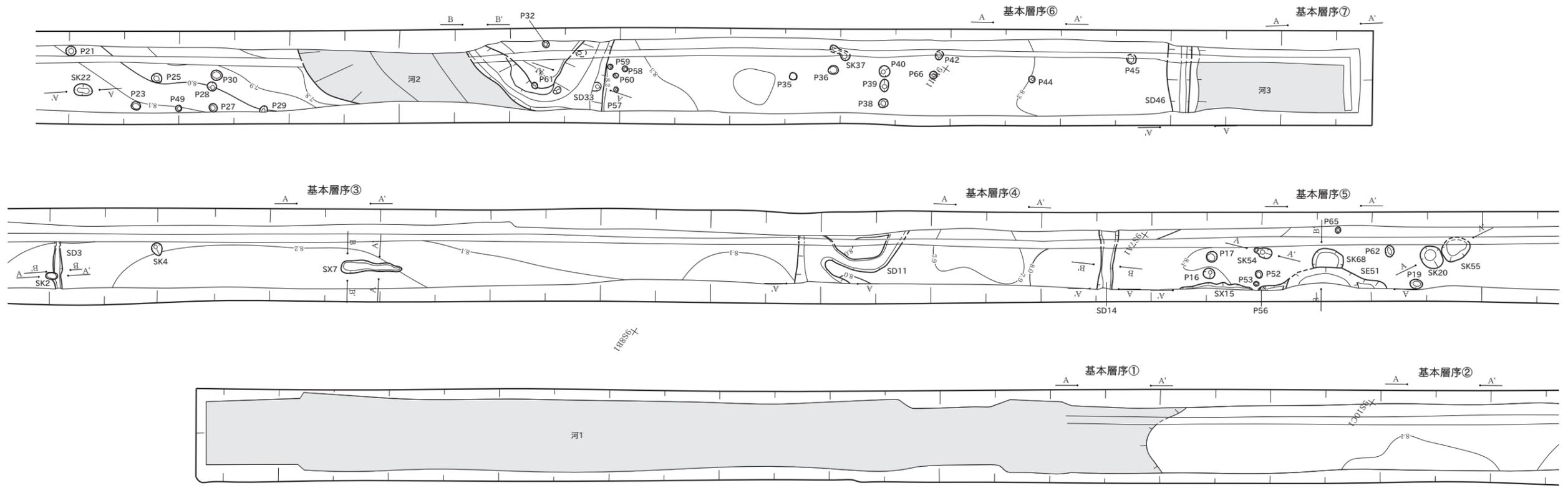
0 (1 : 12,500) 500m

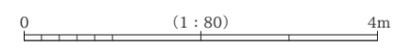
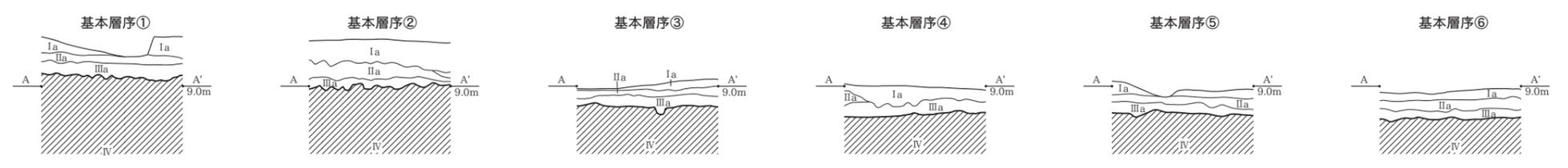
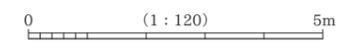
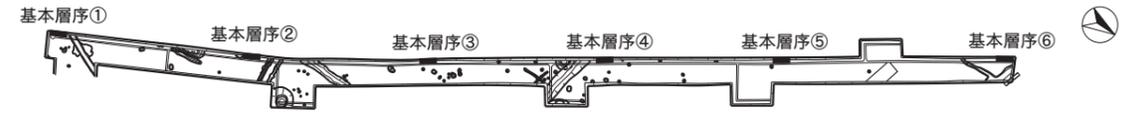
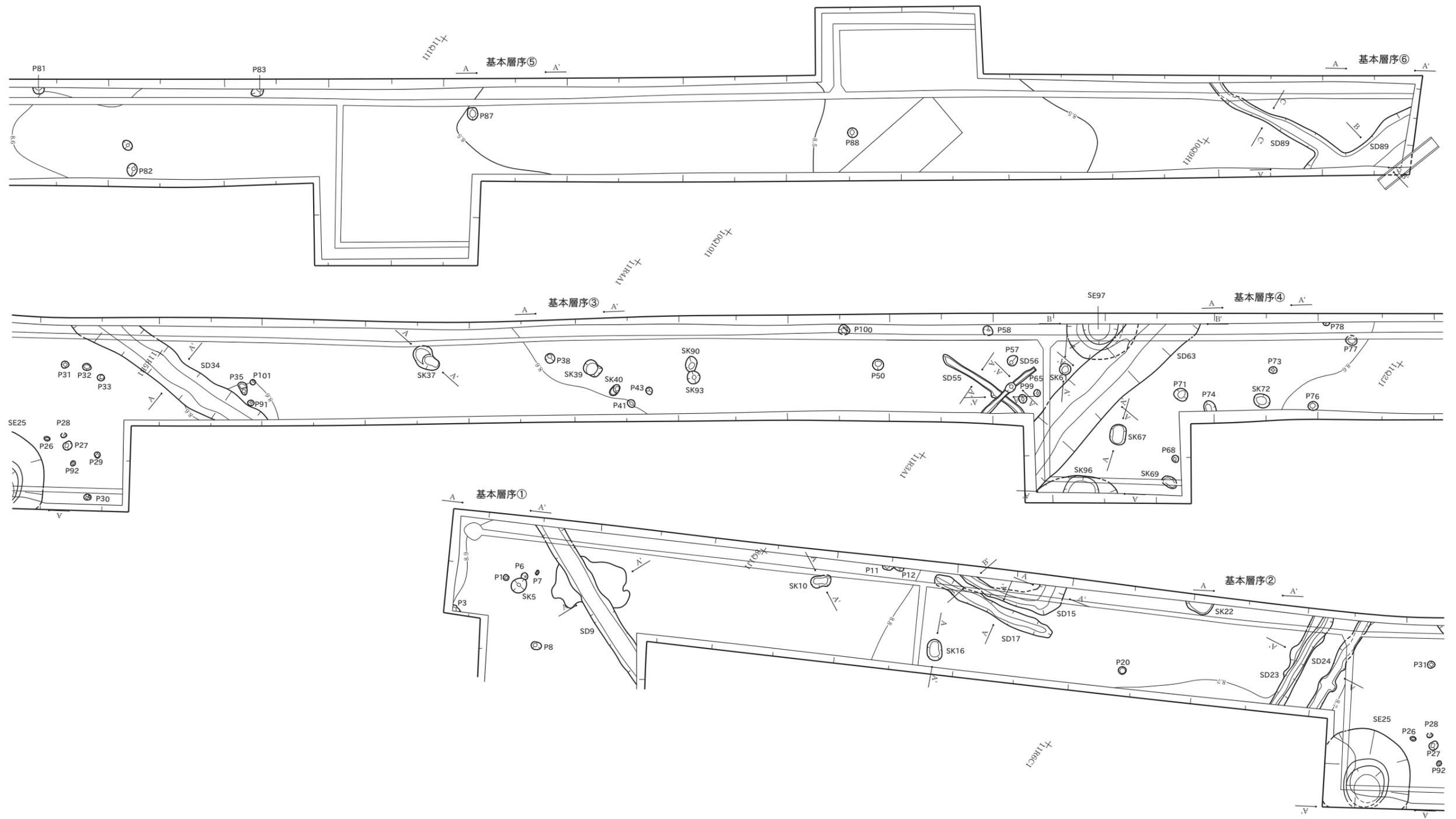
両新地区ほ場整備に伴う試掘調査データをもとに作成

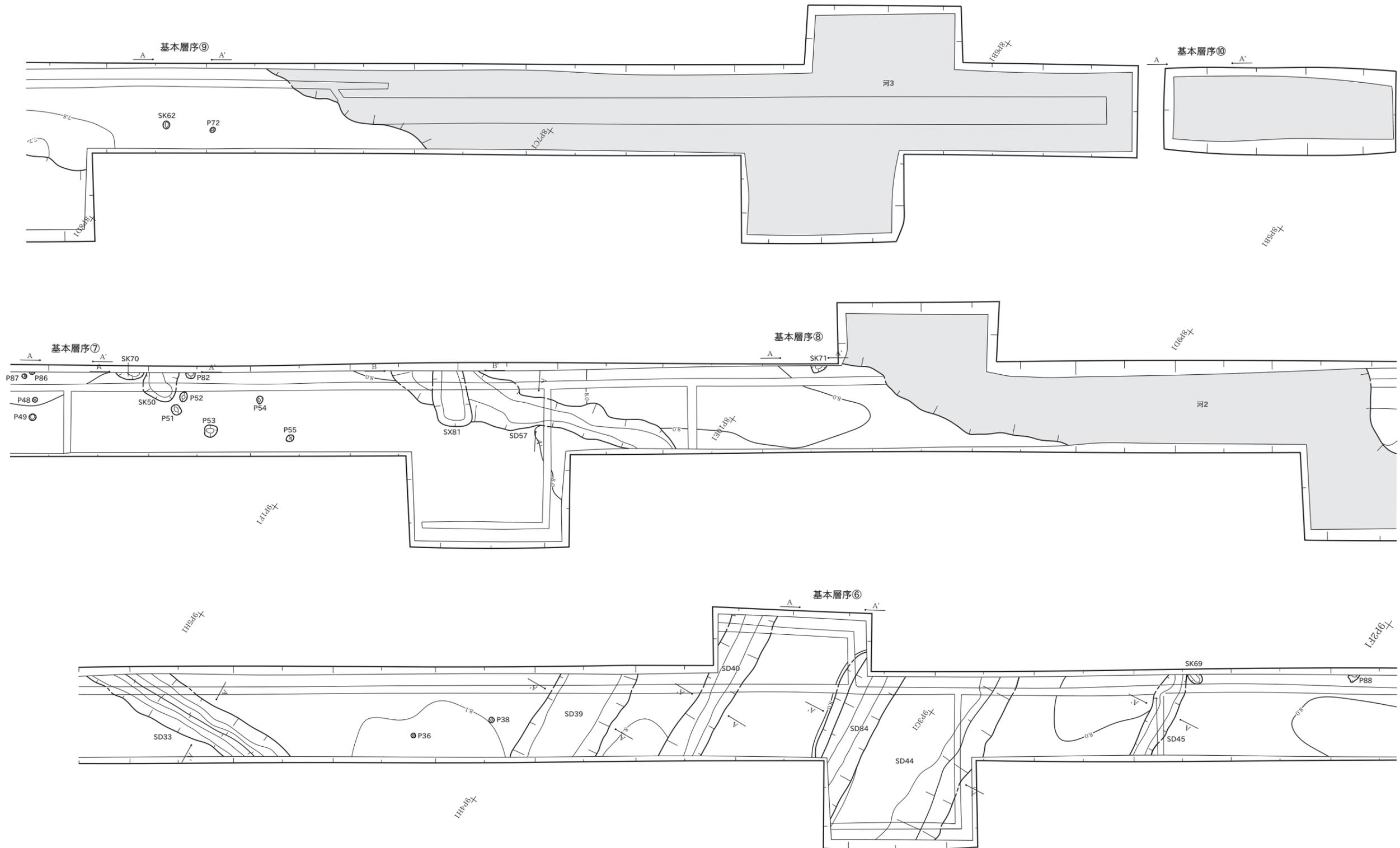


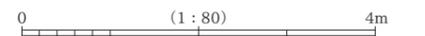
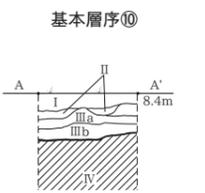
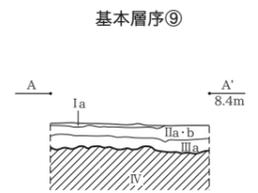
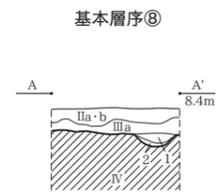
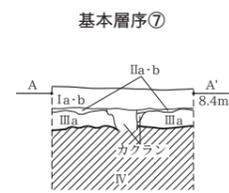
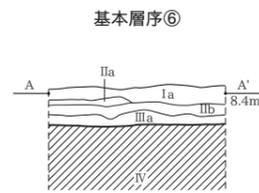
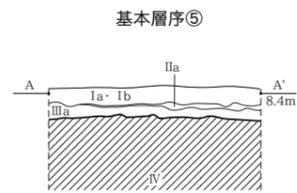
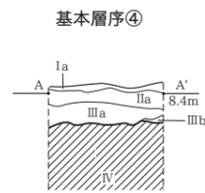
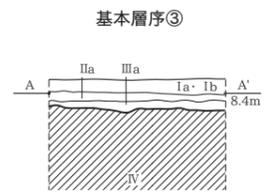
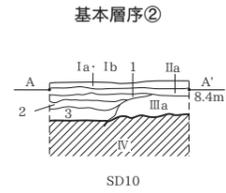
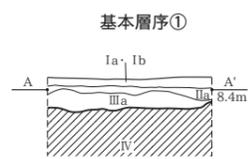
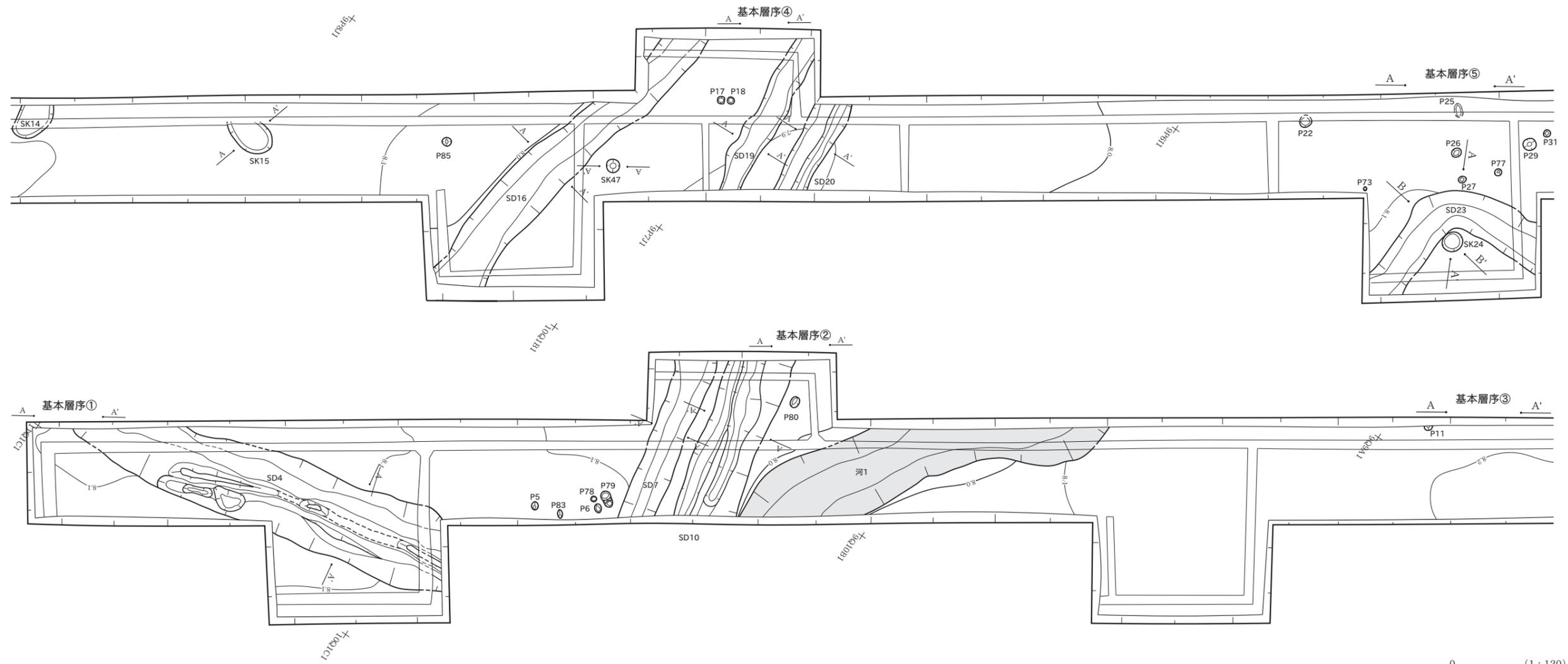


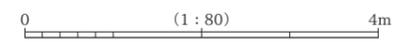
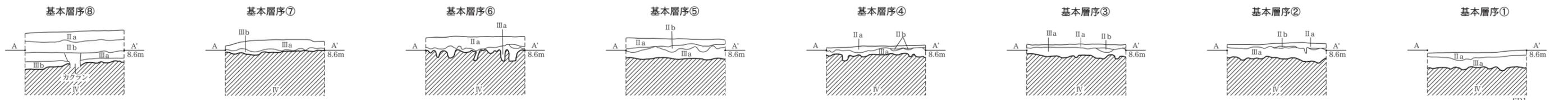
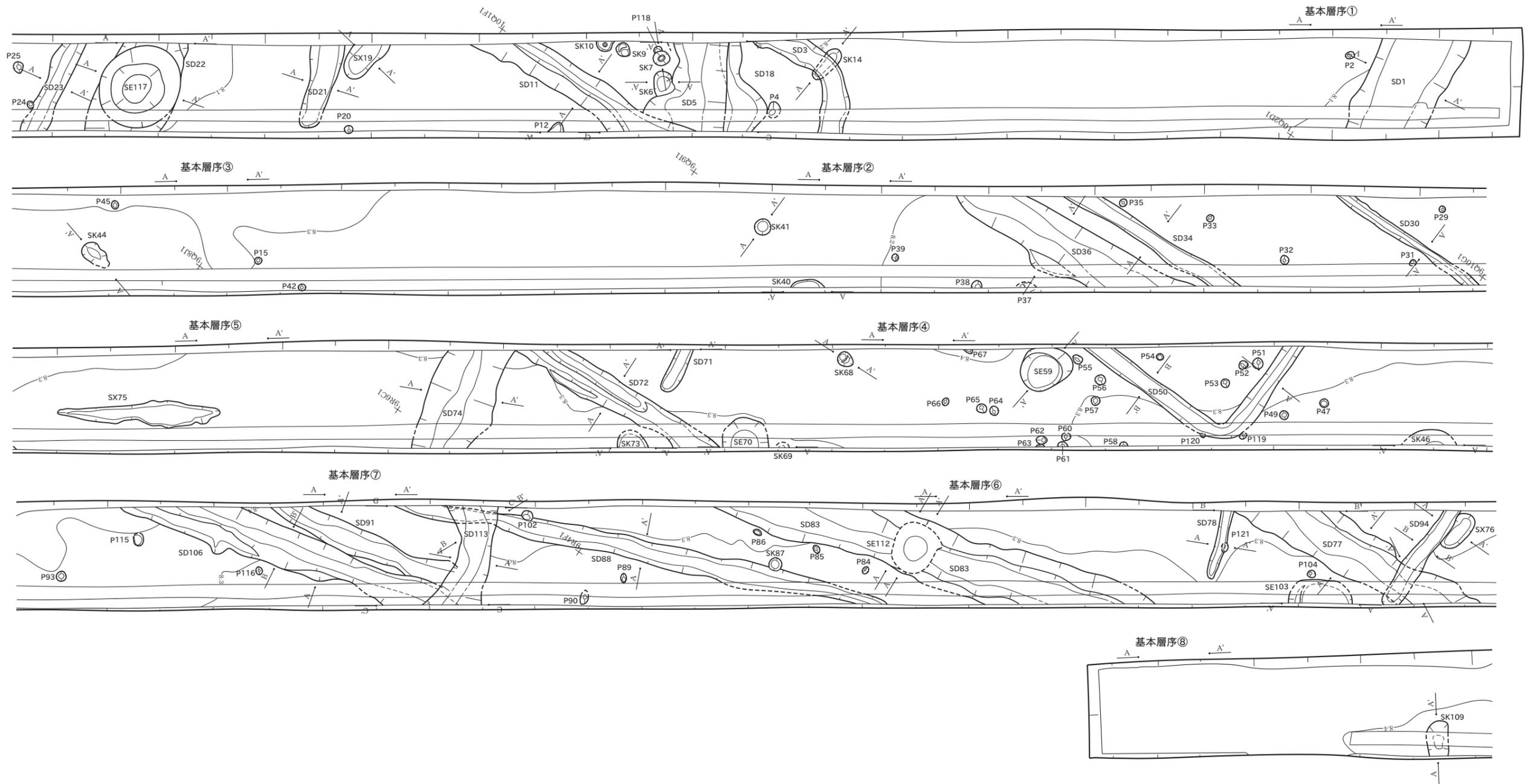


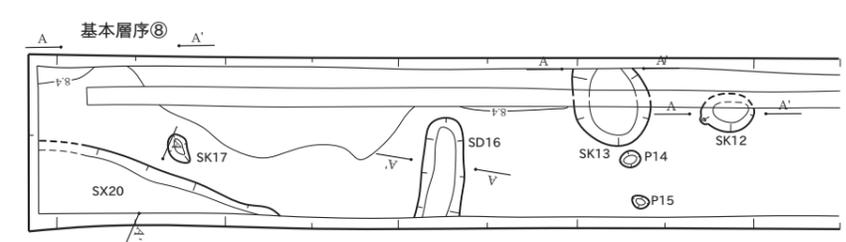
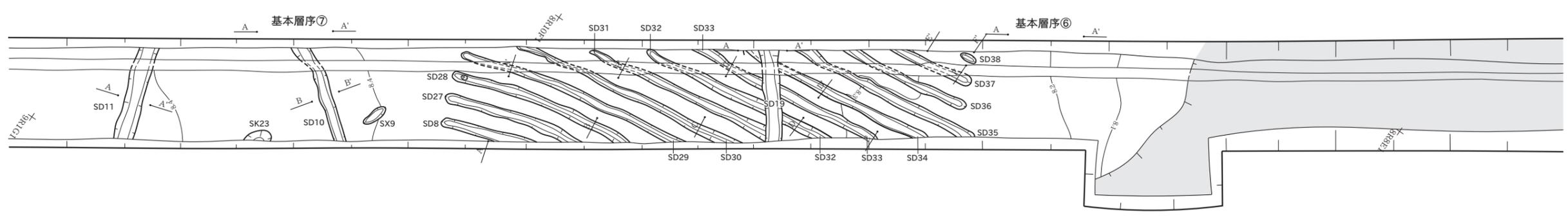
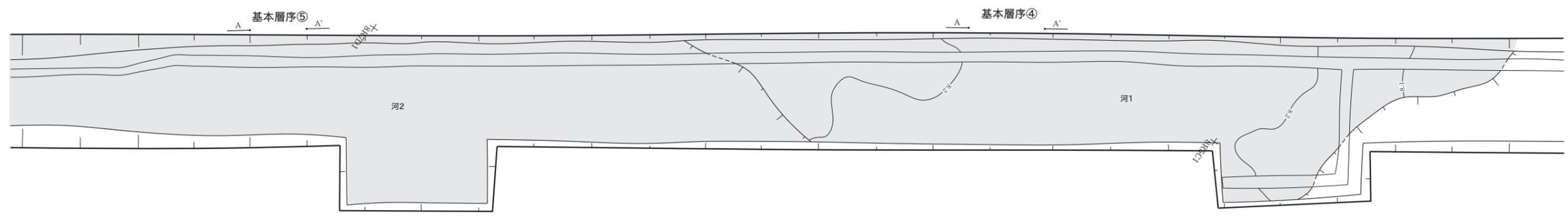
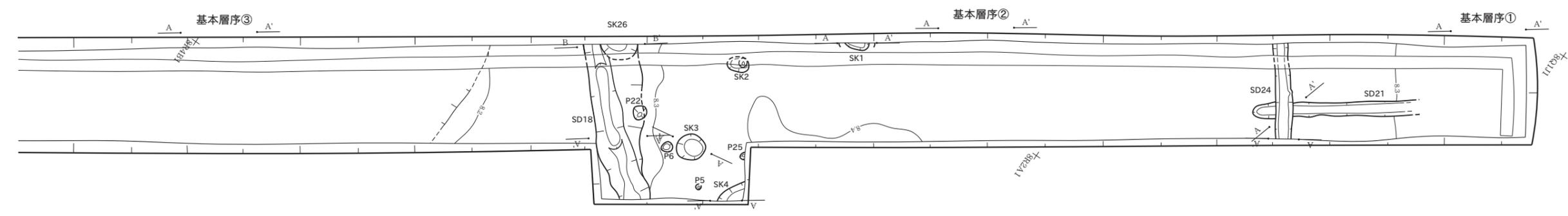




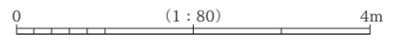
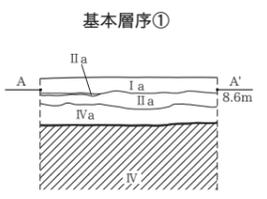
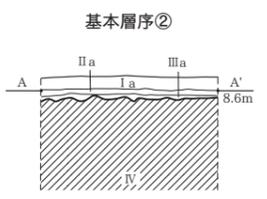
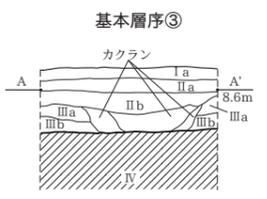
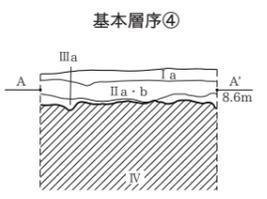
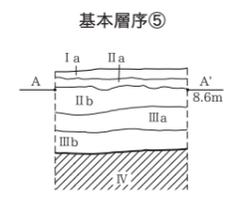
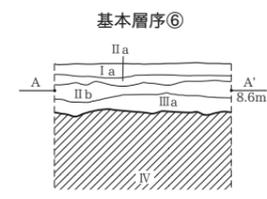
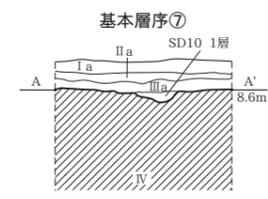
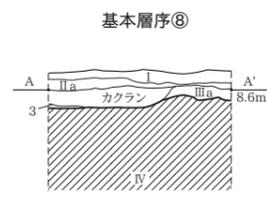


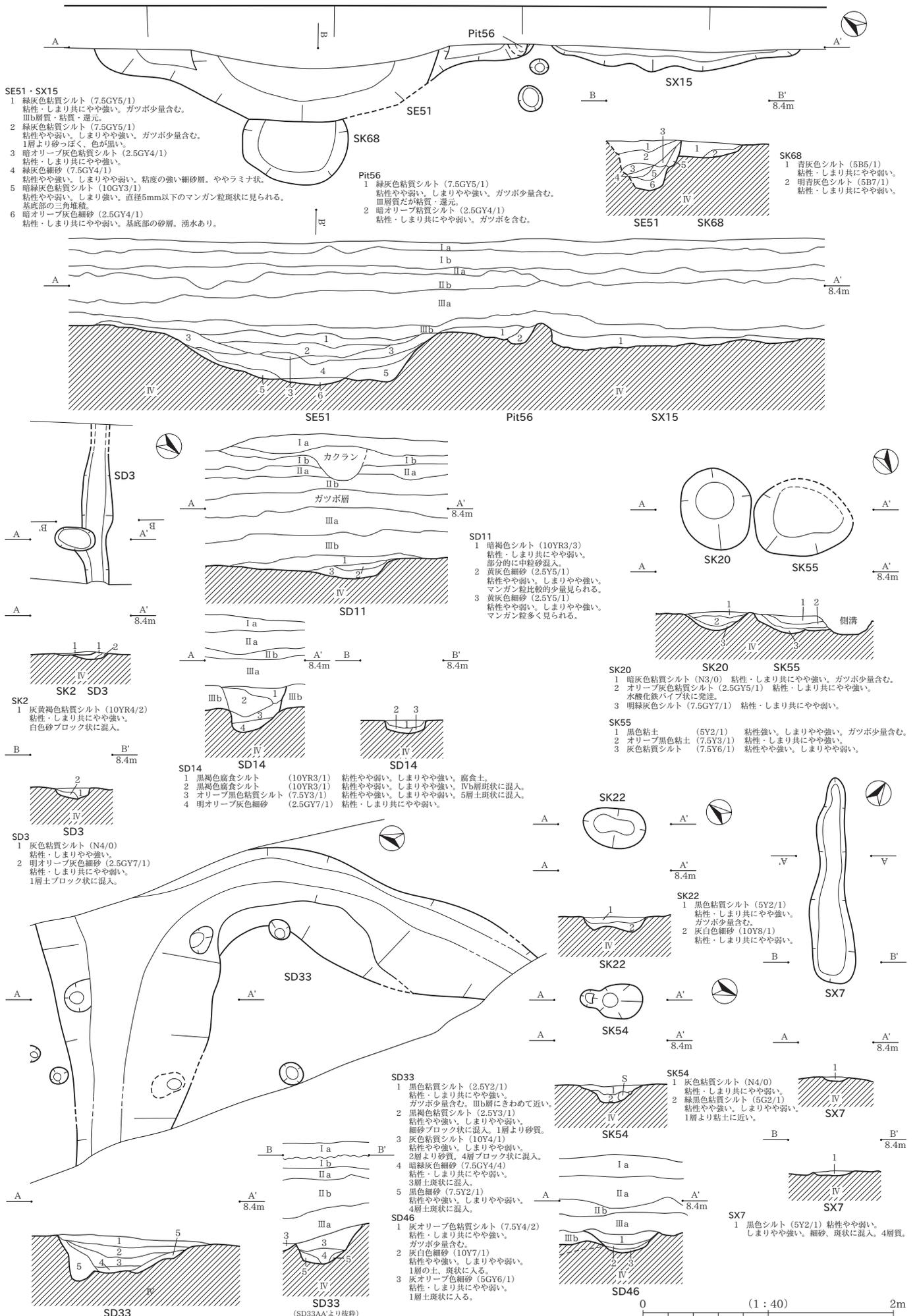


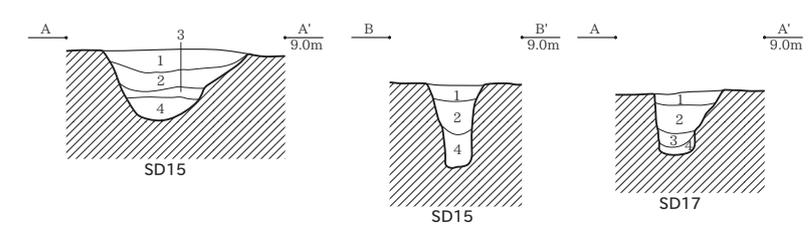
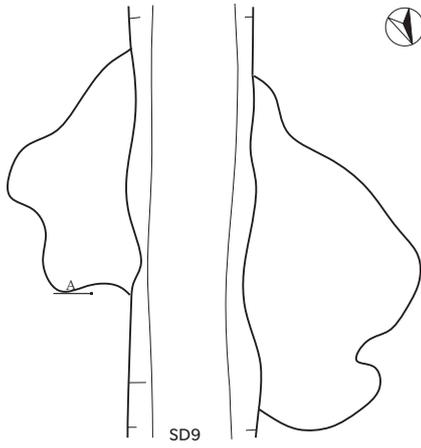




6区

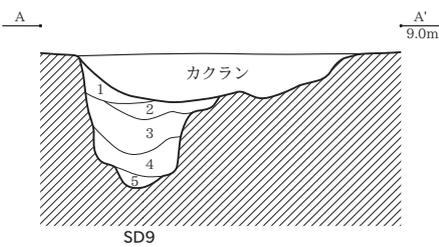




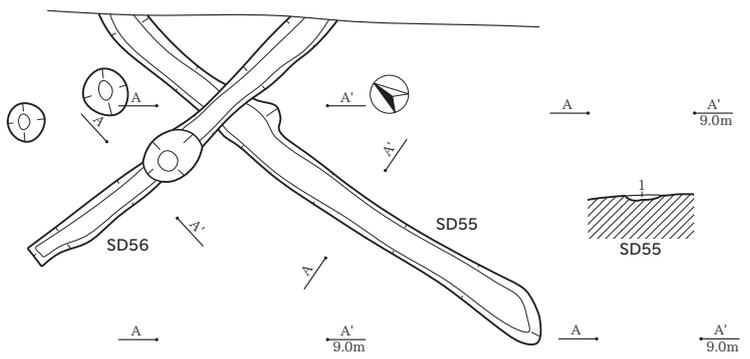


- SD15**
- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い。酸化鉄粒帯状に見られる。1層より層の密度が粗い。
 - 3 灰色粘土 (7.5Y6/1) 粘性強い。しまりやや強い。酸化鉄粒パイ状に発達。
 - 4 灰白色粘質シルト (2.5Y7/1) 粘性やや弱い。しまりやや強い。

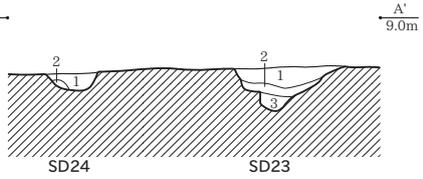
- SD17**
- 1 緑灰色粘質シルト (10G6/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 2 灰色粘質シルト (7.5Y6/1) 粘性・しまり共にやや弱い。1層と比してやや砂質。
 - 3 灰色粘質シルト (7.5Y5/1) 粘性・しまり共にやや弱い。
 - 4 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い。やや粘土質。



- SD9**
- 1 黒色粘質シルト (2.5Y2/1) 粘性・しまり共に強い。やや砂質。
 - 2 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強い。しまりやや強い。IV層少量ながらブロック状に混入。
 - 3 灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性強い。しまりやや強い。青灰色細砂ブロック状に。
 - 4 黒色粘土 (10Y2/1) 粘性強い。しまりやや強い。中〜現遺物含む。
 - 5 黒色細砂 (10Y2/1) 粘性・しまり共にやや弱い。

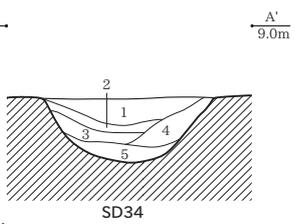


- SD55**
- 1 黒色粘質シルト (腐食土) (N2/0) 粘性・しまり共にやや強い。IV層ブロック状に混入。
- SD56**
- 1 灰色粘質シルト (腐食土) (5Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い。3層質の覆土土壌。

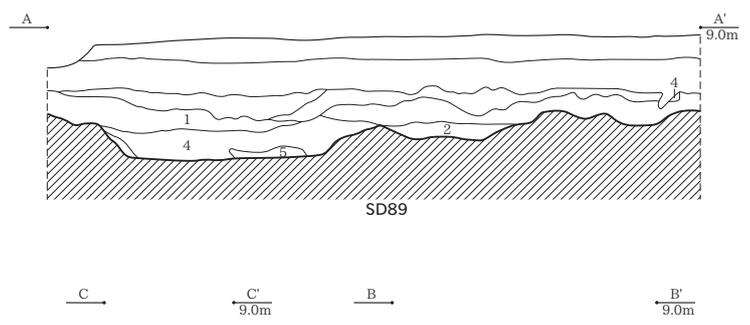


- SD23**
- 1 黒褐色粘質シルト (10YR3/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 2 黒褐色粘質シルト (10YR3/1) 粘性・しまり共にやや強い。IV層斑状に混入。
 - 3 黒褐色細砂 (2.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや弱い。

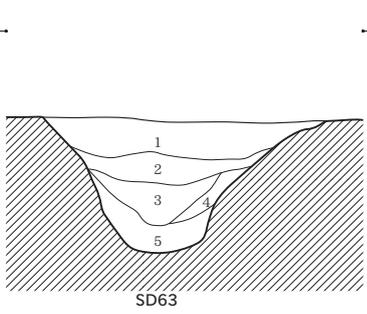
- SD24**
- 1 黒褐色粘質シルト (10YR3/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 2 黒褐色粘質シルト (10YR3/1) 粘性・しまり共にやや強い。地山の土斑状に混入。



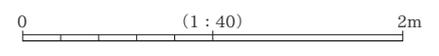
- SD34**
- 1 オリーブ黒色粘質シルト (5Y2/2) 粘性・しまり共にやや強い。遺物含む。3層質。
 - 2 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 粘性・しまり共にやや強い。IV層砂ブロック状に混入。
 - 3 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性・しまり共にやや強い。IV層砂帯状に混入。
 - 4 褐灰色粘質シルト (7.5YR4/1) 粘性・しまり共にやや強い。流れ込みの堆積と思われる。
 - 5 灰褐色シルト (7.5YR5/2) 粘性やや弱い。しまりやや強い。マンガン粒少量見られる。

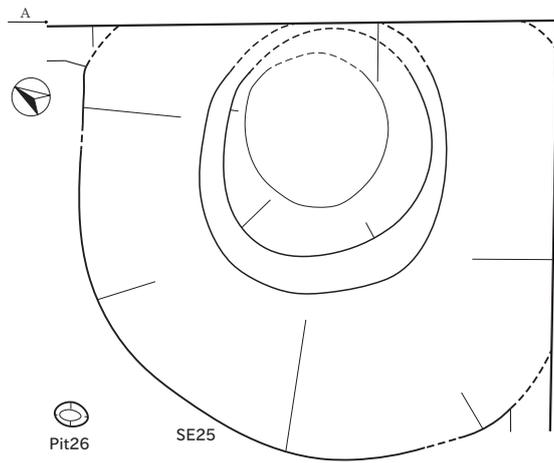


- SD89**
- 1 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 2 灰シルト混粘土 (10Y5/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 3 青灰色粘土 (10BG5/1) 粘性・しまり共にやや強い。ガツボ含む。2・3層の混層と思われる。
 - 4 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性やや強い。しまりやや弱い。
 - 5 灰シルト混粘土 (10Y5/1) 粘性やや強い。しまりやや弱い。



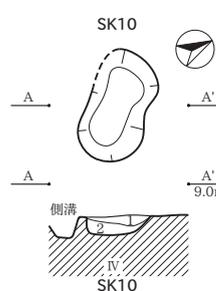
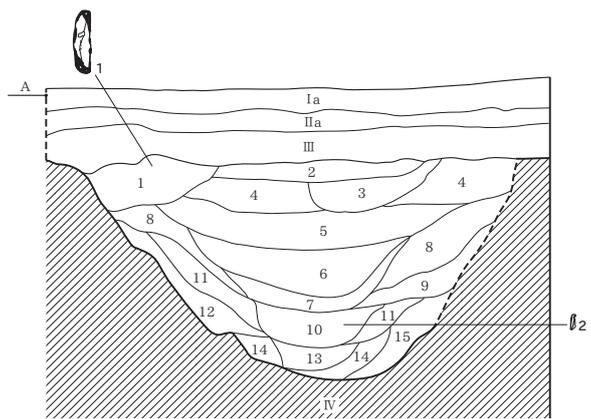
- SD63**
- 1 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 2 暗青灰色砂質シルト (5B4/1) 粘性やや強い。しまりやや弱い。
 - 3 緑褐色粘質シルト (5G2/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 4 灰黄色細砂 (2.5Y7/2) 粘性弱い。しまりやや弱い。
 - 5 暗緑灰色粘質シルト (5G3/1) 粘性・しまり共にやや強い。炭化粒含む。IV層砂帯状に混入。





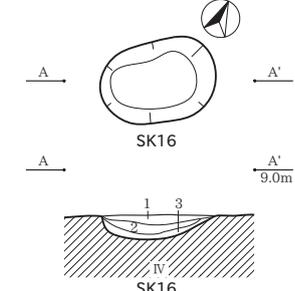
A' SE25

- 1 灰黄色細砂 (2.5Y7/2) 粘性・しまり共にやや弱い、IV層質砂ブロック状。4層と同質。
- 2 黒色粘質シルト(腐食土) (2.5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、III層質。
- 3 灰黄色粘質シルト (2.5Y7/2) 粘性やや強い、しまりやや強い、IV層質砂ブロック状。1層と同質。
- 4 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い、II層ベース。
- 5 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い、炭化材片少量含む。III層を基本とする。
- 6 黒色シルト (2.5Y2/1) 粘性・しまり共にやや弱い、炭化材片やや目立つ。
- 7 黒色粘質シルト (2.5GY2/1) 粘性・しまり共にやや強い、溜状堆積。炭化物少含む。
- 8 浅黄色シルト混細砂 (2.5Y7/3) 粘性・しまり共にやや弱い、III・IV層の混在(ブロック状)。流入堆積。
- 9 黒褐色シルト(腐食土) (2.5Y3/2) 粘性・しまり共にやや強い、II層ベース。
- 10 オリーブ黒色粘質シルト (7.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い、炭化物少量含む。砂味強い。
- 11 浅黄色細砂 (7.5Y7/3) 粘性・しまり共にやや弱い、10層ブロック状に混入。IV層+13層。流入堆積。
- 12 浅黄色細砂 (7.5Y7/3) 粘性・しまり共にやや弱い、11層+IV層。流入堆積。
- 13 オリーブ黒色粘質細砂(腐食土) (7.5Y3/1) 粘性やや強い、しまりやや弱い。
- 14 灰白色細砂 (10Y7/2) 粘性やや強い、しまり弱い、13層+IV層土。
- 15 オリーブ黒色細砂 (7.5Y3/2) 粘性・しまり共に弱い。12層と同様。但ししまり、粘性弱い。底部の流入堆積。



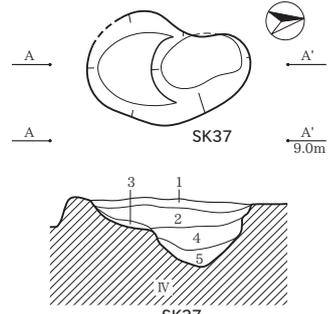
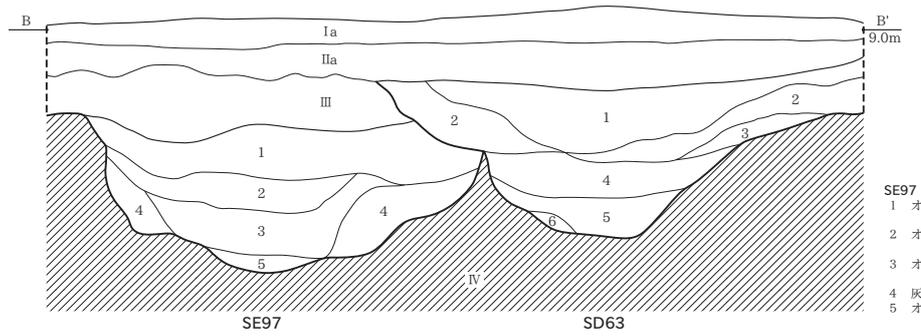
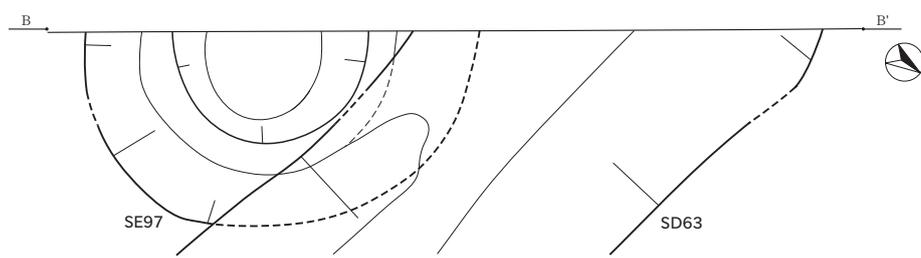
SK10

- 1 黒色粘質シルト (10YR2/1) 粘性やや強い、しまりやや弱い。
- 2 腐食シルト塊状に混入。
- 2 浅黄褐色粘質シルト (10YR8/4) 粘性やや弱い、しまりやや強い。



SK16

- 1 黒色腐食土 (10Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、ガツボまぼらに含む。
- 2 黒色粘質シルト (7.5Y2/1) 粘性強い、しまりやや強い、灰白色砂ブロック状に混入。
- 3 オリーブ黒色シルト (10Y3/1) 粘性やや弱い、しまりやや強い、1・2層土斑状に混入。

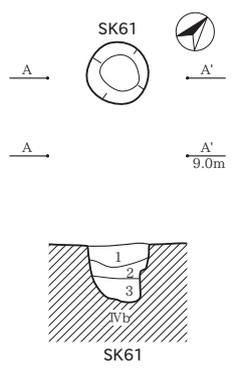


SK37

- 1 黒色粘質シルト (5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、腐食強い。
- 2 黒色粘質シルト (5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、IV層土帯状に混入。腐食強い。
- 3 オリーブ黒色粘質シルト (5Y3/1) 粘性やや弱い、しまりやや強い、IV層土ブロック状に混入。斜面堆積。
- 4 黒色粘質シルト (2.5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、腐食強い。
- 5 黒色粘質シルト (10YR1.7/1) 粘性・しまり共にやや強い、4層と比して砂質。

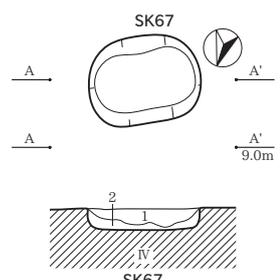
SE97

- 1 オリーブ黒色粘質シルト (5Y2/2) 粘性・しまり共にやや強い、IV層ブロック状に混入。
- 2 オリーブ黒色粘質シルト (5Y2/2) 粘性・しまり共にやや強い、IV層ブロック状に混入。
- 3 オリーブ黒色粘質シルト (5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い、IV層ブロック状に混入。
- 4 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性やや弱い、しまりやや強い。
- 5 オリーブ黒色シルト (10Y3/1) 粘性やや強い、しまりやや弱い。



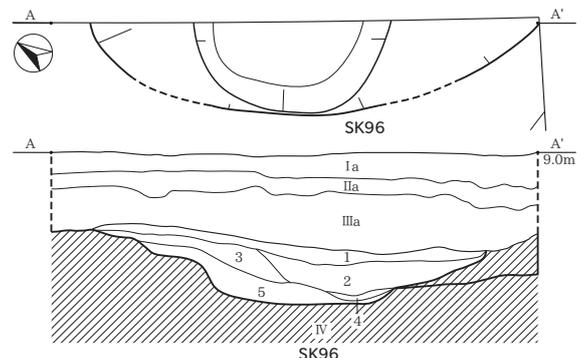
SK61

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い、IVb層帯状に混入。
- 3 灰白色細砂 (2.5Y7/1) 粘性・しまり共にやや弱い、IIIa層ブロックに混入。



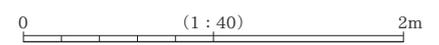
SK67

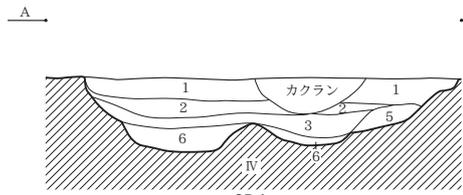
- 1 暗褐色粘質シルト (10YR3/3) 粘性・しまり共にやや強い。
- 2 浅黄色シルト (2.5Y7/4) 粘性やや弱い、しまりやや強い、1層ブロック状に混入。



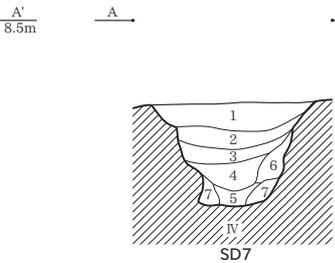
SK96

- 1 オリーブ黒色粘質シルト (5Y2/2) 粘性・しまり共にやや弱い、IV層帯状に混入。
- 2 オリーブ黒色粘質シルト (5Y2/2) 粘性・しまり共にやや弱い、やや砂質。
- 3 灰オリーブ色砂シルト (5Y5/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、IV層。4層+3層少。
- 4 黒色シルト (5Y2/1) 粘性・しまり共にやや弱い、III層土帯。
- 5 灰オリーブ色砂シルト (5G2/1) 粘性・しまり共にやや弱い、IIIa層ブロック状に混入。

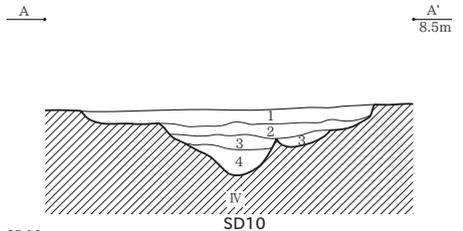




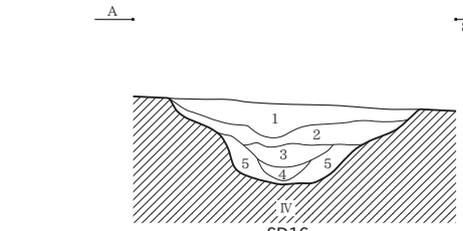
SD4
 1 オリーブ黒色粘質シルト (10Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 2 暗灰色シルト (N3/0) 粘性・しまり共にやや強い。IV層帯状に混入。
 3 灰色シルト (N4/0) 粘性・しまり共にやや強い。IV層帯状に混入。
 4 褐色シルト (10YR6/1) 粘性やや弱い。しまりやや強い。
 5 暗灰色粘質シルト (N3/0) 粘性強い。しまりやや強い。
 6 黒色シルト (N1.5/0) 粘性強い。しまりやや強い。



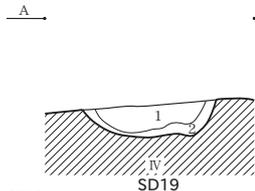
SD7
 1 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性・しまり共に強い。ガツボ含む。
 2 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性・しまり共に強い。青灰色細砂ブロック状に混入。
 3 オリーブ黒色粘質シルト (10Y3/2) 粘性強い。しまりやや強い。
 4 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い。砂味強い。
 5 灰色砂 (7.5Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い。4層ブロック状に混入。
 6 灰色粘質シルト (10Y6/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 7 灰色細砂 (7.5Y4/1) 粘性・しまり共にやや弱い。



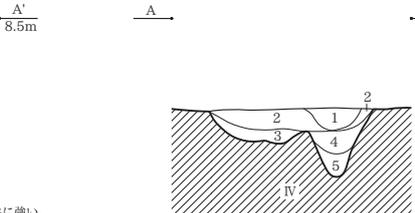
SD10
 1 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性・しまり共に強い。
 2 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性・しまり共に強い。
 3 黒色粘質シルト (7.5Y2/1) 粘性・しまり共にやや弱い。
 4 灰白色細砂 (10Y7/1) 粘性・しまり共にやや弱い。3層ブロック状に混入。



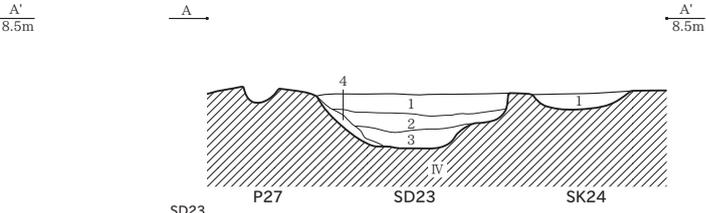
SD16
 1 オリーブ黒色粘質シルト (5Y3/2) 粘性・しまり共にやや強い。ガツボ少含む。
 2 オリーブ黒色粘質シルト (7.5Y3/1) 粘性やや強い。しまりやや弱い。黄褐色粘質シルトブロック状に混入。ガツボ少含む。
 3 灰オリーブ色粘質シルト (7.5Y4/2) 粘性・しまり共にやや強い。黄褐色粘質シルトブロック状に混入。ガツボ少含む。
 4 灰色粘土 (10Y5/1) 粘性・しまり共に強い。
 5 暗オリーブ褐色粘質シルト (2.5Y3/3) 粘性・しまり共にやや強い。マンガン粒目立つ。



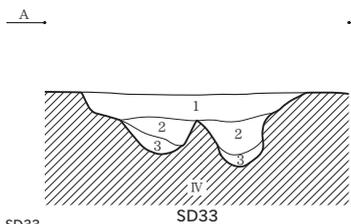
SD19
 1 青灰色粘土 (10BG5/1) 粘性・しまり共に強い。
 2 明緑灰色細砂 (10G7/1) 粘性・しまり共にやや弱い。1層ブロック状に混入。



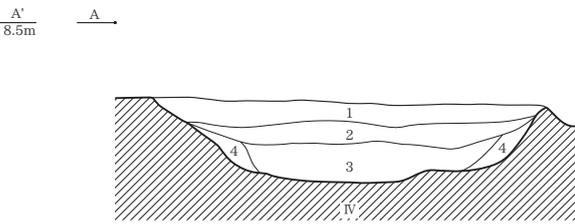
SD20
 1 暗青灰色粘質シルト (10BG4/1) 粘性強い。しまりやや強い。
 2 暗青灰色粘質シルト (N3/0) 粘性・しまり共にやや強い。
 3 灰色細砂 (N4/0) 粘性・しまり共にやや強い。1層ブロック状に混入。
 4 灰色粘質シルト (N4/0) 粘性・しまり共にやや強い。
 5 黒色粘土 (N1.5/0) 粘性強い。しまりやや強い。



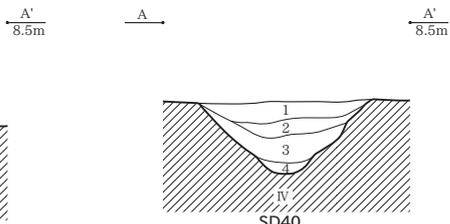
SD23
 1 灰色粘質シルト (N4/0) 粘性・しまり共にやや強い。
 2 暗灰色粘質シルト (N3/0) 粘性やや強い。しまりやや弱い。
 3 灰色粘土 (N4/0) 粘性・しまり共に強い。
 4 オリーブ黒色シルト (10Y3/1) 粘性やや強い。しまりやや弱い。小礫少量混入。



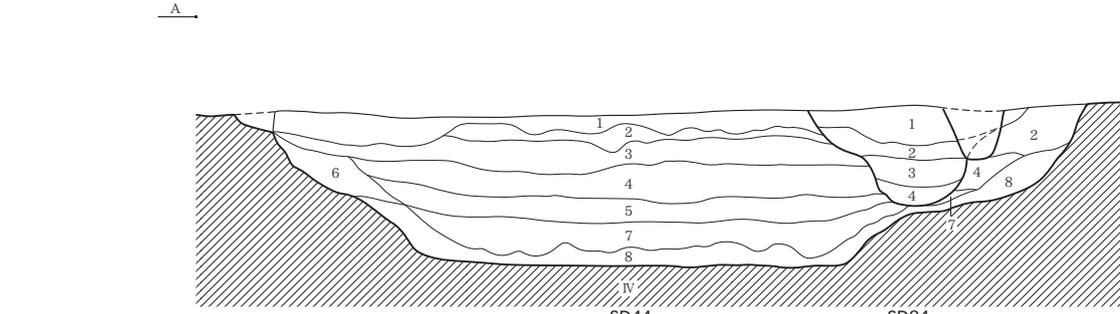
SD33
 1 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性・しまり共に強い。
 2 オリーブ黒色粘土 (10Y3/1) 粘性・しまり共に強い。緑灰細砂ブロック状に混入。
 3 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性・しまり共に強い。2層と同一だが、緑灰細砂が少ない。



SD39
 1 青黒色粘質シルト (5PB1.7/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 2 暗青灰色粘質シルト (5PB3/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 3 緑黒色粘質シルト (5G2/1) 粘性・しまり共にやや強い。2層土ブロック状に混入。
 4 灰オリーブ色シルト (7.5Y4/2) 粘性・しまり共にやや弱い。2・3層土ブロック状に混入。

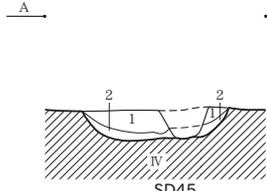


SD40
 1 青黒色粘質シルト (5PB1.7/1) 粘性・しまり共にやや強い。小粘土塊まばらに混入。
 2 暗青灰色粘質シルト (5PB3/1) 粘性・しまり共にやや強い。小粘土塊まばらに混入。
 3 青灰色粘質シルト (5B5/1) 粘性強い。しまりやや強い。
 4 灰色粘質シルト (5PB6/1) 粘性やや強い。しまりやや弱い。

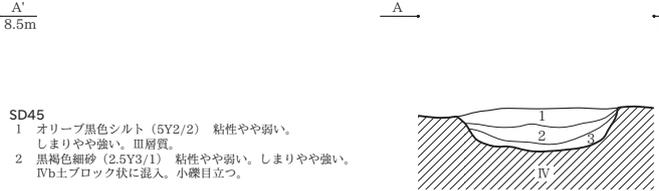


SD44
 1 灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性・しまり共にやや強い。ガツボ少含む。
 2 明オリーブ灰色粘質シルト (5GY7/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 3 黒色粘質シルト (N2/0) 粘性強い。しまりやや強い。ガツボ少含む。
 4 緑灰色粘土 (7.5GY5/1) 粘性・しまり共にやや弱い。
 5 灰色粘質シルト (N4/0) 粘性・しまり共にやや強い。5層ブロック状に混入。
 6 明オリーブ灰色細砂 (5GY7/1) 粘性・しまり共にやや弱い。
 7 灰色細砂 (N6/0) 粘性やや強い。しまりやや弱い。ガツボ少含む。
 8 灰色粘質シルト (N5/0) 粘性・しまり共にやや強い。マンガン粒、多く見られる。

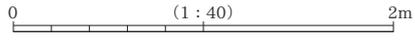
SD84
 1 灰色粘質シルト (N5/0) 粘性・しまり共にやや強い。
 2 灰色粘質シルト (N6/0) 粘性・しまり共にやや強い。
 3 暗灰色粘質シルト (N3/0) 粘性強い。しまりやや弱い。ガツボ少含む。
 4 灰色粘土 (N4/0) 粘性・しまり共に強い。

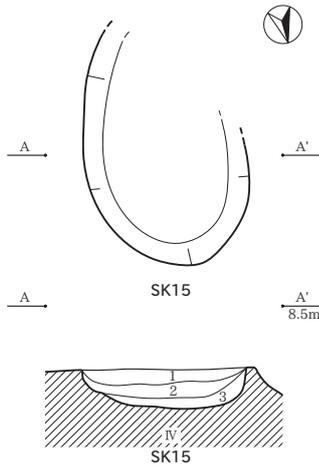


SD45
 1 オリーブ黒色シルト (5Y2/2) 粘性やや強い。しまりやや強い。皿屑質。
 2 黒褐色細砂 (2.5Y3/1) 粘性やや弱い。しまりやや強い。IV土ブロック状に混入。小礫目立つ。

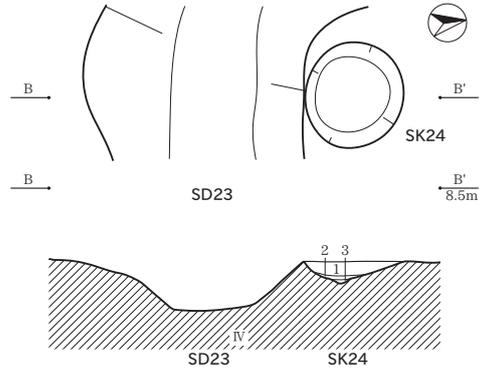


SD57
 1 オリーブ黒色粘質シルト (5Y2/2) 粘性・しまり共にやや強い。小礫まばらに混入。
 2 オリーブ黒色シルト (5Y2/2) 粘性やや弱い。しまりやや強い。小礫多めに混入。
 3 浅黄色細砂 (2.5Y7/3) 粘性やや弱い。しまりやや強い。マンガン粒目立つ。

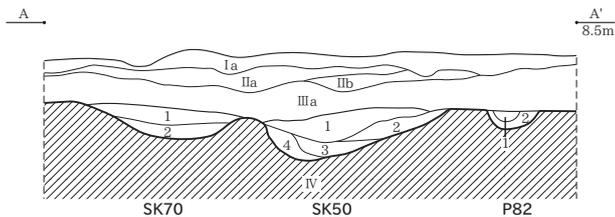
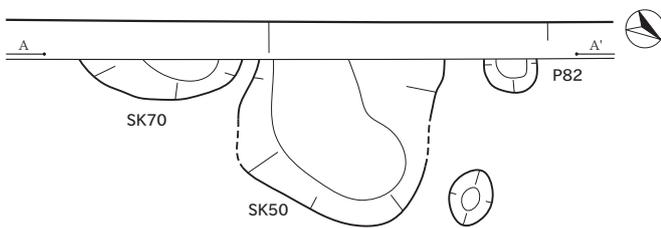




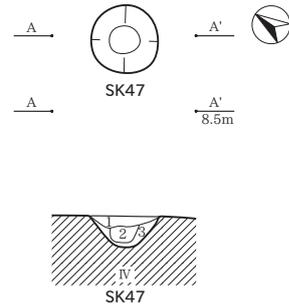
SK15
 1 暗灰色粘質シルト (N3/0) 粘性・しまり共にやや強い。白色細砂帯状に混入。
 2 暗灰色粘質シルト (腐食質) (N3/0) 粘性・しまり共にやや強い。白色細砂帯状に混入。
 3 暗色粘質シルト (5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い。



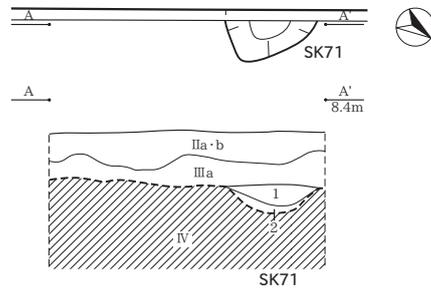
SK24
 1 黒色粘質シルト (10YR1.7/1) 粘性・しまり共にやや強い。ガツボ少量含む。
 2 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや弱い。
 3 黒褐色砂質シルト (10YR3/2) 粘性・しまり共にやや弱い。



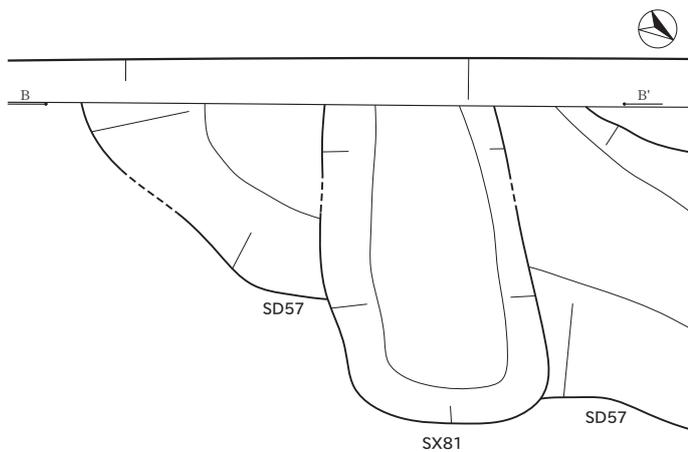
SK50
 1 黒色粘質シルト (5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い。IV層砂わずかに混入。
 2 オリーブ黒色細砂 (5Y3/1) 粘性やや弱い。しまりやや強い。IIIa層粘質シルト帯状に混入。
 3 オリーブ黒色細砂 (5Y3/1) 粘性やや弱い。しまりやや強い。IIIa層粘質シルト多く混入。
 4 灰オリーブ細砂 (5Y5/3) 粘性やや弱い。しまりやや強い。IV層砂質シルト。
SK70
 1 黒色粘質シルト (5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い。IV層砂わずかに混入。
 2 黒色粘質シルト (10Y2/1) 強い。しまりやや強い。IV層砂スポットでブロック状に混入。
P82
 1 黒色粘質シルト (10Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い。IV層砂わずかに混入。
 2 オリーブ黒色細砂 (5Y3/1) 粘性やや弱い。しまりやや強い。IV層砂+IIIa層粘質シルト。



SK47
 1 オリーブ黒色粘質シルト (7.5Y3/1) 粘性強い。しまりやや強い。
 2 オリーブ黒色細砂 (7.5Y3/1) 粘性やや強い。しまりやや弱い。
 1層ブロック状に混入。
 3 緑灰色細砂 (7.5GY6/1) 粘性やや強い。しまりやや弱い。
 1層ブロック状に混入。

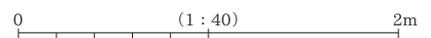
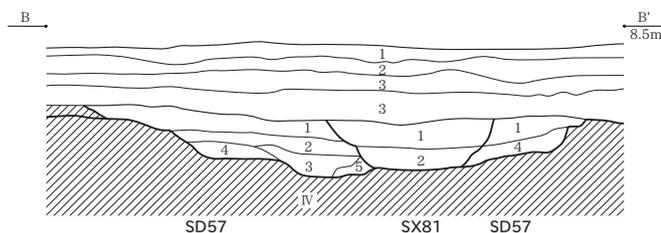


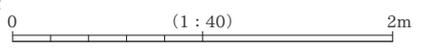
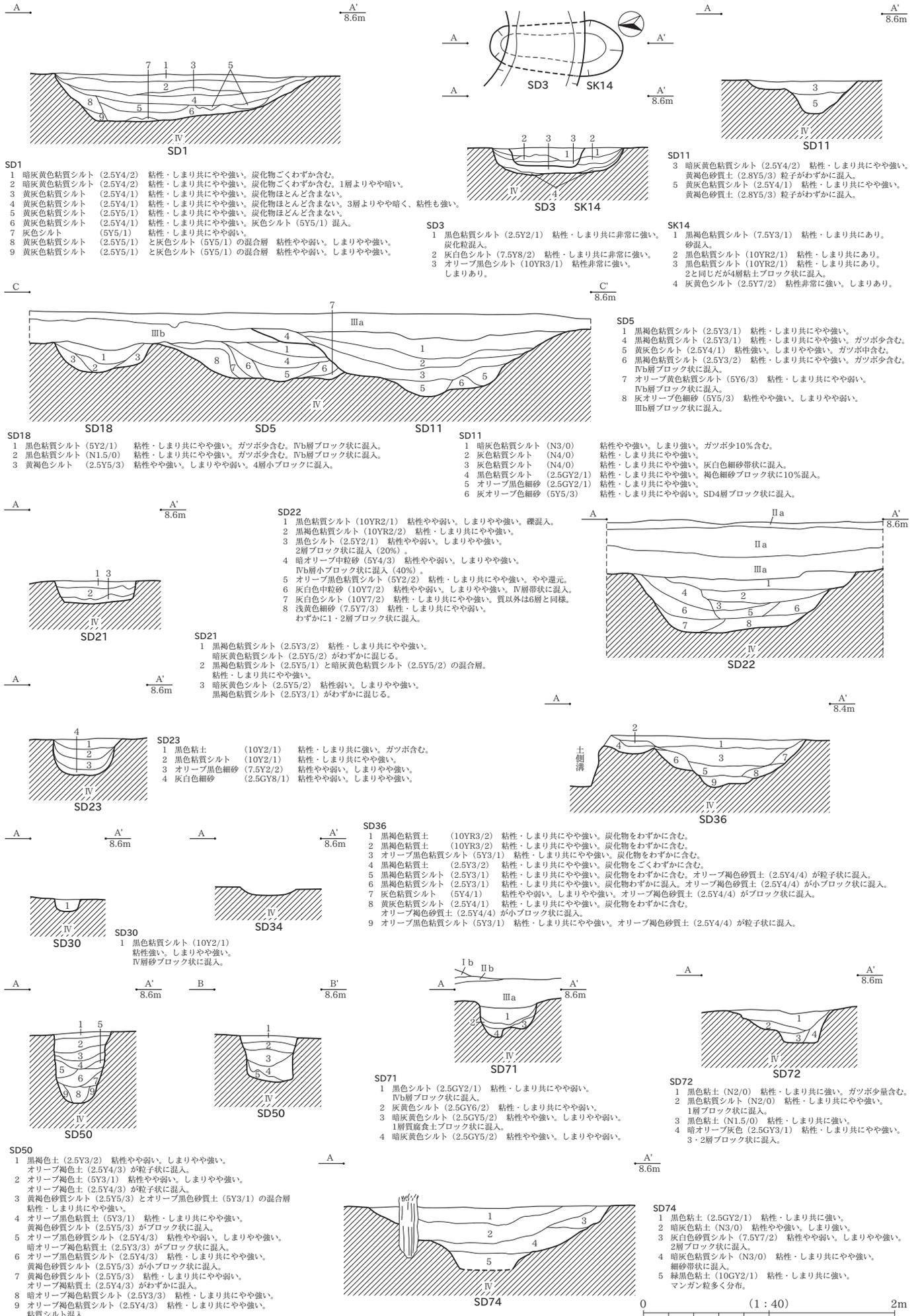
SK71
 1 黒褐色粘質シルト (10Y3/2)
 2 にぶい黄褐色粘質シルト (10Y5/4) IV層が主体。

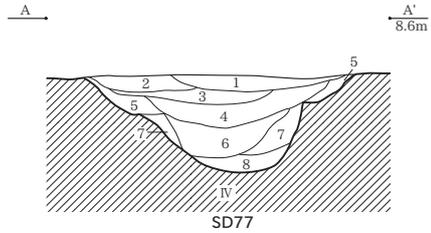


SX81
 1 オリーブ黒色粘質シルト (7.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い。礫少々混入。
 2 灰色細砂シルト (10Y5/1) 粘性・しまり共にやや弱い。

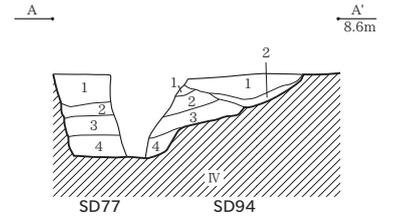
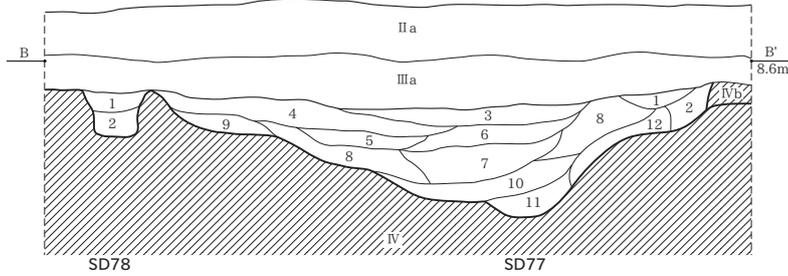
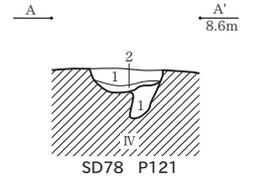
SD57
 1 黒色粘質シルト (7.5Y2/1) 粘性やや強い。しまりやや弱い。礫やや多い。
 2 オリーブ黒色細砂シルト (7.5Y3/1) 粘性やや弱い。しまりやや強い。マンガン粒帯状に分布。
 3 灰色粘質シルト (N4/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 4 灰白色砂質シルト (10Y7/1) 粘性・しまり共にやや弱い。礫多い。マンガン粒帯状に分布。
 5 オリーブ黒色細砂 (7.5Y3/2) 粘性やや弱い。しまり弱い。4層ブロック状に混入。



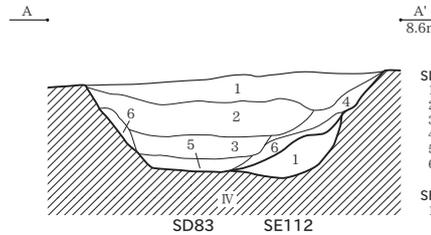




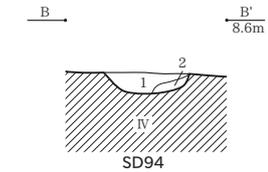
- SD78**
 1 黒色粘質シルト (N2/0) 粘性やや強い、しまり強い。
 2 明オリブ灰色細砂 (2.5GY7/1) 粘性・しまり共にやや弱い。
- P121**
 1 黒色腐食土 (N1.5/0) 粘性・しまり共にやや強い、植物遺体まれに含む。
- SD77**
 1 黒色粘質シルト (5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 2 淡黄色細砂 (7.5Y8/3) 粘性弱い、しまりやや強い。
 3 オリブ黒色粘質シルト (7.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い、φ0.5~1mmの小石混入。
 4 黒色粘質シルト (7.5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、細砂ブロック状に10%以下混入。
 5 黒色粘質シルト (10Y2/1) 粘粘性やや強い、しまり弱い。
 6 青黒色粘質シルト (10BG1.7/1) 粘性弱い、しまりやや強い、炭化粒を多く含む。
 7 黒色粘質シルト (7.5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、φ1mmの小石、細砂帯状に混入。
 8 暗灰色中粒砂 (2.5Y4/2) 粘性・しまり共に弱い、4層ブロック状に20%混入。
 9 黄灰色細砂 (2.5Y5/1) 粘性・しまり共に弱い、4層ブロック状に40%混入。
 10 灰色シルト (10Y4/1) 粘性弱い、しまりやや強い、7層ブロック状に30%混入。
 11 暗オリブ色細砂 (7.5Y4/3) 粘性・しまり共に弱い、7層わずかに混入。
 12 黄色中粒砂 (5Y8/6) 粘性・しまり共に弱い、7層わずかに混入。



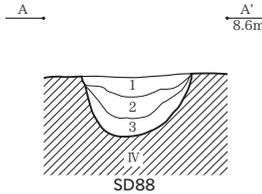
- SD94**
 1 青黒色粘質シルト (5PB1.7/1) 粘性・しまり共に強い。
 2 青灰色シルト (5B5/1) 粘性・しまり共にやや強い、1層小ブロック状に混入。



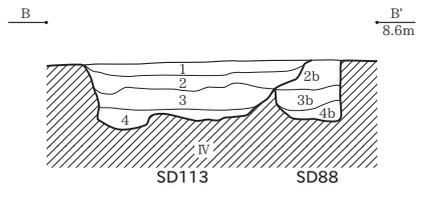
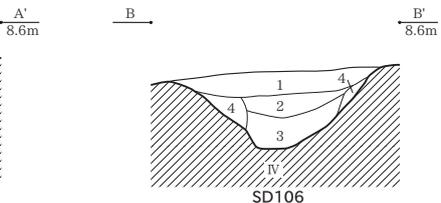
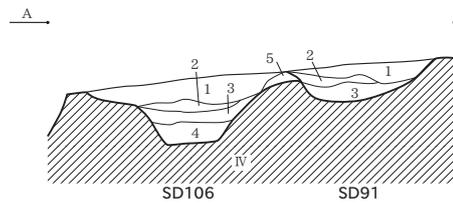
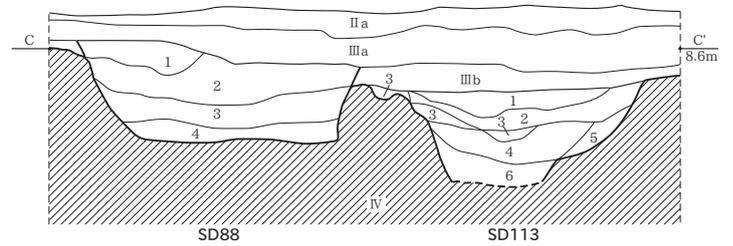
- SD83**
 1 青黒色粘質シルト (5PB1.7/1) 粘性強い、しまりやや強い、ガツボ少し含む。
 2 暗青灰色粘質シルト (5B3/1) 粘性・しまり共に強い。
 3 緑黒色粘土 (5G2/1) 粘性・しまり共に強い。
 4 灰オリブ色細砂 (5Y5/2) 粘性・しまり共にやや弱い、3層ブロック状に混入。
 5 灰色粘質シルト (5Y5/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 6 黒色中粒砂 (2.5Y2/1) 粘性・しまり共にやや弱い、斜面流入土。
- SE112**
 1 オリブ黒色粘質シルト (7.5Y2/2) 粘性・しまり共にやや強い。



- SD94**
 1 青灰色粘質シルト (5PB1.7/1) 粘性・しまり共に強い。
 2 青灰色シルト (5B5/1) 粘性やや弱い、しまりやや強い、1層小ブロック状に混入。

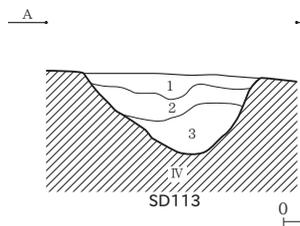
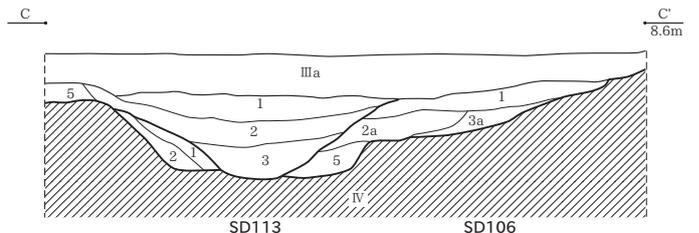


- SD88**
 1 暗緑灰色細砂 (10G3/1) 粘性やや弱い、しまりやや強い、暗青灰色粘質シルトブロック状に混入。
 2 暗青灰色細砂 (5B3/1) 粘性・しまり共にやや強い、ガツボ少し含む。
 3 緑灰色中粒砂 (10GY6/1) 粘性・しまり共にやや弱い、3層ブロック状に混入。

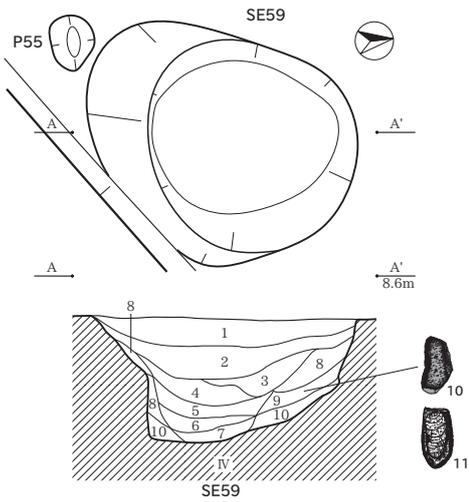


- SD106**
 1 暗緑灰色粘質シルト (7.5GY3/1) 粘性・しまり共にやや強い、ガツボ含む、灰色シルト小ブロック状に混入。
 2 暗緑灰色粘質シルト (7.5GY3/1) 粘性やや強い、しまりやや弱い、細砂混入。
 3 オリブ灰色粘質シルト (7.5GY5/1) 粘性・しまり共に強い、白色粘土ブロック状に混入。
 4 灰白色粘質シルト (10Y7/2) 粘性・しまり共にやや強い、緑灰細砂小ブロック状に混入。

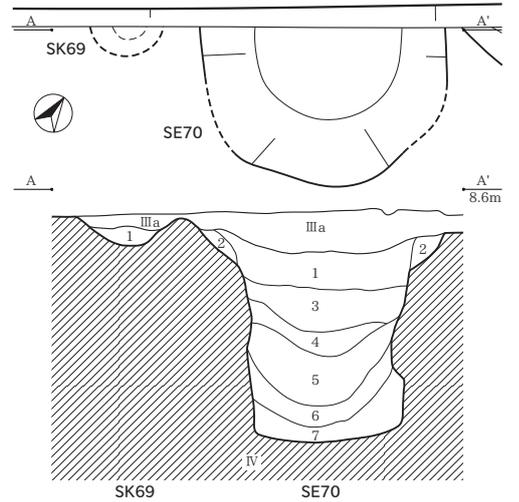
- SD113**
 1 黒色粘質シルト (5Y2/1) 粘性強い、しまりやや強い、ガツボ少し含む。
 2 黒色粘質シルト (7.5YR2/1) 粘性強い、しまりやや強い、ガツボ中含む。
 3 黒色粘質シルト (10Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、ガツボ少し含む。
 4 黒色粘質シルト (10Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、ガツボ含まない、細砂帯状に混入。
 5 黄褐色粘質シルト (10YR5/6) 粘性やや強い、しまりやや弱い、IVb層ブロック状に混入、斜面流入土。
 6 灰オリブ色シルト (5Y5/3) 粘性・しまり共にやや弱い、4層が底面植生により荒れる、ブロック状に混入。



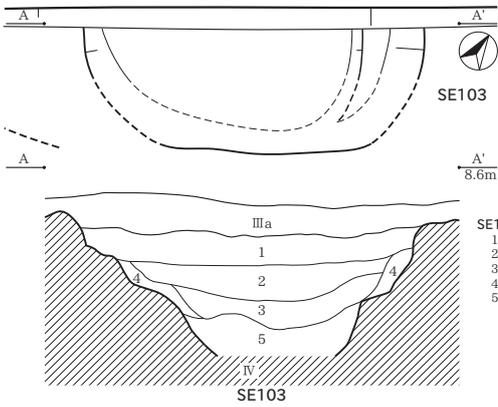
0 (1:40) 2m



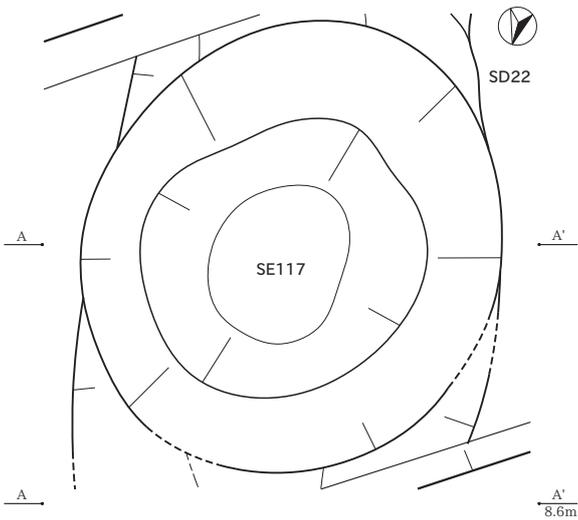
- SE59**
- 1 褐色粘質シルト (10YR4/1) 粘性・しまり共にやや強い。黄褐色シルトブロック少し混入。
 - 2 黒褐色粘質シルト (7.5YR3/1) 粘性やや強い。しまりやや強い。黄褐色シルトブロックまばらに混入。
 - 3 灰黄色粘質シルト (2.5Y7/2) 粘性やや弱い。しまりやや強い。黄褐色シルトブロック状に混入。
 - 4 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い。黄褐色シルト帯状に混入。
 - 5 黒褐色粘質シルト (10YR2/3) 粘性・しまり共にやや強い。黄褐色シルト帯状に混入。
 - 6 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性・しまり共に強い。炭化粒帯状に含む。
 - 7 黒色灰・炭粒混層 (N1.5/0) 粘性やや弱い。しまり弱い。
 - 8 浅黄色シルト (2.5Y7/3) 粘性・しまり共にやや強い。炭化粒わずかに含む。
 - 9 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い。炭化粒。焼土わずかに含む。
 - 10 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性・しまり共に強い。



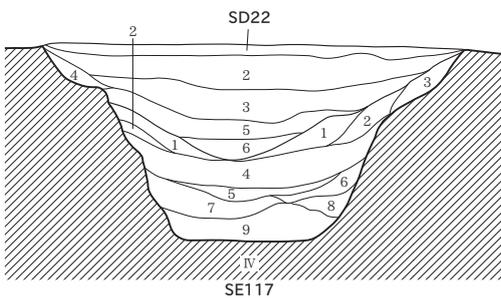
- SK69**
- 1 灰黄色砂質シルト (2.5Y7/2) 粘性やや弱い。しまりやや強い。IV層ブロック状多く混入。
- SE70**
- IIIa 灰褐色粘質シルト (7.5Y4/2) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 1 灰粘質シルト (N4/0) 粘性・しまり共に強い。ガツボ少量含む。井戸直接の覆土。埋土状。
 - 2 灰白色シルト (7.5Y7/2) 粘性・しまり共にやや強い。
 - IIIa層ブロック状に混入。流れ込み堆積。
 - 3 黒色粘質シルト (N2/0) 粘性強い。しまりやや強い。炭化粒極少量。ガツボ少量含む。
 - 4 暗オリーブ灰色粘土 (2.5GY4/1) 粘性・しまり共に強い。マンガン粒多分布。
 - 5 緑黒色粘質シルト (7.5GY2/1) 粘性強い。しまりやや強い。ガツボ中含む。
 - 6 オリーブ黒色粘質シルト (10Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 7 青黒色細砂 (5PB2/1) 粘性・しまり共にやや弱い。井戸掘込み最底部えぐれる。



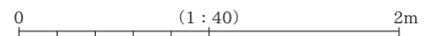
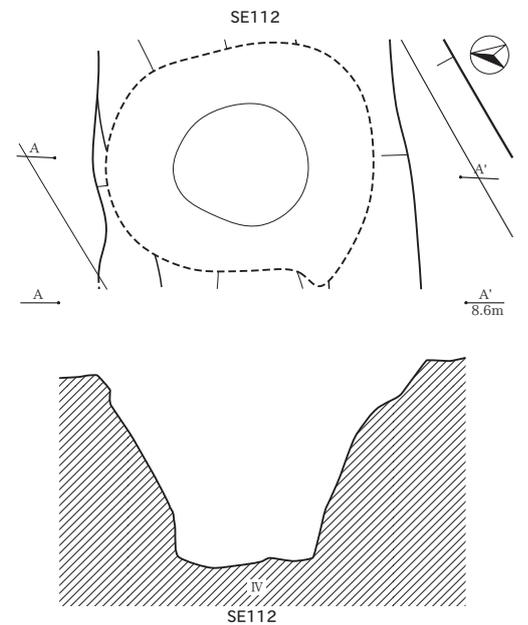
- SE103**
- 1 オリーブ黒色粘質シルト (7.5Y3/1) 粘性強い。しまりやや強い。植物遺体まばらに含む。ややガツボ質。
 - 2 黒色粘土 (N2/0) 粘性強い。しまりやや強い。青灰色細砂マール状に混入。
 - 3 灰色細砂 (N4/0) 粘性・しまり共にやや強い。青灰色中粒砂ブロック状に混入。
 - 4 黒色粘質シルト (5GY2/1) 粘性強い。しまりやや強い。青灰色中粒砂ブロック状に混入。斜面流入土。
 - 5 黒色粘土 (N1.5/0) 粘性・しまり共に強い。マンガン粒帯状混入。

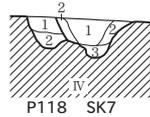
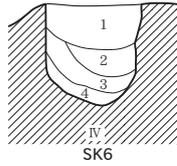
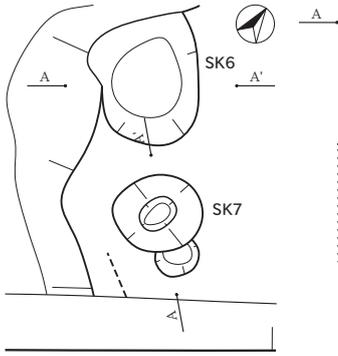


SD22上部1～6層まで (SD22土層注記を参照)



- SE117**
- 1 オリーブ黒色粘質シルト (5Y3/1) 粘性やや強い。しまりやや強い。
 - 2 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い。オリーブ褐色砂質シルト (2.5Y4/4) がブロック状に多く混入。
 - 3 オリーブ褐色砂質シルト (2.5Y4/4) 粘性・しまり共にやや弱い。黒褐色粘質シルト (2.5Y3/2) がブロック状にわずかに混入。
 - 4 暗灰黄色粘質シルト (2.5Y4/2) 粘性・しまり共にやや強い。炭化粒を多く含む。オリーブ褐色砂質シルト (2.5Y4/4) が粒状に混入。
 - 5 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い。炭化物を多く含む。
 - オリーブ褐色砂質シルト (2.5Y4/4) が小ブロック状に多く混入。
 - 6 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) とオリーブ褐色砂質シルト (2.5Y4/4) の混合層 粘性・しまり共にやや強い。炭化物をわずかに含む。
 - 7 暗オリーブ色粘質シルト (5Y4/3) と灰粘質シルト (5Y4/1) の混合層 粘性・しまり共にやや強い。炭化物を多く含む。
 - 8 灰粘質シルト (5Y5/1) と黄褐色粘質シルト (2.5Y5/1) と黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) の混合層 粘性・しまり共にやや強い。炭化物を多く含む。
 - 9 灰オリーブ色砂質シルト (2.5Y5/1) と灰粘質シルト (5Y5/1) の混合層 粘性・しまり共にやや強い。炭化物を多く含む。





SK6

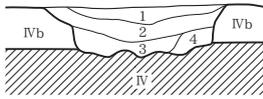
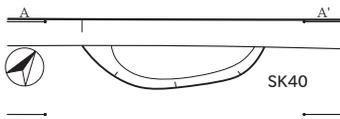
- 1 黒褐色粘質シルト(10YR2/2)+細砂混層 粘性やや弱い、しまりやや強い、黄灰色細砂ブロック状に混入。
- 2 黒色粘質シルト(2.5Y2/1)+細砂混層 粘性・しまり共にやや強い、黄灰色細砂小ブロック状に混入。細砂ブロックの量、1層と比べて少ない。
- 3 黒色粘質シルト(2.5Y2/1)+細砂混層 粘性・しまり共にやや強い、黄灰色細砂帯状に混入。
- 4 黒色粘土 (7.5YR1.7/1) 粘性・しまり共に強い、黄灰色細砂ごくまれに混入。

SK7

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、暗灰黄色砂質土 (2.5Y4/2) ブロック状にわずかに混入。
- 2 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性やや弱い、しまりやや強い、暗灰黄色砂質土 (2.5Y4/2) やや多く混入。
- 3 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘性・しまり共にやや強い、暗灰黄色砂質土 (2.5Y4/2) わずかに混入。

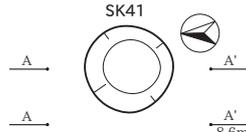
P118

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、炭化物ごくわずかに含む。
- 2 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性やや弱い、しまりやや強い、暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2)が粒状にわずかに混入。



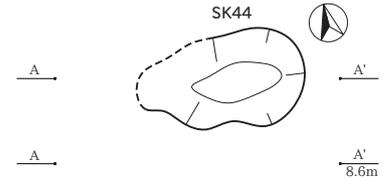
SK40

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、炭化物ごくわずかに含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、炭化物わずかに含む、オリブ褐色土 (2.5Y4/3) ブロック状にわずかに混入。
- 3 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性・しまり共にやや強い、炭化物わずかに含む、オリブ褐色土 (2.5Y4/3) ブロック状にわずかに混入。
- 4 黒褐色粘質土 (10YR3/2) とオリブ褐色土 (2.5Y4/3) の混合層。粘性・しまり共にやや強い、炭化物ごくわずかに含む。



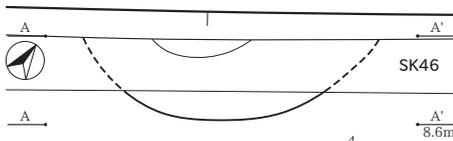
SK41

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/1) と黄褐色砂質土 (2.5Y5/3) の混合層。粘性・しまりやや弱い、炭化物ごくわずかに混入。
- 2 暗灰黄色粘質シルト (2.5Y4/2) 粘性・しまりやや強い、白色粒子わずかに混入。



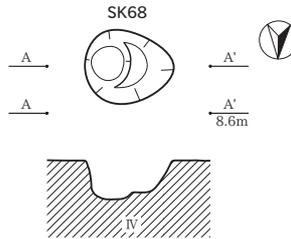
SK44

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、
- 2 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にやや強い、暗オリブ褐色粘質土 (5Y4/3) ブロック状にわずかに混入。
- 3 暗オリブ褐色粘質土 (2.5Y3/3) 粘性・しまり共にやや強い、炭化物(直径2mm)ごくわずかに含む。
- 4 暗灰黄色粘質シルト (2.5Y4/2) 粘性・しまり共にやや弱い、
- 5 灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性・しまり共にやや弱い、

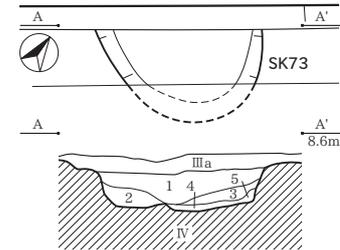


SK46

- 1 黒褐色土 (2.5Y3/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、炭化物がごくわずかに含む。
- 2 黒褐色土 (2.5Y3/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、暗オリブ色土 (5Y4/3) が粒状に多く混入。
- 3 黒褐色土 (2.5Y3/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、炭化物がごくわずかに含む、暗オリブ色土 (5Y4/3) が粒状にわずかに混入。
- 4 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性やや弱い、しまりやや強い、灰色シルト (5Y5/1) 多く混入。
- 5 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性やや弱い、しまりやや強い、暗オリブ色土 (5Y4/3) が粒状に非常に多く混入。
- 6 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、炭化物がごくわずかに含む、暗オリブ色土 (5Y4/3) が粒状にやや多く混入。
- 7 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い、暗オリブ色土 (5Y4/3) が粒状にわずかに混入。
- 8 灰色粘質土 (5Y4/1) と灰オリブ粘質シルト (5Y5/2) の混合層 粘性・しまり共にやや強い、



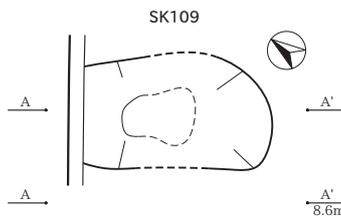
SK68



SK73

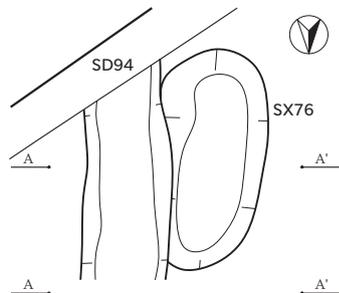
SK73

- IIIa 黒色粘質シルト (2.5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、ガツボ混入。
- 1 オリブ黒色粘質シルト (5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い、灰色砂帯状に混入。
- 2 灰白色細砂 (5Y7/1) 粘性・しまり共にやや弱い、1層ブロック状に混入。
- 3 オリブ黒色粘質シルト (5Y3/2) 粘性やや弱い、しまりやや強い、
- 4 灰色中粒砂 (N5/0) 粘性・しまり共にやや弱い、1・3層ブロック状に混入。
- 5 浅黄色細砂 (7.5Y7/3) 粘性やや弱い、しまりやや強い、1・4層ブロック状に混入。



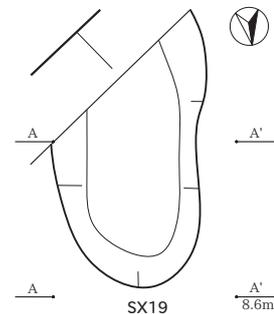
SK109

- 1 灰オリブ粘質シルト (7.5Y4/2) 粘性強い、しまりやや強い、IV層帯状に混入。
- 2 黒色粘質シルト (N2/0) 粘性・しまり共に強い、ガツボ含む。
- 3 黒色粘質シルト (2.5GY2/1) 粘性強い、しまりやや強い、ガツボ含む。
- 4 灰白シルト (N4/0) 粘性やや強い、しまりやや弱い、ガツボ含む。



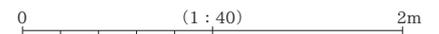
SK109

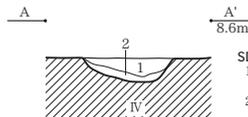
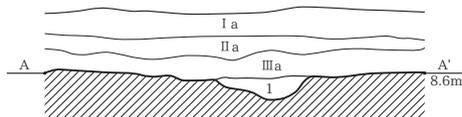
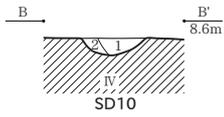
- 1 黒色シルト (N2/0) 粘性・しまり共に強い、黄灰色細砂ブロック状に混入。
- 2 暗灰色シルト (N3/0) 粘性・しまり共にやや強い、IVb層帯状に混入。



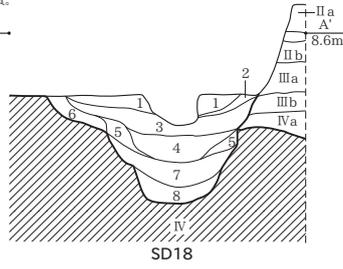
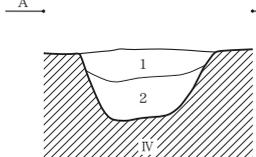
SX19

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり、炭化物やや多く含む。
- 2 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 粘性・しまり共にあり、炭化物わずかに含む。
- 3 灰黄褐色粘質土 (10YR4/3) 粒状にわずかに混入。





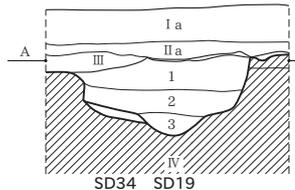
SD10
1 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/2) 粘性・しまり共にやや強い、III層質腐食土。
2 淡黄色シルト (2.5Y7/4) 粘性・しまり共にやや強い。やや砂質。



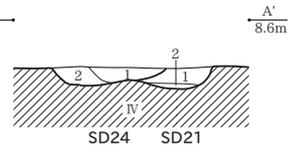
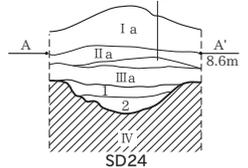
SD11
1 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/2) 粘性・しまり共にやや強い、IIIa層質腐食土。
2 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/2) 粘性・しまり共にやや強い、IVb層ブロック状に少量混入。

SD18
1 灰白色粘土 (2.5Y8/1) 粘性強い、しまりやや強い、カクラン。
2 黒色粘質シルト (2.5Y2/1) 粘性・しまり共にやや強い、ガツボ少量含む。
3 暗灰黄色粘質シルト (2.5Y4/2) 粘性・しまり共にやや強い、やや褐色。
4 灰オリーブ色粘質シルト (7.5Y5/2) 粘性・しまり共にやや強い。
5 オリーブ黄色シルト (5Y6/4) 粘性やや強い、しまりやや弱い、2層ブロック状に混入。
6 灰色シルト (5Y5/1) 粘性やや強い、しまりやや弱い、2層帯状に混入。
7 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性・しまり共にやや強い、灰白色シルトブロック状に混入。
8 黄灰色細砂 (2.5Y5/1) 粘性やや強い、しまりやや弱い、一段深い掘り込みとなっている。

SD16
1 黄褐色粘質シルト (2.5Y5/3) 粘性・しまり共にやや強い、III層マーブル状に混入。
2 黄褐色粘質シルト (2.5Y5/3) 粘性・しまり共にやや強い、III層ブロック状に混入。

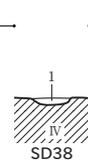
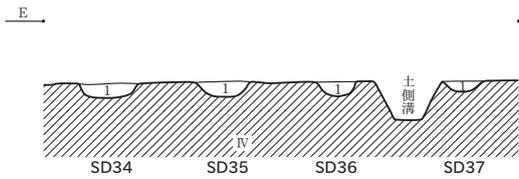
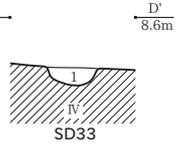
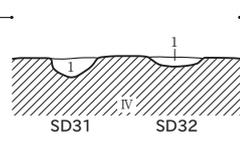
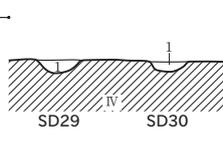
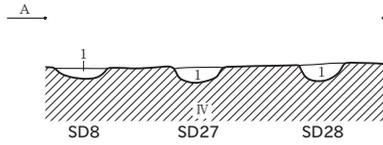


SD19
1 青黒色粘質シルト (5PB2/1) 粘性・しまり共にやや強い。
2 黒色粘質シルト (10YR2/1) 粘性・しまり共にやや強い、灰色シルトブロック状に混入。
3 黒褐色シルト (10YR2/3) 粘性・しまり共にやや強い。

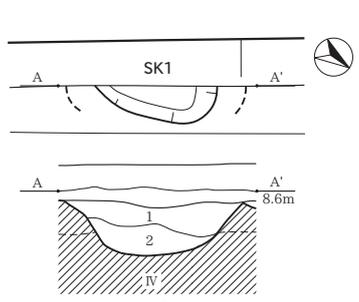


SD21
1 にぶい黄褐色粘質シルト (2.5Y6/4) 粘性・しまり共にやや弱い。
2 淡黄色シルト (2.5Y8/3) 粘性・しまり共にやや弱い。

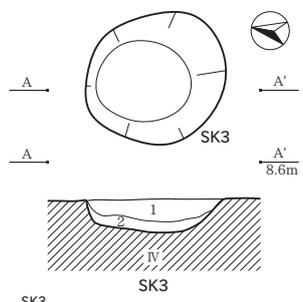
SD24
1 暗灰黄色粘質シルト (2.5Y5/2) 粘性やや強い、しまりやや弱い、植生痕多量に見られる。
2 淡黄色細砂 (2.5Y8/3) 粘性・しまり共にやや弱い、1層ブロックに混入。



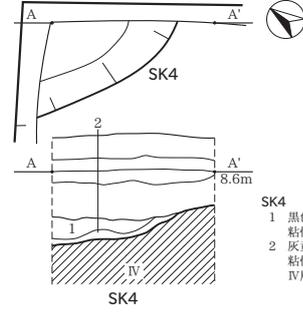
SD8・SD27～SD38共通
1 暗灰黄色粘質シルト (2.5Y5/2) 粘性強い、しまりやや強い。



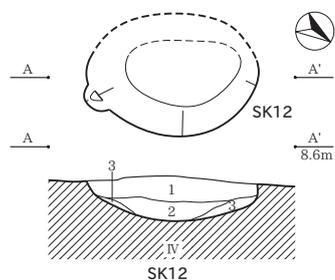
SK1
1 黒色粘質シルト (10YR1.7/1) 粘性・しまり共にやや強い、IV層ブロック状に混入。
2 灰白色粘質シルト (5Y7/2) 粘性・しまり共にやや弱い、1層ブロック状に混入。



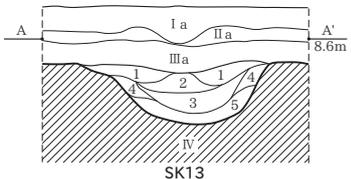
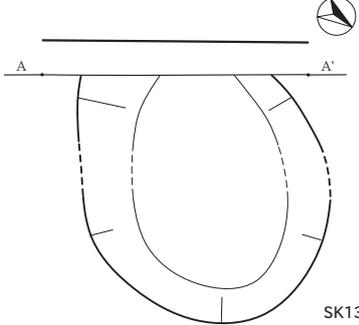
SK3
1 黒色粘質シルト (7.5YR2/1) 粘性やや強い、しまりやや弱い、III層質腐食土。
2 灰黄色粘質シルト (2.5Y7/2) 粘性・しまり共にやや弱い、1層ブロック状に混入。やや砂質。



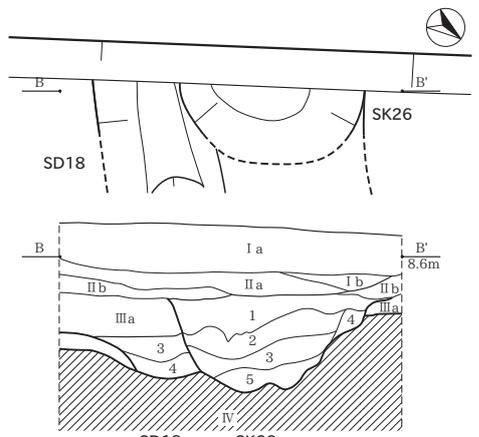
SK4
1 黒色粘質シルト (2.5YR2/1) 粘性・しまり共にやや強い。
2 灰黄色シルト (2.5Y7/2) 粘性・しまり共にやや強い、IV層小ブロック状に混入。



SK12
1 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/2) 粘性・しまり共にやや強い、IIIa層質腐食土。
2 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/2) 粘性・しまり共にやや強い、IVb層ブロック状に混入、やや褐色。
3 淡黄色シルト (2.5Y7/4) 粘性・しまり共にやや強い、斜面流入土。

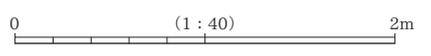


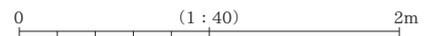
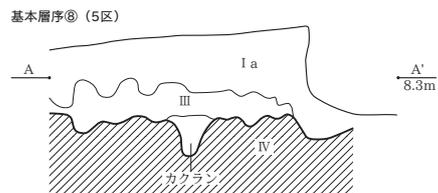
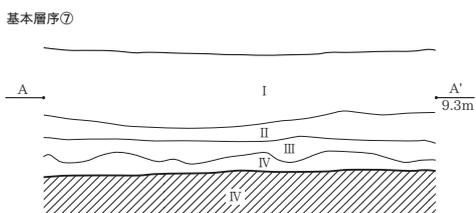
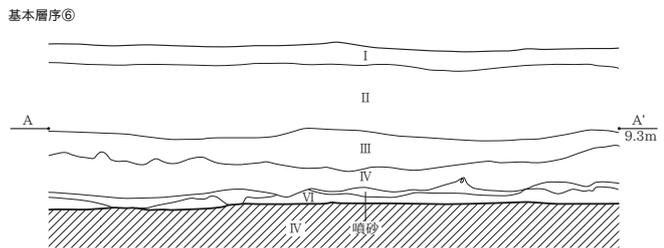
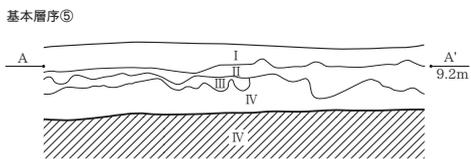
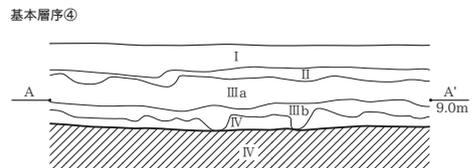
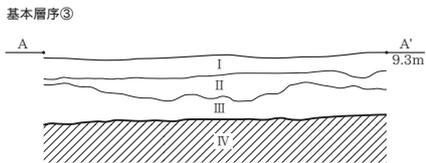
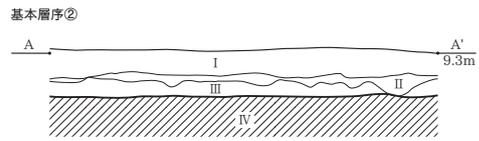
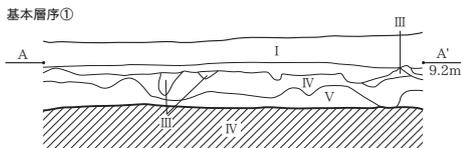
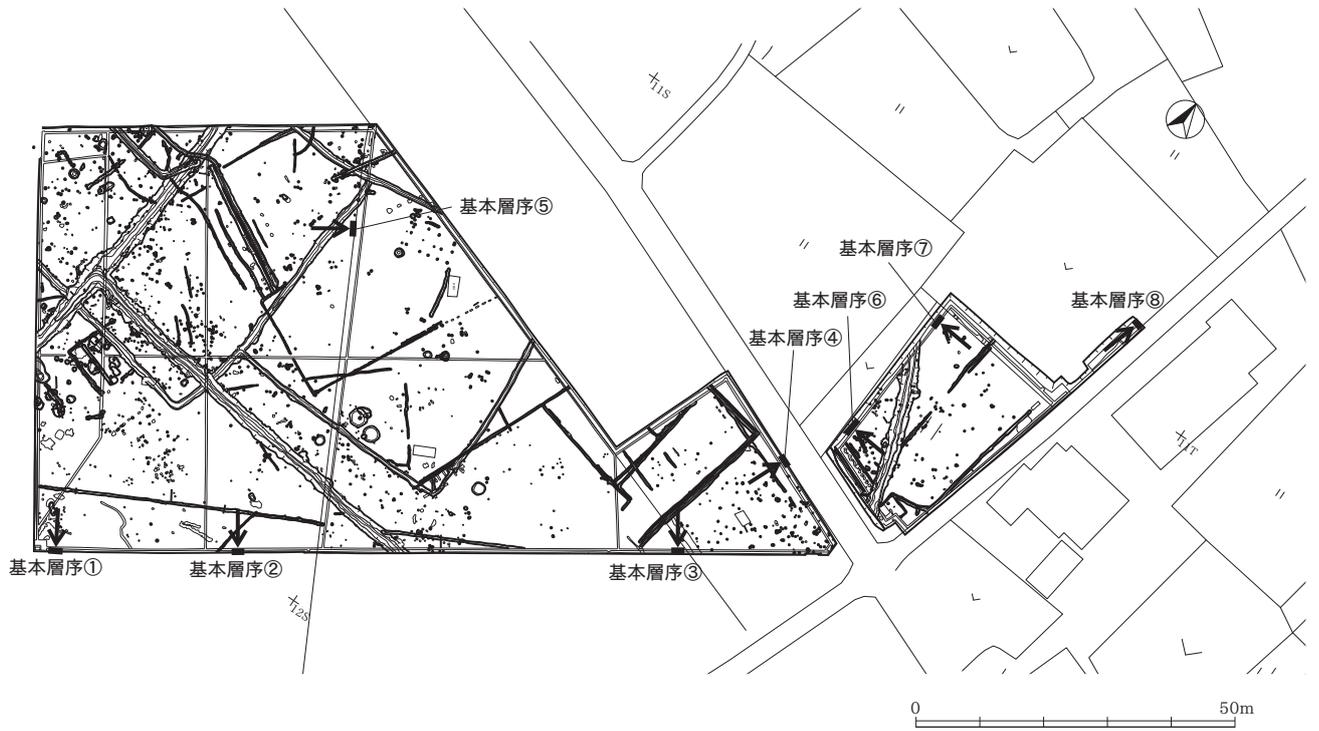
SK13
1 淡黄色粘質シルト (2.5Y8/4) 粘性・しまり共にやや強い、IV層ブロック状に多量混入。
2 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い。
3 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) 粘性・しまり共にやや強い、IV層ブロック状に少量混入。
4 淡黄色シルト (7.5Y8/3) 粘性・しまり共にやや弱い、III層マーブル状に混入。
5 黒色シルト (N2/0) 粘性やや弱い、しまりやや強い、III層ブロック状に混入。



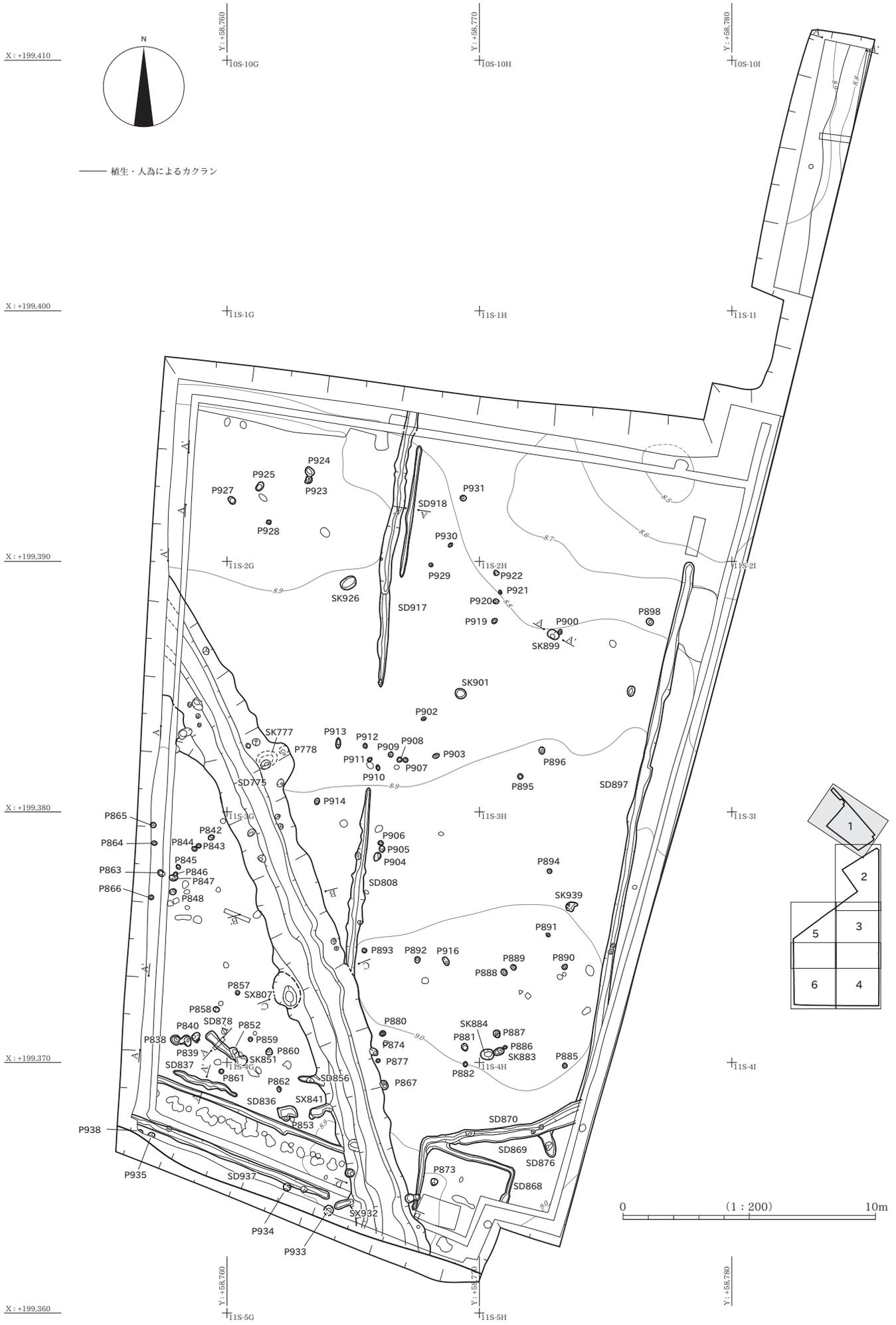
SK26
1 青灰色粘質シルト (5B5/1) 粘性・しまり共にやや強い、灰色粘土、灰白色細砂ブロック状に混入。
2 暗緑灰色細砂 (10G4/1) 粘性やや強い、しまり弱い、暗色粘土ブロック状に混入。
3 暗青粘質シルト (5PB3/1) 粘性・しまり共にやや強い、灰色粘土ブロック状に混入。
4 暗青灰色細砂 (5B4/1) 粘性やや強い、しまり弱い、灰色粘土ブロック状に混入。
5 青黒色粘質シルト (5PB2/1) 粘性やや弱い、しまり弱い、IV層ブロック状に混入。

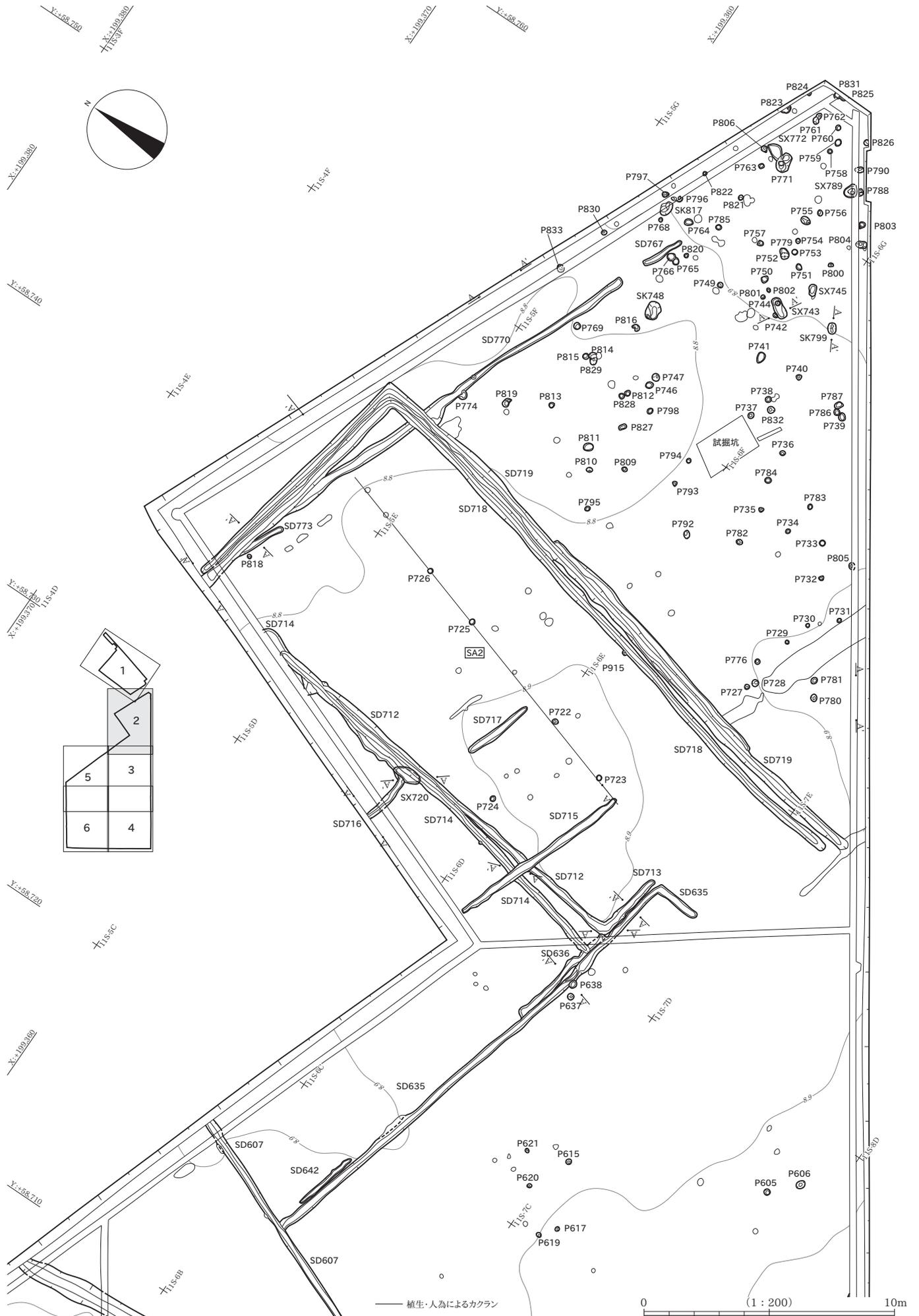
SX20
1 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/2) 粘性・しまり共にやや強い、白色粘土大ブロック状に混入。
2 灰白色粘土 (10Y7/1) 粘性・しまり共に強い、酸化鉄分多し。
3 灰白色粘質シルト (7.5Y8/1) 粘性強い、しまりやや強い。

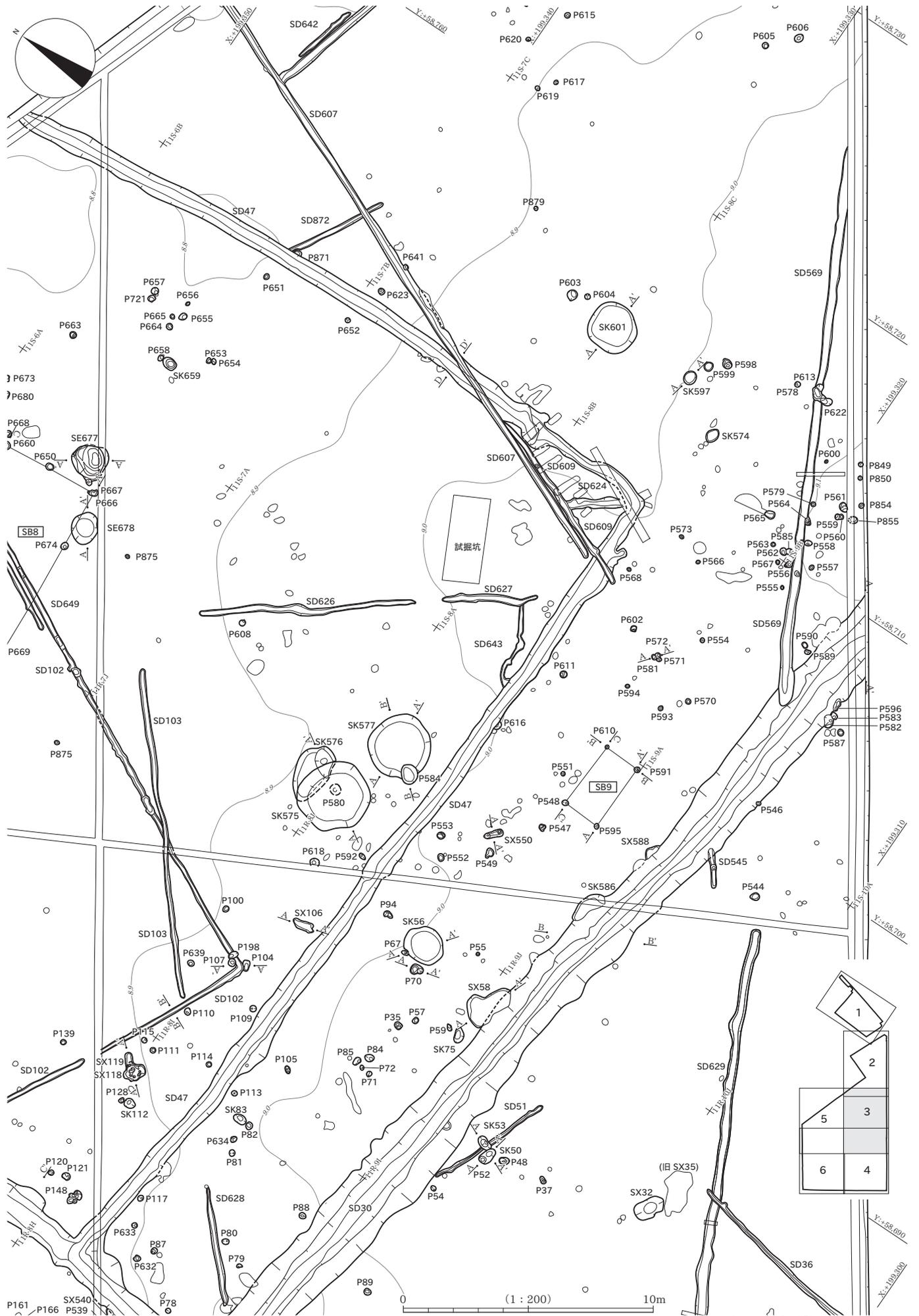


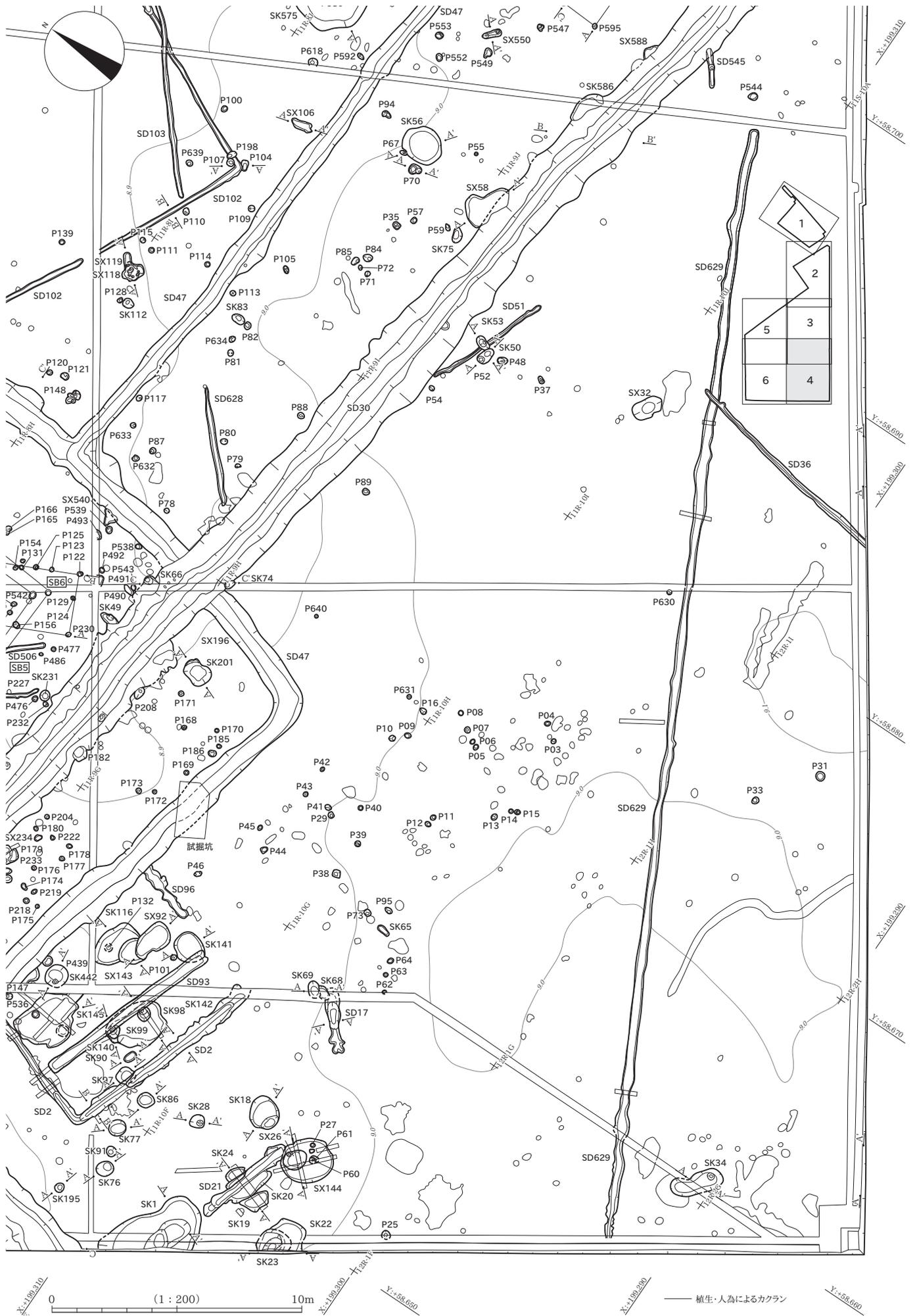


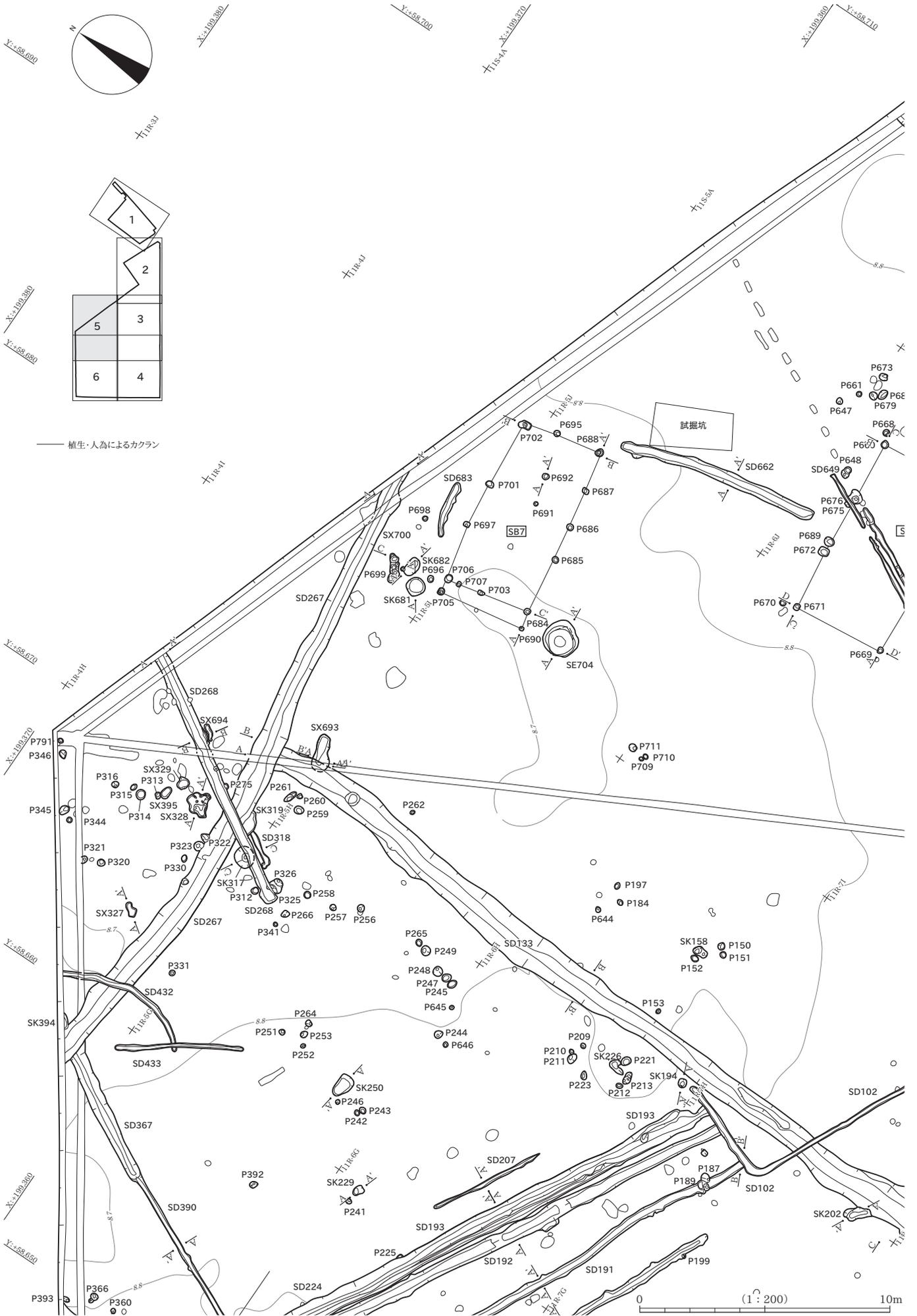




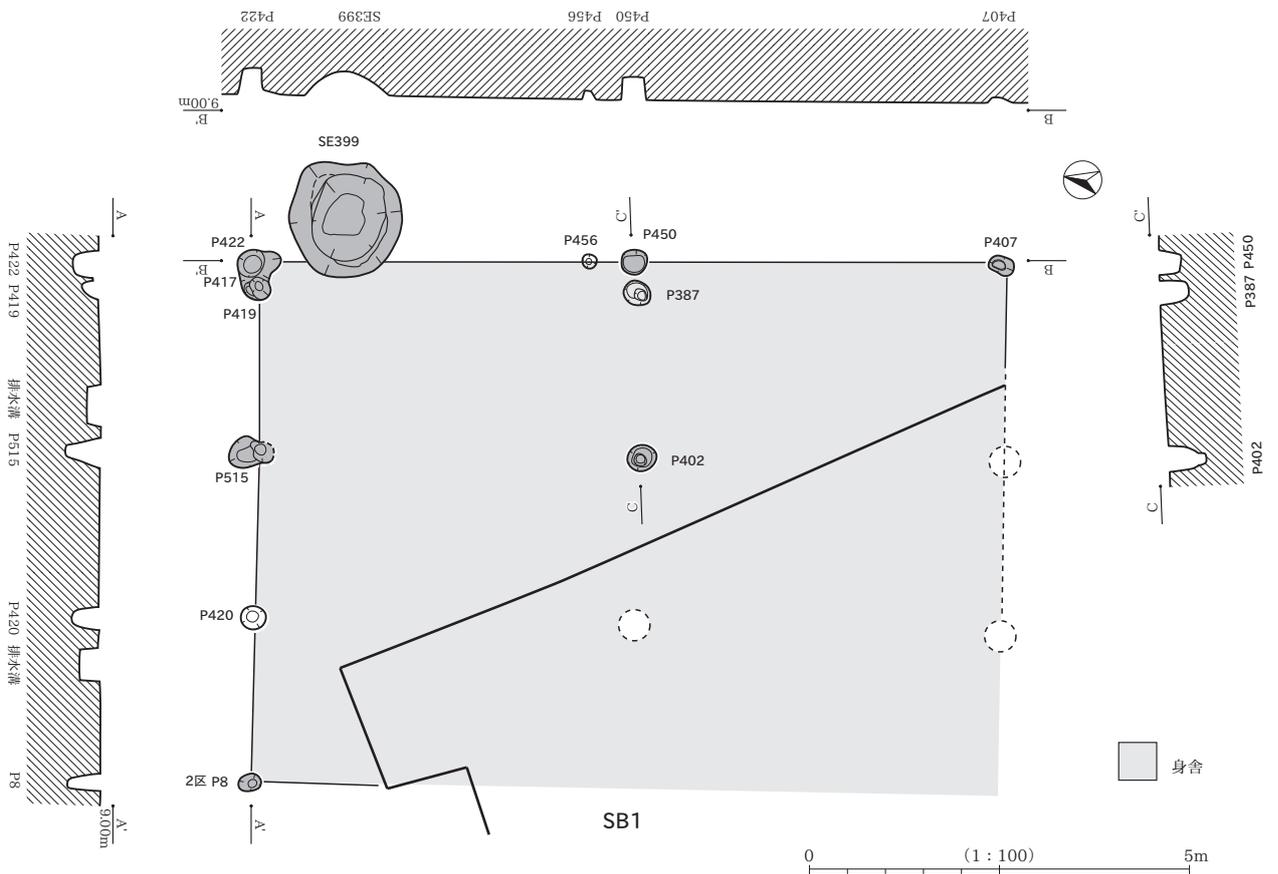
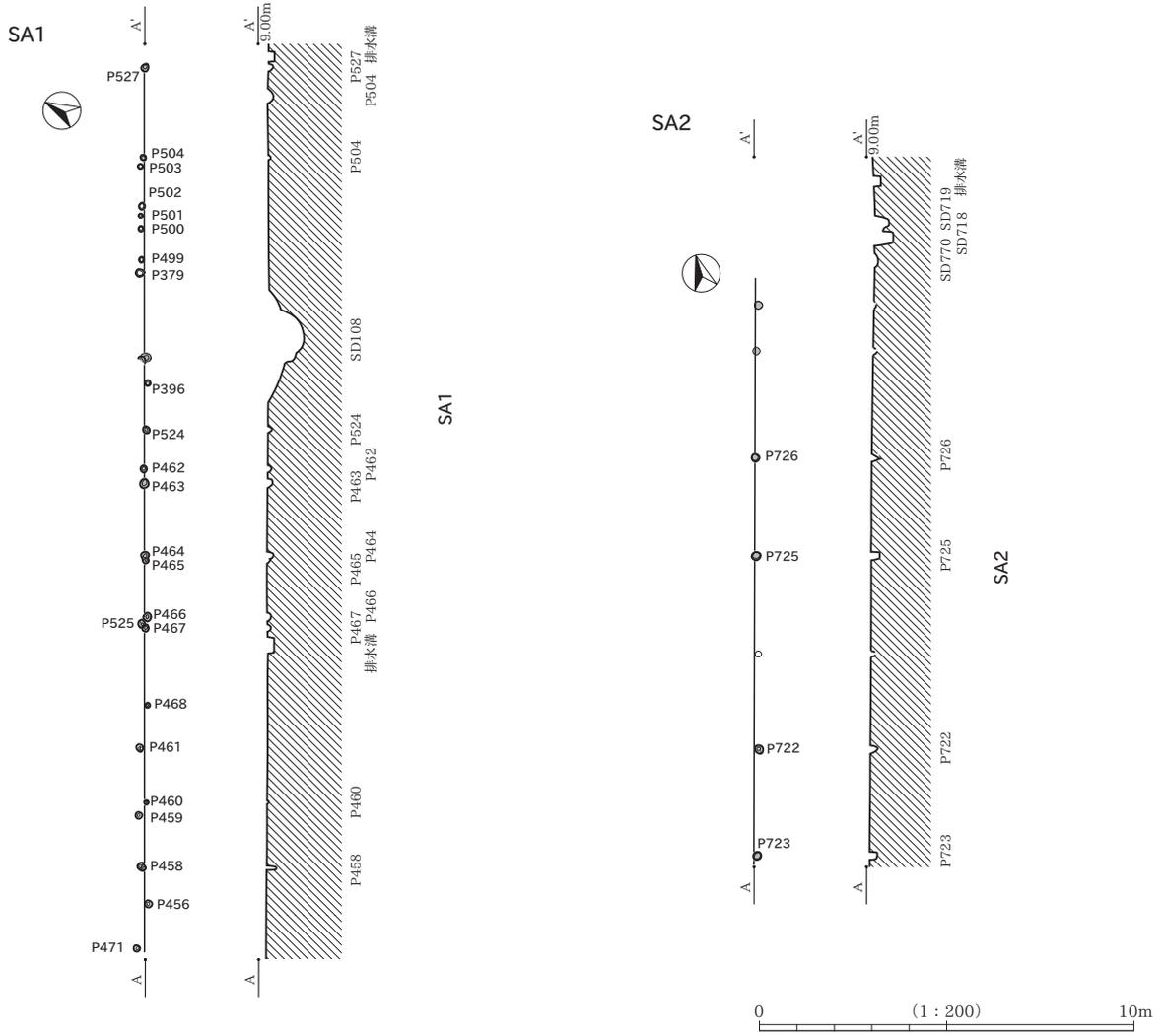


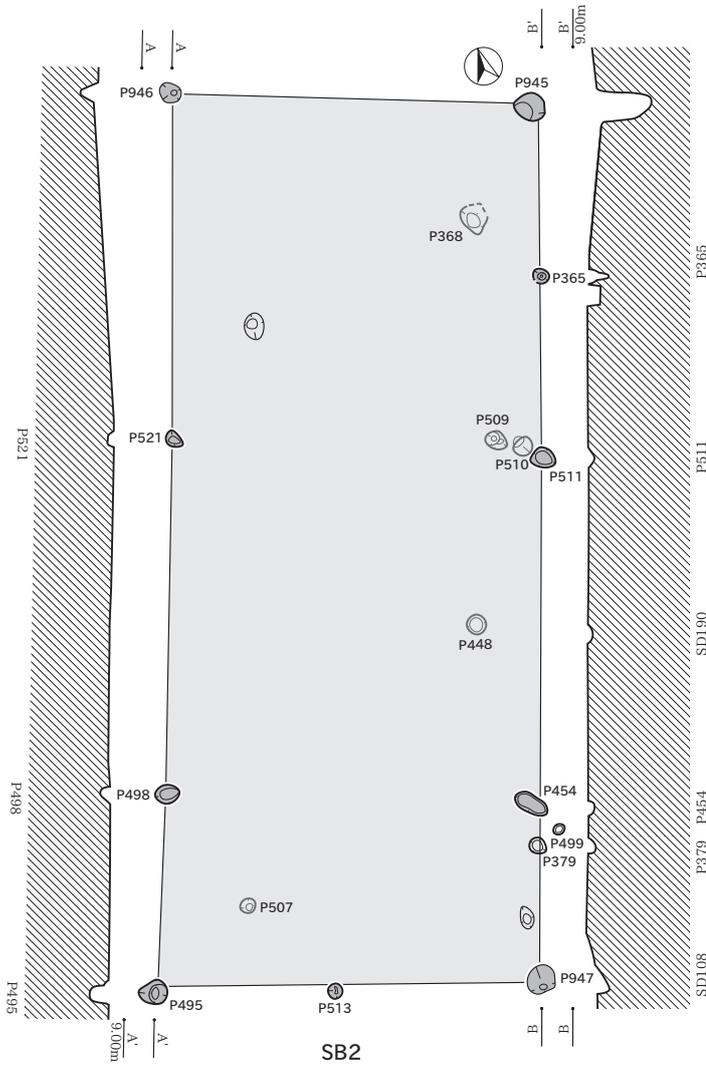




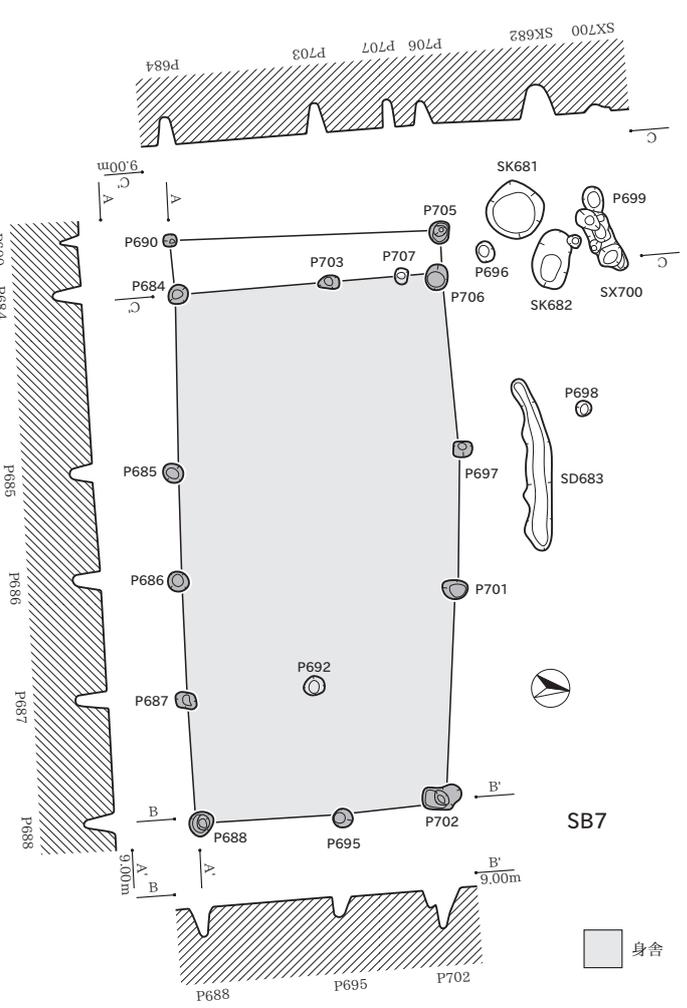






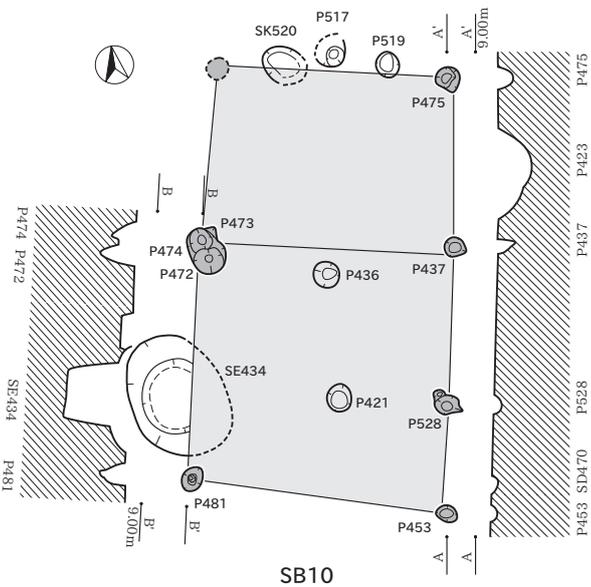


SB2

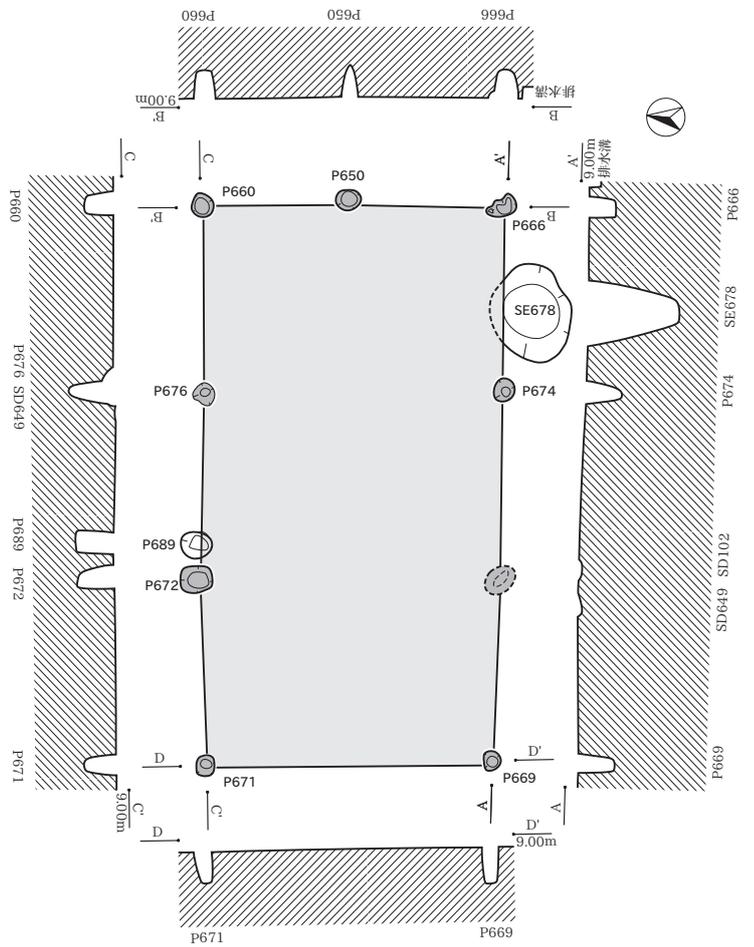


SB7

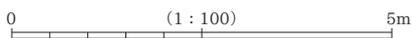
身舎

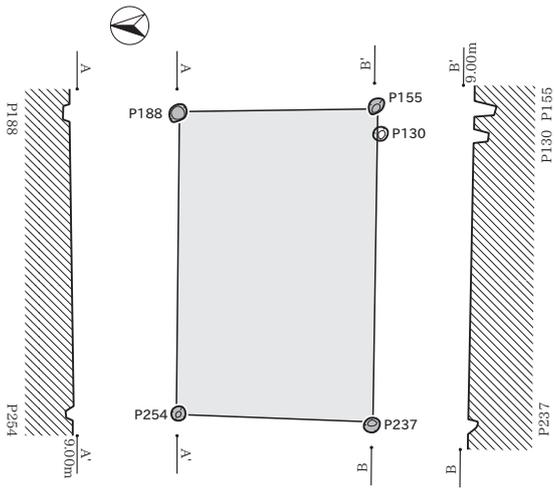


SB10

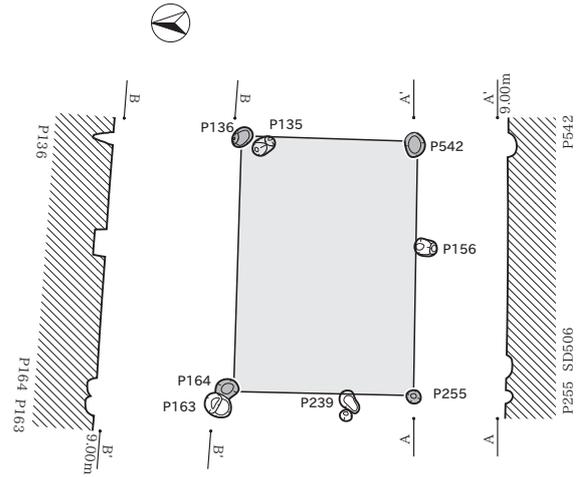


SB8

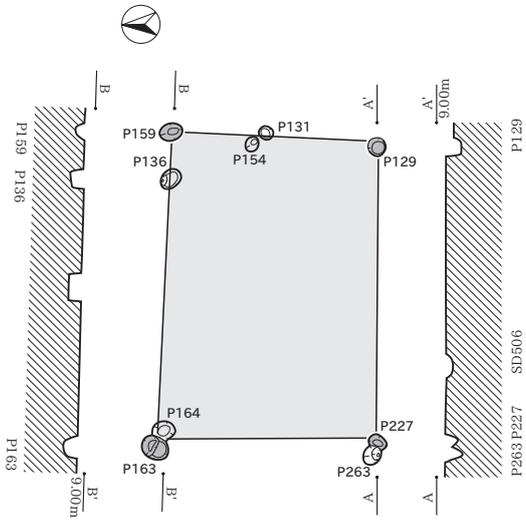




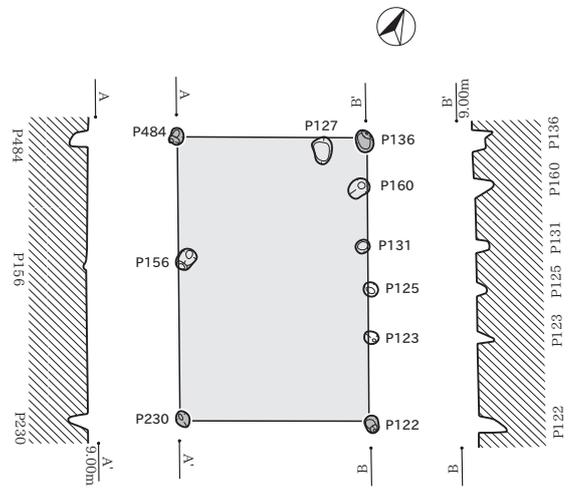
SB3



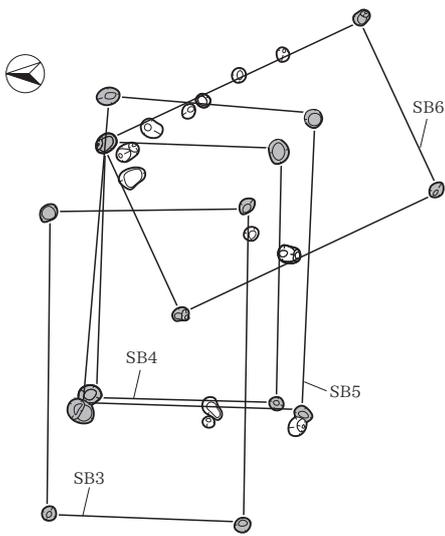
SB4



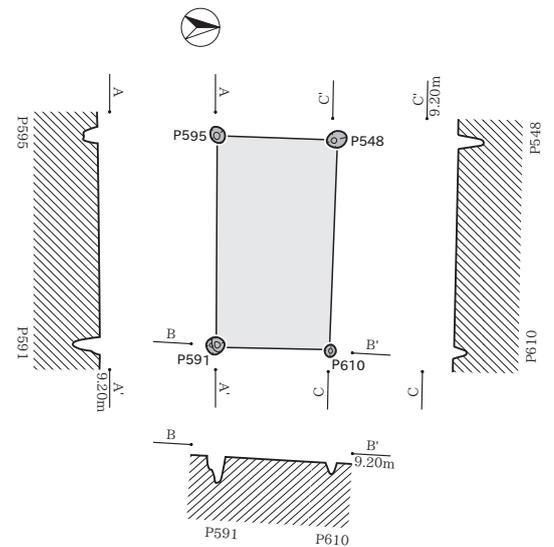
SB5



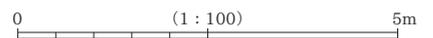
SB6

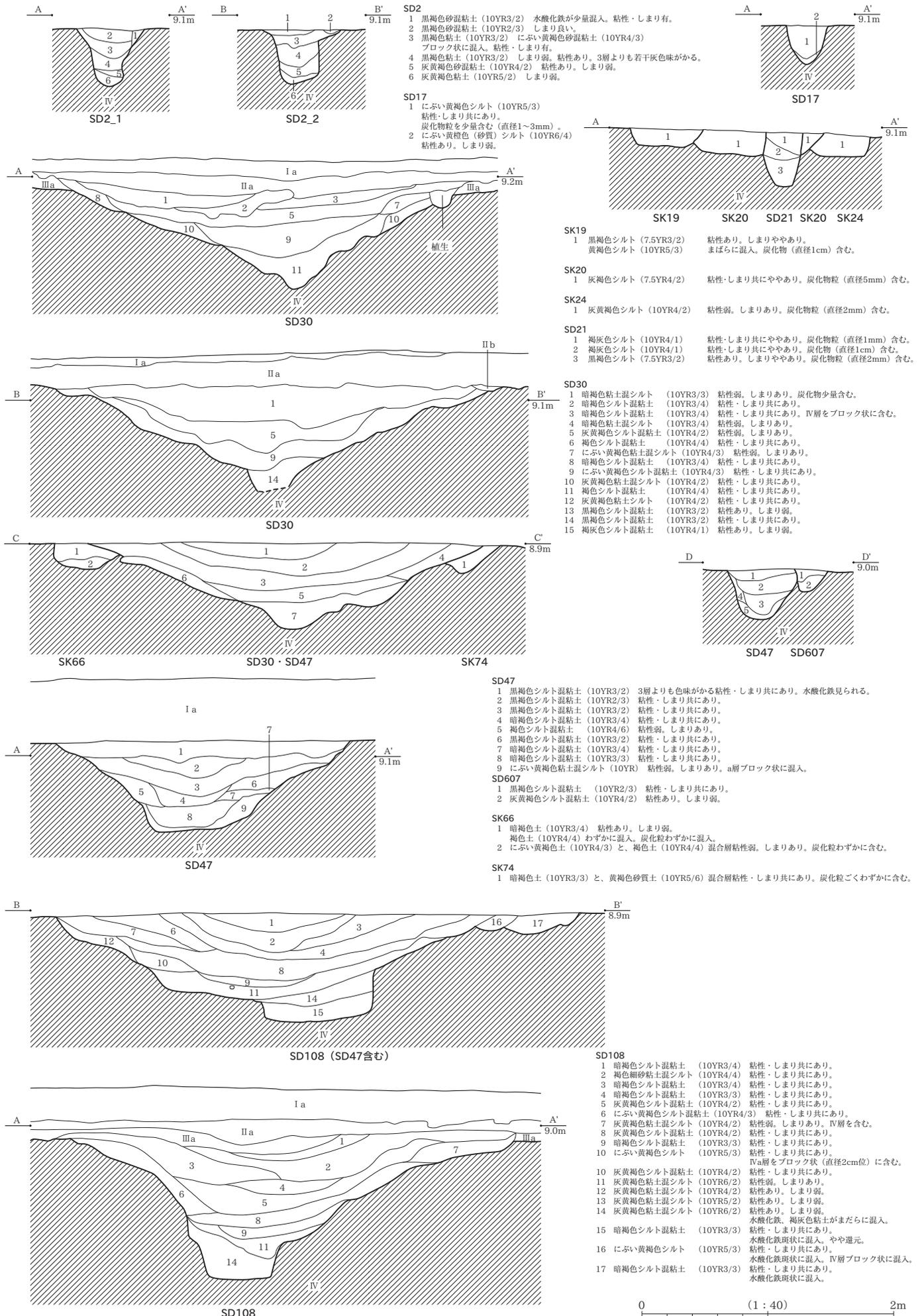


SB3~6重複関係

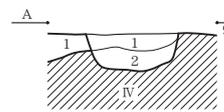
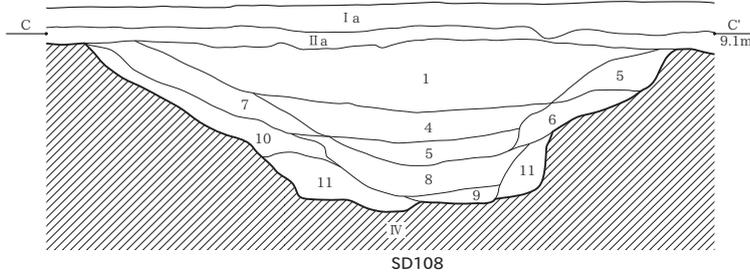
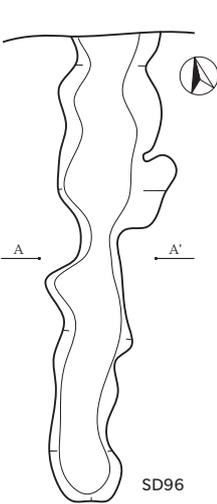
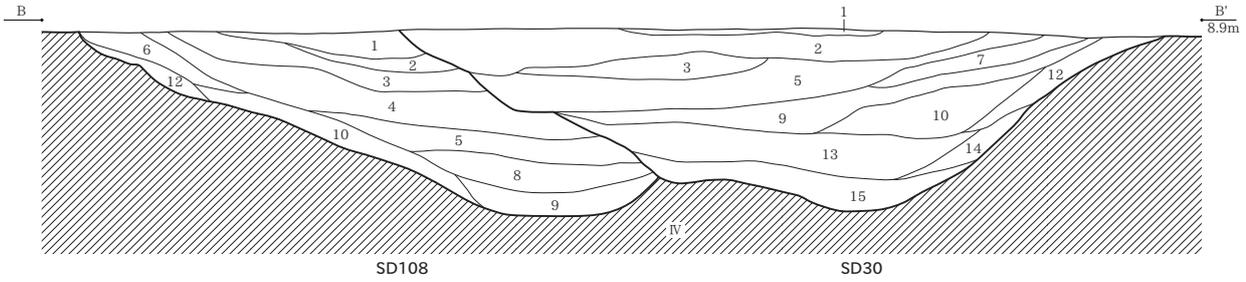


SB9

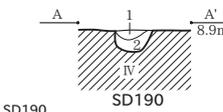




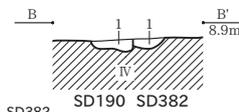
0 (1:40) 2m



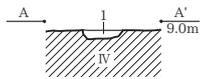
SD93
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり。しまりあり。IVa層を斑状に含む。
 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり。しまりありを主体とし、IV層を斑状に含む。



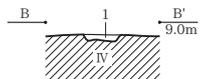
SD190
 1 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 2 にぶい褐色粘土混砂 (10YR7/4) 粘性・しまり共にあり。



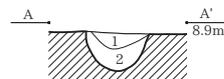
SD382
 1 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。



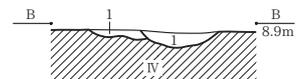
SD96
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性・しまり共にややあり。IV層 (にぶい褐色) 斑状に混入。



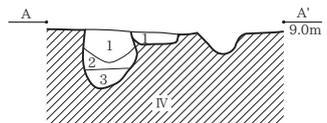
SD102
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性・しまり共にあり。褐色土粒 (10YR4/4) わずかに混入。



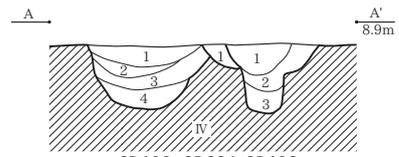
SD191



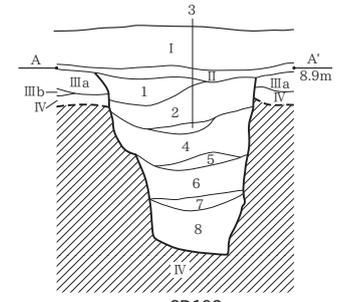
SD191
 1 黒褐色混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 2 暗褐色砂混粘土 (10YR3/3) IVa層ブロック状に混入。



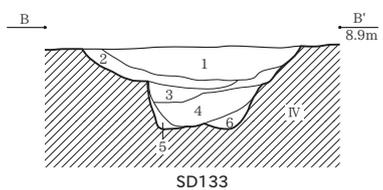
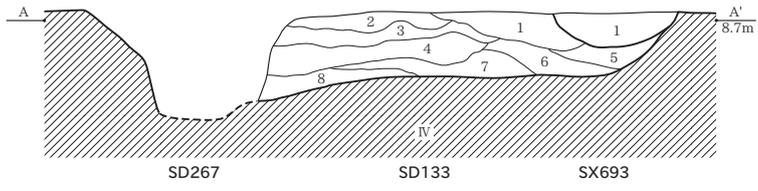
P104
 1 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。褐色土粒 (10YR4/4) わずかに混入。
 2 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。褐色土粒 (10YR4/4) わずかに混入。
 3 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。褐色砂質土 (10YR4/4) ブロック状に混入。



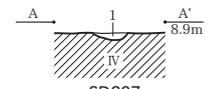
SD192
 1 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり。しまり弱。
 2 灰黄褐色粘土 (10YR4/2) 粘性あり。しまり非常に弱い。
 3 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性あり。しまり非常に弱い。
 4 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。
SD224
 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。



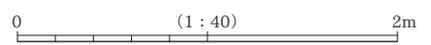
SD193
 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性弱。しまりあり。
 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IV層ブロック状に混入。
 3 褐灰色シルト混粘土 (10YR4/1) 粘性・しまり共にあり。
 4 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IV層ブロック状に混入。
 5 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/1) 粘性あり。しまり弱。
 6 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性あり。しまり弱。
 7 褐灰色粘土混シルト (10YR4/1) 粘性あり。しまり弱。
 8 褐灰色粘土混シルト (10YR4/1) 粘性あり。しまり弱。III層土ブロック状に混入。

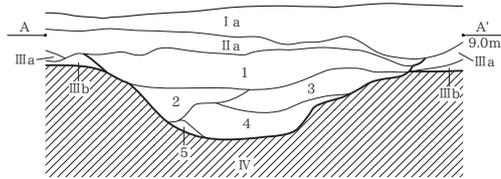


SD133
 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/4) 粘性あり。しまり弱。
 2 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性あり。しまり弱。
 3 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/4) 粘性あり。しまり弱。暗褐色粘土が斑状に混入。
 4 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性・しまり共に弱。暗褐色粘土が斑状に混入。
 5 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性・しまり共に弱。暗褐色粘土が斑状に混入。
 6 褐色細砂混シルト (10YR4/6) 粘性弱。しまりあり。
 7 暗褐色粘土混シルト (10YR3/4) 粘性・しまり共に弱。
 8 暗褐色細砂混シルト (10YR3/4) 粘性・しまり共に弱。

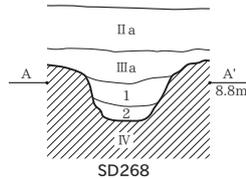


SD207
 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。濃いブロックが断続的に入る覆土。床土が入ったものか、新しいものと思われる。





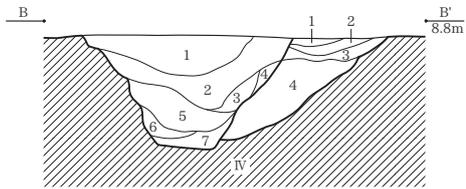
SD267



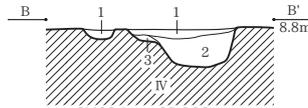
SD268

SD268

- 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IVa層ブロック状に混入。
- 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。



SD267 SD133

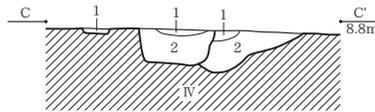


SX694 SD268

SX694

- 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IVa層ブロック状に混入。

- SD267
- 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
- 2 に近い黄褐色シルト混粘土 (10YR4/3) 粘性・しまり共にあり。
- 3 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性・しまり共にあり。
- 4 に近い黄褐色シルト混粘土 (10YR4/3) 粘性・しまり共にあり。
- 5 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性・しまり共にあり。
- 6 に近い黄褐色シルト混粘土 (10YR5/3) 粘性・しまり共にあり。
- 7 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性・しまり共にあり。



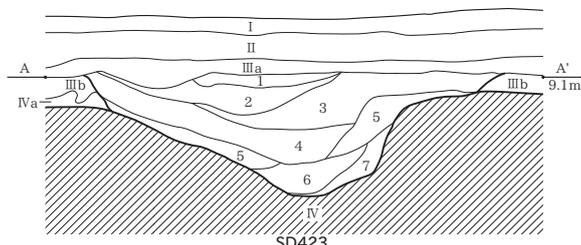
SD318 SD268 SK317

SK317

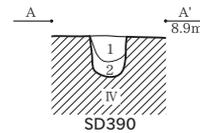
- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/4) 粘性・しまり共にあり。
- 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。地山褐色土がブロック状少量混入。

SD318

- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。やや灰色味かる。



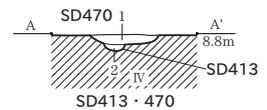
SD423



SD390

SD390

- 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/1) 粘性・しまり共にあり。
- 2 褐色シルト (10YR4/4) 粘性あり。しまり弱。IV層粘土ブロック状に混入。



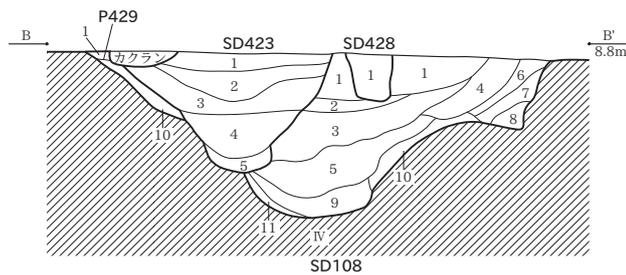
SD413・470

SD470

- 1 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性あり。しまり弱。

SD413

- 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
- 2 褐色シルト (10YR4/4) 粘性あり。しまりやや弱い。



SD108

- SD428
- 1 黒色粘質シルト (7Y2/1) 粘性・しまり共にあり。ガツボを含む。

SD635

- 1 褐色シルト混粘土 (10YR4/1) 粘性・しまり共にあり。

SD636

- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。

P638

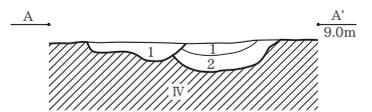
- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。

SD662

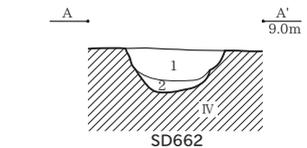
- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
- 2 褐色シルト (10YR4/1) 粘性・しまり共にあり。



P638 SD635 SD636



SD635 SD712



SD662

- SD423
- 1 淡黄色粘質シルト (2.5Y7/3) 粘性・しまり共にあり。IIIa層を斑状に含む。
- 2 灰黄色粘質シルト (2.5Y7/2) 粘性あり。しまりやや弱。
- 3 灰色粘質シルト (5Y4/1) 粘性・しまり共にあり。炭化物を含む。
- 4 オリーブ黒色粘質シルト (5Y4/1) 粘性・しまり共にあり。ガツボ、炭化物を含む。
- 5 灰色粘質シルト (5Y4/1) 粘性・しまり共にあり。IV層土を斑状に含む。
- 6 オリーブ黒色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性弱。しまりやや弱。炭化物を含む。細砂を帯状に含む。
- 7 オリーブ黒色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性弱。しまりやや弱。IV層土をブロック状に含む。斜面流入土。

SD712

- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
- 2 褐色シルト混粘土 (10YR4/1) 粘性・しまり共にあり。

SD713

- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
- 2 褐色シルト混粘土 (10YR4/1) 粘性・しまり共にあり。

SD714

- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。IVa層ブロック状に混入。
- 2 褐色シルト混粘土 (10YR4/1) 粘性・しまり共にあり。

SD715

- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。IVa層ブロック状に混入。

SD716

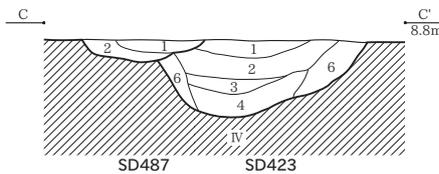
- 1 灰黄褐色粘土 (10YR4/2) 粘性弱。しまりあり。
- 2 褐色粘土 (10YR4/1) 粘性弱。しまりあり。
- 3 灰オリーブシルト (5Y4/2) 粘性弱。しまりあり。

SD718

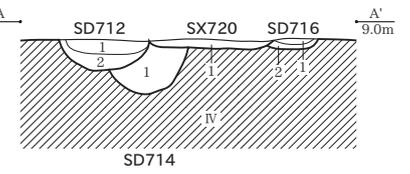
- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
- 2 褐色シルト混粘土 (10YR4/1) 粘性・しまり共にあり。

SX720

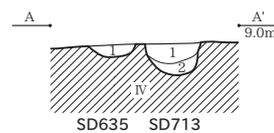
- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。IVa層ブロック状に混入。



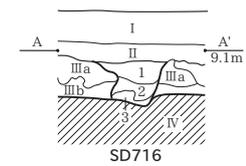
SD487 SD423



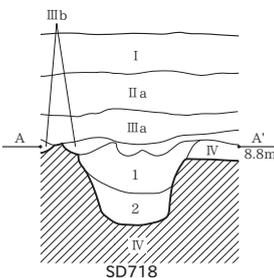
SD714



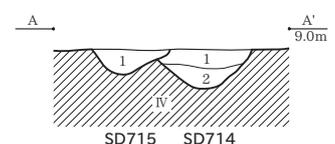
SD635 SD713



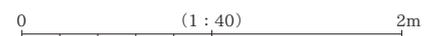
SD716

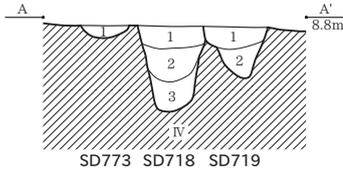


SD718

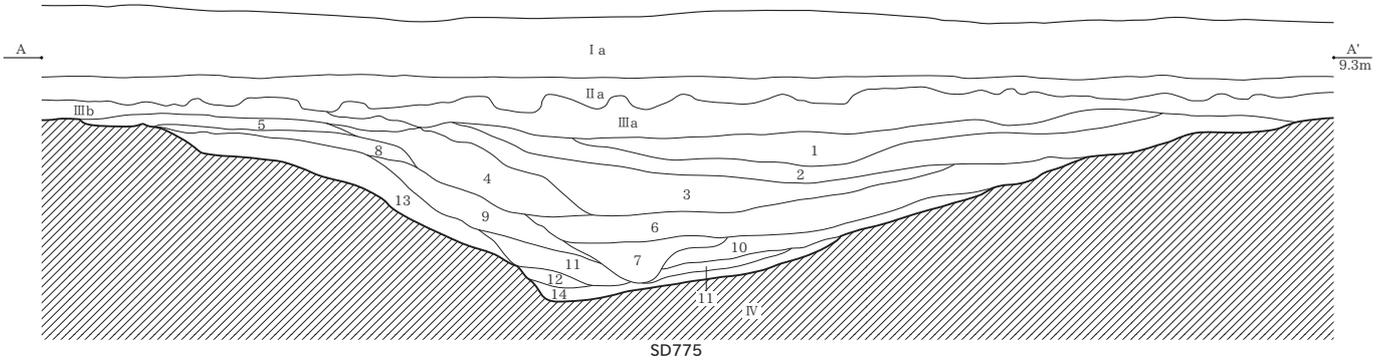


SD715 SD714



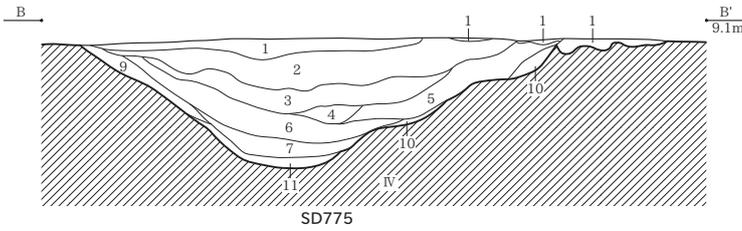


- SD773**
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性・しまり共にあり。ブロック状の暗褐色粘土混入。
- SD718**
 1 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性・しまり共にあり。水酸化鉄少量分布。
 2 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり。しまり弱。
 3 灰黄褐色粘土混シルト (10YR5/2) 粘性あり。しまり弱。
- SD719**
 1 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性あり。しまり弱。水酸化鉄少量分布。
 2 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり。しまり弱。

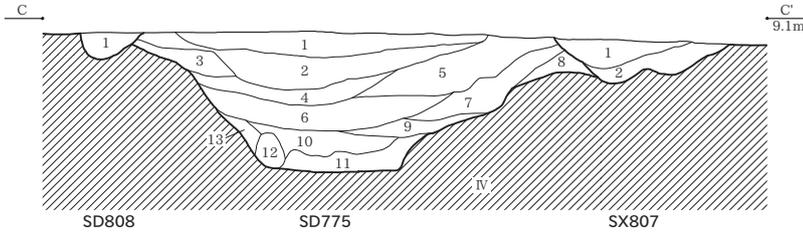


SD775

- SD775**
- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
 2 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。1層よりもやや暗い。
 3 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。2層よりも暗く、粘性が強い。
 4 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 5 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
 6 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/4) 粘性あり。しまり弱。
 7 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性あり。しまり弱。若干灰色を呈する。
 8 黒褐色シルト混粘土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。
 9 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 10 にぶい黄褐色シルト混粘土 (10YR4/3) 粘性あり。しまり弱。水酸化鉄を少量含む。
 11 にぶい黄褐色シルト混粘土 (10YR4/3) 粘性あり。しまり弱。
 12 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性あり。しまり弱。水酸化鉄を少量含む。
 13 暗褐色シルト混粘土 (10YR6/6) 粘性非常に強い。しまり弱。
 14 にぶい黄褐色粘土混シルト (10YR5/4) 粘性・しまり共に弱。水酸化鉄を少量含む。
 15 にぶい黄褐色シルト混粘土 (10YR4/3) 粘性あり。しまり弱。水酸化鉄を少量含む。



SD775

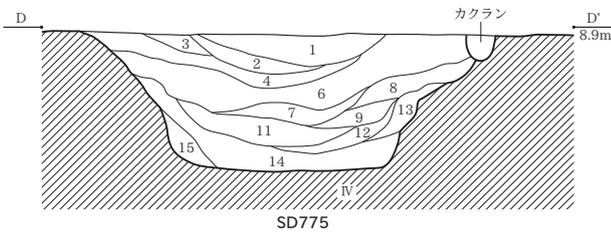


SD808

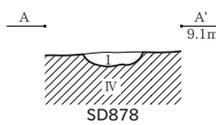
SD775

SX807

- SD808**
 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
- SX807**
 1 暗褐色粘土混シルト (10YR3/3) 粘性あり。しまり弱。
 2 褐色細砂シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性あり。しまり弱。

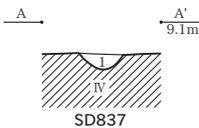


SD775



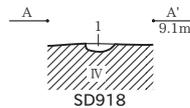
SD878

- SD878**
 1 にぶい褐色砂質シルト (7.5YR5/4) 粘性弱。しまりあり。



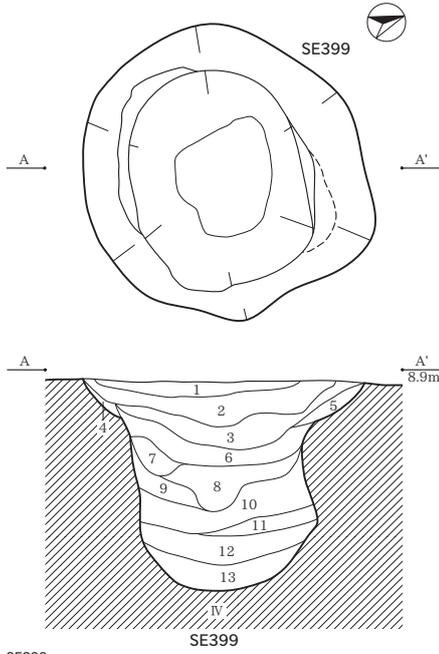
SD837

- SD837**
 1 にぶい褐色砂質シルト (7.5YR5/4) 粘性弱。しまりあり。

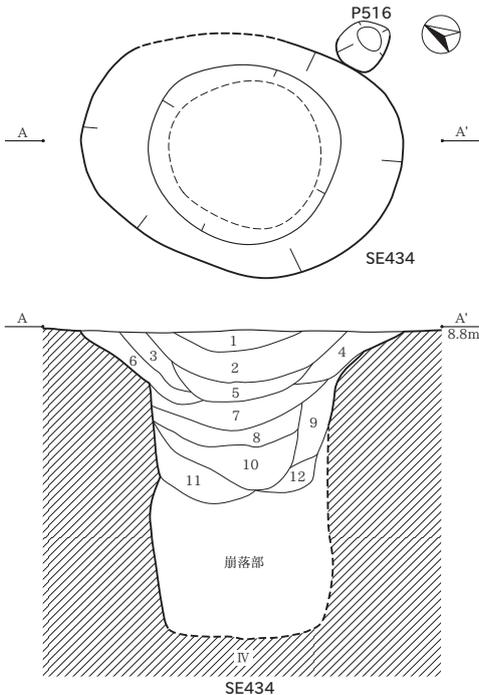


SD918

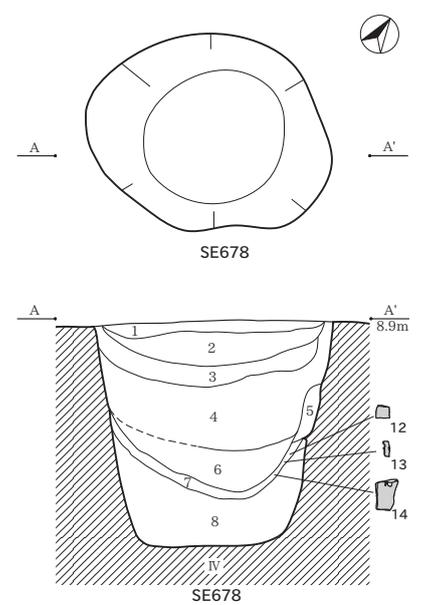
- SD918**
 1 暗褐色粘質土 (10YR3/4) 粘性・しまり共にあり。炭化粒わずかに含む。



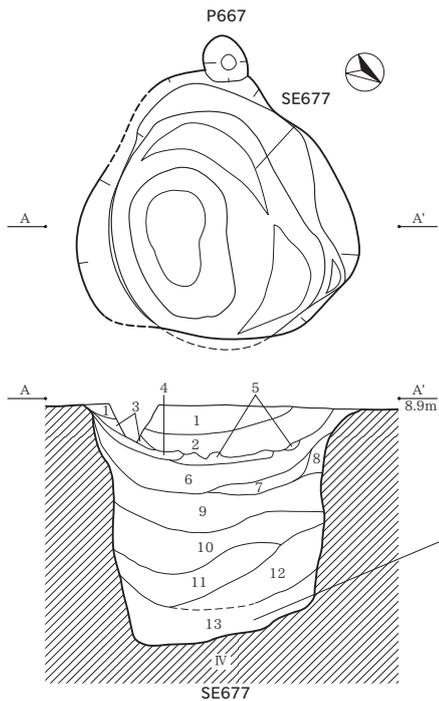
- SE399**
- 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。IV層が少量混入。
 - 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。IV層が少量混入。
 - 3 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IV層が多く混入。I層よりもやや明るい。
 - 4 褐色シルト (10YR4/4) 粘性弱。しまりあり。III層が斑状に混入。
 - 5 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性弱。しまりあり。
 - 6 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 - 7 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性あり。しまり弱。IV層ブロック状に混入。
 - 8 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。
 - 9 褐色粘土混シルト (10YR4/4) 粘性あり。しまり弱。IV層ブロック状に混入。
 - 10 暗褐色シルト混シルト (10YR3/3) 粘性あり。しまり弱。
 - 11 黒褐色シルト混粘土 (10YR2/2) 粘性あり。しまり弱。
 - 12 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性あり。しまり弱。
 - 13 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/1) 粘性あり。しまり弱。



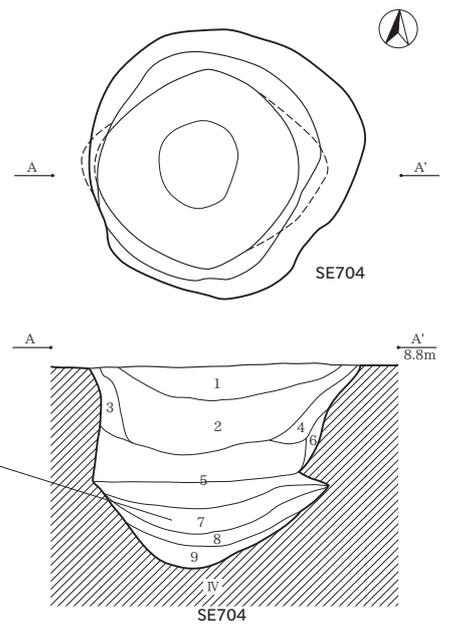
- SE434**
- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。炭化物少量含む。
 - 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。炭化粒少量含む。遺物を含む。
 - 3 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IV層ブロック状に含む。
 - 4 黒褐色粘土混シルト (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IV層ブロック状に含む。
 - 5 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。
 - 6 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IV層ブロック状に含む。
 - 7 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。
 - 8 黒褐色シルト混粘土 (10YR2/3) 粘性あり。しまり弱。IV層土をブロック状に含む。
 - 9 黒褐色 (10YR2/3) 粘性あり。しまり弱。IV層ブロック状に少量含む。
 - 10 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。
 - 11 褐色粘土混シルト 粘性・しまり共に弱。IV層と10層の混層。
 - 12 褐色粘土 (10YR4/1) と、黒褐色粘土 (10YR3/2) 混層 粘性あり。しまり非常に弱い。



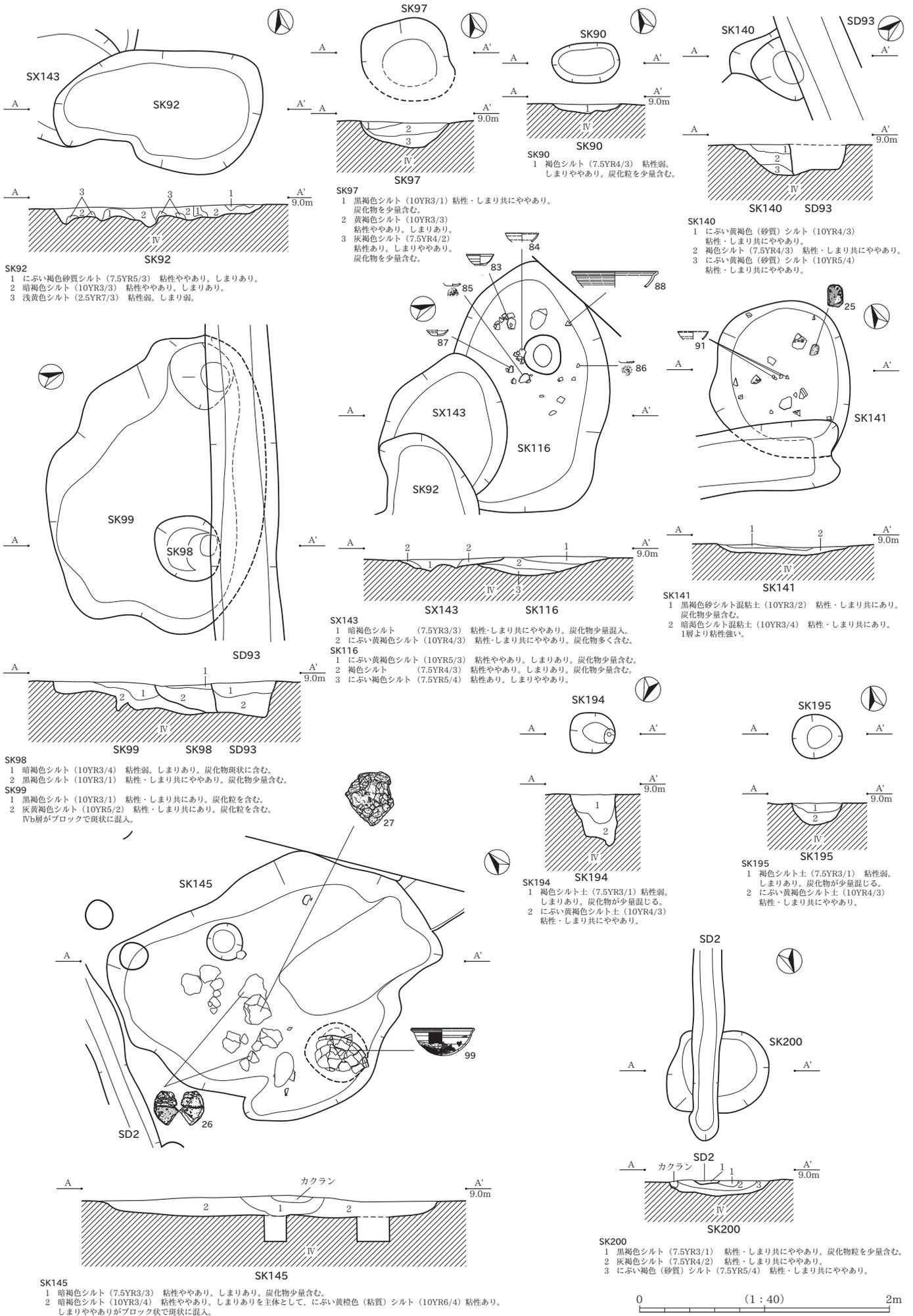
- SE678**
- 1 黒褐色粘土混シルト (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。水酸化鉄少量含む。
 - 2 暗褐色粘土混シルト (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。炭化粒少量含む。
 - 3 にぶい黄褐色シルト混粘土 (10YR4/3) 粘性あり。しまり弱。
 - 4 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性あり。しまり弱。
 - 5 にぶい黄褐色シルト混粘土 (10YR5/4) 粘性弱。しまりあり。
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強。しまりやや強。IV層ブロック状に含む。
 - 7 黒色炭化物混粘土 (10YR2/1) 粘性・しまり共に弱。炭化物を多く含む層。
 - 8 灰黄褐色粘土シルト (10YR4/2) 粘性・しまり共に弱。

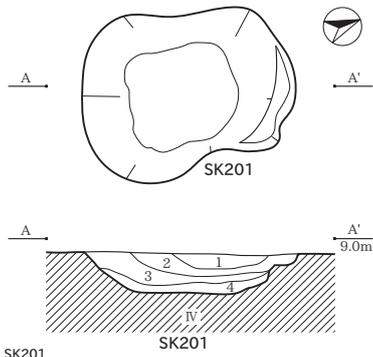


- SE677**
- 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性弱。しまりあり。
 - 2 褐色細砂 (10YR4/6) 粘性・しまり共に弱。
 - 3 黒褐色シルト混粘土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。
 - 4 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。
 - 5 褐色粘土シルト (10YR2/1) 粘性・しまり共に弱。炭化物を含む。
 - 6 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IV層を含む。
 - 7 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
 - 8 褐色細砂粘土混シルト (10YR4/4) 粘性あり。しまり弱。
 - 9 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 - 10 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 - 11 灰白色シルト (5Y8/2) 粘性あり。しまりやや強。ブロック堆積でIII層を斑状に含む。
 - 12 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 - 13 明緑灰色細砂 (7.5GY8/1) 粘性弱。しまりやや弱。IV層・III層のブロックを少量含む。

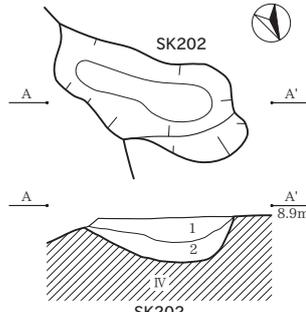


- SE704**
- 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 - 2 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
 - 3 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性・しまり共に弱。IV層が混入。
 - 4 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性あり。しまり弱。
 - 5 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。
 - 6 にぶい黄褐色粘土混シルト (10YR5/4) 粘性あり。しまり弱。
 - 7 黒色炭粘土混シルト (10YR2/1) 粘性あり。しまり弱。
 - 8 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/1) 粘性あり。しまり弱。
 - 9 灰黄褐色粘土混シルト (10YR4/2) 粘性あり。しまり弱。

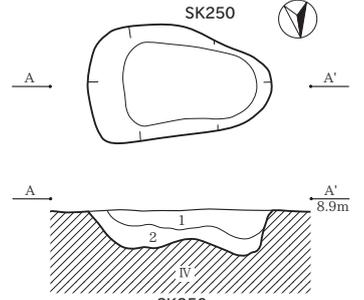




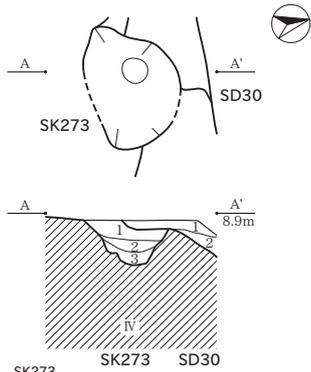
SK201
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性・しまり共にややあり。炭化粒を含む。
 2 灰褐色砂質シルト (7.5YR4/2) 粘性・しまり共にややあり。炭化粒を含む。
 3 にぶい黄褐色砂質シルト (10YR5/3) 粘性・しまり共にあり。炭化粒を含む。
 4 灰褐色砂質シルト (7.5YR5/2) 粘性あり。しまりややあり。炭化粒を含む。



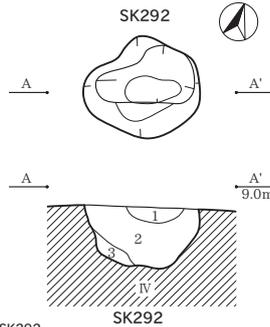
SK202
 1 褐色土 (10YR4/4) 粘性・しまり共にあり。炭化物やや多く含む。
 2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4) 粘性弱。しまりあり。炭化物ごくわずかに含む。



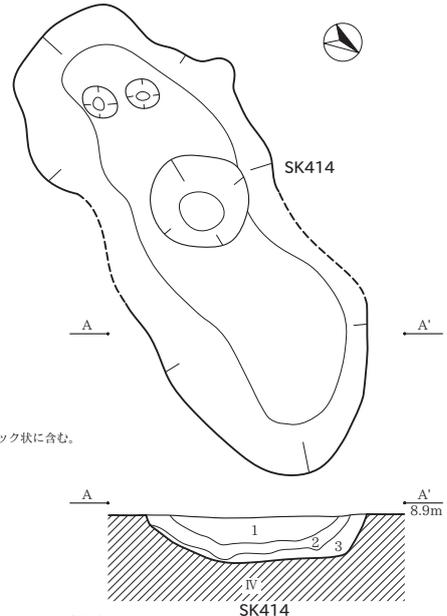
SK250
 1 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性・しまり共にあり。浅黄細砂が斑状に混入。
 2 黒褐色細砂混粘土 (10YR2/2) 粘性・しまり共にあり。



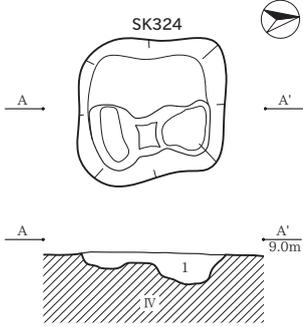
SK273
 1 暗褐色粘土混シルト (10YR3/3) 粘性弱。しまりあり。
 2 黒褐色細砂粘土混シルト (10YR3/2) 粘性弱。しまりあり。
 3 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 3層よりも灰色味が強い。粘性・しまり共にあり。



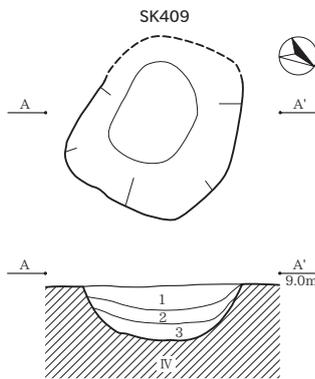
SK292
 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。
 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IV層をブロック状に含む。
 3 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。



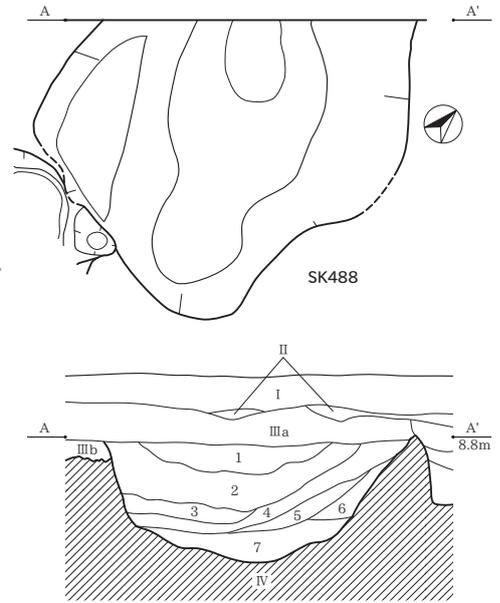
SK414
 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/1) 粘性・しまり共にあり。
 3 にぶい黄褐色粘土混シルト (10YR4/3) 粘性弱。しまりあり。



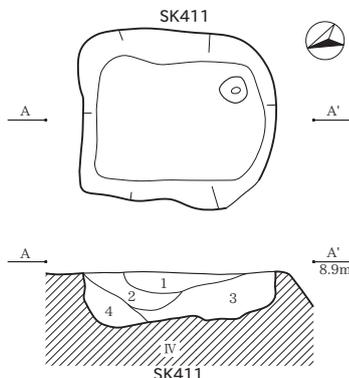
SK324
 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性弱。しまりあり。



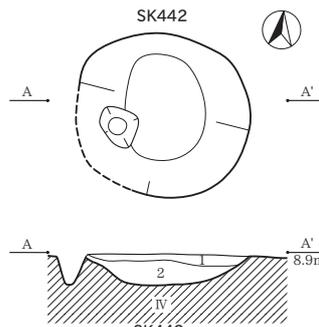
SK409
 1 黒褐色シルト混土 (10YR3/2) 粘性弱。しまりあり。
 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 黄褐色細砂混シルト (10YR4/5) の混層。粘性弱。しまりあり。
 3 褐色シルト (10YR4/6) 粘性弱。しまりあり。1層が少量混入。



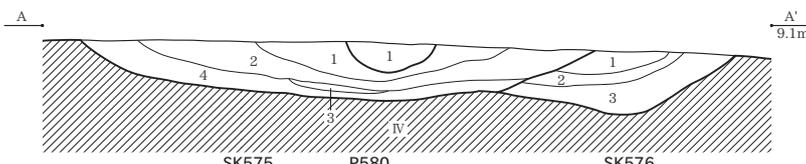
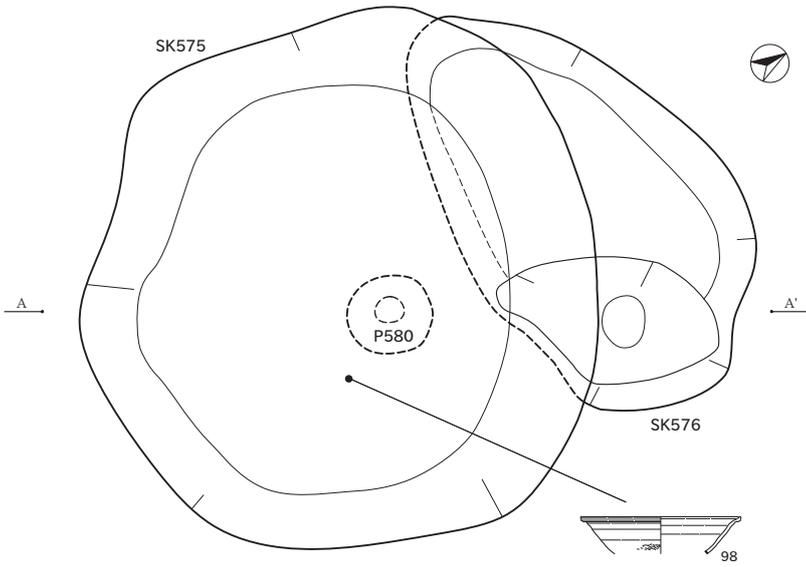
SK488
 1 灰黄色砂質シルト、III層混層 (2.5Y6/2) 粘性やや弱。しまりあり。
 2 浅黄色砂質シルト (2.5Y7/3) 粘性・しまりやや弱。III層土を斑状に含む。
 3 浅黄色砂質シルト (2.5Y7/3) 粘性・しまりやや弱。III層土を斑状に含む。
 4 浅黄色砂質シルト (2.5Y7/3) 粘性・しまりやや弱。III層土を斑状に含む。
 5 浅黄色砂質シルト (2.5Y7/3) 粘性・しまりやや弱。III層土を斑状に含む。
 6 浅黄色砂質シルト (2.5Y7/3) 粘性・しまりやや弱。III層土を斑状に含む。
 7 浅黄色砂質シルト (2.5Y7/3) 粘性・しまりやや弱。III層土を斑状に含む。



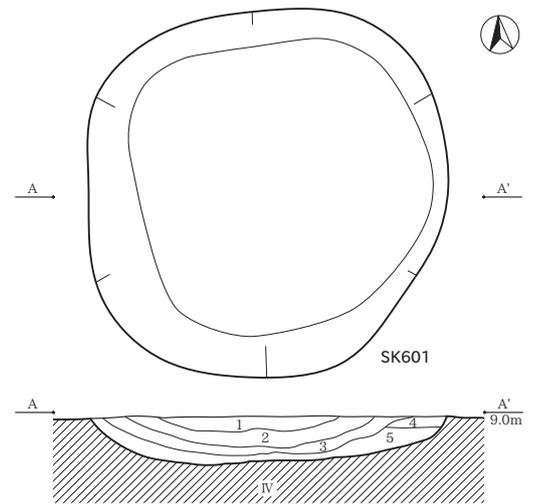
SK411
 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。IVa層が少量混入。
 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。地山褐色 (10YR4/4) 混入。
 3 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 4 黄褐色シルト (10YR5/6) 粘性弱。しまりあり。



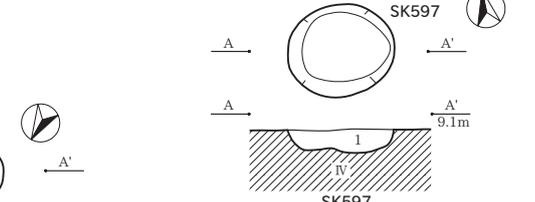
SK442
 1 にぶい黄褐色粘土混シルト (10YR4/3) 粘性・しまり共にあり。炭化物を少量含む。
 2 褐色シルト (10YR4/4) 粘性・しまり共に弱。細砂を斑状に含む。



- SK575**
- 1 黒色粘質シルト (10Y2/1) 粘性あり。しまりやや弱。腐食強い。炭化物・灰を含む。
 - 2 灰黄色砂質シルト (2.5Y6/2) 粘性弱。しまりやや弱。炭化物を含む。
 - 3 灰黄色細砂 (2.5Y6/2) 粘性・しまり共に弱。炭化物を含む。
 - 4 灰黄色シルト (2.5Y7/2) 粘性・しまり共に弱。炭化物をわずかに含む。
- SK576**
- 1 灰黄色砂質シルト (2.5Y6/2) 粘性弱。しまりやや弱。炭化物を含む。
 - 2 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性・しまり共に弱。炭化物をわずかに含む。
 - 3 灰黄色シルト (2.5Y7/2) 粘性・しまり共に弱。
- P580**
- 1 灰色粘質シルト (5Y4/1) 粘性・しまり共にあり。IV層を斑状に含む。



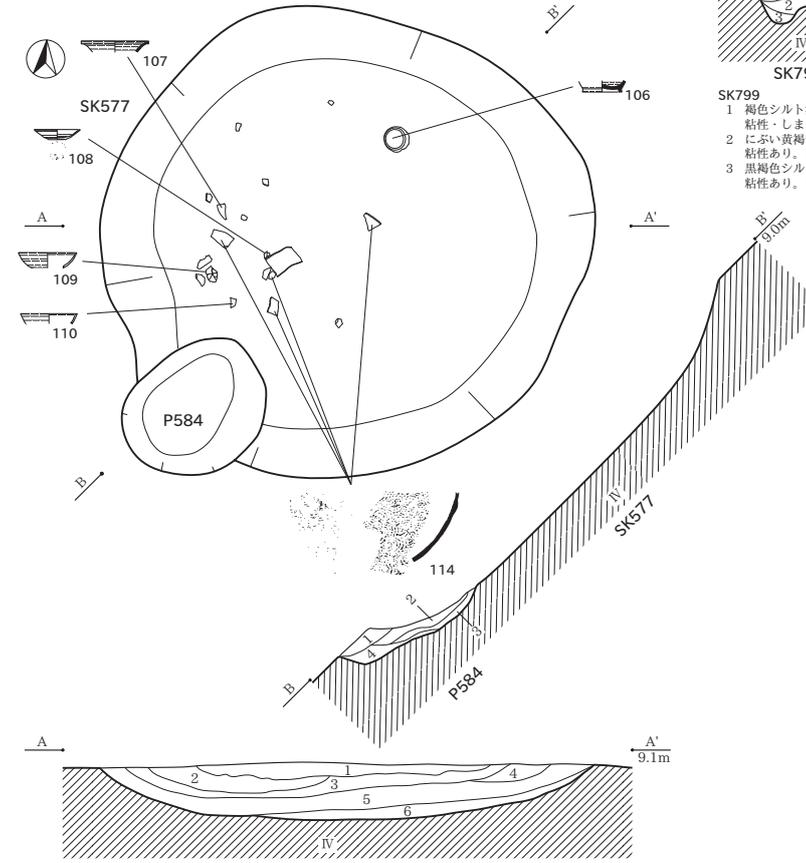
- SK601**
- 1 黒色粘土混シルト (10YR2/1) 粘性弱。しまりあり。
 - 2 黒褐色粘土混シルト (10YR2/2) 粘性弱。しまりあり。
 - 3 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
 - 4 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性・しまり共にあり。
 - 5 にぶい黄褐色シルト混粘土 (10YR4/3) 粘性・しまり共にあり。



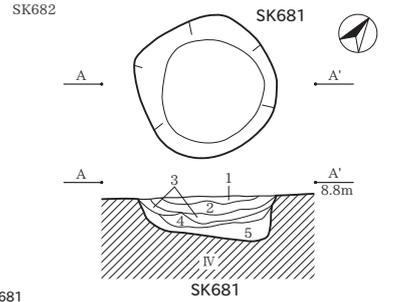
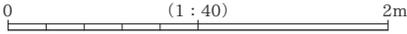
- SK597**
- 1 灰黄褐色シルト混粘土 (10YR4/2) 粘性・しまり共にあり。水酸化鉄少量含む。



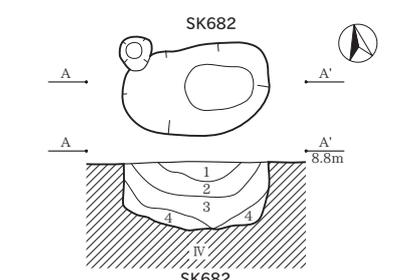
- SK799**
- 1 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性・しまり共にあり。
 - 2 にぶい黄褐色シルト混粘土 (10YR4/3) 粘性あり。しまり弱。
 - 3 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。



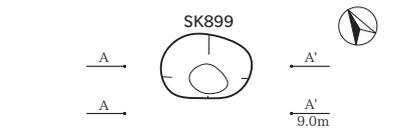
- SK577**
- 1 黒色粘土混シルト (10YR1.7/1) 粘性なし。しまり弱。赤褐色焼土を含む。全体に炭化物を含む。
 - 2 黒褐色粘土混シルト (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。3層よりやや赤味強い。
 - 3 黒褐色粘土混シルト (10YR2/3) 粘性あり。しまり弱。
 - 4 にぶい黄褐色粘土混シルト (10YR4/3) 粘性・しまり共にあり。
 - 5 褐色粘土混シルト (10YR4/4) 粘性弱。しまりあり。
 - 6 にぶい黄褐色粘土混シルト (10YR5/4) 粘性弱。しまりあり。
- P584**
- 1 褐色粘土混シルト (10YR4/4) 粘性・しまり共にあり。
 - 2 暗褐色細砂粘土混シルト (10YR3/4) 粘性あり。しまり弱。
 - 3 黄褐色細砂粘土混シルト (10YR5/6) 粘性弱。しまりあり。
 - 4 にぶい黄褐色粘土混シルト (10YR4/3) 粘性弱。しまりあり。



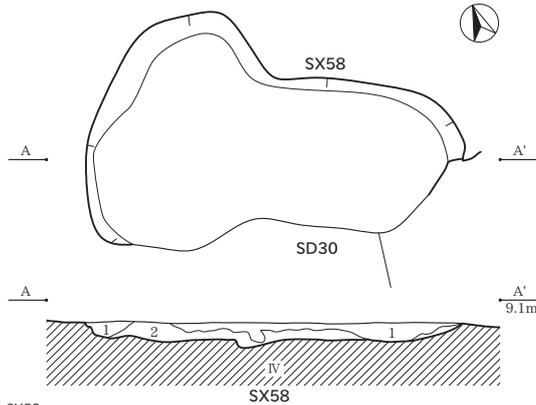
- SK681**
- 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。褐灰色粘土ブロックが混入。
 - 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性あり。しまり弱。
 - 3 にぶい黄褐色シルト混粘土 (10YR5/4) 粘性・しまり共にあり。
 - 4 にぶい黄褐色シルト混粘土 (10YR5/3) 粘性あり。しまり弱。
 - 5 黄褐色シルト混粘土 (10YR5/6) 粘性あり。しまり弱。



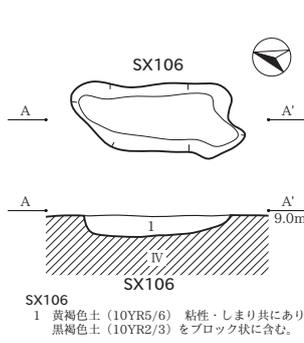
- SK682**
- 1 黄灰色シルト混粘土 (2.5Y5/1) 粘性あり。しまり弱。
 - 2 灰色シルト混粘土 (5Y4/1) 粘性あり。しまり弱。地山褐色ブロック混入。
 - 3 黄灰色粘土混シルト (2.5Y4/1) 粘性あり。しまり弱。
 - 4 暗黄灰色細砂粘土混シルト (2.5Y5/2) 粘性弱。しまりあり。



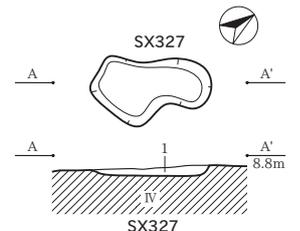
- SK899**
- 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 粘性・しまり共に弱。黒褐色土 (10YR2/2) をわずかに混入。
 - 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) と、黒褐色土 (10YR2/2) の混合層 粘性・しまり共にあり。
 - 3 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) と、黒褐色土 (10YR2/2) の混合層 粘性・しまり共にあり。



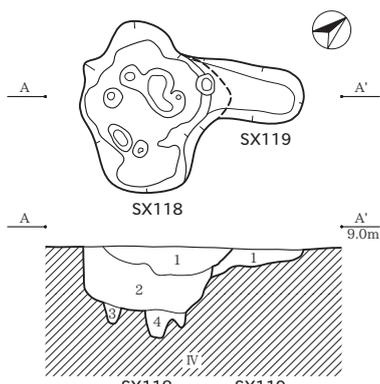
SX58
 1 褐色土 (10YR4/4) 粘性・しまり共にあり。黄褐色 (10YR5/6) 砂質土が混入。炭化粒わずかに含む。
 2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4) 粘性弱。しまりあり。炭化粒わずかに含む。



SX106
 1 黄褐色土 (10YR5/6) 粘性・しまり共にあり。黒褐色土 (10YR2/3) をブロック状に含む。

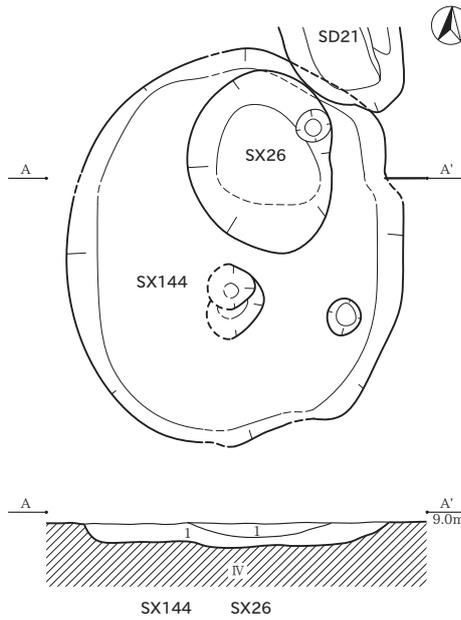


SX327
 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/4) 粘性・しまり共にあり。IV層を斑状に含む。

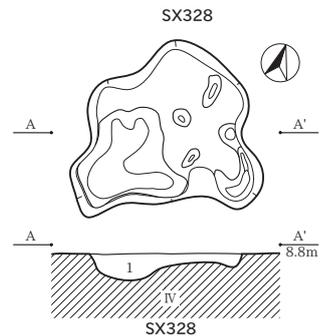


SX118
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性・しまり共にあり。褐色砂質土 (10YR4/6) 粒子状に混入。
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性・しまり共にあり。褐色砂質土 (10YR4/6) ブロック状に多く混入。
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性・しまり共にあり。
 4 褐色砂質土 (10YR4/6) 粘性弱。しまりあり。暗褐色土 (10YR3/3) ブロック状に含む。

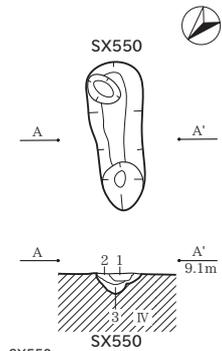
SX119
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性・しまり共にあり。褐色砂質土 (10YR4/6) 粒子状にわずかに混入。



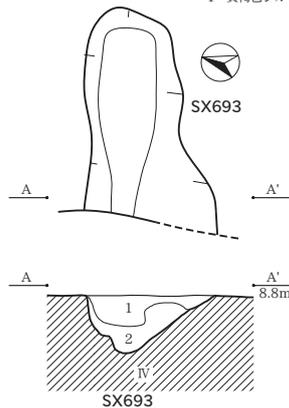
SX26
 1 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性・しまり共にあり。
SX144
 1 黄褐色シルト砂混粘土 (10YR5/6) 粘性弱。しまりあり。



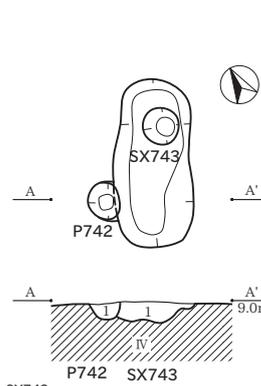
SX328
 1 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/4) 粘性・しまり共にあり。IV層を斑状に含む。



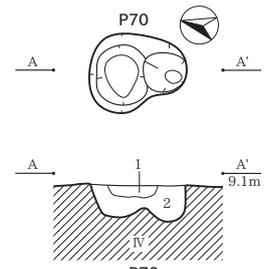
SX550
 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 2 暗褐色シルト混粘土 (10YR3/4) 粘性・しまり共にあり。
 3 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性・しまり共にあり。



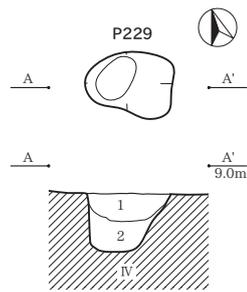
SX693
 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 2 暗褐色細砂シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性・しまり共にあり。地山褐色土ブロック (直径2~3cm) 少量混入。



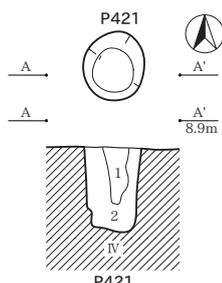
SX743
 1 褐色粘土混シルト (10YR4/4) 粘性・しまり共にあり。
P742
 1 褐色シルト混粘土 (10YR4/4) 粘性あり。しまり弱。



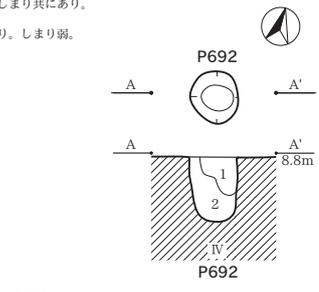
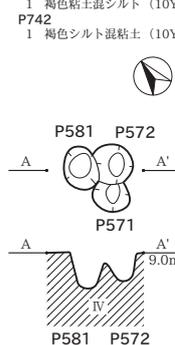
P70
 1 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。褐色土 (10YR4/4) 粒子状に混入。
 2 暗褐色土 (10YR3/3) と、褐色土 (10YR4/4) 混合層。粘性弱。しまりあり。炭化物 (直径1mm以下) ごくわずかに含む。



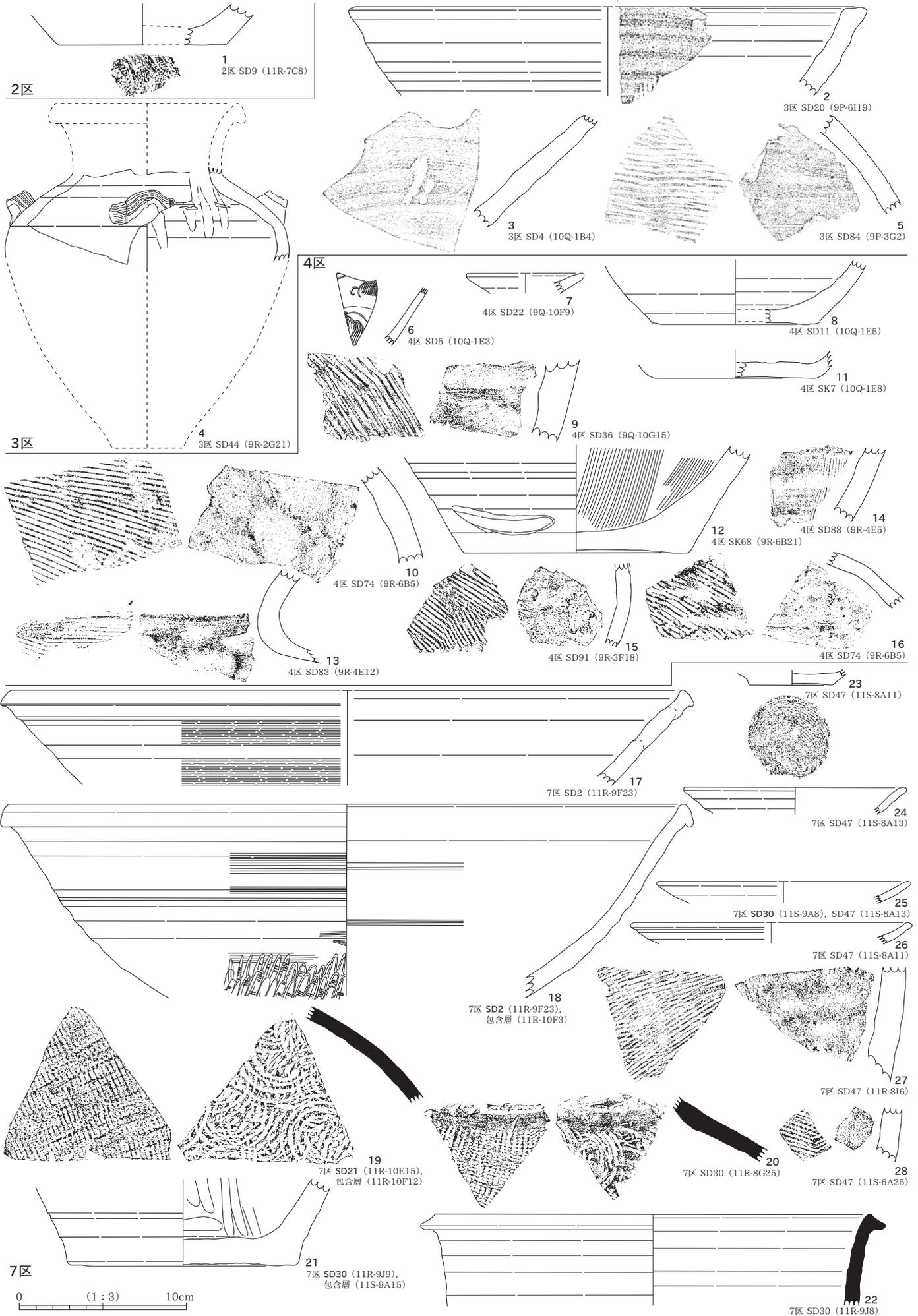
P229
 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/1) 粘性あり。しまり弱。褐色土 (地山) がブロック状に少量混じる。
 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/1) 粘性あり。しまり弱。褐色土 (地山) がブロック状に多く混じる。

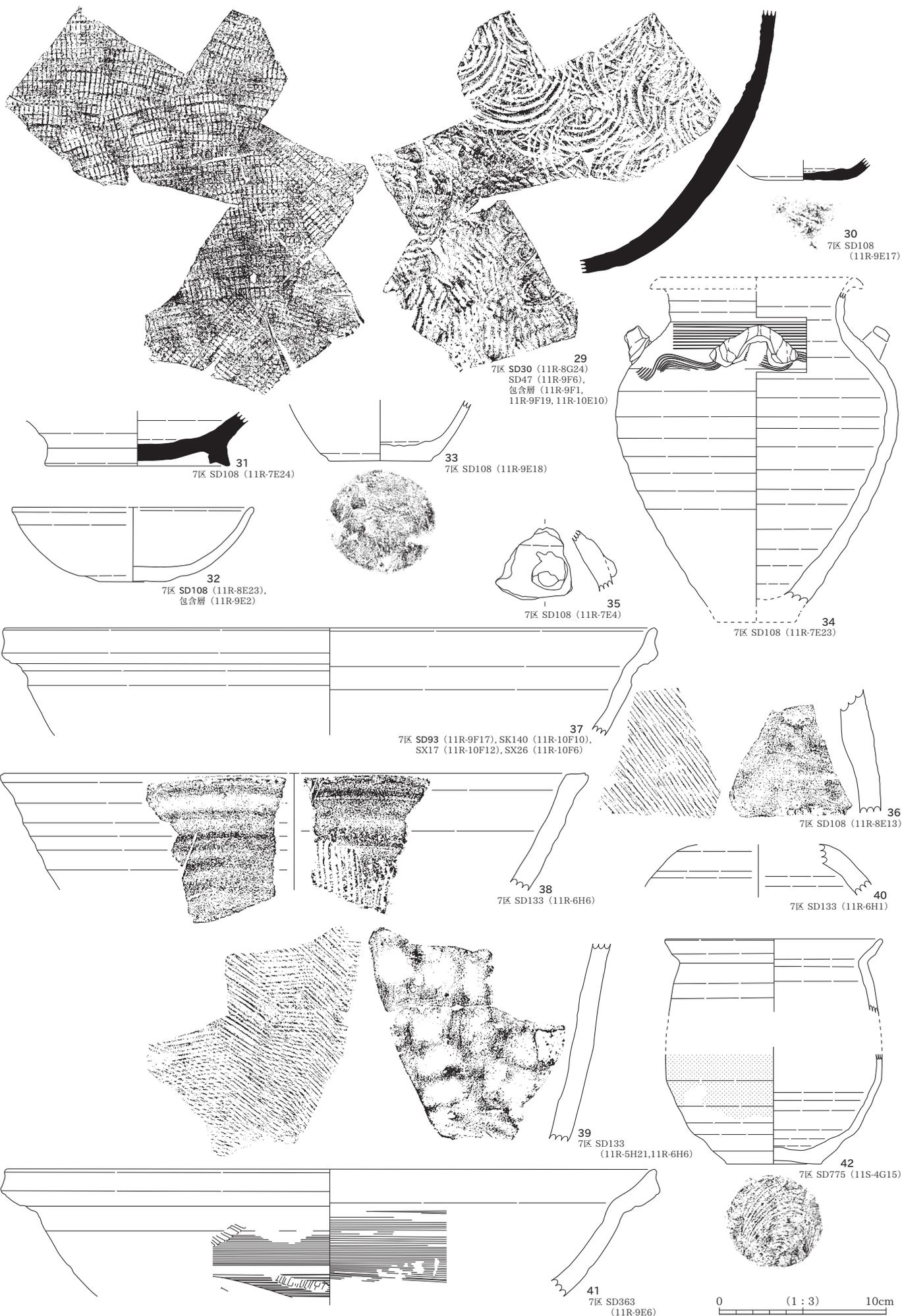


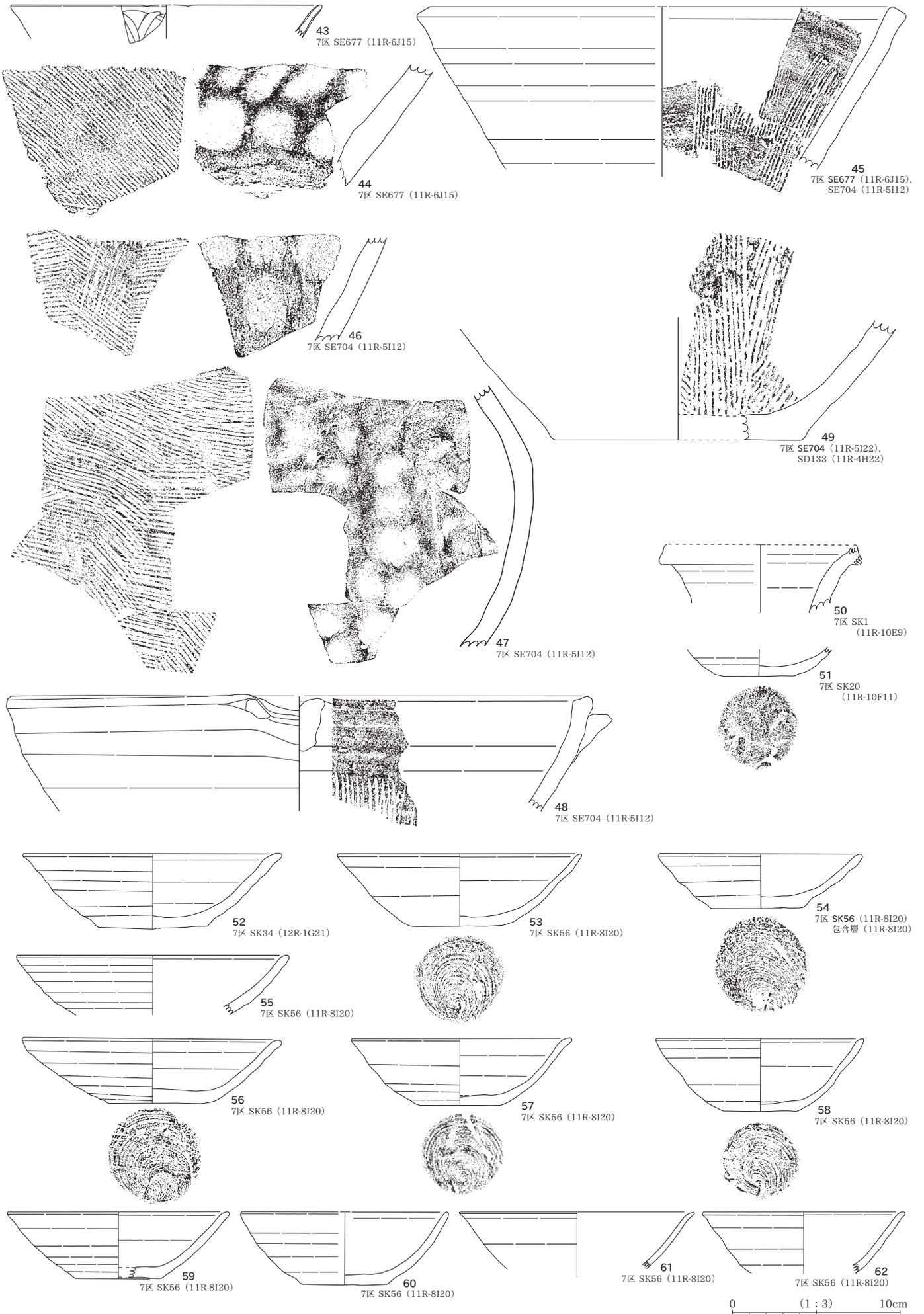
P421
 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。
 2 黒褐色シルト混粘土 (10YR2/3) 粘性・しまり共にあり。IV層をブロック状に含む。

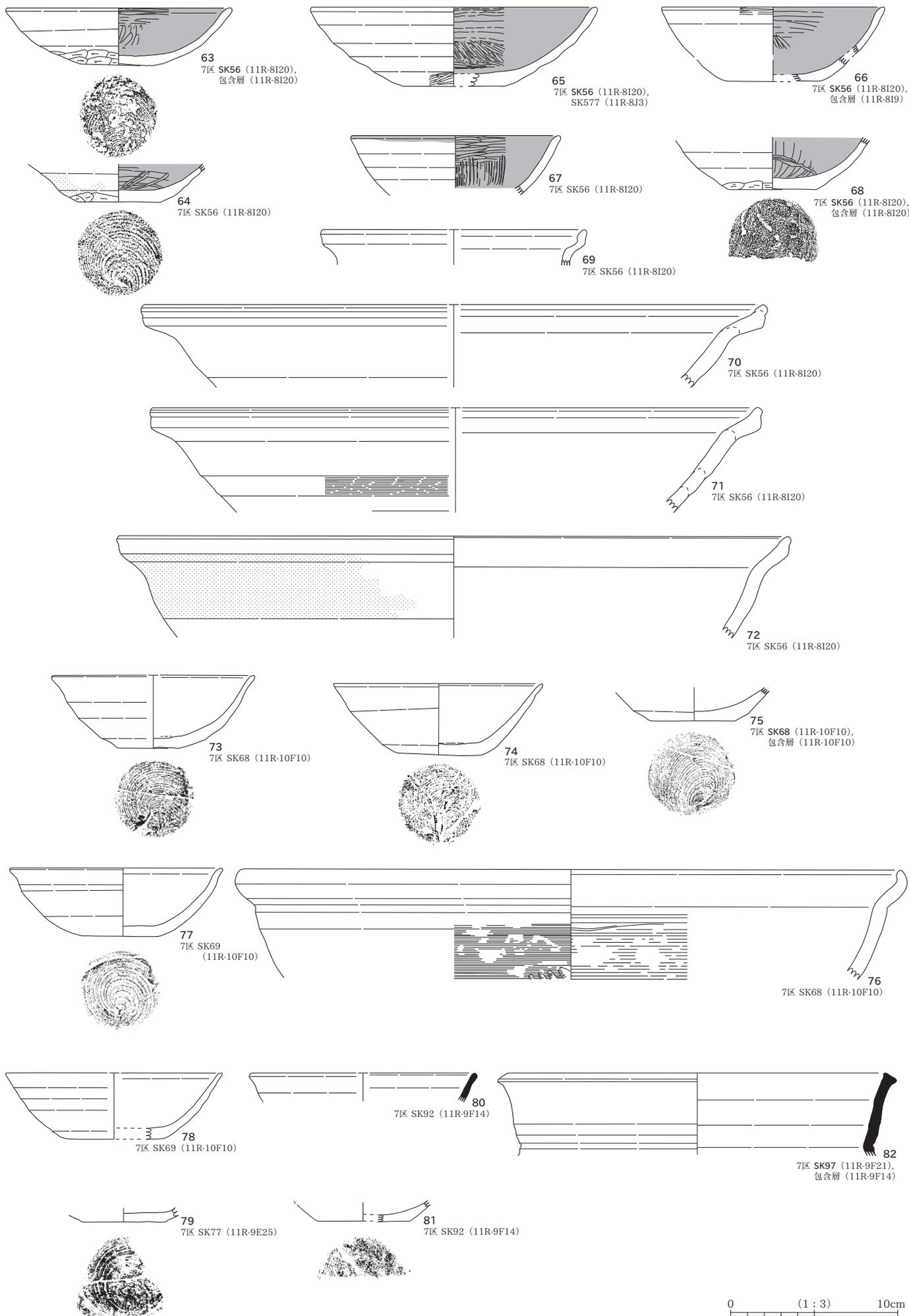


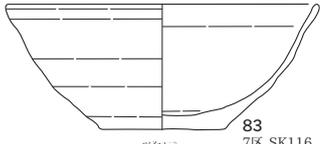
P692
 1 黒褐色シルト混粘土 (10YR3/2) 粘性・しまり共にあり。
 2 にぶい黄褐色細砂混シルト (10YR4/3) 粘性弱。しまりあり。



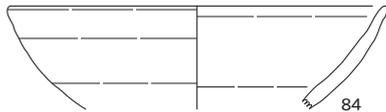




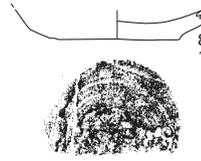




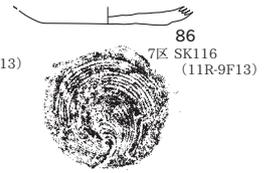
83
7区 SK116 (11R-9F13)



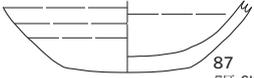
84
7区 SK116 (11R-9F13)



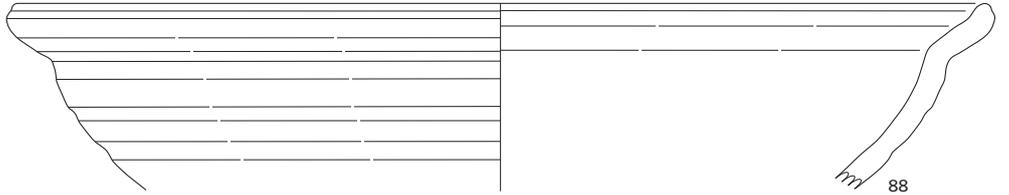
85
7区 SK116 (11R-9F13)



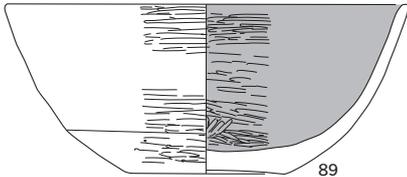
86
7区 SK116 (11R-9F13)



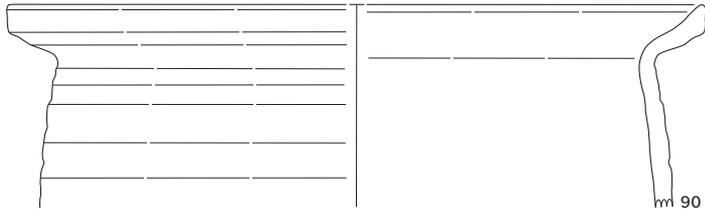
87
7区 SK116 (11R-9F13),
包含層 (11R-9F13)



88
7区 SK116 (11R-9F13),
SD2 (11R-9F22), 包含層 (11R-10F11)



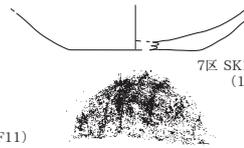
89
7区 SK140
(11R-9F17, 11R-10E11, 11R-9F16)



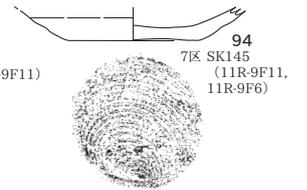
90
7区 SK140 (11R-9F17)



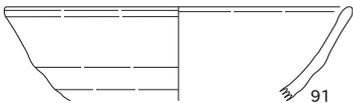
92
7区 SK145
(11R-9F11)



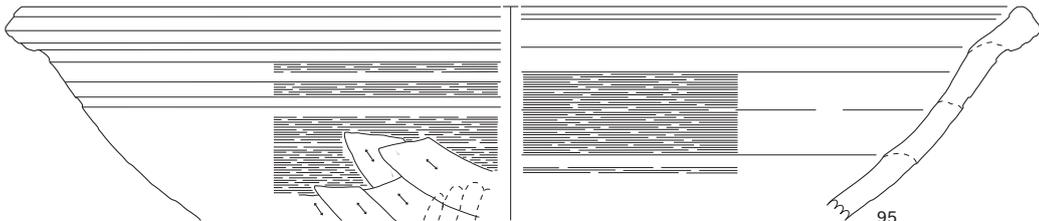
93
7区 SK145
(11R-9F11)



94
7区 SK145
(11R-9F11,
11R-9F6)



91
7区 SK141 (11R-9F19),
包含層 (11R-9F19)



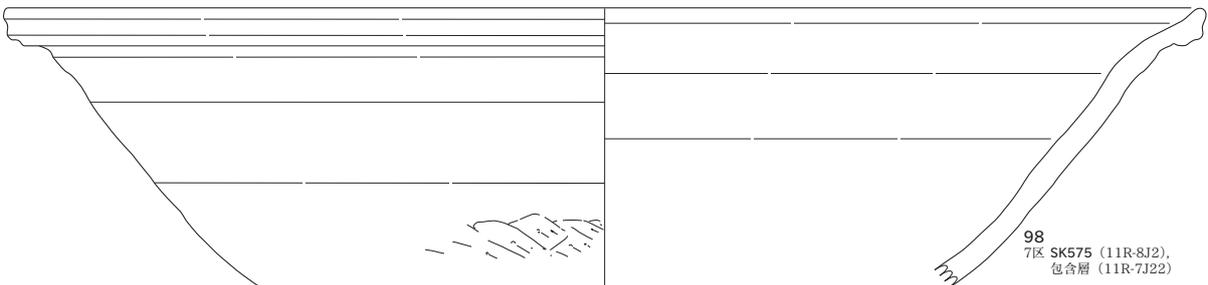
95
7区 SK145 (11R-9F6),
包含層 (11R-9F12)



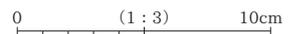
96
7区 SK202 (11R-7H16)

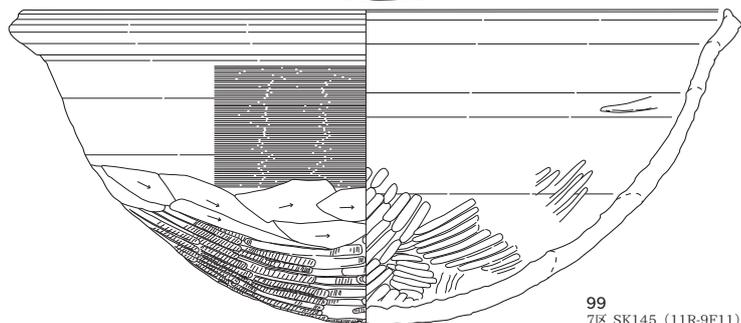
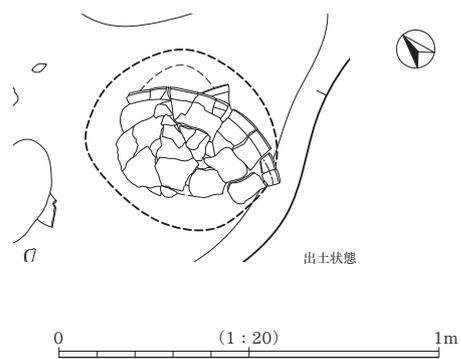
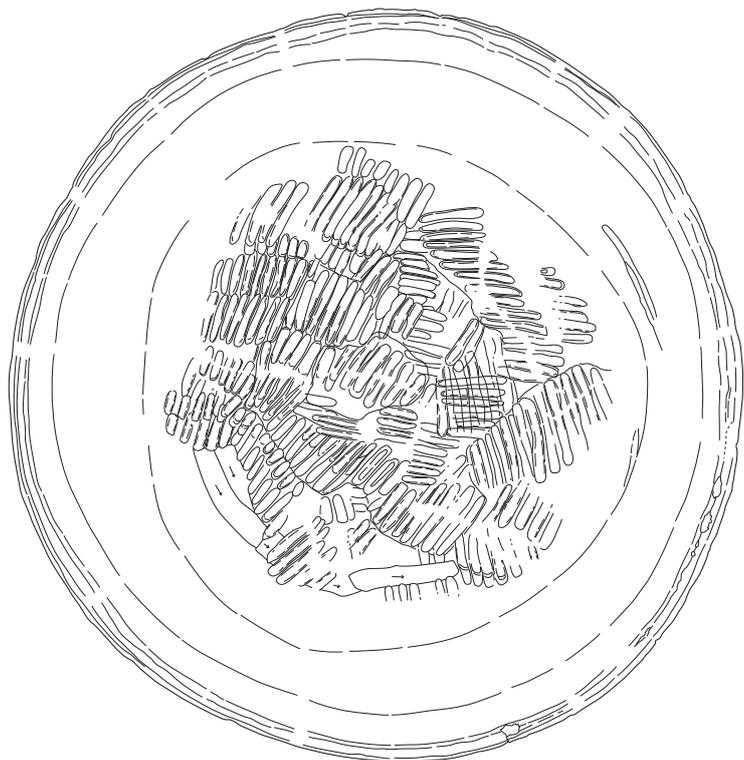


97
7区 SK442 (11R-9F7)

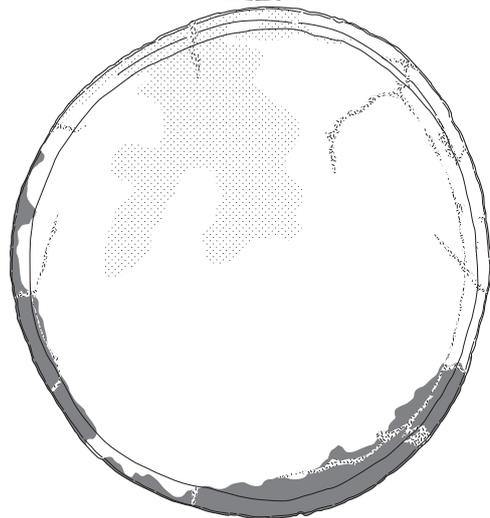
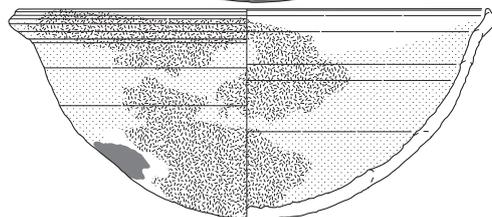
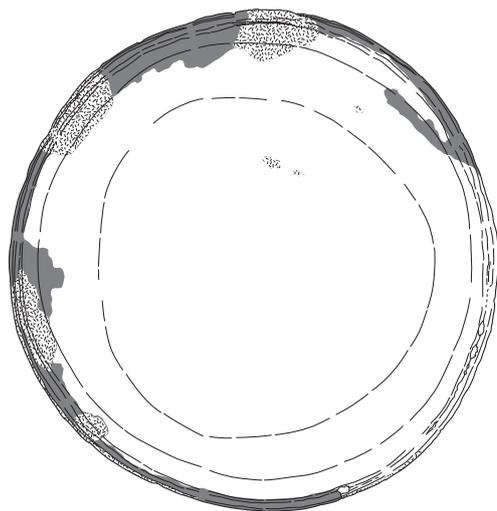


98
7区 SK575 (11R-8J2),
包含層 (11R-7J22)





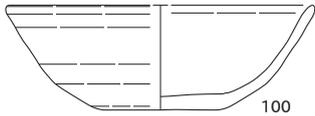
99
7区 SK145 (11R-9F11)



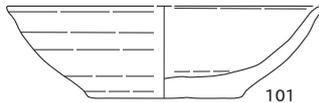
スス 被熱痕およびスス・コゲ付着状況
 赤化
 支脚痕

0 (1:6) 20cm

0 (1:4) 10cm



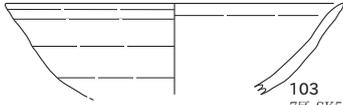
100
7区 SK575 (11R-8J2),
包含層 (11R-8J1)



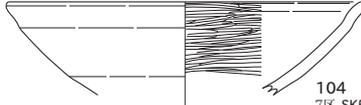
101
7区 SK575 (11R-8J2)



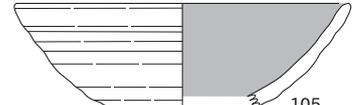
102
7区 SK575 (11R-8J2)



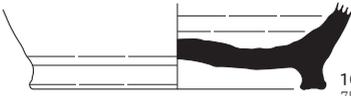
103
7区 SK575 (11R-7J22)



104
7区 SK575 (11R-7J21),
SK577 (11R-8J3)



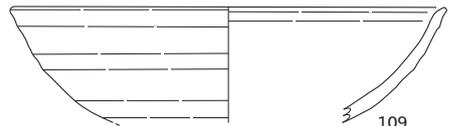
105
7区 SK575 (11R-8J2)



106
7区 SK577 (11R-8J3)



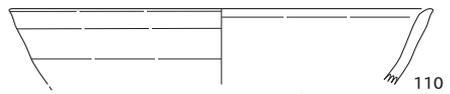
108
7区 SK577 (11R-8J3)
包含層 (11R-8J3)



109
7区 SK577 (11R-8J3, 11R-8J3・8)



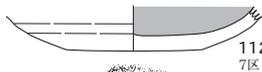
107
7区 SK577 (11R-8J3)



110
7区 SK577 (11R-8J3, 11R-8J3・8)



111
7区 SK577 (11R-8J3)



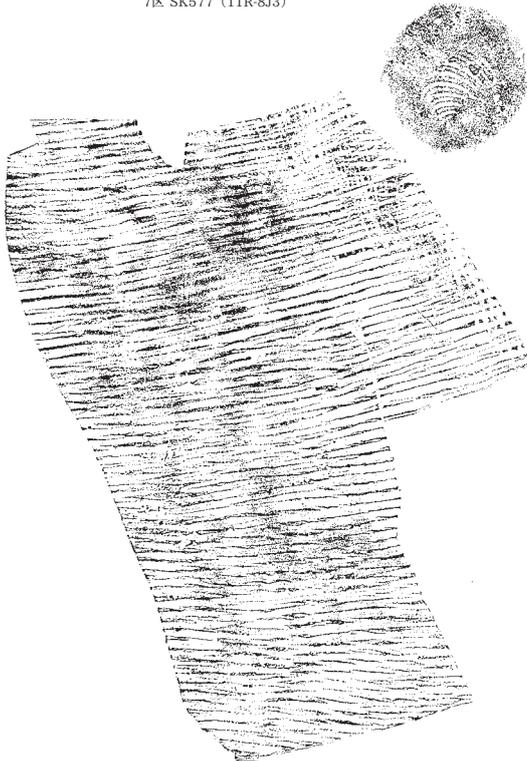
112
7区 SK577 (11R-8J3)



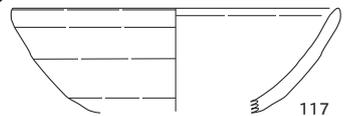
113
7区 SK577 (11R-8J3)



115
7区 SK577 (11R-8J3・8)



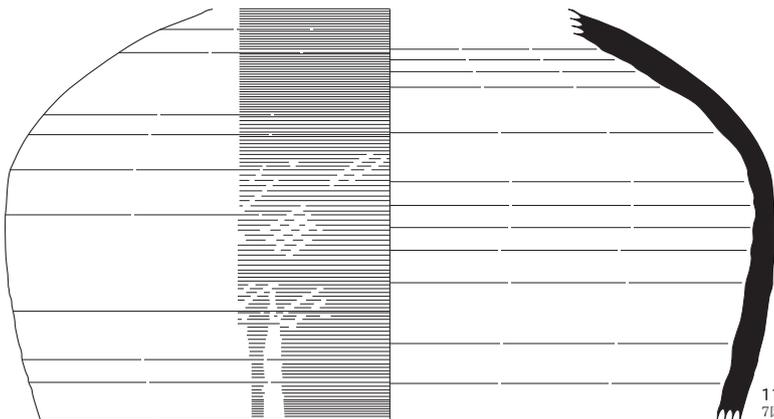
114
7区 SK577 (11R-8J3),
包含層 (11R-8J2)



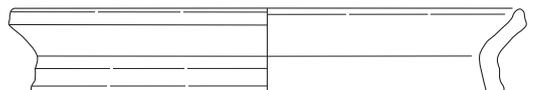
117
7区 P581 (11S-8A17)



118
7区 P584 (11R-8J8)



116
7区 P70 (11R-8I18),
包含層 (11R-8I19)

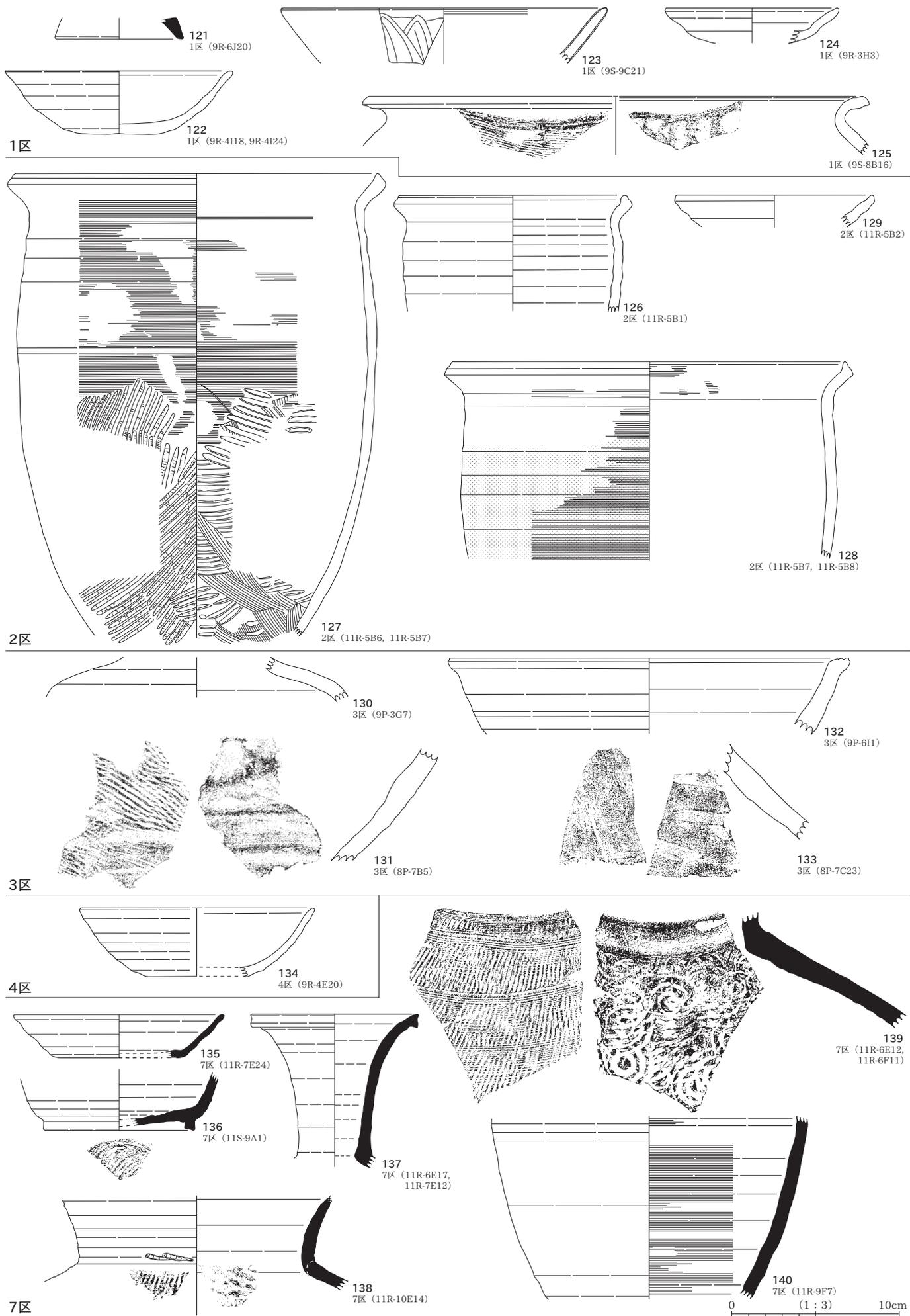


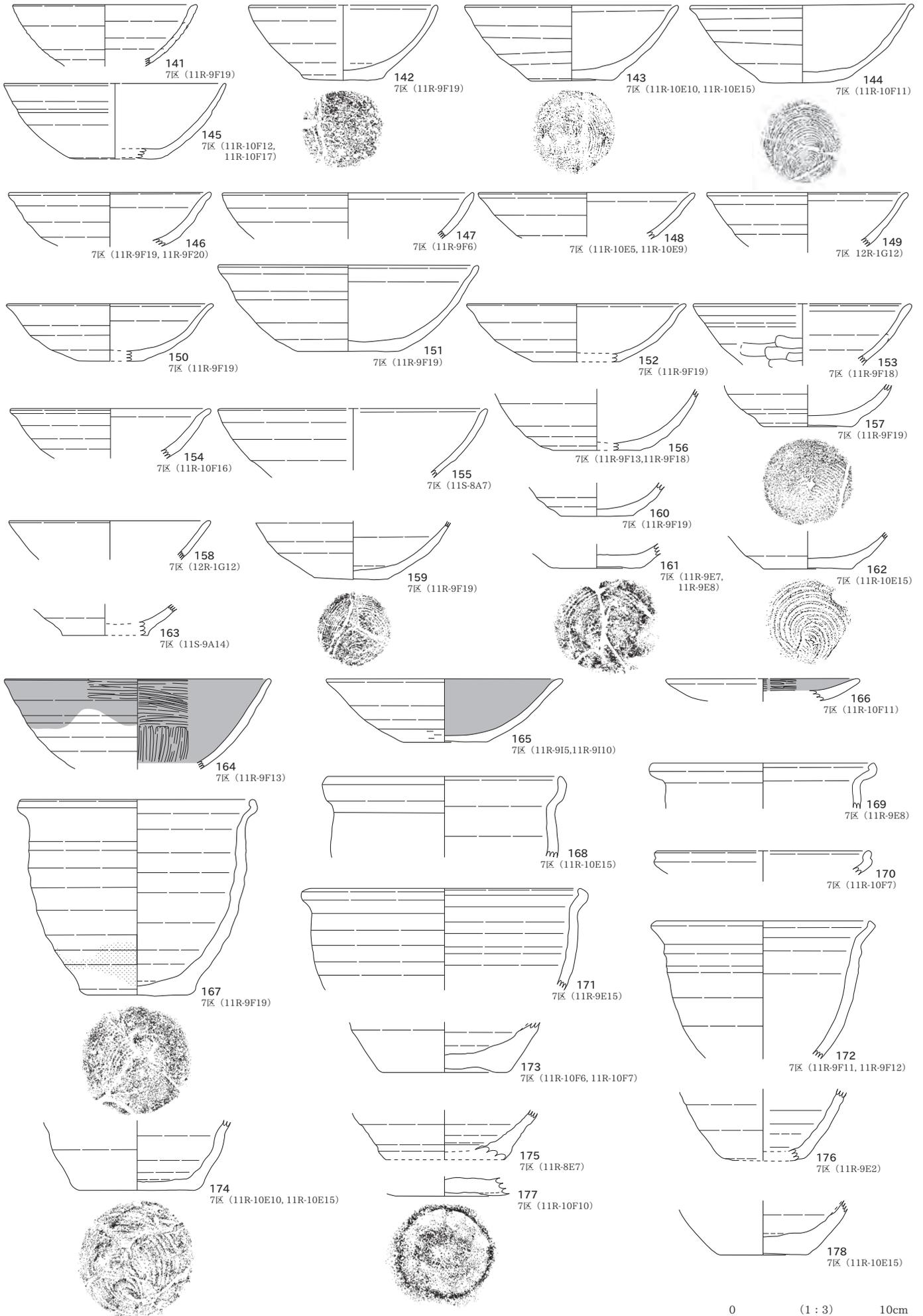
119
7区 P584 (11R-8J8)

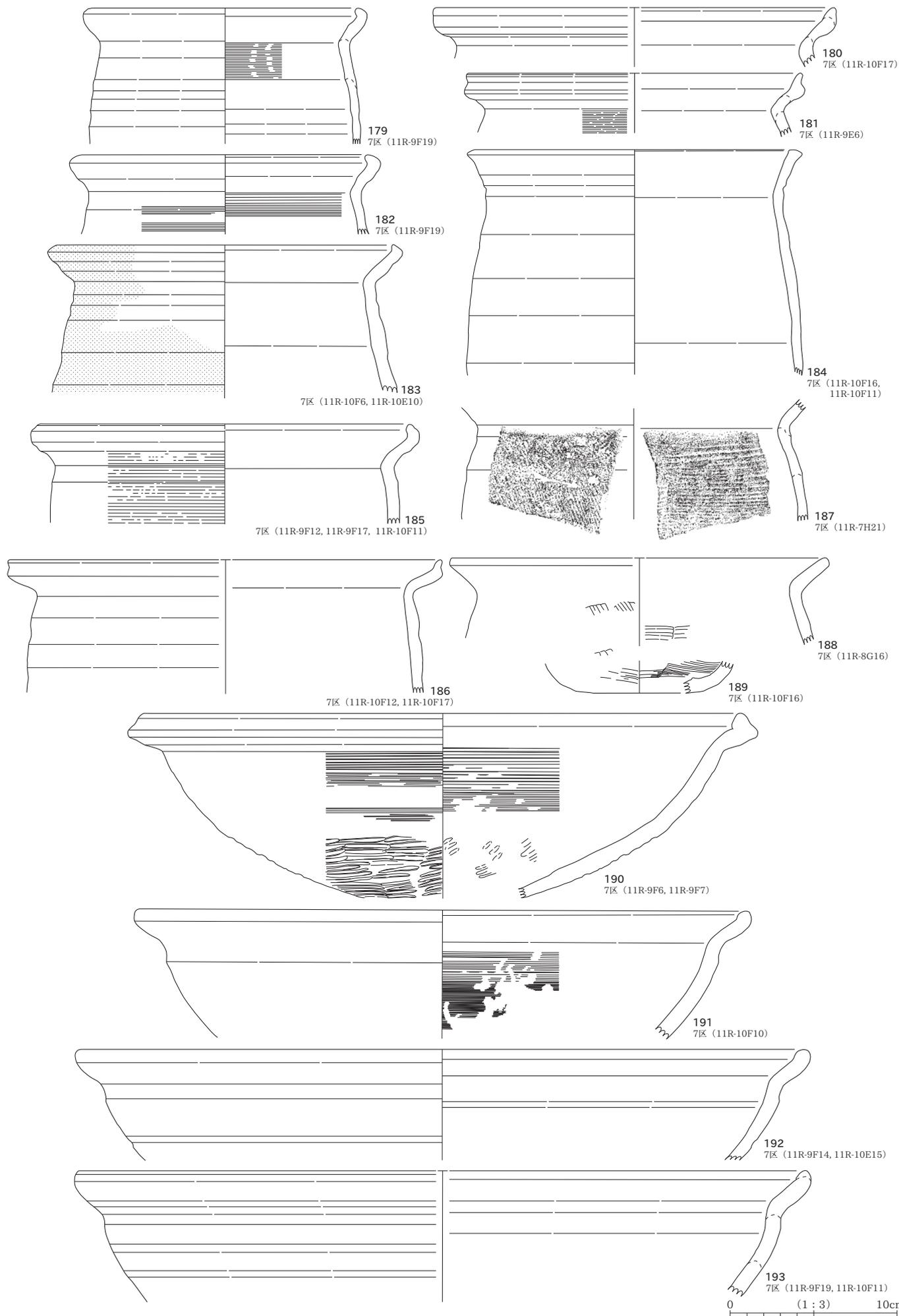


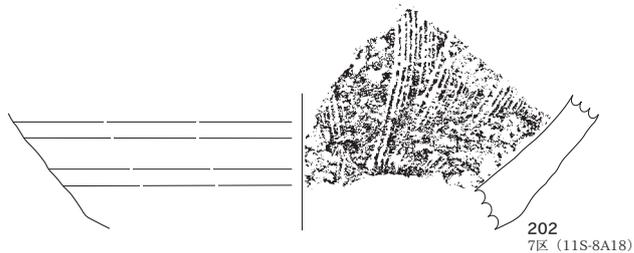
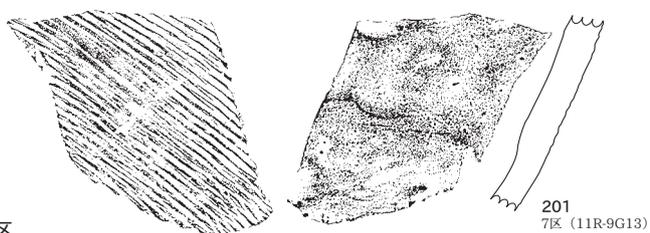
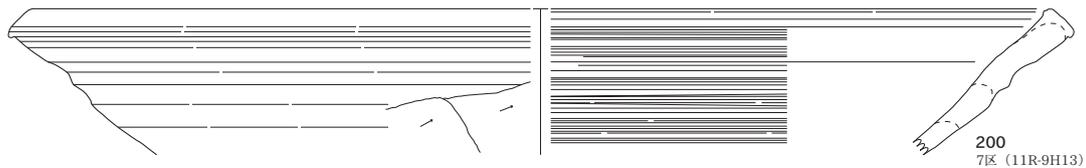
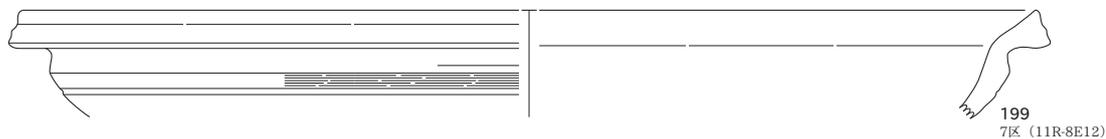
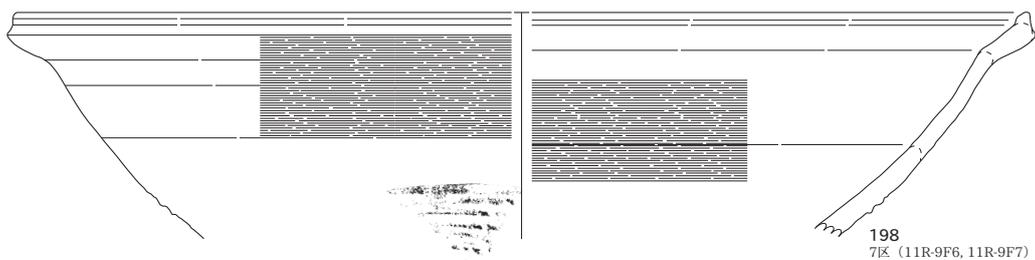
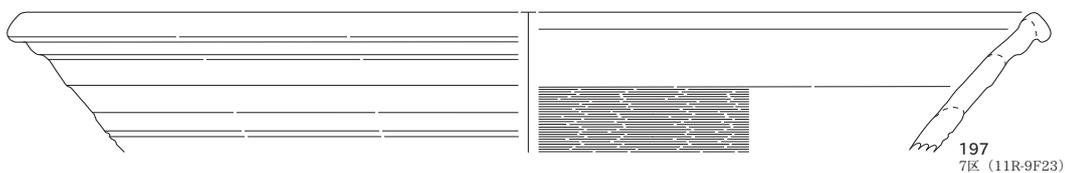
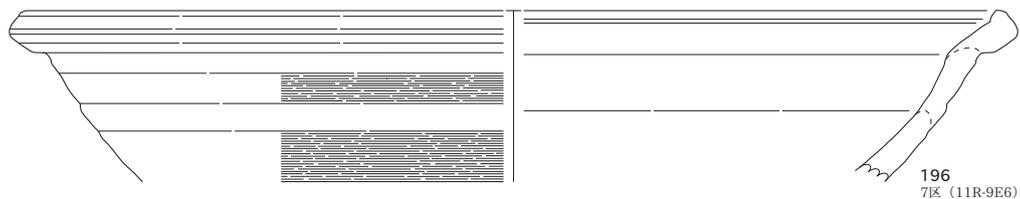
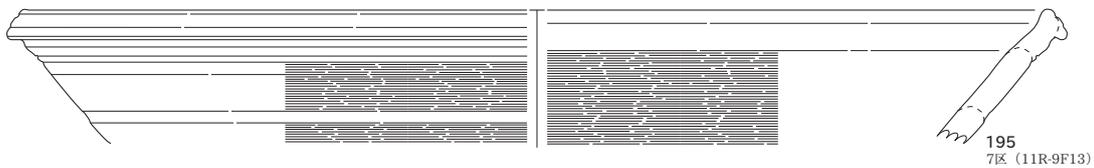
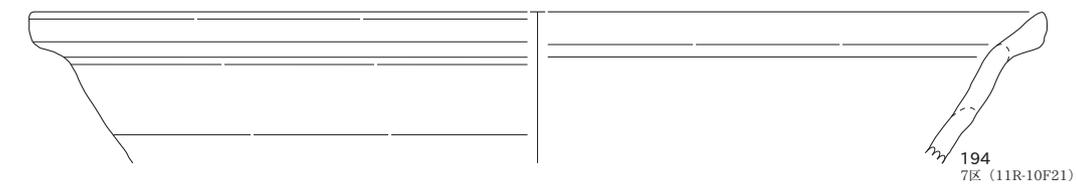
120
7区 SX144 (11R-10F17),
包含層 (11R-9F6, 11R-10F12)

0 10cm
(1 : 3)

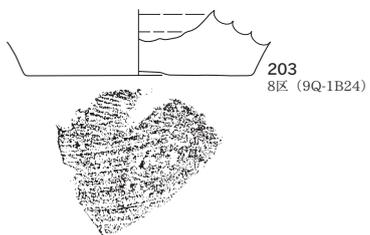






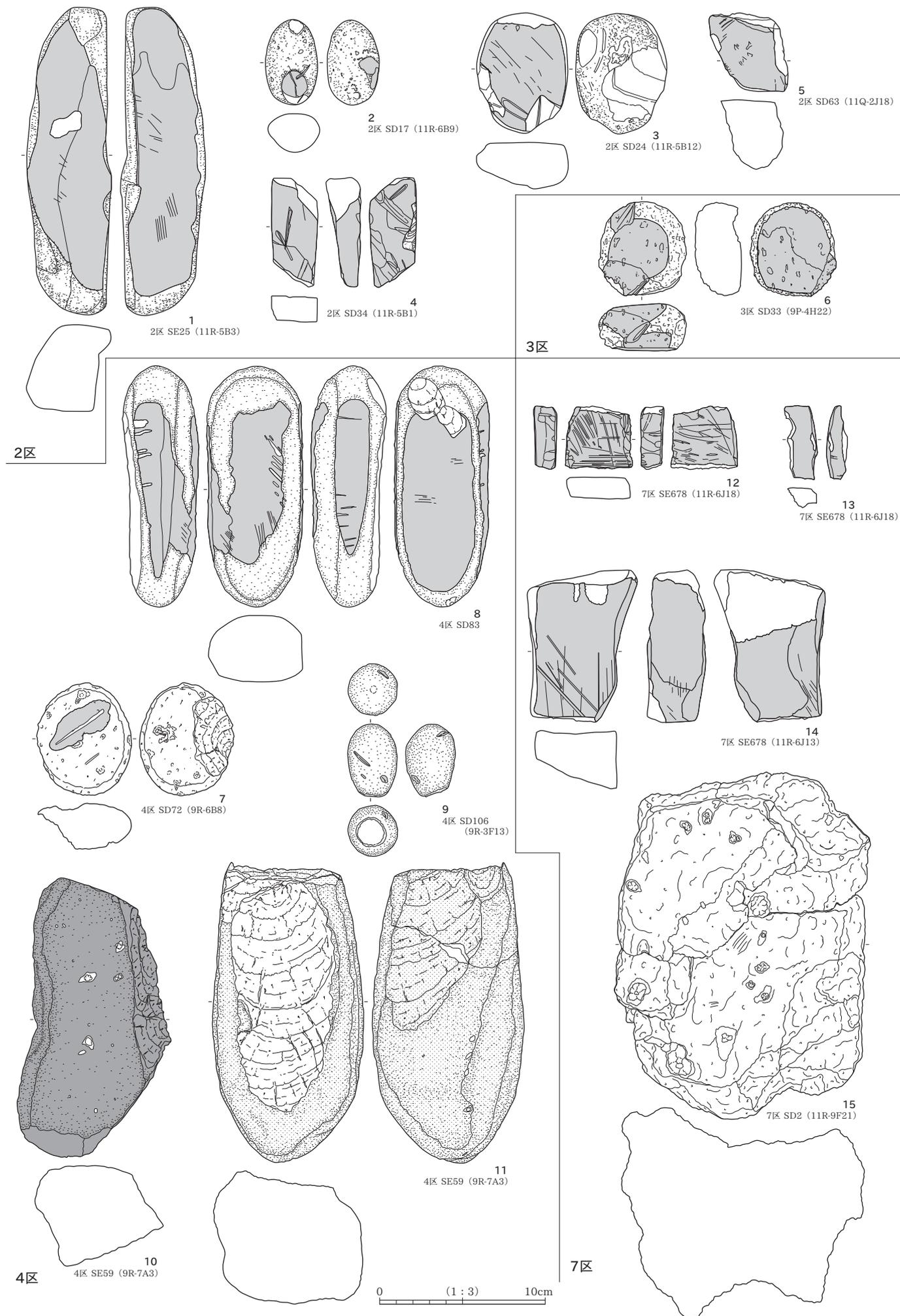


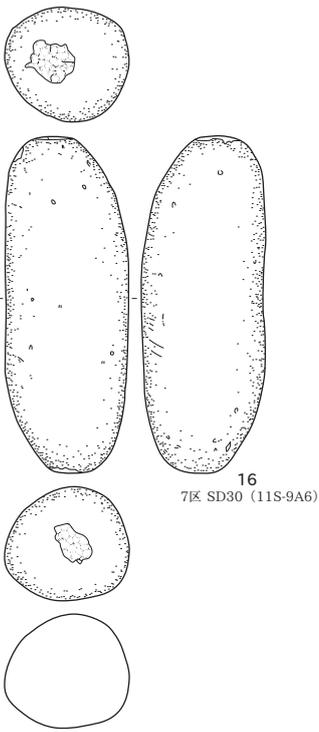
7区



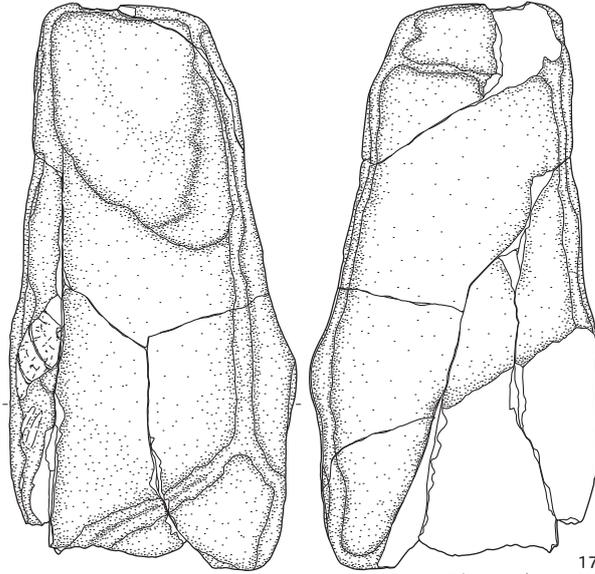
8区

0 (1:3) 10cm

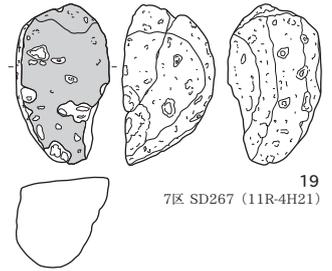




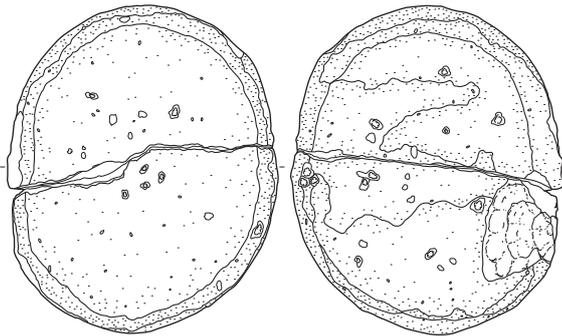
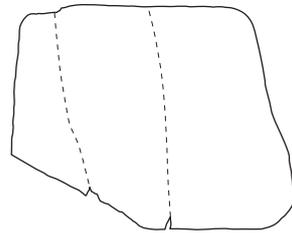
16
7区 SD30 (11S-9A6)



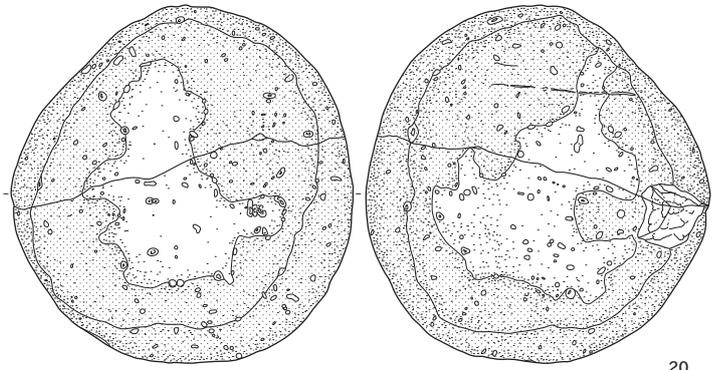
17
7区 SD108 (11R-9E17)



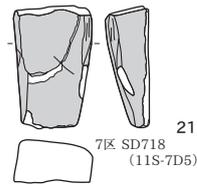
19
7区 SD267 (11R-4H21)



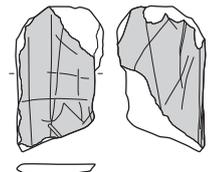
18
7区 SD108 (11R-6E10, 11R-6E14)



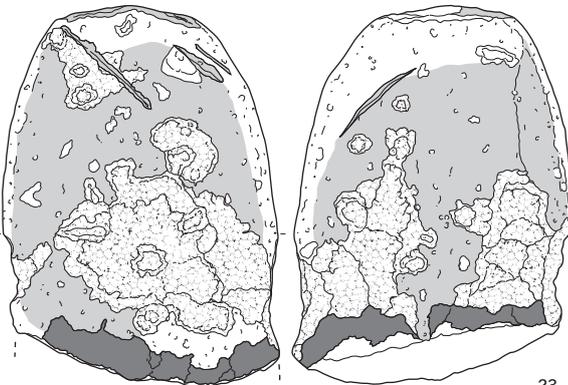
20
7区 SD267 (11R-4H18, 11R-4H17)



21
7区 SD718 (11S-7D5)



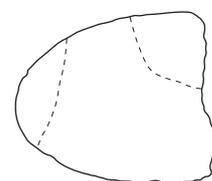
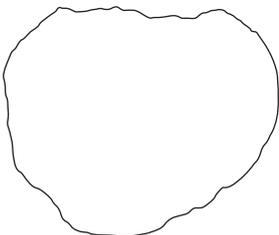
22
7区 SD775 (11S-3G13)



23
7区 SK56 (11R-8I20)

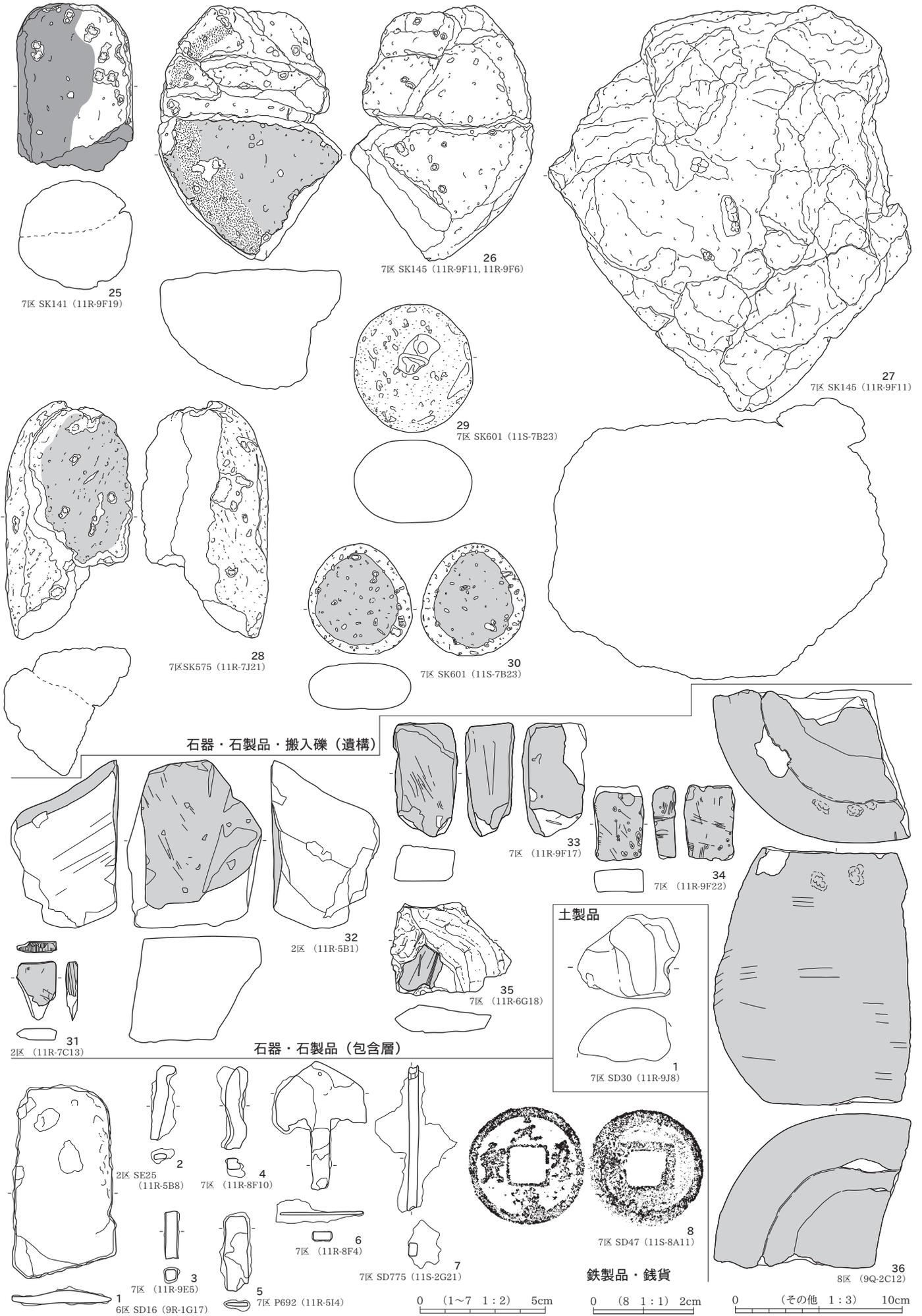


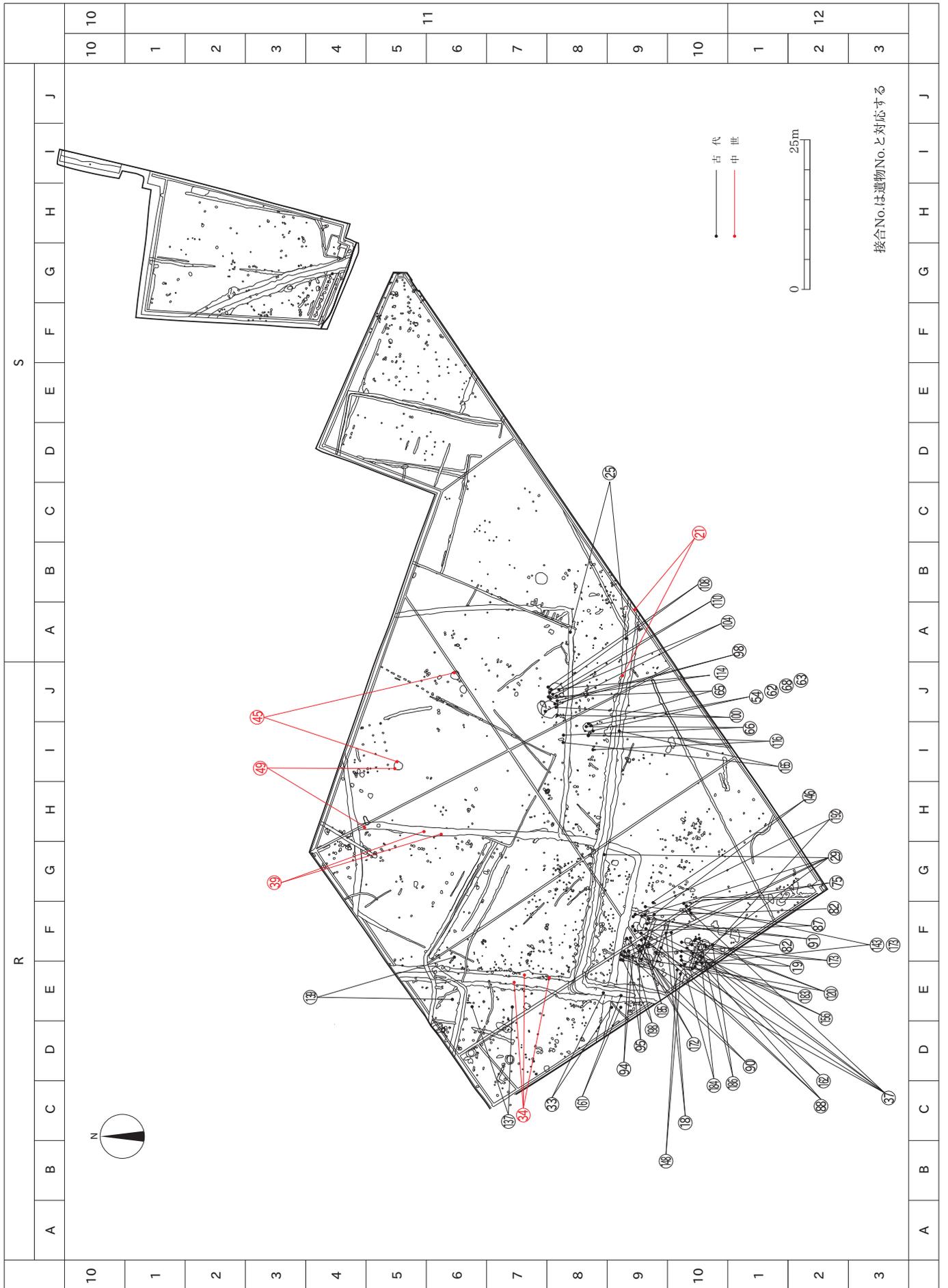
24
7区 SK92 (11R-9F14),
SD108 (11R-8E9)

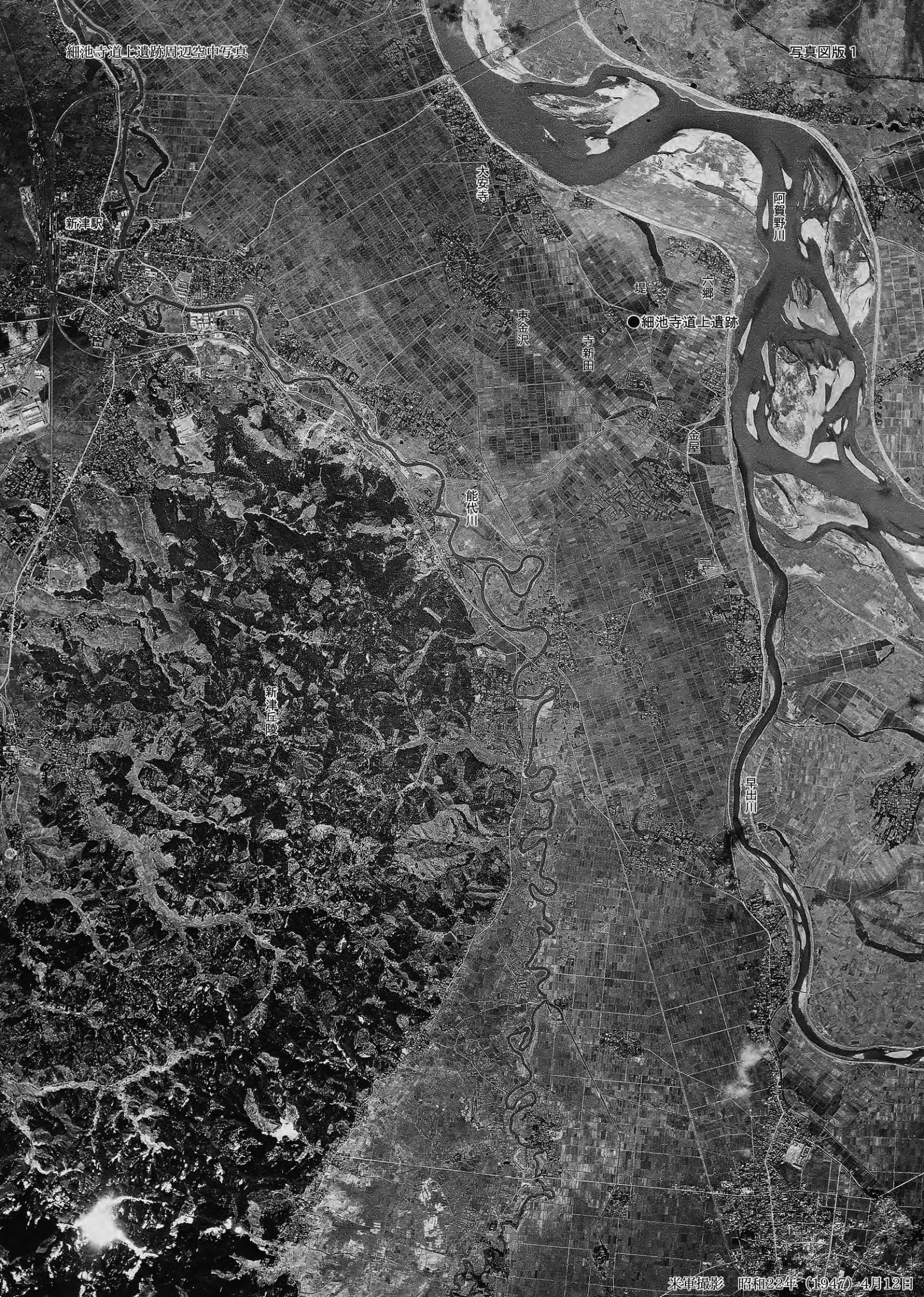


0 (17 1:4) 10cm

0 (その他 1:3) 10cm







新津駅

大安寺

阿賀野川

堤

六郷

●細池寺道上遺跡

東金沢

寺新聞

金屋

能代川

新津丘陵

早出川



調査区周辺空中写真（国土地理院撮影 C-0R TH0 E2K13-001、E2K26-001 を合成）



調査前空中写真 2008年3月撮影（西から五頭山を望む）



調査前空中写真 2008年3月撮影（南から日本海を望む）



1区②



1区⑥



2区①



2区⑥



3区③



3区⑦



4区①



4区⑥



6区⑦



6区①



7区⑦



7区⑤



7区①



7区②



7区⑥



7区④



1区 着手前 北から



1区 完掘 北から



SD11 完掘 西から



SD14 断面 (B-B') 西から



SD14 断面 (A-A') および完掘 西から



SD33 断面 (A-A') 西から



SD33 断面 (B-B') 東から



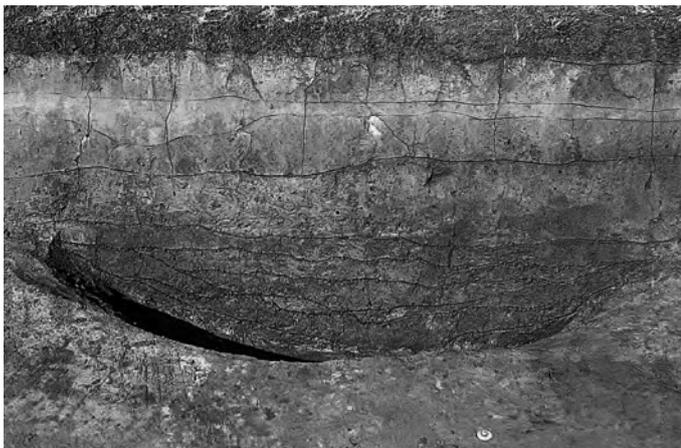
SD33 完掘 西から



SD46 断面 (A-A') 西から



SD46 完掘 西から



SE51 断面 (A-A') 西から



SE51 完掘 西から



SE51、SK68 断面 (B-B') 北から



SE51、SK68 完掘 西から



SK2、SD3 断面 (A-A') 東から



SK2、SD3 完掘 西から



SK20 断面 (A-A') 北から



SK55・20 完掘 南から



SK22 完掘 西から



SK54 完掘 東から



SK55 断面 (A-A') 北から



SX7 断面 (B-B') 南から



SX7 完掘 西から



SX15 断面 (A-A') 西から



2区 着手前 南から



2区 完掘 北から



SD9 断面 (A-A') 北から



SD9 完掘 北から



SD15 断面 (A-A') 東から



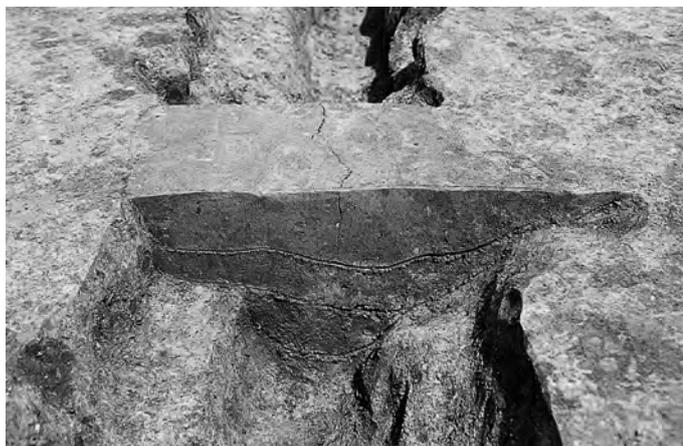
SD15 断面 (B-B') 北から



SD17 断面 (A-A') 北から



SD15・17 完掘 北から



SD23 断面 (A-A') 西から



SD24 断面 (A-A') 西から



SD23・24 完掘 東から



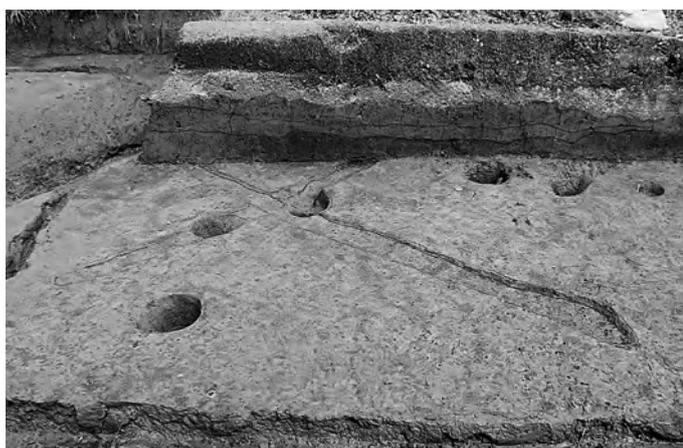
SD34 断面 (A-A') 北から



SD34 完掘 北から



SD55・56 断面 (A-A') 西から



SD55・56 完掘 西から



SD63 断面 (A-A') 西から



SD89 断面 (A-A') 西から



SD89 断面 (C-C') 南から



SD89 完掘 南から



SD89 完掘 東から



SE25 断面 (A-A') および完掘 西から



SE25 完掘 北から



SE97 断面 (B-B') および完掘、SD63 断面 東から



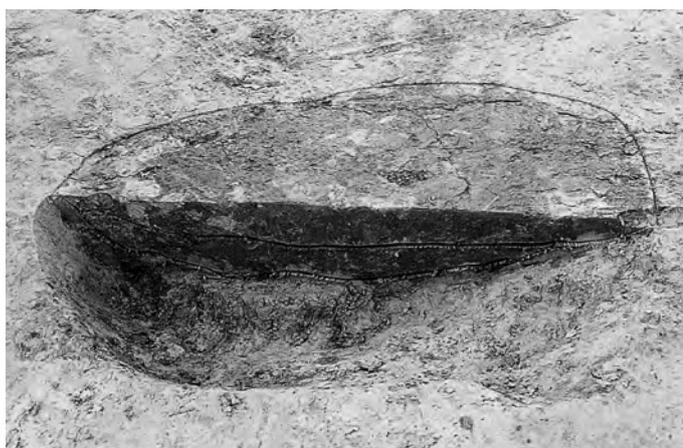
SK67、SD63、SE97 ほか 完掘 西から



SK10 断面 (A-A') 東から



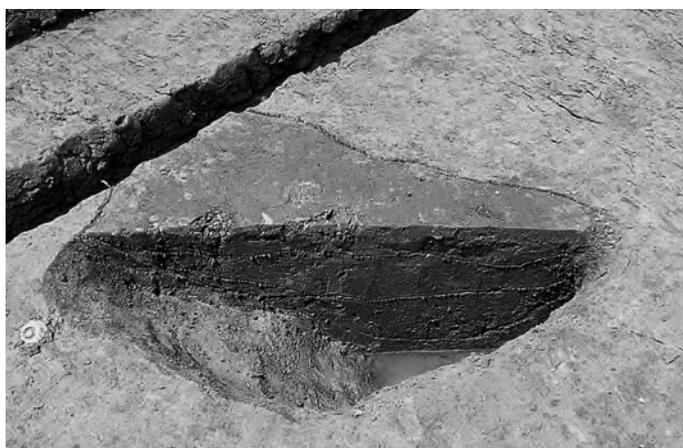
SK10 完掘 東から



SK16 断面 (A-A') 南から



SK16 完掘 南から



SK37 断面 (A-A') 東から



SK37 完掘 東から



SK96 断面 (A-A') 西から



SK96 完掘 南から



3区 着手前 南から



3区 完掘後 南から



SD4 完掘 南から



SD7 断面 (A-A') 西から



SD10 断面 (A-A') 西から



SD7・10 完掘 西から



SD16 断面 (A-A') 東から



SD16 完掘 東から



SD19 断面 (A-A') 東から



SD20 断面 (A-A') 東から



SD19・20 完掘 西から



SD23 断面 (A-A') 南から



SD23、SK24 完掘 南から



SD33 断面 (A-A') 南から



SD33 完掘 南から



SD39 断面 (A-A') 西から



SD39 完掘 西から



SD40 断面 (A-A') 西から



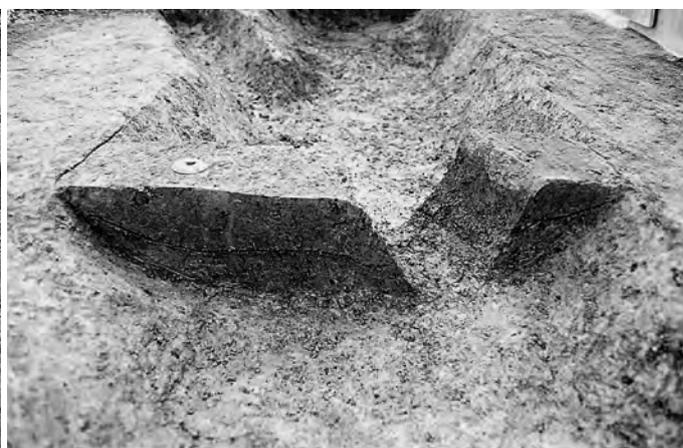
SD40 完掘 西から



SD44・84 断面 (A-A') 西から



SD44・84 完掘 西から



SD45 断面 (A-A') 西から



SD45 完掘 西から



SD57、SX81 断面 (B-B') 東から



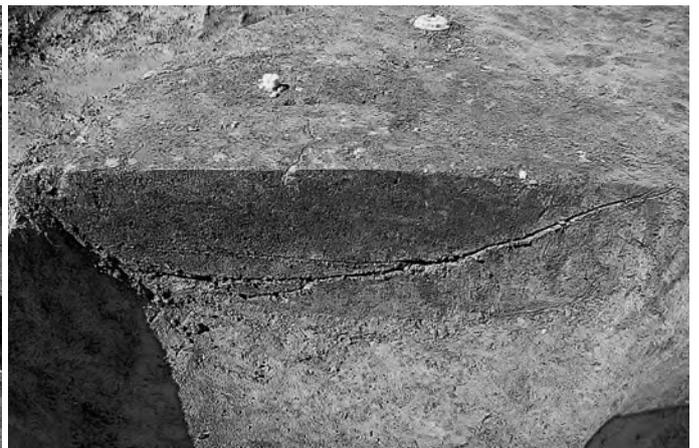
SD57、SX81 完掘 南から



SK15 断面 (A-A') 北から



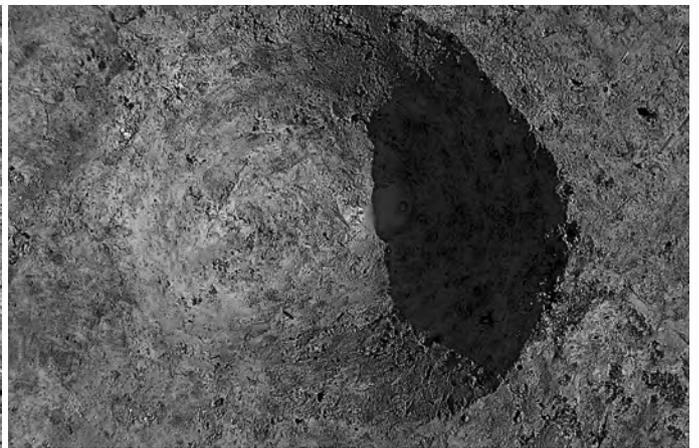
SK15 完掘 北から



SK24 断面 (A-A') 東から



SK47 断面 (A-A') 西から



SK47 完掘 西から



SK70・50、P82 ほか 断面 (A-A') および完掘 東から



SK71 断面 (A-A') および完掘 東から



河1 断面 東から



河1 完掘



4区 着手前 西から



4区 完掘 西から



SD1 断面 (A-A') 北から



SD1 完掘 北から



SD5・18 断面 (A-A') 北から



SD5 完掘 北から



SD5・11・18 断面 (C-C') および完掘 南から



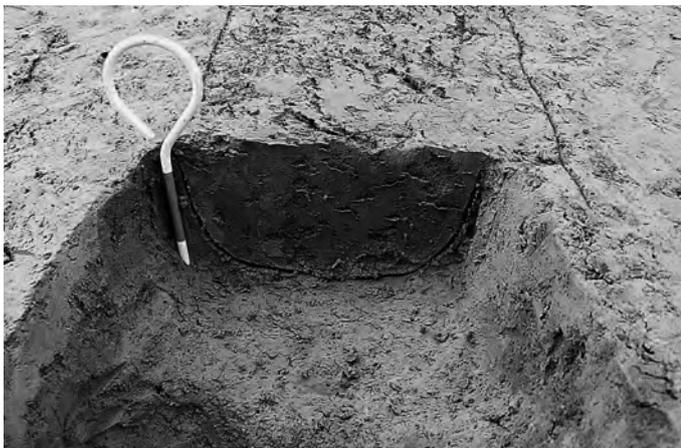
SD11 断面 (A-A') 西から



SD23 断面 (A-A') 北から



SD23 完掘 北から



SD30 断面 (A-A') 東から



SD30 完掘 西から



SD36 断面 (A-A') 西から



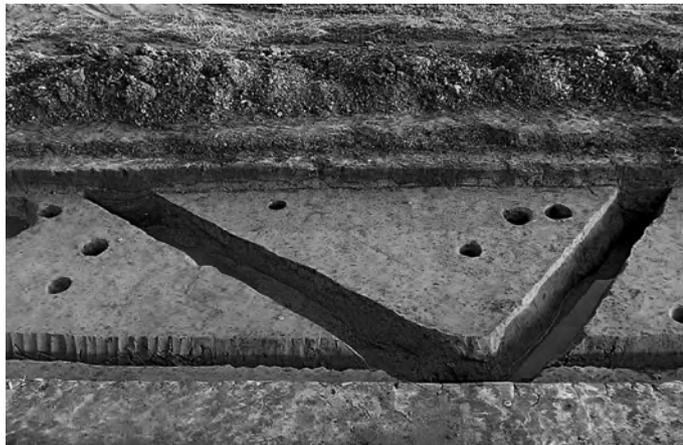
SD36・34 完掘 西から



SD50 断面 (A-A') 南から



SD50 断面 (B-B') 東から



SD50 完掘 西から



SD50 完掘 北から



SD50 完掘 西から



SD71 断面 (A-A') および完掘 北から



SD71・72、SK73 完掘 西から



SD72 断面 (A-A') 西から



SD74 断面 (A-A') 北から



SD74 完掘 北から



SD77 断面 (A-A') 西から



SD77 断面 (B-B') 北から



SD77 完掘 西から



SD78、P121 断面 (A-A') 北から



SD78、P121 完掘 北から



SD77・94 断面 (A-A') 南から



SD83、SE112 断面 (A-A') 西から



SD83 完掘 西から



SD88 断面 (A-A') 西から



SD113・88 断面 (B-B') 西から



SD88・113 断面 (C-C') 北から



SD88 完掘 西から



SD106・91 断面 (A-A') 西から



SD106 断面 (B-B') 西から



SD106・91・113 完掘 西から



SD113 断面 (A-A') 北から



SD113 完掘 北から



SE59 断面 (A-A') 東から



SE59 完掘 東から



SE70 断面 (A-A') 南から



SE70 完掘 南から



SE103 断面 (A-A') 南から



SE103 完掘 北から



SE112 完掘 西から



SE117、SD22 断面 (A-A') 北から



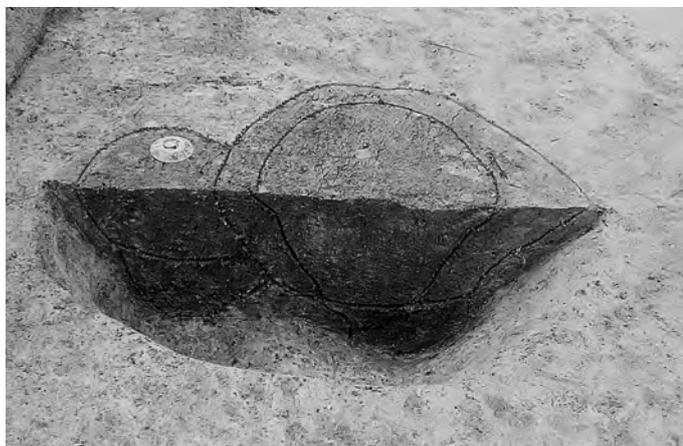
SE117、SD22 完掘 北から



SK6 断面 (A-A') 南から



SK6 完掘 南から



SK7、P118 断面 (A-A') 東から



SK7、P118 完掘 東から



SK14、SD3 断面 (A-A') 西から



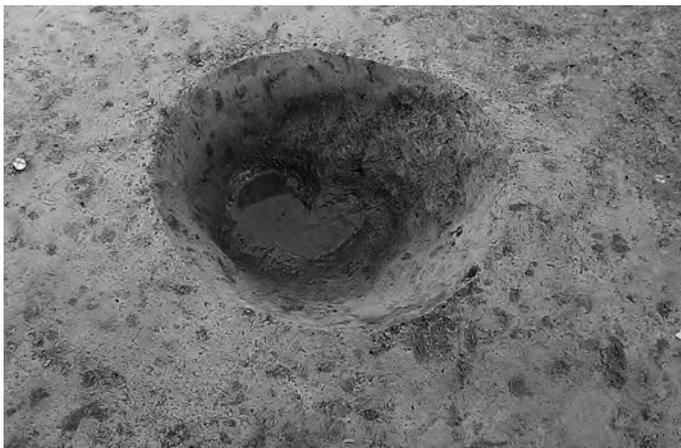
SK14、SD3 完掘 北から



SK40 断面 (A-A') および完掘 南から



SK41 断面 (A-A') 西から



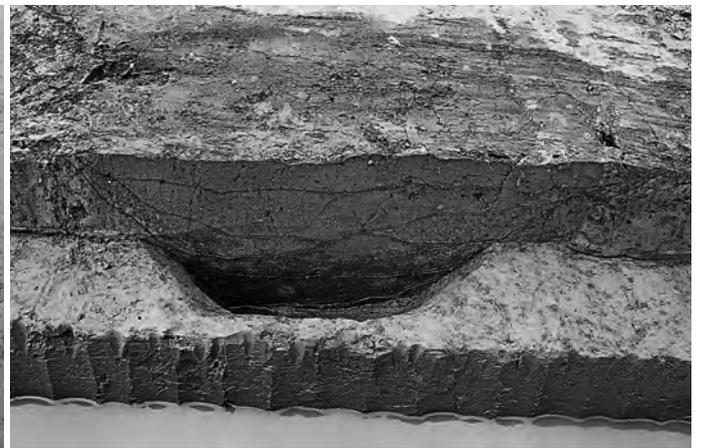
SK41 完掘 西から



SK44 断面 (A-A') 南から



SK44 完掘 南から



SK46 断面 (A-A') 南から



SK68 遺物出土状況 北から



SK68 完掘 北から



SK69 断面 (A-A') 南から



SK73 断面 (A-A') および完掘 南から



SK109 断面 (A-A') 西から



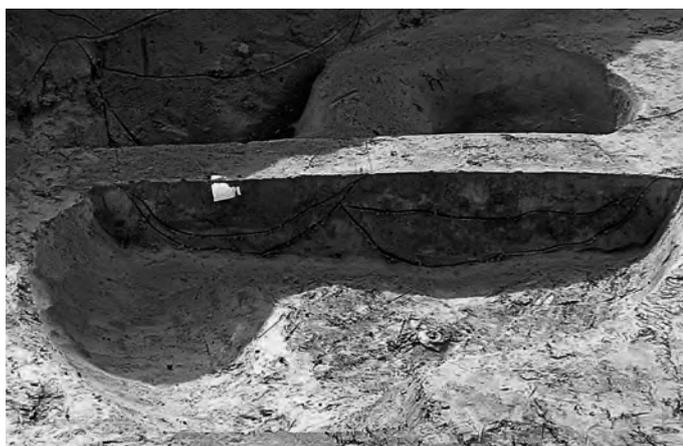
SK109 完掘 西から



SX19 断面 (A-A') 北から



SD21、SX19 完掘 北から



SX76、SD94 断面 (A-A') 北から



SX76、SD94 完掘 北から



6区 着手前 南から



6区 完掘 北から



SD10 断面 (B-B') 北から



SD10 完掘 北から



SD11 断面 (A-A') 東から



SD11 完掘 東から



SD16 断面 (A-A') 西から



SD16 完掘 西から



SD18 断面 (A-A') 南から



SD18 完掘 南から



SD19 断面 (A-A') および完掘 東から



SD21・24 断面 (A-A') 北から



SD21・24 完掘 東から



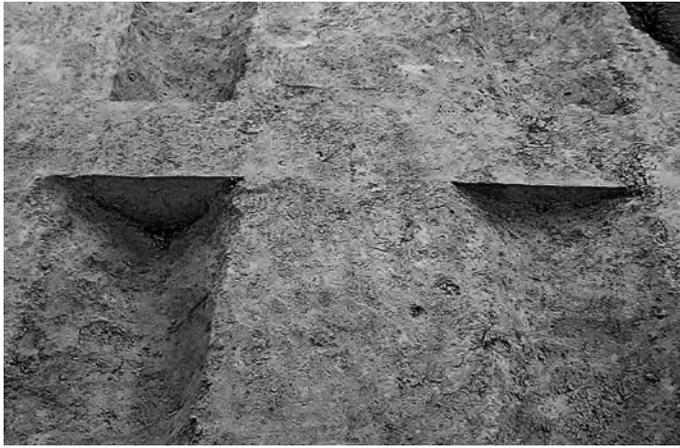
畝状遺構 SD8 ほか 完掘 北から



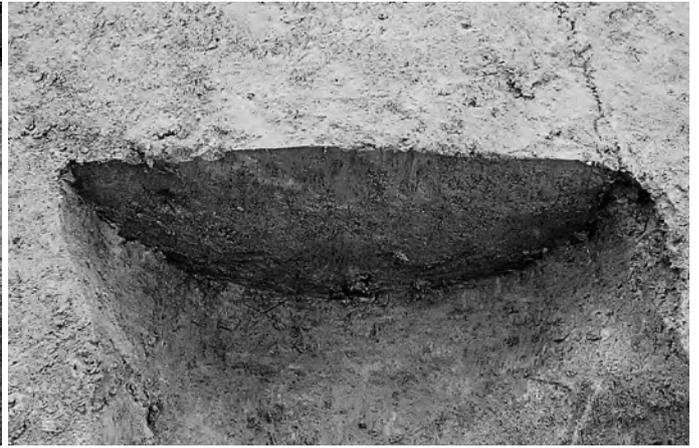
畝状遺構 SD8・27・28 断面 (A-A') 北から



畝状遺構 SD29・30 断面 (B-B') 北から



畝状遺構 SD31・32 断面 (C-C') 北から



畝状遺構 SD33 断面 (D-D') 北から



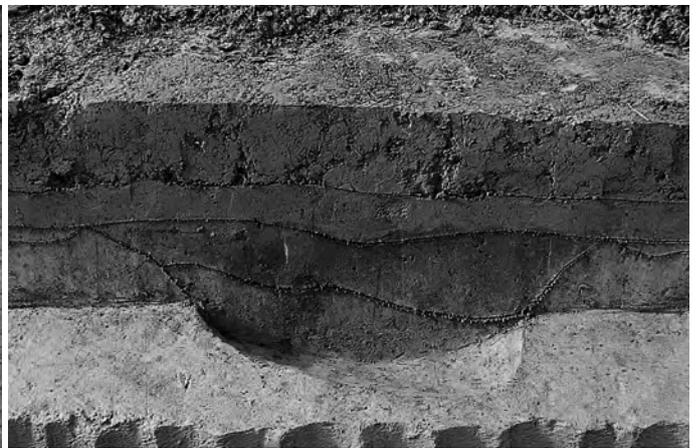
畝状遺構 SD34・35・36 断面 (E-E') 北から



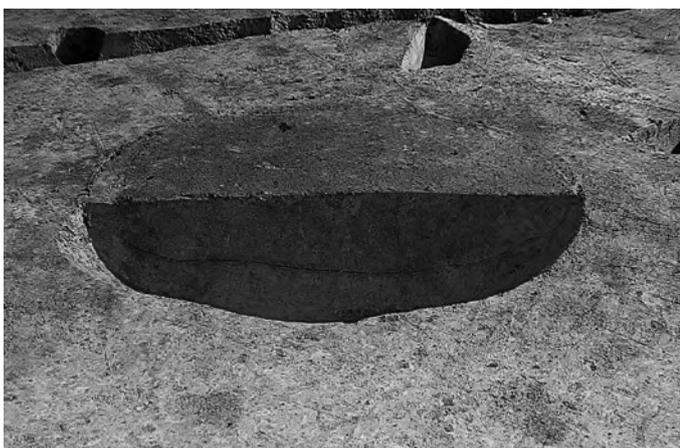
畝状遺構 SD37 断面 北から



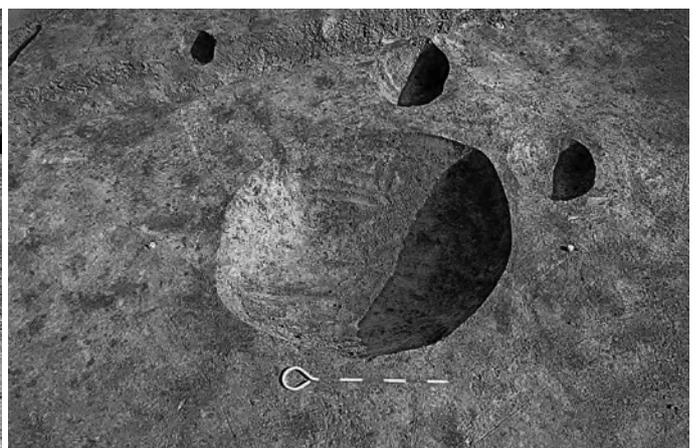
畝状遺構 SD38 断面 (F-F') 北から



SK1 断面 (A-A') および完掘 東から



SK3 断面 (A-A') 西から



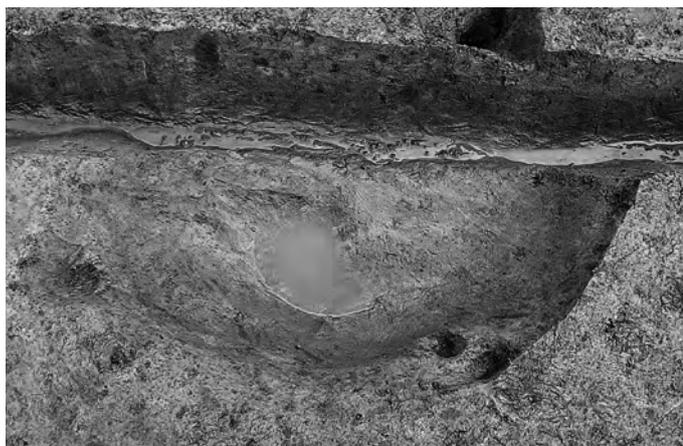
SK3 完掘 西から



SK4 断面 (A-A') および完掘 西から



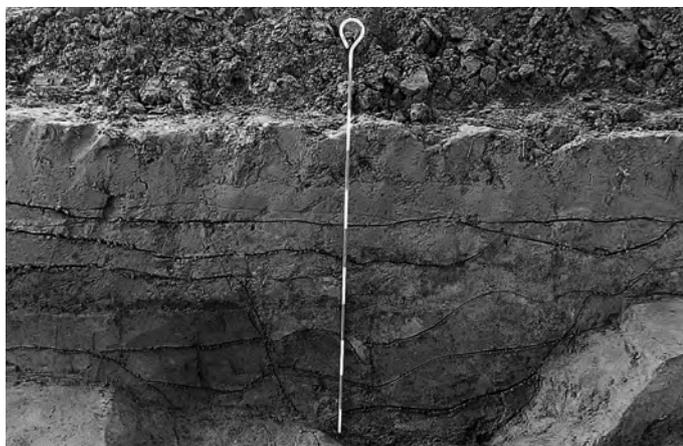
SK12 断面 (A-A') 東から



SK12 完掘 東から



SK13 断面 (A-A') および完掘 東から



SD18、SK26 断面 (B-B') 東から



SK26 完掘 東から



SX20 断面 (A-A') 南から



SX20 完掘 南から



7区完掘



調査区遠景 東から



調査区遠景 西から



7区 I期遺構集中部分 (SD2・93、SK145 ほか) 南西から



7区 SB7 東から



SA1、SB1・2・10 西から



SB3 ~ 6 南西から



7区 SB7・8 南から



7区 SB9 北から



7区 11S-5F周辺の遺構 南から



7区 SD30・47・108・133 ほか 南から



7区 SD108・190 ほか 北から



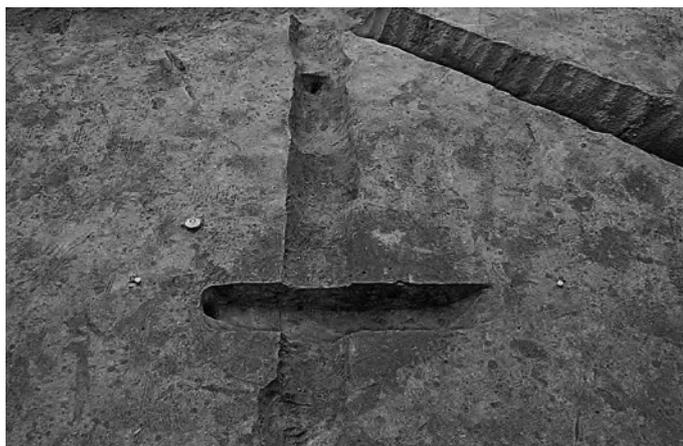
7区 SD775・808 北西から



SD2 断面 (A-A') 東から



SD2 断面 (B-B') 西から



SD2 西側完掘 北から



SD2 遺物出土状況



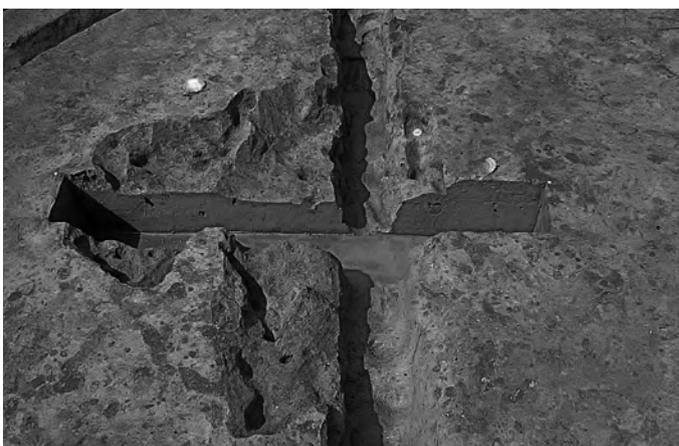
SD17 断面 (A-A') 北東から



SD17 完掘 北東から



SD21、SK20 断面 東から



SD21、SK20 完掘 東から



SD30・47、SK66・74 断面 (C-C') 南西から



SD30 断面 (A-A') 北西から



SD30 断面 (B-B') 南西から



SD30・108 断面 (B-B') 南西から



SD30 完掘 西から



SD47 断面 (A-A') 北東から



SD47・108 断面 (A-A') 南西から



SD47・607 断面 (D-D') 南から



SD93 断面 (A-A' SK98 含む) 東から



SD93 完掘 東から



SD96 断面 (A-A') 南から



SD96 完掘 北から



SD102 断面 (A-A' P104・107 含む) 東から



SD133 断面 (A-A' SD267 エレベーション含む) 南西から



SD133 断面 (B-B') 北から



SD133 断面 (C-C') 南から



SD190 断面 (A-A') 東から



SD191 断面 (B-B' SD102 含む) 南から



SD192・193・224 断面 (A-A') 東から



SD193 断面 (A-A') 東から



SD207 断面 (A-A') 東から



SD267・133 断面 (A-A') 南西から



SD267 断面 (A-A') 南西から



SD268 断面 (A-A') 南西から



SD268 断面 (B-B' SX694 含む) 北東から



SD268 断面 (C-C' SD318、SK317 を含む) 北西から



SD382・190 断面 (B-B') 東から



SD390 断面 (A-A') 北から



SD367 (手前)・SD390 完掘 北東から



SD413 断面 (A-A' SD470 含む) 北から



SD413 完掘 北から



SD423 断面 (A-A') 南東から



SD423 断面 (C-C' SD487 含む) 北西から



SD423・487 完掘



SD635・712 断面 (A-A') 東から



SD635・636、P638 完掘 東から



SD635・713 断面 (A-A') 東から



SD662 断面 (A-A') 南から



SD712・714・716、SX720 断面 (A-A') 北東から



SD715・714 断面 (A-A') 北東から



SD716 断面 (A-A') 東から



SD718 断面 (A-A') 東から



SD773・718・719 断面 (A-A') 東から



SD775 断面 (A-A') 東から



SD775 断面 (C-C' SX807・SD808 含む) 北西から



SD837 断面 (A-A') 南西から



SD878 断面 (A-A') 南東から



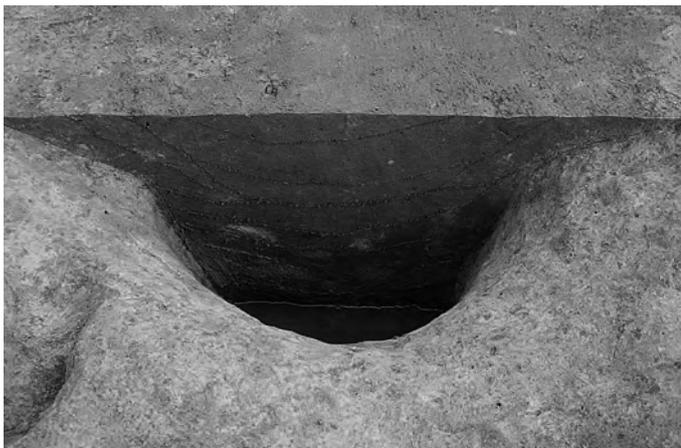
SD918 断面 (A-A') 北から



SE399 断面 (A-A') 東から



SE399 完掘 東から



SE434 断面 (A-A') 西から



SE434 完掘 西から



SE677 断面 (A-A') 東から



SE677 断面 (A-A') 下部堆積 東から



SE677 完掘 東から



SE678 断面 (A-A') 南東から



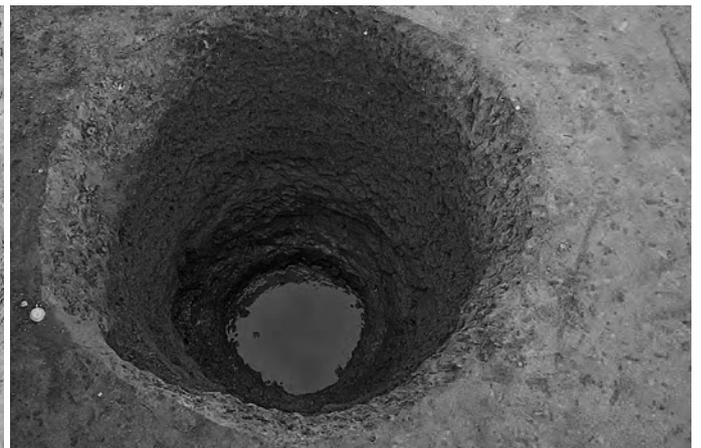
SE678 完掘 南東から



SE704 断面 (A-A') 南から



SE704 断面 (A-A') 下部堆積 南から



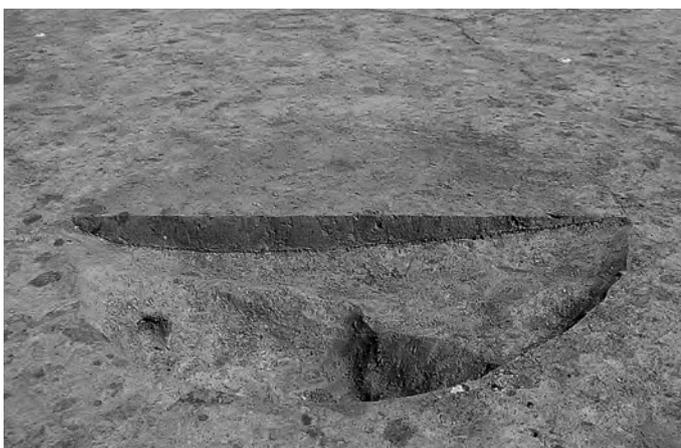
SE704 完掘 南から



SK1 断面 (A-A') 西から



SK1 完掘 西から



SK18 断面 (A-A') 南から



SK18 完掘 南から



SK22・23 断面 (A-A') 東から



SK22・23 完掘 東から



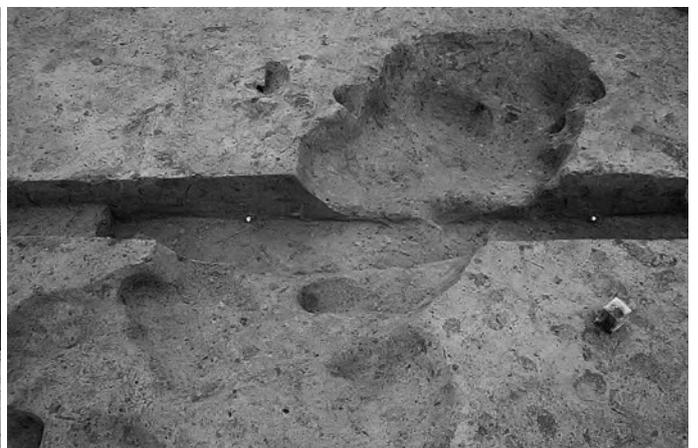
SK28 断面 (A-A') 西から



SK28 完掘 西から



SK34 断面 (A-A') 西から



SK34 完掘 西から



SK50、P52 断面 (A-A') 南から



SK50、P52 完掘 南から



SK53 断面 (A-A') 西から



SK53 完掘 西から



SK56 断面 (A-A') 及び遺物出土状況 南西から



SK56 完掘 南西から



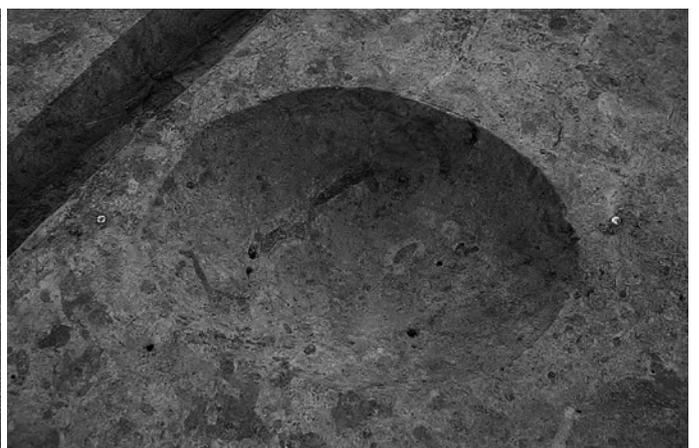
SK68・69 断面 (A-A') 西から



SK69・68 完掘 西から



SK76 断面 (A-A') 南から



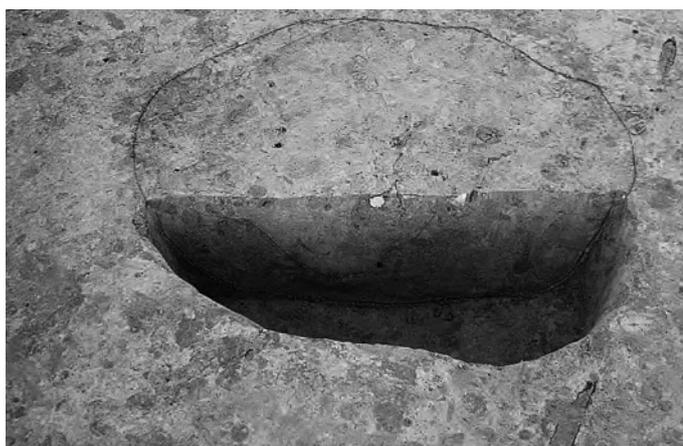
SK76 完掘 南から



SK77 断面 (A-A') 南西から



SK77 完掘 南西から



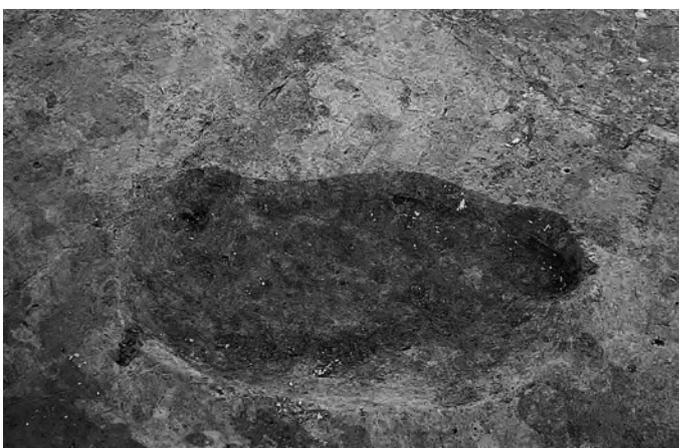
SK86 断面 (A-A') 南から



SK86 完掘 南から



SK90 断面 (A-A') 南から



SK90 完掘 南から



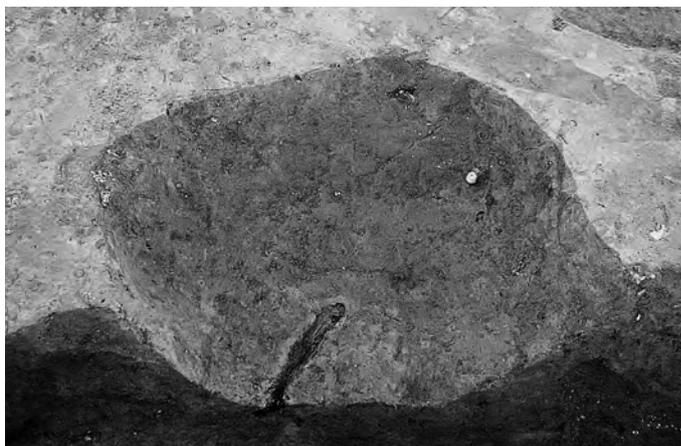
SK92 断面 (A-A') 南から



SK92 完掘 南から



SK97 断面 (A-A') 南から



SK97 完掘 南から



SD93、SK99・98 断面 (A-A') 東から



SK98 完掘 東から



SK99 完掘 北から



SK116、SX143 断面 (A-A') 西から



SK116、SX143 完掘 西から



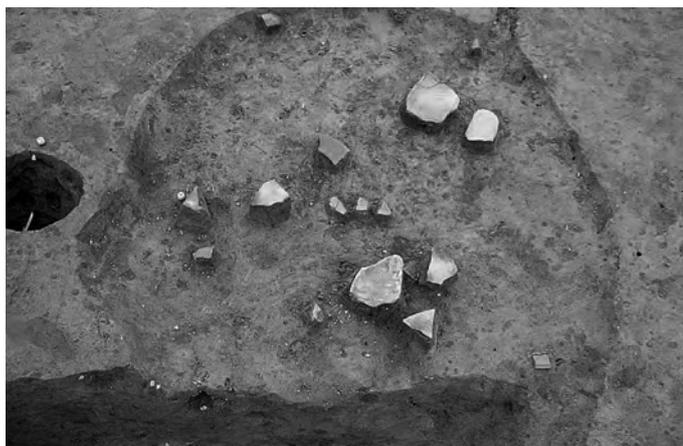
SK140 断面 (A-A') 南東から



SK140 完掘 南東から



SK141 断面 (A-A') 南から



SK141 遺物出土状況 南から



SK141 完掘 南から



SK145 断面 (A-A' 西半) 南西から



SK145 土師器鍋出土状況 東から



SK145 搬入礫出土状況 北西から



SK145 遺物出土状況 (土師器鍋・搬入礫) 西から



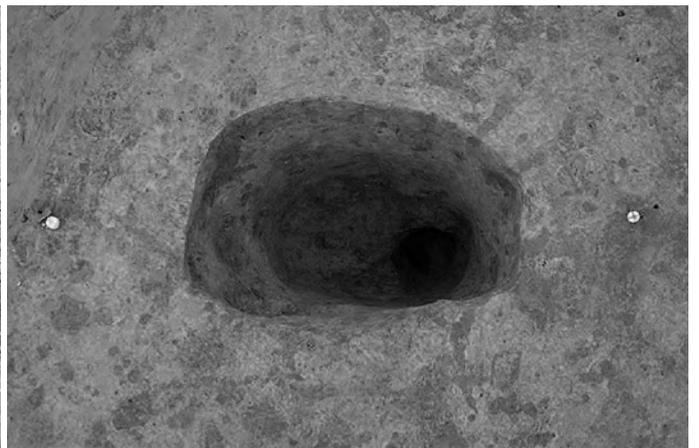
SK145 遺物出土状況 東から



SK145 完掘 東から



SK194 断面 (A-A') 北から



SK194 完掘 北から



SK195 断面 (A-A') 南から



SK195 完掘 南から



SK200、SD2 断面 (A-A') 北から



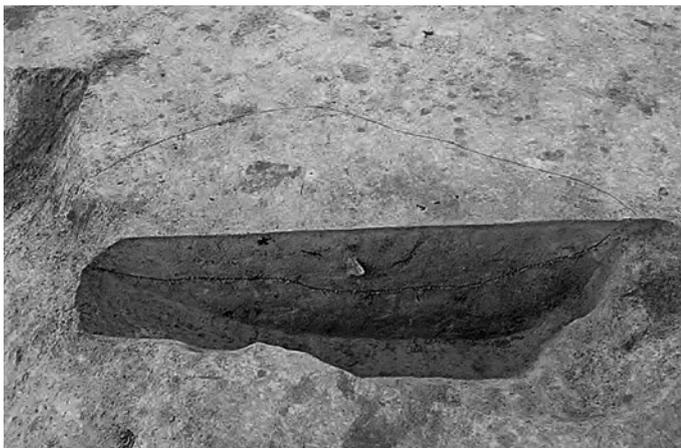
SK200 完掘 北から



SK201 断面 (A-A') 東から



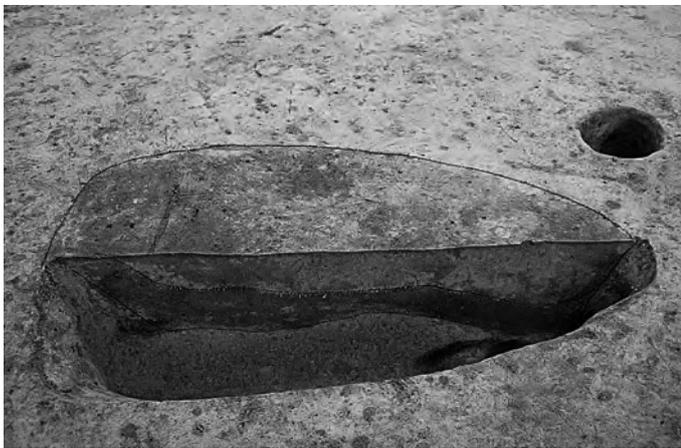
SK201 完掘 東から



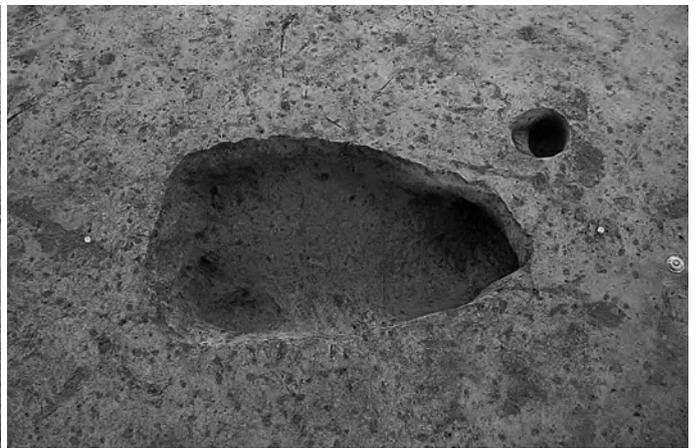
SK202 断面 (A-A') 北から



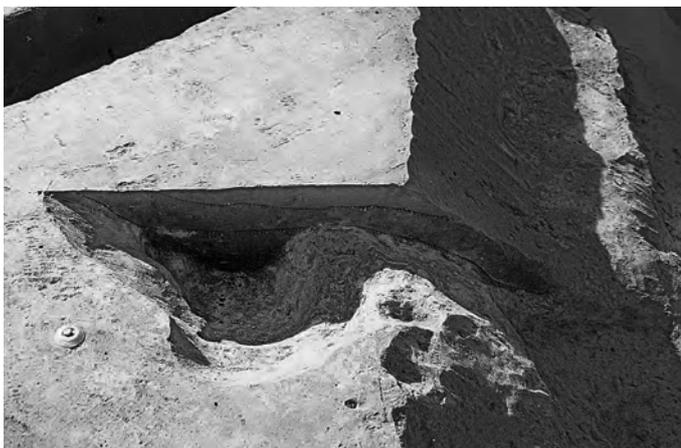
SK202 完掘 北から



SK250 断面 (A-A') 北から



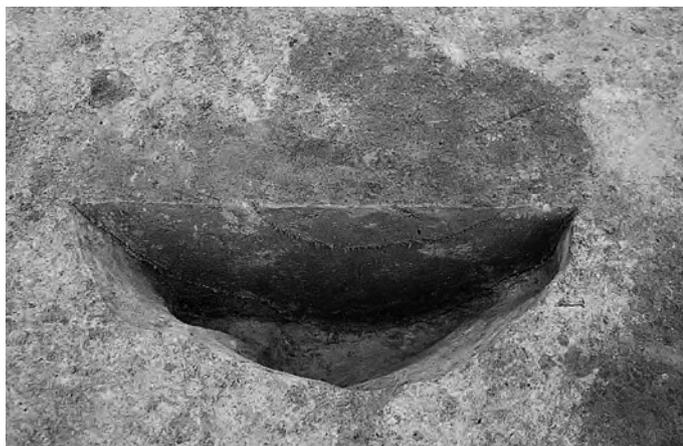
SK250 完掘 北から



SK273 断面 (A-A') 東から



SK273 完掘 東から



SK292 断面 (A-A') 南から



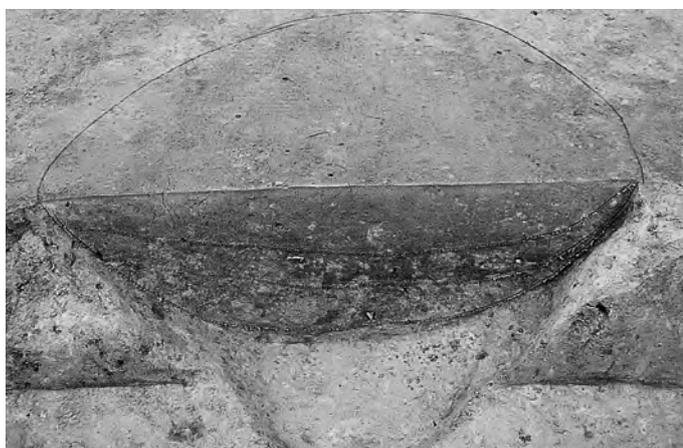
SK292 完掘 南から



SK324 断面 (A-A') 東から



SK324 完掘 東から



SK409 断面 (A-A') 東から



SK409 完掘 東から



SK411 断面 西から



SK411 完掘 西から



SK414 断面 (A-A') 北東から



SK414 完掘 北東から



SK442 断面 (A-A') 南から



SK442 完掘 南から



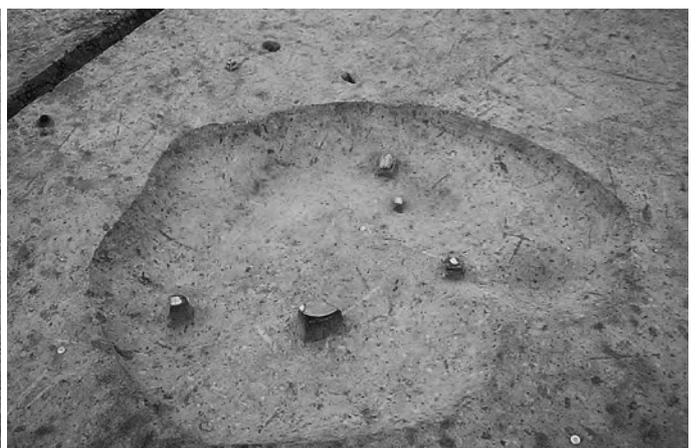
SK488 断面 (A-A') 南東から



SK488 完掘 南東から



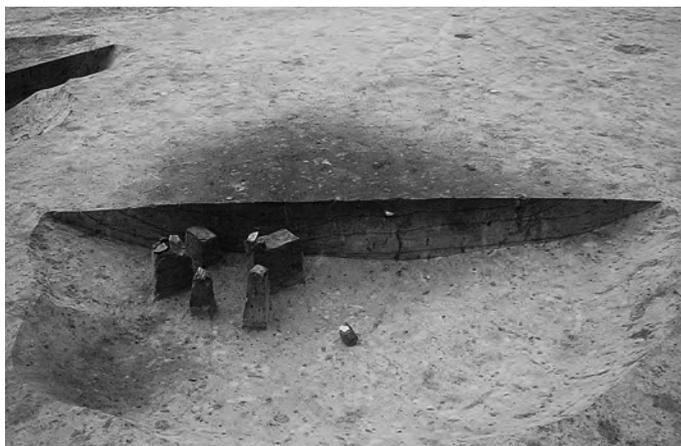
SK575・576、P580 断面 (A-A') 東から



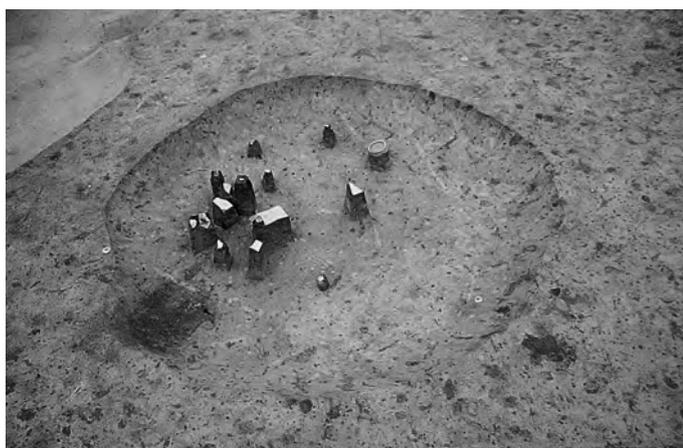
SK575・576、P580 遺物出土状況



SK575・576 完掘 東から



SK577 断面 (A-A') 南から



SK577 遺物出土状況



SK577、P584 完掘 南から



SK597 断面 (A-A') 南から



SK597 完掘 南から



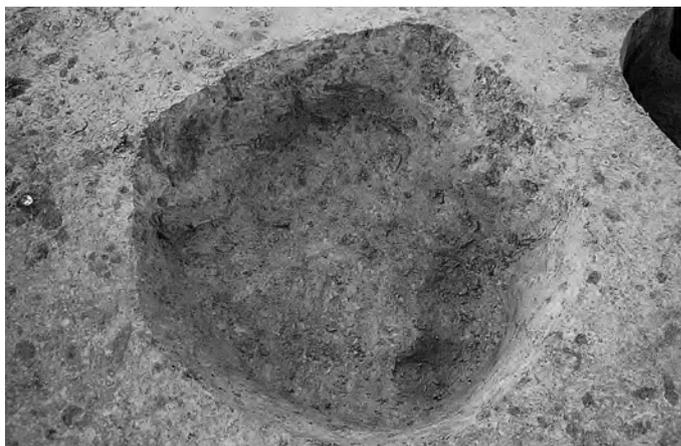
SK601 断面 (A-A') 南から



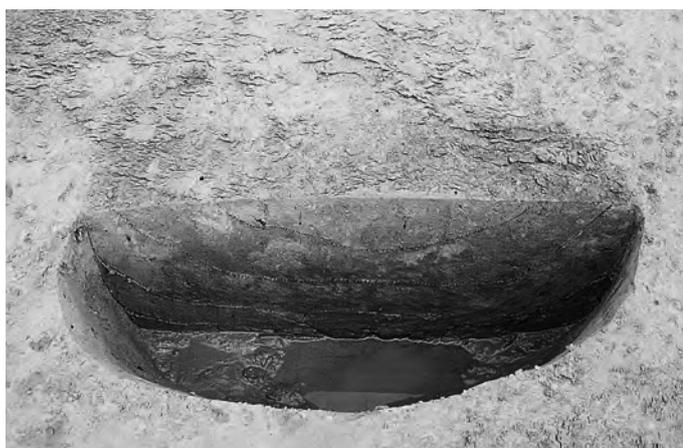
SK601 完掘 南から



SK681 断面 (A-A') 南東から



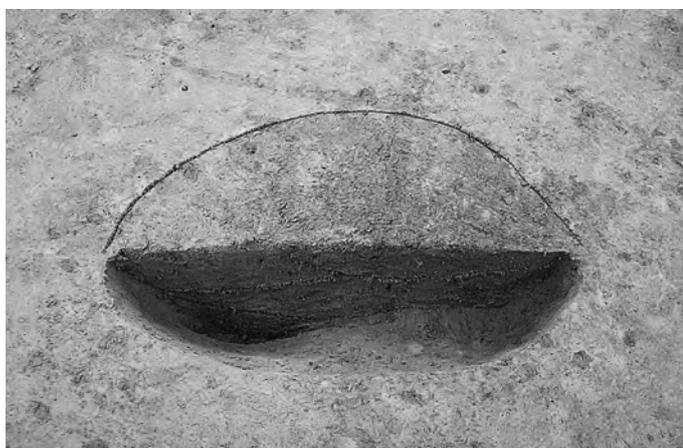
SK681 完掘 南東から



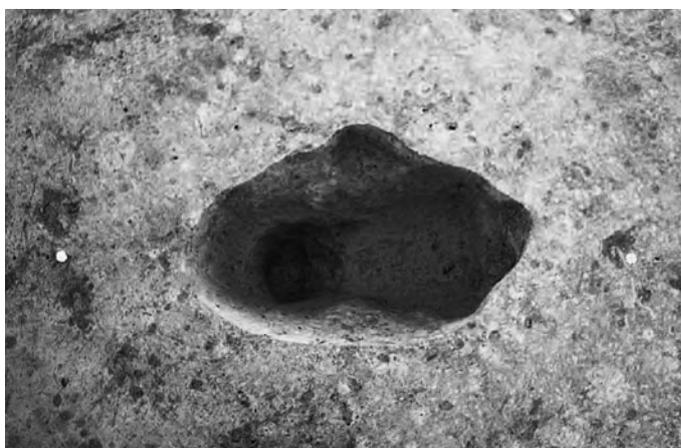
SK682 断面 (A-A') 南から



SK682 完掘 南から



SK799 断面 (A-A') 北から



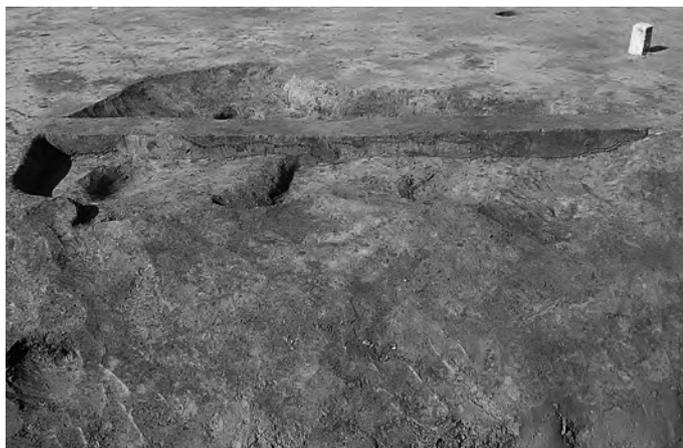
SK799 完掘 北から



SK899 断面 (A-A') 南から



SK899 完掘 南から



SX58 断面 (A-A') 南から



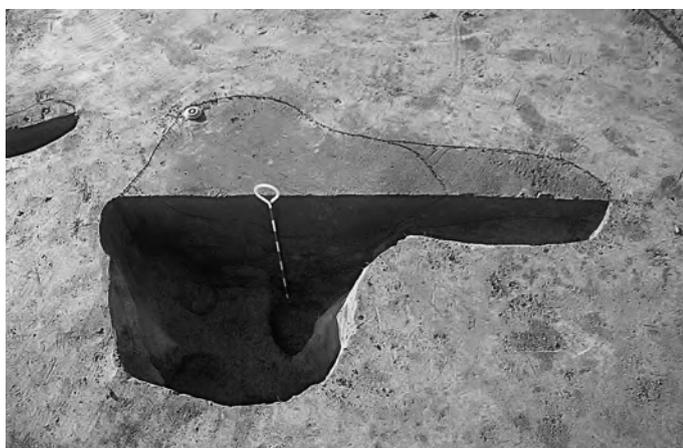
SX58 完掘 南から



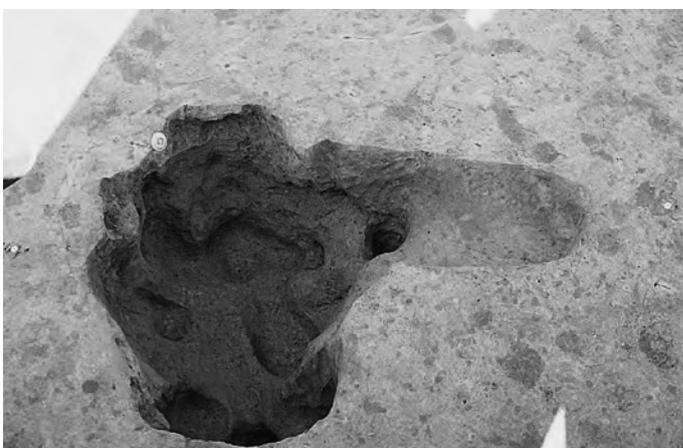
SX106 断面 (A-A') 西から



SX106 完掘 西から



SX118・119 断面 (A-A') 南東から



SX118・119 完掘 南東から



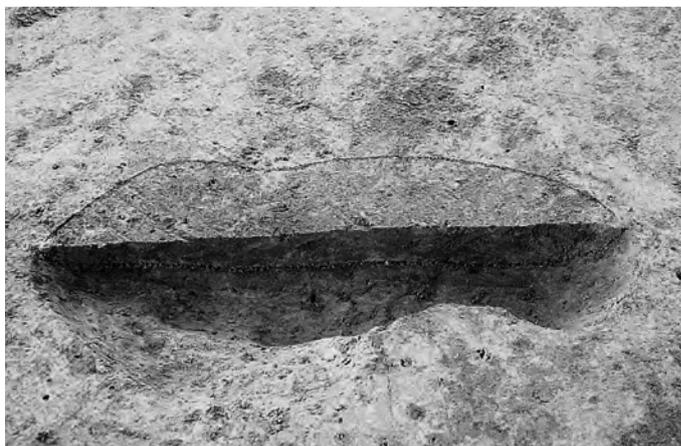
SX144 断面 (A-A') 東から



SX26・144 完掘 東から



SX144 完掘 東から



SX327 断面 (A-A') 南から



SX327 完掘 南から



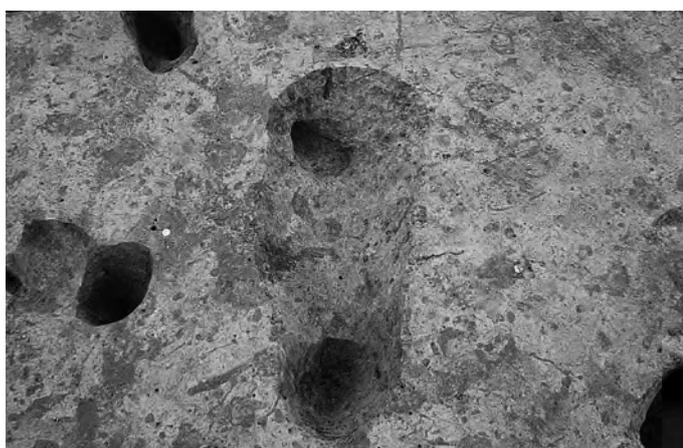
SX328 断面 (A-A') 南から



SX328 完掘 南から



SX550 断面 (A-A') 北東から



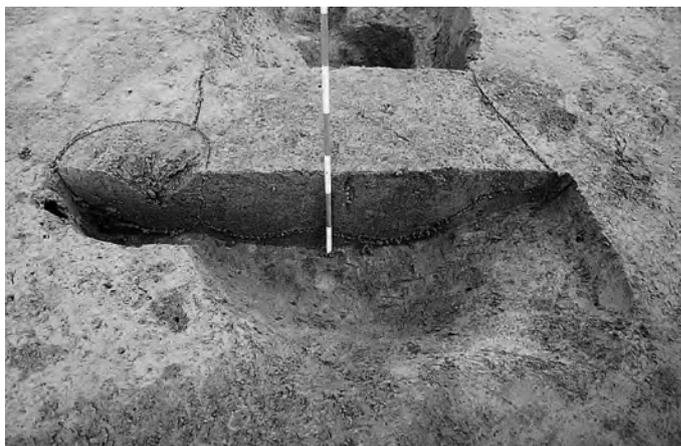
SX550 完掘 北東から



SX693 断面 (A-A') 西から



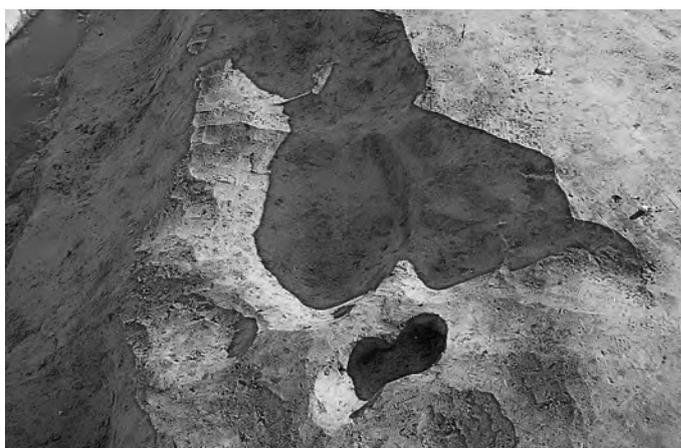
SX693 完掘 西から



SX743、P742 断面 (A-A') 南から



SX743 完掘 南から



SX807 完掘 北西から



P70 完掘 西から



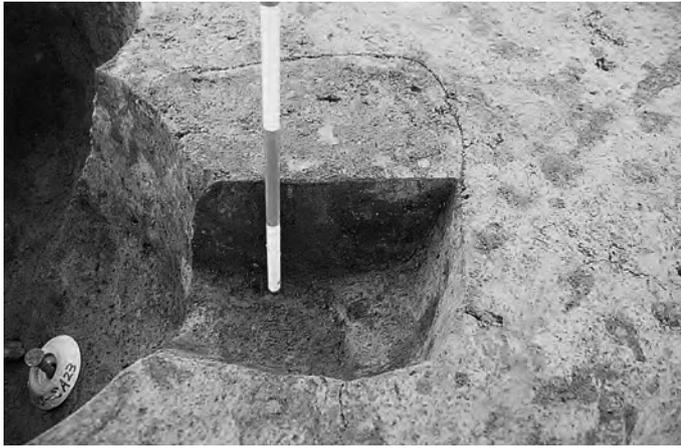
P229 断面 (A-A') 南から



P229 完掘 南から



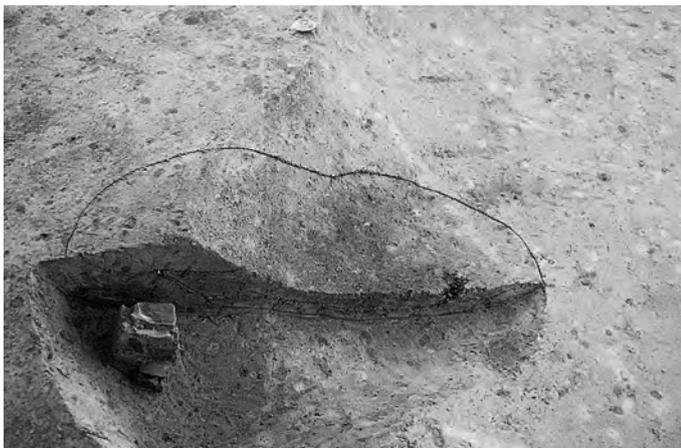
P421 完掘 南から



P581 断面



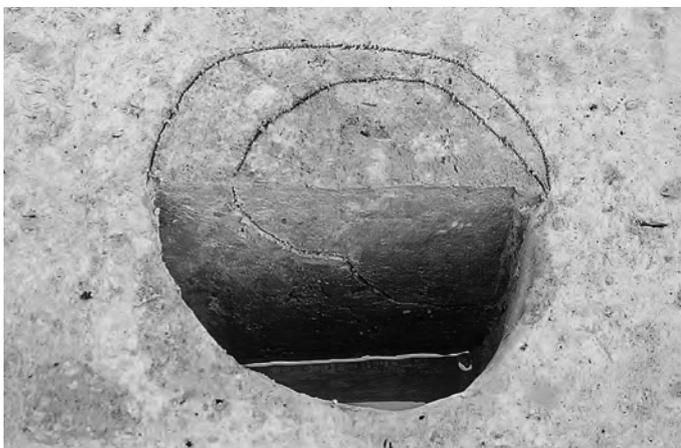
P581 完掘



P584 断面 東から



P584 完掘 東から



P692 断面



8区 遺跡発見時(表土除去前) 東から



8区 遺構検出状況(部分) 北から

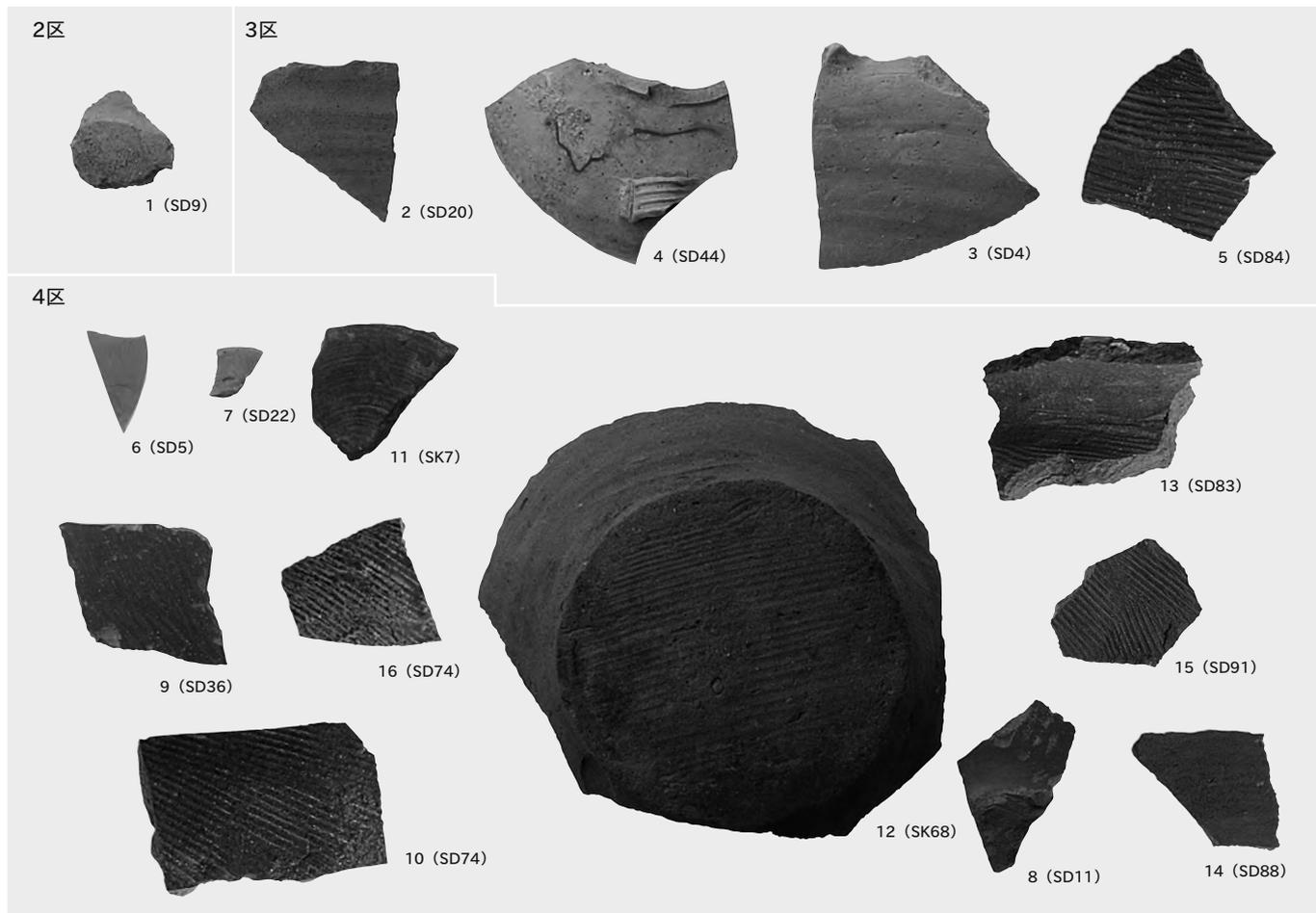


8区 遺構検出状況(全体俯瞰) 北から

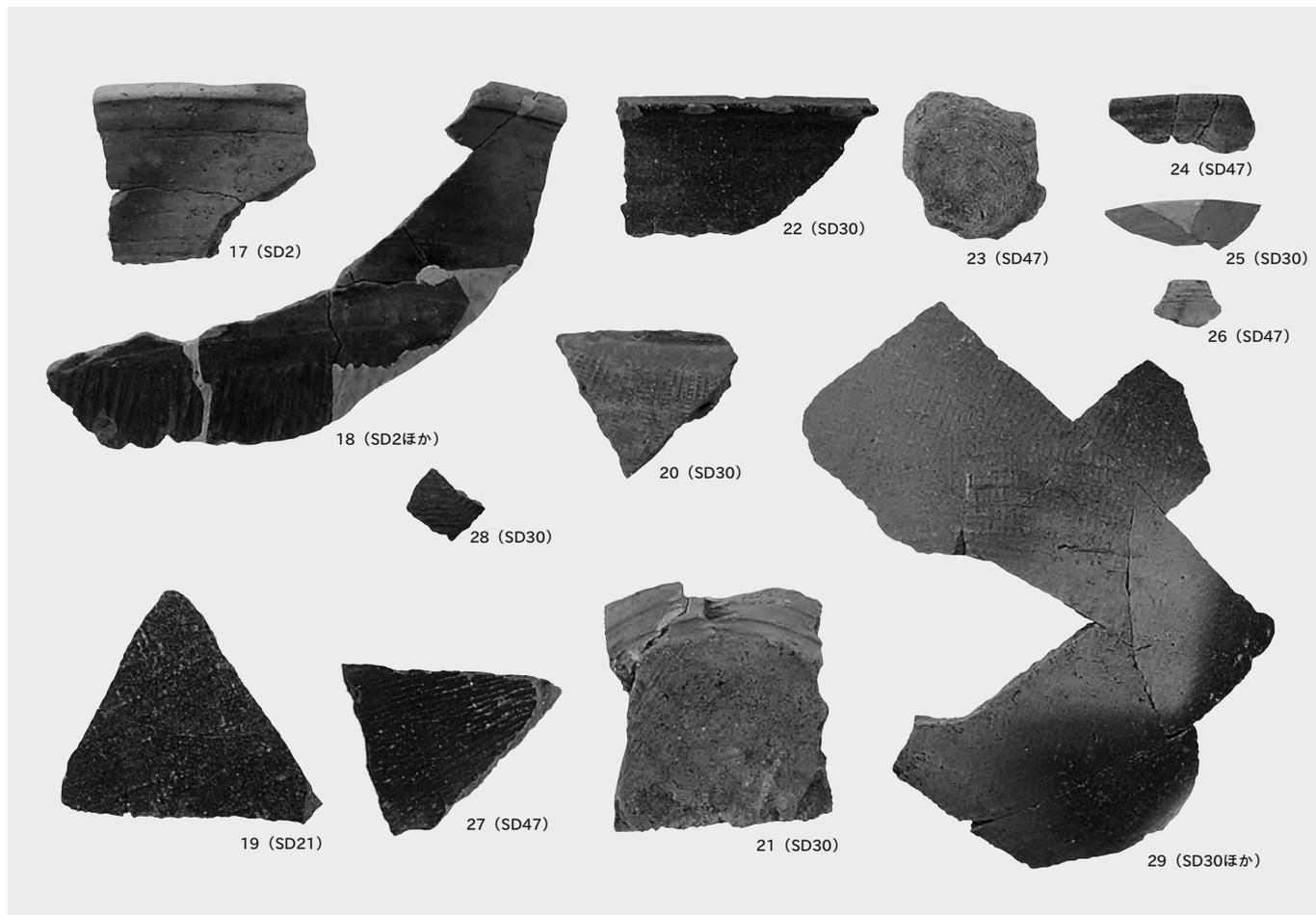




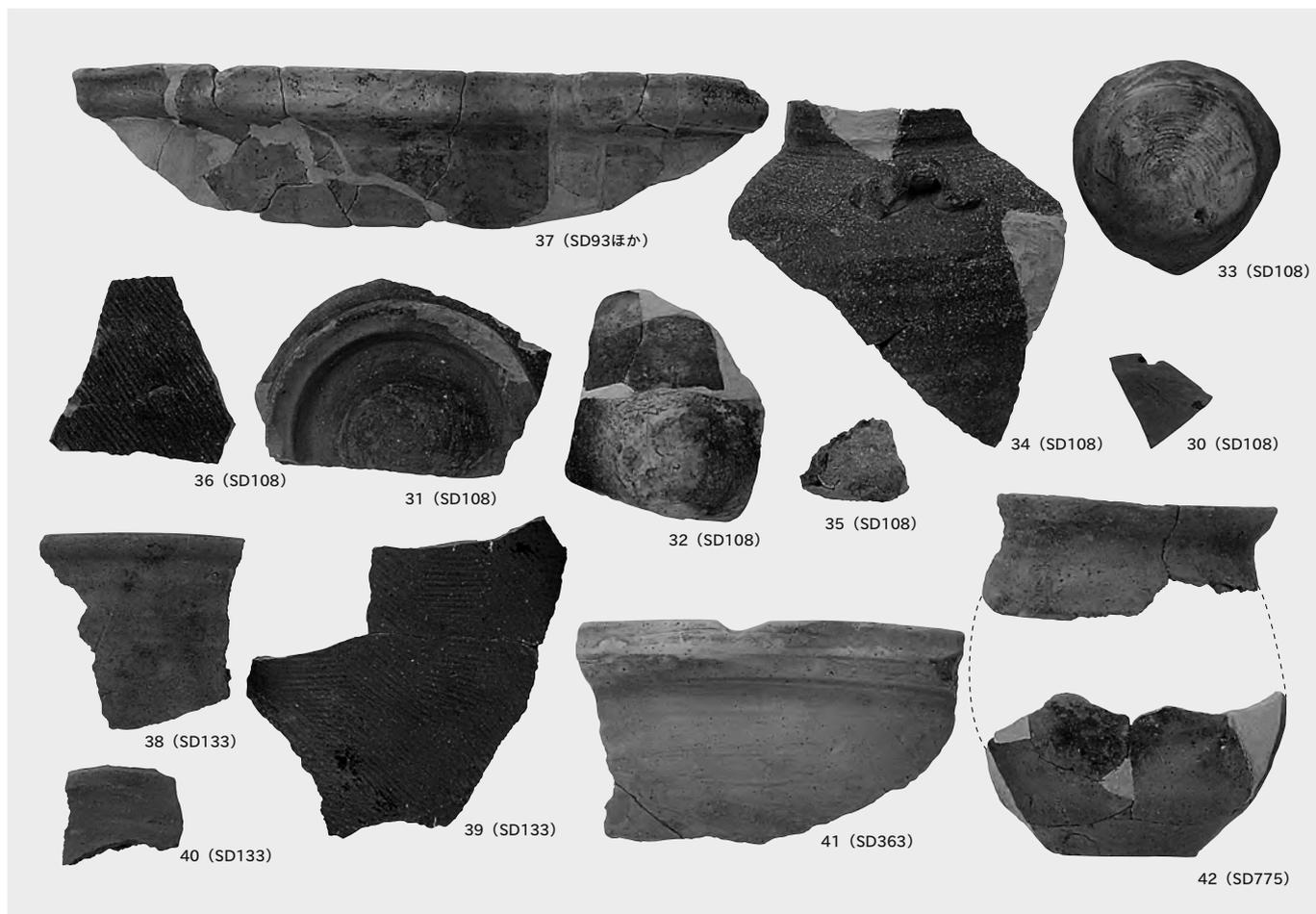
99 (SK145)



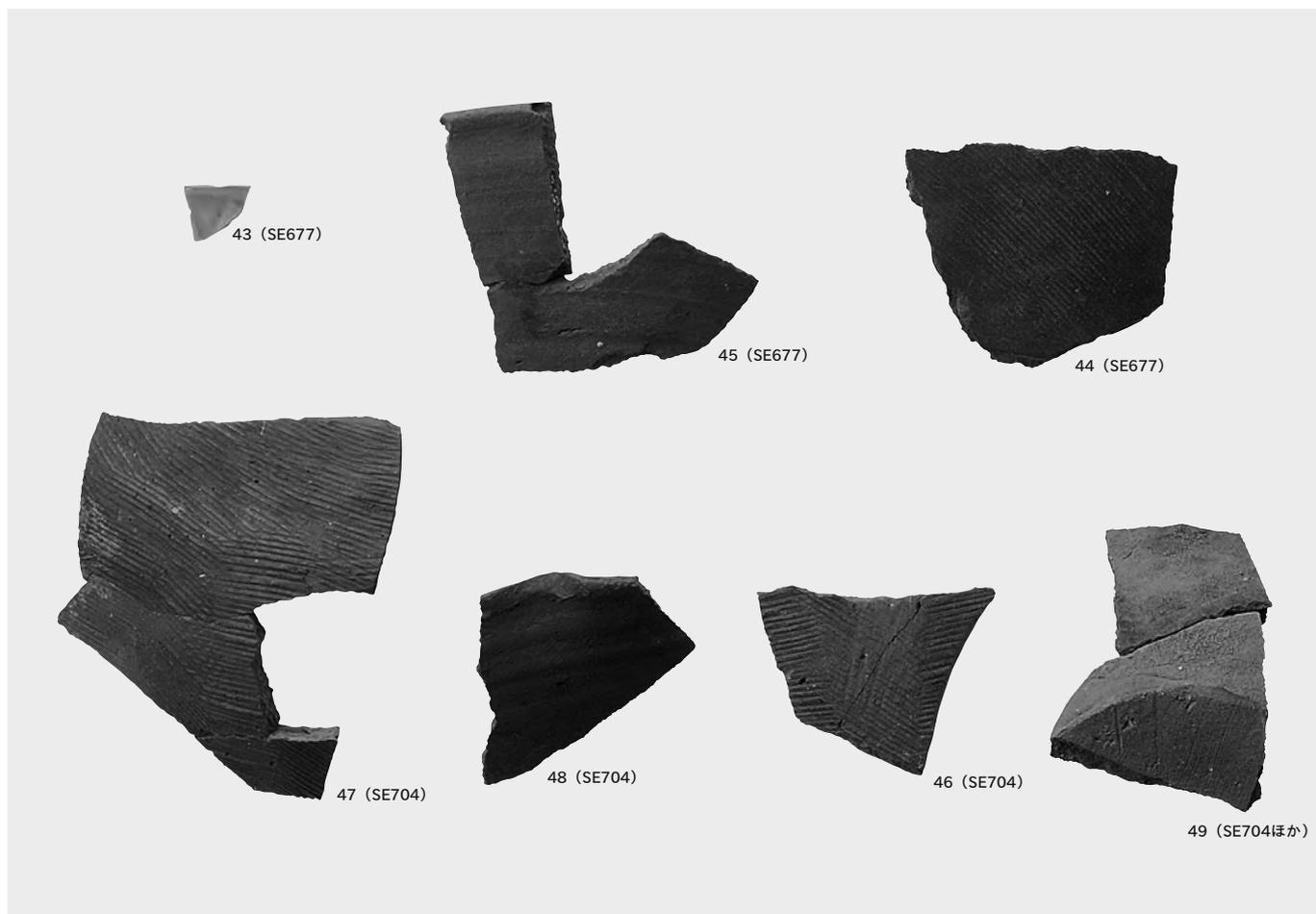
遺構出土土器・陶磁器 2区SD9 3区SD4・20・44・84 4区SD5・11・22・36・74・83・88・91,SK7・68



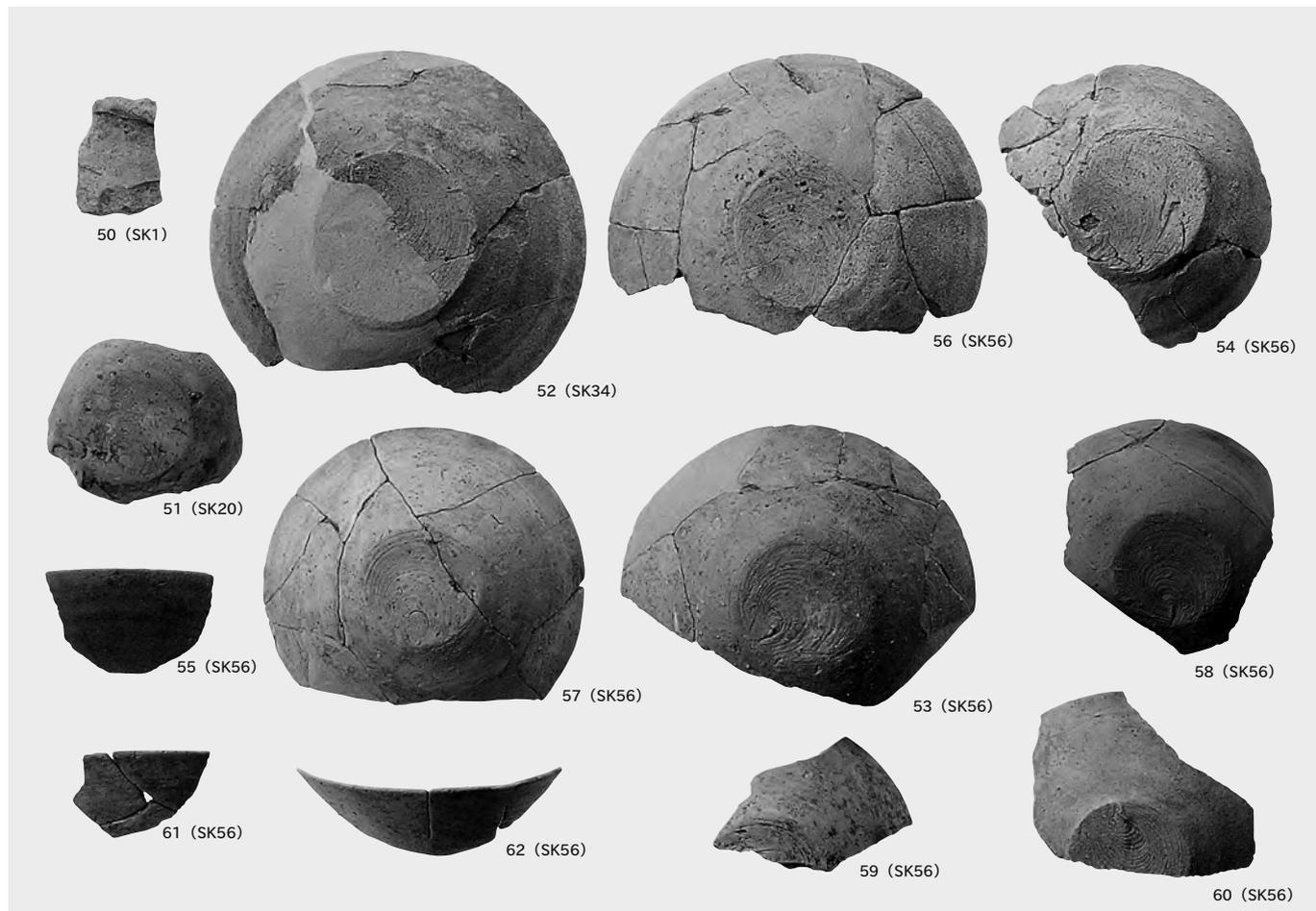
遺構出土土器・陶磁器 7区SD2・3・21・30・47(17~29)



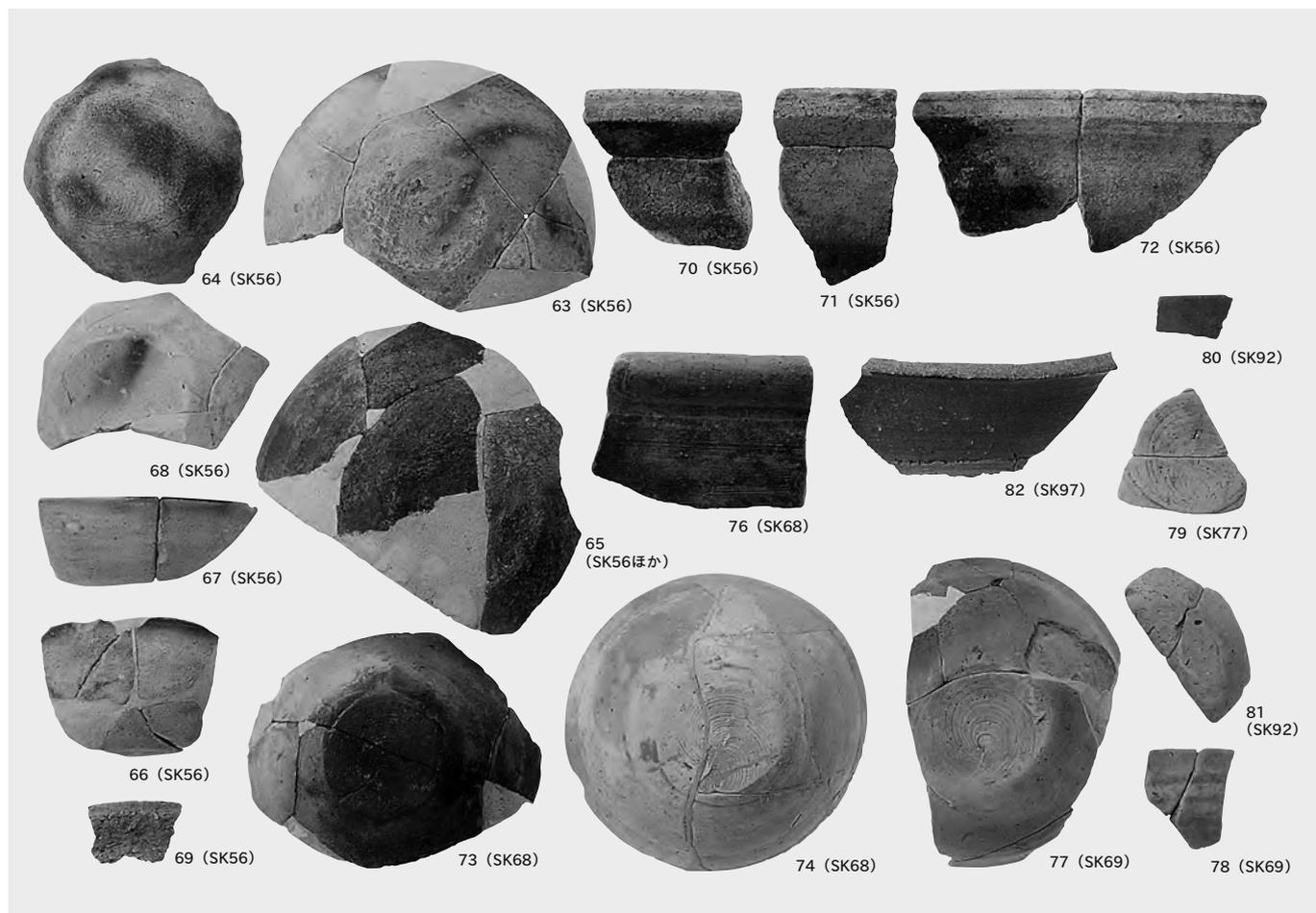
遺構出土土器・陶磁器 7区SD93・108・133・363・775(30~42)



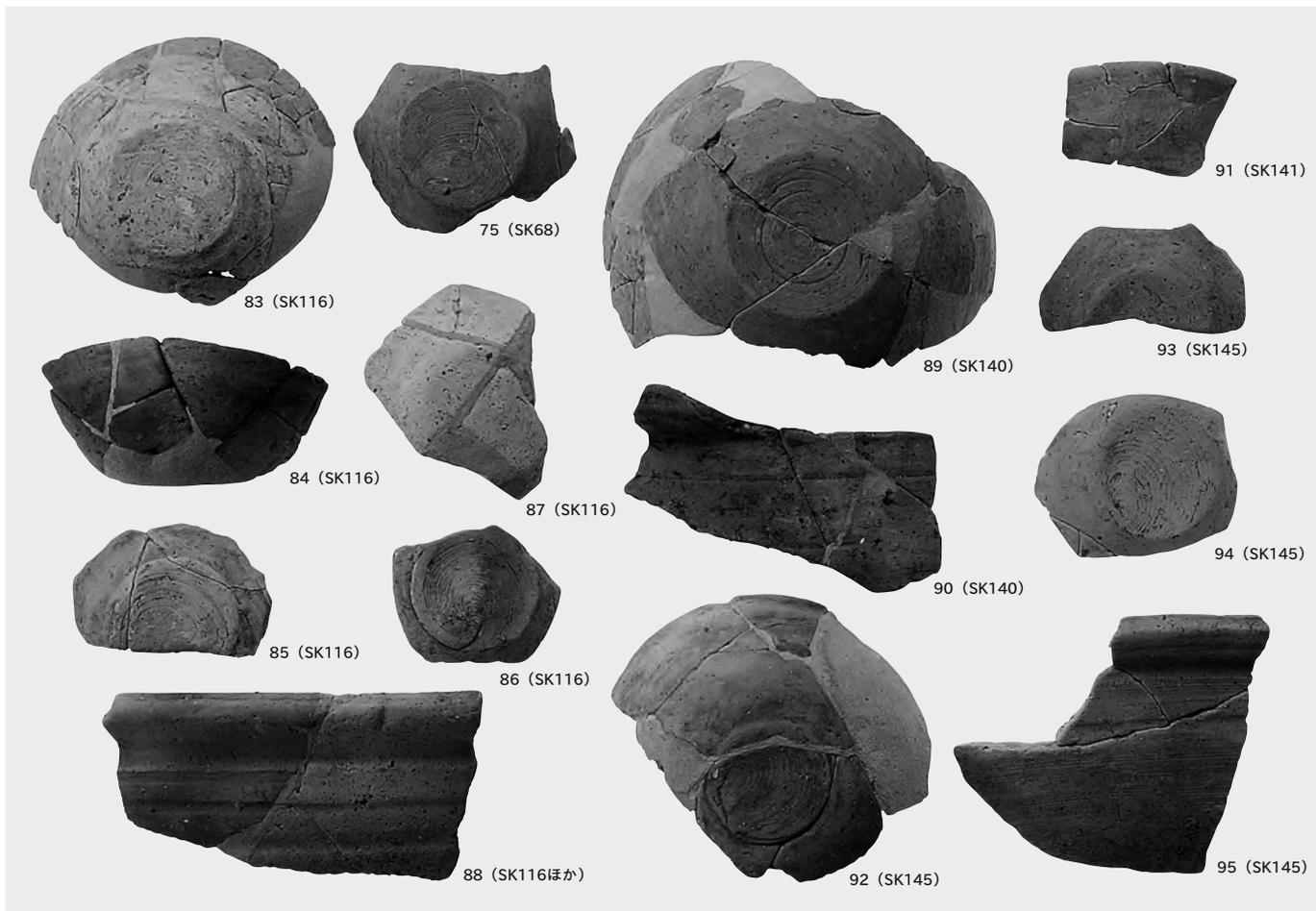
遺構出土土器・陶磁器 7区SE677・704(43~49)



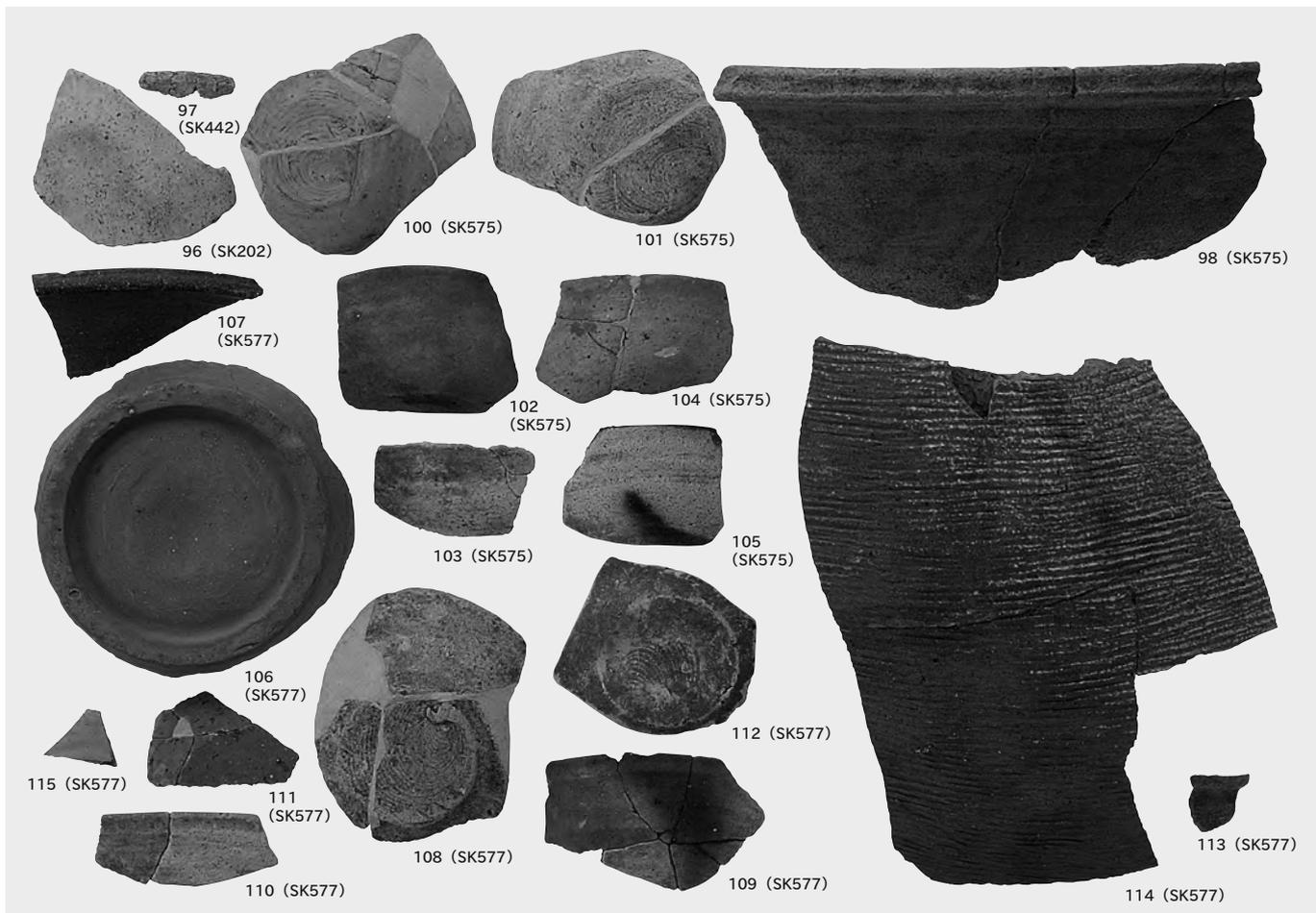
遺構出土土器・陶磁器 7区SK1・20・34・56(50~62)



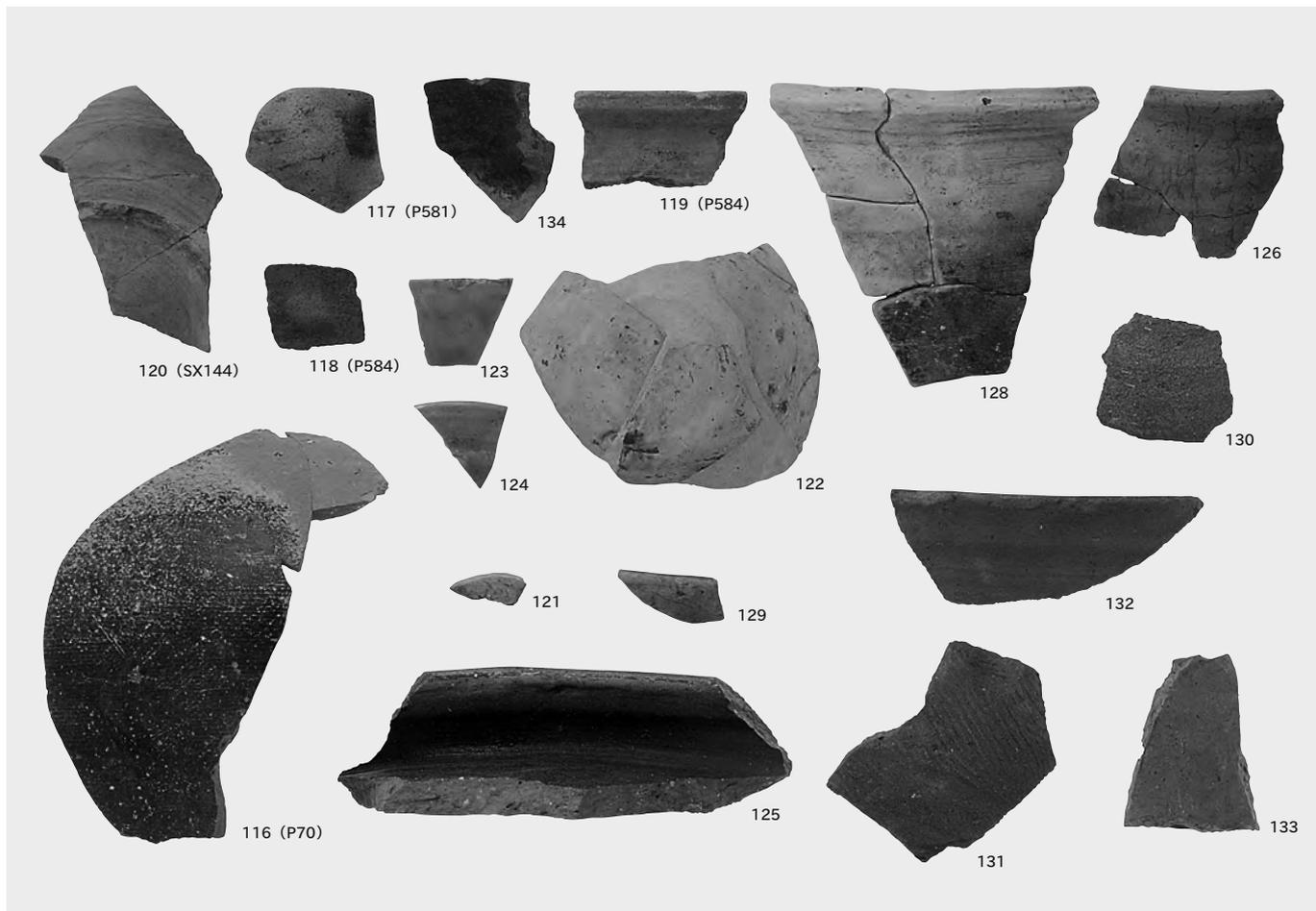
遺構出土土器・陶磁器 7区SK56・68・69・77・92・97(63~74, 76~82)



遺構出土土器・陶磁器 7区SK68・116・140・141・145(75,83~95)



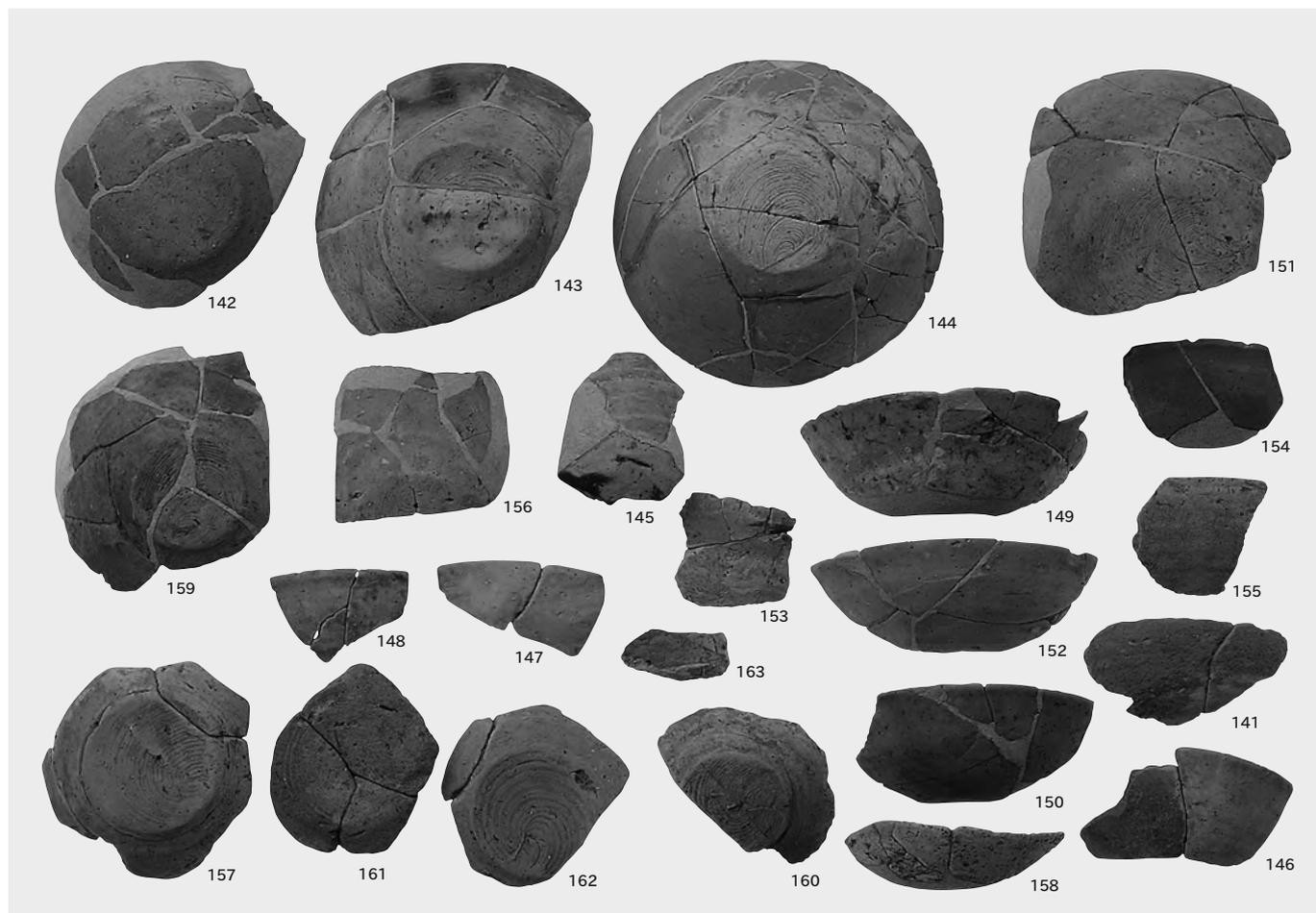
遺構出土土器・陶磁器 7区SK202・442・575・577(96~98,100~115)



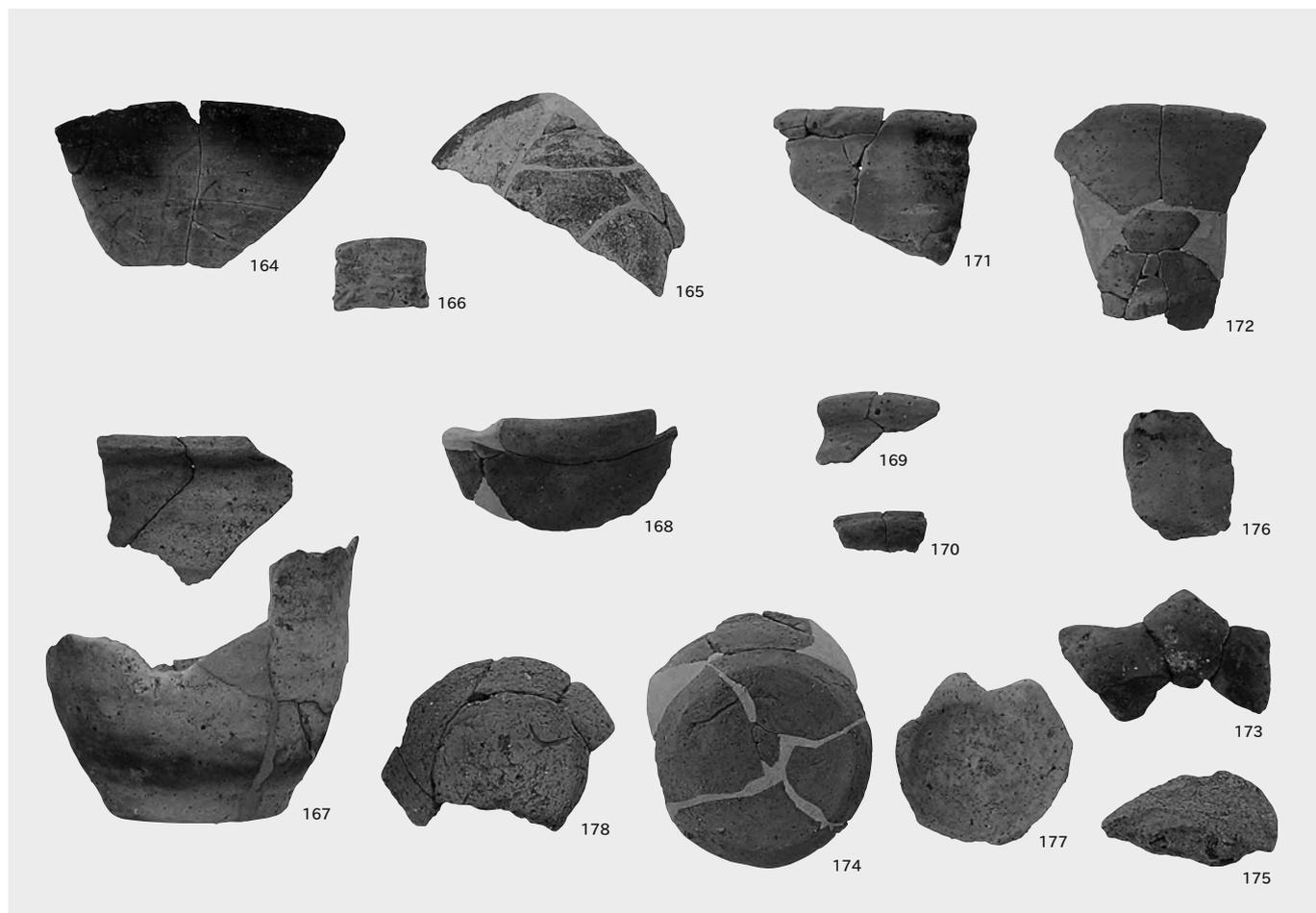
遺構出土土器・陶磁器 7区SX144、P70・581・584(116~120) 包含層出土土器・陶磁器 1区(121~125) 2区(126・128・129) 3区(130~133) 4区(134)



包含層出土土器・陶磁器 2区(127) 7区(135~140)



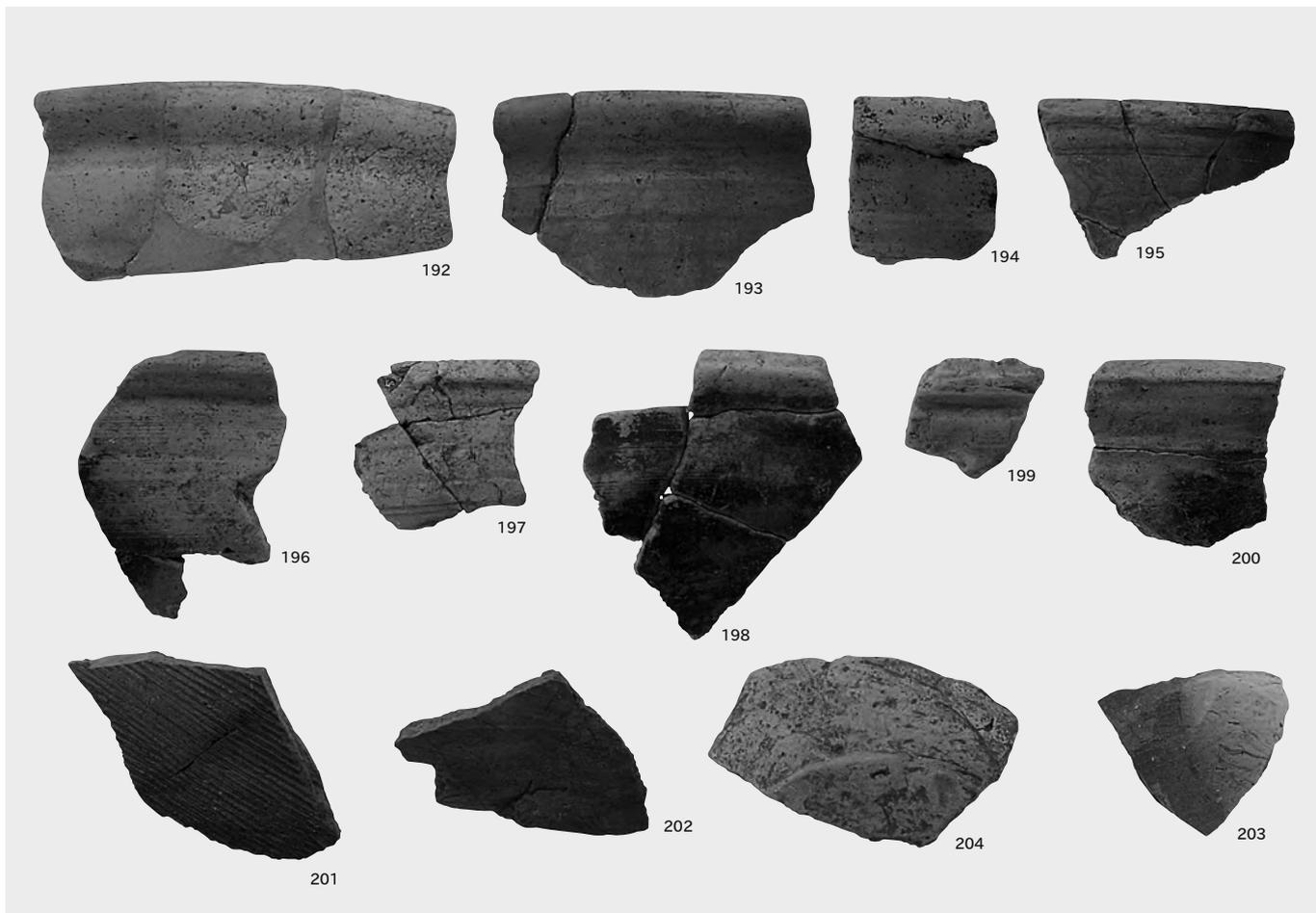
包含層出土土器・陶磁器 7区(141~163)



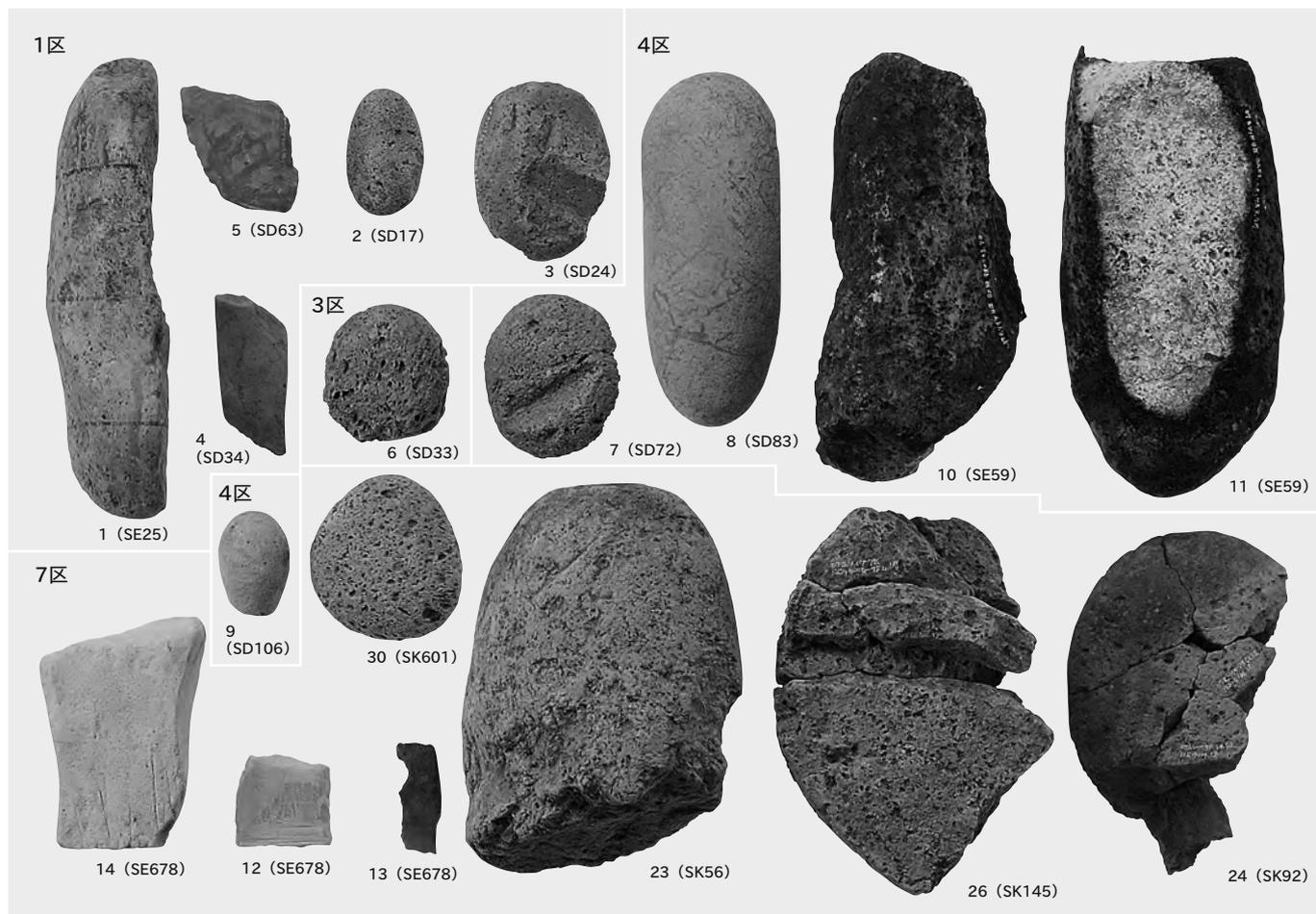
包含層出土土器・陶磁器 7区(164~178)



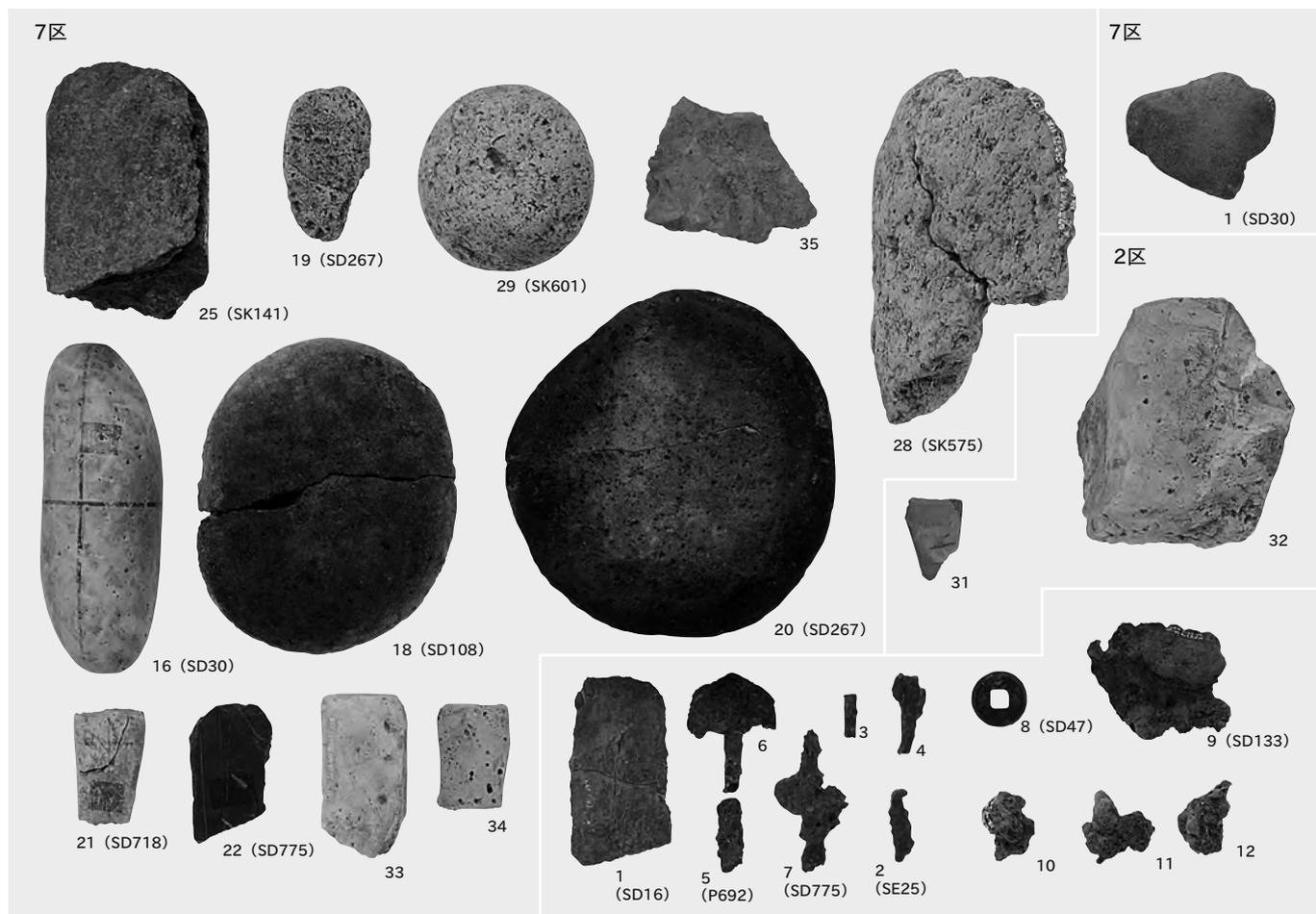
包含層出土土器·陶磁器 7区(179~191)



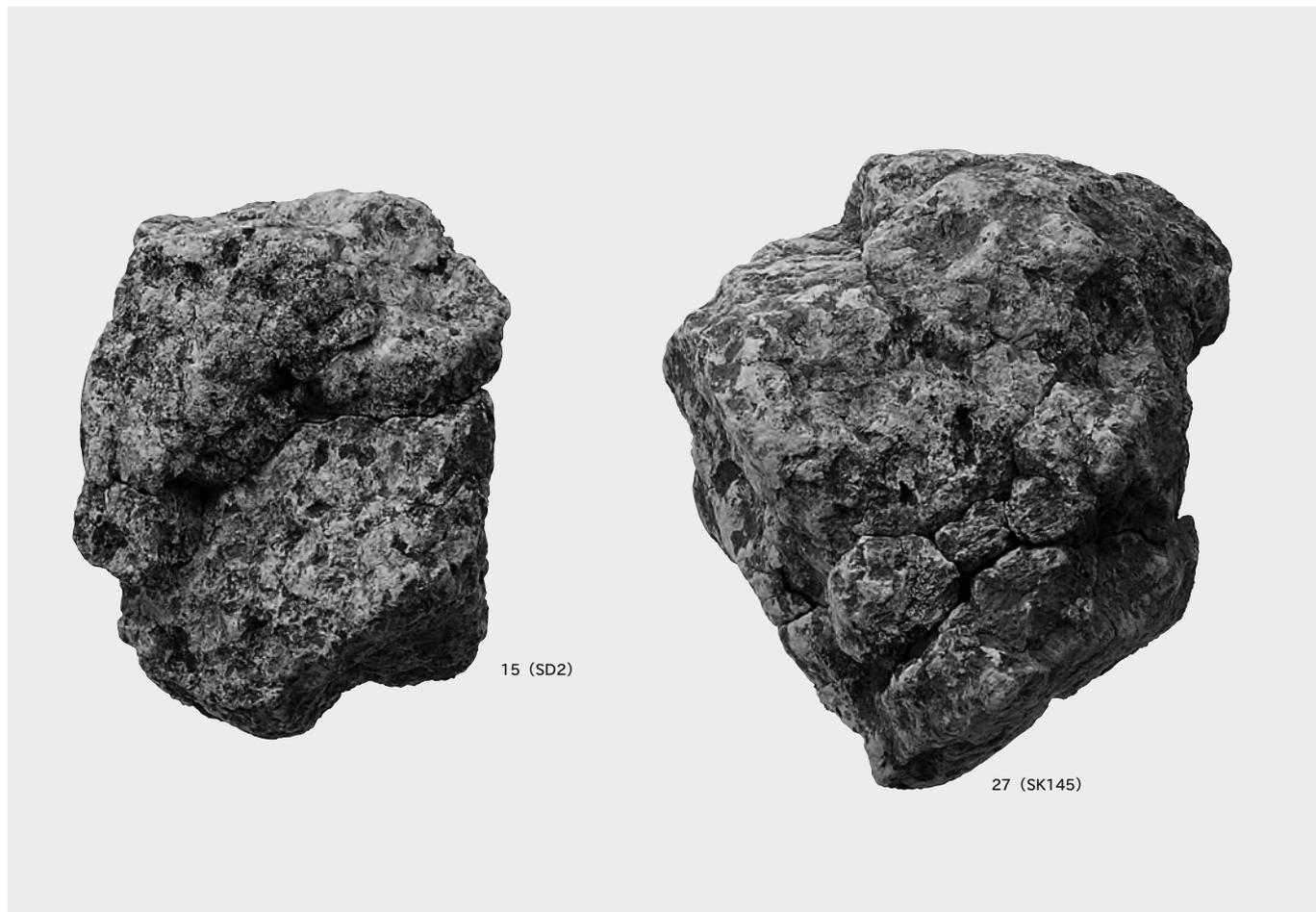
包含層出土土器·陶磁器 7区(192~202) 8区(203, 204)



遺構出土石器・石製品、搬入礫 2区(1~5) 3区(6) 4区(7~11) 7区(12~14, 23・24・26・30)



遺構出土石器・石製品、搬入礫 7区(16, 18~22, 25, 28, 29) 包含層出土石器 2区(31・32)、7区(33~35)、
土製品(1)、鉄製品・銭貨・鉄滓 2区(2)、6区(1)、7区(3~12)

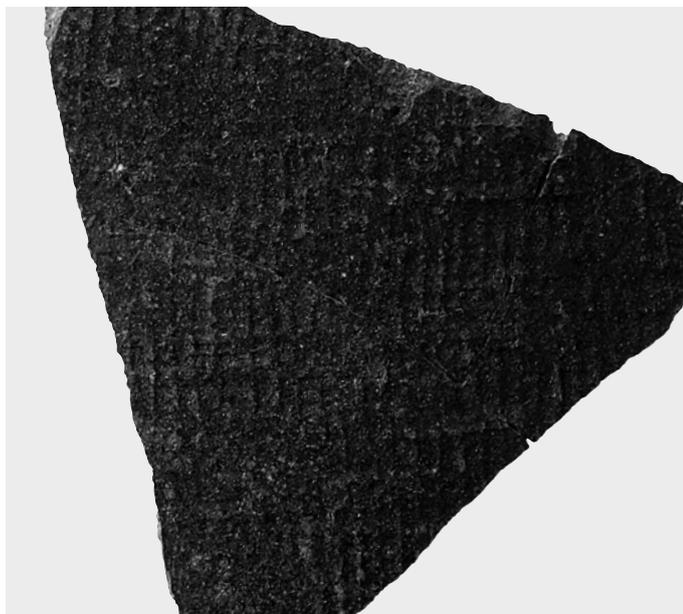


遺構出土搬入礫 7区(15・27)



遺構出土搬入礫 7区(17)

包含層出土石製品 8区(36)



須恵器大甕(19) タタキメ



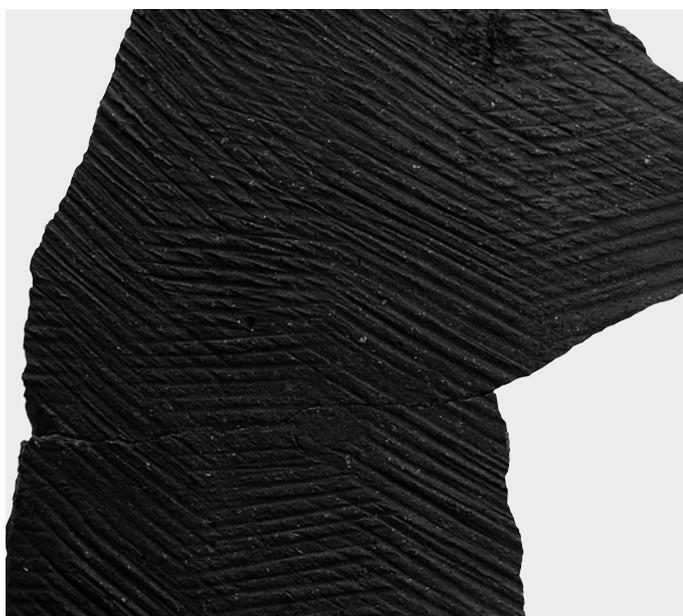
須恵器大甕(139) タタキメとカキメ



須恵器大甕(114) 当て具痕(同心円状)



須恵器大甕(139) 当て具痕(同心円状)



珠洲焼甕(39) タタキメ



珠洲焼播鉢(12) 卸し目



土師器無台碗(57) 回転糸切り痕 右回転



土師器無台碗(77) 回転糸切り痕 右回転



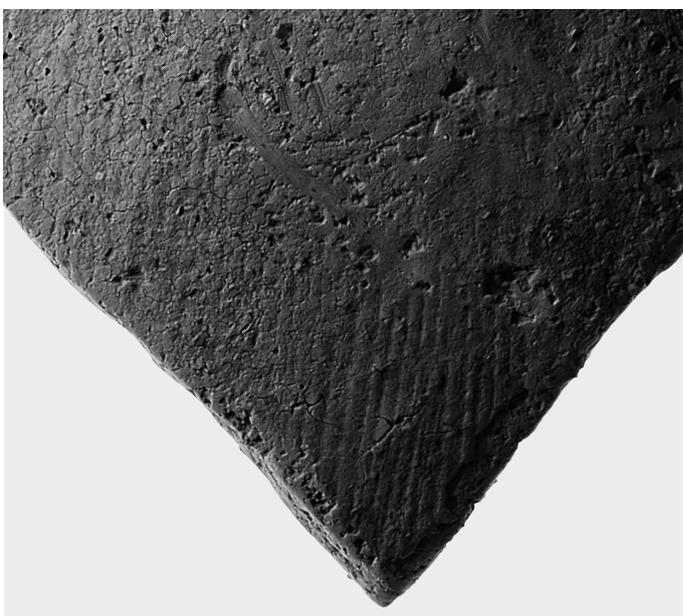
黒色土器無台碗(89) ヘラナデ 左回転



土師器鍋(190) タタキメ



土師器鍋(41) カキメ



土師器長甕(187) ハケメ

報告書抄録

ふりがな	ほそいけてらみちうえいせき に だいにじゅうごじちようさ							
書名	細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査							
副書名	県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第11次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	潮田憲幸							
編集機関	新潟市文化観光・スポーツ部 新潟市文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月	2014年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ほそいけてらみちうえいせき 細池寺道上遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 あきはくだいあんじ 秋葉区大安寺 15番地1号ほか	15105	151	37° 47' 41"	139° 10' 2"	20070611～ 20071211	8,952.7 m ²	ほ場整備事業
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
細池寺道上遺跡	遺物包含地	平安時代（9世紀末～10世紀初頭） 鎌倉時代（13世紀）		掘立柱建物・井戸・ 溝状遺構・土坑・ 性格不明遺構ほか 計1,258基		須恵器・土師器・珠 洲焼・青磁等陶磁器・ 搬入礫		
要約	<p>新潟市東南部、阿賀野川と早出川の自然堤防上に立地する古代・中世の遺跡である。調査の結果、平安時代（9C末～10C）と鎌倉時代（13C末～14C初頭）の遺跡・遺物が発見された。</p> <p>遺構は鎌倉時代が主体で、溝で区画された中に掘立柱建物や井戸を構築し、居住域としているが、建物の数は少なく、中世散村的な印象を受ける。区画溝は広範囲に構築されていると思われ、建物の共伴から、古代末に構築が始まり、中世まで引き続き使用されたことがわかった。これら縦横に走る溝により用・排水管理された農村地帯が本地域の古代末から中世前半の実態と思われる。</p>							

細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査

— 県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第11次発掘調査報告書 —

2014年1月30日印刷
2014年1月31日発行

編集 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ハイングラフ
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL 025 (233) 0321